

令和元年度 沖縄子ども調査

高校生調査報告書

令和2年3月

沖縄県

もくじ

調査概要	5
第1章	保護者の働き方	15
	第1節 母親・父親の就労状況	
	第2節 母親・父親の週平均労働日数と労働時間	
	第3節 母親・父親の勤務状況	
	考察	
第2章	学校生活	25
	第1節 学校での生活	
	第2節 部活	
	第3節 学習の状況	
	第4節 通学 —モノレール・バス	
	第5節 通学 —自家用車での送迎／その他	
	第6節 友人関係など	
	第7節 放課後の生活	
	考察	
第3章	高校卒業後の進路	57
	第1節 生徒の進路希望の状況①	
	第2節 生徒の進路希望の状況②	
	第3節 生徒—進路の理想と現実①	
	第4節 生徒—進路の理想と現実②	
	第5節 保護者の進路についての考え①	
	第6節 保護者の進路についての考え②	
	第7節 子ども数による影響	
	第8節 世帯所得3区分による分析	
	第9節 大学無償化について	
	考察	
第4章	アルバイト	85
	第1節 アルバイトの状況	
	第2節 アルバイトの日数	
	第3節 アルバイト収入の使途	
	考察	

第5章	自分・親子関係 ……………	97
	第1節 自己効力感	
	第2節 ストレスコーピング	
	第3節 親子関係	
	考察	
第6章	健康 ……………	113
	第1節 保護者の健康状態	
	第2節 高校生の健康状態	
	第3節 SNS、ゲームの使用時間	
	第4節 受診抑制	
	第5節 抑うつ	
	第6節 食	
	第7節 BMI	
	考察	
第7章	ふだんの暮らしと過去の経験 ……………	137
	第1節 現在の暮らし	
	第2節 住宅	
	第3節 幸福感	
	第4節 滞納経験	
	第5節 食料・衣料が買えなかった経験	
	第6節 相談相手	
	第7節 介護	
	第8節 学歴	
	第9節 過去の経験	
	考察	
第8章	高校生・保護者の生活水準(物品の所有や体験の状況)……………	179
	第1節 所有物の欠如—子どもの視点	
	第2節 所有物の欠如—子どもの視点・東京都との比較	
	第3節 子どものための支出—保護者の視点	
	第4節 子どものための支出—保護者の視点・東京都との比較	
	第5節 子どもの体験—保護者の視点	
	第6節 子どもの体験—保護者の視点・東京都との比較	
	第7節 所有物の欠如—保護者の視点	
	第8節 所有物の欠如—保護者の視点・東京都との比較	
	考察	

第9章	制度の利用状況	201
	第1節 奨学金の利用状況	
	第2節 無料塾について	
	第3節 公的制度の利用状況①	
	第4節 公的制度の利用状況②	
	考察	
まとめ	高校生調査を終えて	215
単純集計	生徒票	219
	保護者票	237
自由記述	生徒票	261
	保護者票	271
調査票	生徒票	281
	保護者票	295

調查概要

調査概要

1 調査の目的

沖縄県の子どもの貧困対策を効果的に実施する上で必要となる高校2年生の生徒及びその保護者の生活実態や支援ニーズ等を把握することを目的に調査を実施しました。

2 調査実施主体

沖縄県から委託を受けて、沖縄県子ども調査事業共同体（学校法人沖縄大学、NPO 法人沖縄県学童・保育支援センターの2者によるコンソーシアム）で調査を実施しました。

3 調査対象

県立高等学校に通う高校2年生（22歳以上除く）の生徒及びその保護者
*ただし、通信制過程に在籍する者を除く

4 調査実施期間

2019年11月5日（火）～11月25日（月）

5 調査方法

県立高等学校より対象者に調査票を配布・回収し、受託者に送付しました。

6 回収状況

有効回答数は、生徒票4386件（有効回答率64.0%）、保護者票4305件（有効回答率62.8%）、生徒と保護者でマッチングができたのは4259件（有効回答率62.1%）となっています。

回収状況	配布数	有効回答数	有効回答率
生徒票	6858	4386	64.0%
保護者票		4305	62.8%
親子のマッチングができた票		4259	62.1%

7 調査協力研究者

調査の実施にあたり下記の研究者とともに企画・分析を実施しました。(★筆頭研究者)

氏名	所属	執筆分担
★島村 聡	人文学部 福祉文化学科	第7章(2・6～7節) 第9章
★山野 良一	人文学部 福祉文化学科	第3章、第7章(1・3～5・8～9節)、第8章
我那覇 ゆりか	健康栄養学部 管理栄養学科	第6章(6～7節)
黒木 義成	人文学部 国際コミュニケーション学科	第2章
島袋 隆志	法経学部 法経学科	第1章、第4章
松尾 理沙	人文学部 こども文化学科	第5章(1・3節)
吉川 麻衣子	人文学部 福祉文化学科	第5章(2節)
武田 裕子	順天堂大学 医学部 医学教育研究室	第6章(1～5節)

8 備考

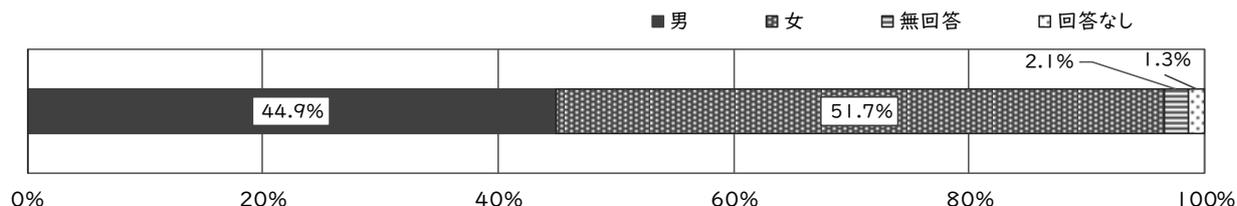
1. 図表で示している回答数の割合(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、数値の合計が100.0%にならない場合があります。
2. 調査票の作成にあたり、東京都「子供の生活実態調査(16～17歳)」(平成28年)、東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センター「高校生の進路についての調査」(平成17年)を参考にしたほか、東京都調査を実施した首都大学東京からは多くの助言をいただいております。
3. 本報告書では、沖縄県が平成28年度に実施した高校生調査(高校2年生対象)との経年比較、および平成28年度東京都子供の生活実態調査との比較も行っています。数値は、それぞれ報告書として公表されている数値を参考にしました。また、図表においては、本調査を「2019沖縄」、平成28年度の沖縄県高校生調査を「2016沖縄」、平成28年度東京都子供の生活実態調査を「2016東京」と表記しています。本文中では、それぞれ「2019年沖縄県調査」「2016年沖縄県調査」「2016年東京都調査」と表記しています。
4. 本調査の集計にあたっては、生徒票のみの項目は生徒票の全サンプル、保護者票のみの項目は保護者票の全サンプル、クロス集計はマッチングができた票で集計を行っています。また、必要な図表に関して、困窮層と非困窮層の2群について、カイニ乗検定(場合によっては正確検定または対応のないT検定)の結果として、p値の大きさを参考に掲載しています(一部、世帯区分による違いなどを検定していますが、その場合は図表に注をしています)。なお、経年比較、2016年東京都調査との比較では検定は行っておらずp値も掲載していません。

基本属性

1 性別

高校生に性別について「男」「女」「無回答」の3つの選択肢で尋ねました。「男」と回答した高校生は、44.9%、「女」は51.7%、「無回答」は2.1%となりました。

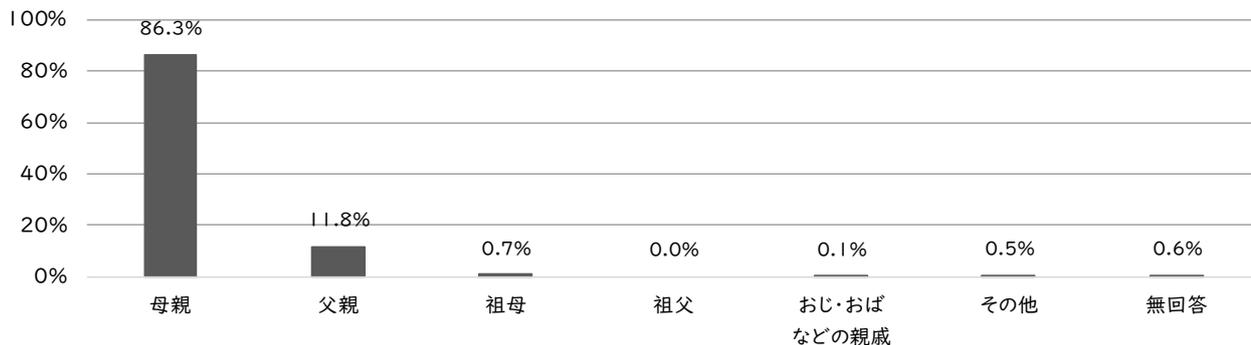
図1 【生徒】あなたの性別を教えてください(n=4386)



2 回答者の属性

母親が86.3%と最も多く、次いで父親11.8%、祖母0.7%となっています。

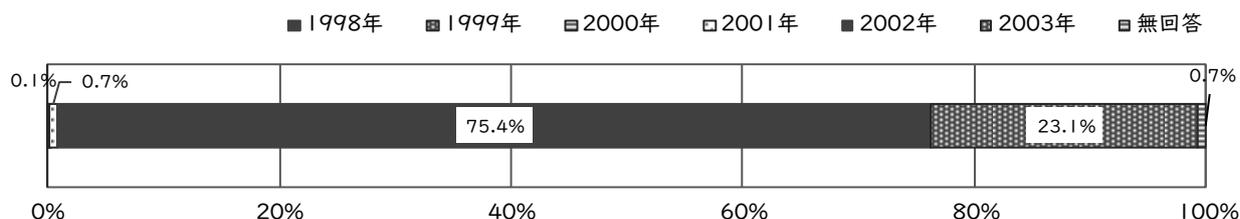
図2 【保護者】この調査票にお答えになっている方は、お子さんからみてどなたにあたりますか(n=4305)



3 年齢

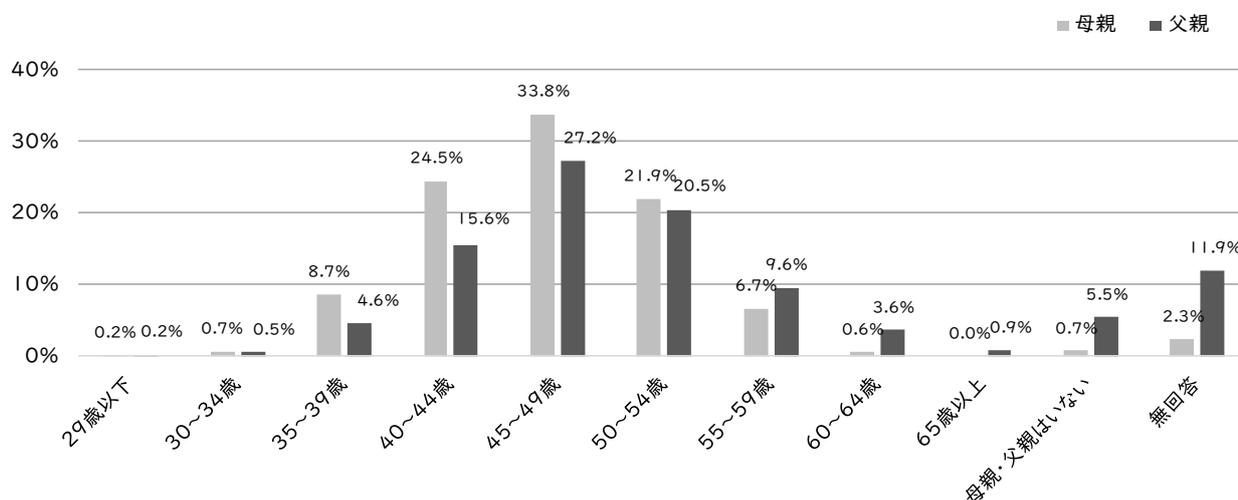
高校生の年齢は、16-17歳となる、2002年~2003年生まれが最も多く、2001年以前はあわせて0.8%となっています。

図3 【生徒票】あなたの生まれた年(n=4386)



保護者の年齢は、父母ともに45～49歳がもっとも多く、次いで母親は40～44歳、父親は50～54歳となっています。

図4 【保護者】お子さんの母親と父親の年齢を教えてください(n=4305)

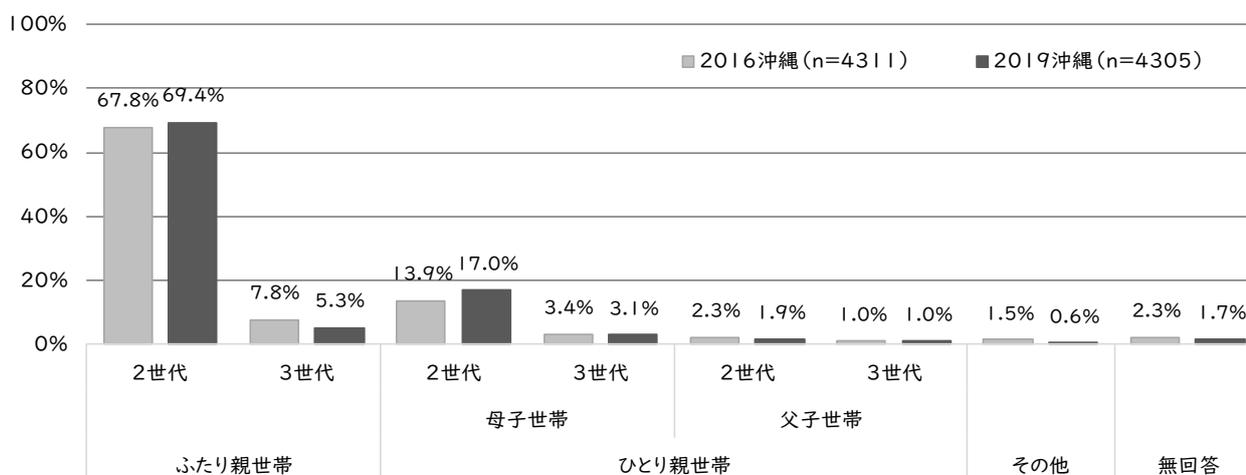


4 世帯の状況

本調査では、世帯区分をふたり親世帯（両親+子ども）と、ひとり親世帯である母子・父子世帯（親+子ども）とその他で区分し、さらに2世代（親+子ども）と3世代（親+子ども+祖父母）でタイプを設けました。この区分でみると、約7割が2世代のふたり親世帯となっており、ひとり親世帯（母子・父子世帯）は、母子・父子あわせると23.0%となっています。

2016年沖縄県調査では、ふたり親世帯が75.6%、ひとり親世帯が20.6%でした。

図5 世帯類型



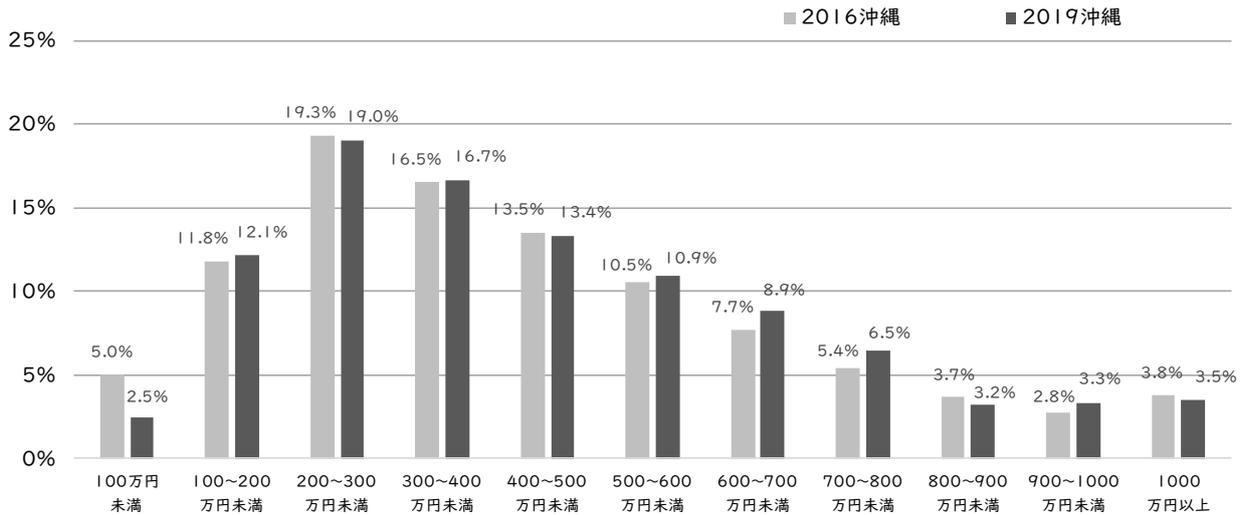
5 世帯収入

子どもと生計を共にしている方全員の収入を合わせた額（年間のボーナス含む手取り額。社会保障給付金等も含む）と、その世帯収入に含まれる母親と父親の収入を聞いています。

世帯収入（図6）でもっとも多かったのは、2016年沖縄県調査と同様、200～300万円未満で19.0%でした。

なお、無回答を除き、割合を算出しています。

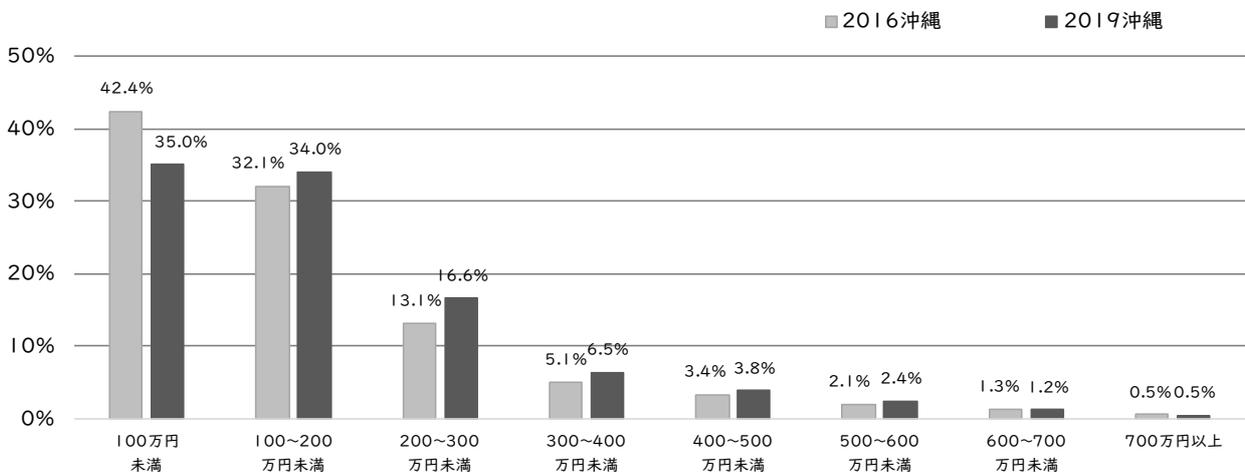
図6 世帯収入



次の図7と図8は、それぞれ母親と父親の年収を聞いたものです。「世帯収入に含まれていない、または不明」「母親・父親はいない」「無回答」を除き、割合を算出しています。

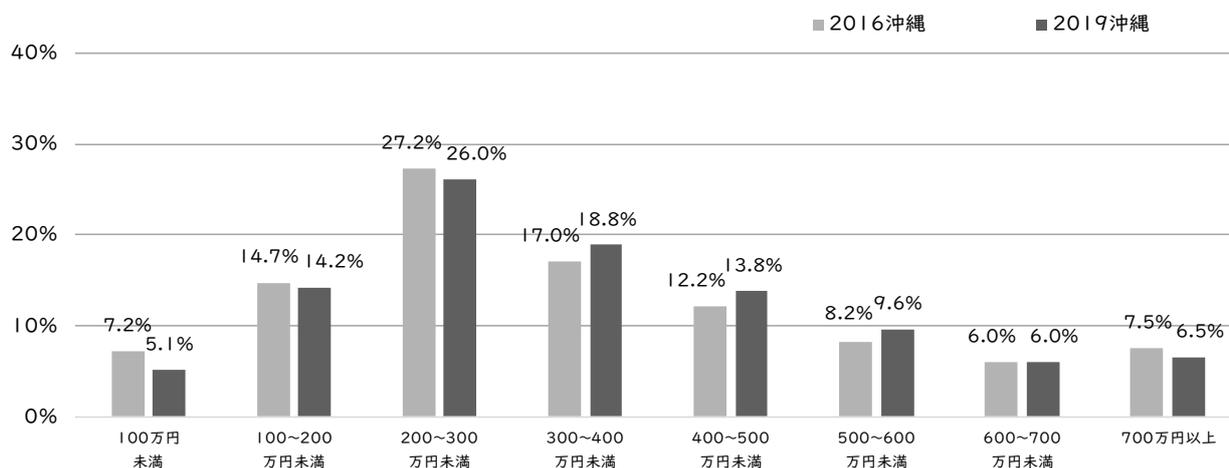
母親（図7）でもっとも多かったのは100万円未満で35.0%、次いで100～200万円未満で34.0%となりました。2016年沖縄県調査と比べると、100万円未満での動きが大きく、7.4ポイント減少しています。

図7 母親の収入



父親（図8）は、200～300万円未満の区分が26.0%ともっとも多く、次いで300～400万円未満が18.8%となりました。2016年沖縄県調査と比べると、300万円未満が49.1%から45.3%と約4ポイント減少しています。

図8 父親の収入

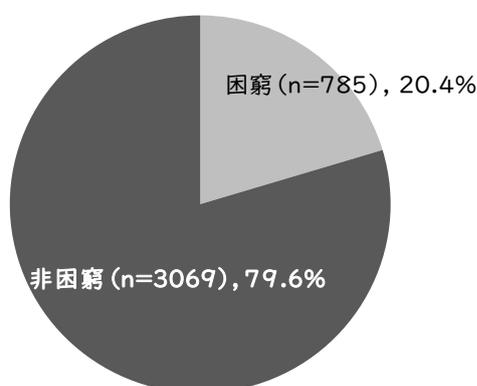


6 等価可処分所得について

本調査では、経済状況による影響を分析するため、調査票における世帯の人数と世帯収入（税金や社会保険料の額を差し引いた手取り収入）から等価可処分所得（世帯の可処分所得（手取り収入）を世帯人数の平方根で割った額）を算出し、世帯の困窮程度を2つの区分に分類しています。分類にあたっては、厚生労働省の「平成28年度国民生活基礎調査」における貧困線（等価可処分所得の中央値の半分にあたる122万円、中央値は244万円）を基準に区分を設けています。

この区分を基にみると、貧困線未満となる困窮層は、20.4%となっています。

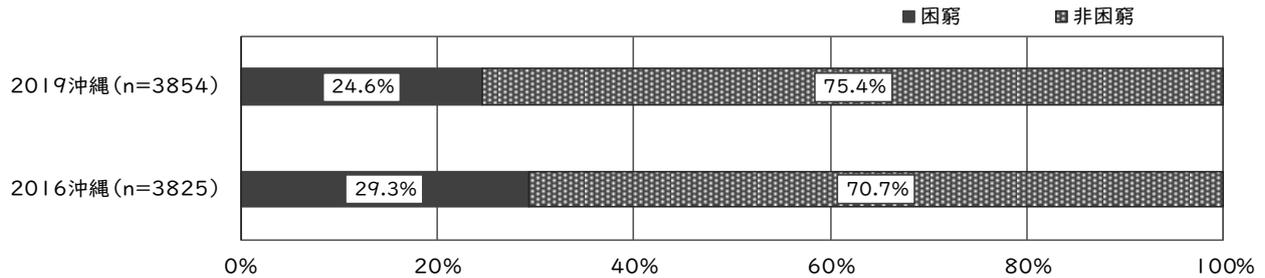
図9 等価可処分所得による分類



なお、2016年沖縄県調査では、平成25年度の国民生活基礎調査の貧困線（122万円）に消費者物価指数の変動から算出された係数（103.95）をかけて所得区分を設けています。今回の調査でも同様の手法を検討しましたが、平成28年度の国民生活基礎調査の貧困線が結果122万円で変動がなかったことなどをふまえ、係数はかけずに区分を設けることとしました。

参考までに、前回同様、消費者物価指数の係数（101.3）をかけた場合の貧困線は124万円となり、困窮層が24.6%となります（図10）。

図10 等価可処分所得による分類（2016年沖縄県調査と同様の場合）



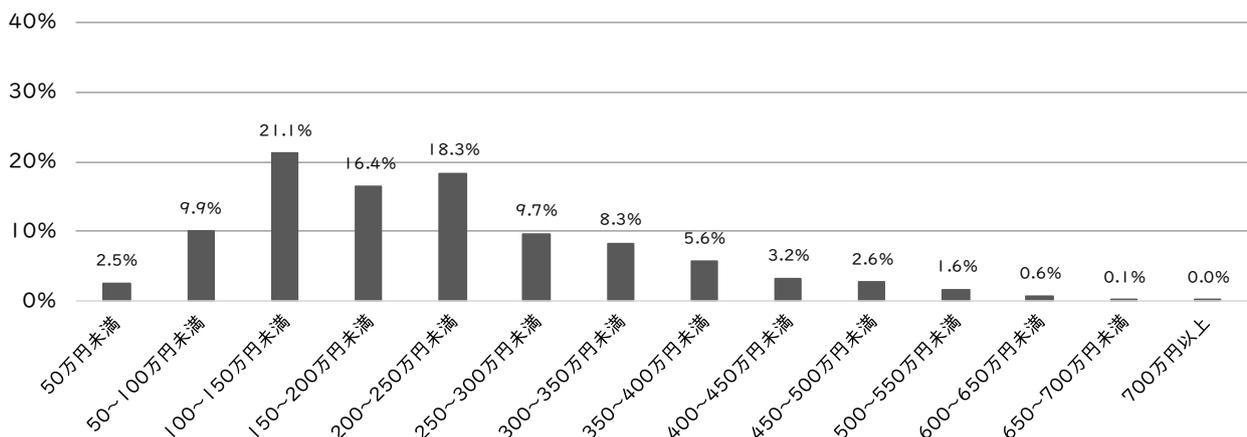
このように、貧困線の2万円というわずかな違いで、困窮層の割合に比較的大きな相違がみられるのは、現状で二つの要因が推察できます。

一つは、貧困線周辺の所得層が本調査では比較的厚く、貧困線のわずかな違いで、測定される困窮層の割合が変動してしまうためです。

二つ目として、調査票の設計として、本調査では世帯の所得を自記式で、300万円未満については50万円単位で、300万円以上は100万円単位のカテゴリー値で聞いている点があります。この方法を導入している理由としては、所得額を、カテゴリーによる選択肢としてではなく、直接書き入れてもらう方法では、無回答となる場合が増えること、また世帯の所得を1万円単位で保護者が覚えている場合は少ないと考えられるためです。しかし、一方で本調査の方法では、300万円未満では最大49万円、300万円以上では最大99万円の所得のブレが生じることとなります。このブレが困窮層の割合の変動をもたらしている可能性があります。

ちなみに、本調査での等価可処分所得の分布（50万円単位）は、図11のようになり、貧困線（122万円）のある100～150万円未満の層が約2割ともっとも多くなっていることがわかります。

図11 等価可処分所得の分布



上記のように、自記式の調査では、精緻な所得額を把握することは難しく、他の方法を検討する必要がありますが、他県の調査では、所得額に加え、家計の逼迫具合や、子どもの体験や所有物の欠如などを把握することで、それを補うことが検討されています。

本調査では、家計の逼迫具合として電気・ガス・水道などの滞納経験や、子どもの体験や所有物の欠如として家族旅行の有無などを尋ねていますが、ほぼ同じ項目を尋ねている2016年東京都調査との比較でも、厳しい状況が本調査からは明らかになっています（詳細は、第7章、第8章を参照）。

第 1 章

保護者の働き方

第1節 母親・父親の就労状況

保護者の就労状況について尋ねました。経済状況別にみると、困窮層の母親について、「正規の職員・従業員」は17.6%と非困窮層37.6%と比べ20ポイント低く、また困窮層の「パート・アルバイト」は40.9%と、非困窮層30.2%と比較して10ポイント以上高くなっています。「働いていない」は18.4%と非困窮層12.7%と比べ5.7ポイント低くなっています(図1-1-1)。

困窮層の父親は、「正規の職員・従業員」は37.0%と非困窮層73.5%と比べ36.5ポイント低く、同じく「派遣社員・契約社員・嘱託/パート・アルバイト」は14.0%と、非困窮層5.4%と比べ8.6ポイント高くなっています。また「働いていない」は6.5%と、非困窮層1.3%と比べ5.2ポイント高くなっています(図1-1-2)。

図1-1-3と1-1-4では、経年比較してみました。全世帯の母親・父親ともに2016年沖縄県調査と比べ働いていない割合が低下しています(図1-1-3)。正規雇用の母親の割合は、28.6%から38.3%と9.7ポイント高くなっており、雇用状況の改善がみられます(図1-1-4)。

次に、母親の就労状況を世帯別にみたのが、図1-1-5です。困窮層でみると、ひとり親世帯の母親は、「働いていない」が9.8%で、ふたり親世帯27.6%と比べ17.8ポイント低く、非困窮層のふたり親世帯14.0%と比べ4.2ポイント低くなっています。働いている母親の就労形態は「正規の職員・従業員」が、困窮層のひとり親世帯で26.6%となっており、非困窮層のふたり親世帯の34.7%と比べ8.1ポイント低くなっています。「派遣社員・契約社員・嘱託」は、困窮層のひとり親世帯は14.9%で、非困窮層のふたり親世帯10.1%と比べ4.8ポイント高く、「パート・アルバイト」は、困窮層のひとり親世帯41.5%で、困窮層のふたり親世帯40.2%と同程度となっています。

図1-1-1 【保護者/母親】お子さんの母親(または母親にかわる方)の現在のお仕事の状況を教えてください

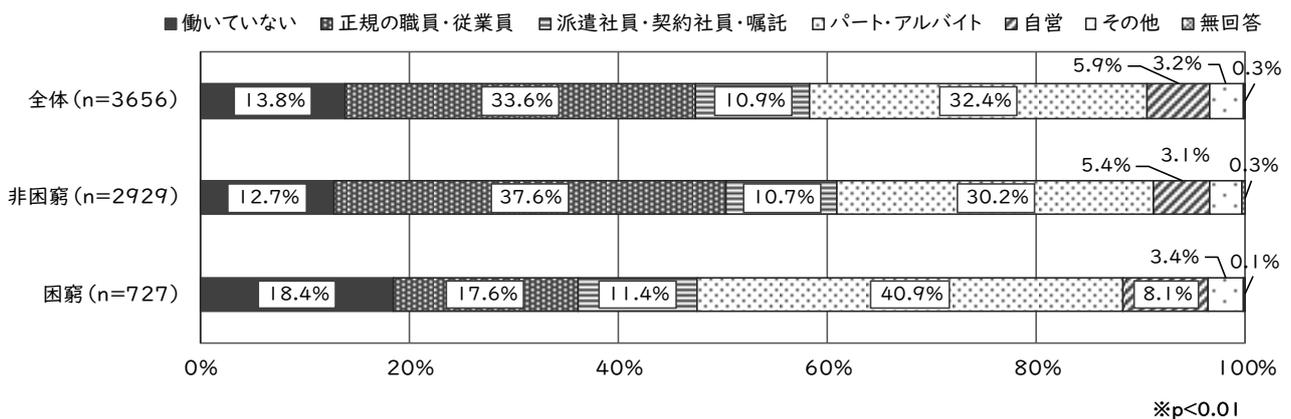
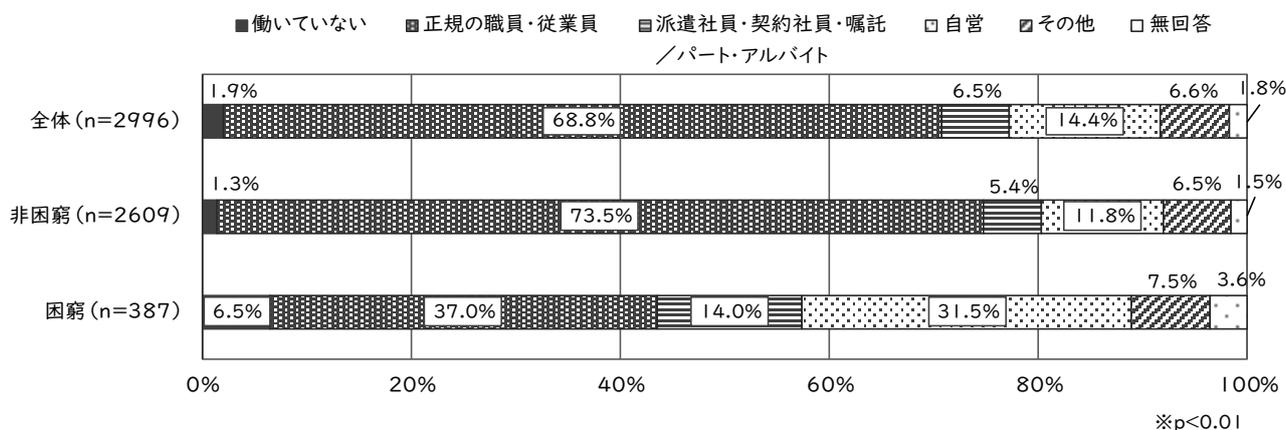


図1-1-2 【保護者／父親】お子さんの父親(または父親にかわる方)の現在のお仕事の状況を教えてください



【2016年沖縄県調査との比較】

図1-1-3 【保護者】母親・父親の「働いていない」割合

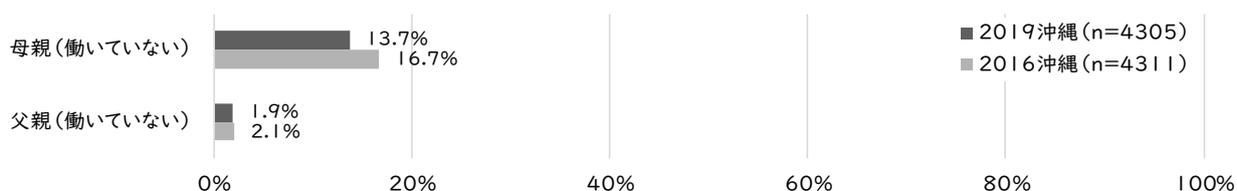
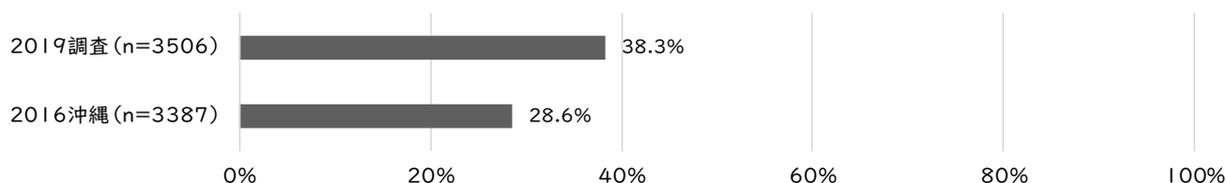
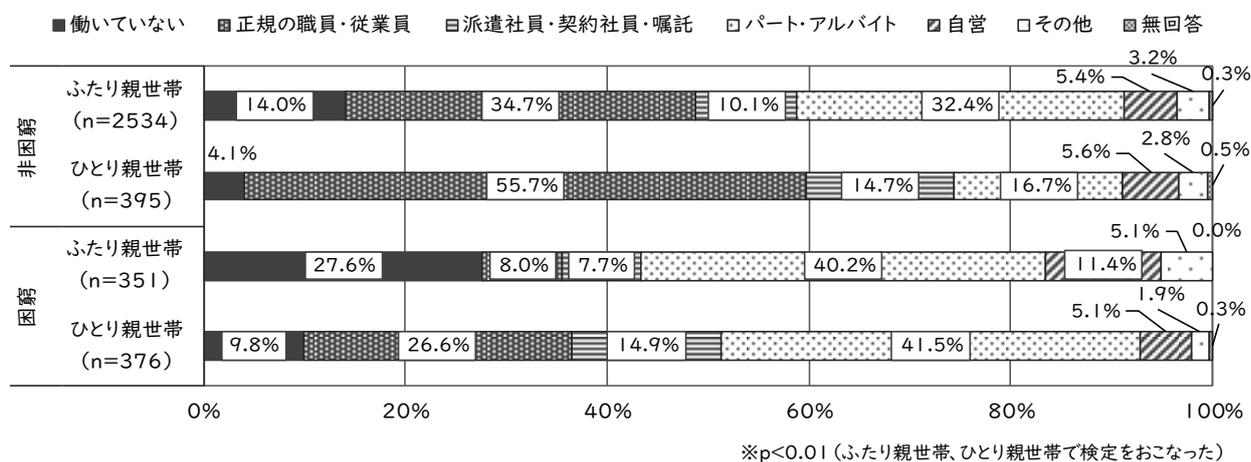


図1-1-4 【保護者／母親】「正規の職員・従業員(役員除く)」の割合



【世帯別】

図1-1-5 【保護者／母親】お子さんの母親(または母親にかわる方)の現在のお仕事の状況を教えてください



第2節 母親・父親の週平均労働日数と労働時間

保護者に、1週間の平均的な労働日数を尋ねました。まず、母親でみると、困窮層では週5日以下の就労は72.9%と、非困窮層の79.2%に比べ6.3ポイント低く、週6日以上就労は、困窮層23.9%と、非困窮層18.8%と比べ5.1ポイント高くなっています(図1-2-1)。図1-2-2は、母親の1週間の平均的な労働時間(1週間の平均的な労働日数×働いている日の平均的な労働時間)をみたものです。困窮層の週40時間未満が59.1%で、非困窮層51.4%と比べ7.7ポイント高くなっています。また、週40時間以上は37.9%と非困窮層の46.5%と比べ8.6ポイント低くなっています(図1-2-2)。

父親の困窮層では、週5日以下の就労は31.6%と、非困窮層55.4%と比べ23.8ポイント低く、週6日以上就労は65.8%と、非困窮層42.4%と比べ23.4ポイント高くなっています(図1-2-3)。父親の1週間の平均的な労働時間(1週間の平均的な労働日数×働いている日の平均的な労働時間)は、困窮層の週40時間未満が16.4%と、非困窮層12.7%と比べ3.7ポイント高く、困窮層の週50時間以上が48.9%と、非困窮層43.9%と比べ5ポイント高くなっています。これを週60時間以上だけで見ると、困窮層19.3%で非困窮層14.0%と比べ5.3ポイント高くなり、困窮層の父親がより長時間働いている傾向があります(図1-2-4)。

図1-2-1 【保護者／母親】1週間の平均的な労働日数を教えてください

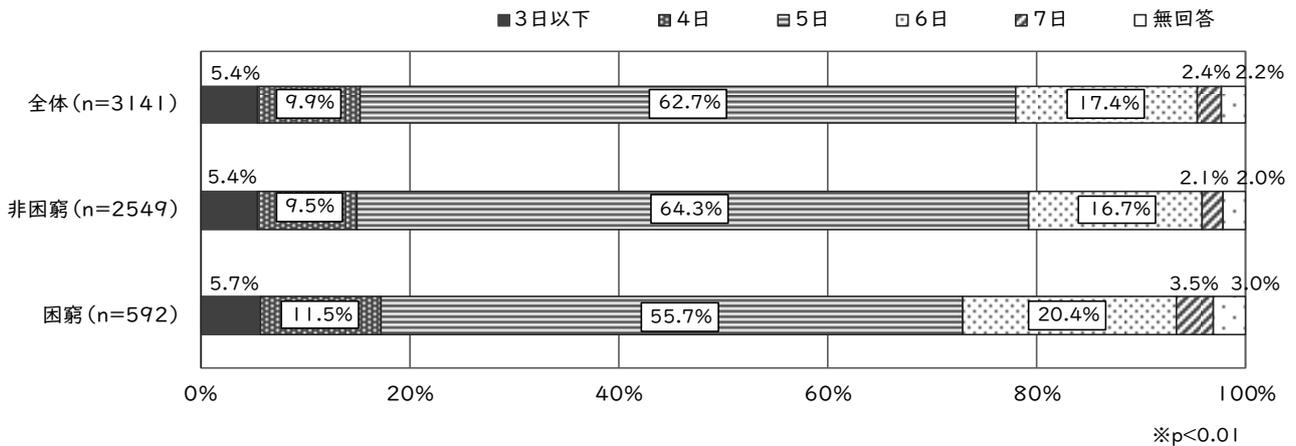


図1-2-2 【保護者／母親】1週間の平均的な労働日数×働いている日の平均的な労働時間

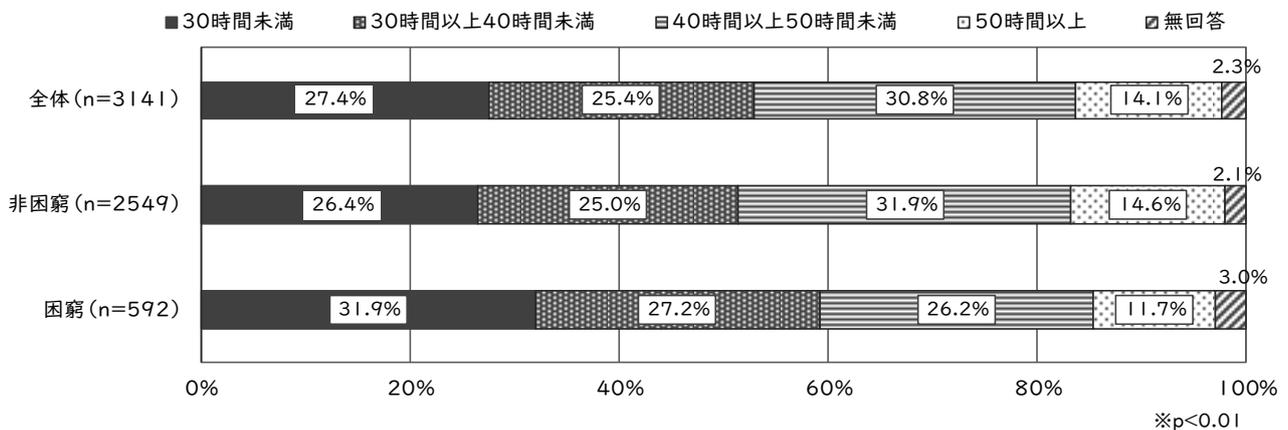


図1-2-3【保護者／父親】1週間の平均的な労働日数を教えてください

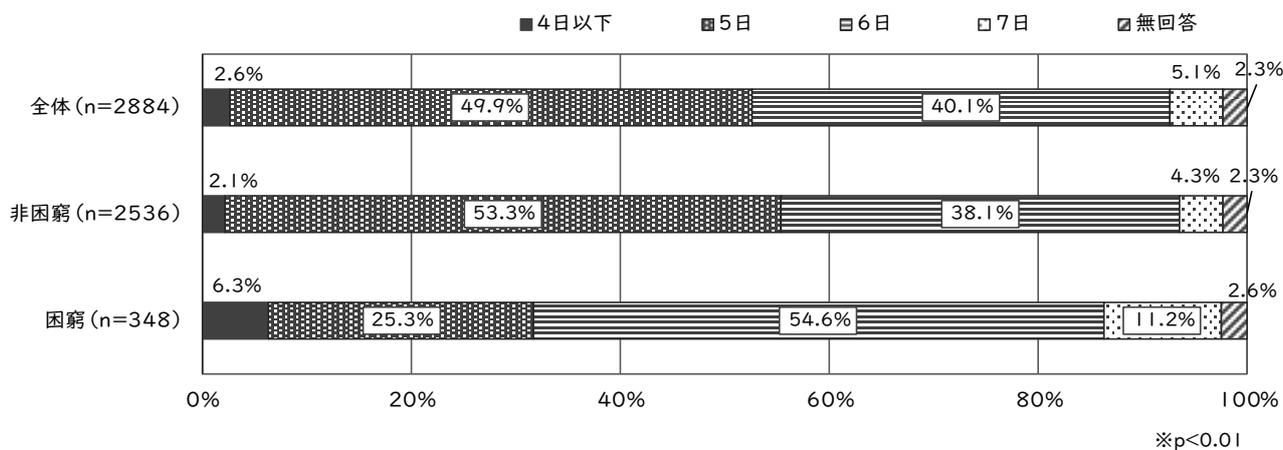
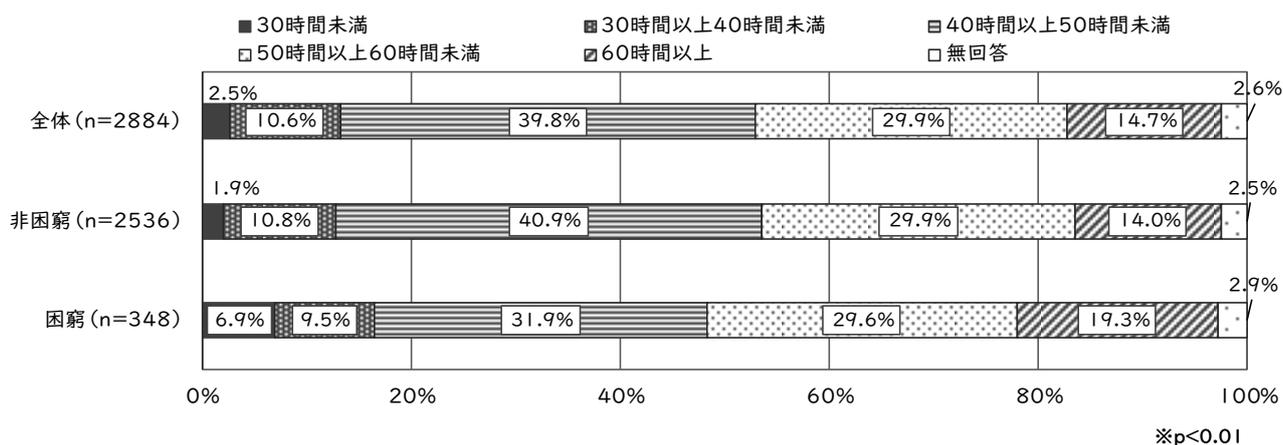


図1-2-4【保護者／父親】1週間の平均的な労働日数×働いている日の平均的な労働時間

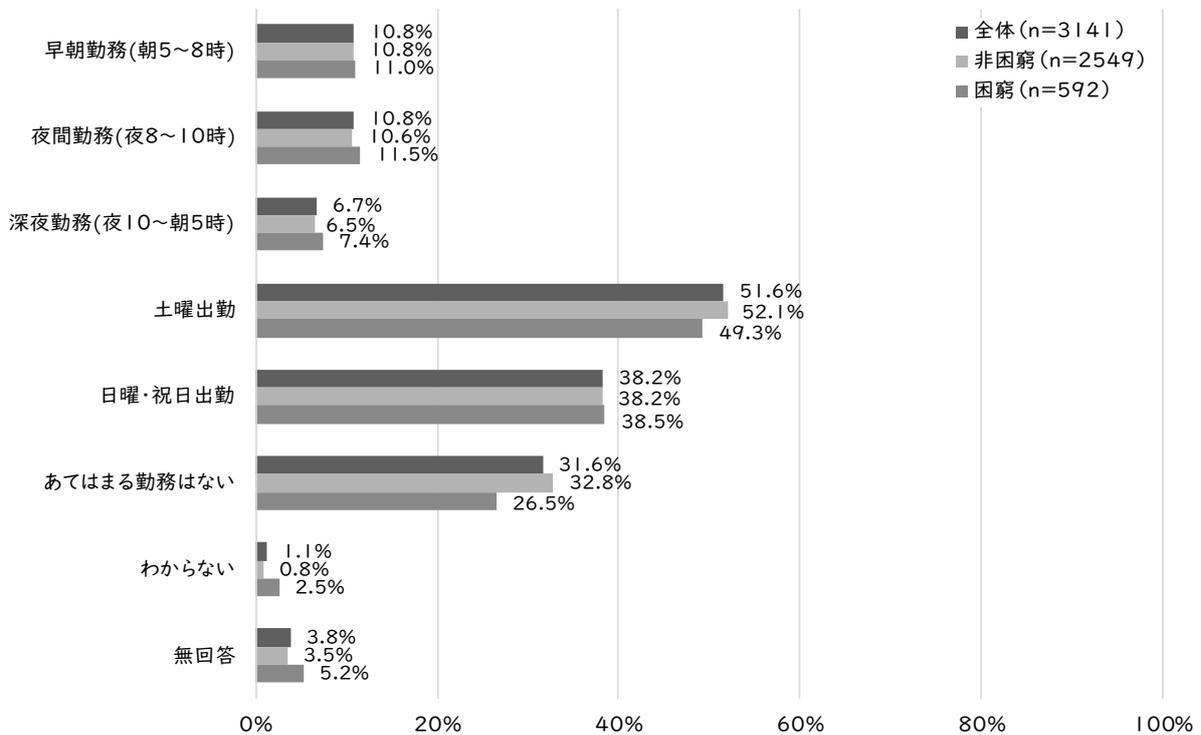


第3節 母親・父親の勤務状況

保護者に勤務状況について尋ねました。母親・父親ともに、平日の日中以外の勤務がある割合が高く、困窮層・非困窮層の違いは小さい傾向があります(図1-3-1、図1-3-2)。

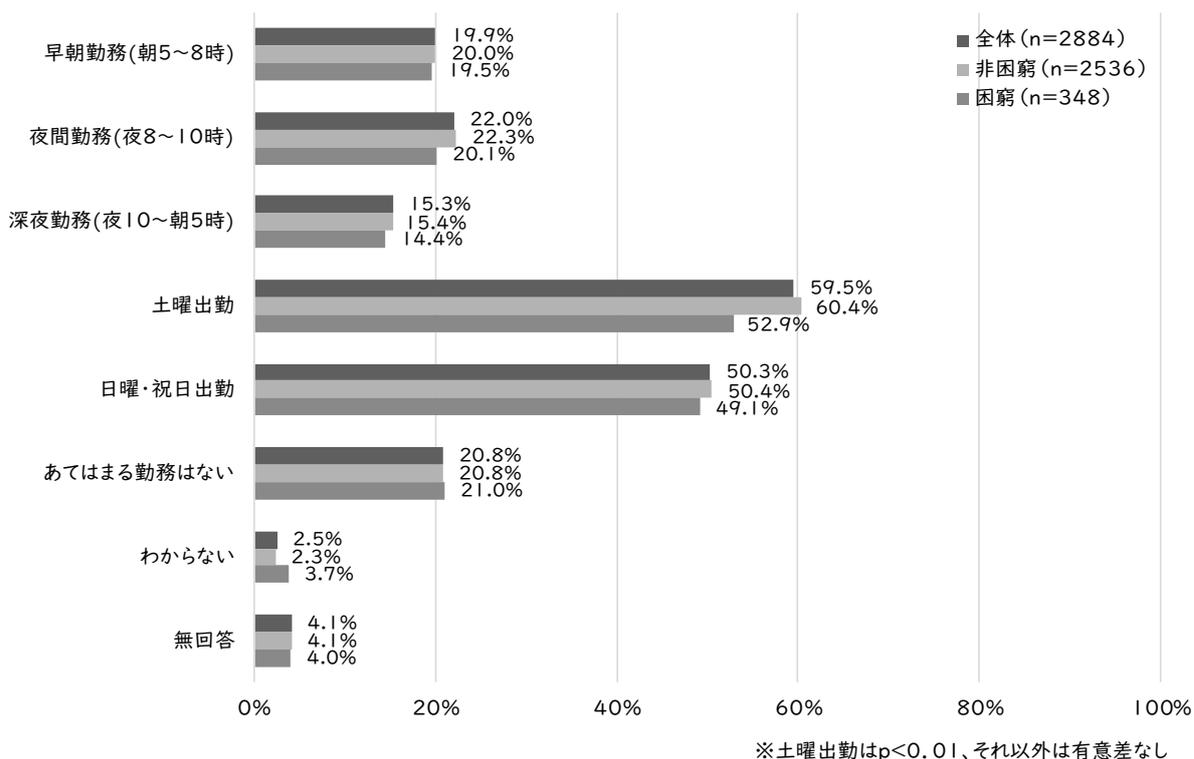
2016年東京都調査との比較では、平日の日中以外の勤務がある割合は、母親の「土曜出勤」で沖縄県が51.3%、東京都が39.1%と沖縄県が12.2ポイント高く、「日曜・祝日出勤」では沖縄県が38.5%、東京都が23.2%と、沖縄県が15.3ポイント高くなっています(図1-3-3、図1-3-4)。同様に父親の「土曜出勤」で沖縄県が58.2%、東京都が44.3%と、沖縄県が13.9ポイント高く、「日曜・祝日出勤」で沖縄県が48.7%、東京都が32.1%と、沖縄県が16.6ポイント高くなっています(図1-3-5、図1-3-6)。

図1-3-1 【保護者／母親】お仕事には平日の日中以外の勤務もありますか(複数回答)



※「1~5にあてはまる勤務はない」「わからない」はp<0.01、無回答はp<0.05、それ以外は有意差なし

図1-3-2【保護者／父親】お仕事には平日の日中以外の勤務もありますか(複数回答)



【2016年東京都調査との比較】

図1-3-3【保護者／母親】お仕事には平日の日中以外の勤務もありますか(複数回答)

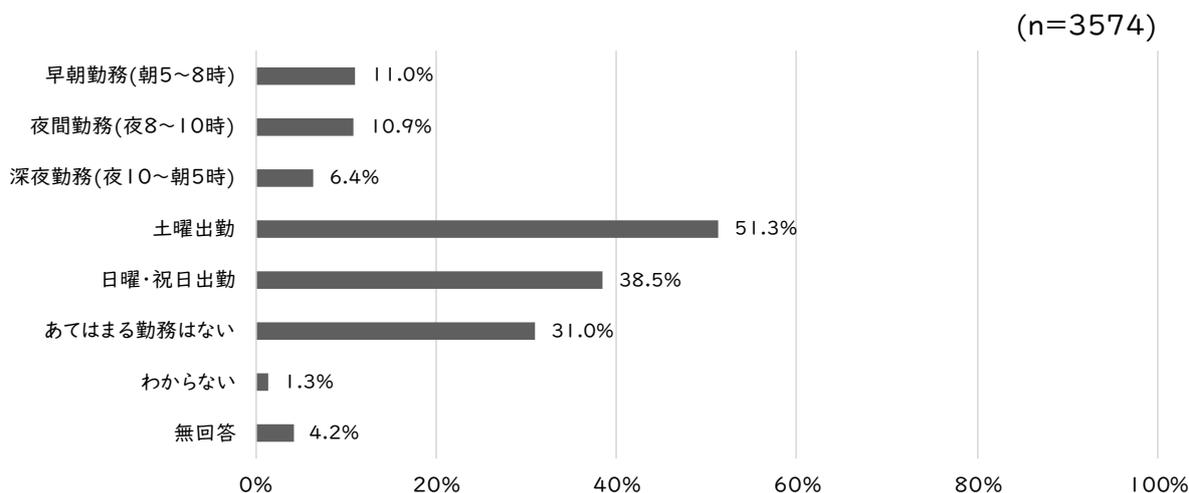


図1-3-4 【2016東京・保護者／母親】お母さまは、平日の日中以外の勤務がありますか（複数回答）
(n=1928)

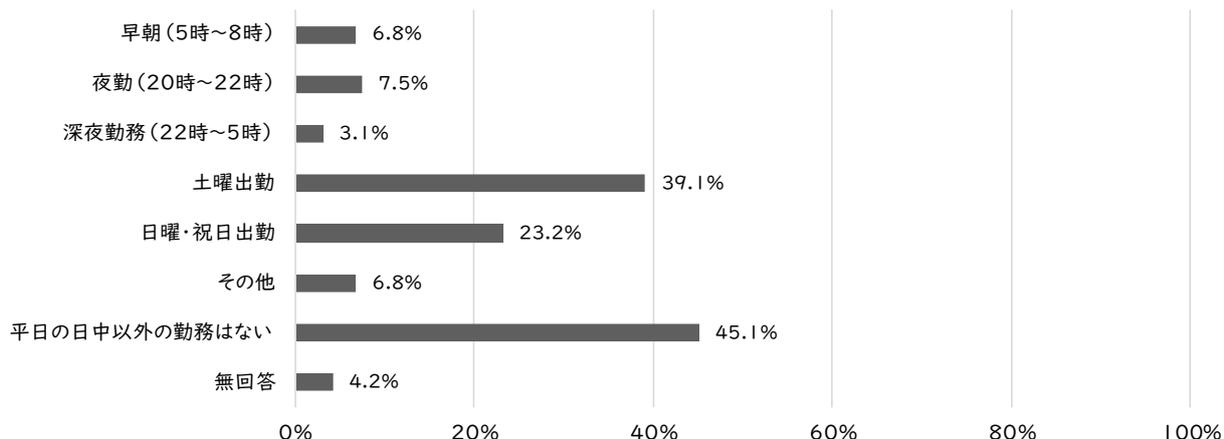


図1-3-5 【保護者／父親】お仕事には平日の日中以外の勤務もありますか（複数回答）
(n=3394)

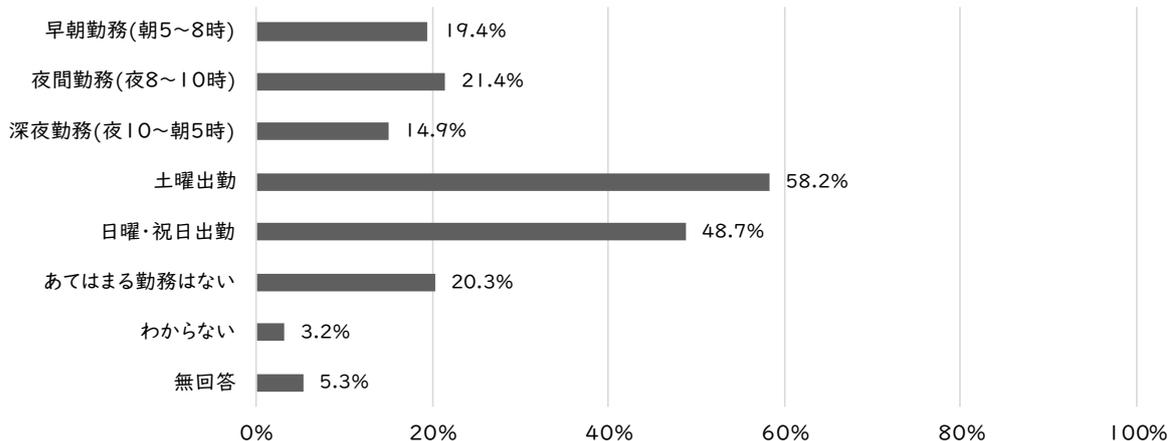
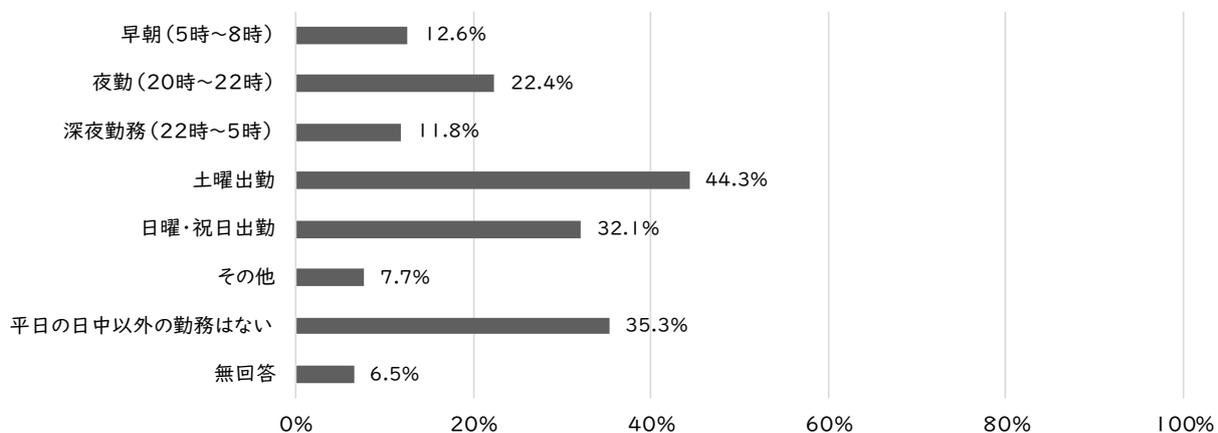


図1-3-6 【2016東京・保護者／父親】お父さまは、平日の日中以外の勤務がありますか（複数回答）
(n=2195)



考察

第1節では、母親・父親の就労状況を分析しました。全世帯の母親・父親ともに2016年沖縄県調査と比べ、働いていない比率が低下していました。来県観光客によるいわゆる「インバウンド効果」などもあり、日本銀行那覇支店「県内金融経済概況(2019年12月)」によると、沖縄県内の景気は全体として拡大し、75 か月連続に及ぶもので、これに伴い、有効求人倍率、完全失業率も改善を続け、好調な実体経済の下に、雇用・労働環境の改善傾向が続いていることが報告されています。本調査でも、母親・父親の「働いていない」はどちらとも減少しており、さらに母親で「正規雇用」で働いているのは28.6%(2016年)から38.3%(2019年)に増加していることがわかります(図1-1-3、図1-1-4)。

しかしながら、困窮層の母親の「正規の職員・従業員」は17.6%と、非困窮層37.6%の半数以下で、「パート・アルバイト」就労は40.9%と高い比率となっています(図1-1-1)。同じく、困窮層の父親でも「正規の職員・従業員」は37.0%と非困窮層73.5%の約半数です(図1-1-2)。また、世帯別にみると、困窮層の母親の就労形態について、ひとり親では「正規の職員・従業員」26.6%、「派遣社員・契約社員・嘱託」14.9%である一方、「パート・アルバイト」は41.5%と高い比率となっていました(図1-1-5)。以上から、困窮層ほど非正規雇用、とくにパート・アルバイト形態での就労が多くなっており、低賃金状態に陥りやすくなっていることが推察されます。

第2節では、母親・父親の1週間あたりの平均労働日数と労働時間を分析しました。困窮層の母親は、週5日以下の就労は72.9%と高く、また1週間の平均的な労働時間も週40時間未満が59.1%と相対的に高くなっていました(図1-2-2)。これは労働時間を週30~40時間に抑えることで、年収を100万円前後に抑え扶養控除内にするような働き方を選択していることが推察されます。

他方で、困窮層の父親では、週6日以上就労は65.8%と相対的に高く(図1-2-3)、1週間の平均的な労働時間も週60時間以上をみると19.3%と、非困窮層の14.0%よりも高く、困窮層の父親は長時間就労している傾向にありました(図1-2-4)。週6、7日の就労など長時間労働で収入を確保している様子が見え、法の定める週40時間労働、法定休日(1週間当たり1日)を超えて就労していることが推察されます。

第3節では、母親・父親の勤務状況について分析しました。母親・父親ともに、平日の日中以外の勤務がある割合が高く、とくに、土日・祝日出勤の割合の高さは、沖縄県がサービス業に偏重する産業構造の特徴で、これは経済状況別による相違はほぼなく(図1-3-1、図1-3-2)、また、早朝・夜間勤務の相対的な高さは、宿泊業、飲食業、介護福祉業務に特徴的なものでもあります(図1-3-2)。経済状況別で見るとその違いは小さい傾向にあり、沖縄県における子育て世代の母親・父親は、経済状況別に関係なく、平日以外の土日・祝日に就労し、また早朝、夜間の就労も多い典型的なサービス業に多くが就いていることが推察されます。

第 2 章

学校生活

第1節 学校での生活

高校生に学校が楽しいかについて尋ねました。経済状況別で見ると、非困窮層で「楽しい」と回答した高校生は66.8%、「楽しくない」と回答した高校生は6.2%となっています。一方、困窮層では、「楽しい」と回答した高校生は58.2%、「楽しくない」と回答した高校生は8.9%となっており、「楽しい」と回答した困窮層の高校生が非困窮層の高校生に比べ8.6ポイント低くなっています(図2-1-1)。

「学校をやめたくなるほど悩んだことがあるか」について理由を尋ねてみました。全体として、理由の多くが「友人とうまくかかわれない」「通学するのが面倒」の数値が高くなっています。経済状況別で見ると、「学校をやめたくなるほど悩んだことはない」と回答している高校生が、非困窮層で45.9%、困窮層で40.6%いることがわかります(図2-1-2)。

図2-1-3は、学校が楽しいかどうかと、学校をやめたくなるほど悩んだ経験をクロスする方法で、「学校をやめたくなるほど悩んだことはない」と回答した割合をみたものです。楽しいと感じている高校生のほうが悩んだことはないとする割合が高くなっています。

「学校が楽しいか」について2016年東京都調査と比較したところ、「楽しい」と回答した高校生は、沖縄県で64.5%、東京都で75.6%となっており、約11ポイント東京都が高くなっています。逆に「楽しくない」と回答した高校生では、沖縄県で7.1%、東京都で5.2%となっており1.9ポイント沖縄県が高くなっています(図2-1-4)。

「学校をやめたくなるほど、悩んだことがあるか」その理由を東京都と沖縄県で比べてみました。「勉強についていけない」「遅刻や欠席などが多く進級できない」「友人とうまくかかわれない」「通学するのが面倒」「精神的に不安定」「友人関係のトラブル」等では、沖縄県が東京都より高くなっています(図2-1-5)。

図2-1-1 【生徒】学校は、あなたにとって楽しいですか

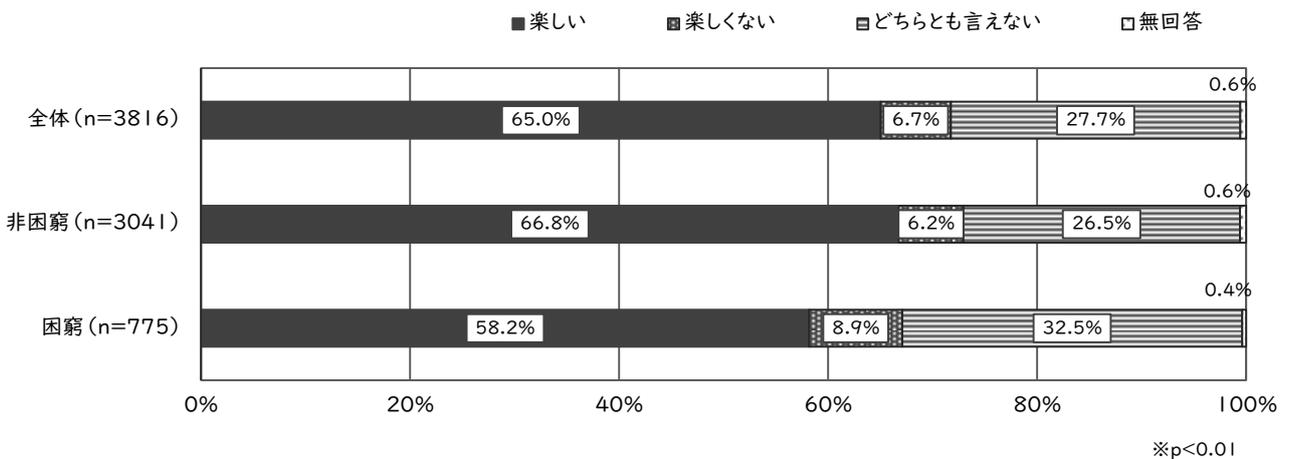
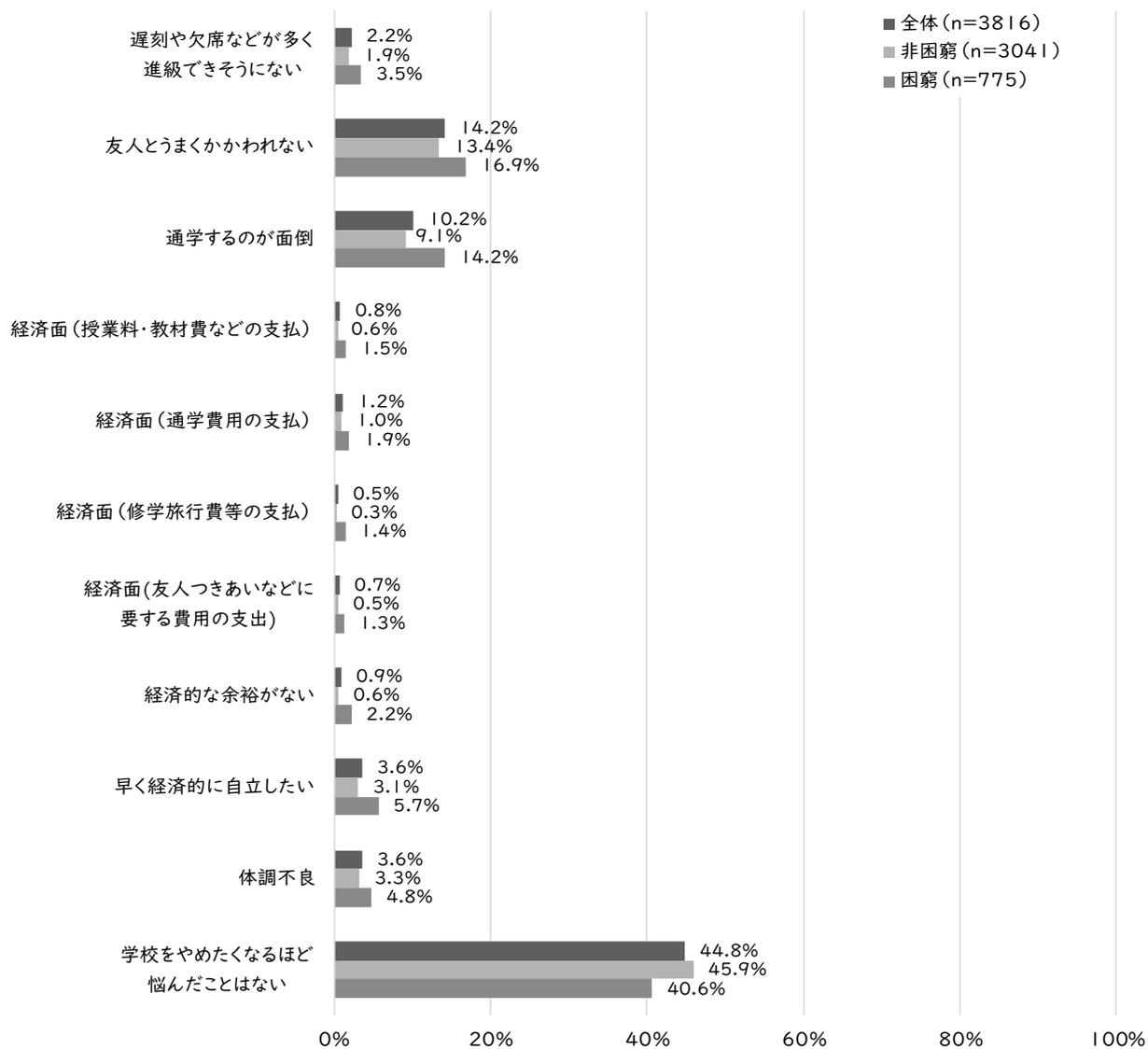


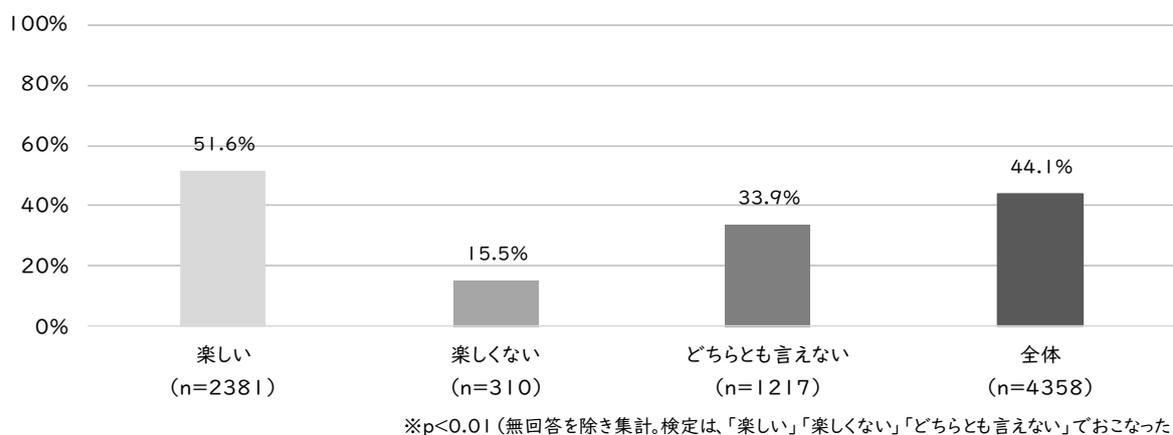
図2-1-2 【生徒】あなたは、これまでに、以下のような理由で、学校をやめたくなるほど、悩んだことがありますか（複数回答）



※有意差があるもののみ掲載。

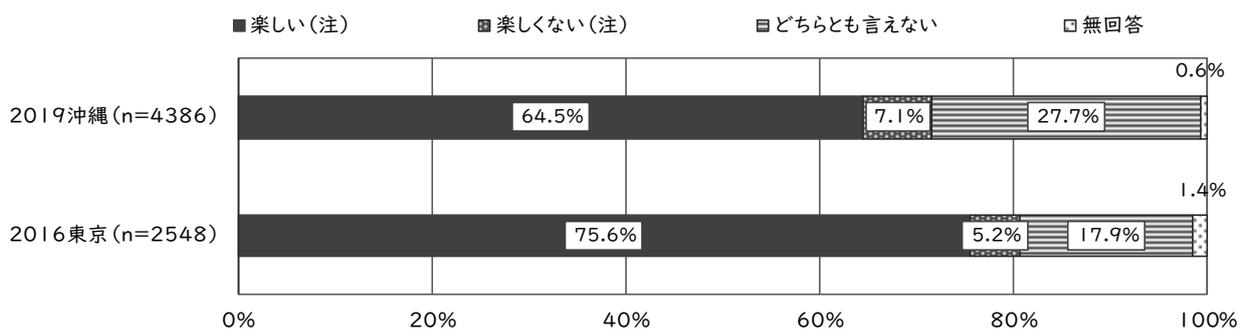
「友人とうまくかかわれない」「経済面(通学費用の支払)」「経済面(友人つきあいなどに要する費用の支出)」「体調不良」は $p < 0.05$ 、それ以外は $p < 0.01$

図2-1-3 【生徒】学校は、あなたにとって楽しいですか×学校をやめたくなくなるほど悩んだことはない



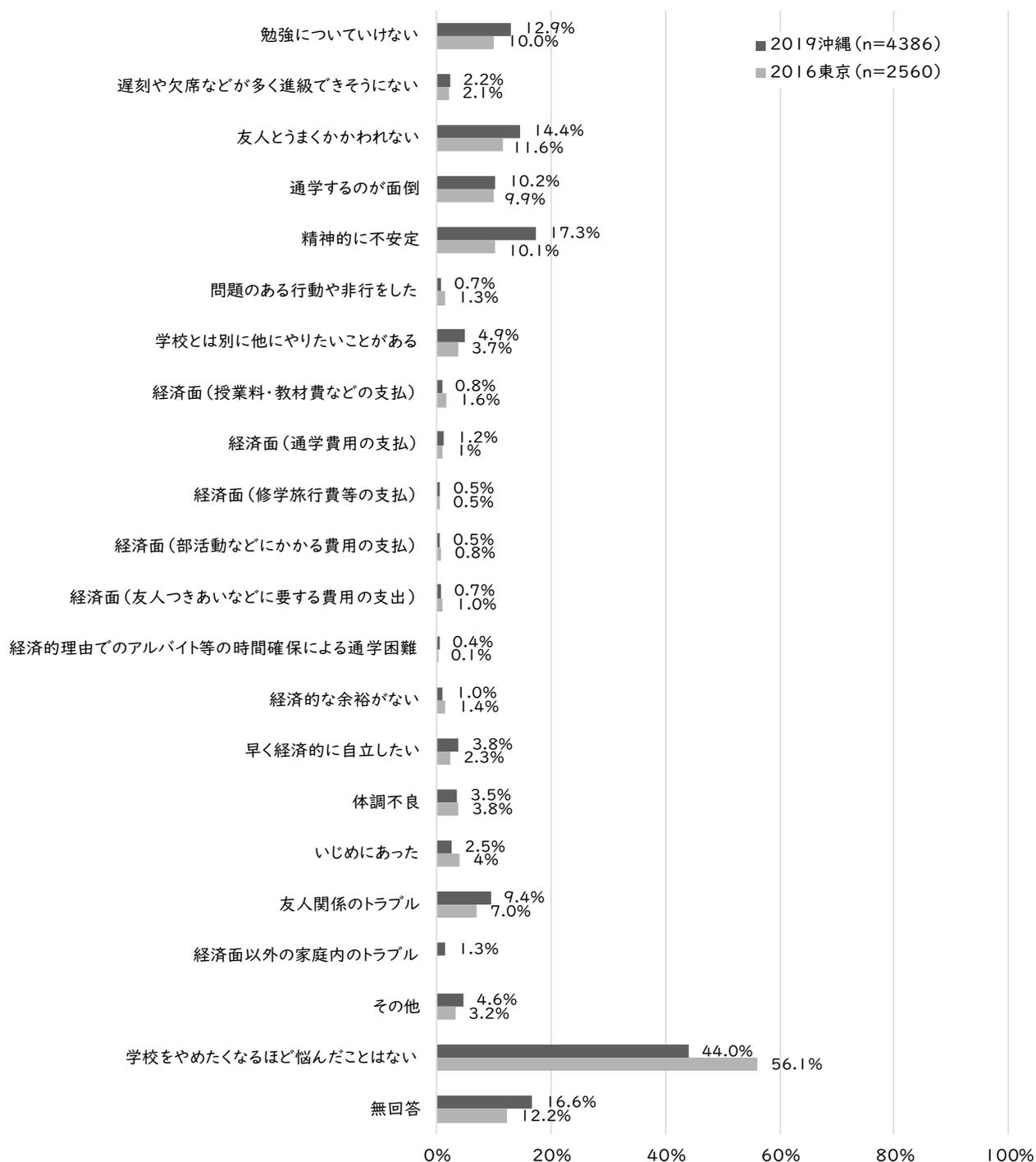
【2016年東京都調査との比較】

図2-1-4 【生徒】学校はあなたにとって楽しいですか



注) 東京調査の質問は、「その学校は、あなたにとって楽しい(楽しかった)ですか」。選択肢も、「楽しい(楽しかった)」「楽しくない(楽しなかった)」「どちらとも言えない」となっている。

図2-1-5 【生徒】あなたは、これまでに、以下のような理由で、学校をやめたくなるほど、悩んだことがありますか(複数回答)



注) 東京調査の選択肢に、「経済面以外の家庭内トラブル」なし

第2節 部活

部活動の参加について尋ねました。全体で見ると、「参加している」は60.6%、「参加していない」は38.4%でした(図2-2-1)。経済状況別にみると、非困窮層で部活動に「参加している」は63.6%に対し、困窮層では49.2%となっており、非困窮層に比べ14.4ポイント下回っています。また、非困窮層で部活動に「参加していない」が35.5%に対して、困窮層は49.9%で、非困窮層に比べ14.4ポイント上回っています。

そこで、部活動に「参加していない」と回答した高校生にその理由を尋ねたところ、経済状況によって異なる傾向が把握できました。非困窮層では、困窮層に比べて「勉強が忙しいから」「塾・習い事が忙しいから」がやや高く、困窮層では非困窮層に比べて「アルバイトをしているから」「部費や部活動に費用がかかるから」「家の事情(家族の世話、家事など)があるから」がやや高くなっています(図2-2-2)。

図2-2-1 【生徒】あなたは現在、部活動に参加していますか

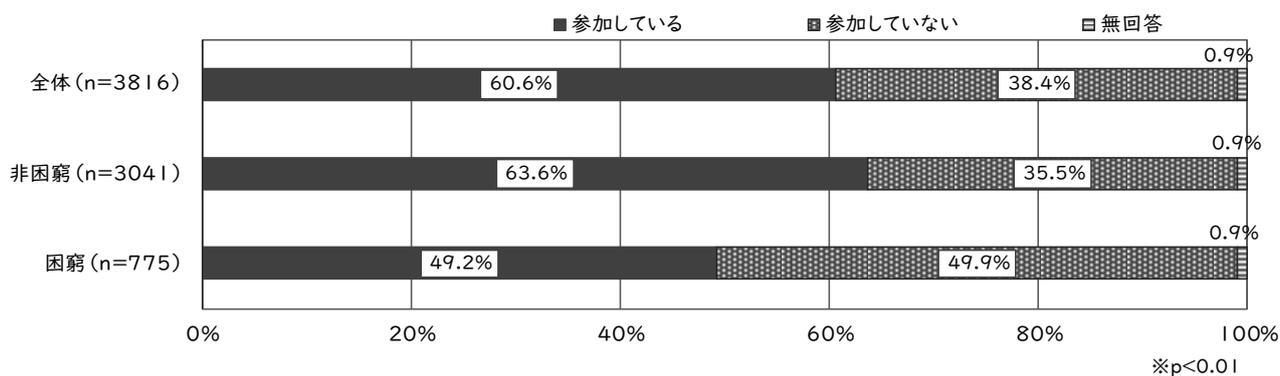
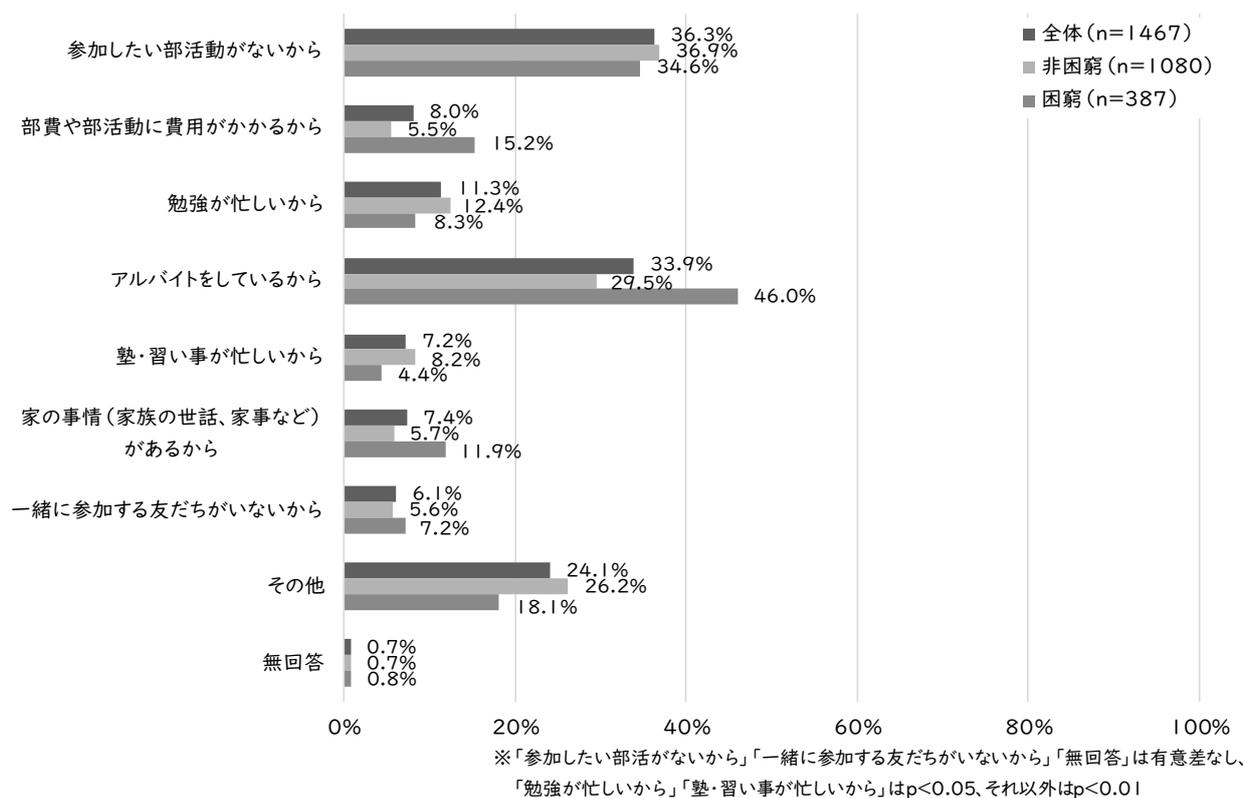


図2-2-2 【生徒】(部活動に参加していない)理由を教えてください(複数回答)



第3節 学習の状況

高校生の「学習状況」についての質問を設けました。「学校の授業がわからないことがありますか」の質問に対し、全体でみると「いつもわかる・だいたいわかる」と回答した人は合わせて59.4%、「あまりわからない・わからないことが多い」と回答した人は合わせて36.5%、「ほとんどわからない」と回答した人が2.7%となっています。

経済状況別にみると、「いつもわかる・だいたいわかる」と回答した人は非困窮層で60.1%、困窮層で56.8%、「あまりわからない・わからないことが多い」と回答した人は非困窮層で36.1%、困窮層で37.8%、「ほとんどわからない」と回答した人は非困窮層で2.4%、困窮層で3.7%となっています。困窮層の高校生が非困窮層の高校生に比べ、授業がわからないと回答している割合がやや高い傾向にあります(図2-3-1)。

「いつごろから、授業がわからなくなりましたか」については、全体としては、「高校1年生の頃」「高校2年生になってから」が高い傾向にあります。経済状況別にみると、非困窮層では、「高校1年生の頃」が高くなっています。一方、困窮層の高校生では「小学3・4年生の頃」に授業がわからなくなってきたと回答した割合が非困窮層に比べ、5.5ポイント高くなっています。そして、「中学1年生の頃」には、非困窮層より8.9ポイント高くなり、さらに広がっています(図2-3-2)。

高校生の授業の理解に関する質問を2016年東京都調査と比較したものが、図2-3-3と図2-3-4です。「いつもわかる・だいたいわかる」では、東京都が高くなっています。反対に「あまりわからない・わからないことが多い」のは沖縄県の高校生が東京都より高くなっています。「ほとんどわからない」では差はありませんでした。わからなくなってきた時期については、沖縄県の高校生は、高校に入学後の時期に高くなっていることがわかります。

高校入学前の中学3年生の成績をみると、全体では21.7%が「上のほう」、24.8%が「中の上」と回答しています。経済状況別にみると、「中の上」から「上のほう」と考えている高校生は、非困窮層の高校生のほうが、困窮層の高校生に比べ、13.5ポイント高くなっています(図2-3-5)。

次に「平日の学校の授業以外の勉強時間」では、非困窮層では、「まったくしない」が44.1%に対して、困窮層では54.6%となっていて、「まったくしない」高校生が困窮層で10.5ポイント高くなっています(図2-3-6)。一方、2016年東京都調査では、「まったくしない」高校生は、23.9%に対して、2019年沖縄県調査では、46.8%となっており、22.9ポイントの差がついています(図2-3-7)。

◆授業の理解

図2-3-1 【生徒】あなたは、学校の授業がわからないことがありますか

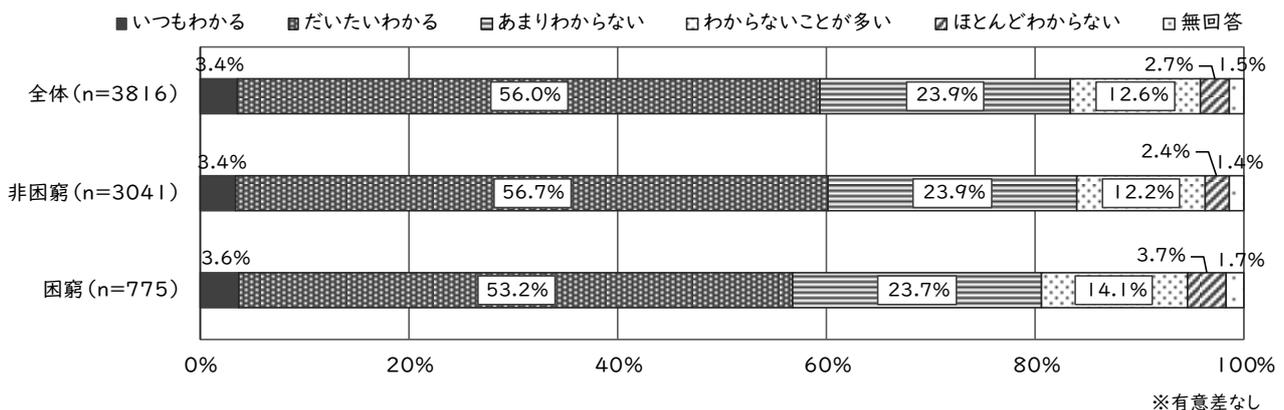
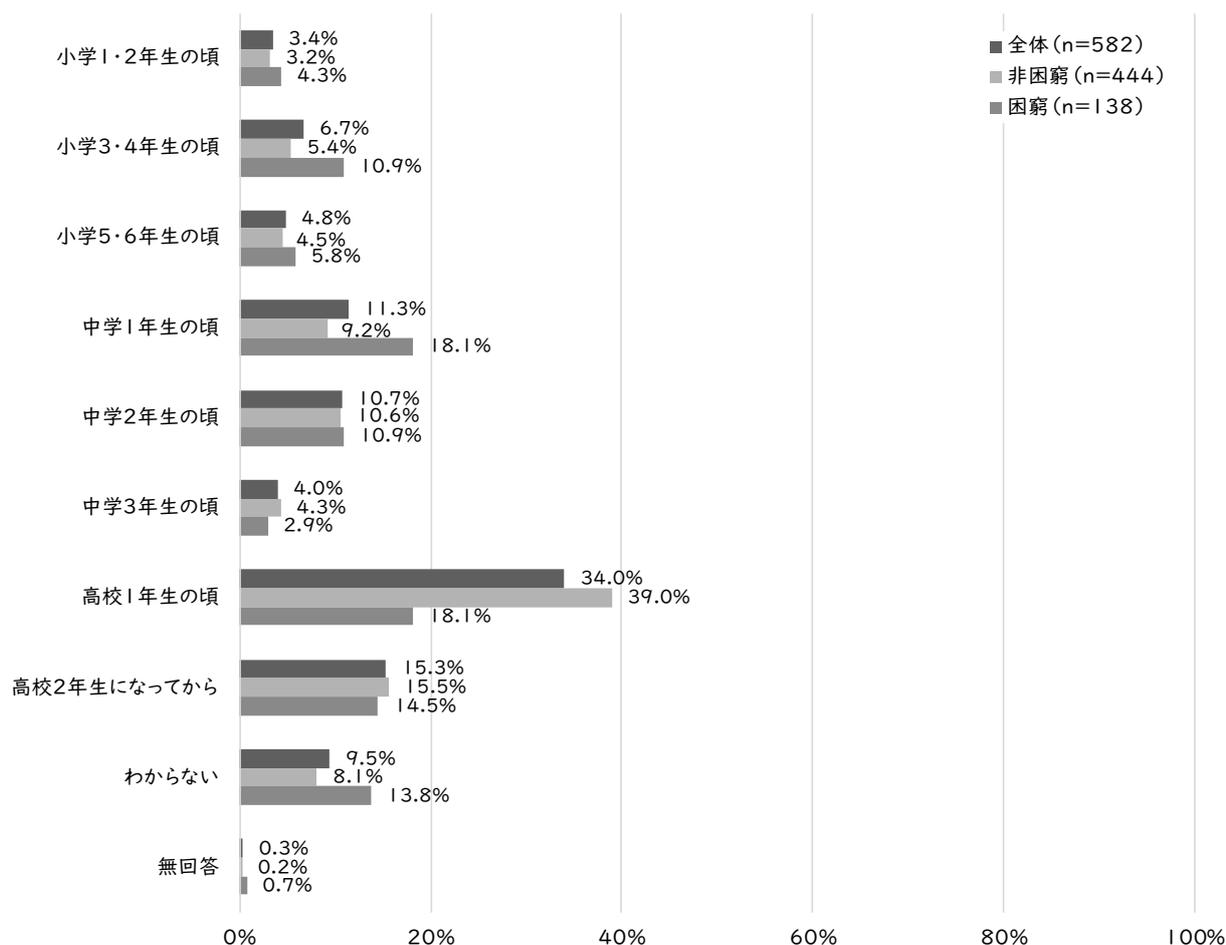
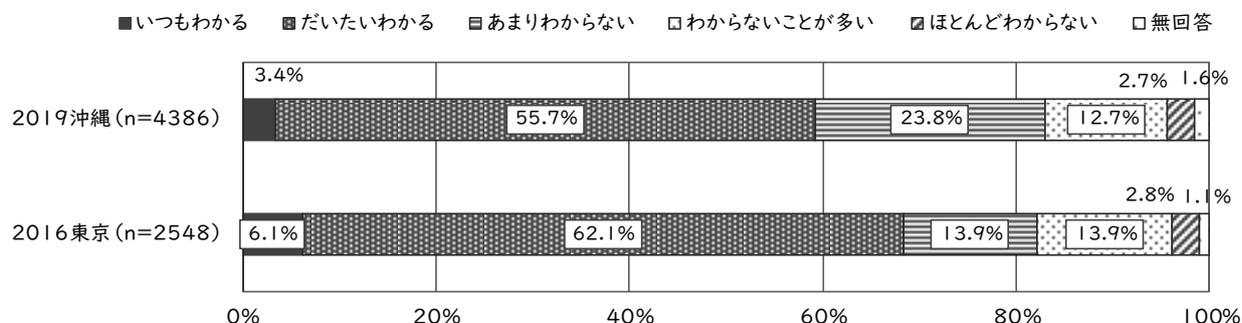


図2-3-2 【生徒】いつごろから、授業がわからなくなりましたか



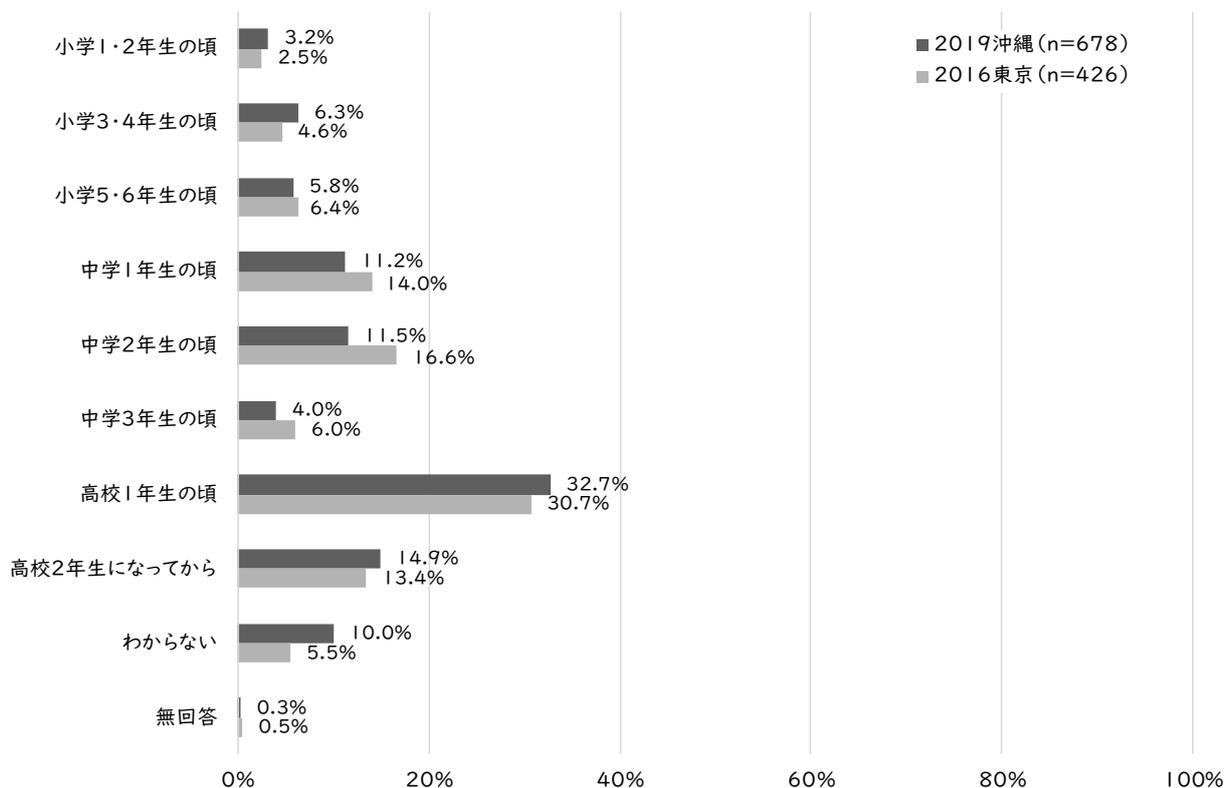
【2016年東京都調査との比較】

図2-3-3 【生徒】あなたは、学校の授業がわからないことがありますか



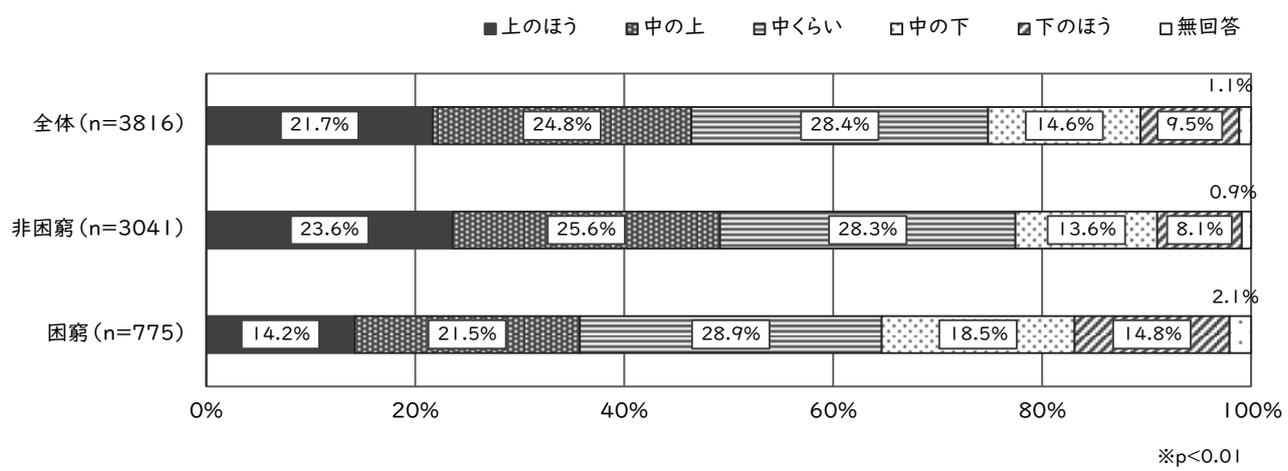
注) 東京調査の質問は、「あなたは、学校の授業がわからないことがありますか(ありましたか)」

図2-3-4 【生徒】いつごろから、授業がわからなくなりましたか



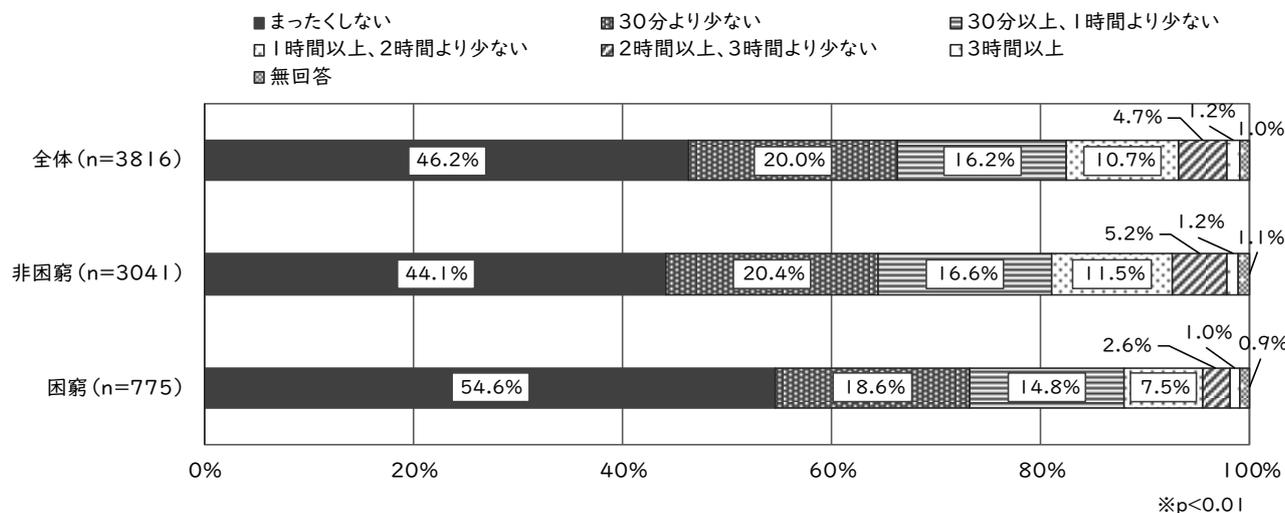
◆ 中学3年生の時の成績

図2-3-5 【生徒】中学3年生の時の成績



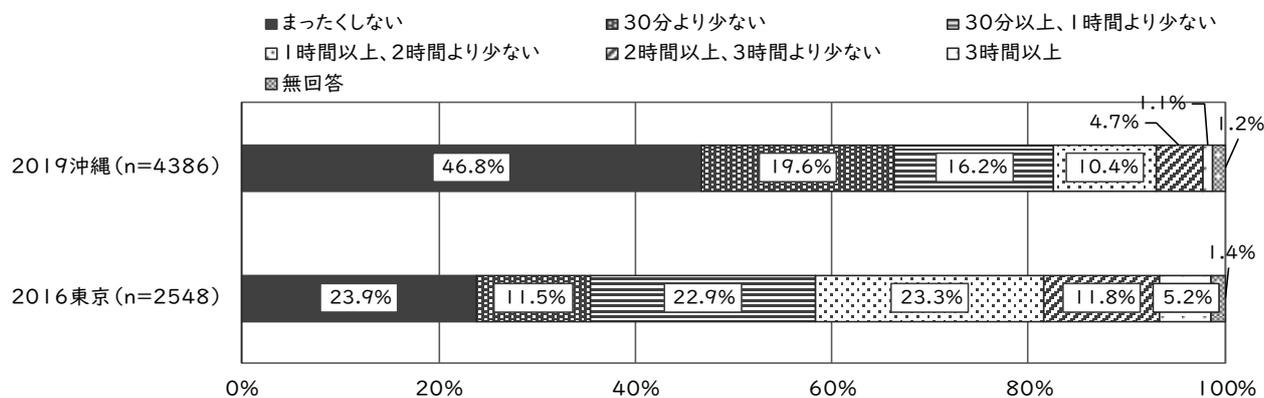
◆平日の勉強時間

図2-3-6 【生徒】あなたは、平日（月～金曜日）の学校の授業以外にどれくらいの時間、勉強をしますか。
1日あたりの勉強時間を教えてください



【2016年東京都調査との比較】

図2-3-7 【生徒】あなたは、平日（月～金曜日）の学校の授業以外にどれくらいの時間、勉強をしますか。
1日あたりの勉強時間を教えてください



第4節 通学—モノレール・バス

登下校時のモノレールやバスの利用等について、保護者に尋ねています。モノレールの利用では、非困窮層、困窮層とも「利用している」割合が、それぞれ6.7%、5.5%とやや困窮層が低くなっています(図2-4-1)。一方、登下校時のバス利用では、非困窮層が29.5%、困窮層が30.5%とほぼ同じ割合で利用されており、モノレール利用に比べ利用率が高くなっています(図2-4-2)。また、世帯別にみると、非困窮層、困窮層ともにひとり親世帯のバス利用の割合が、ふたり親世帯に比べてそれぞれ2.9ポイント、1.7ポイント高くなっています(図2-4-3)。

通学定期券の利用については、2019年沖縄県調査と2016年沖縄県調査を比較しています(図2-4-4)。非困窮層で「利用している」と回答した保護者は、ふたり親世帯でそれぞれ31.9%と31.2%、ひとり親世帯でそれぞれ33.8%と28.2%となっています。一方、困窮層では、ふたり親世帯でそれぞれ28.8%と26.4%、ひとり親世帯でそれぞれ40.3%と27.2%となっています。両年の調査の比較からは、困窮層のひとり親世帯が特に増加していることが読み取れました。

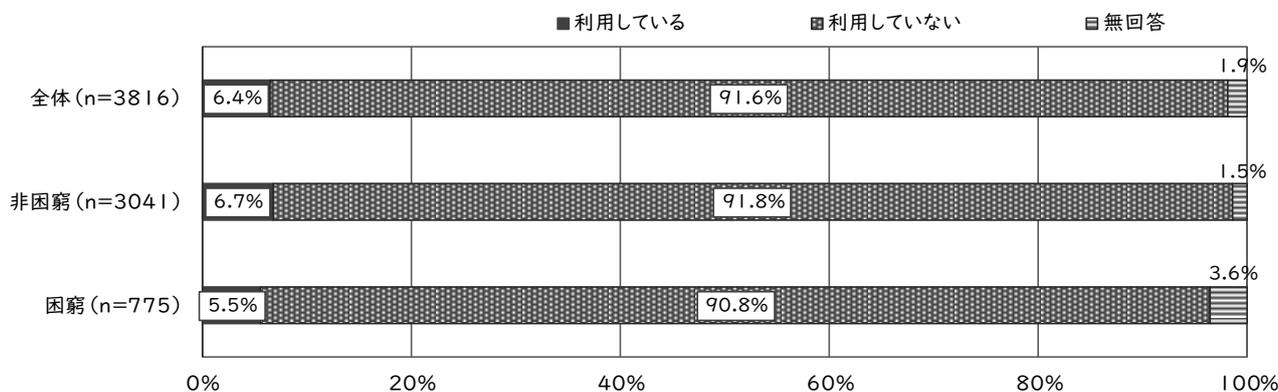
「通学定期券を利用していない理由」では(図2-4-5)、非困窮層、困窮層とも「定期券を購入するほどバスを利用しないため」との回答がそれぞれ47.0%、42.2%となっています。また困窮層では「定期券を購入する経済的ゆとりがないため」(35.4%)、「定期券の購入場所が近くにならないため」(20.4%)が非困窮層よりも高い数値となっています。一方、2016年沖縄県調査も同じ内容で質問を行っていますが、非困窮層、困窮層とも「定期券を購入するほどバスを利用しないため」との回答が2019年沖縄県調査と近い数値が出ています(図2-4-6)。

「通学定期券を利用しない理由」として、「定期券を購入するゆとりがないため」を選択した割合を、世帯別に経年比較したところ、2019年沖縄県調査の困窮層のふたり親世帯で36.1%(2016年17.0%)、ひとり親世帯で34.2%(18.5%)となり、2016年を上回っています(図2-4-7)。

「ひとり親家庭高校生等通学サポート実証事業」(バス)の利用の有無を尋ねた問では、補助を「受けている」と回答した割合が、非困窮層が17.9%、困窮層が34.9%となっています(図2-4-8)。

◆モノレールの利用

図2-4-1 【保護者】お子さんは、高校への通学(登校時、帰宅時)に、普段、モノレールを利用していますか



◆バスの利用

図2-4-2【保護者】お子さんは、高校への通学（登校時、帰宅時）に、普段、バスを利用していますか

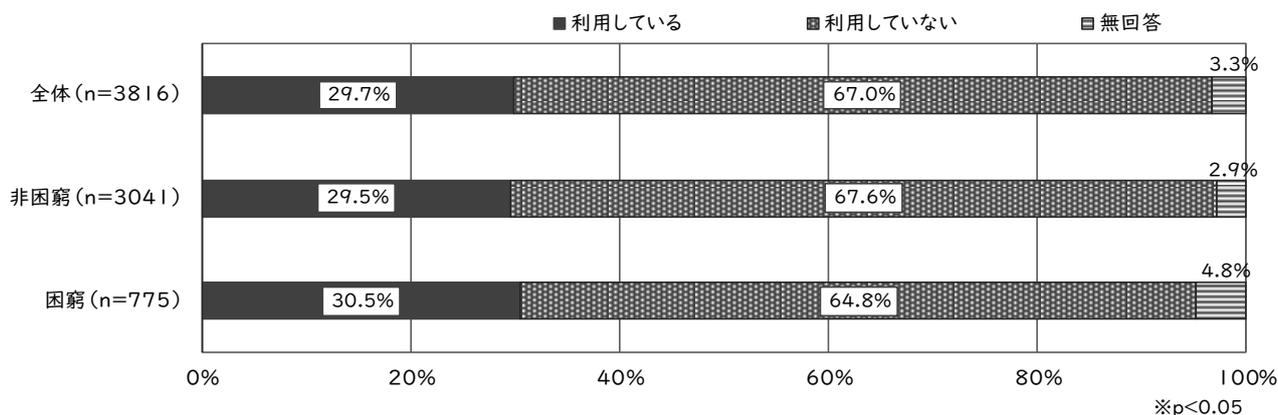
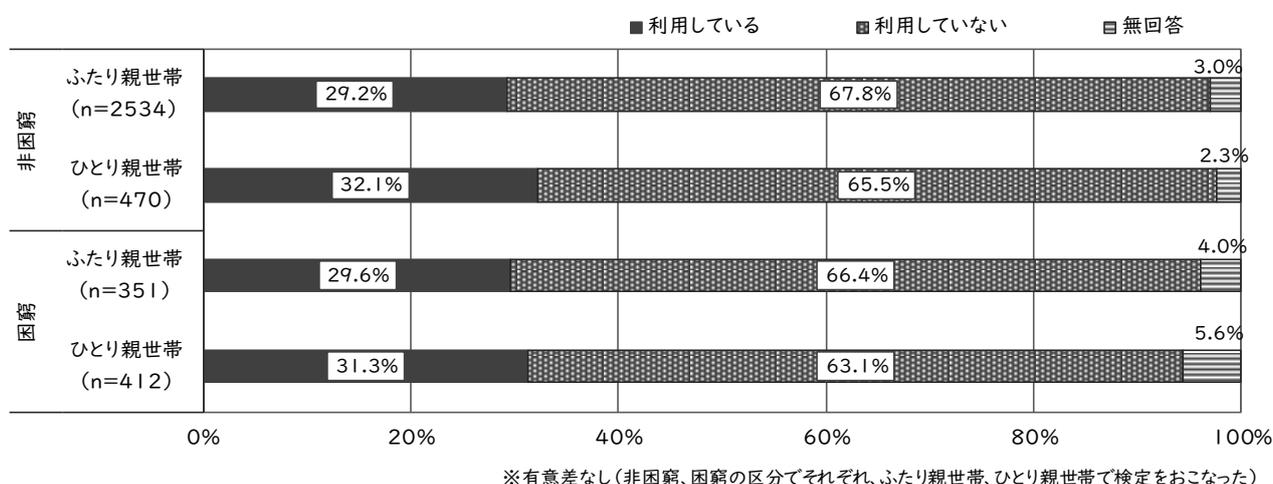


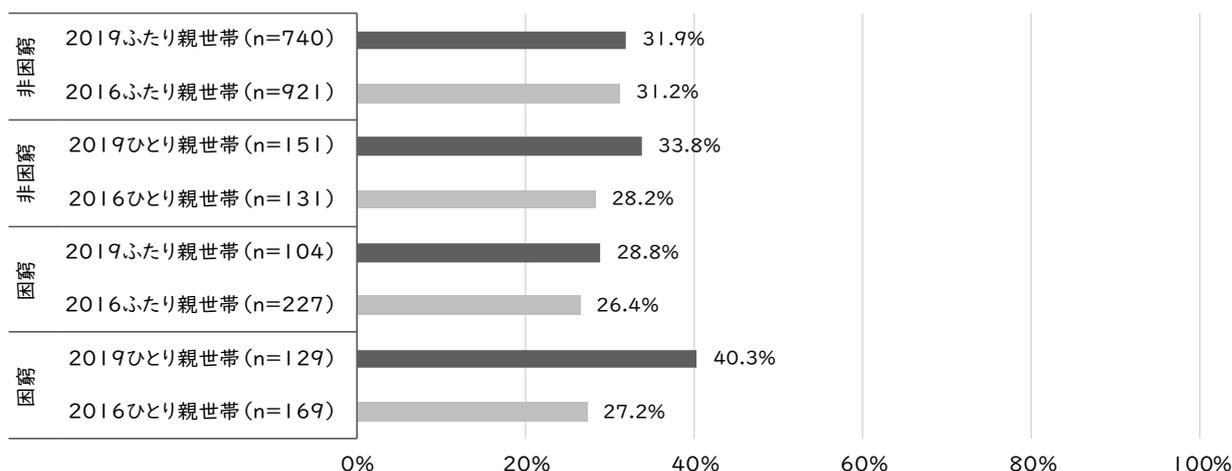
図2-4-3【保護者】お子さんは、高校への通学（登校時、帰宅時）に、普段、バスを利用していますか



◆バス定期券の利用

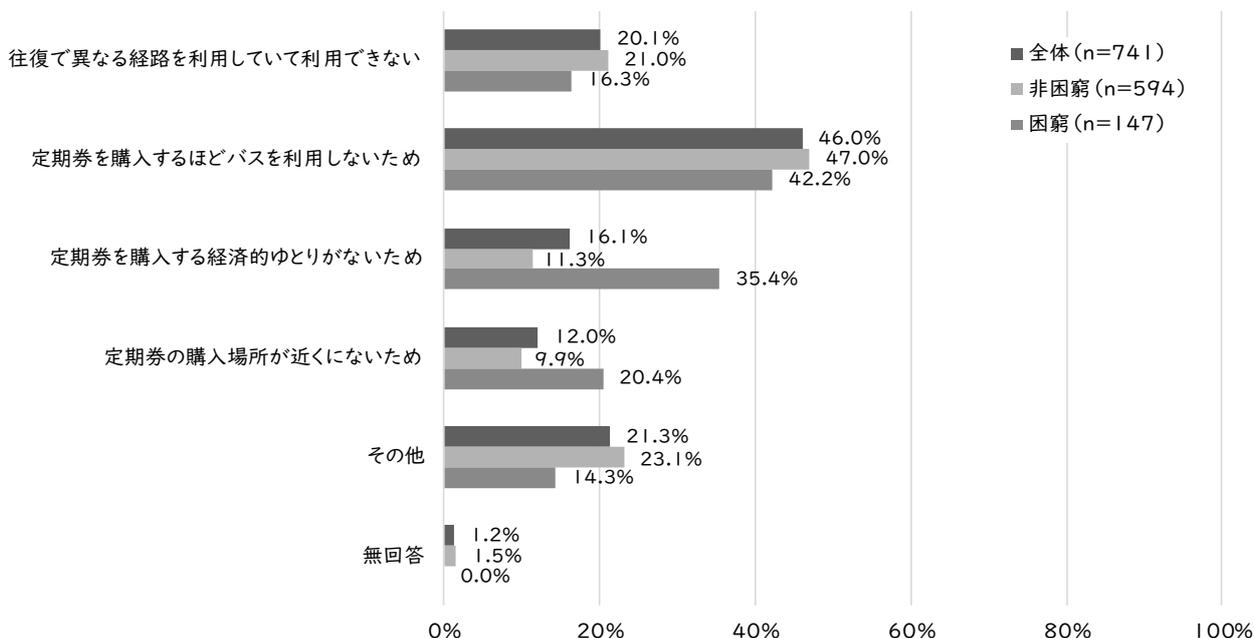
【2016年沖縄県調査との比較】

図2-4-4【保護者】(バスの)通学定期券を利用していますか(「利用している」の割合)



注)2016沖縄調査の質問は、「(バス利用者)通学費用が割引になる学割定期券を利用していますか」

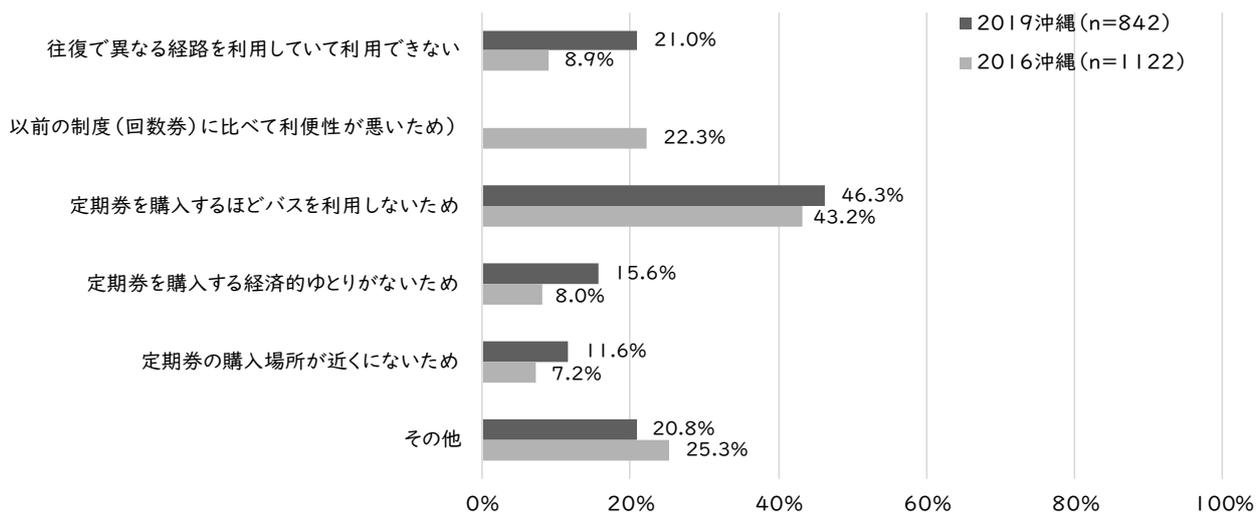
図2-4-5 【保護者】通学定期券を利用していない理由を教えてください(複数回答)



※「定期券を購入する経済的ゆとりがないため」「定期券の購入場所が近くにならないため」は $p < 0.01$ 、「その他」は $p < 0.05$ 、それ以外は有意差なし

【2016年沖縄県調査との比較】

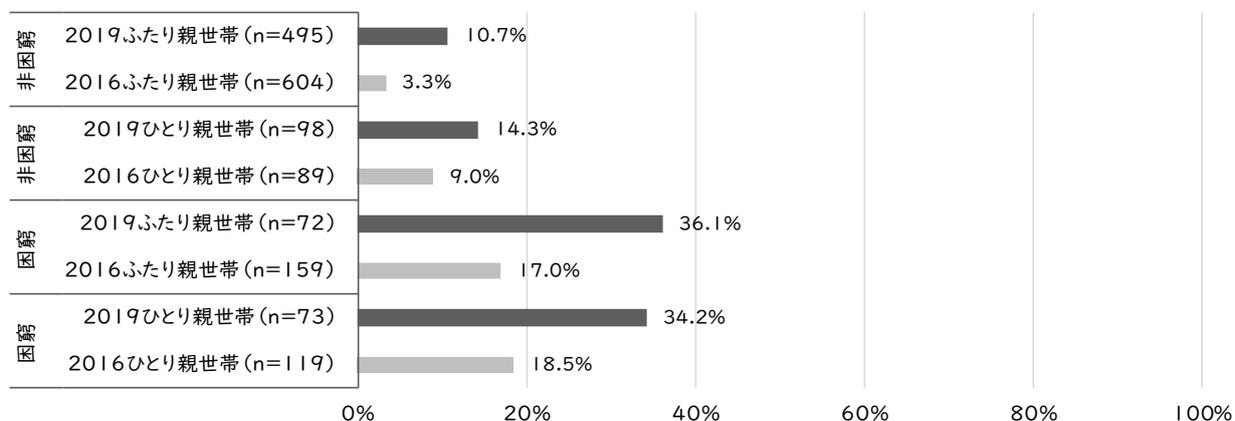
図2-4-6 【保護者】(バス利用)通学定期券を利用していない理由を教えてください(複数回答)



注) 2016沖縄調査の質問は、「(バス利用者)定期券を利用していない理由を教えてください」
また、選択肢「以前の制度(回数券)に比べて利便性が悪いため」は、2019沖縄調査にはない

【2016年沖縄県調査との比較】

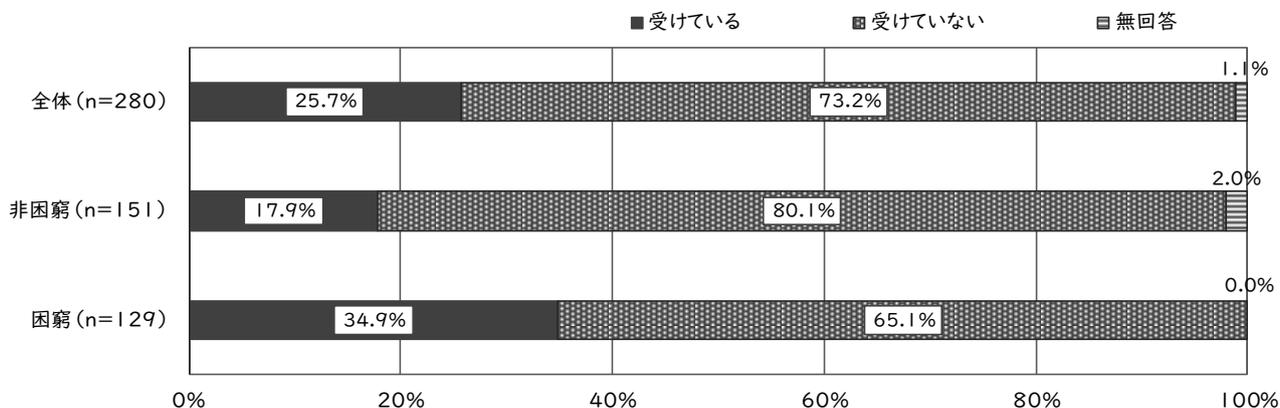
図2-4-7 【保護者】(バスの)通学定期券を利用していない理由
 — 「定期券を購入する経済的ゆとりがないため」 —



注) 2016沖縄調査の質問は、「(バス利用者)定期券を利用していない理由を教えてください」

◆ひとり親家庭高校生等通学サポート実証事業

図2-4-8 【保護者】ひとり親家庭高校生等通学サポート実証事業(バス)による補助を受けていますか



※p<0.01 (困窮の無回答がゼロのため、無回答を除き検定した)

第5節 通学 — 自家用車での送迎／その他

高校への通学（登校時、帰宅時）の、普段の家族の自家用車利用について尋ねたところ、非困窮層は、「送迎している」60.0%、困窮層では54.6%となっています（図2-5-1）。また、世帯別にみると、ふたり親世帯では61.6%、ひとり親世帯では50.0%となっていて、ひとり親世帯の送迎率が、やや低くなっています（図2-5-2）。

「送迎している一番の理由」では、「交通費削減」が非困窮層25.7%、困窮層30.5%、「通勤のついで」が非困窮層23.8%、困窮層19.4%、「防犯・安全」が非困窮層10.5%、困窮層7.3%、「公共交通機関がない」が非困窮層9.1%、困窮層8.3%、「学校が遠い」が非困窮層14.3%、困窮層16.1%、「その他」が非困窮層16.2%、困窮層17.3%となっています（図2-5-3）。経年比較では、「交通費削減」25.9%（2016年23.4%）、「通勤のついで」23.3%（20.7%）、「公共交通機関がない」9.1%（7.3%）が高くなっています（図2-5-4）。

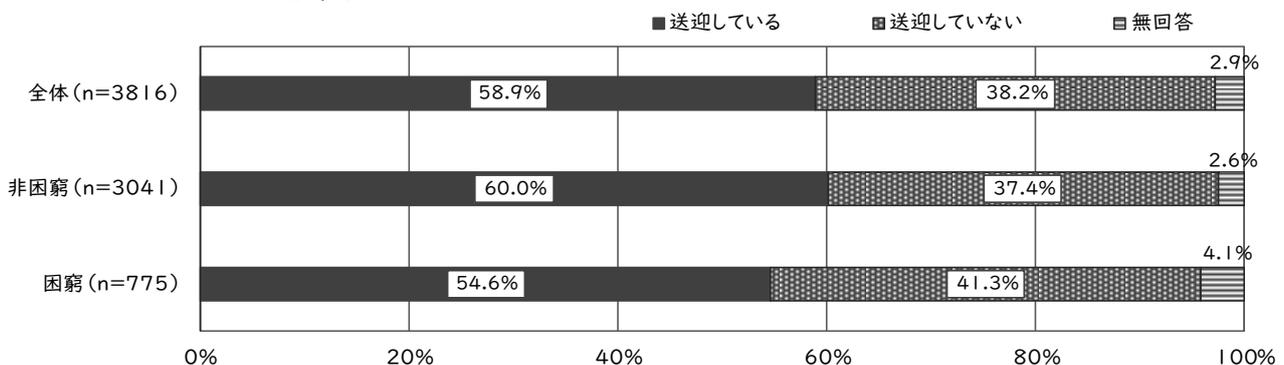
世帯別にみると、非困窮層のふたり親世帯が「交通費削減」でやや高くなっています。困窮層では、ふたり親世帯が「交通費削減」で37.8%とひとり親世帯の24.0%に比べ、13.8ポイント高くなっています（図2-5-5）。なお2016年沖縄県調査では、「交通費削減」では、非困窮層でひとり親世帯が22.0%となり、ふたり親世帯の21.3%をやや上回っています。困窮層では、ふたり親世帯が31.5%で、ひとり親世帯の29.7%を1.8ポイント上回っています（図2-5-6）

通学する高校の選択の際の通学交通費の負担をどの程度重視したかについて保護者に尋ねました。「非常に重視した」「やや重視した」を合わせると、非困窮層35.7%、困窮層45.8%となりました（図2-5-7）。世帯別にみると、非困窮層では、ふたり親世帯が34.3%、ひとり親世帯では43.4%となりました。一方、困窮層では、ふたり親世帯が45.6%、ひとり親世帯では45.1%となりました（図2-5-8）。経年比較してみると、「非常に重視した」「やや重視した」合わせて37.2%（2016年30.7%）、「あまり気にしなかった」「まったく気にしなかった」合わせて59.0%（49.6%）となっています（図2-5-9）。

また、「1か月あたりのガソリン代」の経年比較では、2016年沖縄県調査で25.8%が無回答のため単純な比較は難しいですが、2019年沖縄県調査では「1万円未満」が4割超える一方、「1万円以上」も21.5%と一定数いることがわかります（図2-5-10）。

◆自家用車での送迎

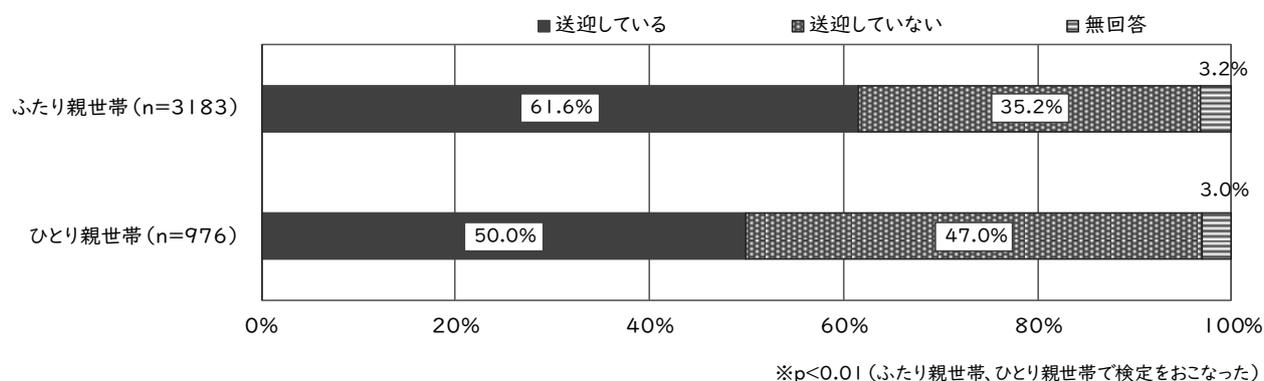
図2-5-1 【保護者】お子さんの高校への通学（登校時、帰宅時）に、普段、家族の自家用車で送迎していますか



※p<0.01

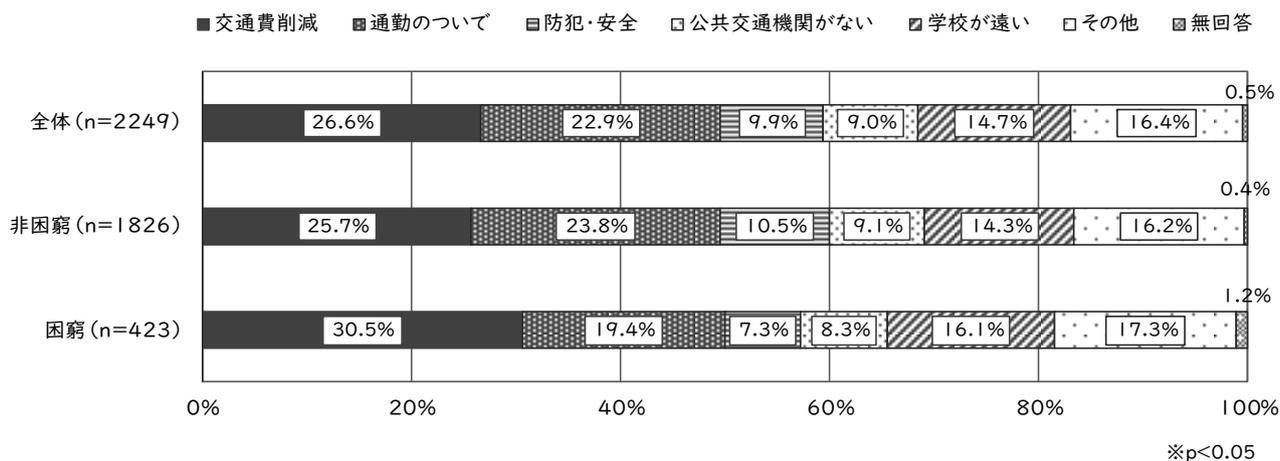
【世帯別】

図2-5-2 【保護者】お子さんの高校への通学(登校時、帰宅時)に、普段、家族の自家用車で送迎していますか



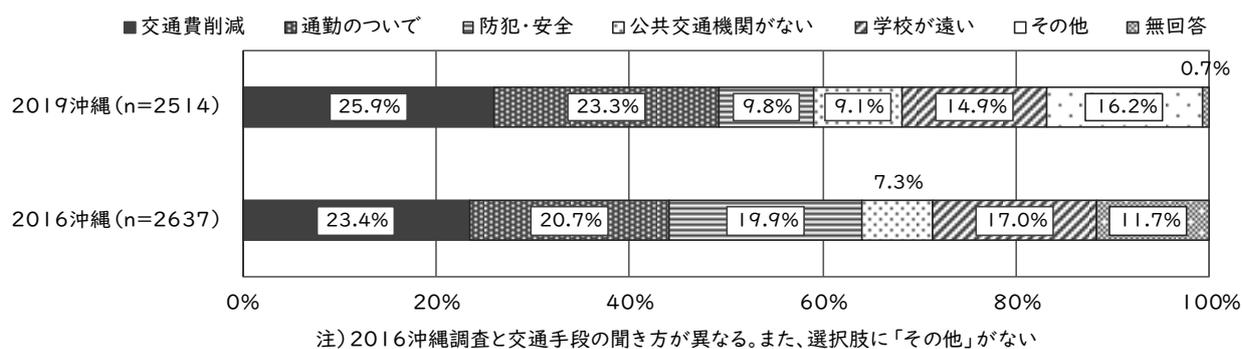
◆送迎している一番の理由

図2-5-3 【保護者】送迎している一番の理由を教えてください



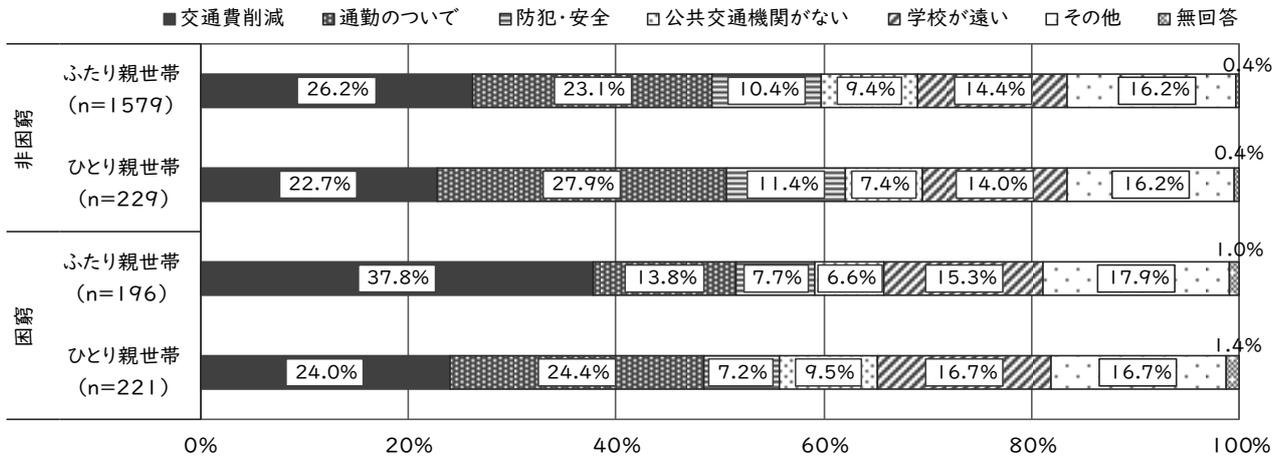
【2016年沖縄県調査との比較】

図2-5-4 【保護者】送迎している一番の理由を教えてください



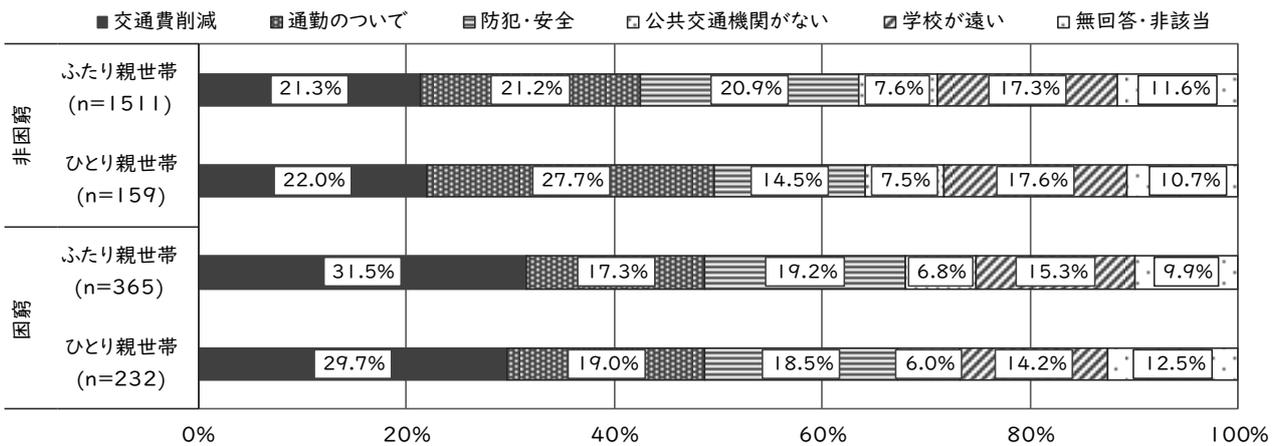
【世帯別】

図2-5-5 【保護者】送迎している一番の理由を教えてください



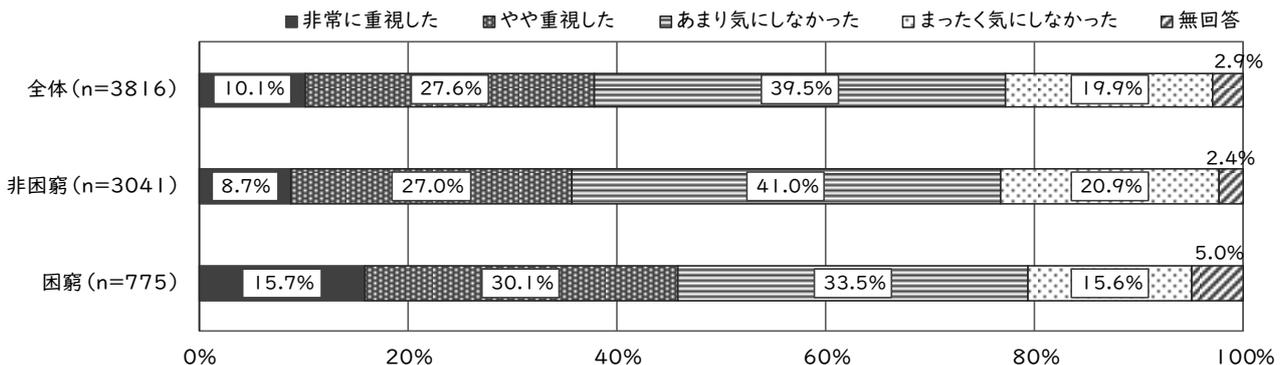
※非困窮、困窮の区分で、それぞれふたり親世帯、ひとり親世帯で検定をおこなった。困窮はp<0.05、非困窮は有意差なし

図2-5-6 【2016沖縄・保護者】お子さんの登下校時に家族による送迎をしている一番の理由を教えてください



◆ 高校進学の際の、通学交通費の負担について

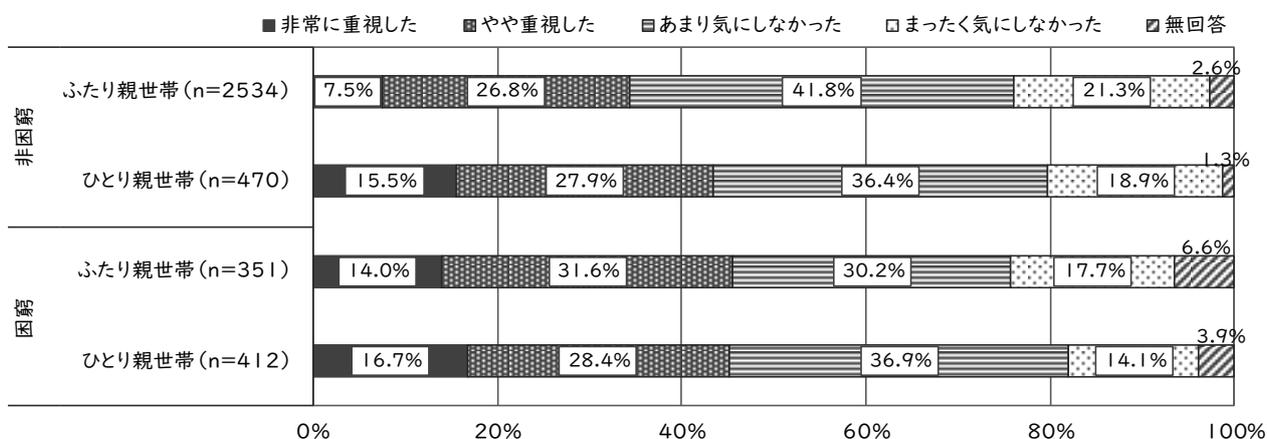
図2-5-7 【保護者】進学する高校の選択の際、通学交通費の負担をどの程度重視しましたか



※p<0.01

【世帯別】

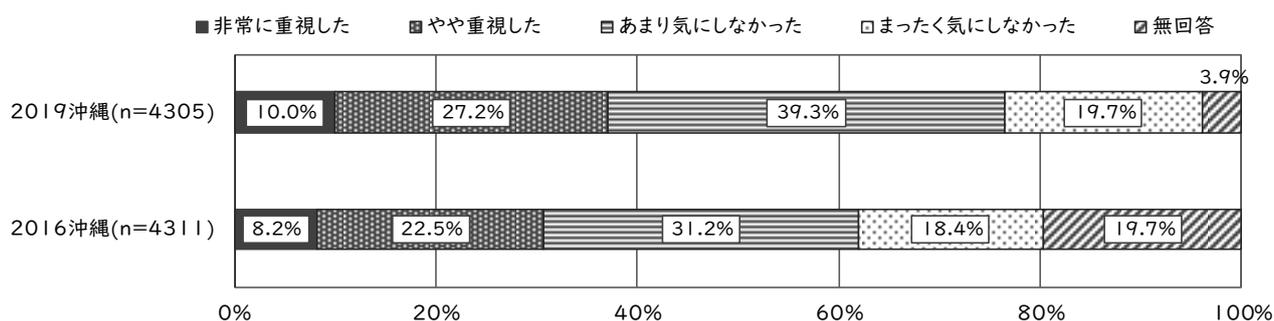
図2-5-8 【保護者】進学する高校の選択の際、通学交通費の負担をどの程度重視しましたか



※非困窮、困窮の区分で、それぞれふたり親世帯、ひとり親世帯で検定をおこなった。困窮は有意差なし。非困窮はp<0.01

【2016年沖縄県調査との比較】

図2-5-9 【保護者】進学する高校の選択の際、通学交通費の負担をどの程度重視しましたか

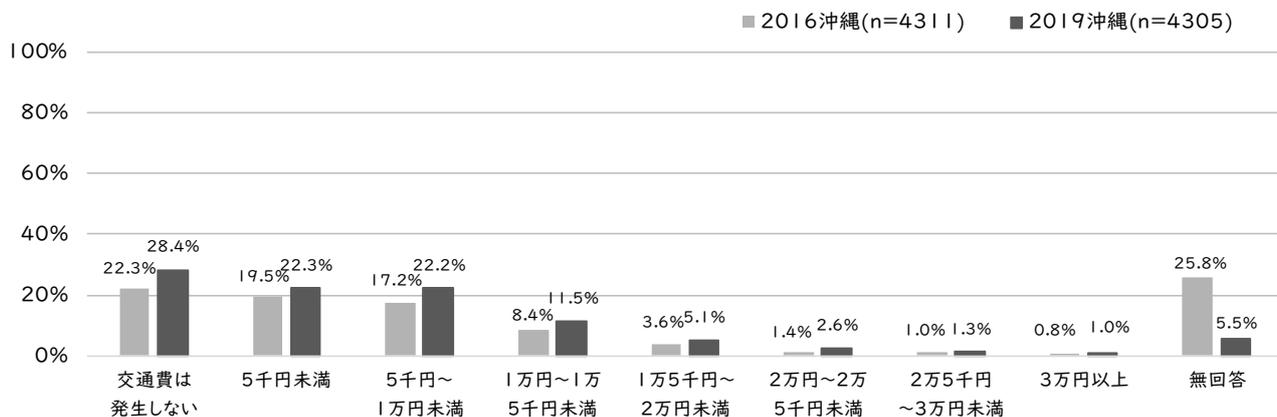


注) 2016沖縄調査の質問は、「通学交通費の負担は、高校進学の際の選択材料となっていましたか」

◆1か月あたりのガソリン代

【2016年沖縄県調査との比較】

図2-5-10 【保護者】お子さんの1か月あたりの通学交通費(ガソリン代含む)を教えてください



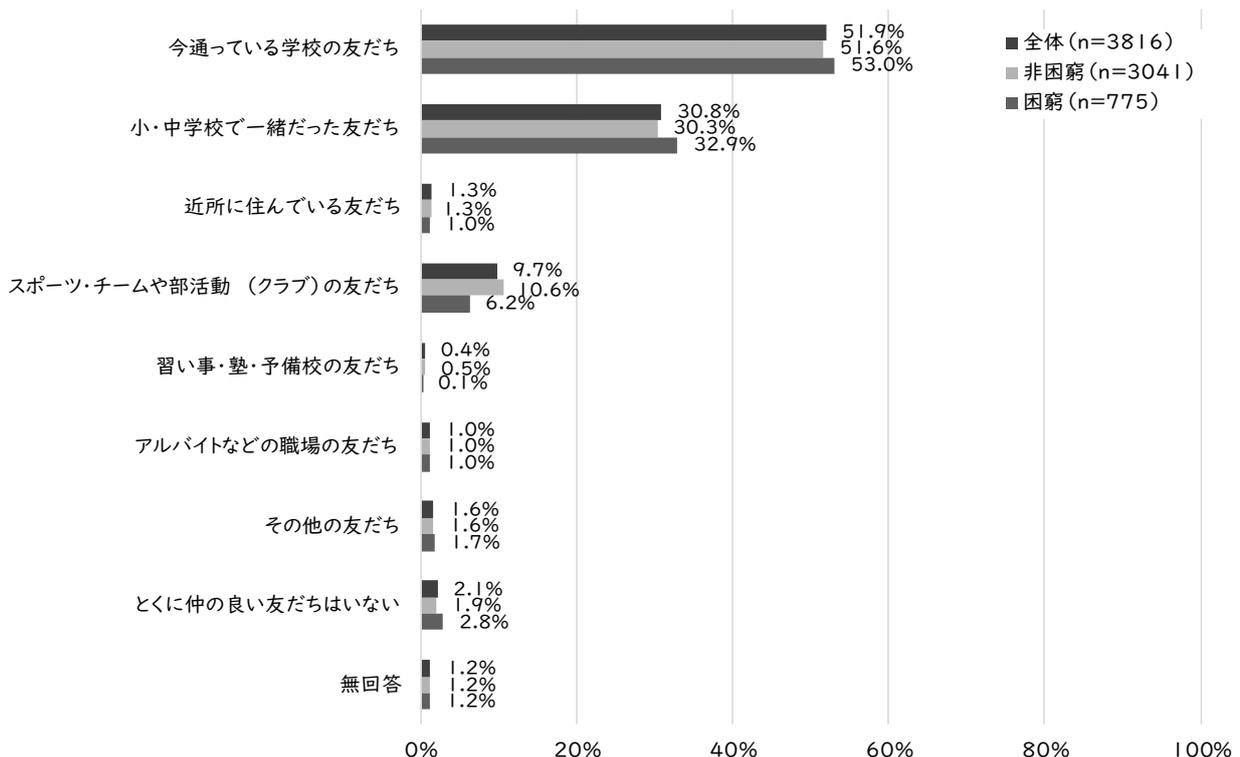
第6節 友人関係など

高校生の友人関係についての調査を行いました。「一番仲のよい友だち」について尋ねたところ、全体としては、「今通っている学校の友だち」が51.9%、次に「小・中学校で一緒だった友だち」30.8%、「スポーツ・チームや部活動(クラブ)の友だち」9.7%となっています。経済状況別では、非困窮層では、「今通っている学校の友だち」が51.6%、次に「小・中学校で一緒だった友だち」30.3%、「スポーツ・チームや部活動(クラブ)の友だち」10.6%となっています。一方、困窮層では、「今通っている学校の友だち」が53.0%、次に「小・中学校で一緒だった友だち」32.9%、「スポーツ・チームや部活動(クラブ)の友だち」6.2%となっています。しかし、「とくに仲の良い友だちはいない」と回答をした高校生が全体で2.1%、非困窮層で1.9%、困窮層で2.8%となっています(図2-6-1)。図2-6-2は、2016年東京都調査との比較になりますが、ほとんど差は出ていません。

次に、高校生に「困っていることや悩んでいること、楽しいことや悲しいこと」についてどれくらい話しか尋ねました。「よく話す」「時々話す」を合わせた割合をみると、「家族(親)」は非困窮層69.7%、困窮層64.8%となっています(図2-6-3)。以下、同様に「家族(兄弟姉妹)」は非困窮層38.5%、困窮層40.7%(図2-6-4)、「家族(祖父母など)」は非困窮層23.7%、困窮層23.2%(図2-6-5)、「学校の先生」は非困窮層23.6%、困窮層22.1%(図2-6-6)、「友だち」は非困窮層81.9%、困窮層76.0%(図2-6-7)、「家族・学校の先生以外の大人」は非困窮層17.0%、困窮層18.1%となっています(図2-6-8)。

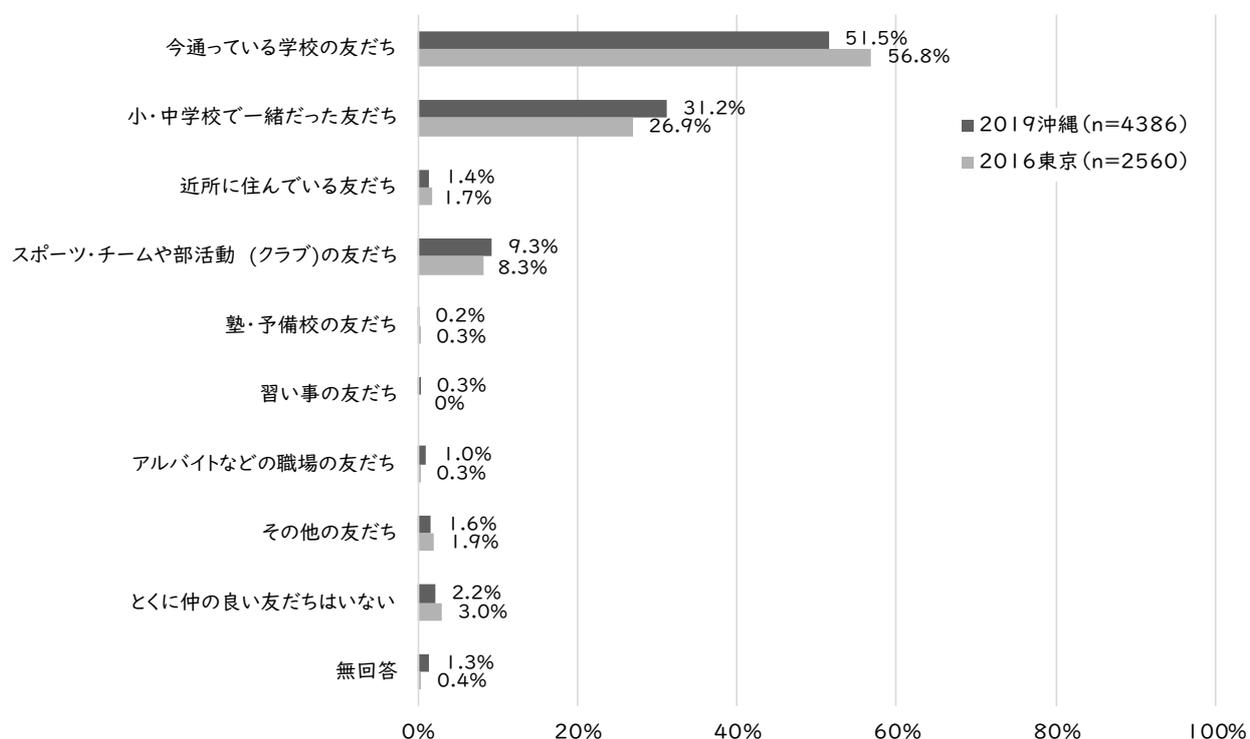
2016年東京都調査と比較すると、「家族(兄弟姉妹)」「家族(祖父母など)」「学校の先生」「友だち」では、沖縄県が「よく話す」「時々話す」が高くなっています。一方、「家族(親)」「家族・学校の先生以外の大人」では、東京都のほうが「よく話す」「時々話す」が高くなっています(図2-6-10 から図2-6-16)。

図2-6-1 【生徒】あなたが一番仲の良い友だちは、どのような友だちですか



【2016年東京都調査との比較】

図2-6-2 【生徒】あなたの一番仲の良い友だちは、どのような友だちですか



◆困っていることや悩んでいること、楽しいことや悲しいことを話す頻度

図2-6-3 【生徒】家族(親)

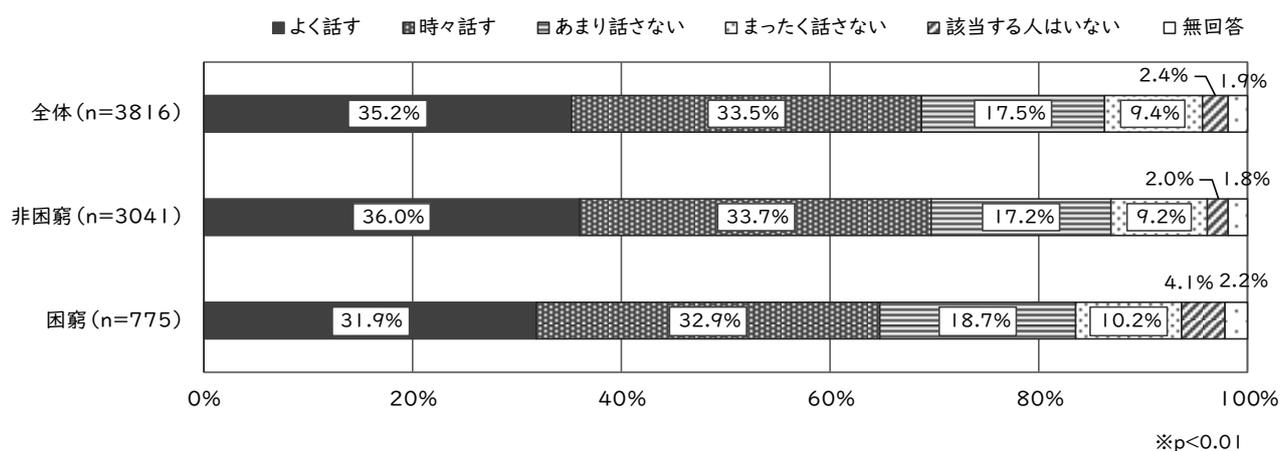


図2-6-4 【生徒】家族(兄弟姉妹)

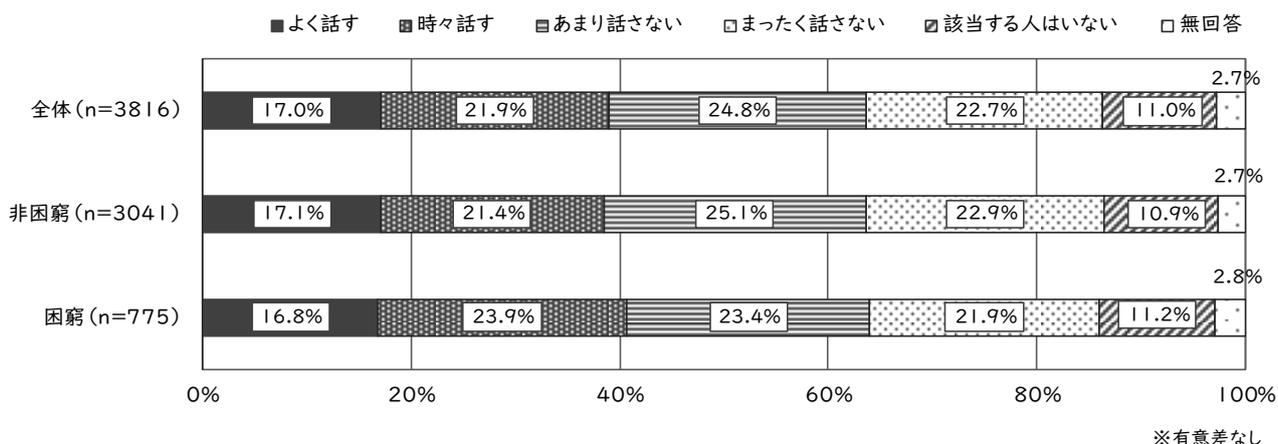


図2-6-5 【生徒】家族(祖父母など)

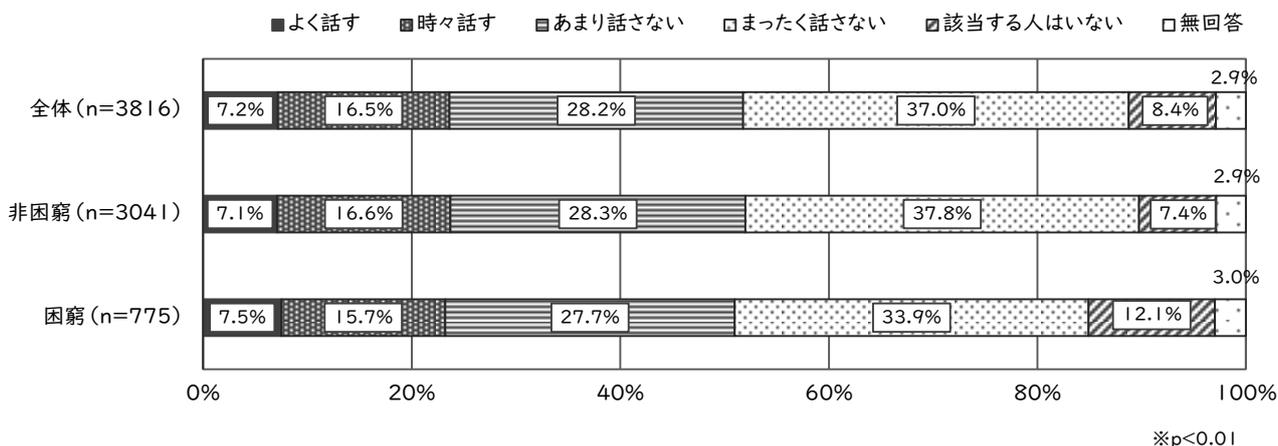


図2-6-6 【生徒】学校の先生

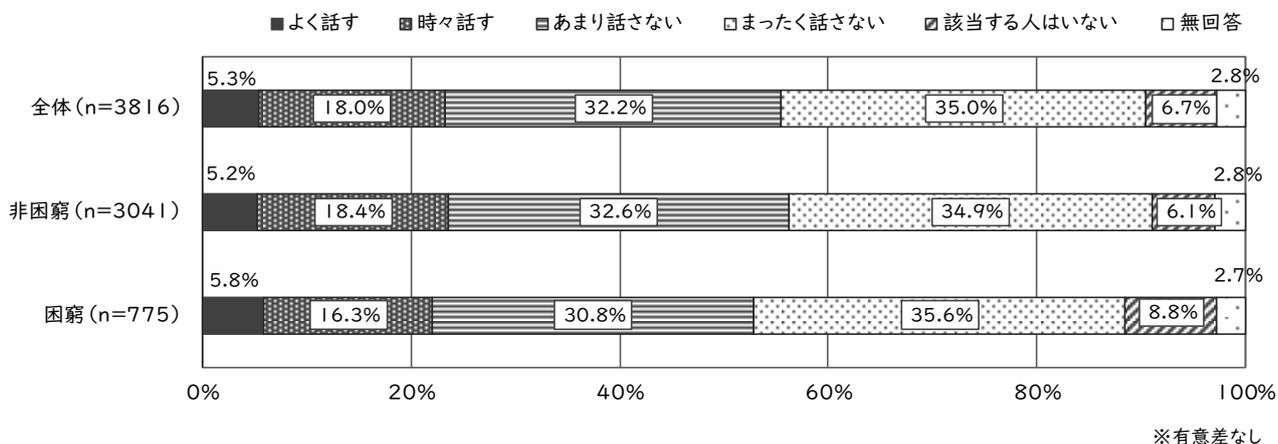


図2-6-7 【生徒】友だち

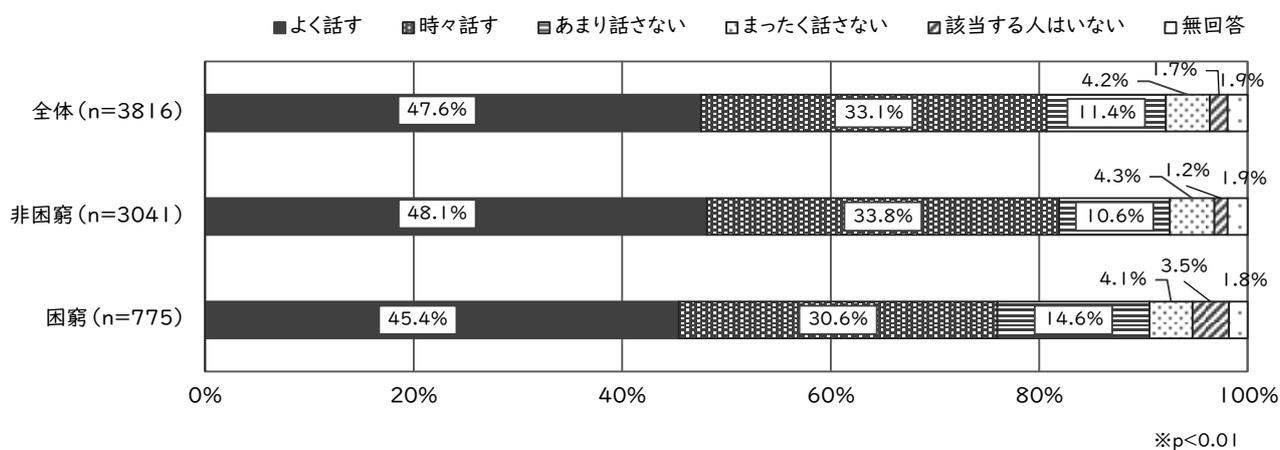


図2-6-8 【生徒】家族・学校の先生以外の大人

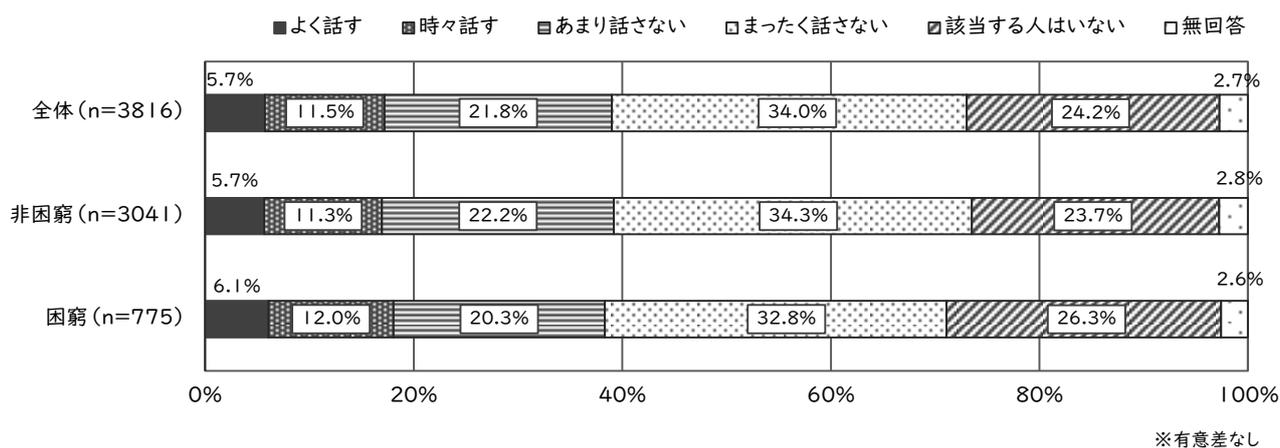
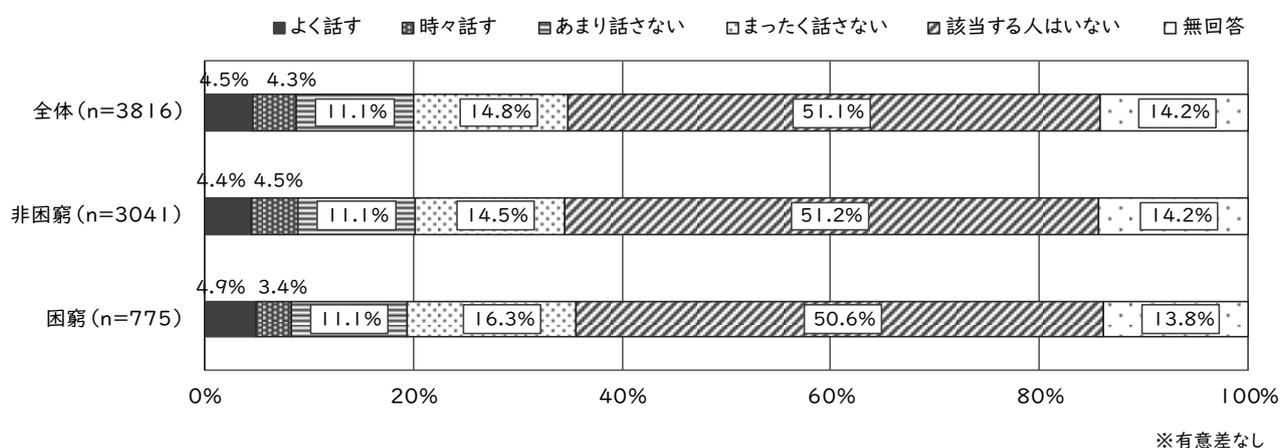


図2-6-9 【生徒】その他



【以下、2016年東京都調査との比較】

図2-6-10【生徒】家族(親)

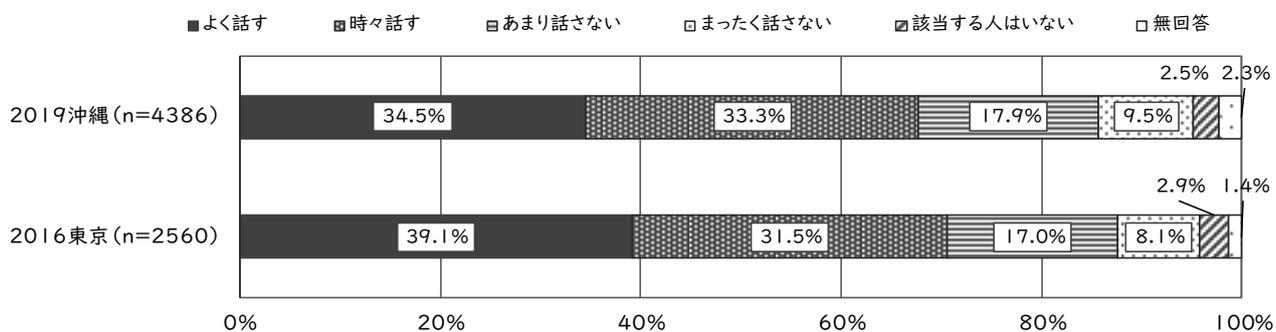


図2-6-11【生徒】家族(兄弟姉妹)

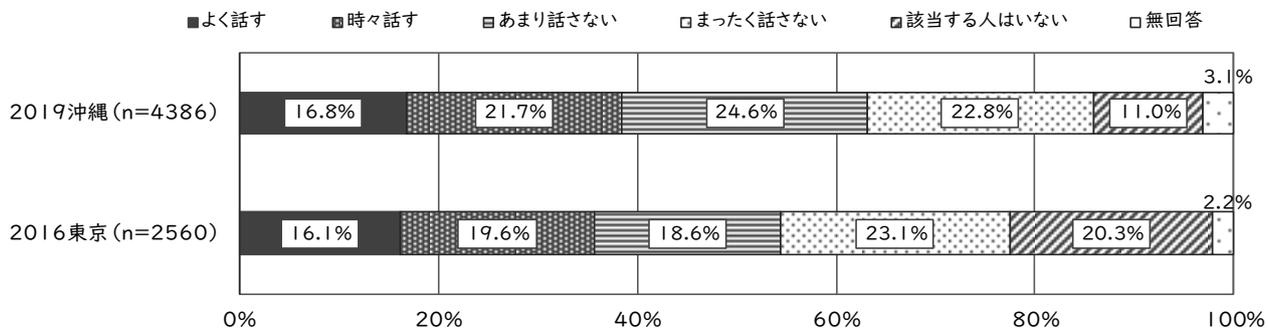


図2-6-12【生徒】家族(祖父母など)

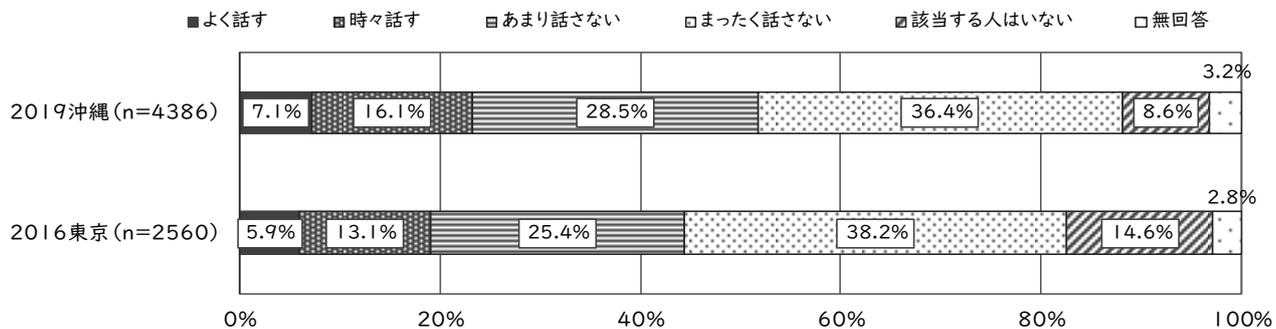


図2-6-13【生徒】学校の先生

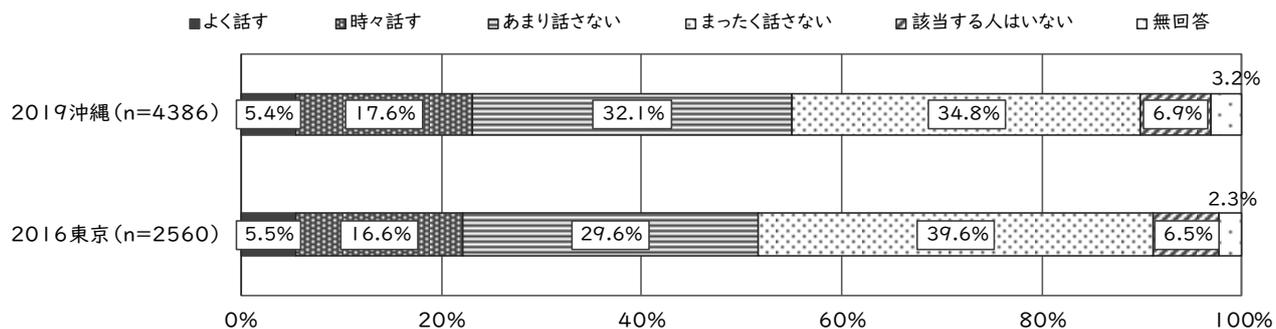


図2-6-14 【生徒】友だち

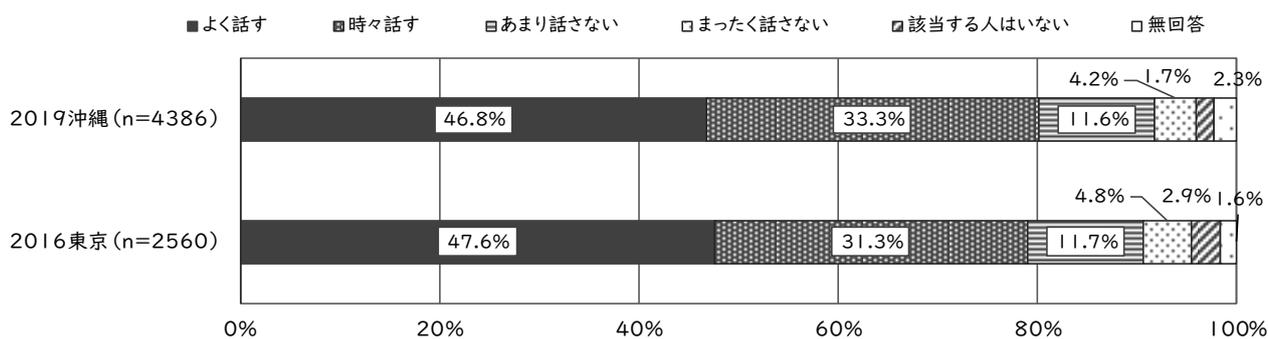


図2-6-15 【生徒】家族・学校の先生以外の大人

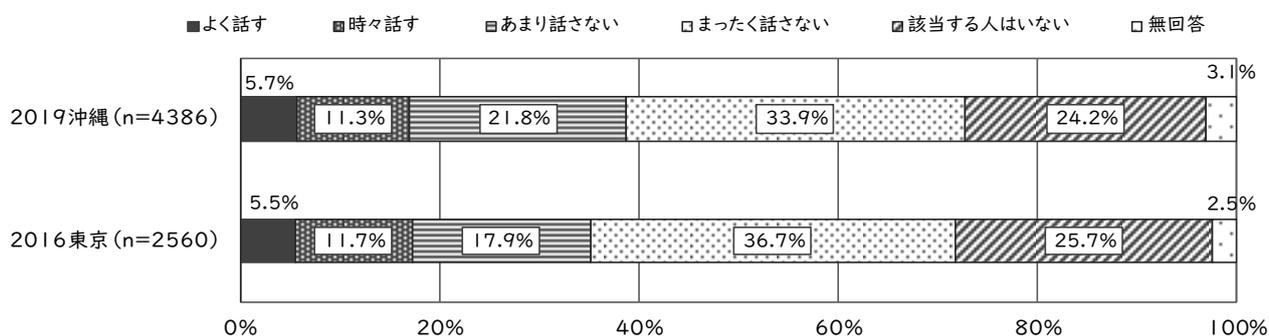
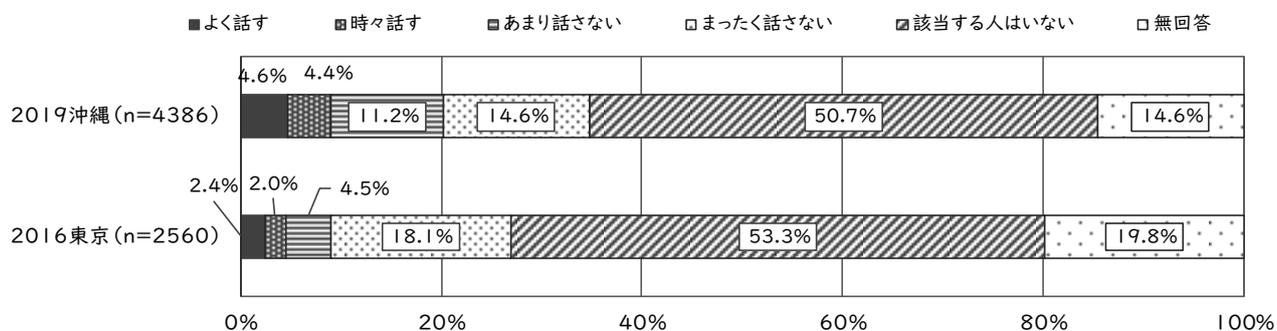


図2-6-16 【生徒】その他



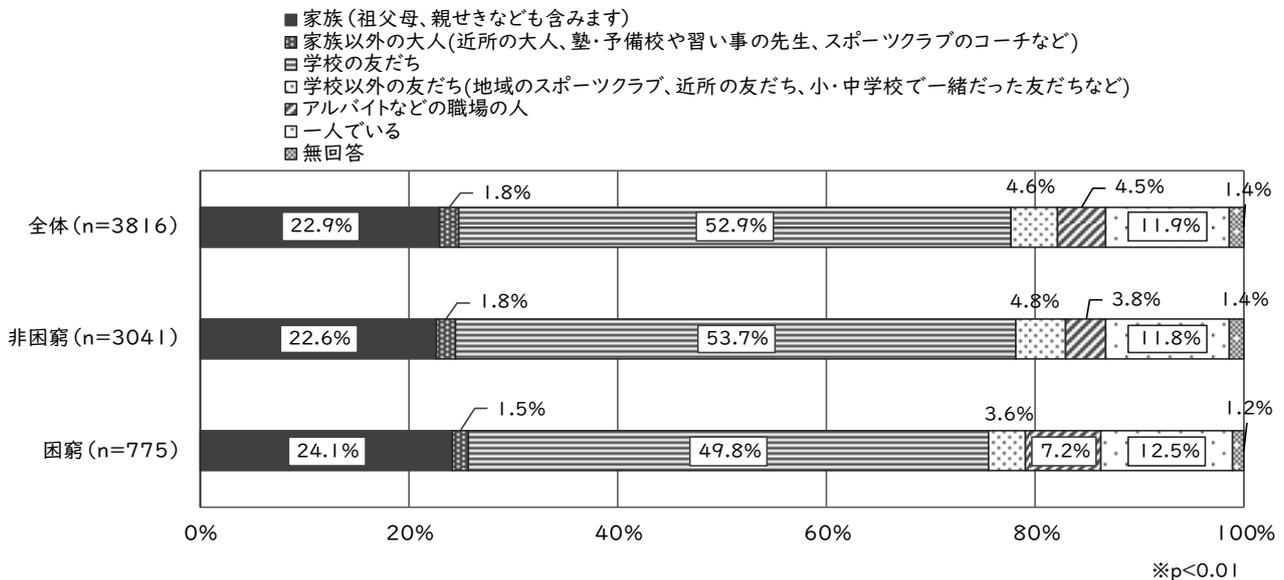
第7節 放課後の生活

高校生に放課後の生活について尋ねました。「平日の放課後に一緒に過ごす人」については、非困窮層、困窮層とも「学校の友だち」がもっとも多く、50%前後で差は出ていません。また「アルバイトなどの職場の人」では、非困窮層が3.8%、困窮層が7.2%とやや差が出ています(図2-7-1)。同項目を2016年東京都調査と比較した図2-7-2で見ると、沖縄県4.5%、東京都0.8%と、沖縄県が高くなっています。

「放課後に過ごす場所」について尋ねたところ、「毎日」「週に3~4日」「週に1~2日」をあわせると、「塾・予備校」は非困窮層10.9%、困窮層6.5%(図2-7-3)、「学校」は非困窮層52.0%、困窮層48.1%(図2-7-4)、「スポーツ活動の場」は非困窮層36.1%、困窮層27.8%(図2-7-5)、「アルバイトの職場」は非困窮層16.7%、困窮層28.0%となっています(図2-7-6)。

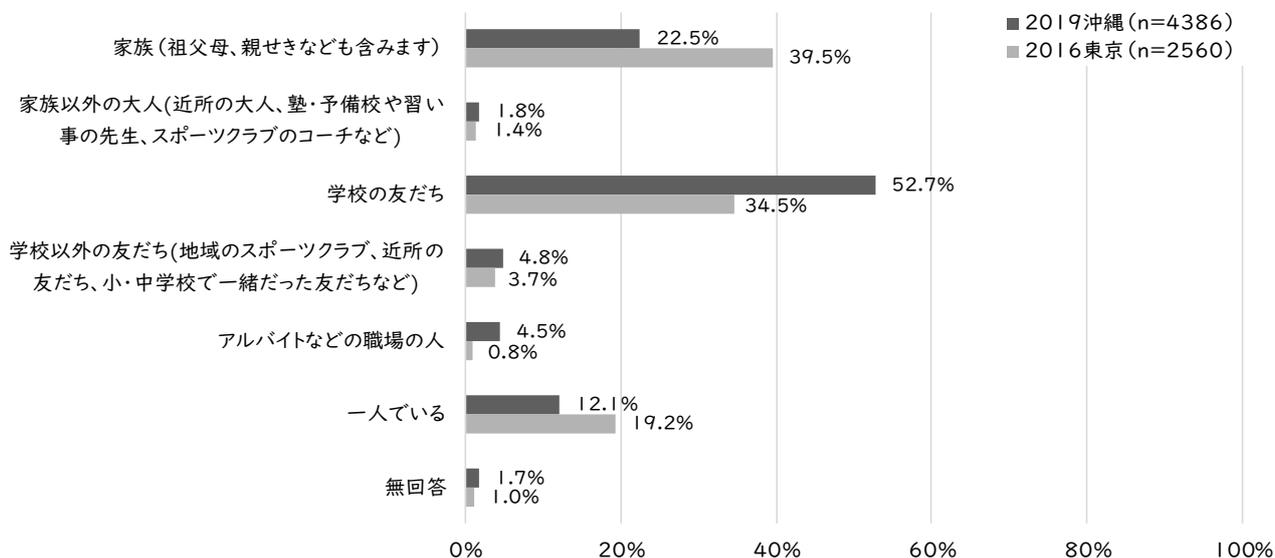
2016年東京都調査との比較では、沖縄県は、「自分の家」「友だちの家」「塾・予備校」「学校」「公園」「図書館」「飲食店、商店街やショッピングモール」で過ごす割合が東京都に比べ低く「スポーツ活動の場(野球場、サッカー場など)」や「アルバイトなどの職場」で過ごす割合が、東京都に比べ高くなっています(図2-7-7から図2-7-16)。

図2-7-1 【生徒】あなたは、平日の自由時間(学校の放課後)は、だれと過ごしますか。一緒に過ごすことが一番多い人に○をつけてください



【2016年東京都調査との比較】

図2-7-2 【生徒】平日の自由時間(学校の放課後)は、だれと過ごしますか。一緒に過ごすことが一番多い人に○をつけてください。



◆放課後に過ごす場所

図2-7-3 【生徒】塾・予備校

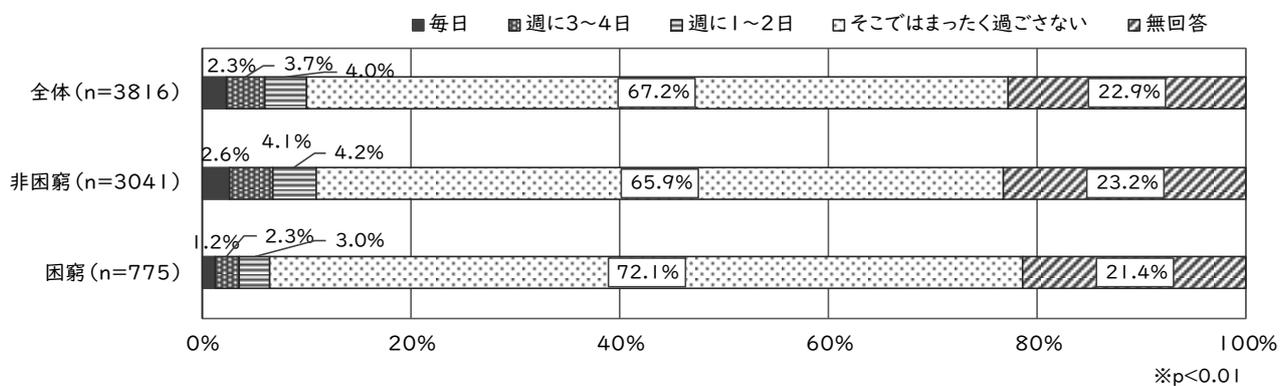


図2-7-4 【生徒】学校

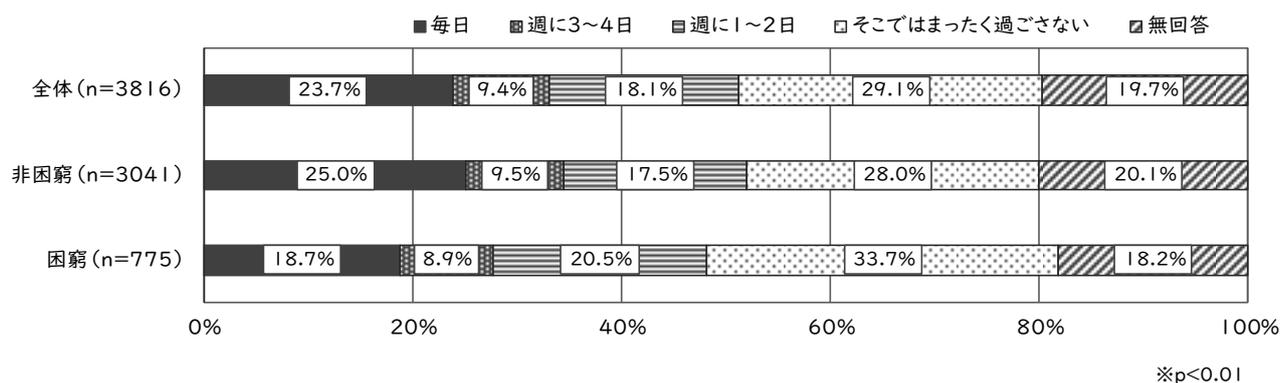


図2-7-5 【生徒】スポーツ活動の場(野球場、サッカー場など)

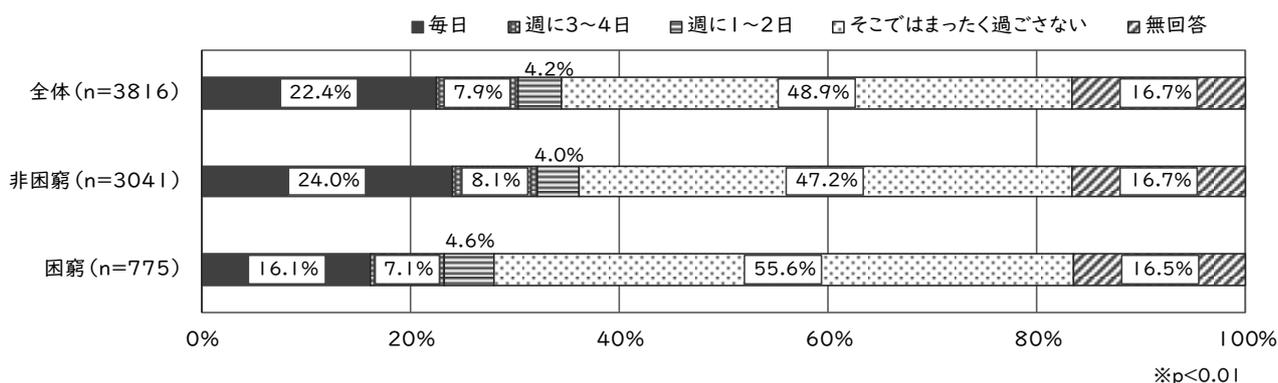
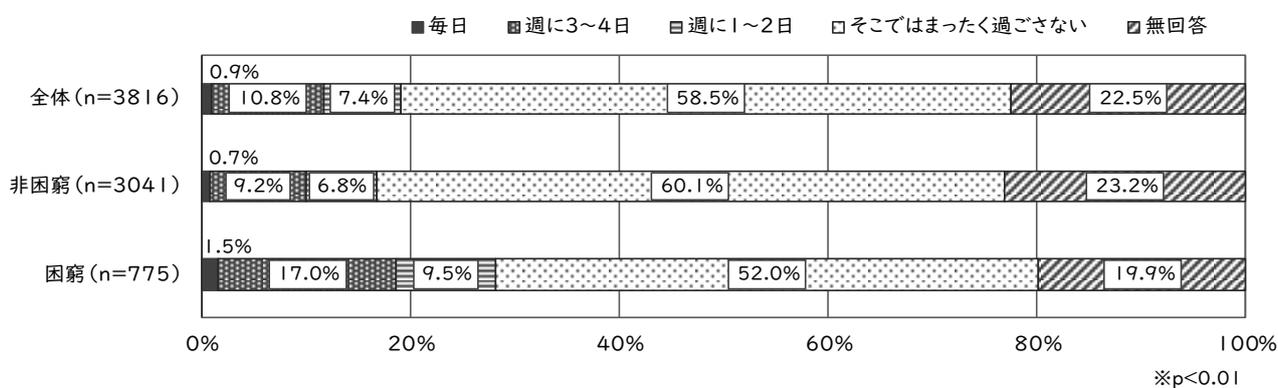


図2-7-6 【生徒】アルバイトなどの職場



【以下、2016年東京都調査との比較】

図2-7-7 【生徒】自分の家

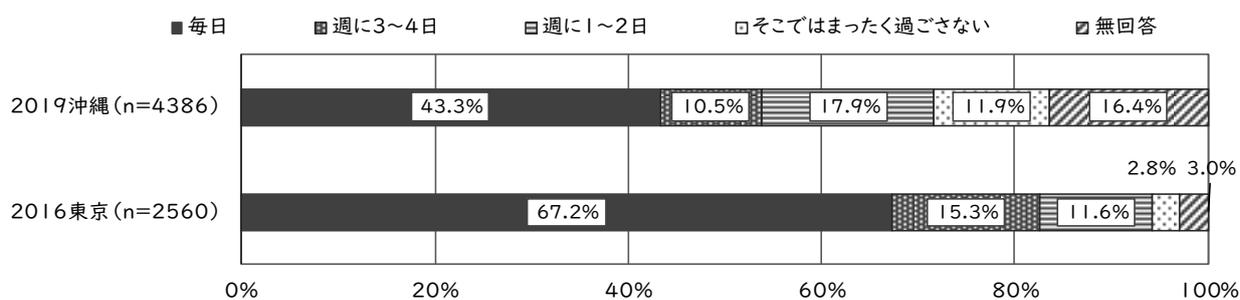


図2-7-8 【生徒】友だちの家

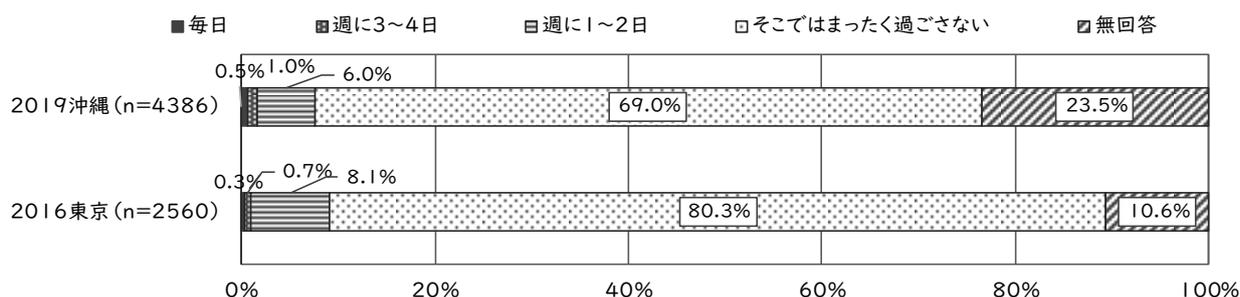


図2-7-9 【生徒】塾・予備校

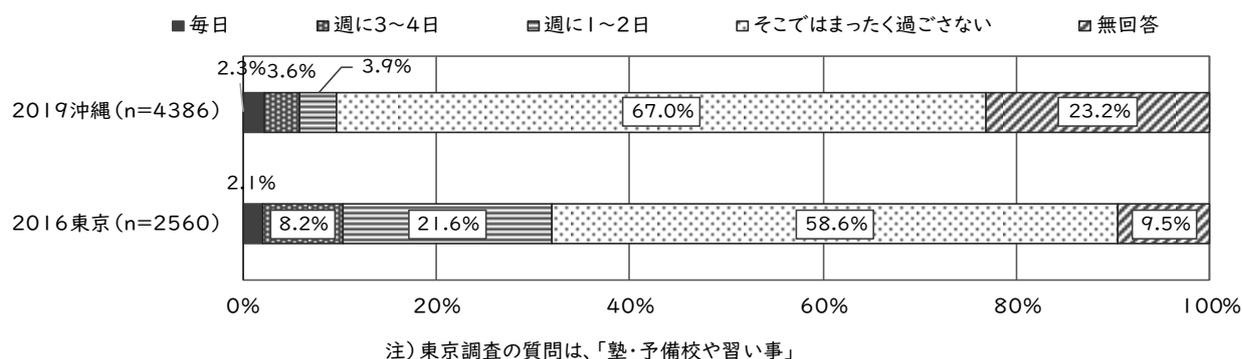


図2-7-10 【生徒】学校

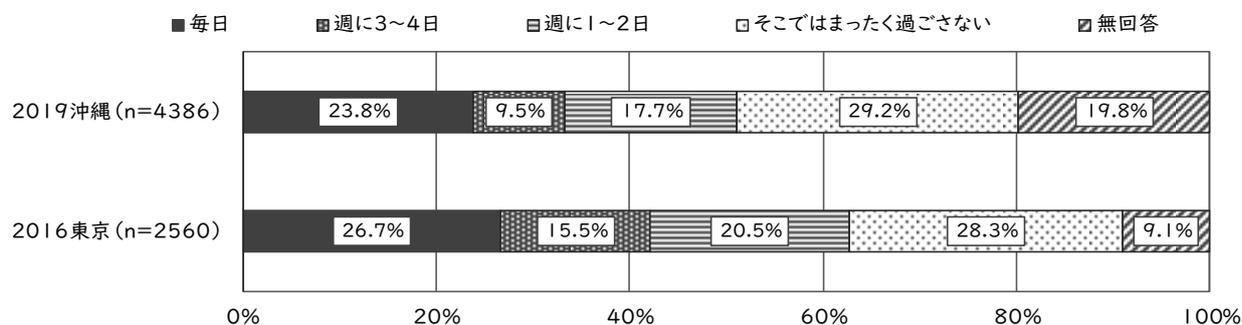


図2-7-11 【生徒】スポーツ活動の場(野球場、サッカー場など)

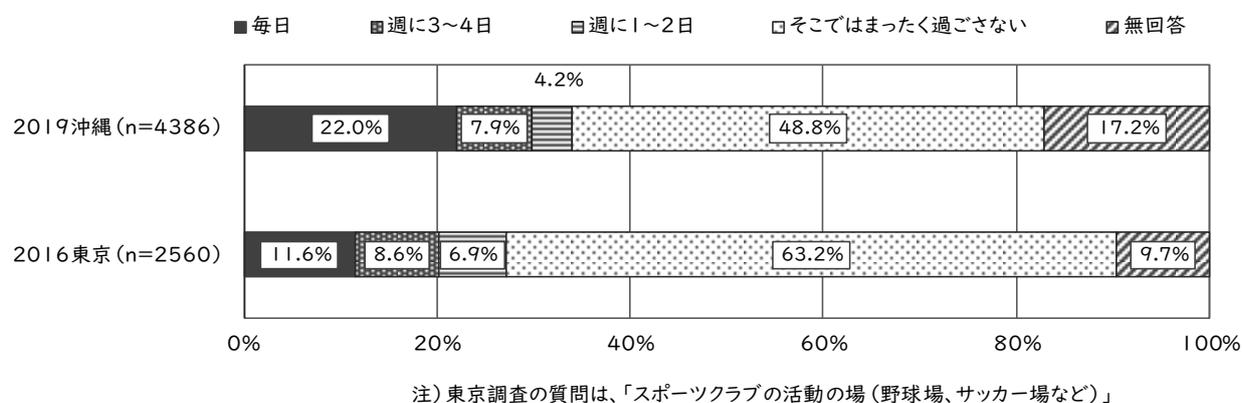


図2-7-12 【生徒】アルバイトなどの職場

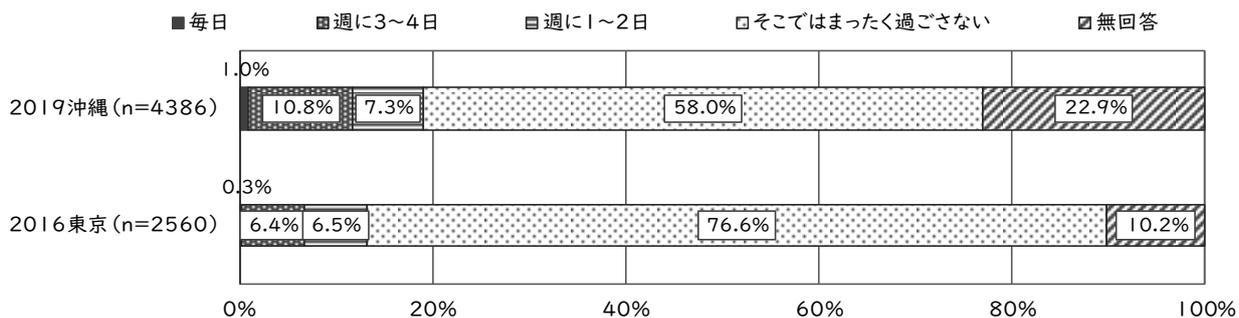


図2-7-13 【生徒】公園

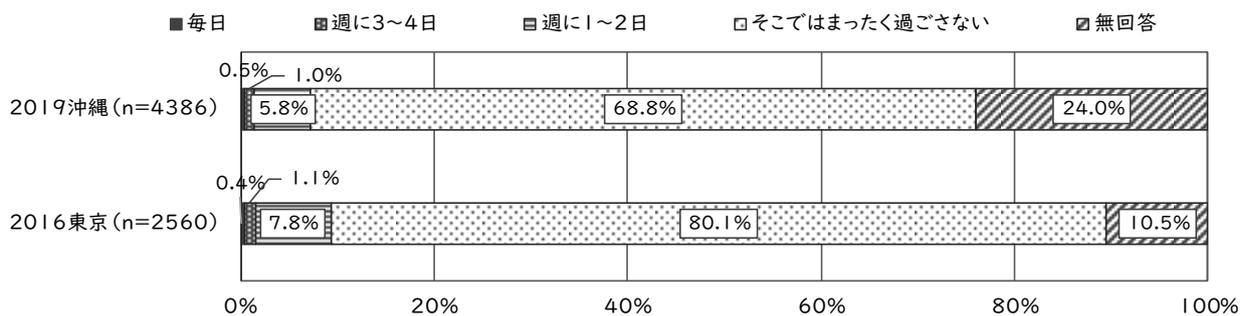


図2-7-14 【生徒】図書館

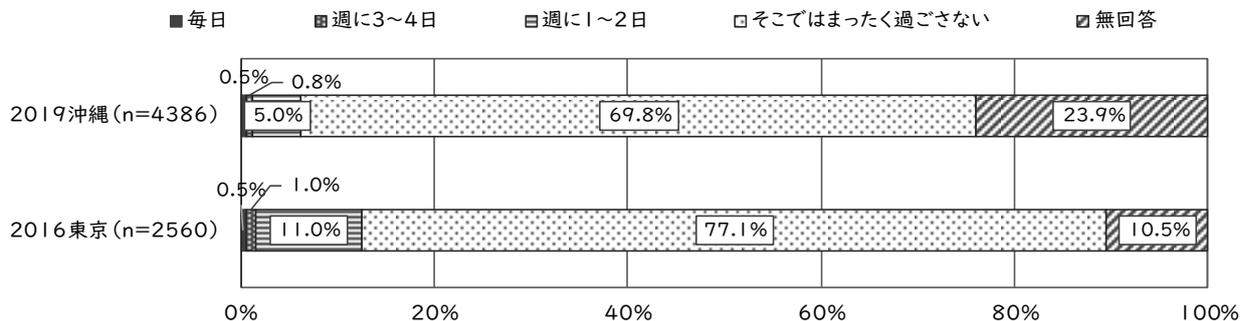


図2-7-15 【生徒】飲食店、商店街やショッピングモール

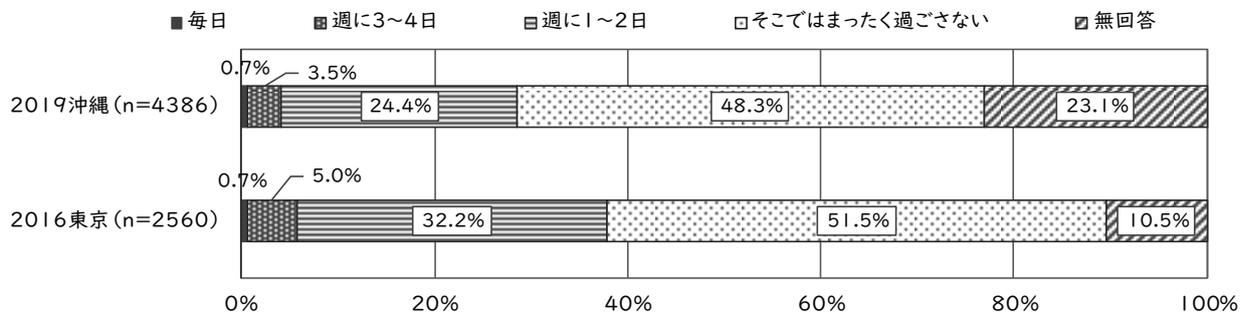
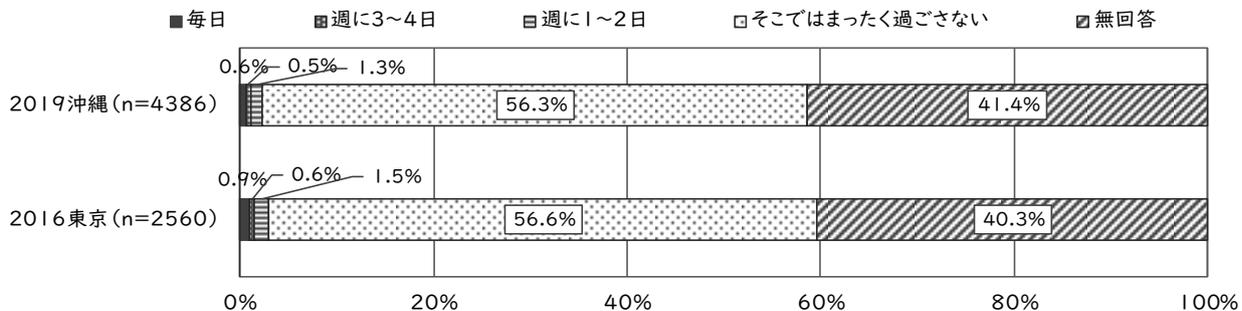


図2-7-16 【生徒】その他



考 察

本章は、高校生の現在の「学校での生活」や「部活の参加状況」「学習の状況」「友人関係」「放課後の生活」、保護者の「通学についての考え」等について、経済状況や世帯別に視点を置き、内容によっては、2016年東京都調査とも比較をしながら分析・考察を行いました。

第1節、第2節、第3節、第6節、第7節では、学校生活の楽しさの有無、部活や学習、友人関係、放課後の生活の状況について、高校生の視点から分析を行っています。第4節、第5節では、「通学」について、保護者の視点から分析しました。さらに第1節、第3節、第6節、第7節では、質問の仕方が異なる点はあるものの、ほぼ内容の類似する質問票を用いて2016年東京都調査の比較を試みました。また、第4節、第5節は経年比較を行っています。

第1節では、学校生活を「楽しい」と感じている高校生が経済状況により、やや差が生じており、経済状況が厳しくなると学校生活も「楽しくない」と感じる高校生もいることがわかります。沖縄県の高校生は東京都の高校生に比べ、「学校をやめたくなるほど悩んだ人」が多く、その理由として、沖縄県の困窮層の高校生が学校を「楽しくない」と答えた割合が高いことも考えられます。

第2節では、学校生活の楽しさの一つでもあると言われている部活動の「参加状況」と「参加していない理由」についてまとめました。沖縄県の高校生の約6割が部活に参加していることがわかります。しかし、経済的に厳しい高校生は、部活動への参加率が低くなっていました。部活動に参加している高校生は男女とも自己効力感が高い（詳細は、第5章の第1節、図5-1-5と図5-1-6を参照）ため、部活動へ参加できる環境を整えることが大切かと思われま

す。経済的な理由から部活動に参加していない高校生は、金銭面を理由とした「アルバイトをしているから」や「部費や部活動に費用がかかるから」などの理由を挙げています。また家族の世話など「家の事情」を挙げており、部活動に参加できない環境が形成されているように思えます。部活動に要する経済的な負担を軽減する支援を行うことで、経済的に厳しい高校生も積極的に部活動に参加することができると考えられます。

第3節では、授業の理解状況について、「わからなくなった時期」や「現在の学習状況」についてまとめました。半数の高校生は、学校の授業を理解していることがわかります。しかし、小学校から中学校、中学校から高校に進学する時期に「学習がわからなくなっている」と感じていることも把握できます。なかでも、困窮層では、小学3・4年生でわからなくなっている割合が高くなり、中学1年生の時期には、非困窮層に比べ、さらに「わからない」と感じている割合が高くなってきていることがわかります。特に、小学校から中学校へ進学する時期は、授業内容の難しさや学習量の増加、教科ごとに変わる教師との相性、先輩や友人関係等、多くの環境の変化等が起因していると考えられます。

また、小学3・4年生で「学習がわからない」と回答した理由として、小学3・4年生は、小学1・2年生に比べ、新しく社会科や理科が教科に加わり、学習量が増えてくることなどが考えられます。そのため、小学3・4年生の時期に学習習慣を学校や家庭で定着させられない場合には、学習内容がわからない原因となることが考えられます。

第4節では、登下校時のモノレールやバスの利用状況等について保護者に尋ねました。全体としては、「バスを利用している」と回答した保護者が約3割いることがわかります。モノレールは、通学圏内にある高校が限られているため、高校生の利用率がバスに比べ低くなっていると思われま

通学定期券の利用についても、約3割でバス利用をしている高校生が利用していることがわかります。次の第5節にも関連しますが、通学する高校の選択の際に通学交通費の負担をどの程度重視したかについては、困窮層においては、ふたり親世帯、ひとり親世帯に関わらず、「非常に重視した・やや重視した」を合わせると45%を超えています。困窮層の保護者にとって、通学費用は非常に重荷になっているといえるでしょう。そうした意味で、沖縄県における「ひとり親家庭高校生通学サポート実証事業（バス）」の意義は高いと考えられます。今回の調査でも、困窮層のひとり親世帯の3割以上が本事業を利用し、かつ経年比較では、困窮層のひとり親世帯では、バスの定期券利用が約27%から約40%と約13ポイントも利用を増やしています。本事業の有効性を実証していると考えられるデータです。

第5節の高校への通学（登校時、帰宅時）に普段、家族の自家用車を利用しているかについては、世帯別にみても、自家用車による送迎がふたり親世帯、ひとり親世帯のどちらも半数以上が利用していることがわかります。その理由としては、全体として「交通費削減」や「通勤のついで」が多く、「学校が遠い」ことも挙げられます。高校選択の際に通学費負担を重視している保護者が約4割いるため、通学に係る経済的な負担軽減が、高校生の望ましい進路決定にもつながるものと考えられます。

第6節、第7節では、高校生の友だち関係や放課後の過ごす相手等について尋ねています。高校生の一番仲のよい友だちは、全体として「今通っている学校の友だち」や「小・中学校で一緒だった友だち」が多くなっています。これは経済状況による差はありませんでした。しかし、「とくに仲の良い友だちはいない」と回答した高校生が非困窮層で1.9%、困窮層で2.8%と、困窮層の高校生でやや高くなり、学校生活への影響が懸念されます。多くの悩み等を相談できるような友だちをつくることは大切なことであり、学校生活の中でも意識されることが必要です。

次に、高校生が誰と話をしたり、相談したりしているかについては、まず「友だち」については、非困窮層、困窮層に関わらず、約8割の高い数値となりました。その他にも「家族（親）」や「家族（兄弟姉妹）」「家族（祖父母など）」「学校の先生」「家族・学校の先生以外の大人」が約7割から約2割の回答がありました。高校生の相談相手についても、経済状況であまり差はないことがわかりました。

放課後、高校生は、非困窮層、困窮層とも「学校の友だち」と過ごす割合が約半数となっています。沖縄県の高校生は、東京都の高校生に比べ、アルバイトをしている割合が多く、そのため、放課後もアルバイト先の人たちと過ごす時間が長くなっていると考えられます。アルバイトが長時間になると学校生活に影響を与える可能性もあるため、アルバイトの時間を適切に設定し、生活リズムを整えることが大切と思われます。

第 3 章

高校卒業後の進路

第1節 生徒の進路希望の状況①

高校生に卒業後の進路について尋ねた結果が、図3-1-1です。経済状況別にみると違いがみられ、困窮層では、「進学」（困窮層60.4%、非困窮層74.7%）が低い割合であり、「就職」（それぞれ14.7%、8.5%）「まだ決めていない」（それぞれ19.2%、12.3%）が高い割合であることがわかります（なお、「家業を継ぐ」「自由業・起業など」は非常に低い割合のため、まとめて集計・検定しました）。

図3-1-2は、進学を希望する高校生に限って、進学先希望を尋ねたものです。すると、経済状況別には違いがみられ、特に大きな差があるのは、困窮層では県外大学（困窮層20.5%、非困窮層31.1%）の割合が低く、県内専門学校（それぞれ24.6%、17.3%）が高い点です。

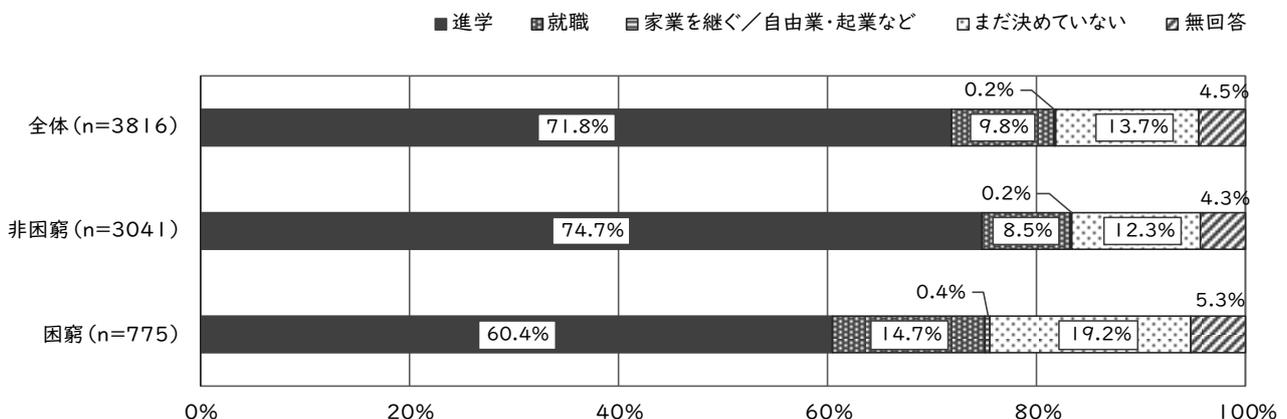
図3-1-3は、就職を希望する高校生に限って、その理由を尋ねたものです。「仕事をするのが自分に向いていると思う」などについて、それぞれ「とてもあてはまる」「あてはまる」と答えた割合の経年比較を行った結果を示しています。すると、2016年に比べ、全体として「とてもあてはまる」「あてはまる」割合が減っていますが、他の項目と比べ「仕事をするのが自分に向いていると思う」「やりたい仕事がある」「高卒後すぐに就職した方がいい会社（官公庁）に入れると思う」という、就職することを前向きに受け止めて選択している高校生の割合が減っていることが推察できそうです。一方で、「進学のための費用が高い」という理由を選ぶ高校生は、2016年と同様に多いこともわかりました。

図3-1-4は、進路についてまだ決めていない高校生に限って、その理由を尋ねたものです。すると、全体では「具体的に思いつかない」割合が高く、約5割におよぶことがわかりました。一方で、経済状況別にみると、困窮層の「家庭や家計の状況によって変わる」が非困窮層に比べ高い割合であることがわかります。図3-1-1では、困窮層では「まだ決めていない」高校生の割合が相対的に高いことがわかりましたが、家庭や家計の状況の変化などを気にしながら進路を考えざるを得ない高校生も一定数いることが推察できます。

図3-1-5は、進路について親や先生などに相談したことがあるかを尋ねた結果です。すると、全体では7割の高校生が相談したことがあると答えていましたが、経済状況別にみると、困窮層では相談したことがないとする割合が高いことが示されています。

◆高校卒業後の具体的な希望

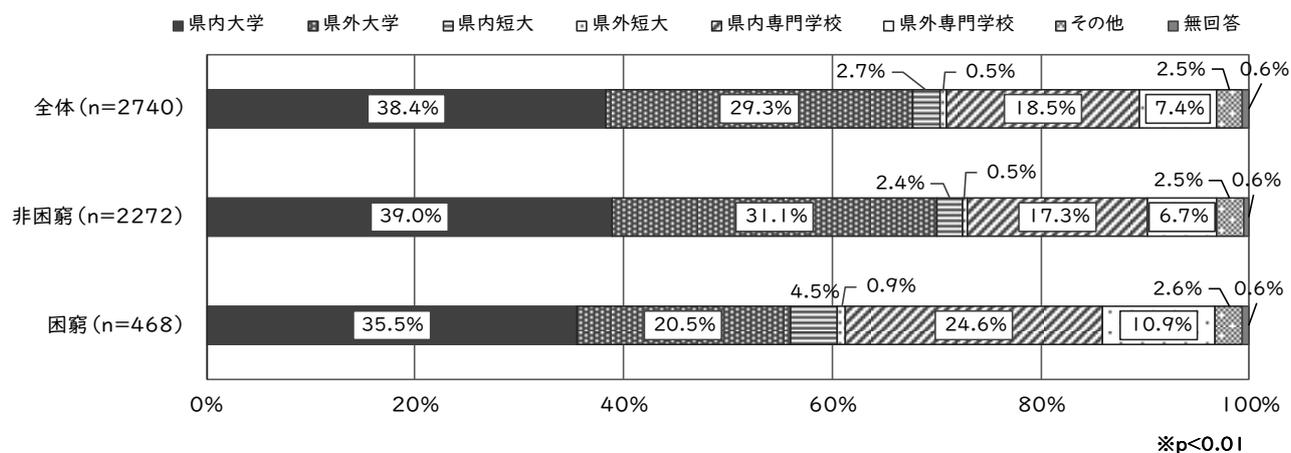
図3-1-1【生徒】あなたは、現時点で、高校卒業後の進学や就職などの具体的な希望がありますか



※p<0.01

◆希望の進学先

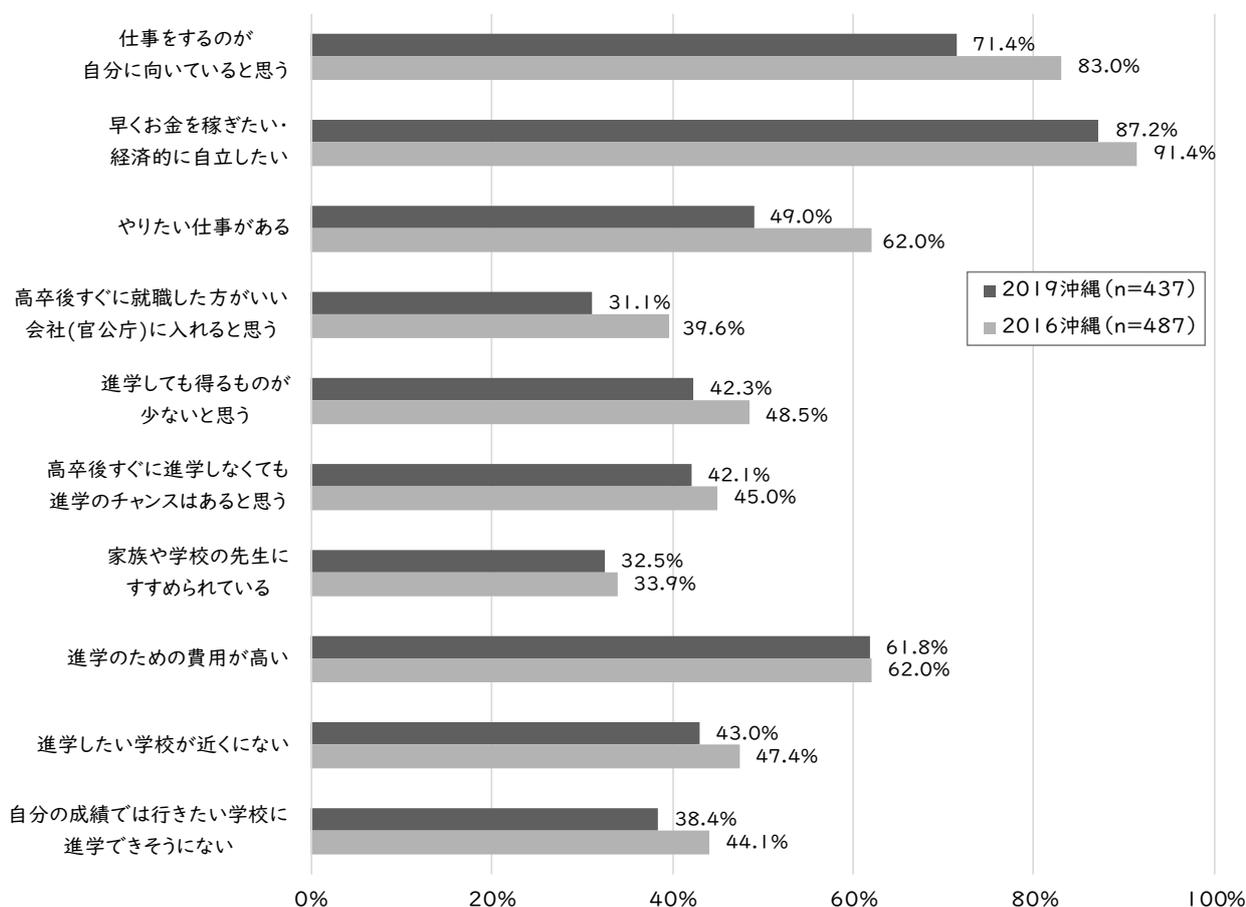
図3-1-2【生徒】第一希望の進学先を教えてください



◆就職を希望する理由

【2016年沖縄県調査との比較】

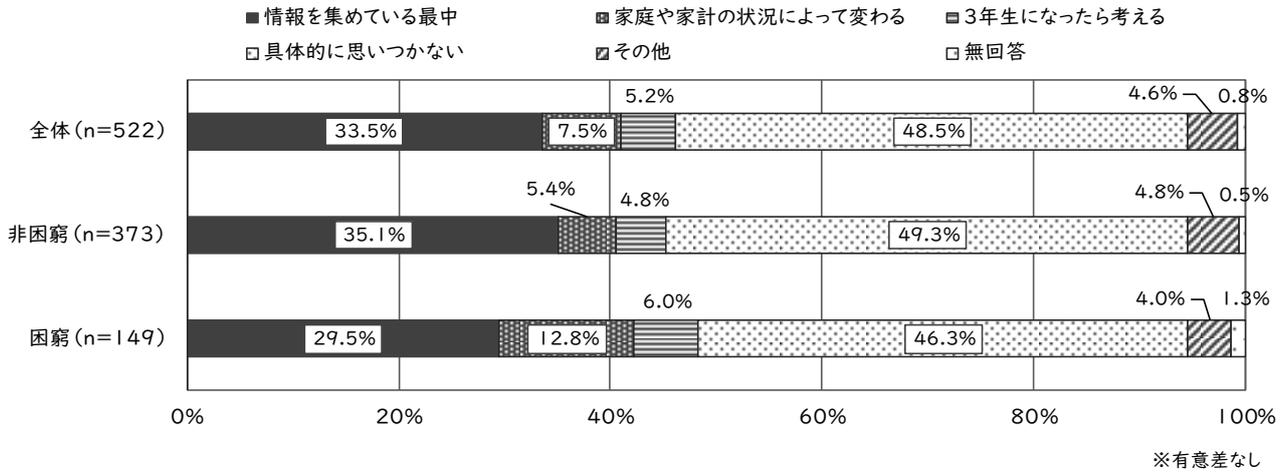
図3-1-3【生徒】あなたが就職を希望する理由として、以下の項目はどれくらいあてはまりますか
(とてもあてはまる+あてはまる)



注) 2016沖縄調査の項目は、「自分の成績では行きたい学校に行けそうにない」

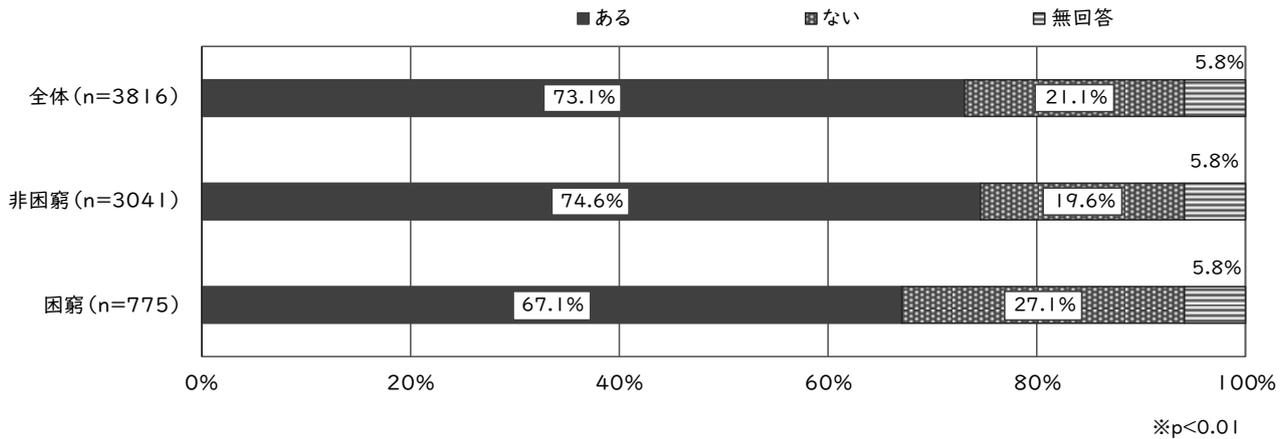
◆進路が決まらない理由

図3-1-4 【生徒】まだ決めていない理由を教えてください



◆相談の有無

図3-1-5 【生徒】進学や就職などについて、親や学校の先生などの周囲の大人に具体的に相談したことがありますか



第2節 生徒の進路希望の状況②

第1節では、高校生の進路に家計の経済状況が影響をしていることが示されましたが、進路は家計状況だけでなく、高校生自身の成績や学力によっても影響を受けている可能性があります。そこで、この節では、学力面を加えた分析を行っています。

学力面では、現在の成績ではなく、中学3年生時の成績を用いています。「上のほう」「中の上」「中くらい」「中の下」「下のほう」の中から、高校生自身が評価したものです。現在の成績を用いない理由は、高校間の学力差が現状では存在し、その影響を受けてしまう可能性があるからです。東京大学「高校生の進路についての調査」を用いた、小林雅之著『進学格差—深刻化する教育費負担』においても指摘されている理由でもあります。

図3-2-1は、就職を希望する割合を、高校生が自己評価した成績の5段階ごとに、経済状況別にみたものです。すると、成績による差がみられ、特に「上のほう」、「中の上」の高校生は、困窮層でも非困窮層でも、他の段階と比べ、就職を希望する割合が低いことがわかります。一方で、「中の上」「中くらい」の高校生は、困窮層は非困窮層に比べ、高い割合で就職を希望していることもわかりました。

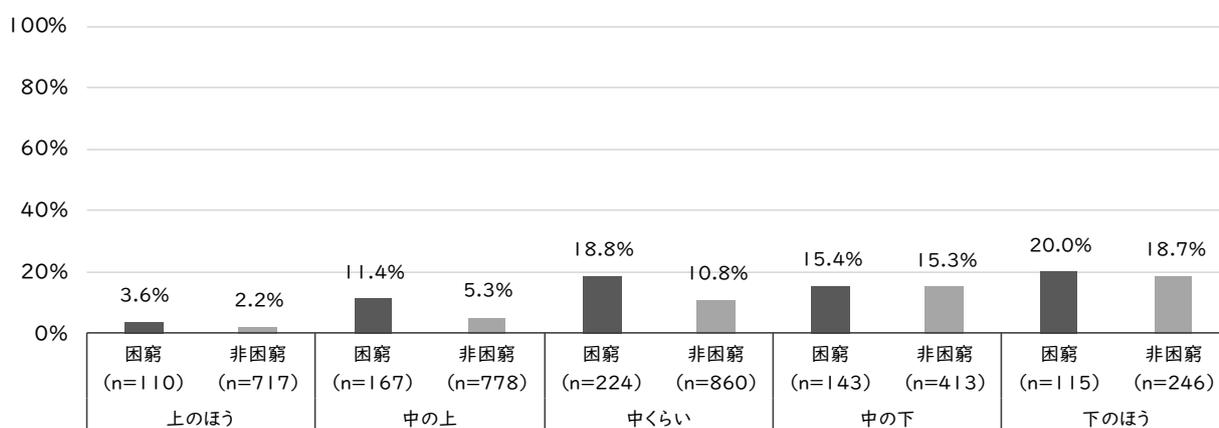
図3-2-2は、2016年沖縄県調査の結果です。図3-2-1との経年比較を行ってみると、困窮層では全体として、就職を希望する割合が減り、「上のほう」の高校生も減っており2016年にはみられていた非困窮層との差(2倍の違い)は2019年には減じています。

図3-2-3は、進学を希望する割合を、高校生が自己評価した成績の5段階ごとに、経済状況別にみたものです。すると、成績による差がみられ、特に成績の高さによる影響を受けていることがわかります。一方で、「上のほう」「中の上」「中くらい」の高校生は、困窮層は非困窮層に比べ、進学を希望する割合が低いこともわかりました。有意差もみられました。

図3-2-4は、2016年沖縄県調査の結果です。図3-2-3との経年比較を行ってみると、全体として大きな傾向は変わっていないようにみえます。一方で、非困窮層、困窮層ともに、全体として、進学を希望する割合が減っています(特に困窮層)。先述したように、困窮層では就職希望の割合も減っているのですが、これは、2016年に比べ、進学や就職以外の選択肢(まだ決めていない)を選ぶ高校生や無回答が増えたためと思われます。

◆就職希望

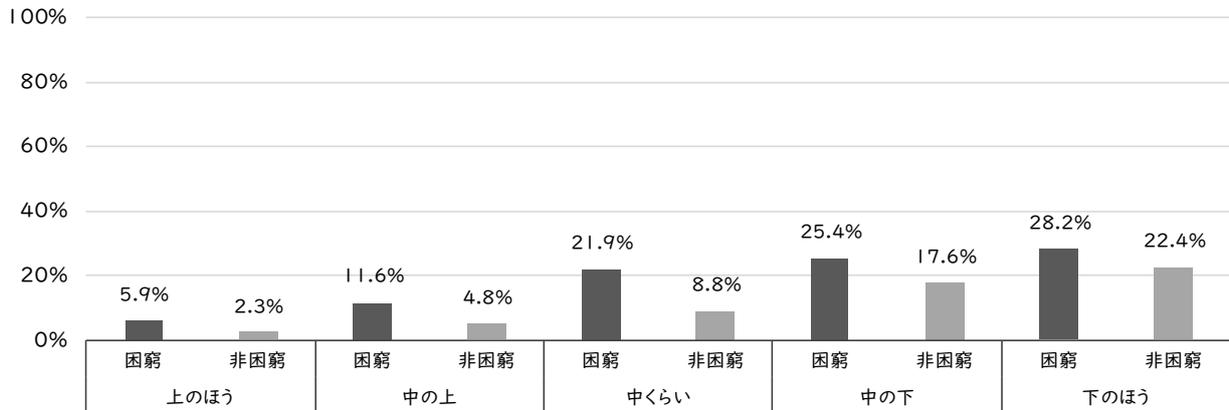
図3-2-1 【生徒】生徒の就職希望×中学3年生時の成績×経済状況別



※「中の上」「中くらい」は $p < 0.01$ 、それ以外は有意差なし

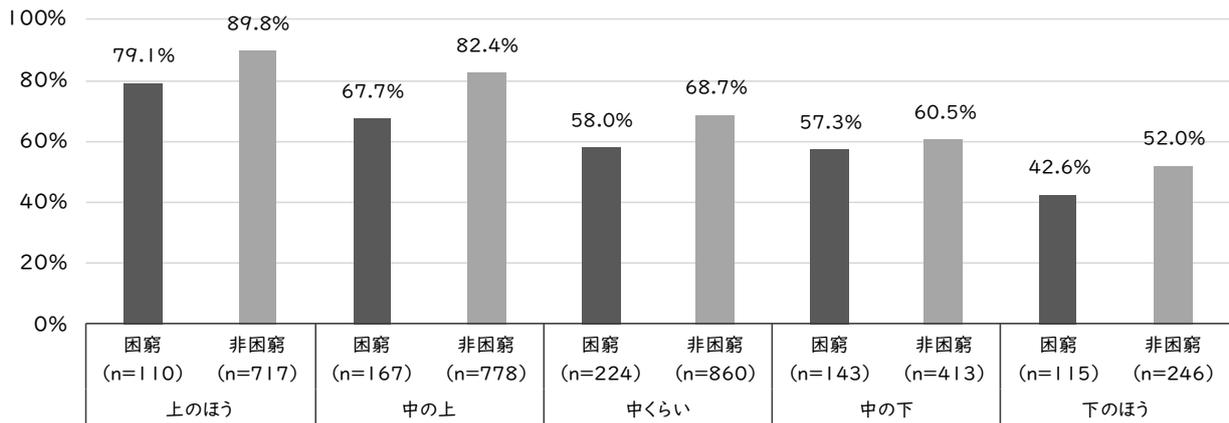
【2016年沖縄県調査】

図3-2-2 【2016沖縄・生徒】生徒の就職希望×中学3年生時の成績×経済状況別



◆進学希望

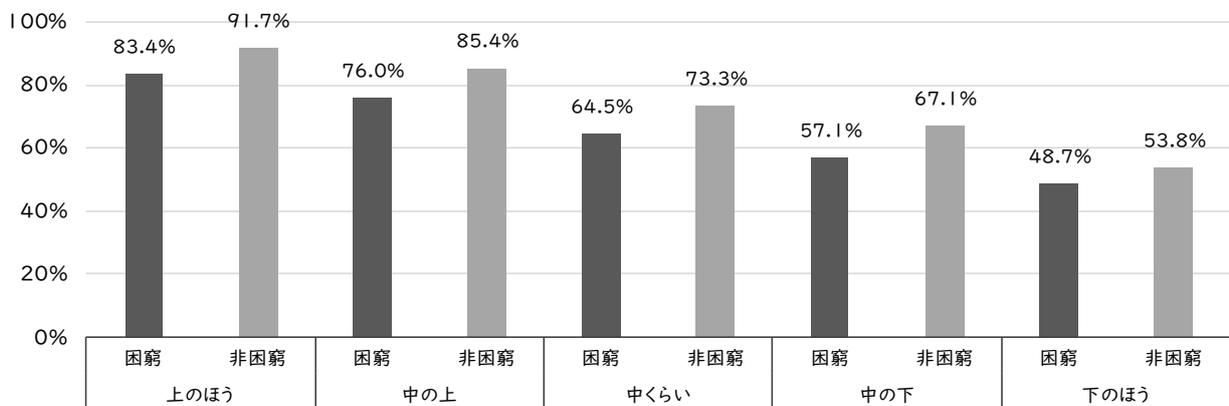
図3-2-3 【生徒】生徒の進学希望×中学3年生時の成績×経済状況別



※「上のほう」「中の上」「中くらい」はp<0.01、それ以外は有意差なし

【2016年沖縄県調査】

図3-2-4 【2016沖縄・生徒】生徒の進学希望×中学3年生時の成績×経済状況別



第3節 生徒—進路の理想と現実①

第1節や第2節でみられた、進学格差の状況をより詳細に分析するために、第3節では高校生の進路についての理想と現実の状況を分析しています。

図3-3-1は、高校生に「理想的には、将来どの学校まで進学したいか」「現実的には、どの学校まで進学することになるか」を尋ねた結果です。すると、理想と現実には差がみられるのは、「大学まで」「大学院まで」「この高校までで良い」で、前者二つでは、現実的には難しいと考える高校生がおり、後者では、現実的には選択せざるを得ない高校生がいることを示しているといえます。特に、「大学まで」では、理想から現実で6.9ポイントも減じていました。

図3-3-2は、2016年沖縄県調査の結果です。図3-3-1との経年比較を行ってみると、全体として大きな傾向は変わっていないようにみえます。一方で、理想的には「大学院まで」とする高校生の割合が若干増え、「この高校までで良い」とする高校生が若干減っています。また、現実的にも「専門学校まで」とする高校生の割合が増えています。

図3-3-3は、先の質問で、理想と現実で違う学校を選択した高校生にその理由を尋ねた結果です。すると、「進学に必要なお金が心配」(66.2%)と「大学に進学できる学力がつかないと思う」(69.4%)の二つが大きな要因であることがわかりました。

図3-3-4は、2016年沖縄県調査における「この高校まで」を選んだ高校生に理由を尋ねたものです。図3-3-3とは質問が異なるため、経年比較には留意が必要ですが、理由の選択結果は似たような状況であり、お金の心配と学力がつかない点の割合が高く、さらに2016年(「この高校まで」)では、「とくに勉強したいことがない」割合が高い状況でした。

図3-3-1 【生徒】高校卒業後の進路の理想と現実(n=4386)

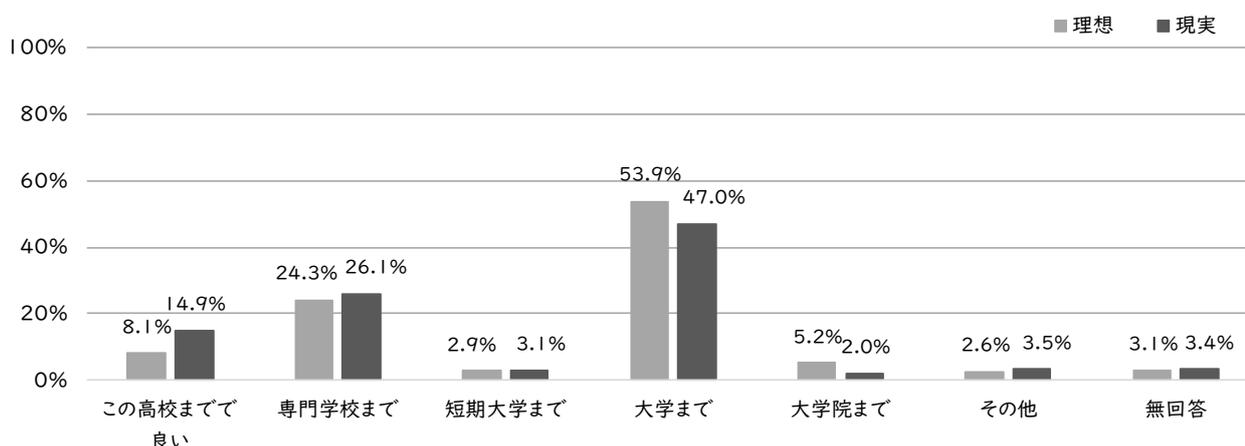
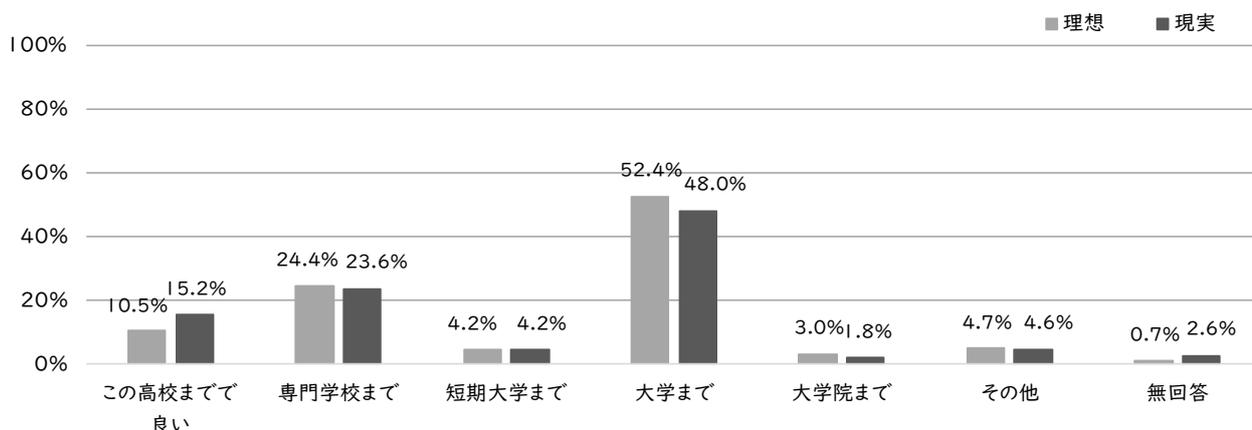
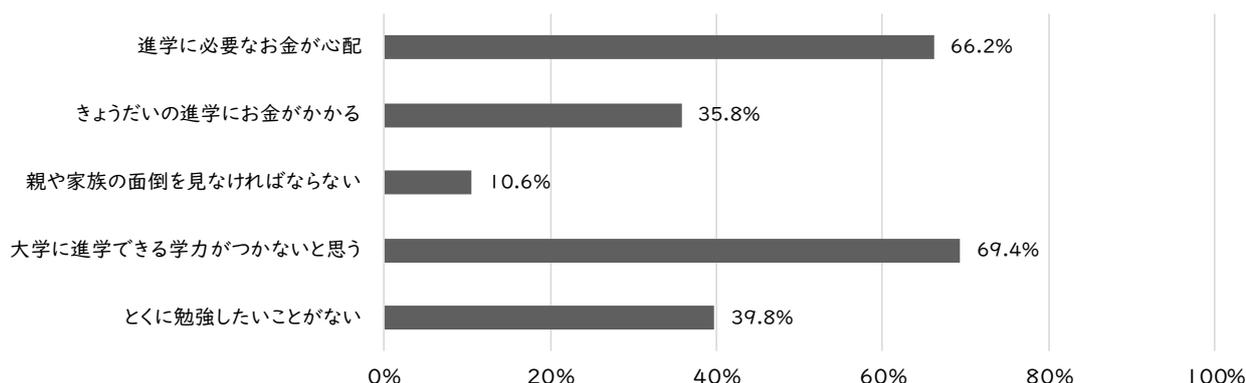


図3-3-2 【2016沖縄・生徒】高校卒業後の進路の理想と現実(n=4311)



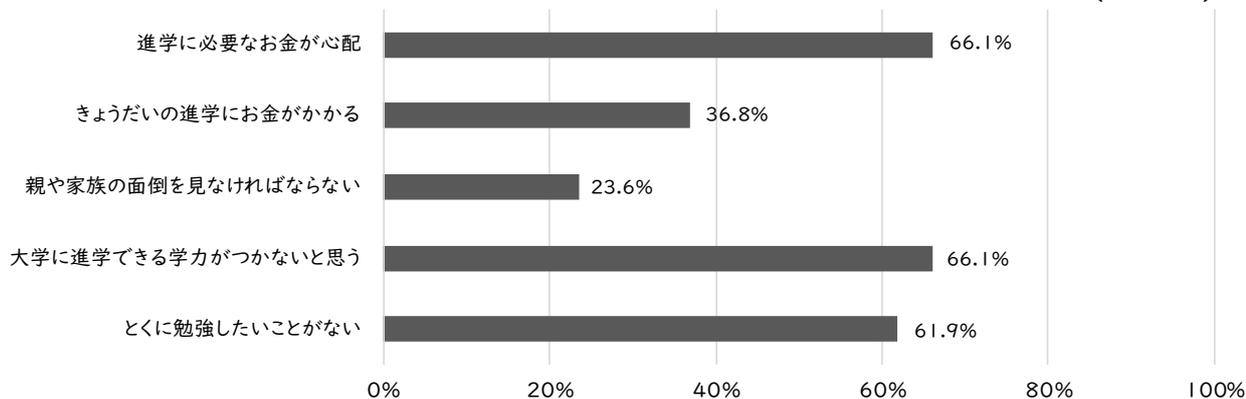
◆理想と現実で違う学校を選んだ理由

図3-3-3 【生徒】(理想と現実で)違う学校を選んだ理由について、それぞれどれくらいあてはまるか教えてください(「とてもあてはまる」+「あてはまる」の割合)(n=849)



【2016年沖縄県調査】

図3-3-4 【2016沖縄・生徒】「この高校まで」を選んだ理由(「とても思う」+「やや思う」の割合)(n=657)



注) 2016沖縄調査の質問は、「この高校まで」と答えた人に聞きます」となっている

第4節 生徒—進路の理想と現実②

第4節では、第3節で行った進路の理想と現実の分析を、経済状況も加えて深めています。

図3-4-1では、進路の理想を経済状況別にみています。また、図3-4-2では、進路の現実を同様にみています。

非困窮層でも、理想と現実には落差がありますが、困窮層では、特に「大学まで」を選択する割合が、45.0%から33.7%と大幅に減り、「この高校まで」を選択する割合が、13.3%から24.8%と大幅に増えることがわかります。

図3-4-3は、理想と現実で違う選択をした高校生にその理由を尋ねたものです。すると、経済状況は大きく関連性があり、困窮層では「進学に必要なお金が心配」「きょうだいの進学にお金がかかる」「親や家族の面倒を見なければならない」で統計的に有意に高く、それぞれ80.6%、43.5%、16.2%でした。また、「大学に進学できる学力がつかないと思う」については、非困窮層だけでなく困窮層でも高い割合であることには留意が必要です。

図3-4-1 【生徒】あなたは、理想的には、将来どの学校まで進学したいと思いますか

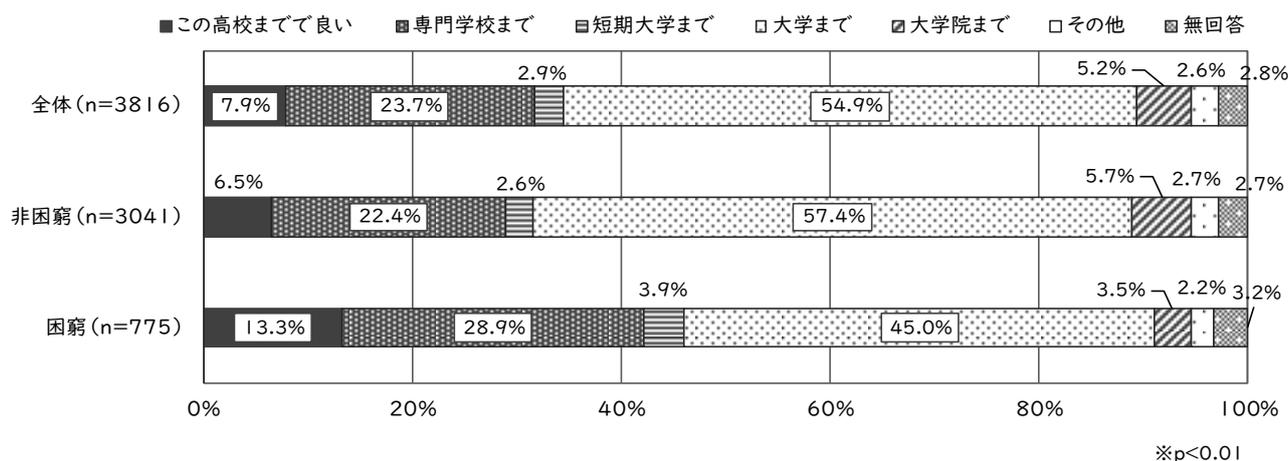


図3-4-2 【生徒】あなたは、現実的には、どの学校まで進学することになると思いますか

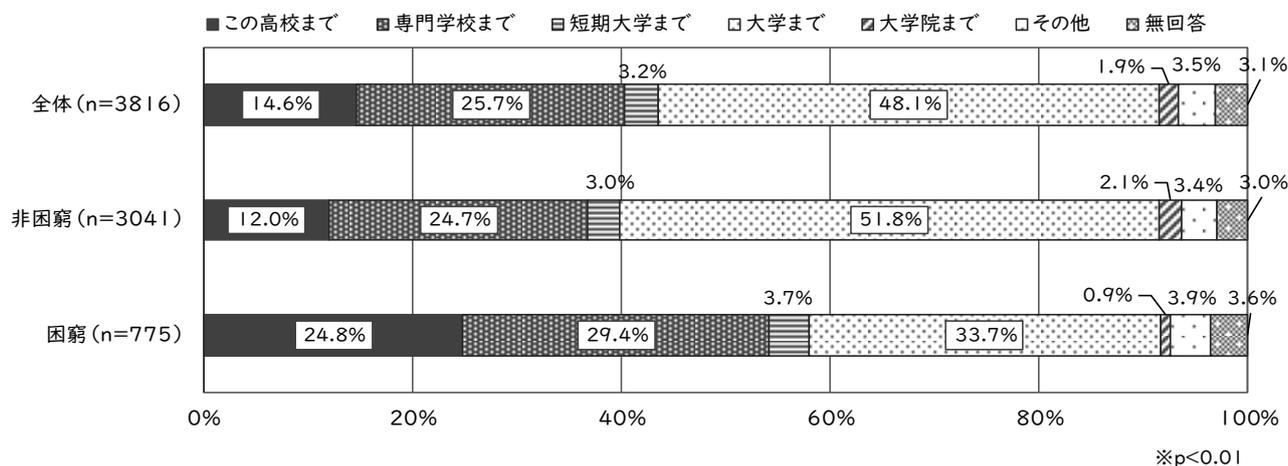
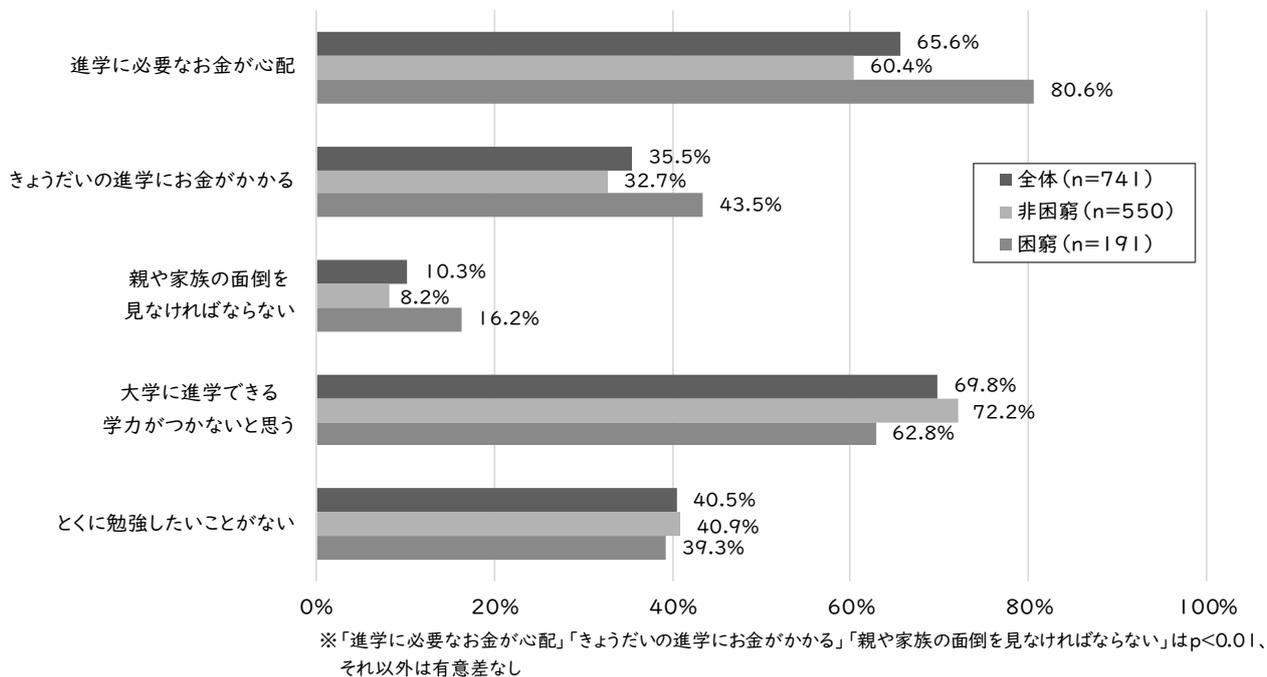


図3-4-3【生徒】(理想と現実で)違う学校を選んだ理由について、それぞれどれくらいあてはまるか教えてください(「とてもあてはまる」+「あてはまる」)



第5節 保護者の進路についての考え①

第4節までは、子どもの視点から分析をしてきましたが、第5節および第6節では保護者の視点から分析を行います。

図3-5-1は、保護者からみた場合の高校生の進路について可能性のあるものすべてを選択してもらいました。すると、全体では6割以上が大学進学を選び、短大・専門学校への進学も5割を超えていました。多くの保護者が、進学を可能性として考えていることがわかります。就職は、全体では約2割でした。

経済状況別にみると違いがみられ、困窮層では大学進学は可能性としても低くなり、5割を切っています。一方で、困窮層では就職は3割を超えていました。また、「まだ考えていない」「就職しながら進学」という割合も困窮層では高いことも指摘できます。

図3-5-2は、経年比較です。すると、2016年に比べ、就職、大学進学、就職しながら進学の割合が若干減った一方で、短大・専門学校への進学の割合が約9ポイント増えています。また、まだ考えていないという未決定の割合も少し増えています。

図3-5-3は、図3-5-1で質問した可能性のあるものと、同じ選択肢を用いて、「もっとも望ましいもの」をひとつ選択してもらいました。すると、全体では半数以上(52.9%)が大学進学を選び、短大・専門学校も含めれば、約8割が進学をもっとも望ましい選択肢としていました。

経済状況別にみると差がみられ、困窮層では、大学進学は36.1%に減っていました。短大・専門学校への進学は、非困窮層より少し高い割合でしたが、就職をもっとも望ましい選択肢とする保護者が16.1%と、非困窮層(7.8%)より高い割合でした。

図3-5-4は、経年比較です。結果としては、短大・専門学校への進学が約6ポイント、大学進学が約3ポイント増えています。全体として、進学希望の割合が増えているといえそうです。一方で、無回答の割合は減っていました。

図3-5-5は、高校生の進路を決める上での考慮する項目の分析です。すると、全体では「本人の志望先がはっきりしているか」「高校の成績・入学試験」「家庭の経済的な状況」の順で高い割合でしたが、3点はすべて約9割と非常に高い割合であり、子ども本人の意志、学力、家計の状況の3点を基に保護者が、子どもの進路を考えていることがわかります。

一方で、経済状況別にみると、差がみられ、困窮層は、本人の志望先に次いで家計の状況をもっとも重視し、次に子どもの学力となっていました。また、困窮層では、「そのほかの家庭の事情」も約6割が考慮に入れるとしています。

図3-5-6は、経年比較したものです。すると、大きな傾向には違いがみられませんでした。家計の状況とそのほかの家庭事情を選ぶ割合が減っていました。

図3-5-7は、「現在よりも経済的にゆとりがあるとしたら、お子さんの進路などについて何をさせてあげたいと思いますか」という質問に対する回答です(複数選択)。すると、全体では「短大・専門学校よりも4年制大学への進学」を選ぶ保護者が約3割、「就職よりも進学」が約2割いました。一方で、経済状況別にみると、「特に現在の希望を変更することはない」「自宅よりも自宅外通学」「授業料の高い学科への進学」は非困窮層で高く、「就職よりも進学」「短大・専門学校よりも4年制大学への進学」は困窮層で高いことがわかりました。

図3-5-8は、経年比較です。「短大・専門学校よりも4年制大学への進学」「授業料の高い学科への進学」が少し増え、「特に現在の希望を変更することはない」「就職よりも進学」が少し減っていました。

第3章 高校卒業後の進路

図3-5-1 【保護者】お子さんの高校卒業後の進路として、可能性のあるものすべてに○をつけてください
(複数回答)

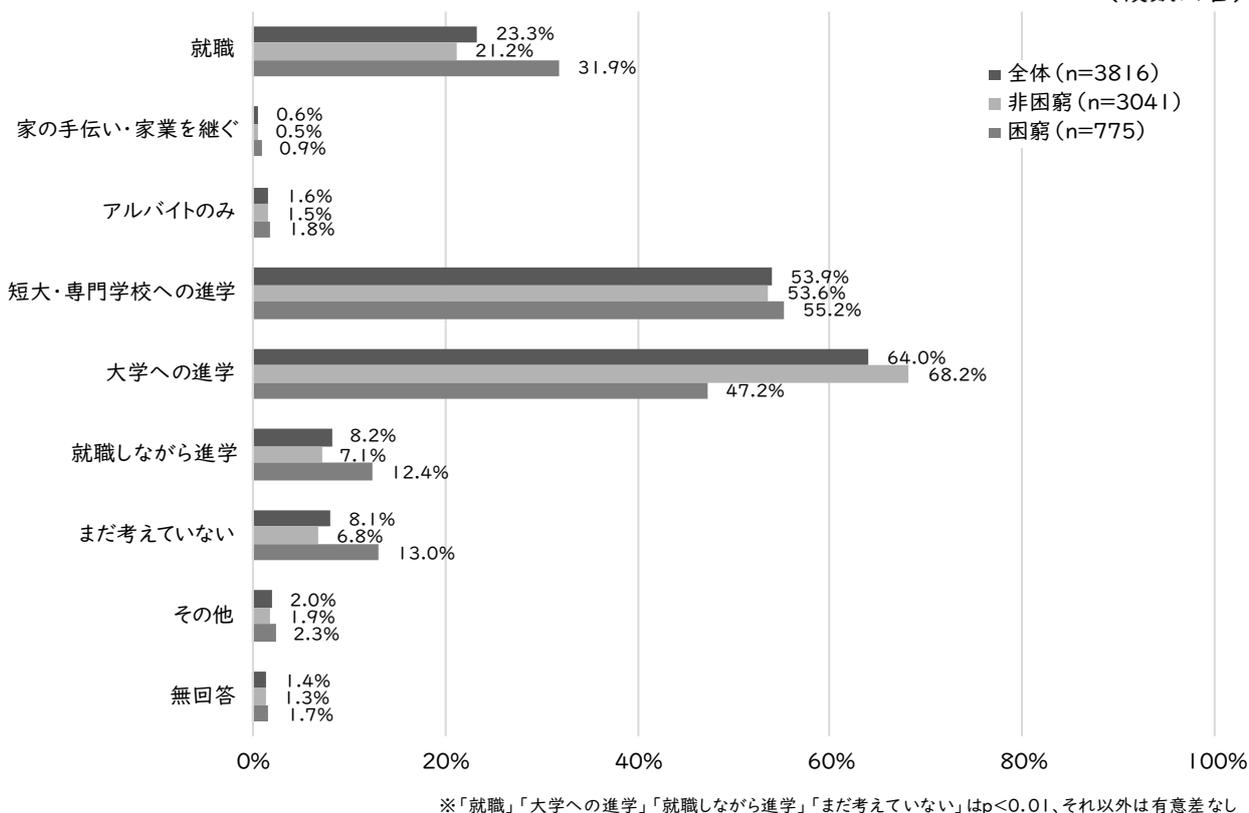
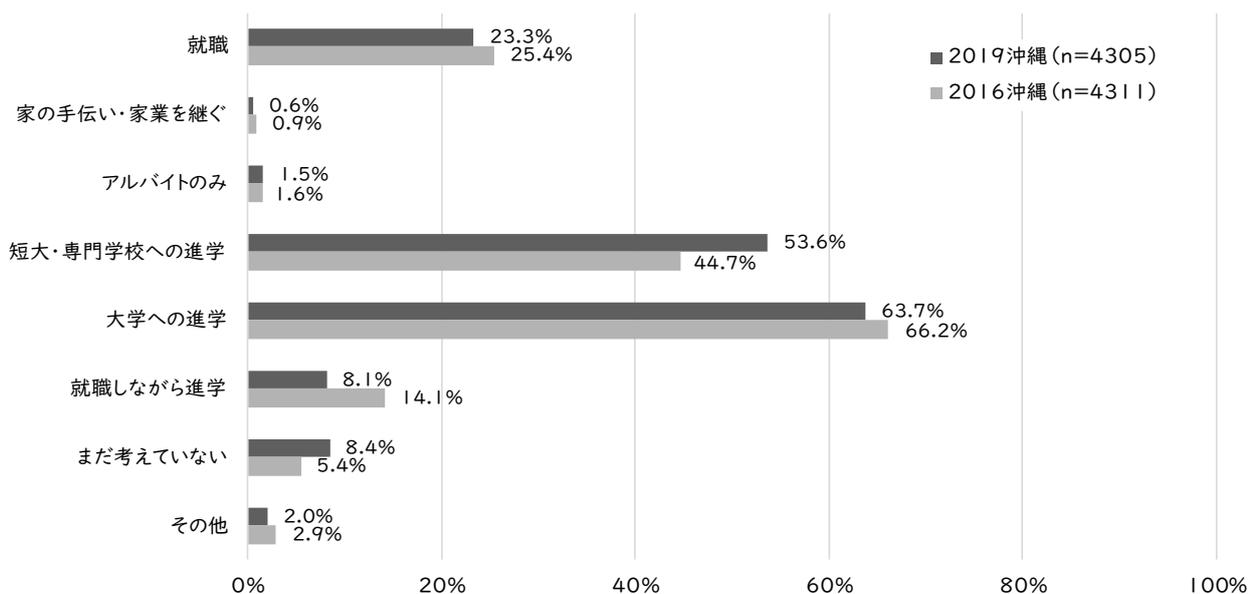
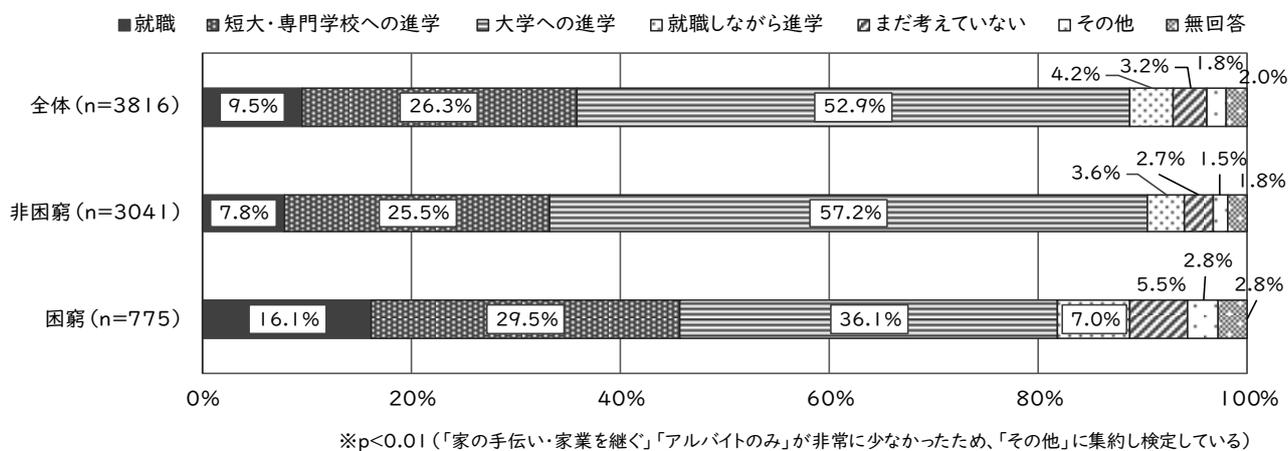


図3-5-2 【保護者】お子さんの高校卒業後の進路として、可能性のあるものすべてに○をつけてください
(複数回答)



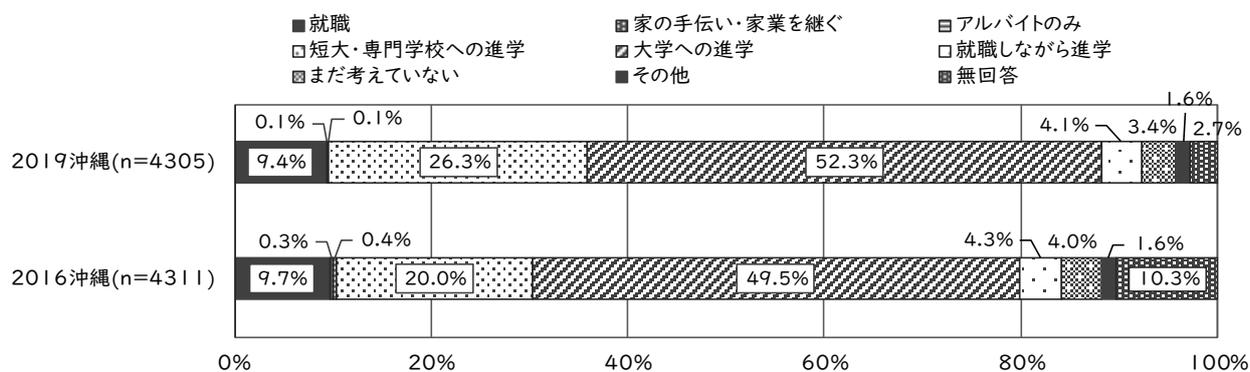
◆子どもの進路としてもっとも望ましいもの

図3-5-3【保護者】お子さんの高校卒業後の進路として、もっとも望ましいと思うもの1つに○をつけてください



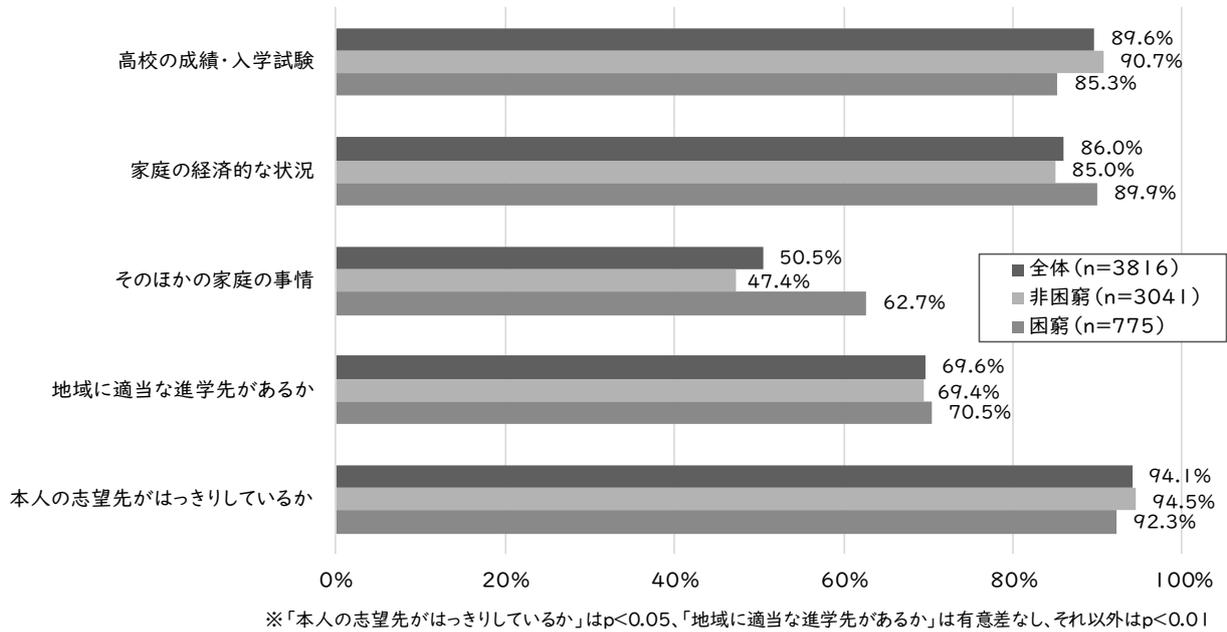
【2016年沖縄県調査との比較】

図3-5-4【保護者】お子さんの高校卒業後の進路として、もっとも望ましいと思うもの1つに○をつけてください



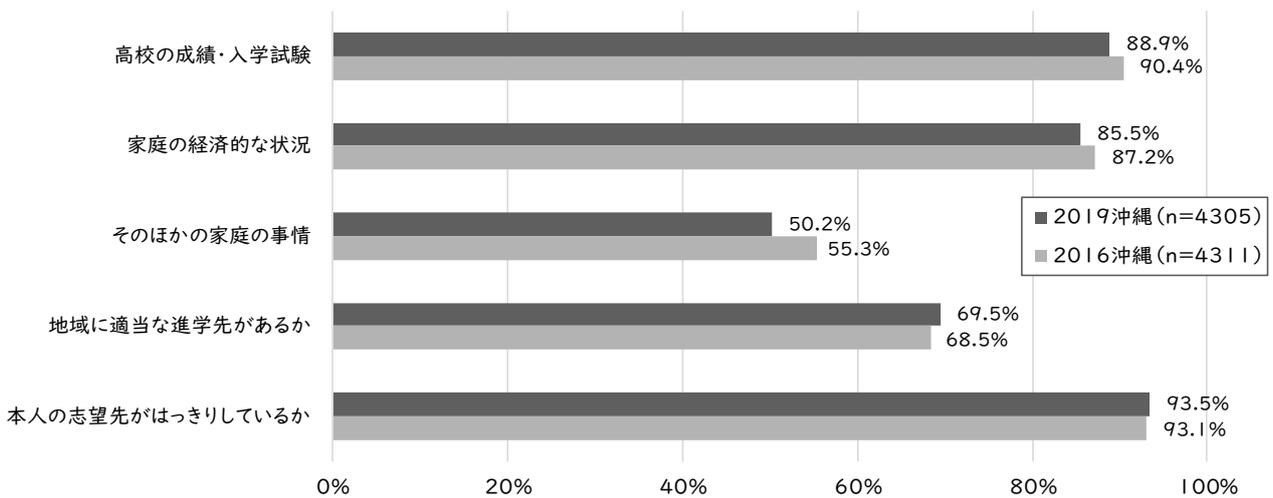
◆子どもの進路を決める際に考えること

図3-5-5 【保護者】お子さんの高校卒業後の進路を決める際、次の項目をどの程度考えますか



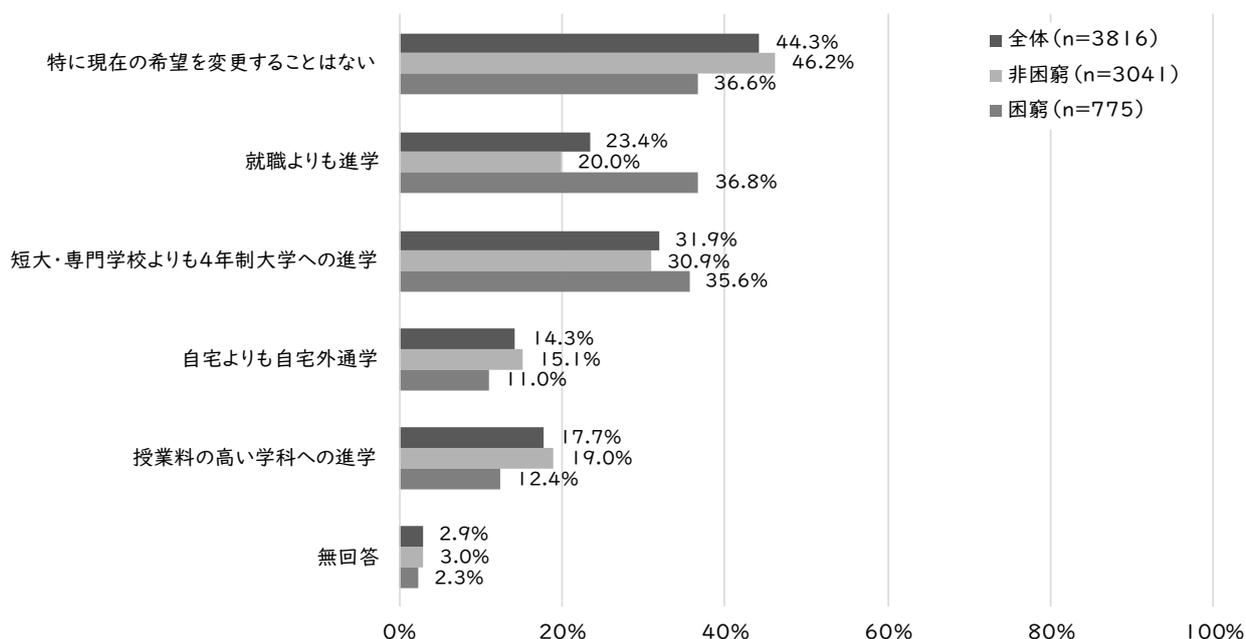
【2016年沖縄県調査との比較】

図3-5-6 【保護者】お子さんの高校卒業後の進路を決める際、次の項目をどの程度考えますか
 (「とても考える」+「やや考える」の割合)



◆現在よりもゆとりがある場合にしてあげたいこと

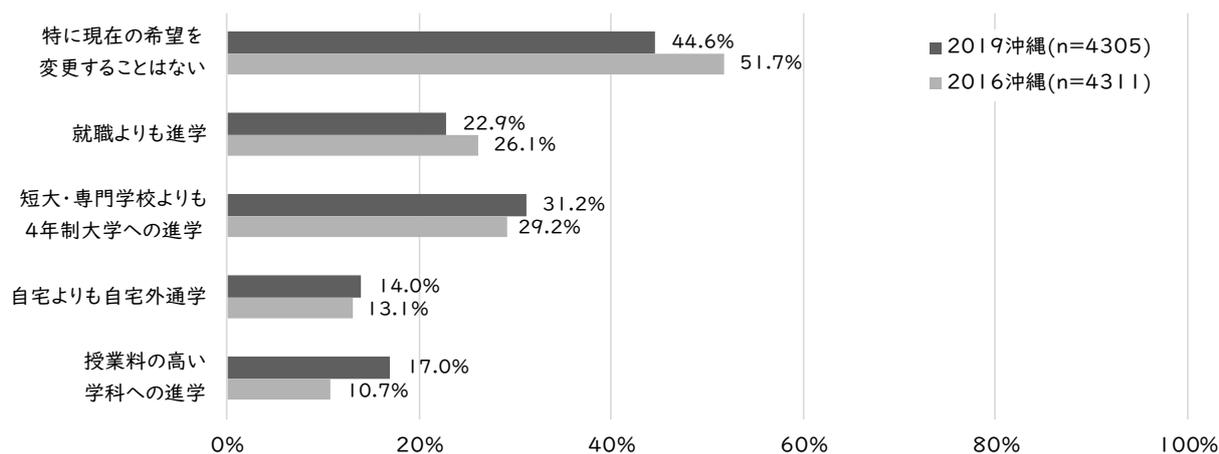
図3-5-7【保護者】現在よりも経済的ゆとりがあるとしたら、お子さんの進路などについて何をさせてあげたいと思いますか(複数回答)



※「特に現在の希望を変更することはない」「就職よりも進学」「自宅よりも自宅外通学」「授業料の高い学科への進学」はp<0.01
「短大・専門学校よりも4年制大学への進学」はp<0.05

【2016年沖縄県調査との比較】

図3-5-8【保護者】現在よりも経済的にゆとりがあるとしたら、お子さんの進路などについて何をさせてあげたいと思いますか。



第6節 保護者の進路についての考え②

第6節では、第2節と同じく、高校生の学力と経済状況をクロスさせる方法で、保護者の視点から進路希望を分析しています。図3-5-3で用いた、もっとも望ましい進路先をここでは第1希望進路先としました。

図3-6-1では、第2節でも利用した、高校生が自己評価した中学3年生時の成績ごとに、経済状況別に就職希望の割合を示しています。すると、成績によって就職希望の割合が異なることもわかりますが、困窮層では、非困窮層と比べて、どの成績の程度でも、就職が第1希望進路とする割合が高くなっています。特に、成績が「中の上」「中くらい」では差が有意となっています。成績が「上のほう」の場合は、統計的には有意ではないですが、困窮層では4.5%が就職を第1希望先としています。

図3-6-2は、2016年沖縄県調査の同じ分析の結果です。図3-6-1と経年比較をすると、大勢は不変であるといえますが、先に指摘した、「上のほう」の経済状況別の差は、2016年と比べて2019年では少なくなっていることがみえます。

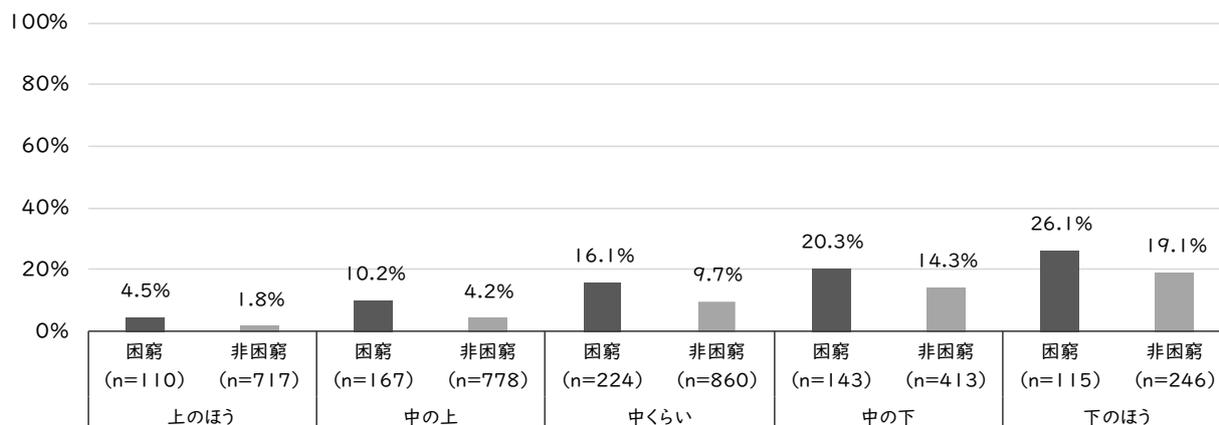
図3-6-3は、同様の方法で、第1希望が進学（「短大・専門学校への進学」、「大学への進学」、「就職しながらの進学」を足したもの）の割合を分析したものです。すると、成績が上になるほど、進学を希望する割合は高くなっていることがみえます。一方で、就職の場合と対比的にどの成績の程度でも、困窮層は進学の割合が低いことがわかりました。特に、成績が「上のほう」でも、困窮層の進学希望者は89.1%で、非困窮層では94.1%と5ポイントの差がありました。

図3-6-4は、2016年沖縄県調査の同じ分析の結果です。図3-6-3と経年比較をすると、3年を経ても同じ傾向であるといえますが、成績が「上のほう」である場合の経済状況による差は、減じてきていることがわかります。また、図3-5-4のところで指摘したように、3年間で全体として進学希望者が増えていることで、どの成績層でも割合が高くなっています。

図3-6-5は、同様の方法で、第1希望が「大学への進学」、つまり4年制大学へ進学希望者のみの割合を分析したものです（なお、経年比較はありません）。すると、図3-6-3に比べ、4年制大学の進学希望割合には、高校生の成績による影響がより目立ち、成績が低くなればなるほど低い割合となっていることがわかります。一方で、成績が「上のほう」「中の上」「中くらい」では経済状況によって差がみられ（統計的にも有意）、困窮層の割合が低くなっています。なお、図3-6-3と図3-6-5の各カテゴリーの差が、主に短期大学・専門学校に進学を希望する割合となりますが、本調査からは、成績が「上のほう」であっても（困窮層だけでなく、非困窮層でも）、4年制大学ではなく、短期大学・専門学校への進学を検討しなければならない保護者が一定の割合で存在することを示唆するものです。

◆就職希望

図3-6-1 【保護者】保護者の(子どもに対する)就職希望の割合×生徒中学3年生時の成績×経済状況別

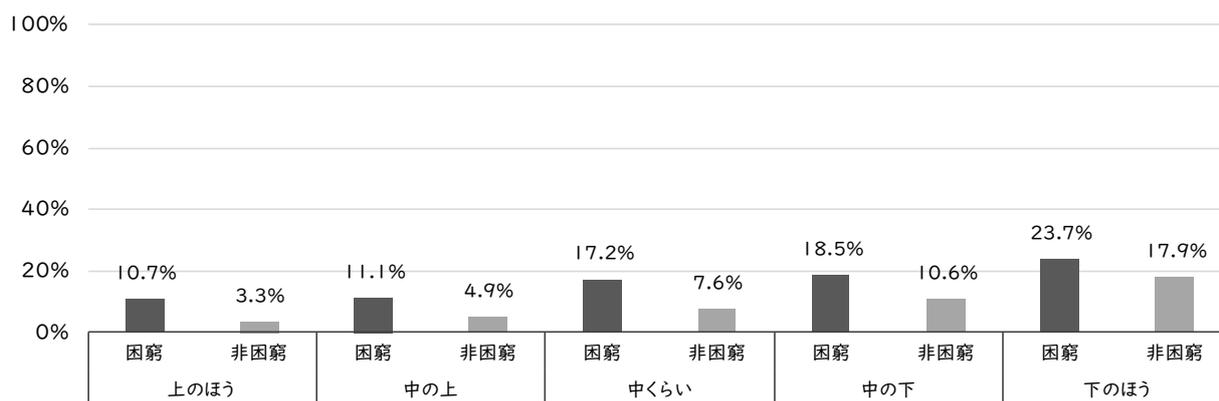


※「中の上」「中くらい」はp<0.01、それ以外は有意差なし

【2016年沖縄県調査】

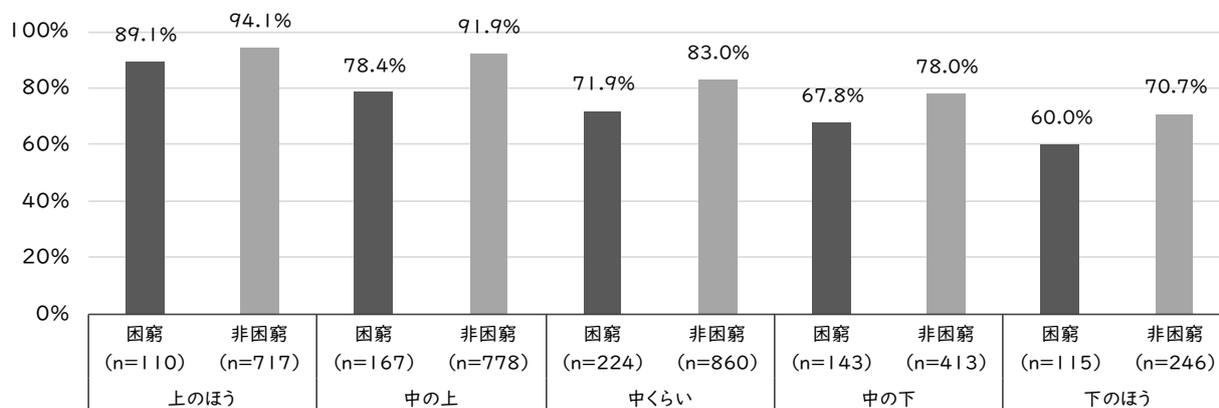
図3-6-2 【2016沖縄・保護者】

保護者の(子どもに対する)就職希望の割合×生徒中学3年生時の成績×経済状況別



◆進学希望

図3-6-3 【保護者】保護者の(子どもに対する)進学希望の割合×生徒中学3年生時の成績×経済状況別

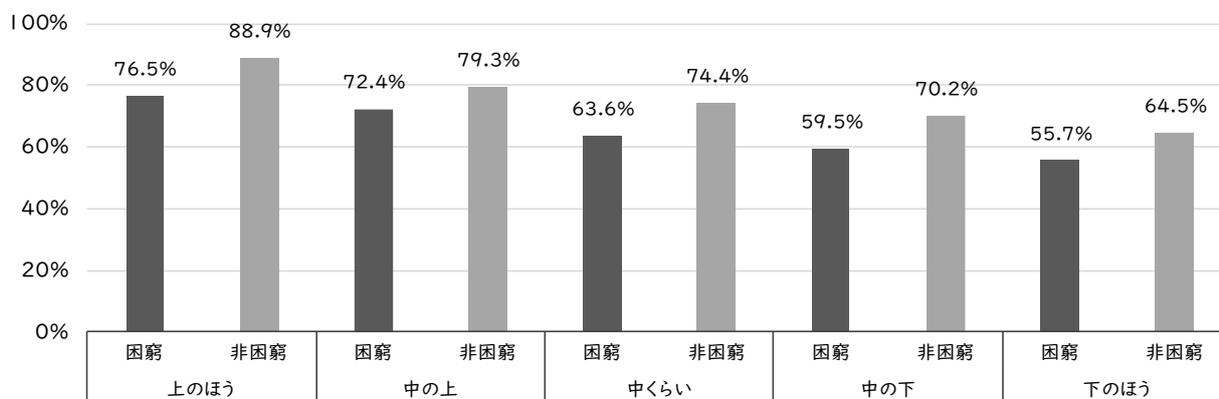


※「中の上」「中くらい」はp<0.01、それ以外はp<0.05

【2016年沖縄県調査】

図3-6-4【2016沖縄・保護者】

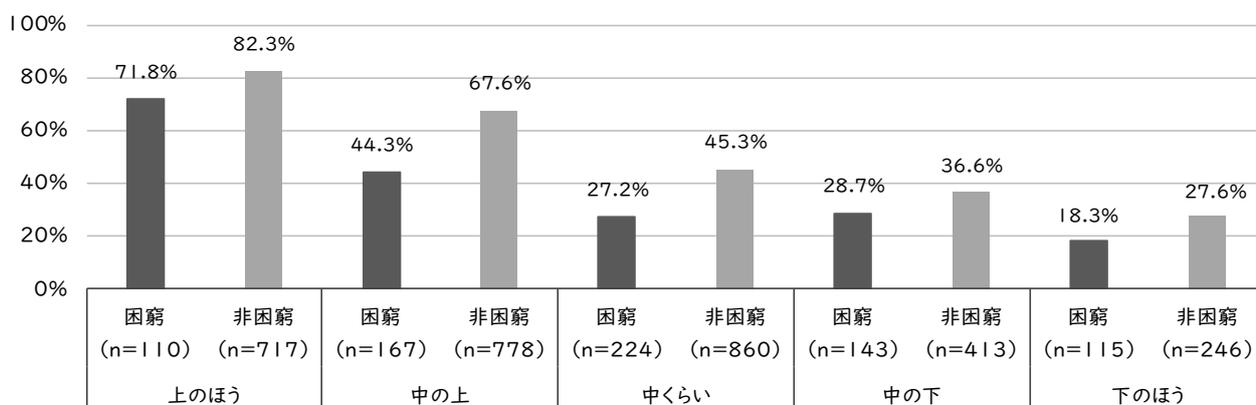
保護者の(子どもに対する)進学希望の割合×生徒中学3年生時の成績×経済状況別



◆「大学」進学希望

図3-6-5【保護者】

保護者の(子どもに対する)大学進学希望の割合×生徒中学3年生時の成績×経済状況別



※「中の下」「下のほう」は有意差なし、それ以外は $p < 0.01$

第7節 子ども数による影響

本人も含む子ども数によって高校生の進路にどのような影響があるかを分析したのが、第7節になります。

図3-7-1は、高校生自身の進路希望が、世帯内の子ども数によってどのように異なっているかをみたものです。大きな違いはみられませんでした。が、「4人以上」では、「1人」から「3人」と比較して、「進学」の割合が小さく、「就職」の割合は大きい傾向がみえました。

図3-7-2は、第4節で行った、進路についての理想と現実で異なる学校を選んだ高校生に、その理由を尋ねた結果を、子ども数ごとに分析したものです。すると、特に「きょうだいの進学にお金がかかる」を挙げた高校生の割合が、子ども数が2人や3人の場合に比べ、4人の場合、約20-21ポイント高くなっていることが読み取れました。

図3-7-3と図3-7-4は、保護者に視点を移した分析です。図3-7-3は、保護者としてもっとも望ましい進路についての結果を、子ども数ごとに分析したものです。すると、子ども数が増えるに連れて、大学進学を希望する割合が減り、就職を希望する割合が増える傾向がみえることがわかりました。

図3-7-4は、第5節で行った、進路を決める際に保護者が考慮する項目についての結果を、子ども数ごとに分析したものです。すると、他の項目は子ども数で違いはみられませんでした。が、「家庭の経済的な状況」では、子ども数が増えるに連れて、考慮する割合が高くなる傾向がみえました。

※第7節のグラフは、1人～4人以上の区分で設けたきょうだい数で検定をおこなった

◆【生徒】進路についての考え

図3-7-1 【生徒】あなたは、現時点で、高校卒業後の進学や就職などの具体的な希望がありますか

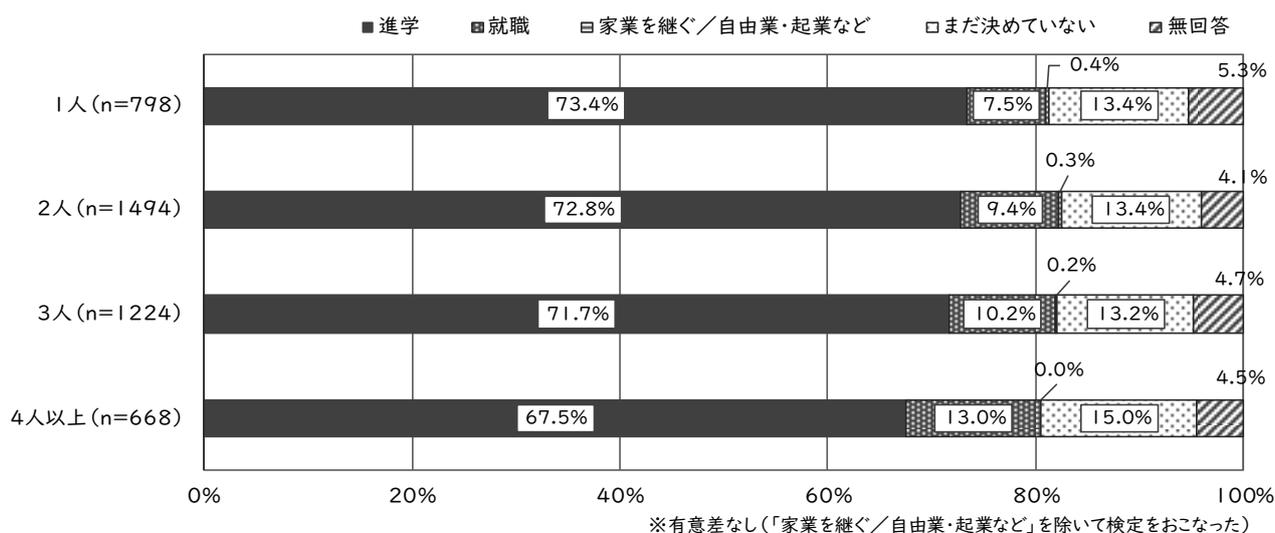
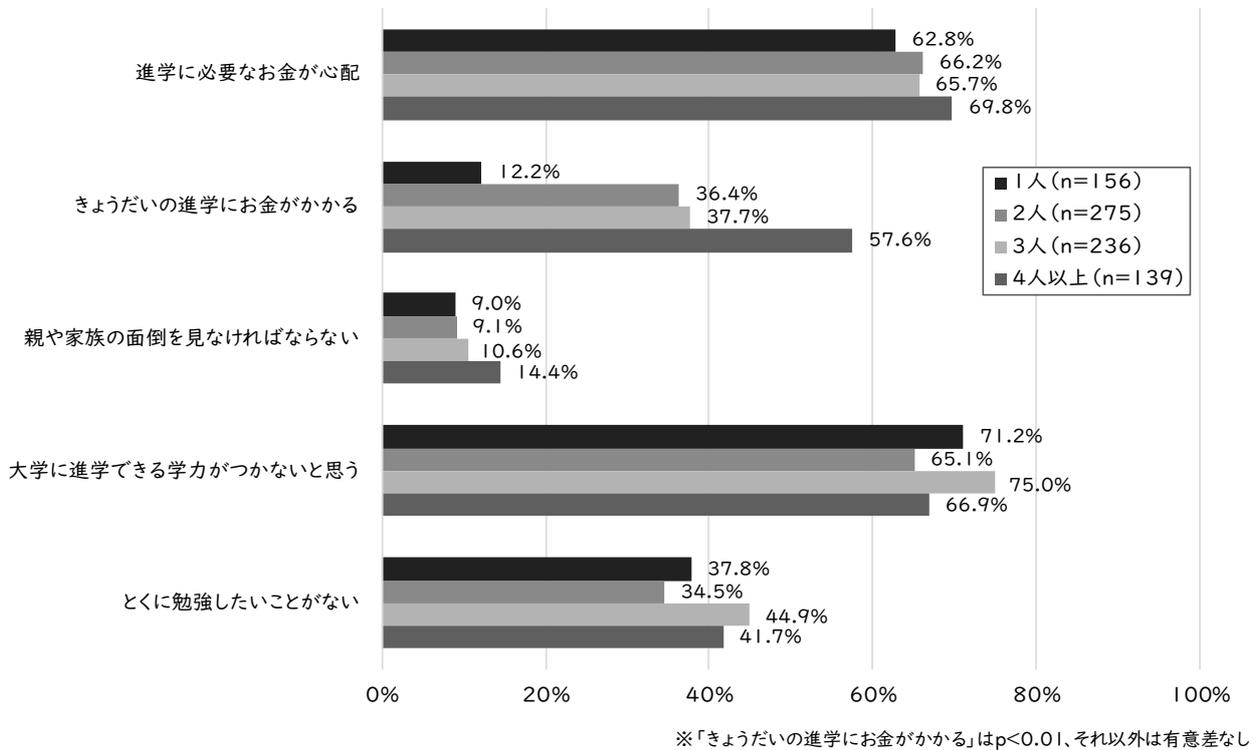


図3-7-2 【生徒】(理想と現実で)違う学校を選んだ理由について、それぞれどれくらいあてはまるか教えてください(「とてもあてはまる」+「あてはまる」の割合)



◆【保護者】進路についての考え

図3-7-3 【保護者】お子さんの高校卒業後の進路として、もっとも望ましいと思うもの1つに○をつけてください

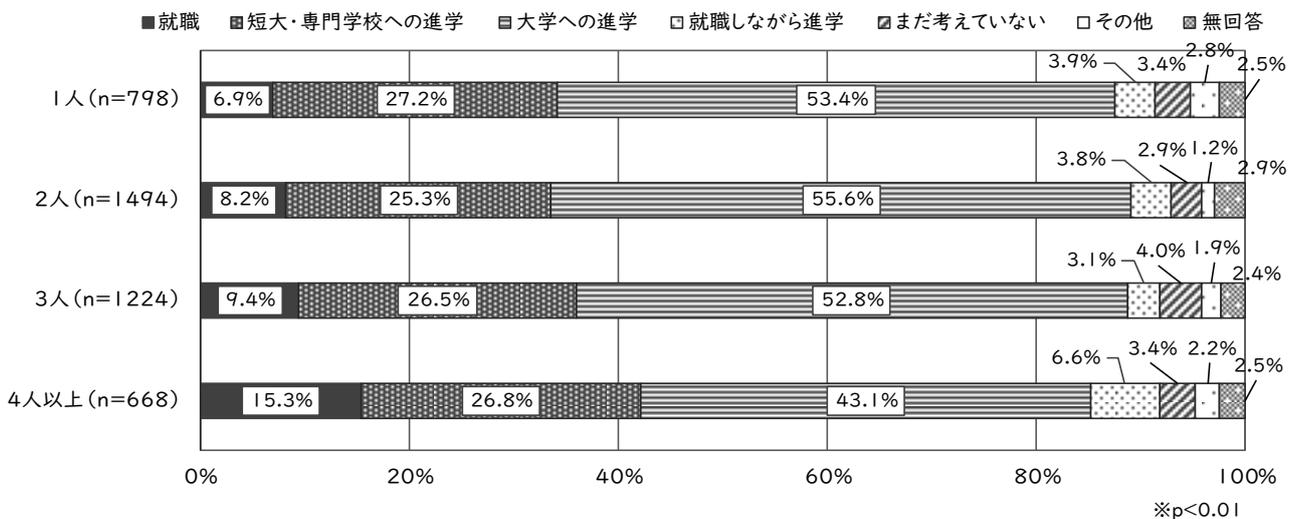
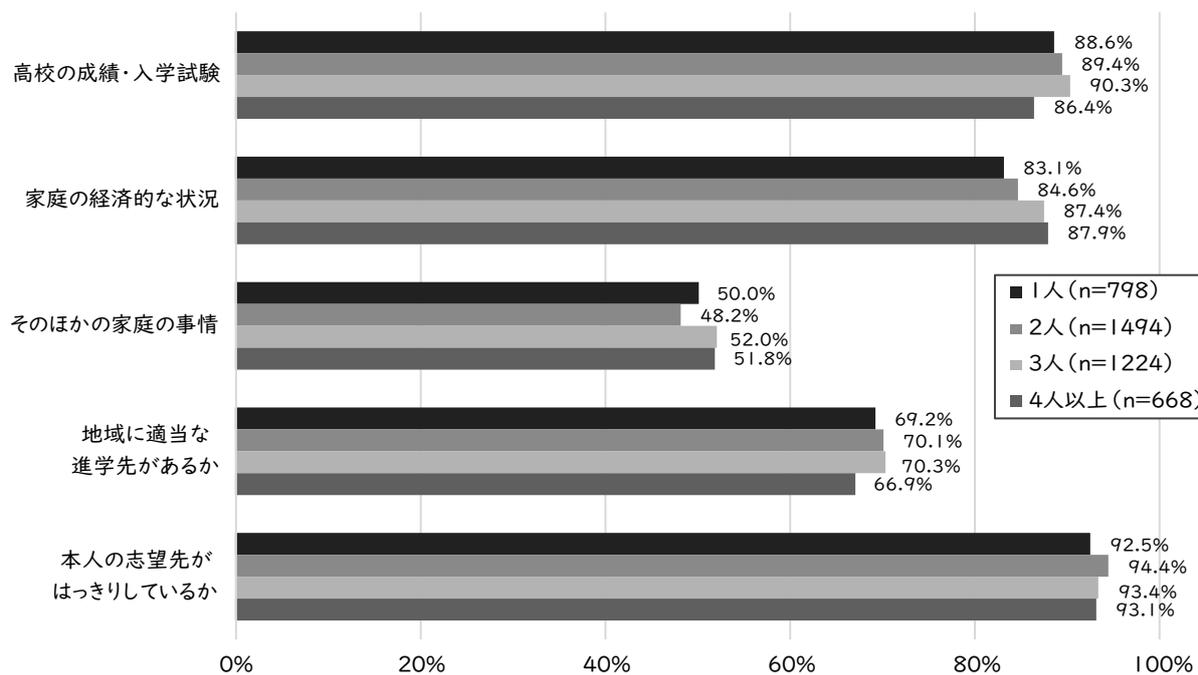


図3-7-4 【保護者】お子さんの高校卒業後の進路を決める際、次の項目をどの程度考えますか
 (「とても考える」+「やや考える」の割合)



※「家庭の経済的な状況」は $p < 0.05$ 、それ以外は有意差なし

第8節 世帯所得3区分による分析

世帯の経済状況が、高校生の進路にどのように影響をしているかを、より詳細に調べるために、第8節では、世帯の経済状況を3区分として分析を加えています。経済状況は、これまでの2区分の基準値である122万円の1.5倍値(183万円)を新たな区分の値として設け、3区分としました。こうすることで、非困窮層と困窮層の比較だけでなく、困窮層の経済状況に近い周辺層の状況を検討することができます。

図3-8-1は、高校生の進路の希望が、経済状況3区分によってどのように異なるかをみたものです。「122万円未満」は、これまで「困窮」層としてきたものと同じ区分です。「122万円～183万円未満」「183万円以上」は新たな区分として設けたものです。この図からは、所得が高いほど進学割合は高くなり、就職割合は低くなります。また、まだ決めていないという進路未決定の割合も所得が高いほど低くなっています。

図3-8-2は、理想と現実で進路が異なっている高校生に、その理由を尋ねた結果を、経済状況3区分でみたものです。すると、進学に必要な費用を理由とする割合は、所得が高いほど低くなっていました。「122万円から183万円未満」という周辺層でも69.4%におよんでいました。

図3-8-3は、保護者からみたもっとも望ましい進路を、経済状況3区分によって分析したものです。すると、高校生と同様に、所得が高いほど就職割合は低くなっており、大学進学は高い割合となります。短大・専門学校への進学は、「122万円未満」と「122万円～183万円未満」はほぼ同じ数値であり、周辺層も困窮層と同様に、経済状況から大学ではなく短大・専門学校への進学を希望する場面が多いことが推察できました。また、進路未決定の割合も、高校生同様に所得が高いほど低くなっています。

図3-8-4は、進路決定時に考慮する項目をみたものです。すると、「地域に適切な進学先があるか」を除くと差異があり、「122万円～183万円未満」に注目すると、「家庭の経済的な状況」は「122万円未満」に近い数値であり、周辺層も困窮層と同じ程度に、経済状況を考慮に入れ進路を考えていることが読み取れました。

図3-8-5は、第5節で行った、経済的なゆとりがある場合に、保護者が子どもにさせてあげたいことについての分析を、経済状況3区分でみたものです。すべてに差異がみられ、「122万円～183万円未満」に注目すると、「特に現在の希望を変更することはない」「短大・専門学校よりも4年制大学への進学」は「122万円未満」に近い数値であり、「自宅よりも自宅外通学」「授業料の高い学科への進学」は「183万円以上」に近い数値でした。特に、「短大・専門学校よりも4年制大学への進学」が困窮層よりも若干高くなっており、周辺層も本来なら短大・専門学校より大学に行かせたいができない状況があることが推察できました。

※第8節は、経済状況3区分で検定をおこなった

◆【生徒】進路についての考え

図3-8-1 【生徒】あなたは、現時点で、高校卒業後の進学や就職などの具体的な希望がありますか

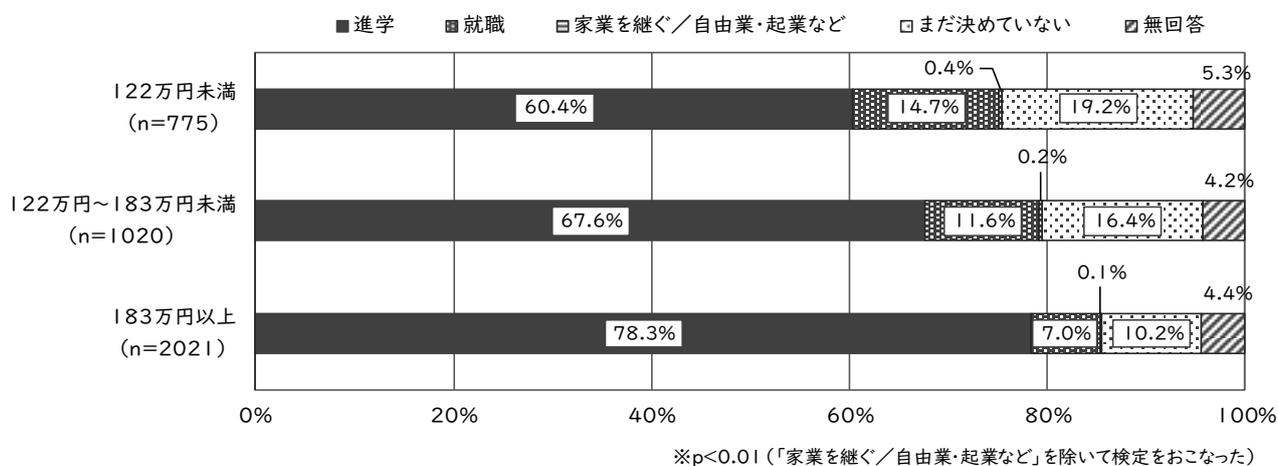
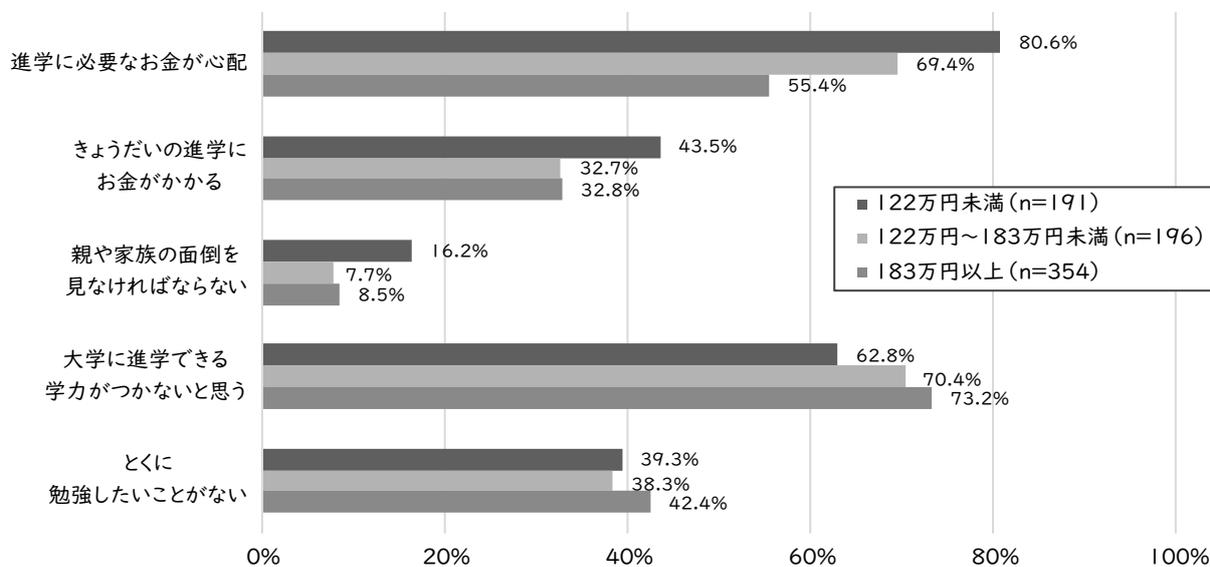


図3-8-2 【生徒】(理想と現実で)違う学校を選んだ理由について、それぞれどれくらいあてはまるか教えてください(「とてもあてはまる」+「あてはまる」の割合)



※「進学に必要なお金が心配」「親や家族の面倒を見なければならない」はp<0.01、「きょうだいの進学にお金がかかる」「大学に進学できる学力がつかないと思う」はp<0.05、「とくに勉強したいことがない」は有意差なし

◆【保護者】進路についての考え

図3-8-3 【保護者】お子さんの高校卒業後の進路として、もっとも望ましいと思うもの1つに○をつけてください

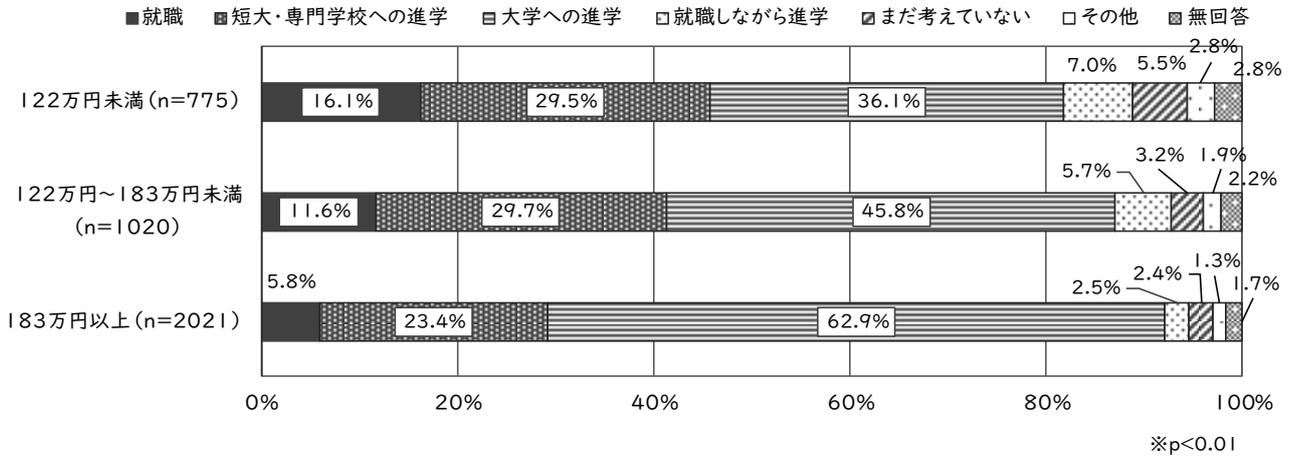


図3-8-4 【保護者】お子さんの高校卒業後の進路を決める際、次の項目をどの程度考えますか
 (「とても考える」+「やや考える」の割合)

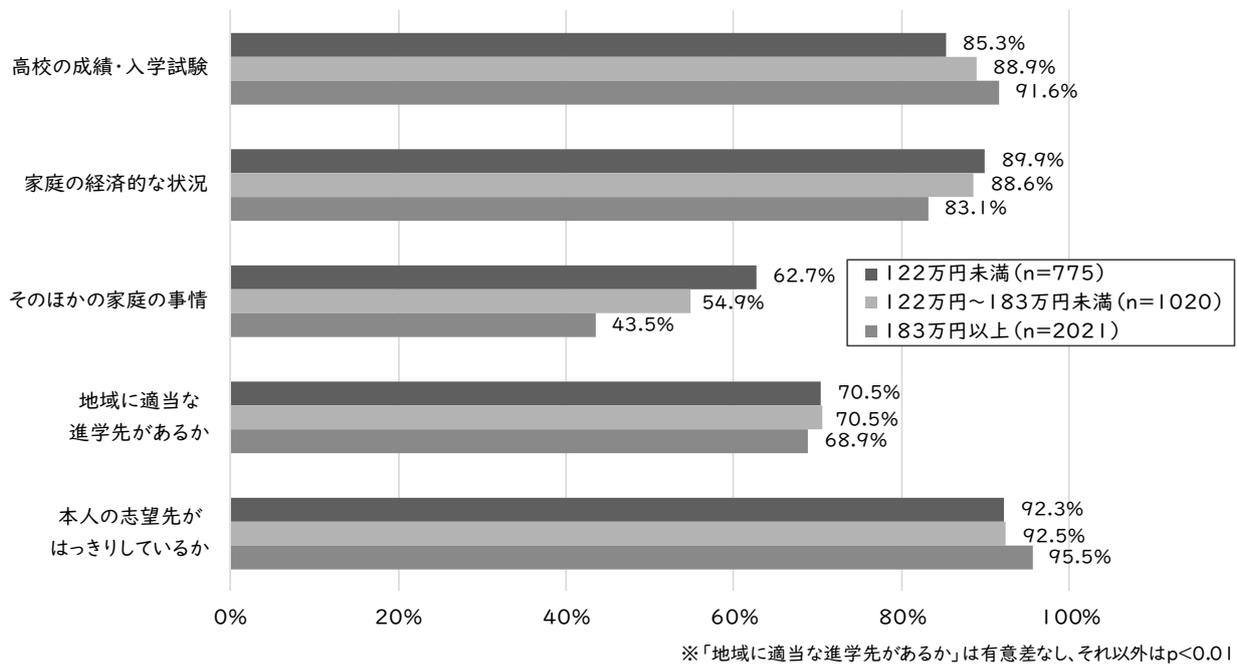
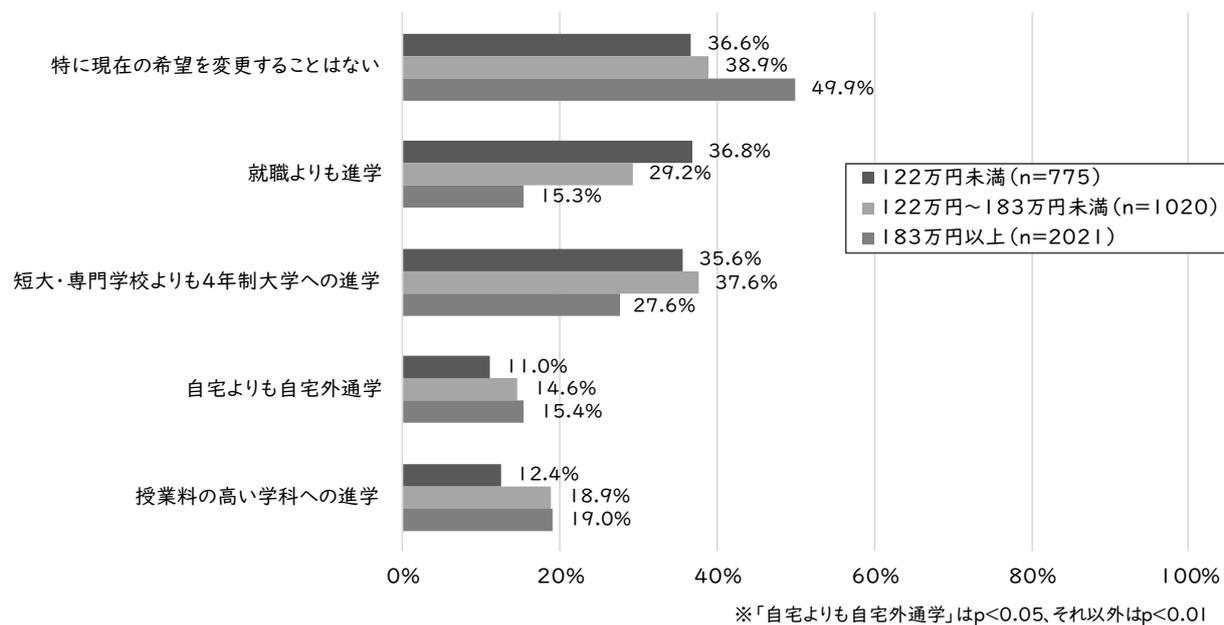


図3-8-5 【保護者】現在よりも経済的にゆとりがあるとしたら、お子さんの進路などについて何をさせてあげたいと思いますか(複数回答)



第9節 大学無償化について

高校生に、高等教育の修学支援新制度（いわゆる「大学無償化」）について知っているか尋ねています（図3-9-1）。その結果、全体では相対的に少数の18.7%が知っていると答えています。経済状況による違いがみられ、非困窮層より困窮層のほうが約4ポイント高い割合でした。

また、図3-9-2は修学支援新制度を知っている高校生に、進路選択に影響があるか尋ねたものです。すると、全体では45.5%が影響があると答えています。また、経済状況によって差がみられ、困窮層のほうが、影響があると答えた割合が高く、53.9%が影響があると答えています。

図3-9-3は、保護者に対して修学支援新制度を知っているか尋ねたものです。すると、高校生より高い数値ではありますが、全体、非困窮層、困窮層どれも、約3割しか「知っている」と答えていません。

図3-9-4は、修学支援新制度を知っている保護者に、進路選択に影響があるか尋ねたものです。すると、影響があると答える割合は高校生よりも高い状況でした。経済状況によって差がみられ、困窮層では74.0%が影響があると答えています。

図3-9-1 【生徒】 高等教育の修学支援新制度（いわゆる大学無償化）について知っていますか

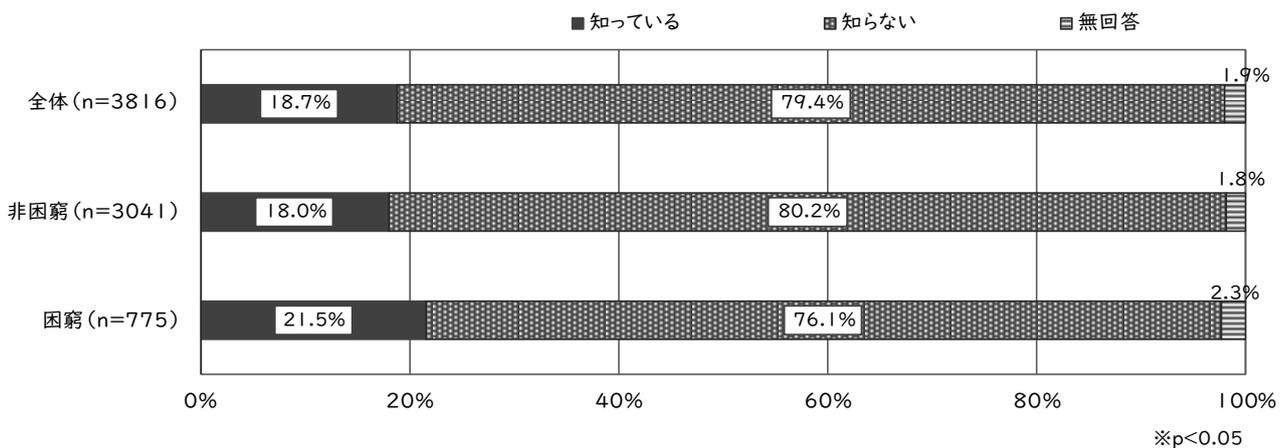


図3-9-2 【生徒】 大学無償化によって、あなたの高校卒業後の進路選択に影響があると思いますか

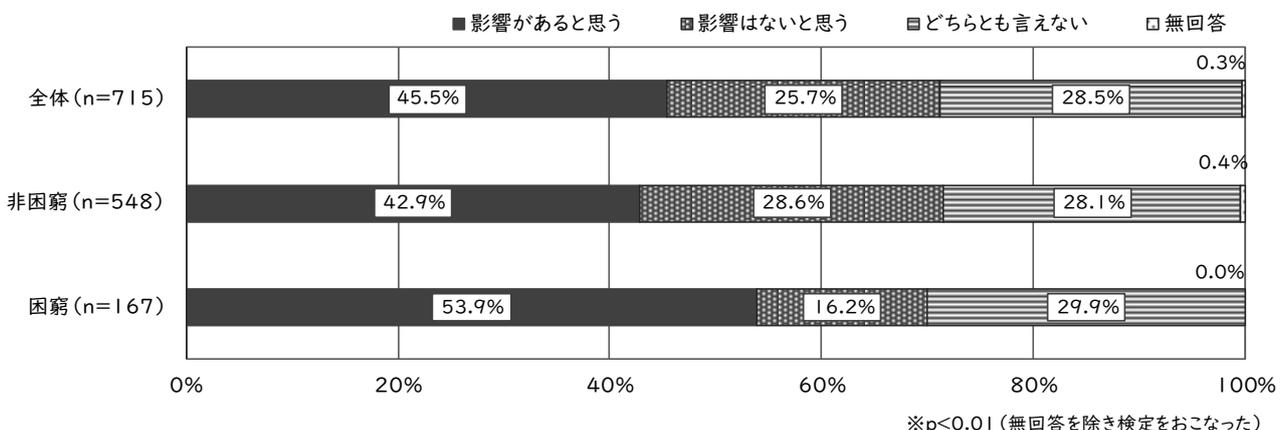


図3-9-3【保護者】高等教育の修学支援新制度（いわゆる大学無償化）について知っていますか

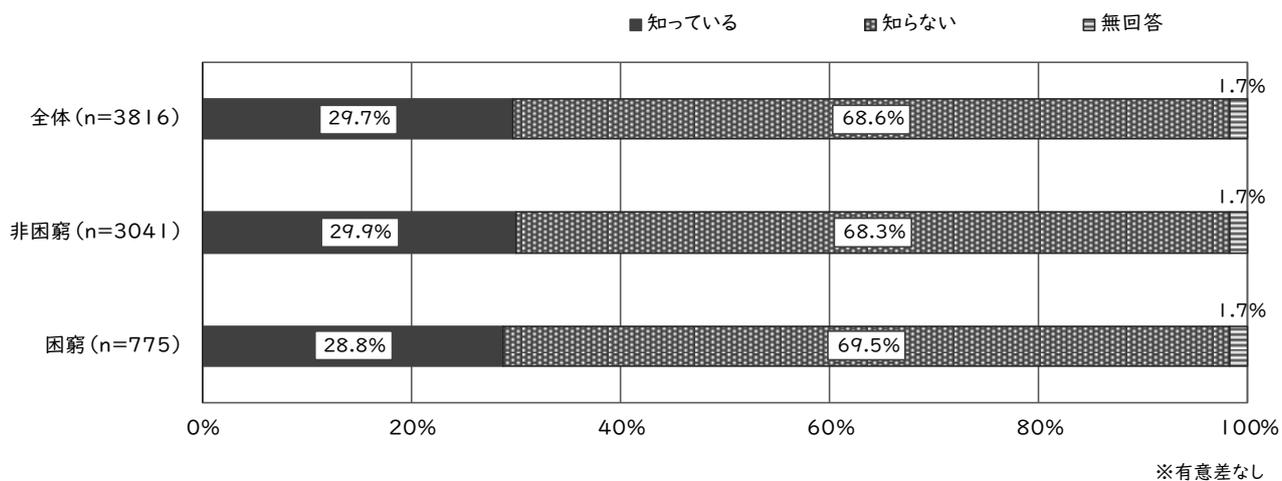
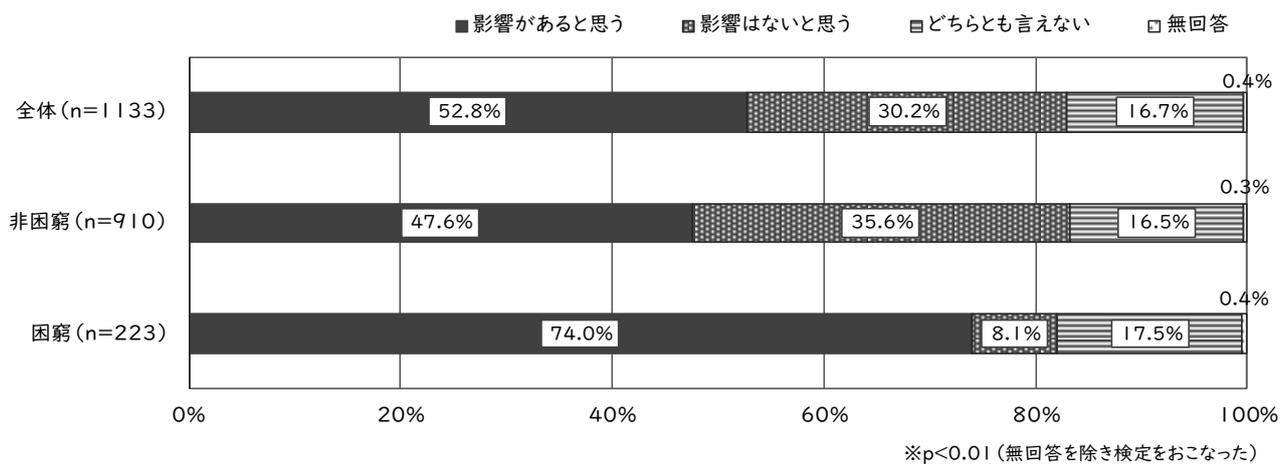


図3-9-4【保護者】大学無償化によって、お子さんの高校卒業後の進路選択に影響があると思いますか



考察

本章からは、高校生の進路に経済状況が深く影響している現状と、経年比較から3年間の変化をみることができました。高校生の進路、特に進学に経済状況が影響していることはよく知られていることです。学費の高さなどの要因によって、高所得世帯と比較して低所得世帯の高校生の大学等への進学率が低くなってしまおうという、「進学格差」（参考文献参照）といわれるものです。本章でも、困窮層と非困窮層では、進学、就職の希望割合に、高校2年生の時点でも明確に差がみられました。

一方で、第2章でみられたように、経済状況と学力面は関連があることもよく知られています。困窮層の子どもたちは、学力面で課題を背負いがちです。そのことによって、進学率、特に4年制大学への進学率の差がもたれている可能性もあります。そこで本章では、第2節と第6節で学力面も考慮に入れた分析を行っています。結果としては、高校生、保護者の両方の意識として、成績が高い場合においても、経済状況が進学希望、特に4年制大学への進学希望に影響を与えていることがわかりました。世帯の経済状況の違いが成績に及ぼす影響だけでは説明できない、厳しい状況が困窮層には存在することがわかりました。

ただ、高校生も保護者も進学を最初からあきらめているわけではないことも、本章からは浮かびあがってきます。高校生は、理想的には多くの場合進学を希望しています。保護者も可能性としては、進学を考慮に入れています。しかし、理想的な進路（図3-4-1）と現実的な進路（図3-4-2）で大学等への進学割合が減少してしまう点や、理想と現実が異なる理由を分析した図3-4-3が示すように、特に困窮層では進学にかかる費用の心配がもっとも大きな気付きとして、高校生は進学をあきらめてしまうようです。保護者も、余裕があれば、困窮層では「就職よりも進学」を希望する保護者が3分の1以上いました（図3-5-7）。なお、図3-4-3が示すように、困窮層の高校生は自身の学費だけでなく、きょうだいの学費のこと、家族の面倒を見ることなども考えながら進路を考えざるを得ない状況にある点も認識する必要があるでしょう。そうした意味では、第7節の子ども数による影響は参考になる分析だと思われる。

他方、経年分析からは、明るいきざしもみえています。特に、保護者が考える可能性のある進路として、短大・専門学校が増え、もっとも望ましい進路としても短大・専門学校・4年制大学の割合も増えています。高校生も、理想的には大学院まで進学したいと考えている割合が若干高くなり、現実的にも高校まででなく専門学校まで進学したいと考える割合が増えています。経済状況の改善が影響をおよぼしたものと考えられます。

第8節で行った経済状況を3区分でみた分析では、困窮層だけでなく、経済状態としては困窮層に近い周辺層でも、進学格差は存在し、高校生・保護者とも学費のことに悩んでいる姿が浮かび上がってきました。こうした状況は、高校生の支援にあたっては留意しなければならない点でしょう。

最後ではありますが、重要な点として、本調査では、来年度から導入される国の修学支援新制度（いわゆる「大学無償化」）についても質問項目として第9節で分析しました。この制度の対象は、経済的に厳しい世帯の高校生であり、本調査とは関連が深いと考えます。結果として、この制度を知っている高校生、保護者の割合は決して高くありませんでした。しかし、制度を知っている高校生・保護者は、特に困窮層では、進路選択に影響があると答える割合が高く、情報を伝える方法等の検討が必要ではないでしょうか。そうした意味でも、図3-1-5でみえた、親や先生に進路について相談したことがない高校生の割合が困窮層では高い点は、高校生を支援する側としては念頭に置いておきたい点です。

【参考文献】 小林雅之（2008）『進学格差—深刻化する教育費負担』ちくま新書

第 4 章

アルバイト

第1節 アルバイトの状況

高校生に、アルバイトの就労状況について尋ねています。

アルバイトや仕事を「現在している」のは24.3%で、「過去にしたことがある」11.0%を含めて35.3%となっています。これは2016年沖縄県調査の34.2%から1.1ポイントとわずかに上昇しています(図4-1-1)。なお、質問が異なるため単純には比較できませんが、2016年東京都調査では、アルバイトを含む就労をしている割合は16.7%でした。沖縄県の高校生がアルバイトをしている割合は高いといえるでしょう(図4-1-2)。

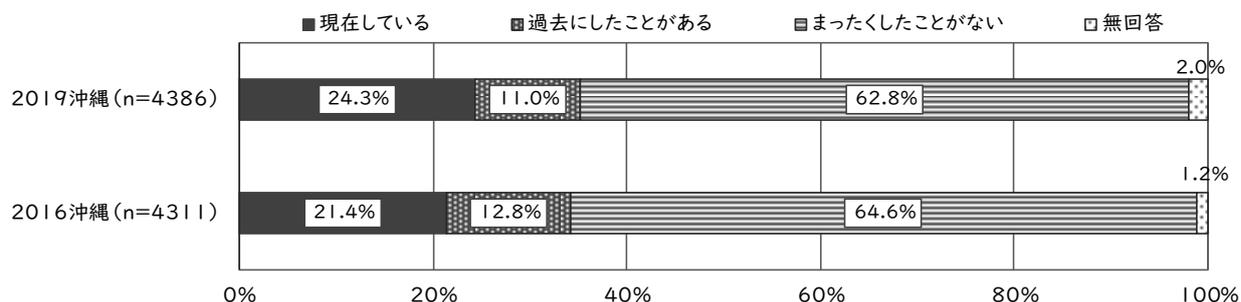
次に、アルバイトの経験を経済状況別にみてみました。2019年調査では、非困窮層31.1%、困窮層49.2%で、18.1ポイントと大きな差が生じています(図4-1-3)。質問の違いにより単純比較はできませんが、2016年沖縄県調査における困窮層では47.1%で、アルバイト経験がある高校生は2.1ポイント上昇しています。また、非困窮層では28.9%と、困窮層と18.2ポイントの差となっており、この傾向は本調査とも同様となっています(図4-1-4)。

アルバイト等仕事をする時期については、夏休み等の「長期休暇期間など、時間に余裕があるとき」22.4%だけでなく、「年間を通していつでも」しており66.2%でした。これは2016年沖縄県調査でも、同様の傾向がみられ、とくに困窮層では71.0%と、非困窮層64.1%より6.9ポイント差が大きくなっています(図4-1-5、図4-1-6)。

労働環境については、「一方的に急なシフト変更を命令された」が7.8%、「退職を申し出てもやめさせてもらえなかった」2.3%と雇用先が高校生に対して配慮を欠いているばかりでなく、「採用時に約束した仕事以外の仕事をさせられた」4.0%、「深夜時間帯(22時以降)に働いたことがあった」5.3%と、労働法令に違反して就労させている状況がみられます(図4-1-7)。

◆アルバイトの経験

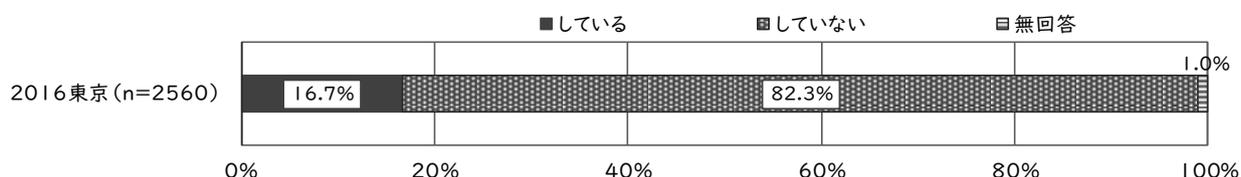
図4-1-1 【生徒】あなたは、高校に入ってから今までにアルバイトや仕事をしたことがありますか



注) 2016沖縄調査の質問は、「高校に入ってから今までに就労(アルバイト)したことがありますか」

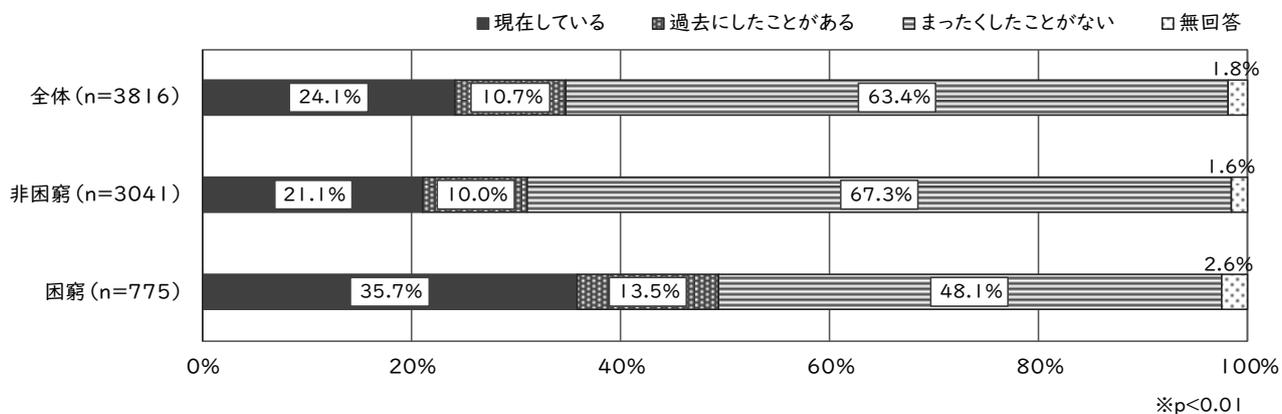
【2016年東京都調査】

図4-1-2 【2016東京・生徒】あなたは、収入を伴う仕事(学生のアルバイトを含む)をしていますか



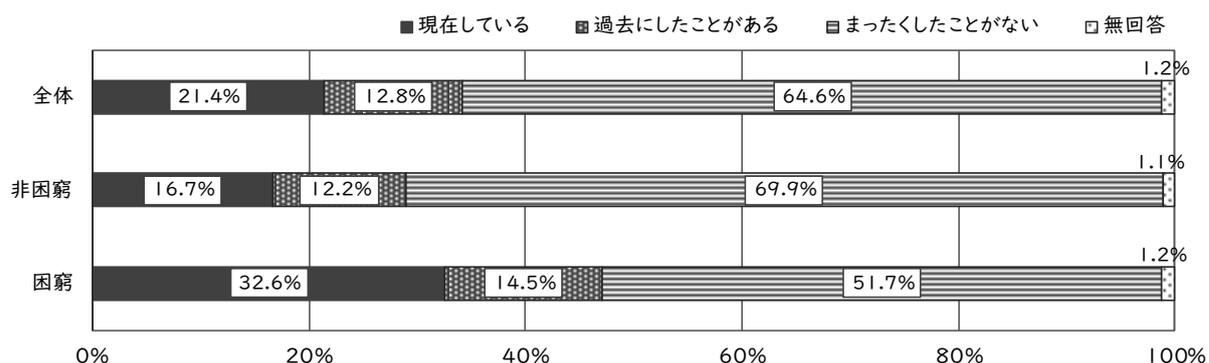
◆アルバイトの経験(経済別)

図4-1-3 【生徒】あなたは、高校に入ってから今までにアルバイトや仕事をしたことがありますか



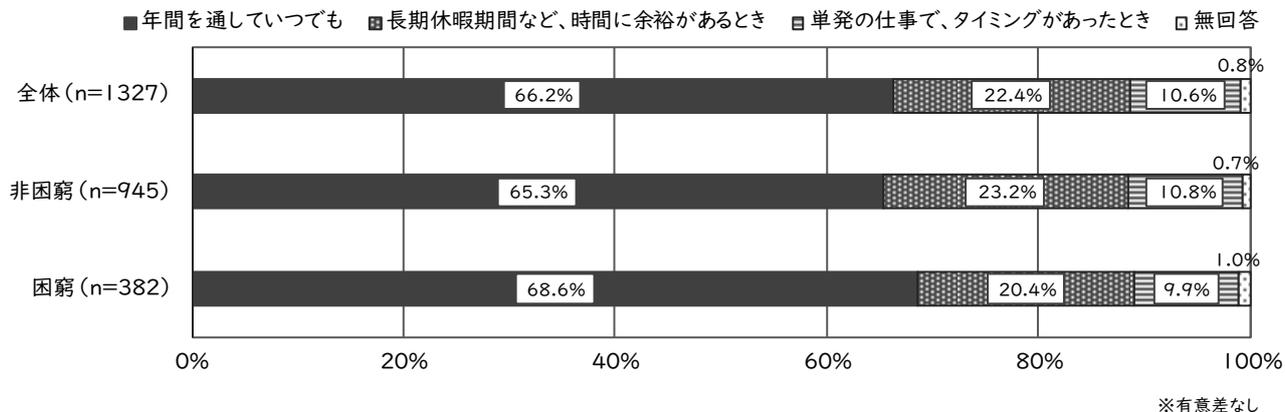
【2016年沖縄県調査】

図4-1-4 【2016沖縄・生徒】あなたは、高校に入ってから今までに就労(アルバイト)をしたことがありますか



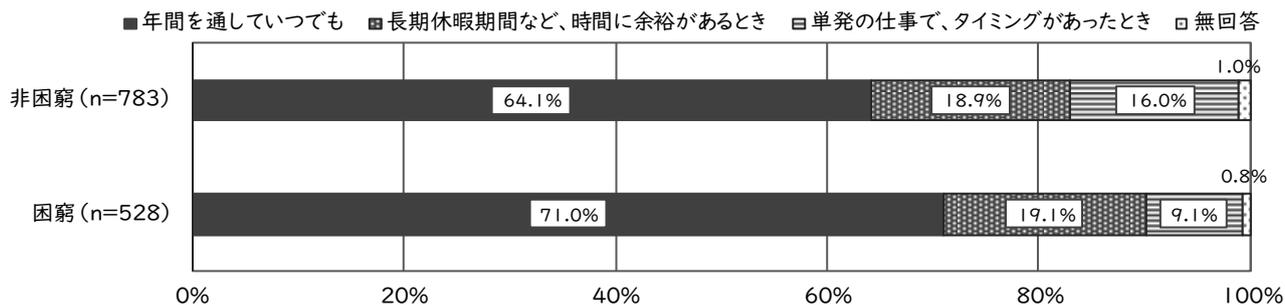
◆アルバイトをする時

図4-1-5 【生徒】アルバイトや仕事をするのはどのような時ですか



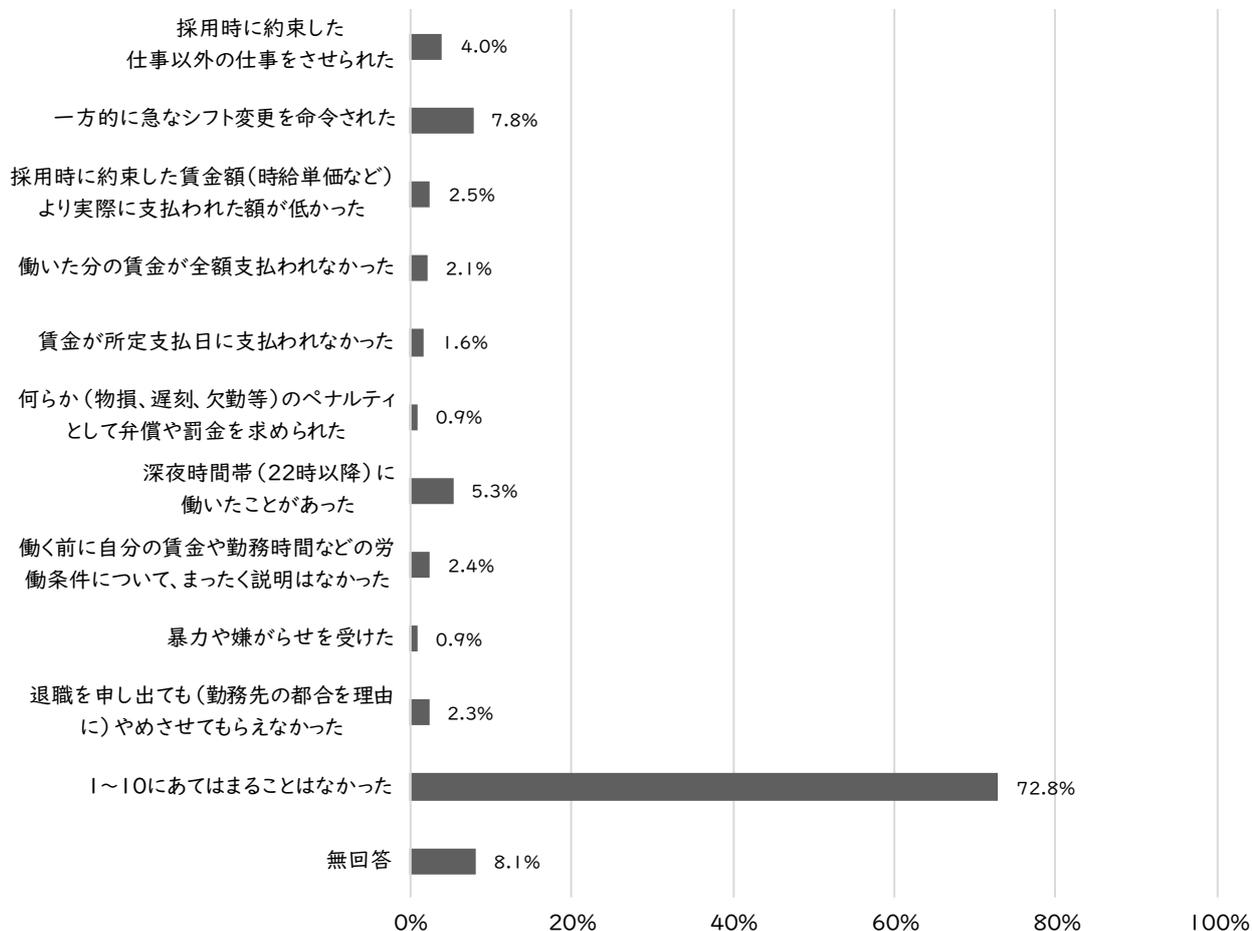
【2016年沖縄県調査】

図4-1-6 【2016沖縄・生徒】アルバイトや仕事をするのはどのような時ですか



◆アルバイトの労働条件について

図4-1-7 【生徒】アルバイトや仕事をしていて、労働条件などに関して次のようなことはありましたか
(複数回答) (n=1546)



第2節 アルバイトの日数

アルバイトをしていると回答した高校生に、週当たりの平均的な日数や勤務時間について尋ねました。週当たりの平均的な勤務日数は、学校のある平日には、全体で見ると3日(28.6%)がもっとも多くなっています。また、「5日」と回答した高校生も、全体で4.7%、非困窮層で4.3%、困窮層で5.5%おり、学校に通いながら毎日アルバイトをしている高校生がいることもわかります(図4-2-1)。学校がある日に1~5日の間で働いている割合は、経済状況別には困窮層で77.8%と、非困窮層の72.2%に比べ5.6ポイント高く、困窮層の高校生は平日に働いている割合がより高くなっています。

学校が休みの土日の勤務日数は、「2日」が約5割となっており、経済状況別にみてもほぼ同様の割合となっています(図4-2-2)。週当たりの平均的な1日当たりの勤務時間では、平日は「4時間」がもっとも多く、「3時間以下」とあわせると、非困窮層62.1%、困窮層65.0%と、困窮層のほうが高くなっています(図4-2-3)。学校が休みの日(土日)に働いている状況は経済状況別にも同様で、より相対的に長い時間勤務する傾向となっています(図4-2-4)。

◆勤務日数

図4-2-1 【生徒】学校がある日(月~金)の平均的な日数

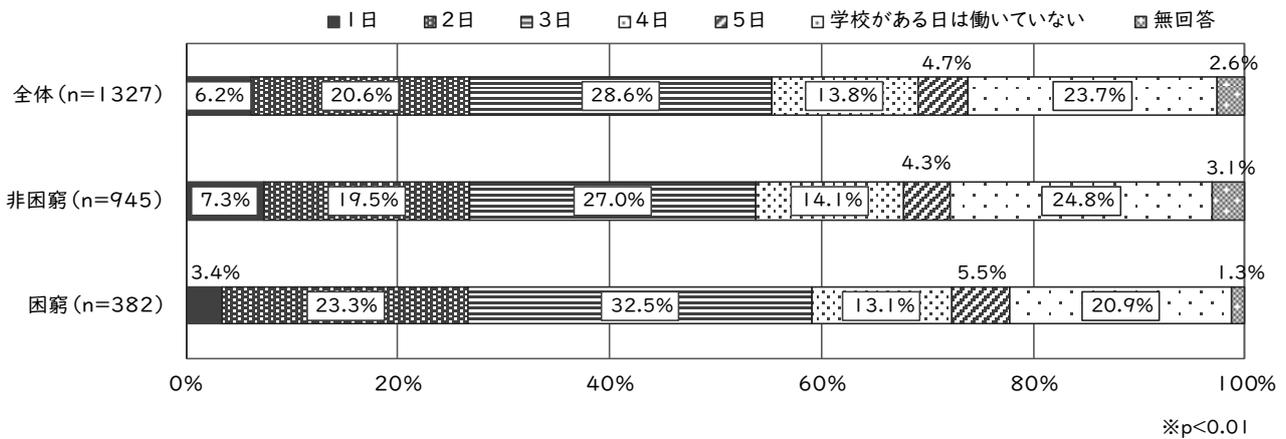
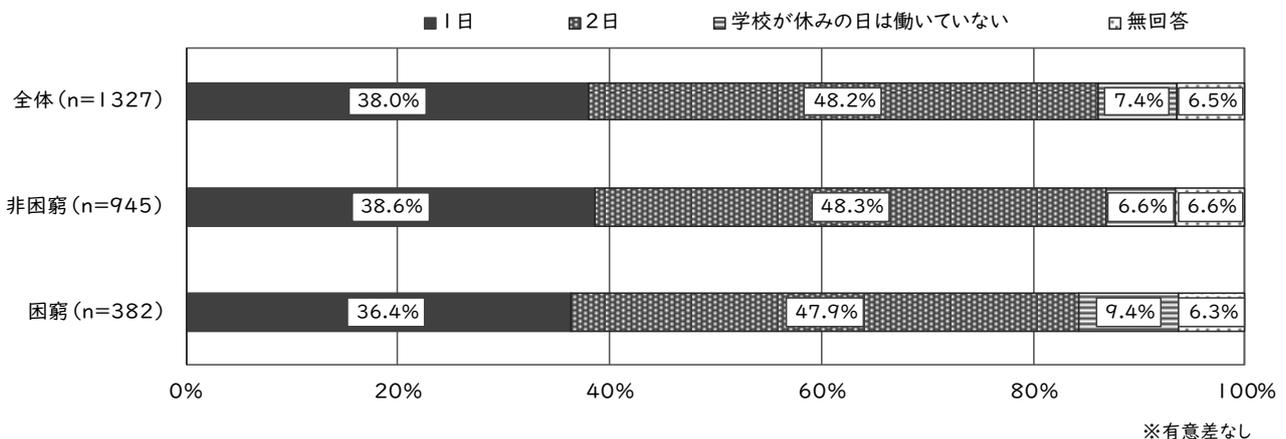


図4-2-2 【生徒】(日数)学校が休みの日(土・日)の平均的な日数



◆時間

図4-2-3 【生徒】学校がある日(月～金)の平均的な1日あたりの勤務時間

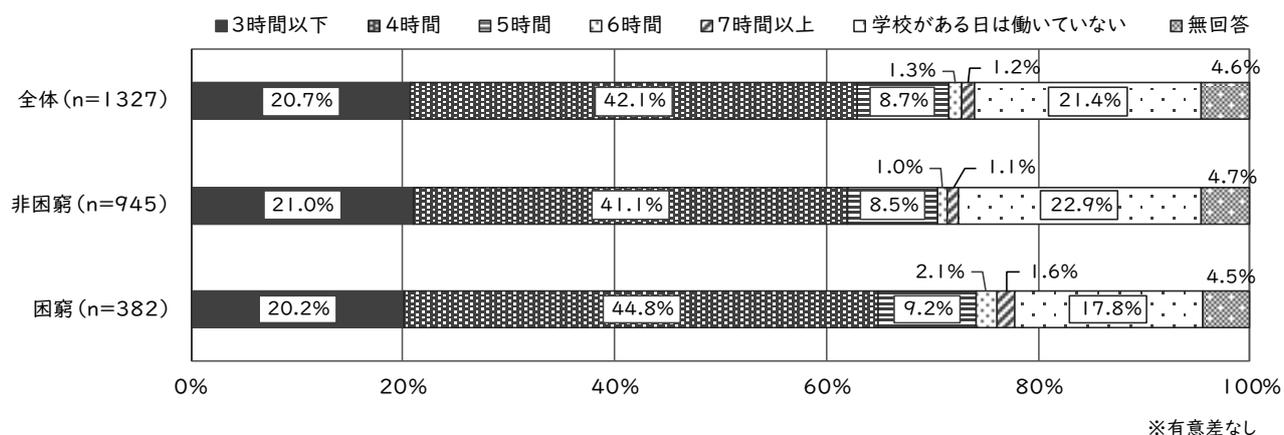
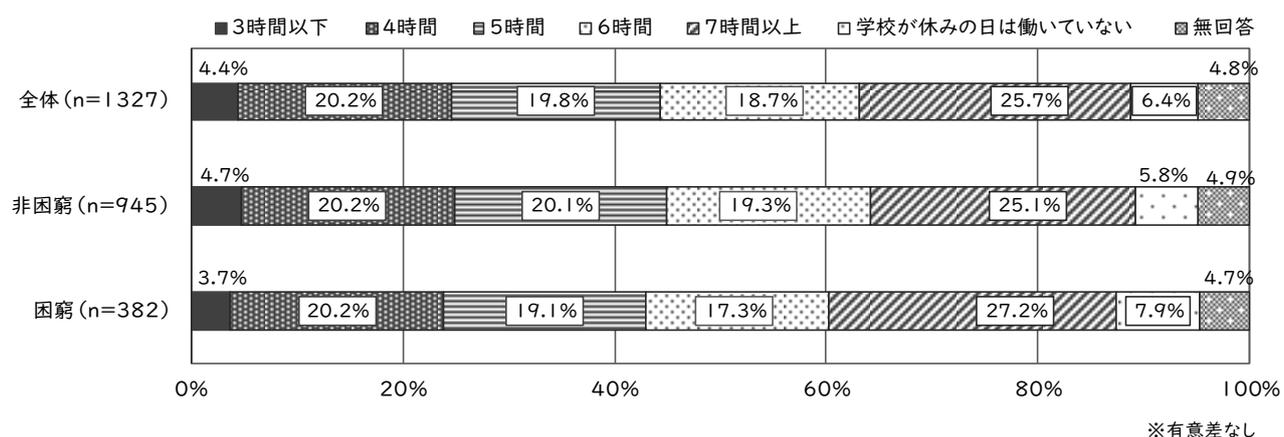


図4-2-4 【生徒】学校が休みの日(土・日)の平均的な1日あたりの勤務時間



第3節 アルバイト収入の使途

アルバイトをしていると回答した高校生に、アルバイト収入と、その使途について複数回答で尋ねました。

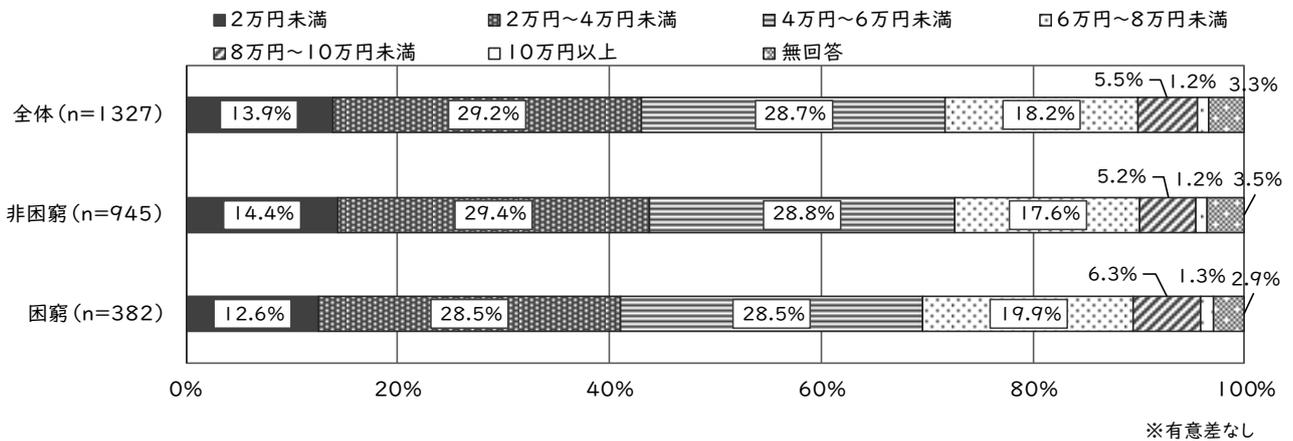
1か月当たりの平均的な収入額は、全体で「2万円未満」13.9%、「2～4万円未満」29.2%、「4～6万円未満」28.7%、「6～8万円未満」18.2%、「8～10万円未満」5.5%、「10万円以上」1.2%で、これは経済状況別にみても、ほぼ同様の傾向となっています(図4-3-1)。

アルバイト収入の使途については、全体で見ると「友だちと遊ぶ費用」(70.7%)がもっとも多く、続いて「携帯・スマートフォン代」(31.8%)、「学用品」(30.5%)、「学校の昼食代」(29.9%)となっています。経済状況別で有意差があった項目で見ると、非困窮層に比べ「家計の足し」で12.2ポイント、「携帯・スマートフォン代」で11.6ポイント、「学校の昼食代」で5.7ポイント困窮層が高くなっています。(図4-3-2)。

アルバイト収入の使途については、2016年沖縄県調査でも聞いており(図4-3-3)、質問や選択肢が異なるため単純には比較できませんが、「家計の足し」や「携帯・スマートフォン代」にあてている割合は低下した一方で、「通学のための交通費」や「友だちと遊ぶ費用」などでは増加していました。

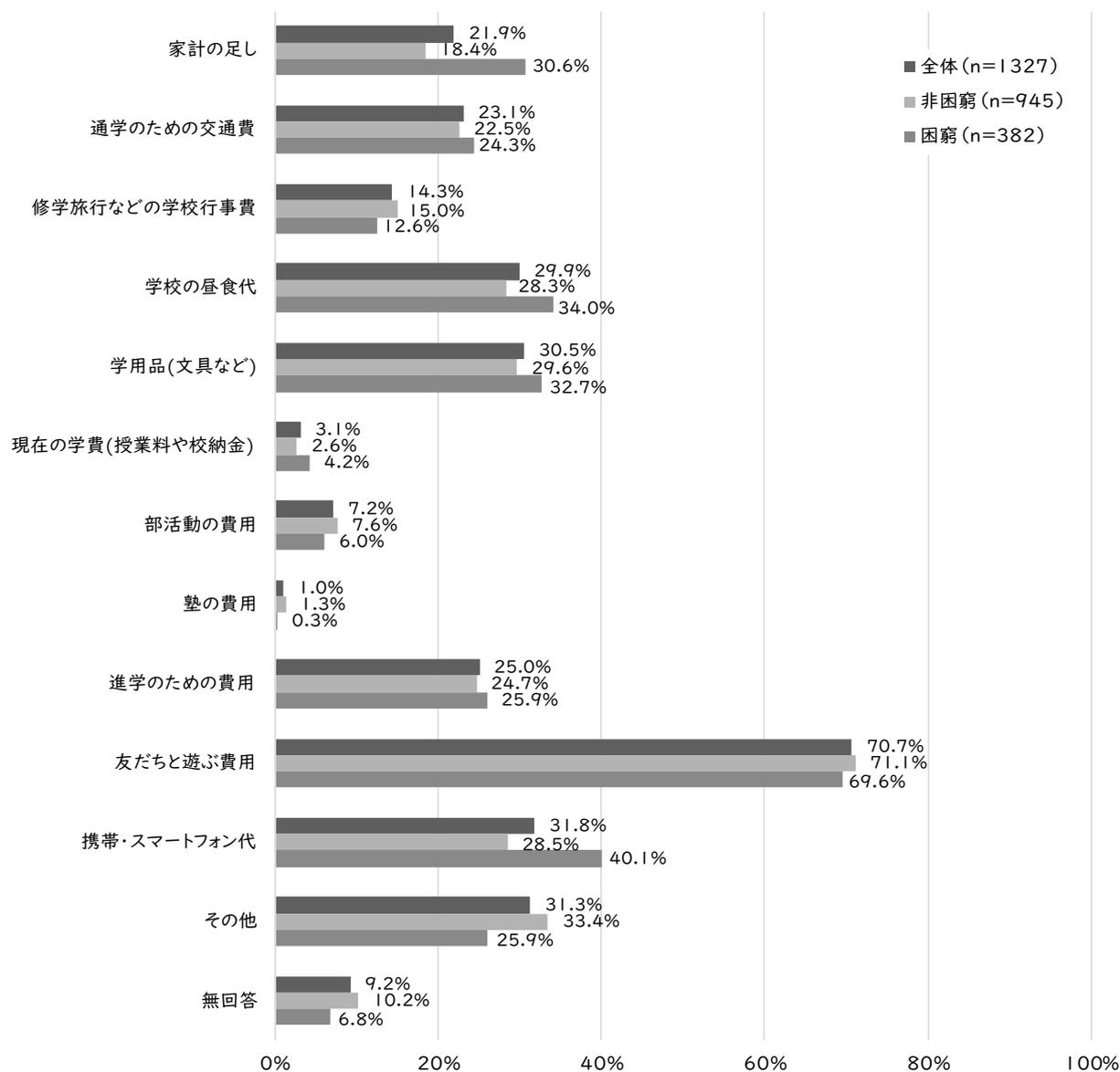
◆アルバイトで得た収入の額

図4-3-1 【生徒】1か月でどのくらいの収入がありますか。平均的な額を教えてください



◆アルバイトで得た収入の使途

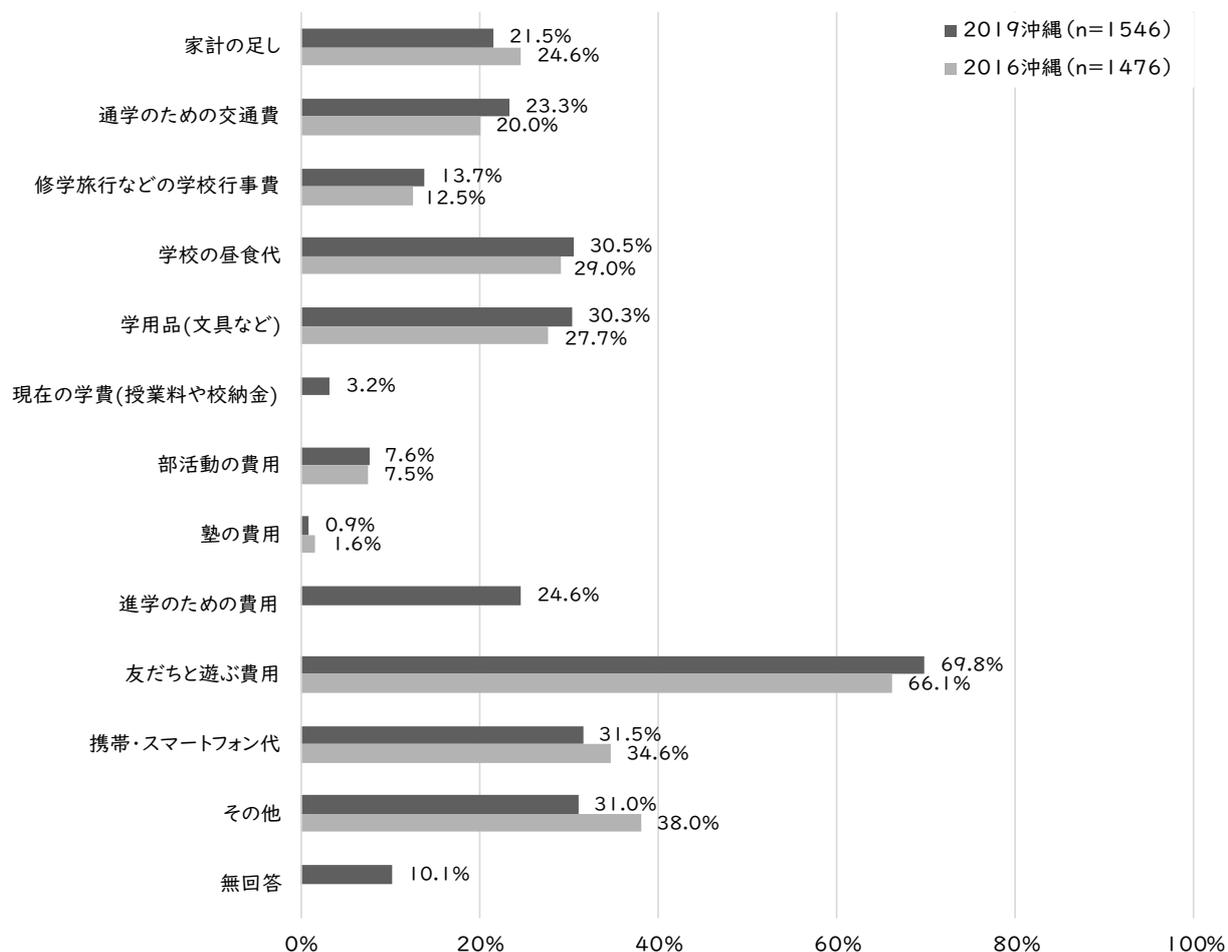
図4-3-2 【生徒】アルバイトや仕事で稼いだお金は何に使っていますか(複数回答)



※「家計の足し」「携帯・スマートフォン代」「その他」は $p < 0.01$ 、「学校の昼食代」は $p < 0.05$ 、それ以外は有意差なし

【2016年沖縄県調査との比較】

図4-3-3 【生徒】アルバイトや仕事で稼いだお金は何に使っていますか(複数回答)



注) 2016沖縄調査の質問は、「就労で稼いだお金は何に使っていますか」。
 また、2016沖縄調査にはない選択肢あり(「授業料や校納金」「進学のための費用」、無回答は2016データなし)

考 察

本章では、高校生のアルバイトの就労状況、労働環境、そして収入の使途などについて得た回答をみてきました。

第1節では、アルバイト経験の有無や就労状況について分析しました。アルバイトや仕事を「現在している」「過去にしたことがある」は35.3%となっており、2016年沖縄県調査の34.2%から1.1ポイントとわずかに上昇しています。これを経済状況別にみると、困窮層では49.2%、非困窮層31.1%と大きな差が生じていました。この傾向は2016年沖縄県調査においても同様となっていました。

そうした、アルバイトをしている高校生は、どのような労働環境におかれているのでしょうか。「一方的に急なシフト変更を命令された」、「退職を申し出てもやめさせてもらえなかった」が生じており、雇用先が高校生であることの配慮を欠いているばかりでなく、「採用時に約束した仕事以外の仕事をさせられた」、「深夜時間帯(22時以降)に働いたことがあった」など、予め雇い入れ時に提示が義務付けされている労働条件通知書の内容との齟齬や、未成年者の深夜労働禁止といった労働法令違反を示唆する状況が回答されています。また、現代の高校生のアルバイトは、補助的業務というイメージの「学生アルバイト」ではなく基幹的な労働力として位置付けられていることも指摘されていますが、退職の意思に反してやめさせてもらえなかったという回答にもあるように、県内の高校生においてもこうした事態が生じていることが推察されます。高校生が労働現場で「使い勝手のよい労働力」として扱われないよう高校生へのキャリア・労働教育の支援とともに、労使双方への労働法令の周知が必要です。また、本調査が示すように学業とアルバイトを両立しなければならない高校生がいる現状を理解し、雇用先を含めた大人社会全体で高校生を育てていくという認識が求められます。

第2節では、アルバイトをしていると回答した学生のアルバイトの日数や勤務時間について分析しました。まず、平日でみると、勤務日数では、「3日」が28.6%と最も多く、次いで「2日」20.6%、「4日」13.8%となりました。学校がある日に働いている割合は、経済状況別には困窮層で77.8%と、非困窮層の72.2%に比べ5.6ポイント高く、困窮層の高校生は平日に働いている割合がより高くなっています。また、勤務時間は、全体でも、また経済状況別でも「4時間」と回答した高校生が最も多く、4割超となりました。これらから、平日の登校日の場合、16時に学校終了後17時から4時間のアルバイト勤務をすると、21時の終業と想定されます。学校が休みの土日では、「2日」働いていると回答した高校生が全体で約5割となり、その勤務時間も「7時間以上」25.7%、「6時間」18.7%、「5時間」19.8%と、休日の多くの時間をアルバイトに費やしていることがわかりました。

以上のことから、アルバイトをする高校生は、平日・休日を通して複数日で、放課後や休日に相対的に長い時間アルバイト勤務することにより、学習時間の確保や放課後の部活動等に継続的に参加することが、より難しくなっていることが推察されます。

第3節では、アルバイト収入の使途について分析をしました。2016年沖縄県調査から増加したのは「友だちと遊ぶ費用」66.1%(2016年)から69.8%(2019年)、「学校の昼食代」29.0%(2016年)から30.5%(2019年)、「学用品」27.7%(2016年)から30.3%(2019年)、「通学のための交通費」20.0%(2016年)から23.3%(2019年)、といった高校生活関連でした。逆に、2016年沖縄県調査から減少したのは、「携帯・スマートフォン代」34.6%(2016年)から31.5%(2019年)、「家計の足し」24.6%(2016年)から21.5%(2019年)でした。また本調査では「進学のための費用」24.6%(2019年)を準備していることがわかりました。

第4章 アルバイト

高校生の授業料については、高等学校等就学支援金制度などがありますが、それ以外に発生する制服代、教材費等の「校納金」や教科書代、PTA会費、部活動費がかかり、こうした費用負担軽減のため、高校生自らがアルバイト収入をあてている状況も明らかとなりました。

「家計の足し」については、経済状況別でみると、非困窮層18.4%に対し困窮層30.6%と、12.2ポイントの差となりました。2016年沖縄県調査と比較すると、その割合は低下していますが、高校生のアルバイト収入は、授業料以外の学校生活関連の費用や「家計の足し」として未だ不可欠なものであることが映し出されています。

第 5 章

自分・親子関係

第1節 自己効力感

第1節は、高校生自身の特性的自己効力感を測ったものです(成田ら、1995)。特性的自己効力感とは、具体的な個々の課題や状況に依存せずに、より長期的に、より一般化した日常場面における行動に影響する人格特性的な認知傾向のことです。自己効力感は、人は思考や行動、感情をコントロールしていることから、自己効力感の高さがストレス反応を予防すると指摘されています(田島・奥住、2013)。

合計得点の平均点を、経済状況別に、困窮、非困窮、全体と示したものが図5-1-1、性別の平均点を示したものが図5-1-2になります。首都圏のコミュニティサンプルの平均(成田ら、1995)と沖縄の高校生の平均を比べると、女性、男性ともに有意に特性的自己効力感が低いことがわかりました(注)。また、経済状況別の影響では、有意な差は認められませんでした。

学校が楽しいかどうかを尋ねた項目の回答「楽しい」「楽しくない」「どちらとも言えない」によって、特性的自己効力感の合計得点の平均点を比較したのが、図5-1-3、図5-1-4です。「楽しい」と回答した高校生の特性的自己効力感が高く、「どちらとも言えない」「楽しくない」と回答した高校生の特性的自己効力感の平均点が男女ともに有意に低いことがわかりました。また、部活動に参加している高校生と参加していない高校生での特性的自己効力感の合計得点の平均点を比較しました(図5-1-5、図5-1-6)。すると、部活動に参加している高校生のほうが特性的自己効力感は男女ともに有意に高いという結果でした。

(注) 首都圏のコミュニティサンプルの平均は、13-17歳の年齢群で女性73.6、男性74.1となっています。

図5-1-1 【生徒】自己効力感

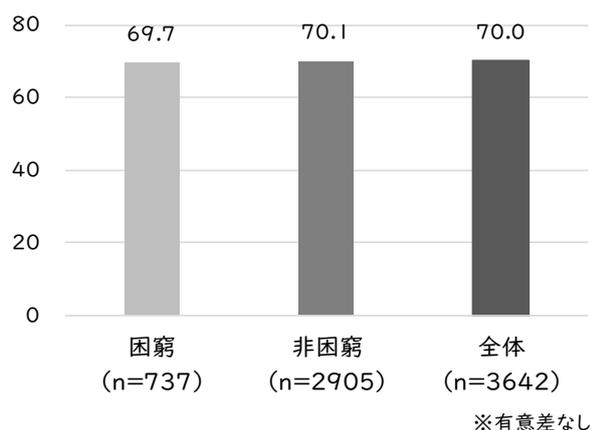


図5-1-2 【生徒】自己効力感

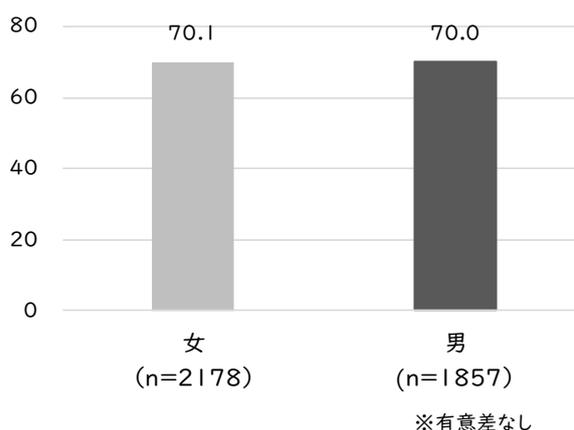


図5-1-3 【生徒／女】自己効力感×学校生活

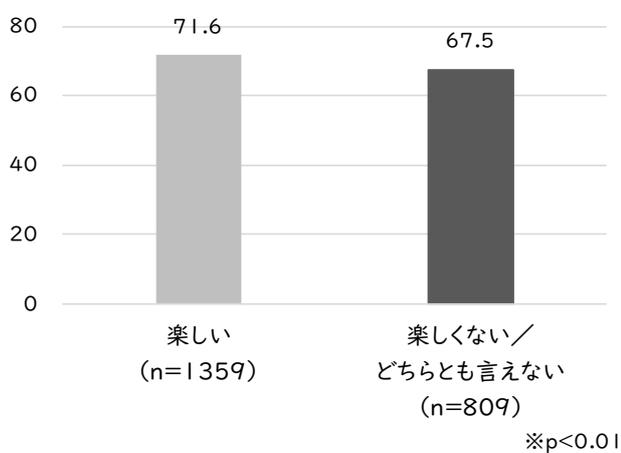


図5-1-4 【生徒／男】自己効力感×学校生活

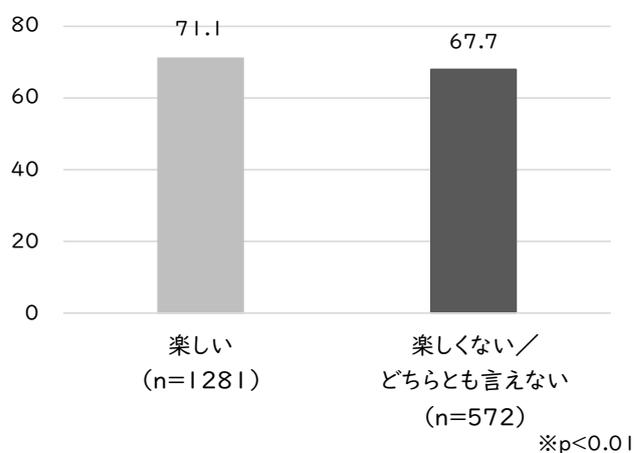


図5-1-5 【生徒／女】
自己効力感×部活動の参加

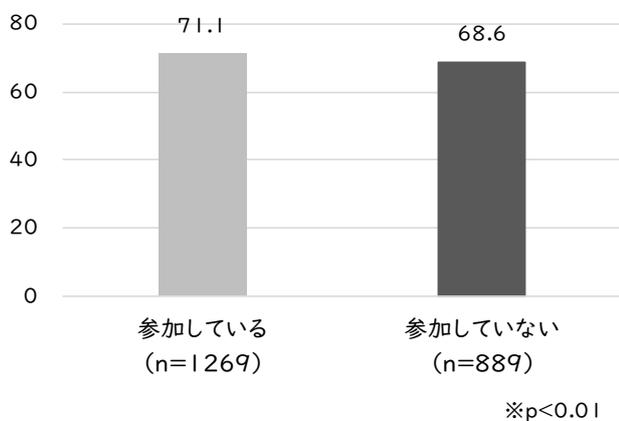
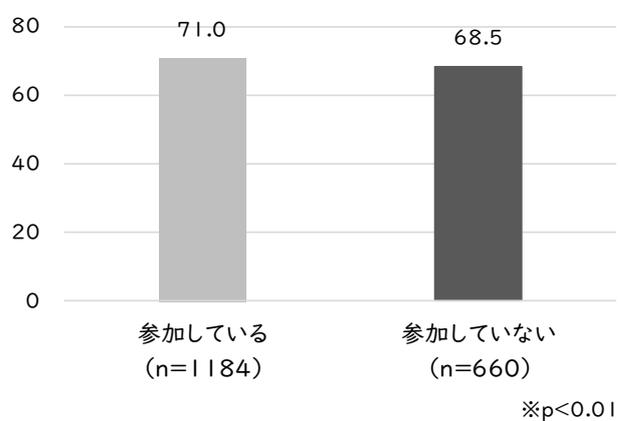


図5-1-6 【生徒／男】
自己効力感×部活動の参加



第2節 ストレスコーピング

ストレスコーピングとは、ストレスの基(ストレッサー)にうまく対処しようとすることです。コーピングは認知と行動の両側面から考えることが一般的ですが、本調査では、生活の中で習慣化した「行動」のみに焦点をあてています。保護者に「普段、強い緊張を感じたり、簡単に処理できないことが起きたりした時にとる行動」を尋ねています。

分析は2段階で行っています。第1分析は、経済状況による回答傾向の差をみています(図5-2-1から図5-2-9)。第2分析は、経済状況に成人する前の逆境経験の有無を加えた時の回答傾向の差をみています(図5-2-10から図5-2-18)。逆境経験とは、「両親が離婚した」「親が生活保護を受けていた」「母親が亡くなった」「父親が亡くなった」「親から暴力を振るわれた」「育児放棄(ネグレクト)された」経験のことを指しています。なお、逆境経験は主に第7章第9節でも扱っており、詳細はそちらをご覧ください。

【積極的な問題解決】の項目である「その問題を解決するために、慎重にプランをたてる」は、経済状況による差があり、「あてはまる」の回答は非困窮層が31.9%、困窮層が24.3%でした(図5-2-1)。また、「専門家の援助を得る」についても経済状況による差があり、「あてはまる」が非困窮層で8.5%、困窮層で7.9%、「あてはまらない」が非困窮層で67.3%、困窮層で72.4%でした。さらにこの項目では、非困窮層において逆境経験あり(11.6%)と経験なし(7.7%)の差がみられました(図5-2-3と図5-2-12)。

【諦め】の項目である「何事もなかったかのようにふるまう」は、経済状況による差があり、「あてはまる」の回答は非困窮層が17.7%、困窮層が21.8%でした(図5-2-7)。さらに経済状況にかかわらず、逆境経験がない人よりもある人のほうがあてはまる人が多くなっていました(図5-2-16)。また、【逃避】の項目である「喫煙や飲酒の量が増える」でも、同様の傾向がみられました(図5-2-8と図5-2-17)。なお、「ギャンブルの頻度が増える」は、全体の95%以上が「あてはまらない」と回答していました(図5-2-9)。

【感情の抑制】の項目である「自分の嫌な気持ちを外に表さないようにする」は、経済状況による差があり、「あてはまる」の回答は困窮層が27.2%、非困窮層が19.8%でした(図5-2-5)。さらに困窮層において逆境経験あり(33.3%)と経験なし(24.0%)で差がありました(図5-2-14)。また、「問題を起こした人に怒りをぶつける」は、全体的に「(少し)あてはまる」と「あてはまらない」がほぼ同割合でした(図5-2-2)。経済状況による差があり、困窮層が非困窮層よりも「あてはまる」と回答し、非困窮層において逆境経験あり(9.2%)と経験なし(5.8%)で差がありました(図5-2-11)。

図5-2-1 【保護者】その問題を解決するために、慎重にプランをたてる

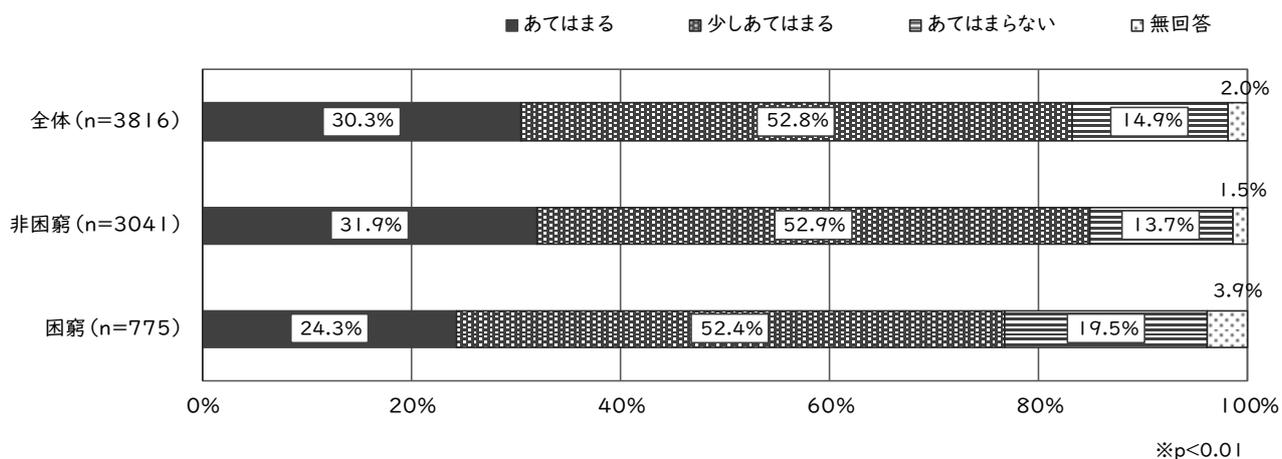


図5-2-2 【保護者】問題を起こした人に怒りをぶつける

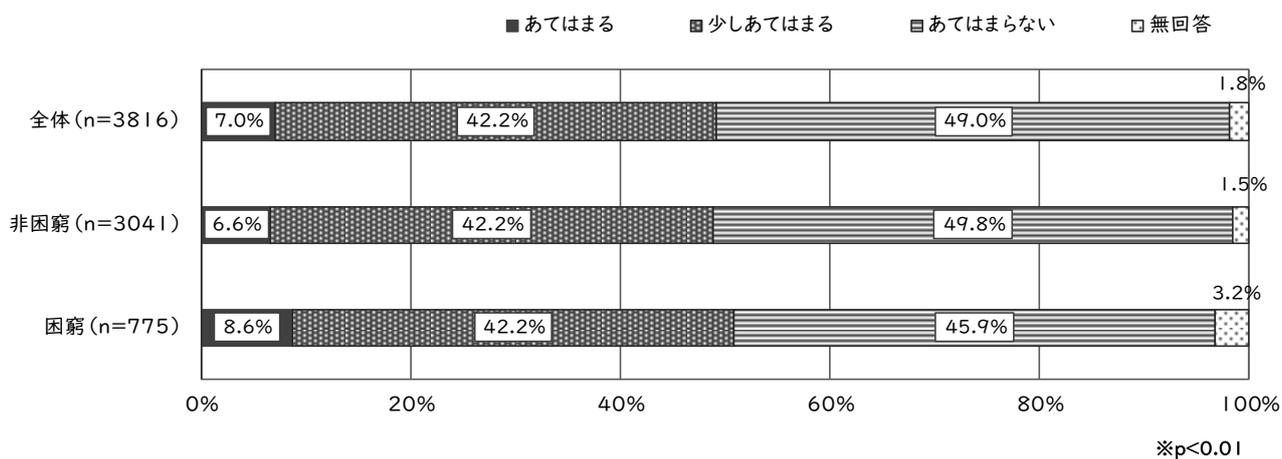


図5-2-3 【保護者】専門家の援助を得る

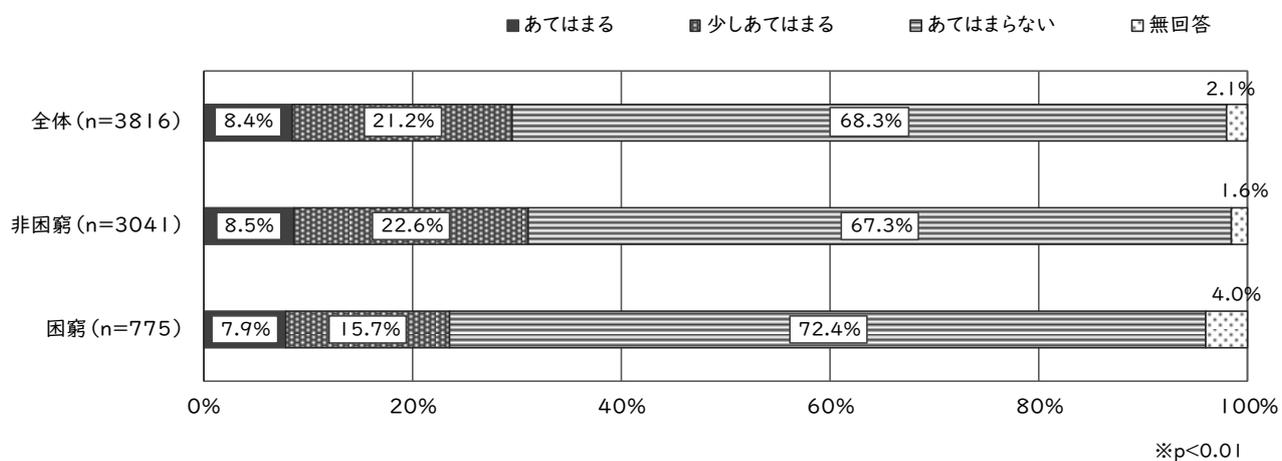


図5-2-4 【保護者】衝動買いをする

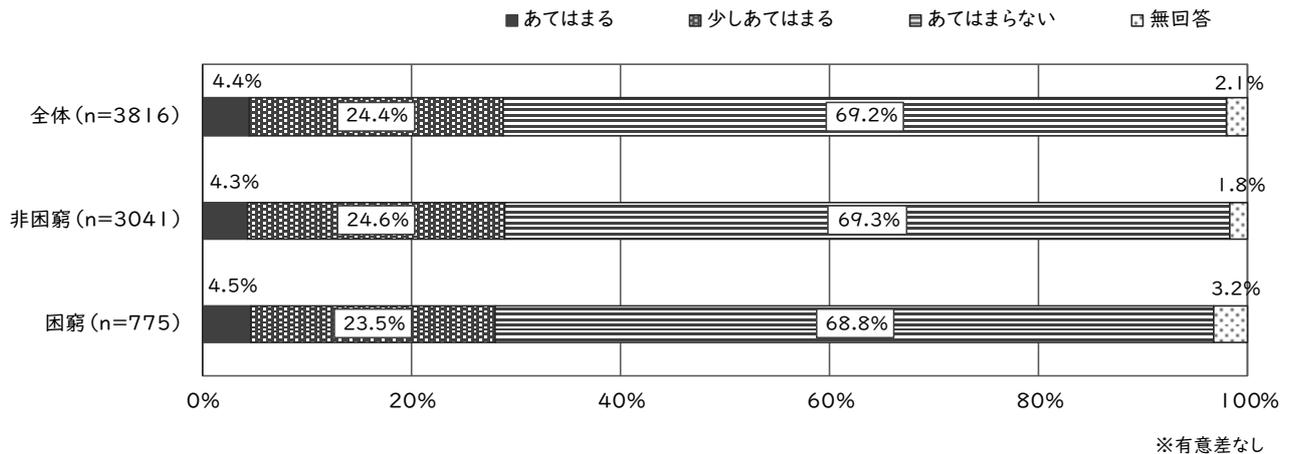


図5-2-5 【保護者】自分の嫌な気持ちを外に表さないようにする

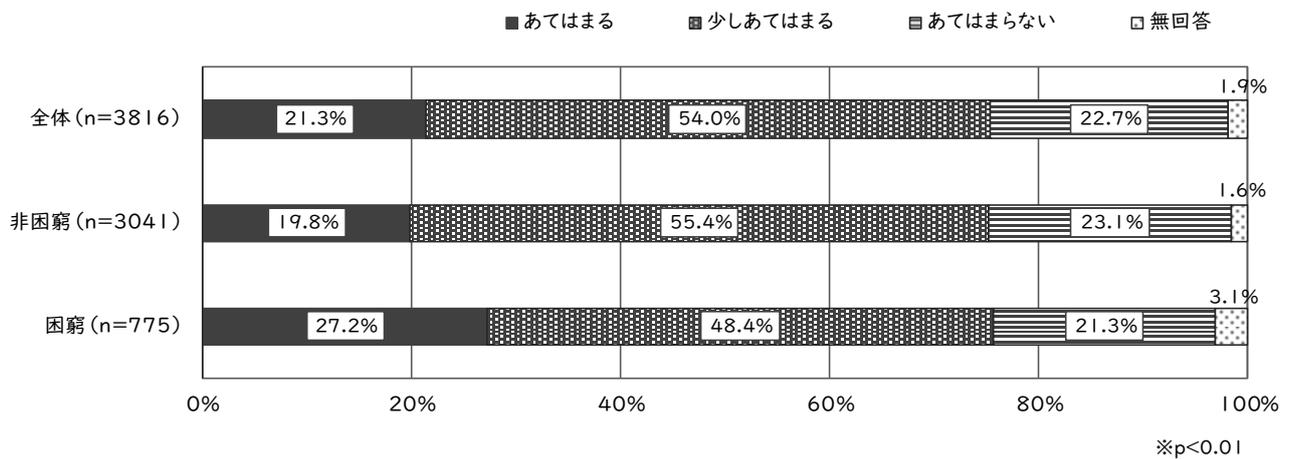


図5-2-6 【保護者】気を紛らわすために、おいしいものを食べる

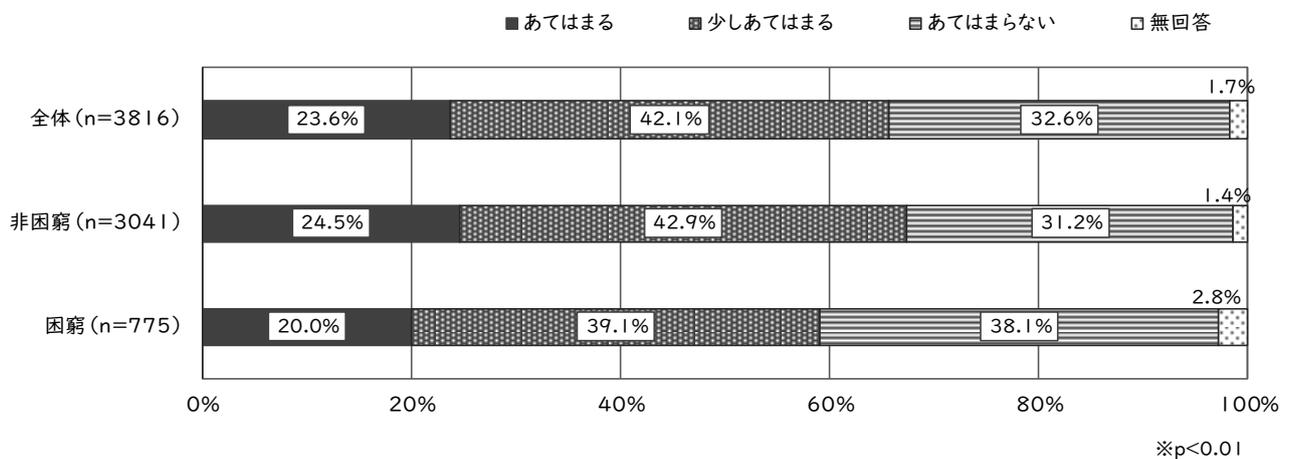


図5-2-7 【保護者】何事もなかったかのようにふるまう

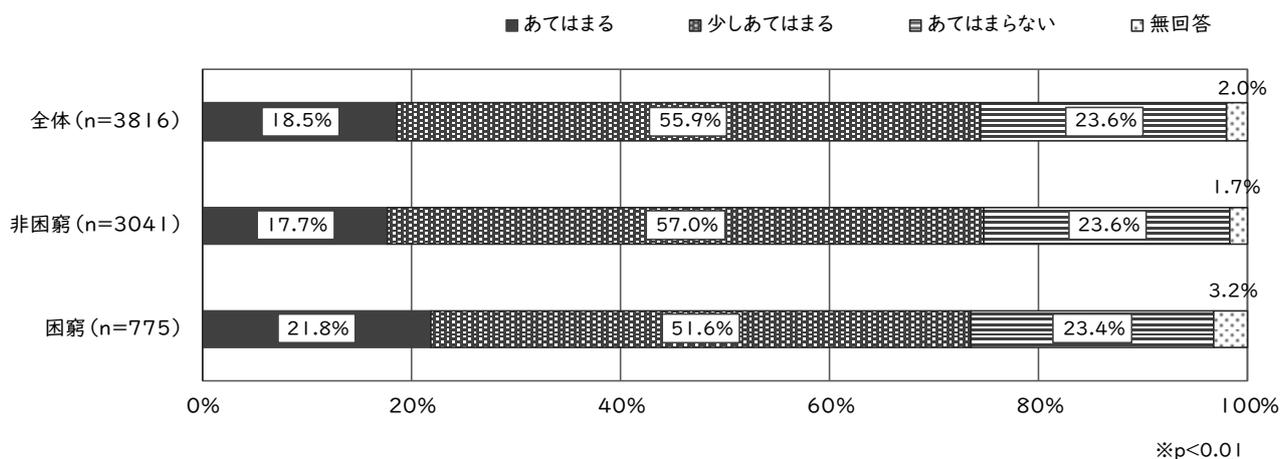


図5-2-8 【保護者】喫煙や飲酒の量が増える

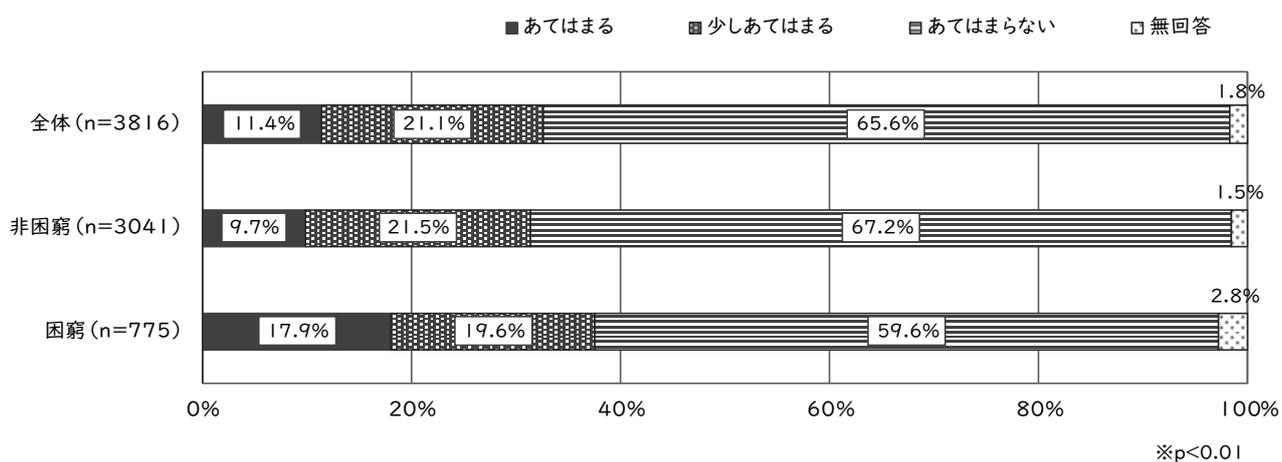
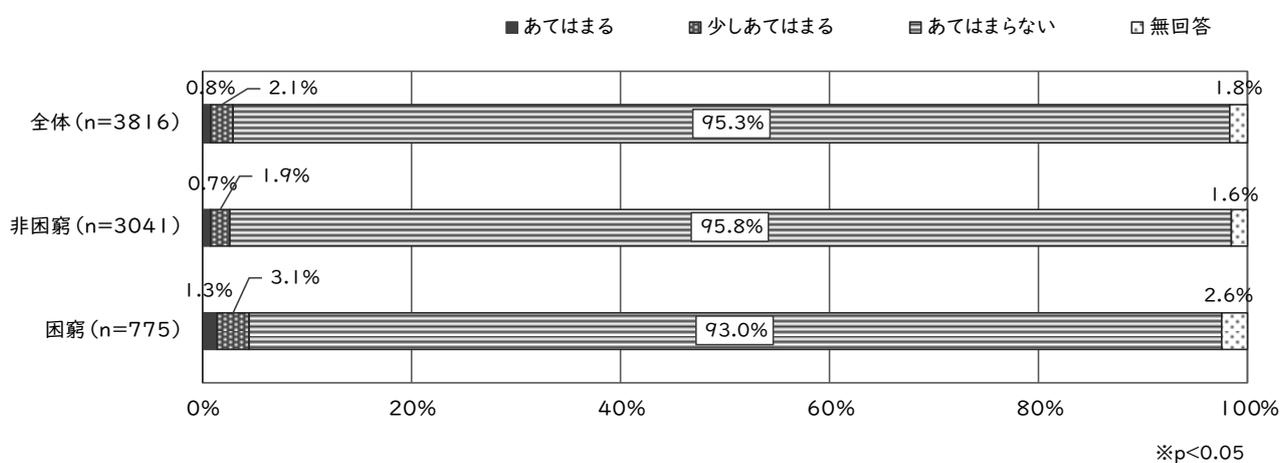


図5-2-9 【保護者】ギャンブルの頻度が増える



【世帯所得×成人前の経験】

※図5-2-10から図5-2-19は、困窮、非困窮それぞれ「経験あり」「経験なし」で検定をおこなった。

図5-2-10【保護者】その問題を解決するために、慎重にプランをたてる(世帯所得×成人前の経験)

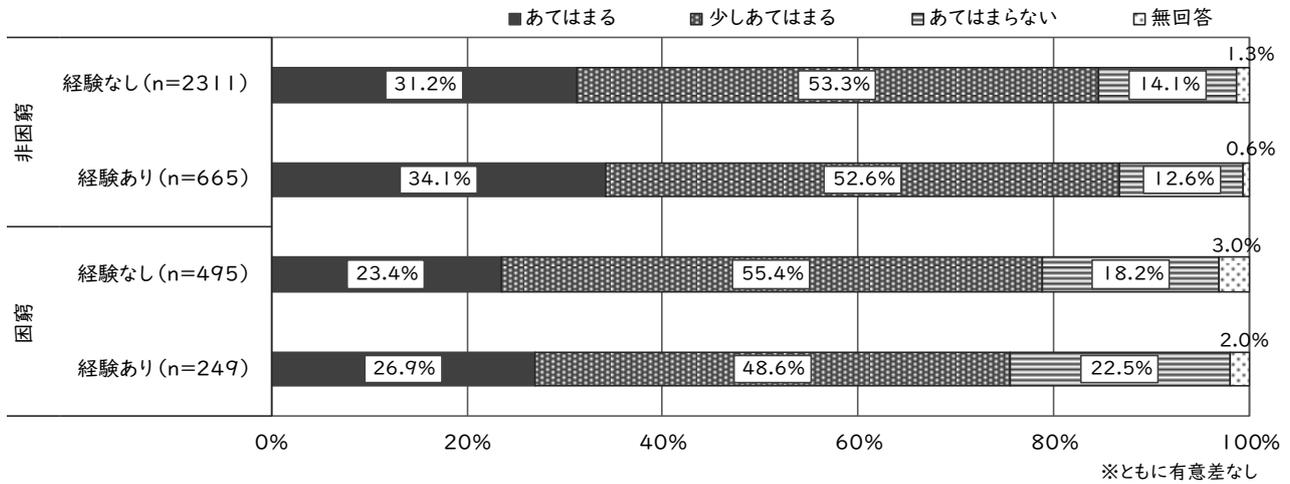


図5-2-11【保護者】問題を起こした人に怒りをぶつける(世帯所得×成人前の経験)

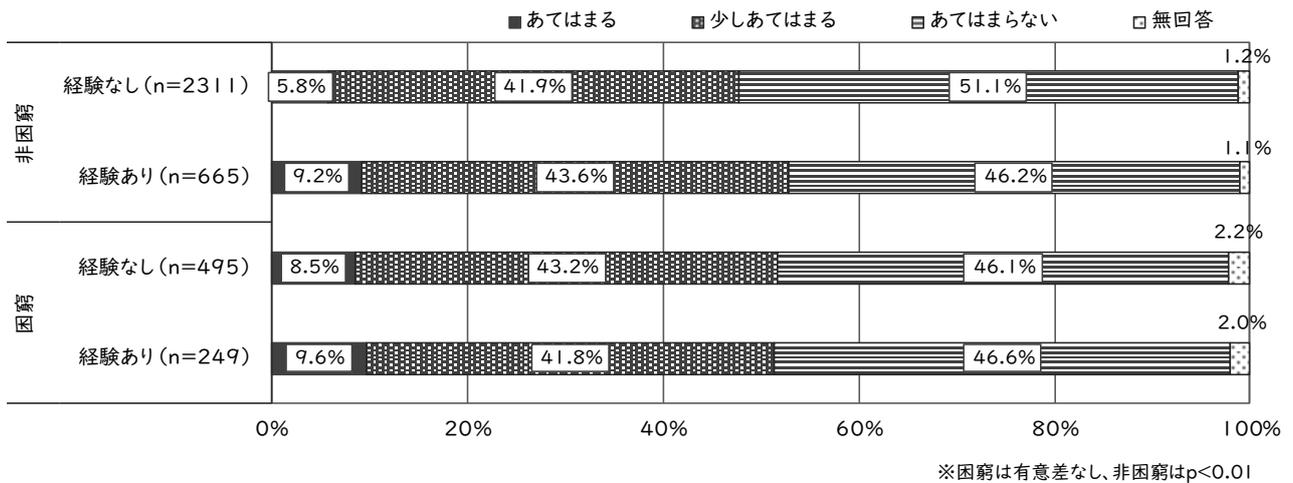


図5-2-12【保護者】専門家の援助を得る(世帯所得×成人前の経験)

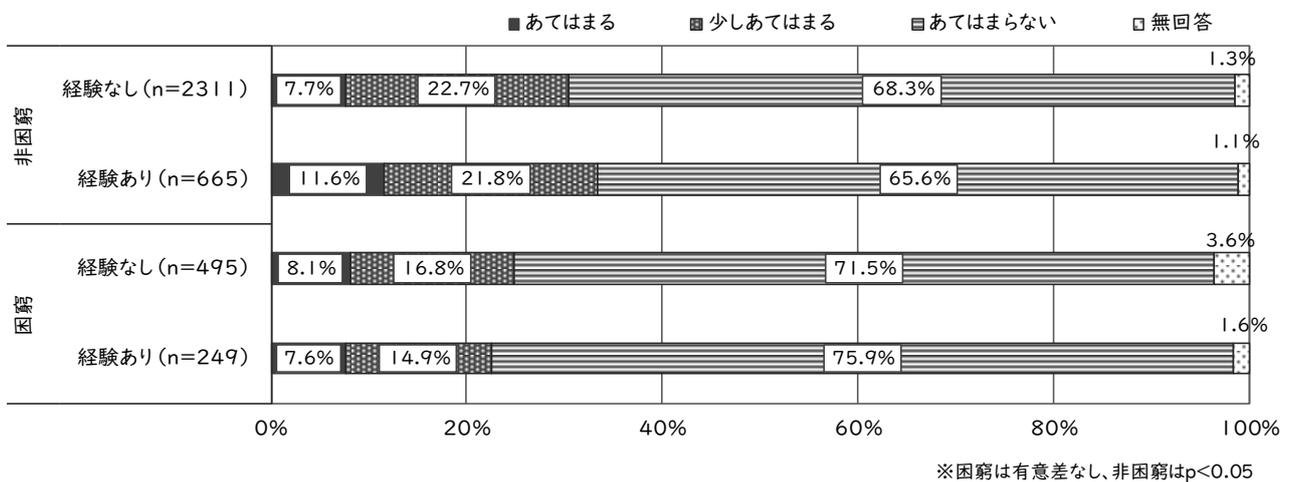


図5-2-13 【保護者】衝動買いをする(世帯所得×成人前の経験)

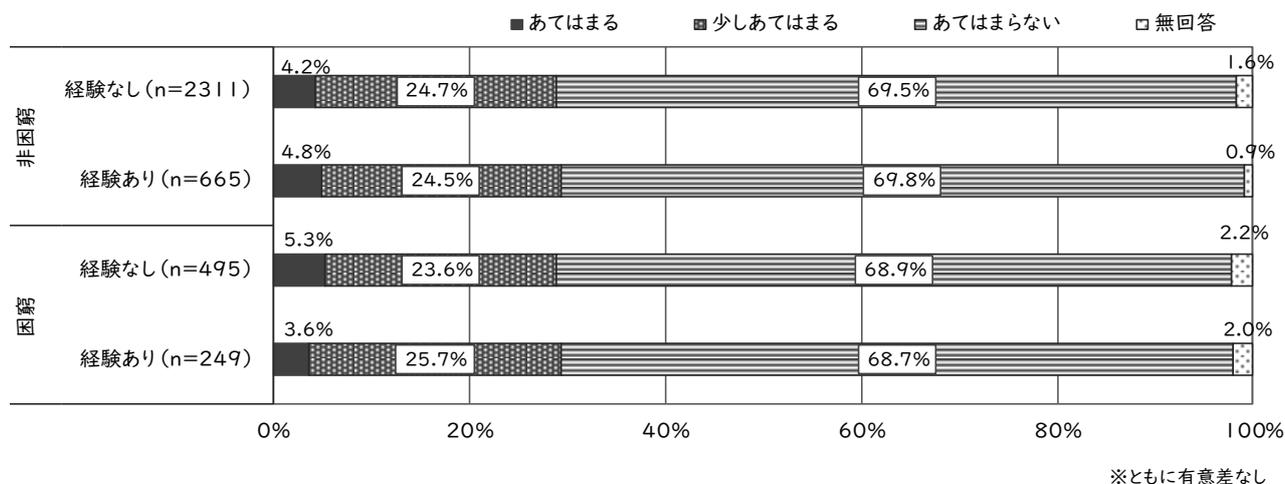


図5-2-14 【保護者】自分の嫌な気持ちを外に表さないようにする(世帯所得×成人前の経験)

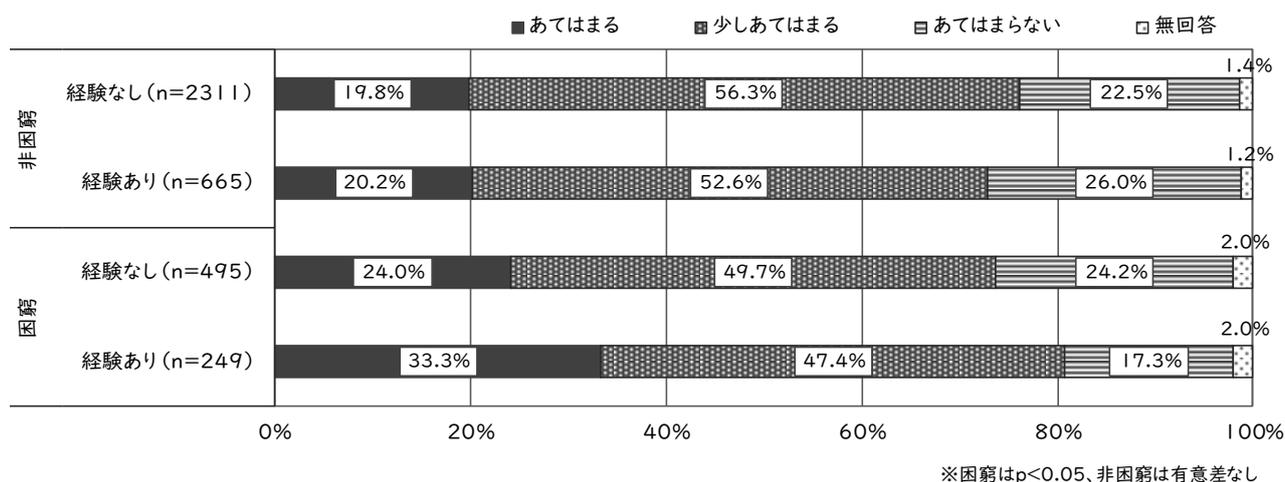


図5-2-15 【保護者】気を紛らわすために、おいしいものを食べる(世帯所得×成人前の経験)

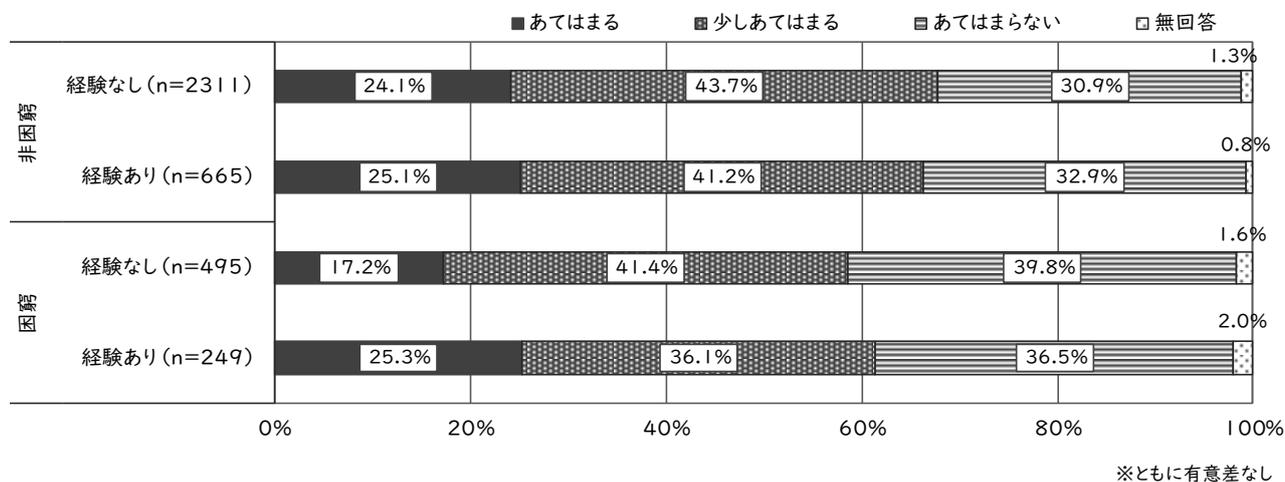


図5-2-16 【保護者】何事もなかったかのようにふるまう(世帯所得×成人前の経験)

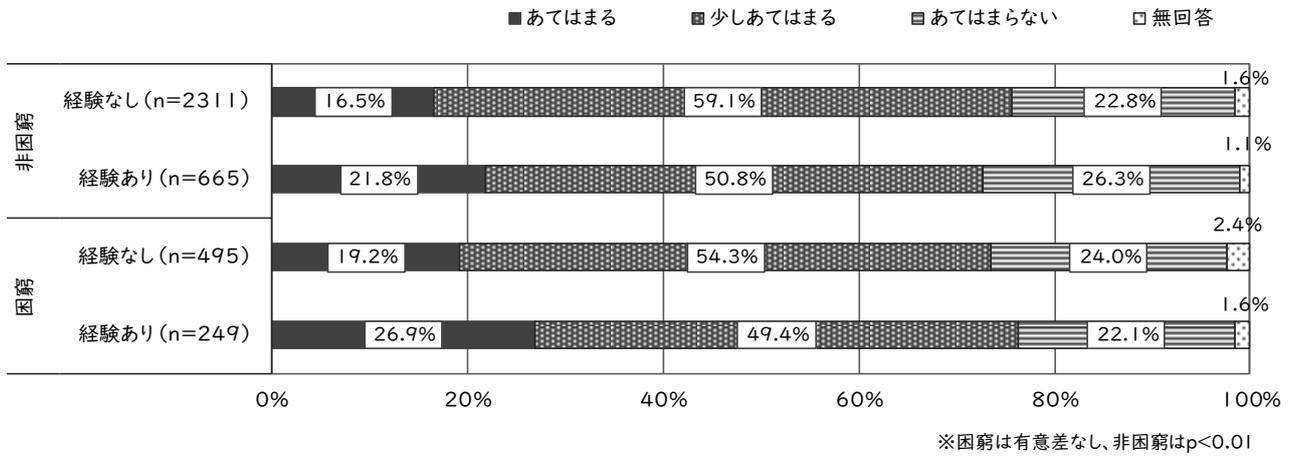


図5-2-17 【保護者】喫煙や飲酒の量が増える(世帯所得×成人前の経験)

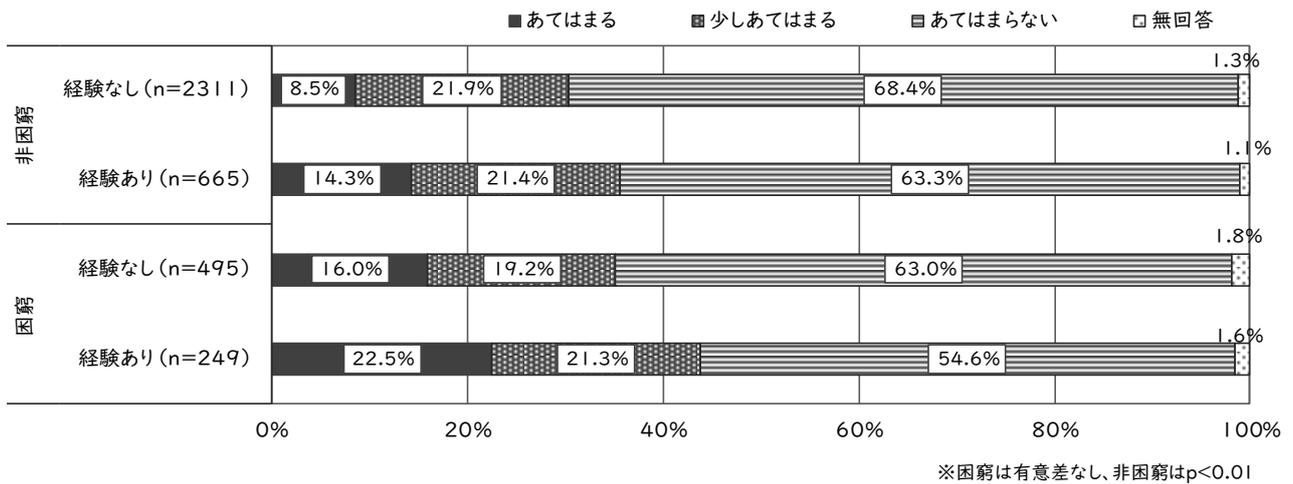
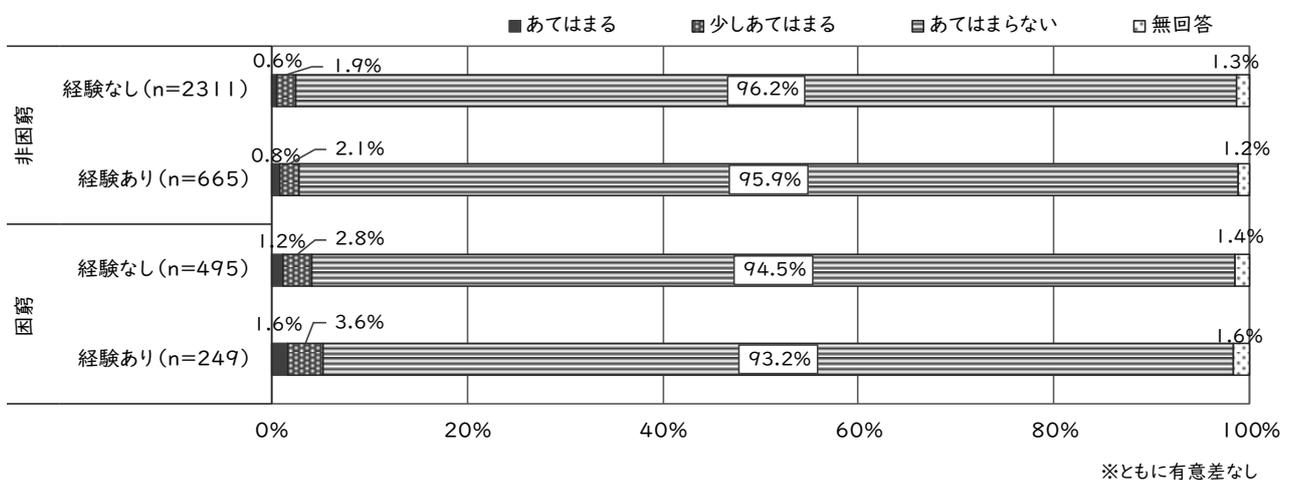


図5-2-18 【保護者】ギャンブルの頻度が増える(世帯所得×成人前の経験)



第3節 親子関係

第3節は、保護者の子どもに対する信頼感を測ったものです(酒井ら、2002)。「この子はだれよりも私が好きだと思う」や「この子は私と一緒にいて幸せだと思う」等の8項目について、「あてはまる」から「あてはまらない」の4段階評定で尋ねました。各8項目加算した得点を、母親・父親のそれぞれが子どもに対しての信頼感尺度の得点とし、平均点を比較しました。

図5-3-1は、母親からみた親子の信頼感、図5-3-2は、父親からみた親子の信頼感です。堀(2007)監修の尺度集に示されている高校生の保護者の平均(注)と沖縄県の高校生の保護者の平均を比べると全体的には、母親、父親ともに親子の信頼感が高いことがわかりました。経済状況別の影響の有無は、母親が子どもに抱く信頼感において、困窮層のほうが有意に低いことがわかりました。父親が子どもに抱く信頼感には、経済状況別の差は認められませんでした。さらに、項目ごとに経済状況別の影響をあてはまる割合でみると(図5-3-3から図5-3-10)、母親から子どもに抱く信頼感では、「この子はだれよりも私のことを信頼していると思う」「この子は私と一緒にいて幸せだと思う」「この子のことは信頼できる」「私はこの子と一緒にいて幸せだ」「私はこの子のことが大好きだ」「この子は私の気持ちがよくわかると思う」の項目において、困窮層のほうが有意に低い結果でした。父親から子どもに抱く信頼感では、困窮層が少なかったために、各項目の分析までは行うことができませんでした。

(注)堀監修の尺度集に示されている保護者の平均は、母親3.09、父親2.92となっています。

図5-3-1 【保護者／母親】親子関係

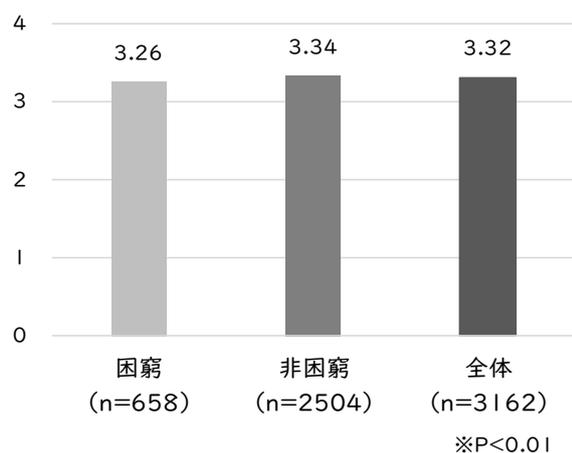
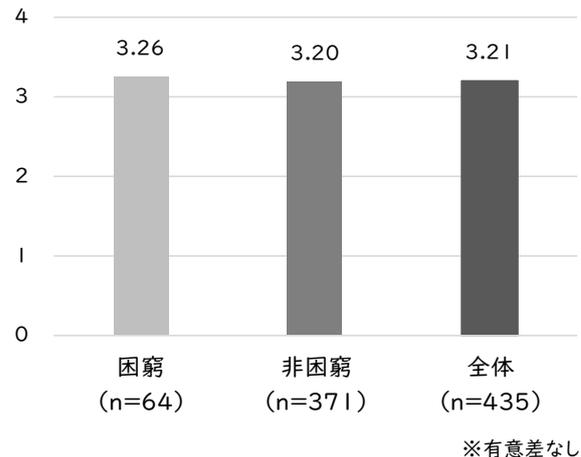


図5-3-2 【保護者／父親】親子関係



【項目別】

図5-3-3 【保護者／母親】この子はだれよりも私が好きだと思う
 (「あてはまる」+「ややあてはまる」の割合)

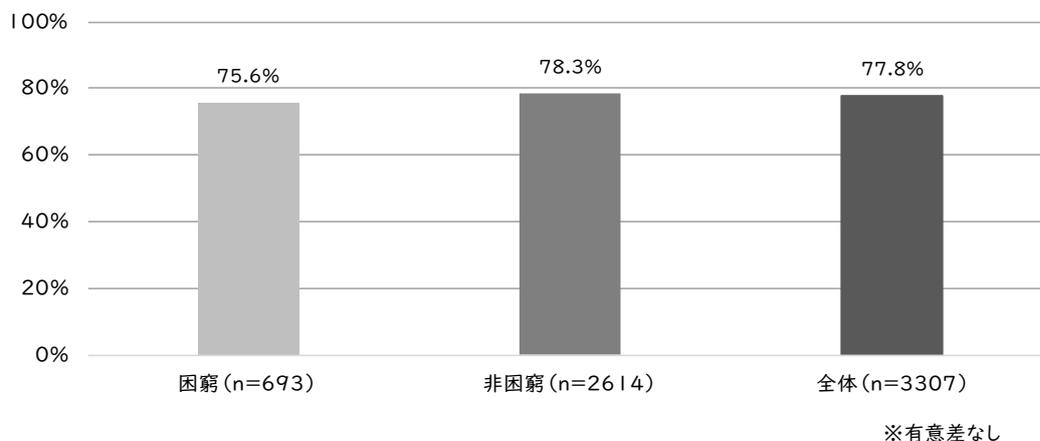


図5-3-4 【保護者／母親】この子はだれよりも私のことを信頼していると思う
 (「あてはまる」+「ややあてはまる」の割合)

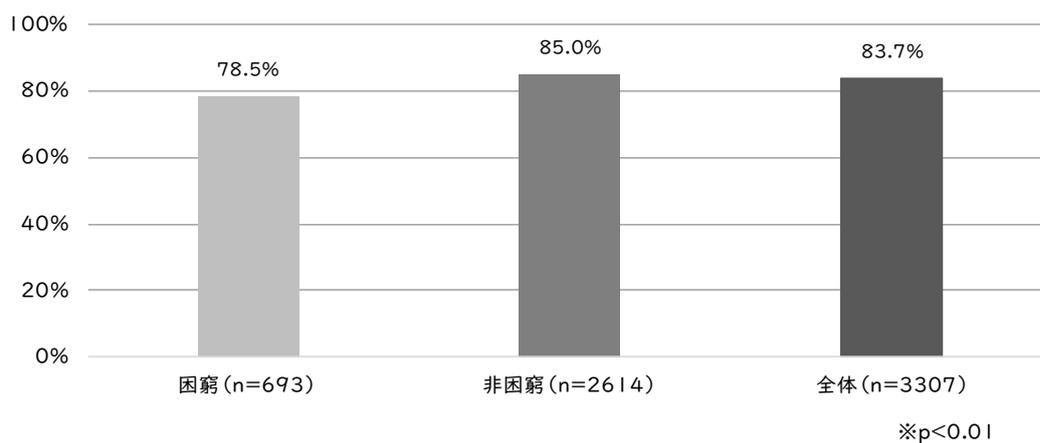


図5-3-5 【保護者／母親】この子は私と一緒にいて幸せだと思う
 (「あてはまる」+「ややあてはまる」の割合)

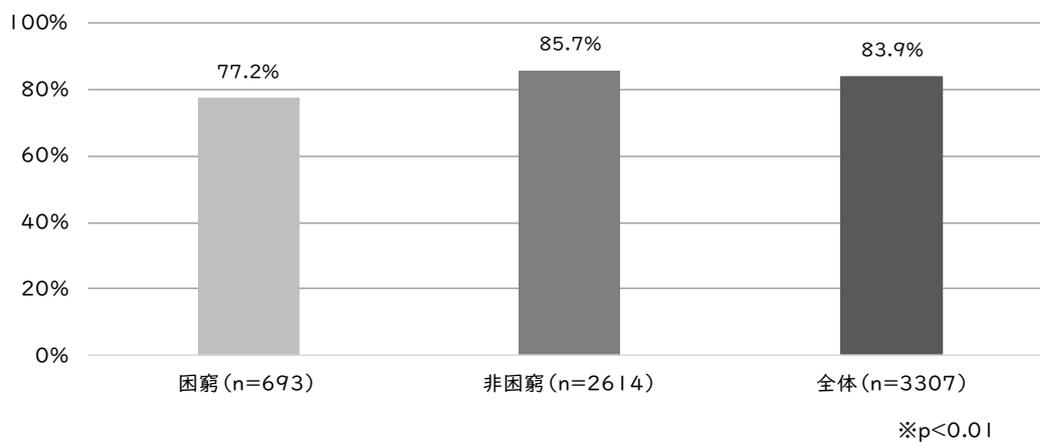


図5-3-6 【保護者／母親】この子が何を考えているか、どうしたいかはだれよりも私がわかっていると思う(「あてはまる」+「ややあてはまる」の割合)

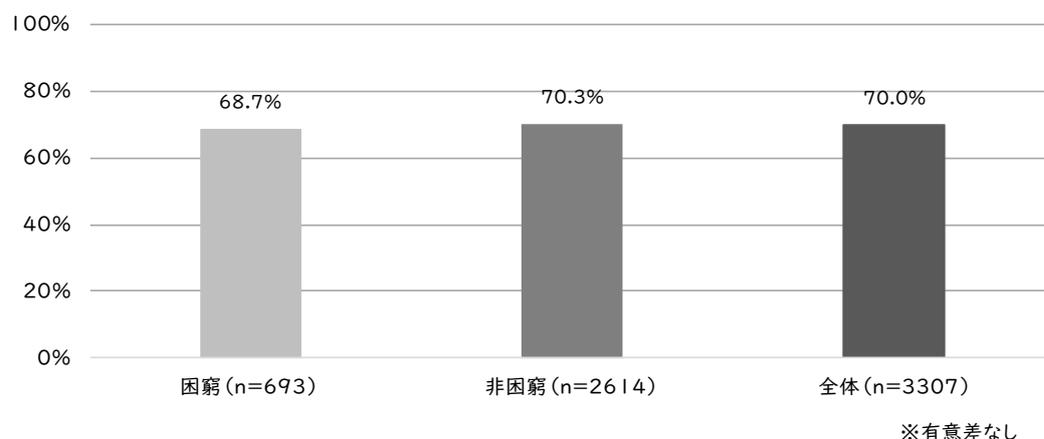


図5-3-7 【保護者／母親】この子のことは信頼できる(「あてはまる」+「ややあてはまる」の割合)

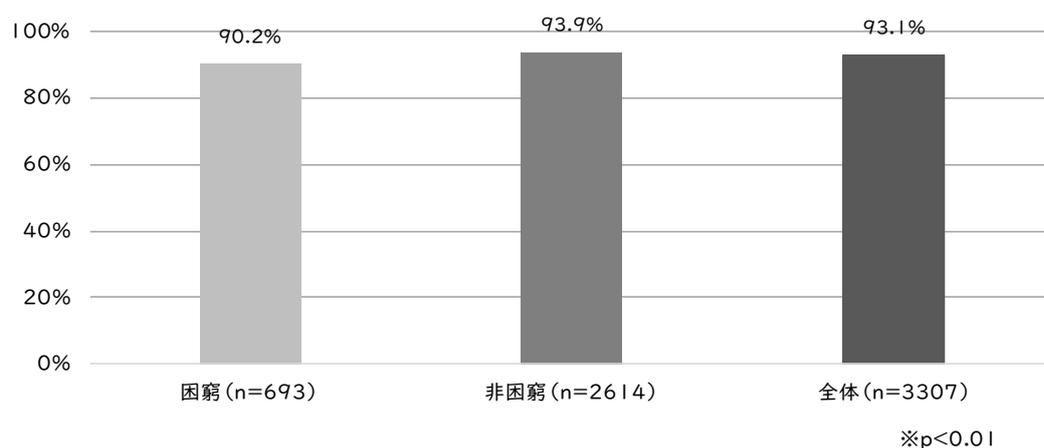


図5-3-8 【保護者／母親】私はこの子と一緒にいて幸せだ(「あてはまる」+「ややあてはまる」の割合)

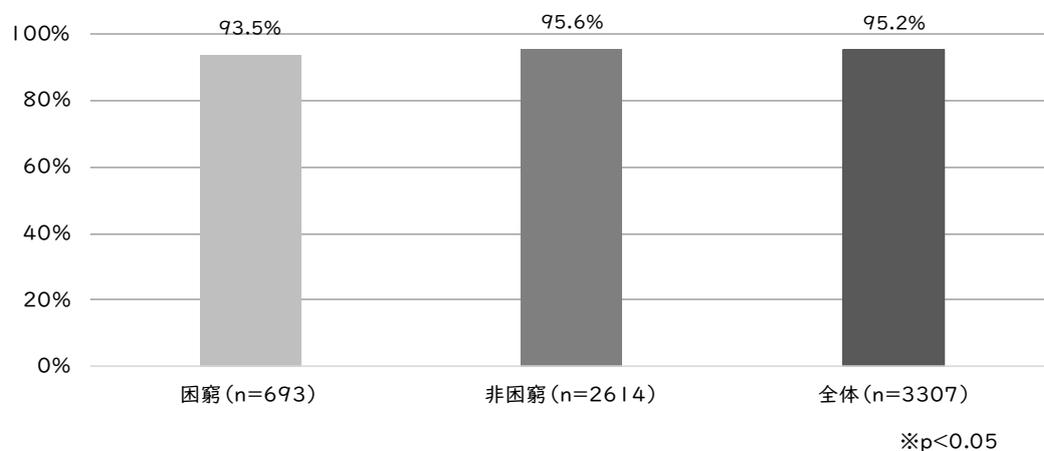


図5-3-9 【保護者／母親】私はこの子のことが大好きだ
（「あてはまる」+「ややあてはまる」の割合）

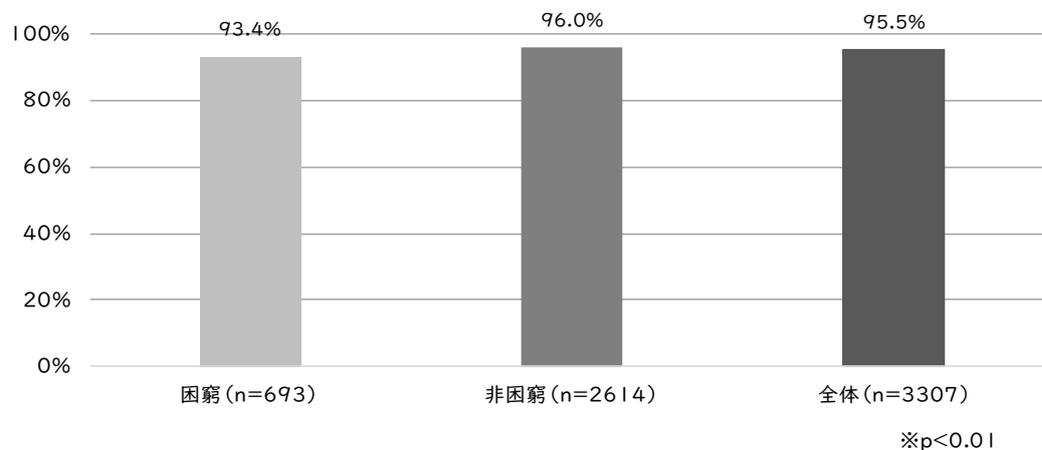
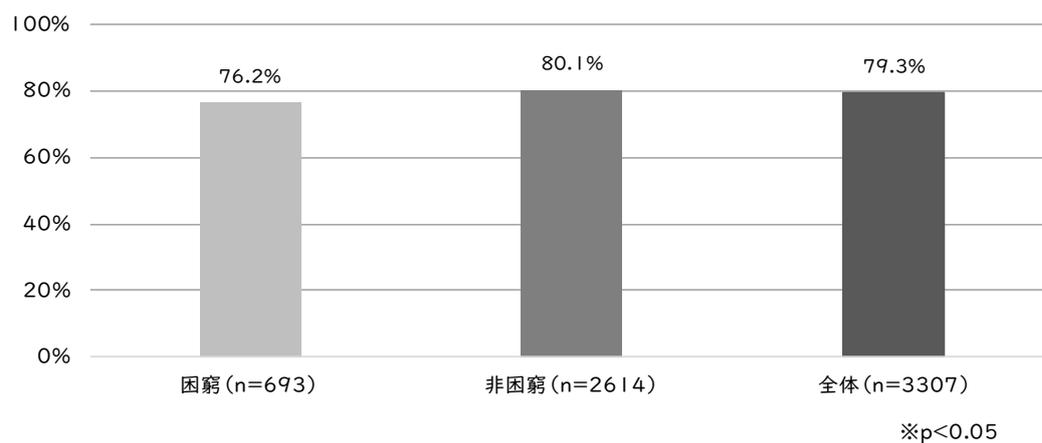


図5-3-10 【保護者／母親】この子は私の気持ちがよくわかると思う
（「あてはまる」+「ややあてはまる」の割合）



考 察

本章は、高校生自身の日常場面における行動に影響する人格特性的な認知傾向をみるために特性的自己効力感、保護者本人のストレス場面における対処法(コーピング)、高校生と保護者の親子関係を親からの信頼関係という観点に焦点をあてて分析しました。

第1節は、高校生自身の視点から、第2節と第3節では、保護者の視点から分析しました。2016年沖縄県調査と2019年沖縄県調査とは、尋ねる項目が異なるため、経年比較はできませんでした。

第1節の高校生本人の特性的自己効力感は、首都圏のコミュニティサンプルの平均(成田ら、1995)と沖縄の高校生の平均を比べると、男女とも有意に低いことがわかりました。また、経済状況別の影響はみられません。思春期の自己効力感はいくつかの研究により、他の年齢よりも低くなるということが報告されています。本調査は、県立高校に通学している高校生のみが対象だったため、沖縄県の高校生全体の特性的自己効力感が低いということはできません。ただ、学校が「楽しい」と感じている高校生や部活動に参加している高校生は、学校を「楽しくない」と感じている高校生や部活動に参加していない高校生よりも特性的自己効力感が有意に高いという結果から、学校での過ごし方が、特性的自己効力感の高低に影響が大きいことがうかがえます。

第2節では、保護者自身に習慣化したストレス対処行動をみています。これらの行動が、心身の健康とストレス反応の増減にどの程度影響し得るのかは、どのような文脈で生じた状況に対し、どのような意図や目的をもってなされたものなのかによって変わります。本調査では、どのような状況を想定して回答したかは尋ねていないため、一般的な考察にとどめています。

【積極的な問題解決】は、心理的・身体的ストレス反応の低減につながりやすいとされています。「問題解決のために、慎重にプランをたて」、何か具体的な行動を起こす際には、費用が発生することがあります。「専門家の援助を得る」ためにも、相談内容や機関によっては有料の場合があります。そのため、経済状況による差がみられたのではないかと考えられます。また、逆境経験の有無によって「専門家の援助を得る」ことに違いがみられたのは、逆境経験がある場合、人生の過程で援助希求スキルを身につけてきた人が多い可能性が考えられます。

直面する問題の解決を見送ってその状況を受け入れる【諦め】と、物理的・心理的に問題から距離をおく【逃避】は、単独ではストレス反応の低減に結びつく可能性が低い方略とされています。しかし、状況を客観視し、休息の機会を得ることができると、長期化したストレスや対処が難しいストレスに対しては、ストレス反応の低減に結びつくこともあるとされています。逆境経験がある人に【諦め】や【逃避】の方略をとる人が多くみられたのは、辛い状況を受け入れたり問題から距離をとったりする方略を、ストレス反応のさらなる上昇を抑制するためのスキルとして身につけざるを得なかった可能性も考えられます。ただし、より健康的な対処法を学び、それを生活の中で習慣化させることが、心身の健康にとって重要なことなのかもしれません。

過剰に【感情を抑制する】ことは、心身のストレス反応を増幅させ、パフォーマンスの低下につながることが指摘されています。そのため、ネガティブな感情を周囲に受け入れられる形で適切に表出しながら、問題解決をはかることが重要だといえます。本調査では、感情を抑制し過ぎる人や、感情のコントロールが難しく怒りを相手にぶつけてしまう方略を身につけざるを得なかった人の存在が確認できました。経済状況や過去の逆境経験が影響を及ぼしている可能性も考えられます。より良い人間関係を構築するために、自分も相手も大切に自分の考えを伝える方法などを、大人世代が学ぶ機会を増やしていく必要もあるのではないのでしょうか。

第3節の母親、父親それぞれからの高校生に対する信頼感は、堀(2007)監修の尺度集に示されている高校生の保護者の平均より沖縄県の高校生の保護者の平均が全体的に、母親、父親共に高いことがわかりました。経済状況別の影響としては、母親が高校生に抱く信頼感において、困窮層の方が有意に低いことがわかりました。父親が高校生に抱く信頼感は、経済状況別の影響の差は認められませんでした。さらに、項目ごとに経済状況別の影響を分析すると、「この子はだれよりも私のことを信頼していると思う」「この子は私と一緒にいて幸せだと思う」「この子のことは信頼できる」「私はこの子と一緒にいて幸せだ」「私はこの子のことが大好きだ」「この子は私の気持ちがよくわかると思う」の項目において、困窮層より、非困窮層が有意に高いことが明らかになりました。親との間に信頼関係を形成できていることが、子どもである高校生の精神的健康や対人関係、問題行動等にも大きく関わるのがこれまでの研究により認められています。

本調査では、高校生からみる保護者への信頼感は測ることはできていません。しかし、母親が高校生の事を信頼できる、一緒にいて幸せであると信頼をすること、また高校生からの信頼を保護者が感じる事ができているかということが、経済状況別の影響により低くなり、子どもとの信頼関係をとりづらくなることは、高校生の今後の精神的問題、反社会的傾向への影響にもつながることが予測されます。乳幼児期において、親子関係などのサポートは充実が図られていますが、高校生の時期においても、高校生や保護者を対象とした親子の信頼関係をとれるための相談、関わり方の支援、家族を包括的にサポートできる仕組みづくりも検討していくことが必要ではないかと考えられます。

【参考文献】

堀洋道監修(2001)『心理測定尺度集<I>』サイエンス社、p37-42

堀洋道監修(2007)『心理測定尺度集<IV>』サイエンス社、p176-182

成田健一・下仲順子・中里克治・河合千恵子・佐藤眞一・長田由紀子(1995)「特性的自己効力感尺度の検討」『教育心理学研究』第43巻、p306-314

日本健康心理学研究所(2013)『ストレスコーピング インベントリー・自我態度スケール マニュアル:実施法と評価法』実務教育出版、p1-18

酒井厚・菅原ますみ・眞榮城和美・菅原健介・北村俊則(2002)「中学生の親および親友との信頼関係と学校適応」『教育心理学研究』50、p12-22

田島賢侍・奥住秀之(2013)「子どもの自尊感情・自己効力感等についての定義及び尺度に関する文献検討―肢体不自由児を対象とした予備的調査も含めて―」『東京学芸大学紀要 総合教育科学系Ⅱ』64、p19-30

第 6 章

健 康

第1節 保護者の健康状態

保護者の健康状態を、SF-8健康調査尺度を用いて測定しました。SF-8健康調査尺度は、回答者自身が、自身の健康感や人生の満足度を健康関連 QOL(クオリティ・オブ・ライフ:Quality of Life)として主観的に評価するものです。SF-8では、健康を8つの領域(「身体機能」「日常役割機能(身体)」「体の痛み」「全体的健康感」「活力」「社会生活機能」「日常役割機能(精神)」「心の健康」)に分け、尋ねています。その結果を、全国で行った国民調査から算出した国民標準値をもとに点数化します。国民標準平均を50として、それよりどの程度高いか低いかを検討することで、対象となった回答者の健康状態を測定することができます。困窮層で、すべての領域において著明に低いことがわかります(図6-1-1)。

8つの領域を身体的側面、精神的側面の2つに統合し、それぞれの総合指標として算出したのが、「身体的サマリースコア」「精神的サマリースコア」です。図6-1-2に示す身体的サマリースコアは、非困窮層の保護者では、国民標準値に近い49.3でしたが、困窮層では47.0と低くなっています。図6-1-3の精神的サマリースコアは、非困窮層でも国民標準値よりやや低く、困窮層ではさらに低くなっています。保護者の身体的 QOL・精神的 QOL とも、国民標準値と比較して全般に低めとなっており、特に困窮層において、精神的 QOL が低くなっていることがわかります。

図6-1-1 【保護者】SF-8各項目

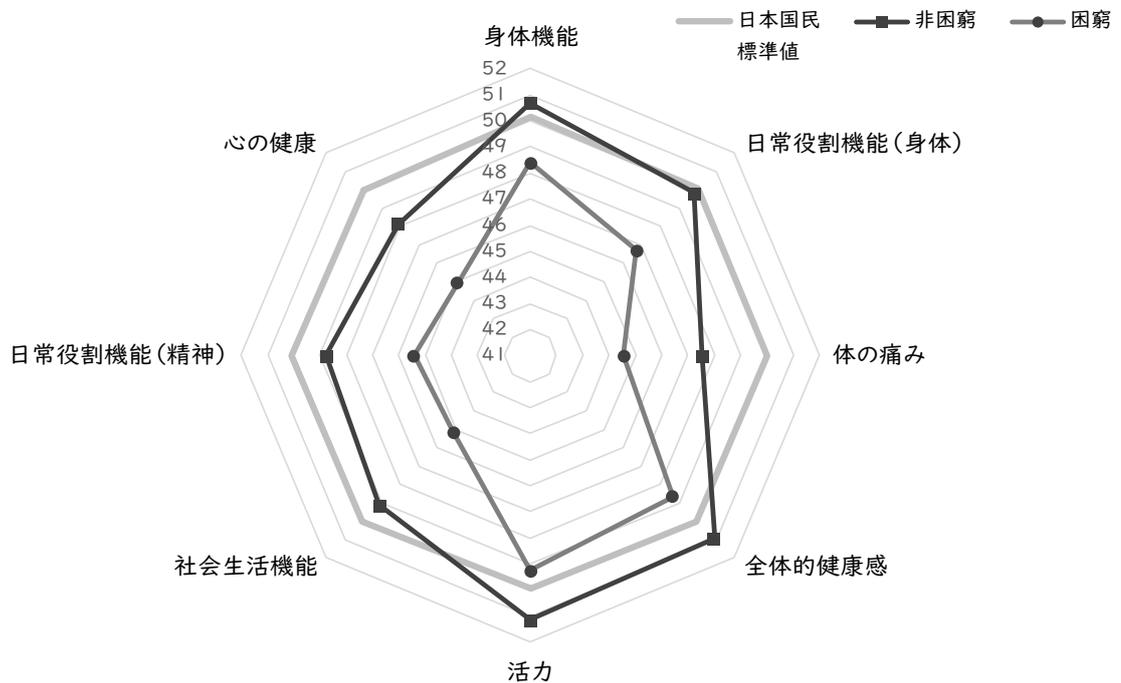


図6-1-2【保護者】身体的サマリースコア

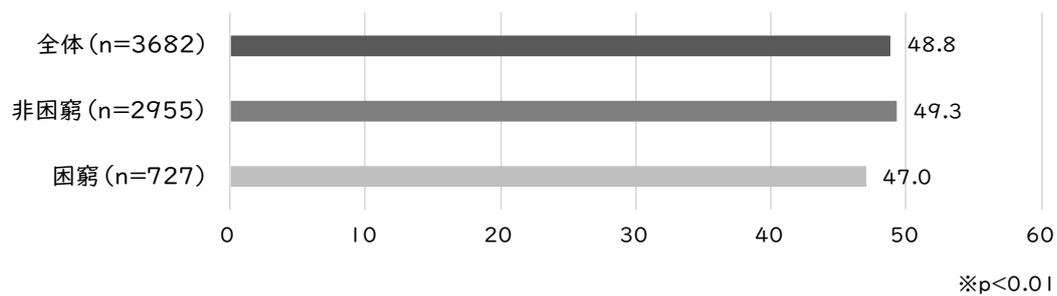
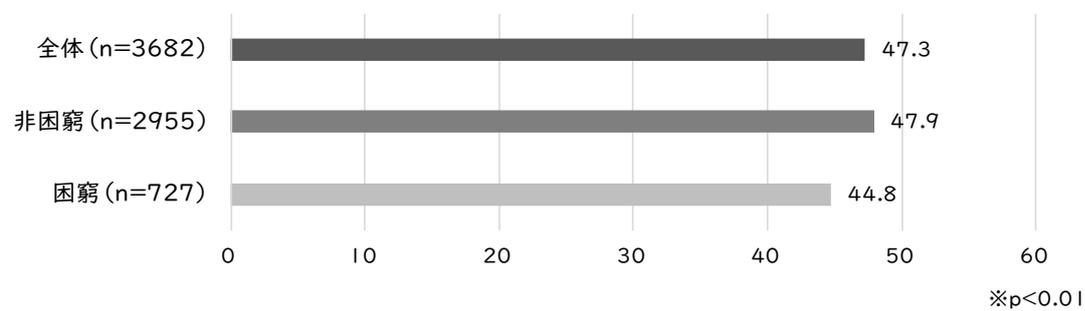


図6-1-3【保護者】精神的サマリースコア



第2節 高校生の健康状態

高校生に、健康状態について質問しました。設問は、適度な運動の有無、睡眠時間、むし歯の本数を尋ねるもので、東京都でなされた調査結果も示しました。さらに、健康に影響する要因として同居家族の喫煙の有無を保護者に尋ねました。

適度な運動を保健体育の授業以外で定期的に行っていると回答した高校生は、非困窮層は62.4%でしたが、困窮層は52.8%と約10ポイント下回っていました(図6-2-1)。

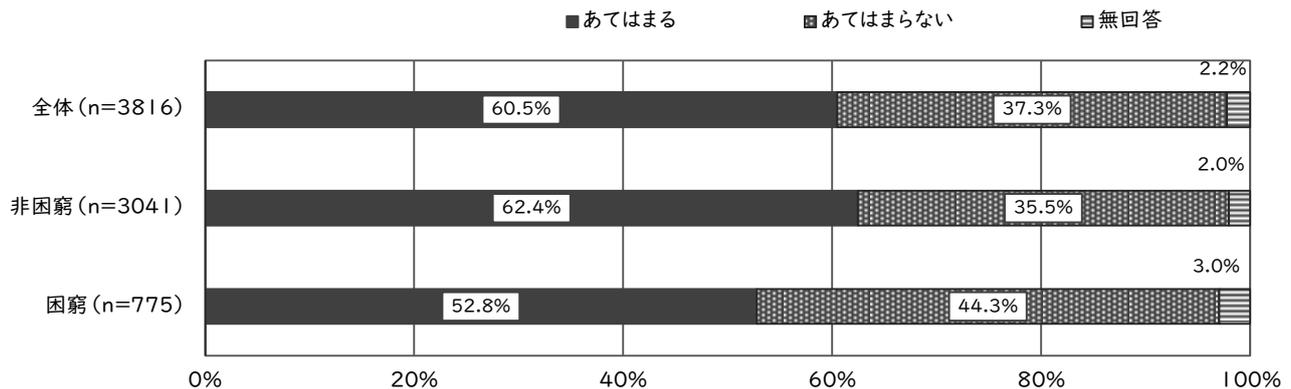
睡眠時間は、6時間という回答がもっとも多く(43.1%)、7時間(34.1%)、5時間(13.3%)と続きました。困窮層と非困窮層では差はありませんでした。2016年東京都調査との比較では、6時間睡眠がどちらももっとも多かったものの、7時間以上が沖縄県39.6%、東京都33.0%でした(図6-2-2、図6-2-3)。

むし歯(未処置歯)は、0本という回答が非困窮層で61.4%、困窮層49.5%と、ここでも約10ポイントの差がありました。3本以上のおし歯は非困窮層12.0%、困窮層18.4%でした。東京都の調査では、むし歯0本が83.4%で、3本以上は4.4%に留まっており、沖縄県の高中生における歯科衛生の課題が明らかになりました(図6-2-4、図6-2-5)。

同居家族が喫煙しているのは、非困窮層36.0%、困窮層45.3%で、困窮層の喫煙率は非困窮層より約10ポイント高い割合を示しました(図6-2-6)。わが国の成人男性の平均喫煙率は27.8%(2018年JT全国喫煙者率調査)です。単純な比較はできませんが、同居家族の喫煙は、特に子どもに受動喫煙による健康被害を生じます。また、子どもの喫煙習慣獲得のリスクとなります。

◆運動

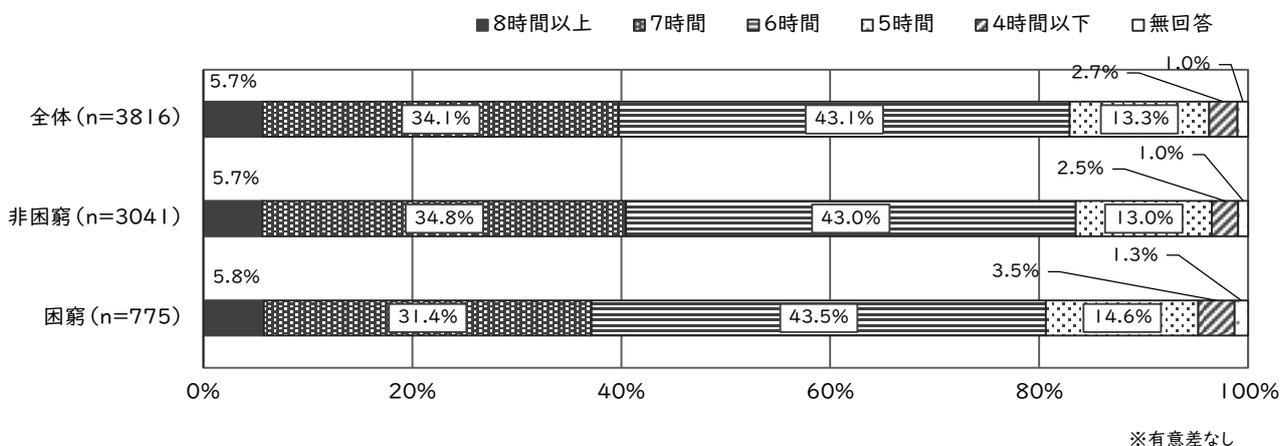
図6-2-1 【生徒】学校の保健体育の授業以外で、定期的に適度な運動を行っている



※p<0.01

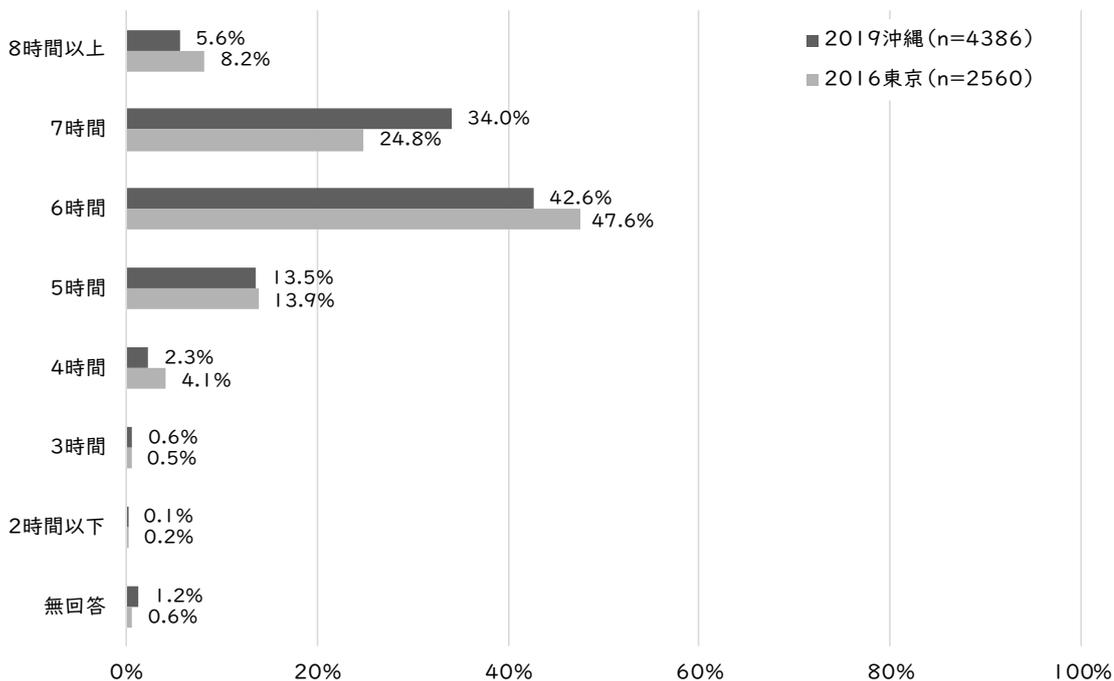
◆睡眠

図6-2-2 【生徒】あなたは、平均して、平日（学校に行く日）は何時間の睡眠をとっていますか



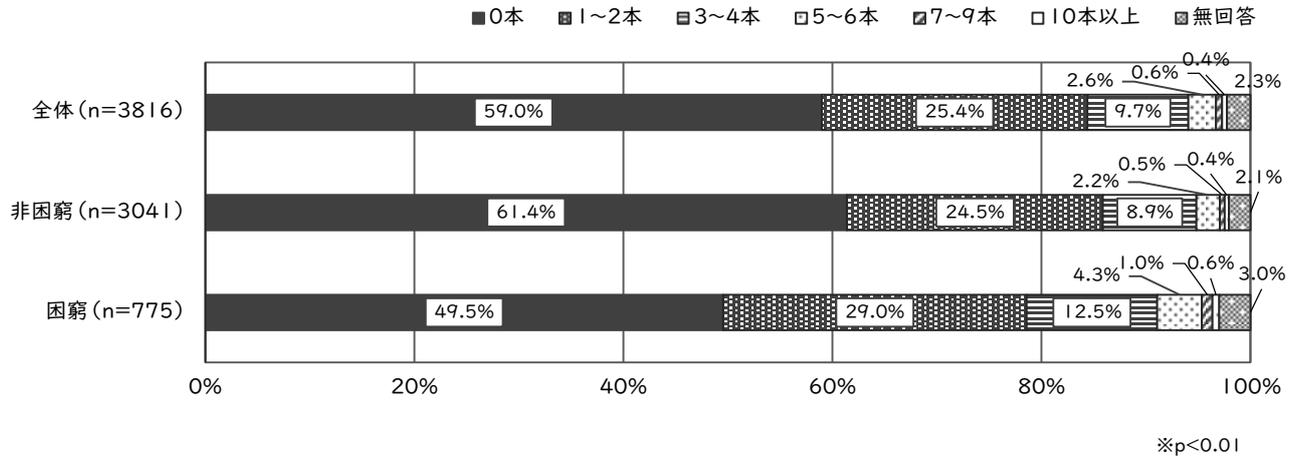
【2016年東京都調査との比較】

図6-2-3 【生徒】あなたは、平均して、平日は何時間の睡眠をとっていますか



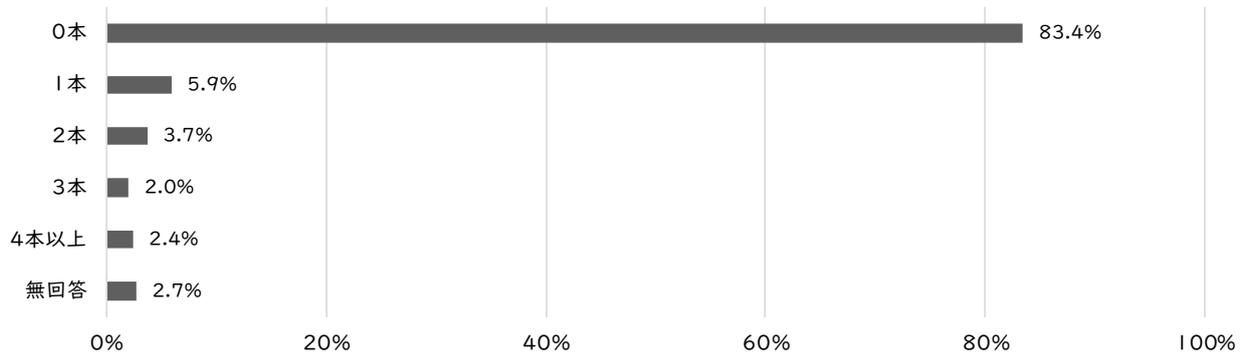
◆むし歯

図6-2-4 【生徒】最近の学校歯科検診で、治療が必要なむし歯(未処置歯)はだいたい何本ありましたか



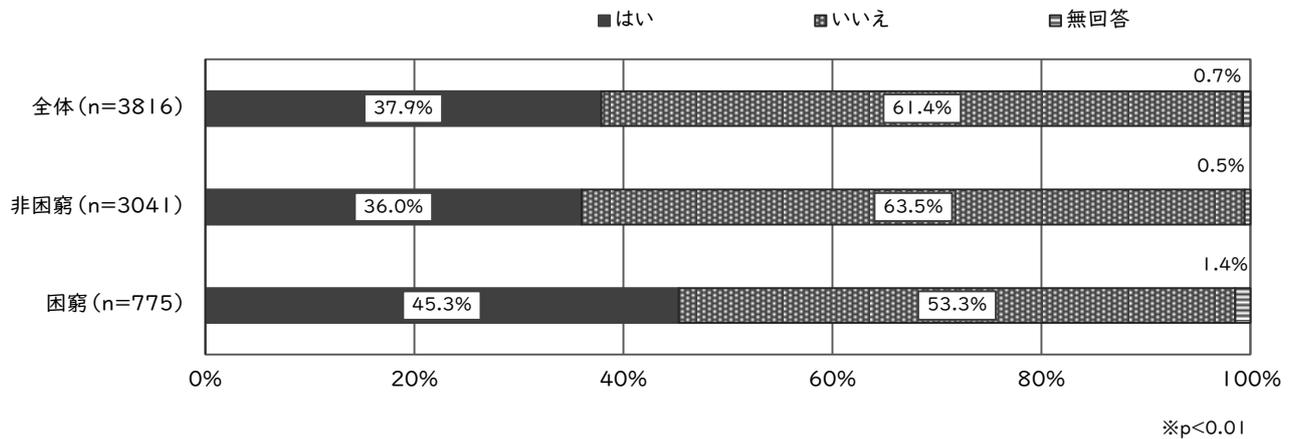
【2016年東京都調査】

図6-2-5 【2016東京・生徒】あなたは、今、虫歯がおおよそ何本くらいありますか。
治療中のものも含みます (n=2560)



◆喫煙

図6-2-6 【保護者】お子さんと同居している家族に、たばこを吸う方はいますか



第3節 SNS、ゲームの使用時間

平日のSNS（LINE、インスタグラム、ツイッターなど）とオンラインゲームの使用時間を高校生に尋ねました。SNSは、1時間未満という回答が非困窮層29.5%、困窮層26.6%であった一方、3時間以上が非困窮層22.6%、困窮層29.6%に上りました。6時間以上という回答も非困窮層に3.4%、困窮層に6.1%認めました。放課後から就寝時間まで、使い続けている計算になります（図6-3-1）。

オンラインゲームは、まったくしないという回答が全体の32.4%でもっとも多かったものの、3時間以上という回答が、非困窮層で9.9%、困窮層で14.3%でした。SNS、オンラインゲームとも、困窮層の高校生で使用時間が長い傾向がみられました（図6-3-2）。

図6-3-1 【生徒】平日のSNS（LINE、インスタグラム、ツイッターなど）の1日あたりの使用時間について、教えてください

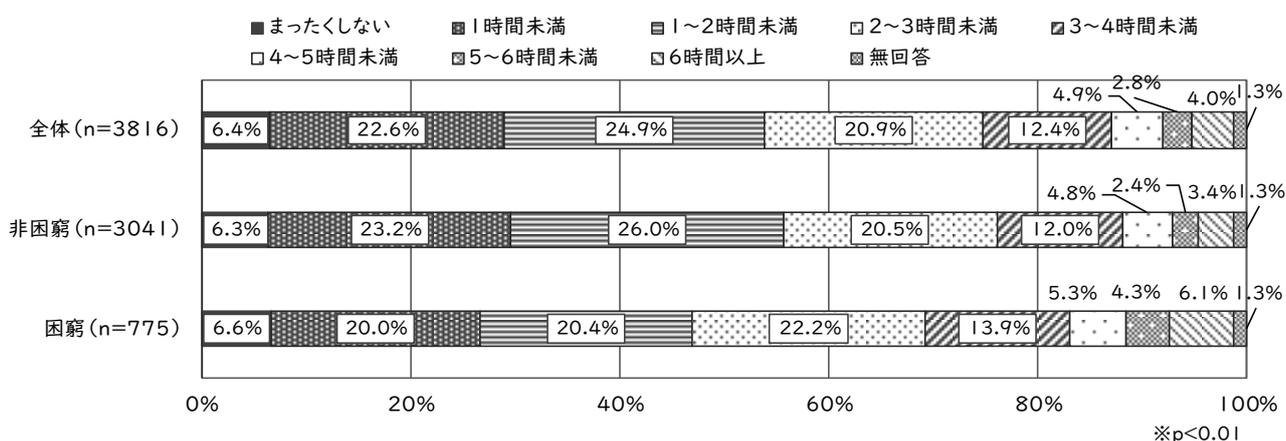
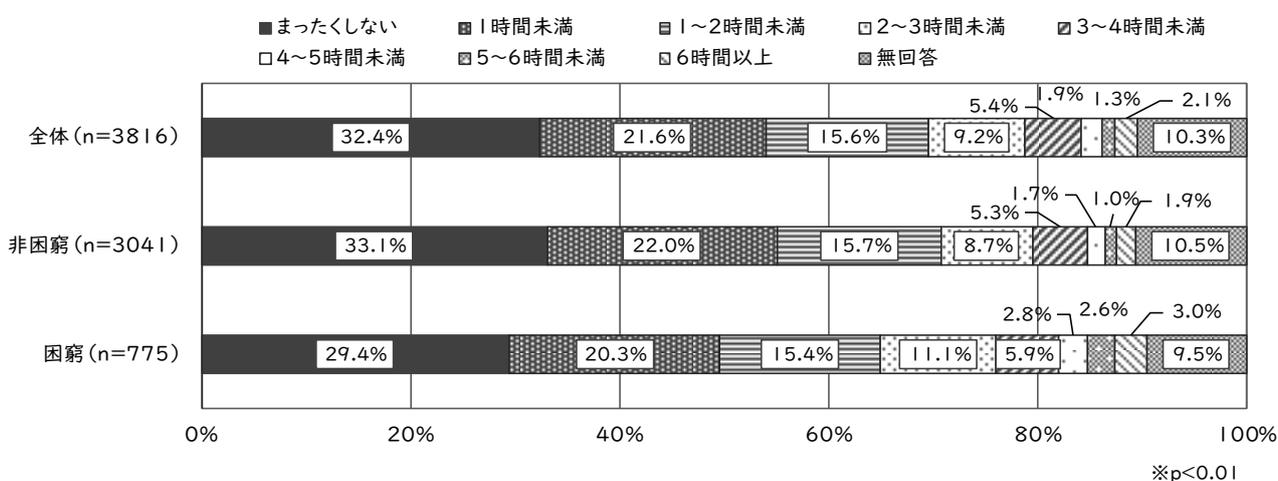


図6-3-2 【生徒】平日のオンラインゲームの1日あたりの使用時間について、教えてください



第4節 受診抑制

医療機関を受診する必要があると認識しながら、意図的に受診しないことを受診抑制といいます。そうしたことがこれまであったかを、保護者と高校生の両方に尋ねました。さらに、その結果を、2016年沖縄県調査・東京都調査の結果と比較しました。

2016年の沖縄県と東京都の調査では、子どもを医療機関に受診させた方がよいと思ったが、実際は受診させなかったことがあると回答した保護者は、沖縄県11.0%、東京都12.2%でした。2019年沖縄県調査では、19.1%に上りました(図6-4-1)。ただし、今回は「医療機関」を「病院や歯医者」と尋ねていますので、それによる違いが生じた可能性はあります。受診させなかった理由(複数回答可)として目立つのは、「多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかった」(34.1%)、「自己負担金を支払うことができなかった」(19.3%)です。一方、東京都では「様子を見て、受診させなくてもよいと判断した」「子どもが受診を嫌がった」を選択した回答者が、それぞれ37.8%と34.6%でした(図6-4-2)。

受診抑制の経験は、非困窮層で17.2%、困窮層では30.7%と大きい差がありました。受診抑制理由の上位2つは、非困窮層では「時間がなかった」(39.4%)、「様子を見て、受診させなくてもよいと判断した」(19.5%)ですが、困窮層では「自己負担金を支払うことができなかった」(34.0%)、「時間がなかった」(25.6%)となっています(図6-4-3、図6-4-4)。

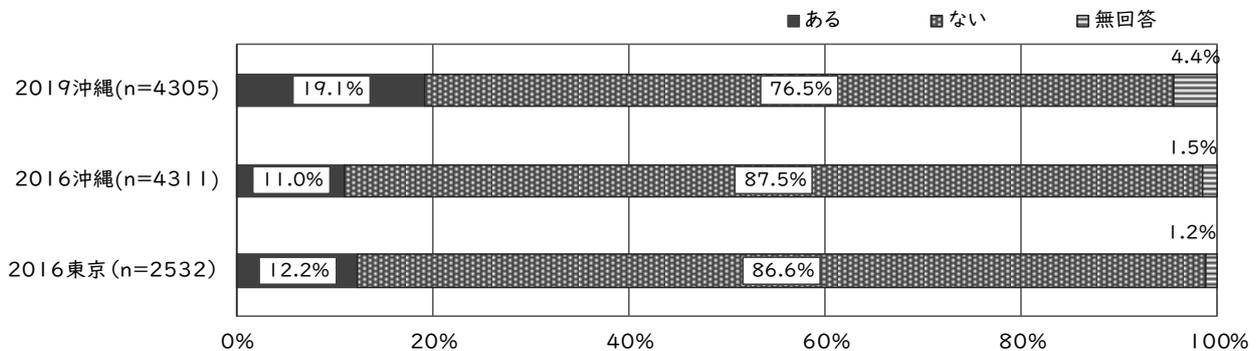
2019年沖縄県調査では、高校生にも「必要と思う時に医者にかかることができるか」を尋ねました。「経済的理由によりできないことがある」という回答は、非困窮層3.3%、困窮層8.1%でした。2016年東京都調査の1.7%に比べて、約2倍または5倍です(図6-4-5、図6-4-6)。

むし歯があるのに、経済的理由により治療を受けなかったと回答した高校生は、非困窮層で4.6%でしたが、困窮層では14.1%に上りました(図6-4-7)。

経済格差が健康格差につながっている状況がみて取れます。

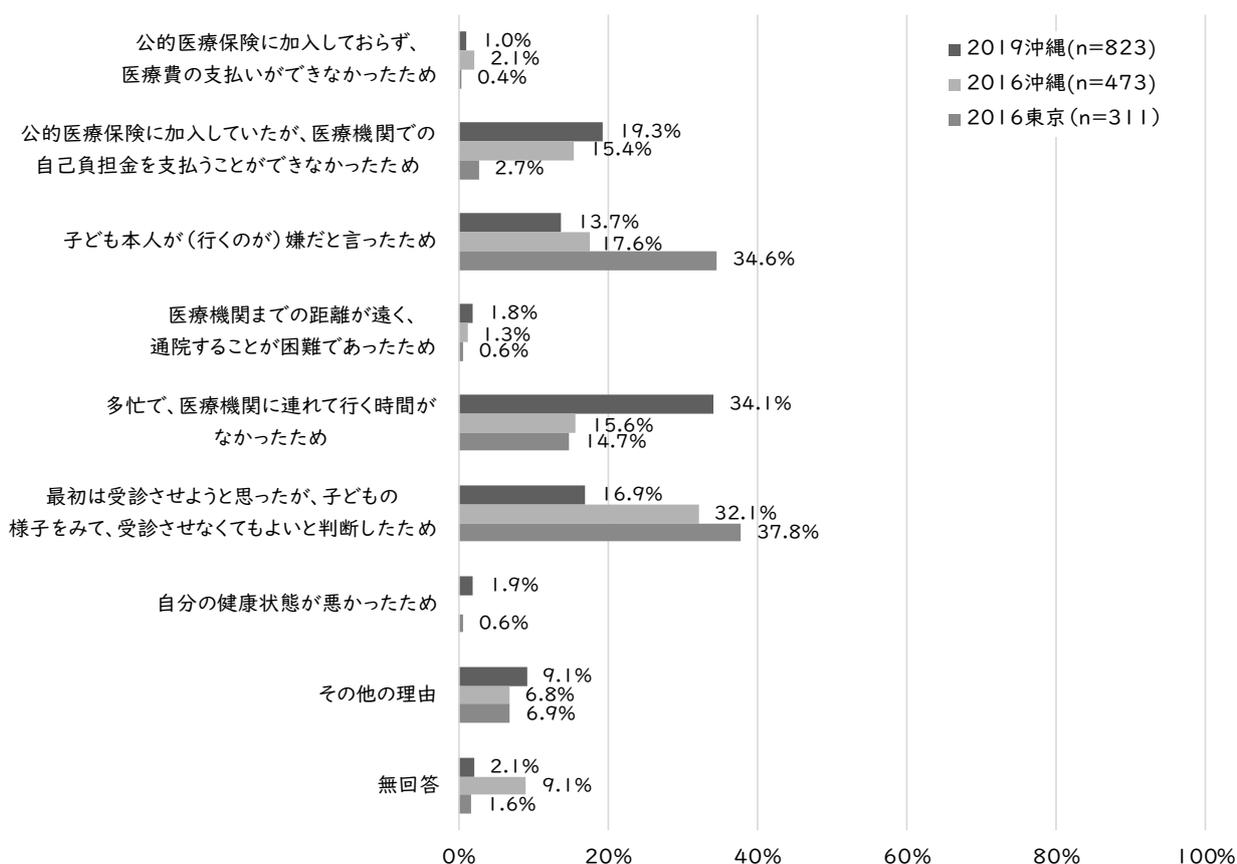
【2016年沖縄県、東京都調査との比較】

図6-4-1 【保護者】過去1年間に病院や歯医者でお子さんを受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか



注) 2016沖縄調査の質問は、「お子さんの状況について伺います。過去1年間に医療機関でお子さんを受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか」。2016東京調査の質問は、「過去1年間に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか」、選択肢は「あった」「なかった」

図6-4-2 【保護者】受診させなかった理由（複数回答）



注) 2016沖縄調査では、選択肢に「自分の健康状態が悪かったため」なし。2016東京調査の選択肢は、「公的医療保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を支払うことができないと思ったため」「子ども本人が受診しなかったため」

【以下、2019年沖縄県調査】

図6-4-3 【保護者】過去1年間に病院や歯医者でお子さんを受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか

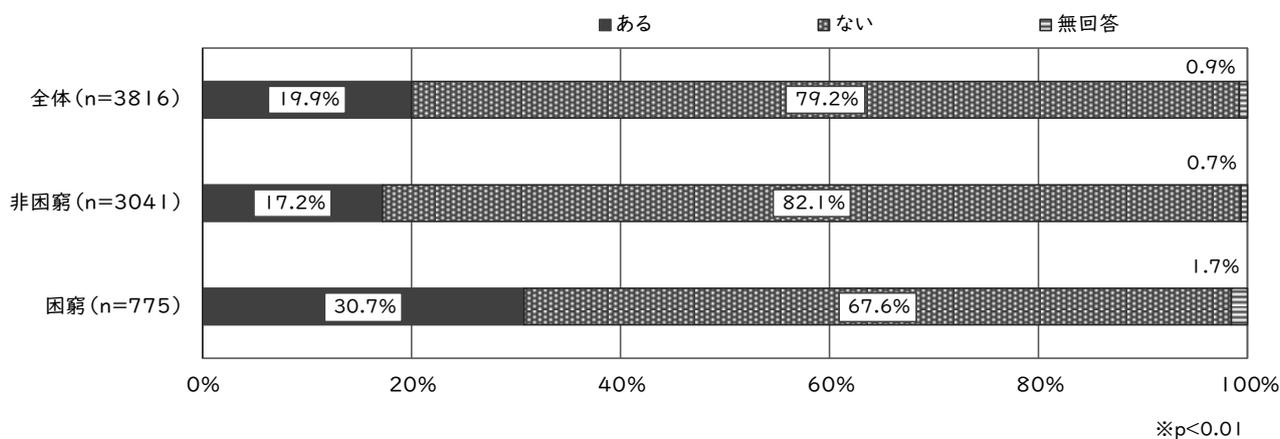
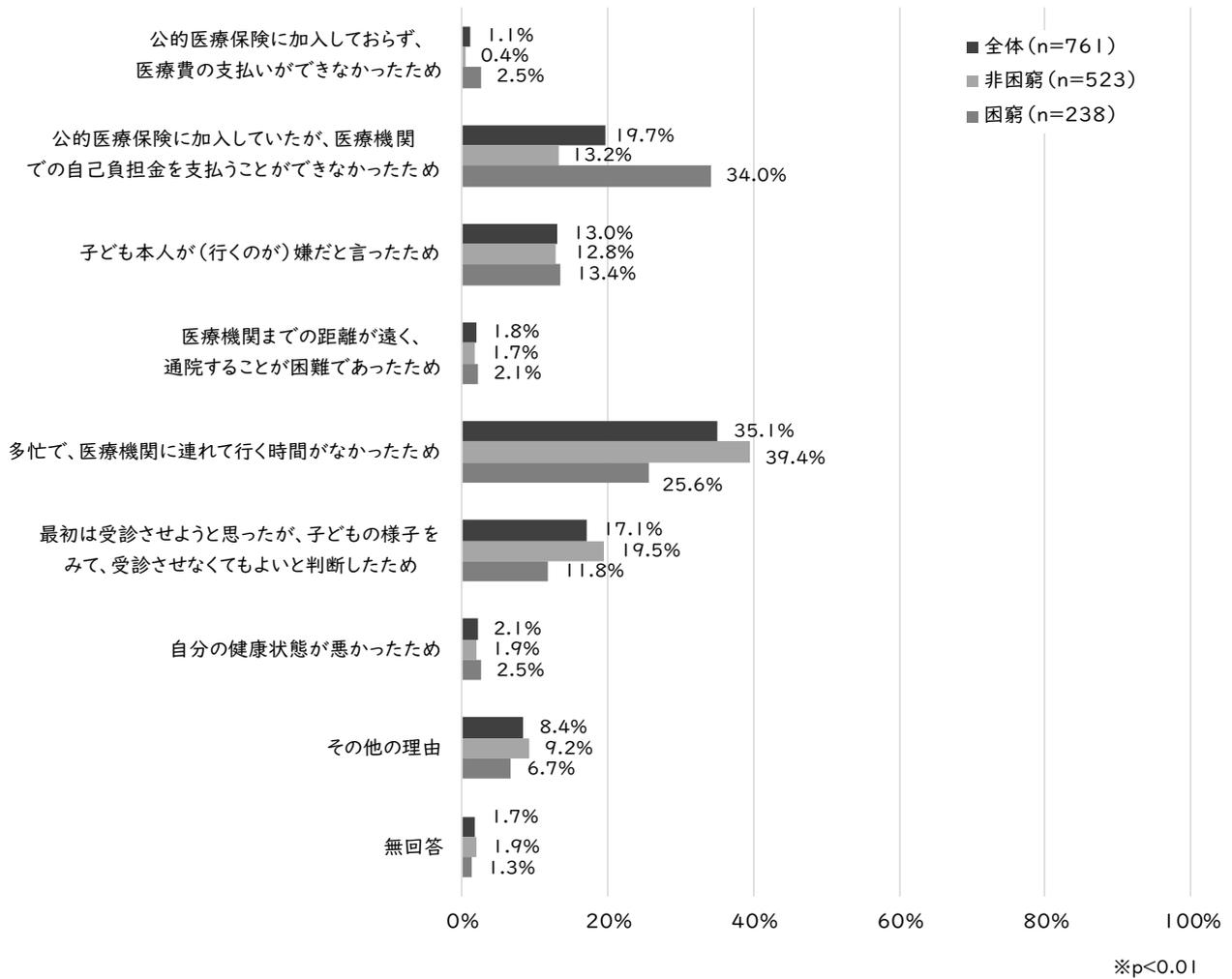
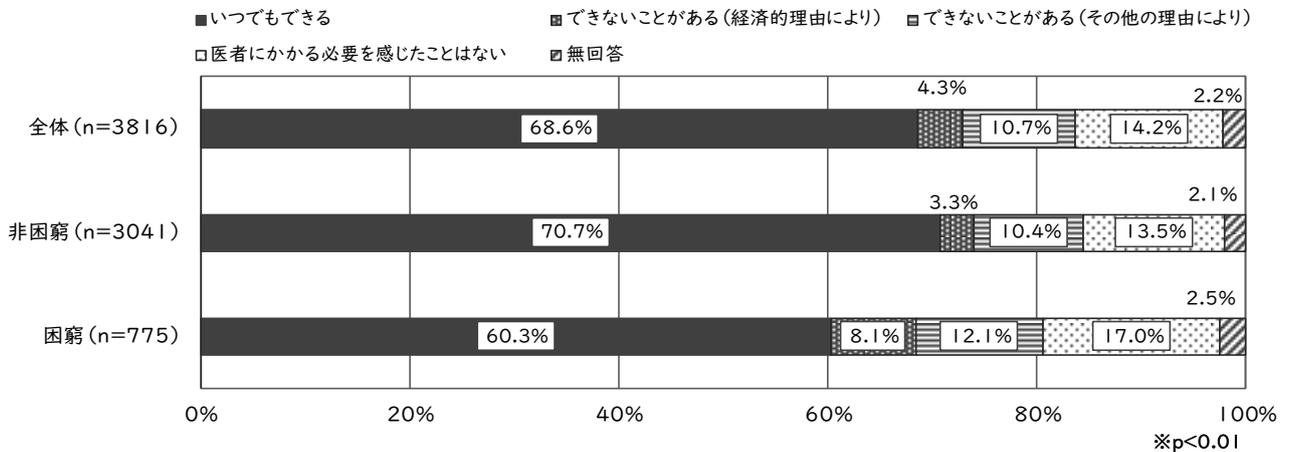


図6-4-4 【保護者】受診させなかった理由



◆【生徒】受診抑制

図6-4-5 【生徒】あなたは、自分が必要と思う時に、医者にかかることができますか。健診も含めてお答えください



【2016年東京都調査との比較】

図6-4-6 【生徒】あなたは、自分が必要と思う時に、医者にかかることができますか。健診も含めてお答えください

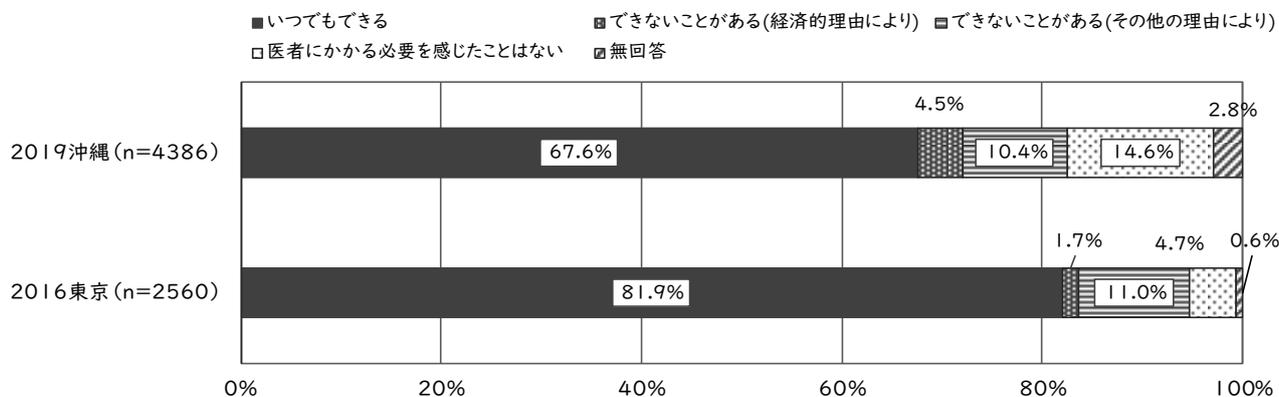
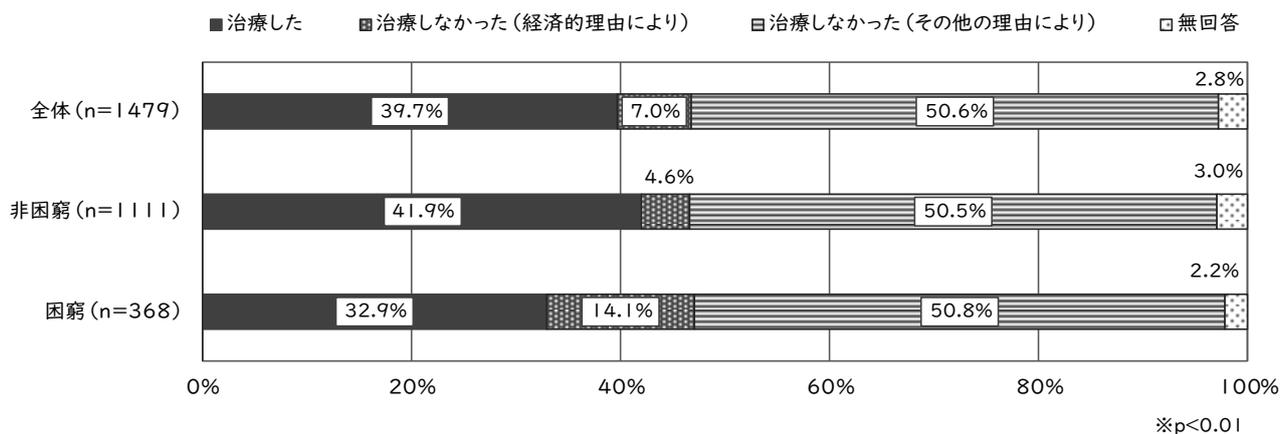


図6-4-7 【生徒】その後(検診でむし歯を指摘された後)、歯科で治療を受けましたか



第5節 抑うつ

抑うつや不安感の有無を評価するために、K6といわれる評価尺度を用いた質問を、高校生と保護者の両方に行いました。

K6は、過去30日間での心の状況に関する6つの質問に5段階で回答し、0~24点で評価します。K6は、国民生活基礎調査でも用いられているもので、一般の方の抑うつ傾向を測定する代表的なツールのひとつです。高得点ほど抑うつ傾向や不安感が強いと考えられます。心理的ストレス反応相当（5点以上）、中等度の気分・不安障害相当（9点以上）、重度抑うつ・不安障害相当（13点以上）のそれぞれに該当する回答者の割合をグラフに示しました。

高校生（図6-5-1）は、困窮層ほど抑うつ・不安感を多く抱えていますが、非困窮層との違いはそれほど大きくありません。一方、保護者（図6-5-2）では9点以上の気分・不安障害を有しているのは、非困窮層で19.2%であるのに対し、困窮層は36.1%と約2倍でした。重度抑うつ・不安障害相当も、困窮層では19.5%に認めました（非困窮層では7.7%）。同様に、世帯別でみると、ひとり親世帯で抑うつ傾向が強く、特に保護者により顕著にそれが現れていました。東京都と比較して沖縄県の回答者により強い抑うつが認められ、それも保護者により明らかでした。

図6-5-1 【生徒】抑うつ傾向

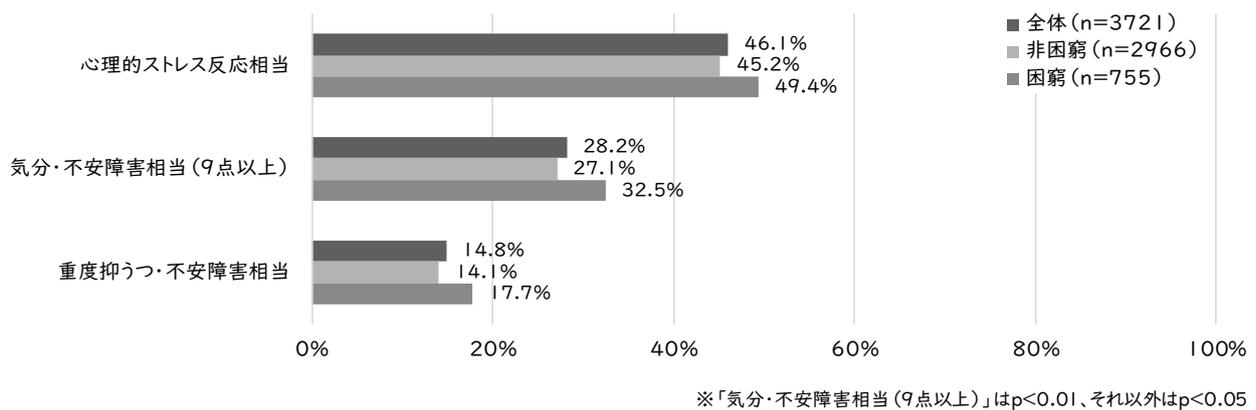
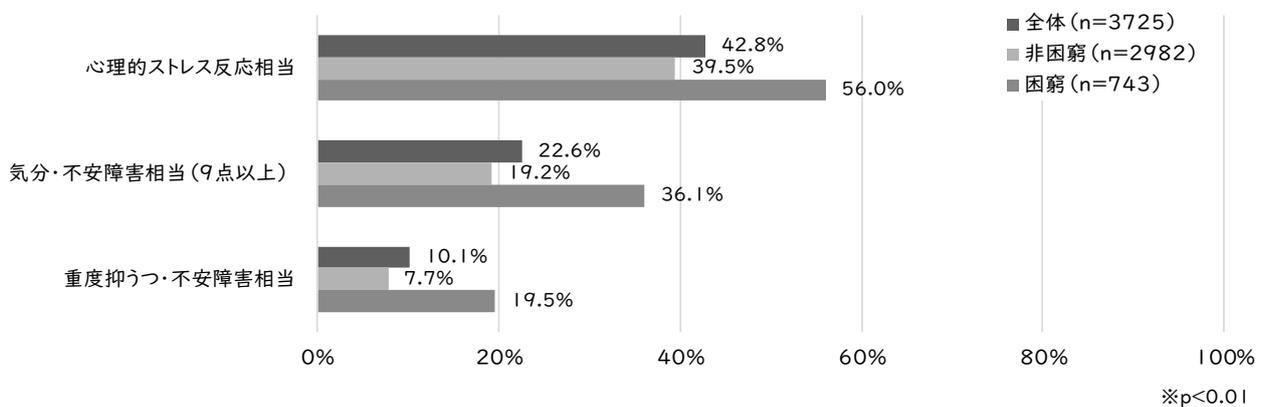


図6-5-2 【保護者】抑うつ傾向



【世帯別】 ※図6-5-3と6-5-4は、ふたり親世帯、ひとり親世帯で検定をおこなった。

図6-5-3 【生徒】抑うつ傾向

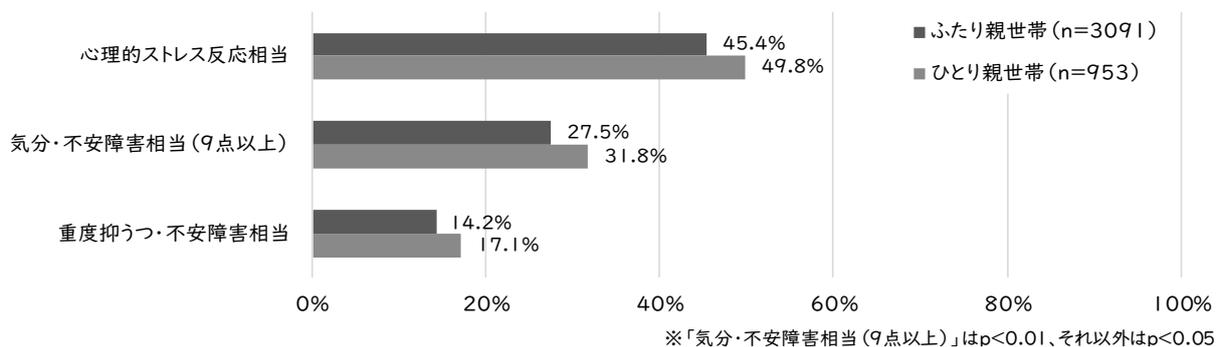
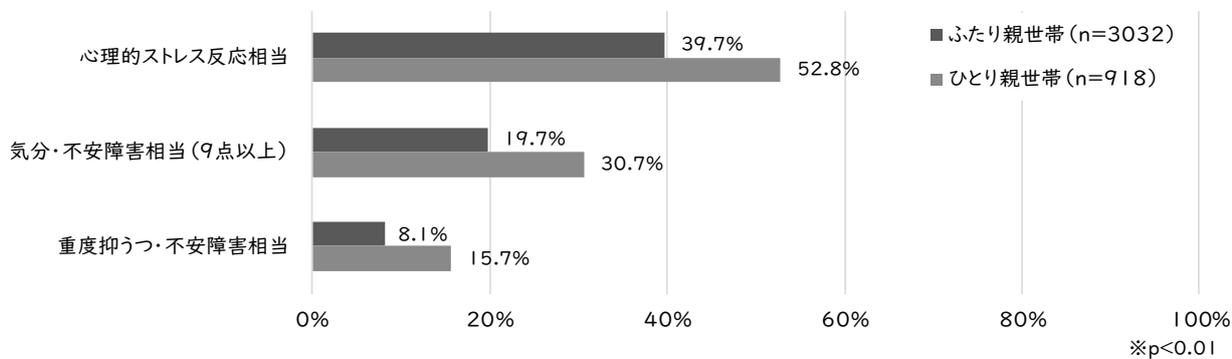


図6-5-4 【保護者】抑うつ傾向



【2016年東京都調査との比較】

図6-5-5 【生徒】抑うつ傾向

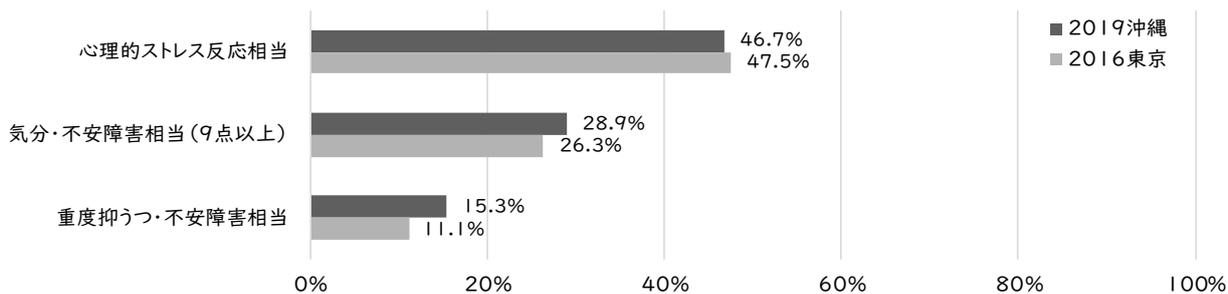
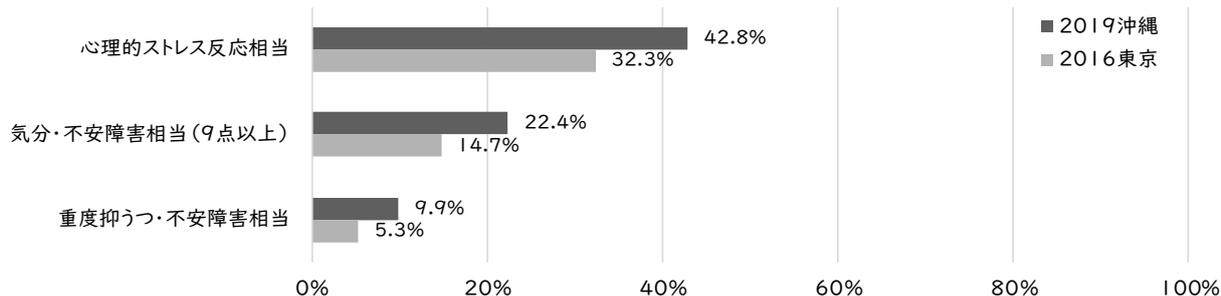


図6-5-6 【保護者】抑うつ傾向



第6節 食

図6-6-1は、朝食摂取について尋ねた結果です。「過去1週間、毎日朝食を食べた」と回答した高校生は83.3%、経済状況別で見ると、困窮層は75.5%、非困窮層は85.3%でした。困窮層は非困窮層とくらべて、毎日朝食を食べている高校生がおおよそ10ポイント少ないことがわかりました。

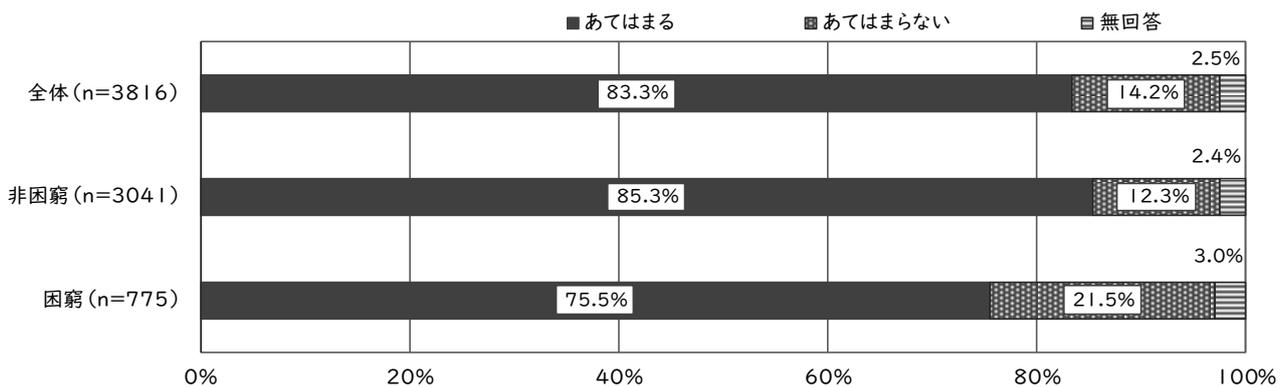
図6-6-2から図6-6-10は、各食品の食べる頻度を尋ねています。回答は、「ほとんどたべない」「週に1回未満」「週に1回」「週に2~4回」「週に5~6回」「毎日1回」「毎日2回以上」の選択肢から一つ選んでもらいました。経済状況別で見ると、統計的に有意な差がみられた食品が多くありました。困窮層は非困窮層とくらべて、「魚、肉」「魚、肉の加工品（ポーク、ツナなど）」「野菜」「果物」「牛乳・ヨーグルト・チーズなどの乳製品」を食べる頻度が低くなっています。逆に、「コーラやソフトドリンクなどの甘い飲み物」「インスタントラーメンやカップめん」の摂取頻度が高くなっています。

図6-6-11は、「毎日1回」または「毎日2回以上」と回答したものを「1日1回以上」とまとめ、その割合を示しています。経済状況別で見ると、1日1回以上食べている高校生の割合が、「魚、肉」で10.1ポイント、「野菜」で10.5ポイント、「牛乳・ヨーグルト・チーズなどの乳製品」で4.7ポイント、困窮層のほうが少ないことがわかりました。

「野菜」「果物」「乳製品」は、2016年東京都調査の結果も並べています。質問や回答方法が違うので、単純比較はできませんが、東京都と比べると沖縄県の食べる頻度は低いことがわかります。

◆朝食摂取

図6-6-1 【生徒】過去1週間、毎日朝食を食べた



※p<0.01

◆各食品の摂取頻度

図6-6-2 【生徒】魚、肉

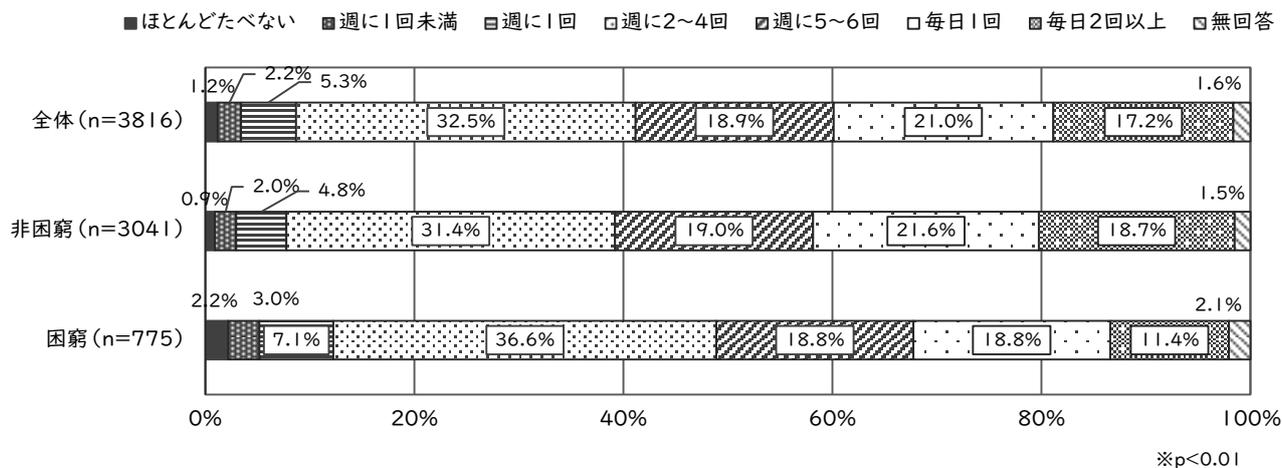


図6-6-3 【生徒】魚、肉の加工品（ポーク、ツナなど）

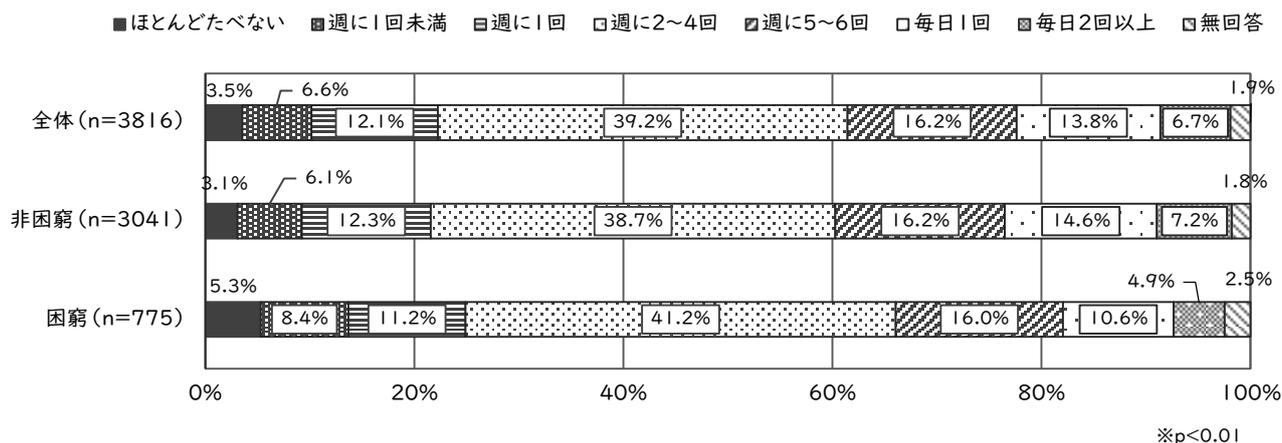


図6-6-4 【生徒】野菜

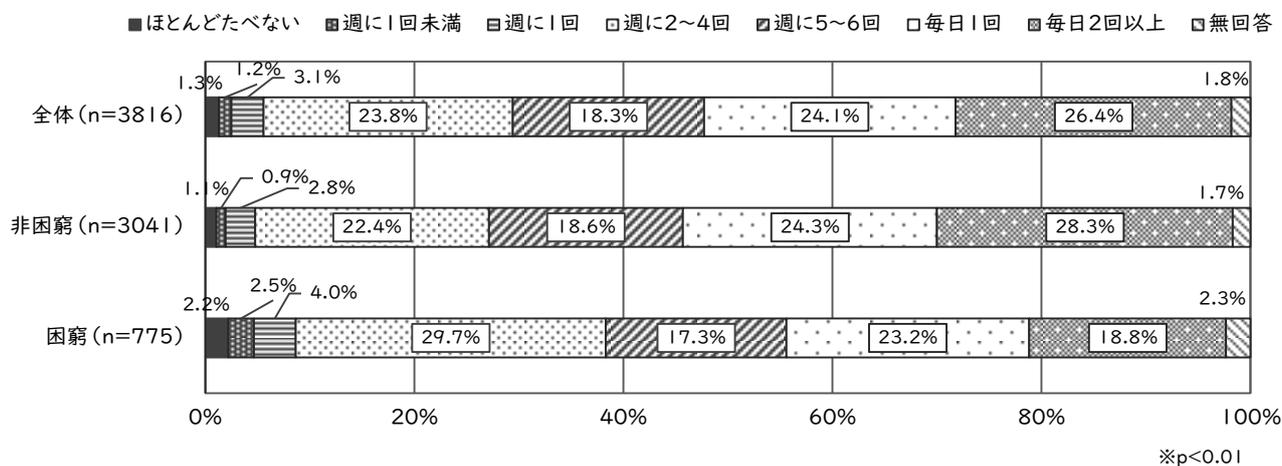


図6-6-5 【生徒】果物

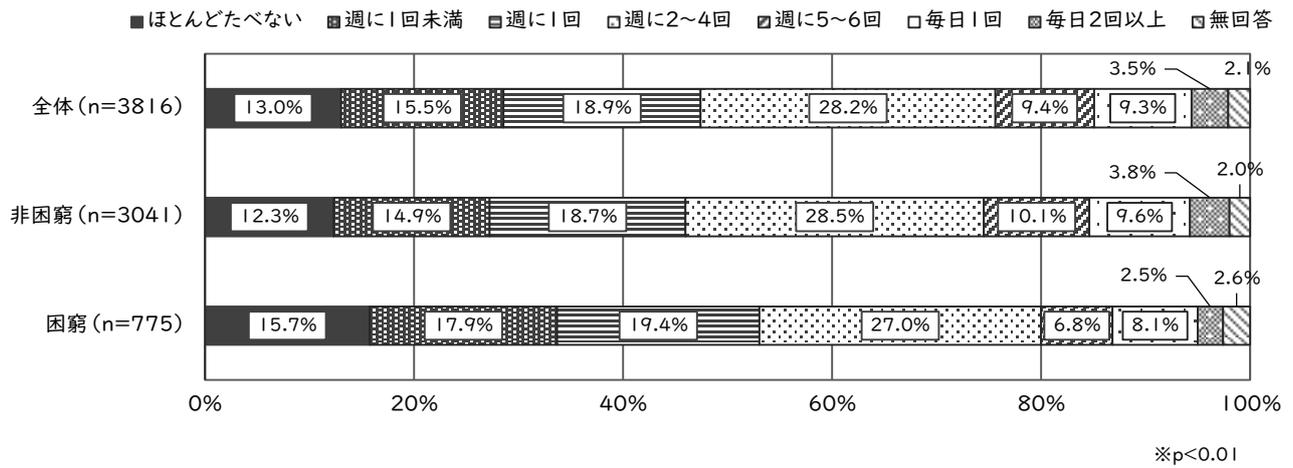


図6-6-6 【生徒】牛乳・ヨーグルト・チーズなどの乳製品

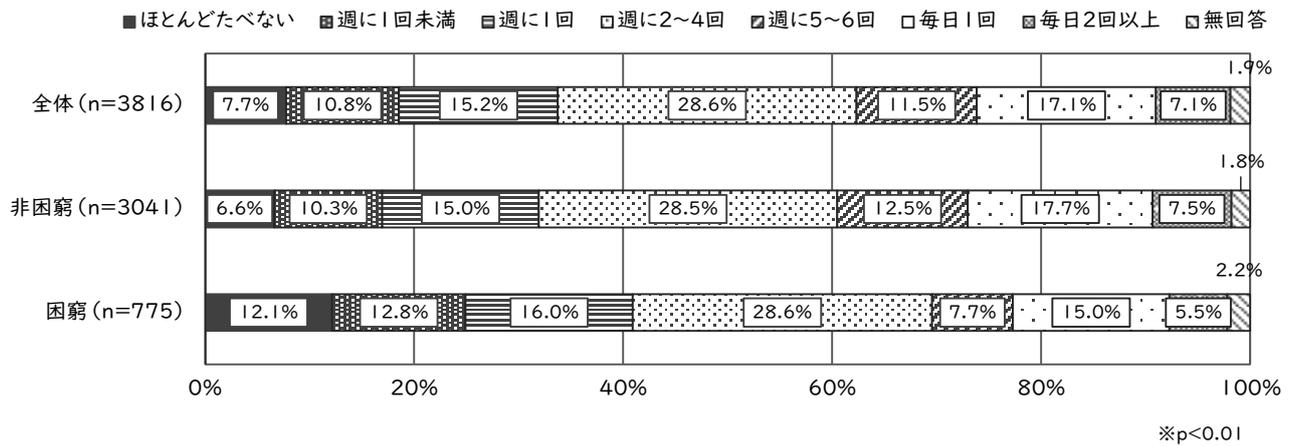


図6-6-7 【生徒】お菓子

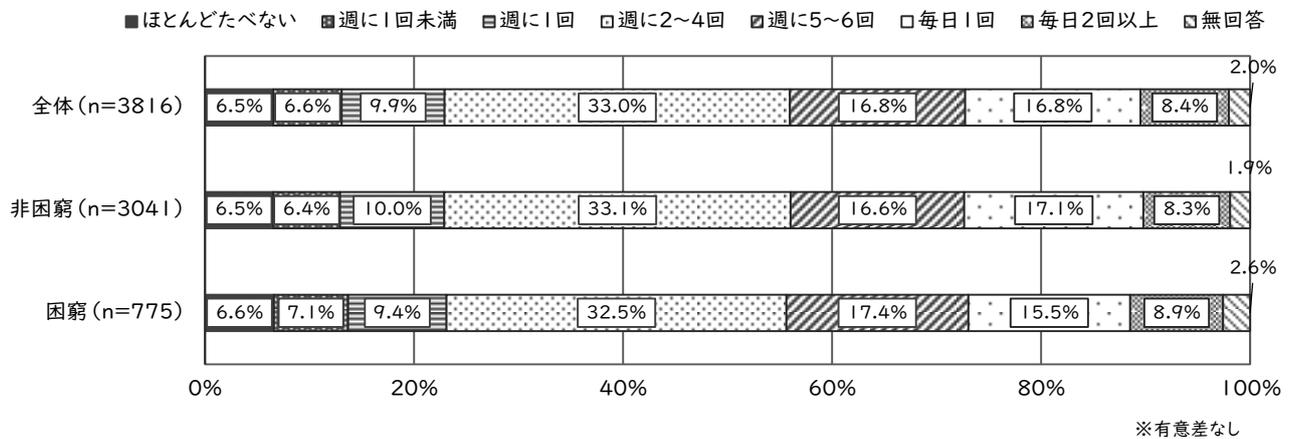


図6-6-8 【生徒】コーラやソフトドリンクなど甘い飲み物

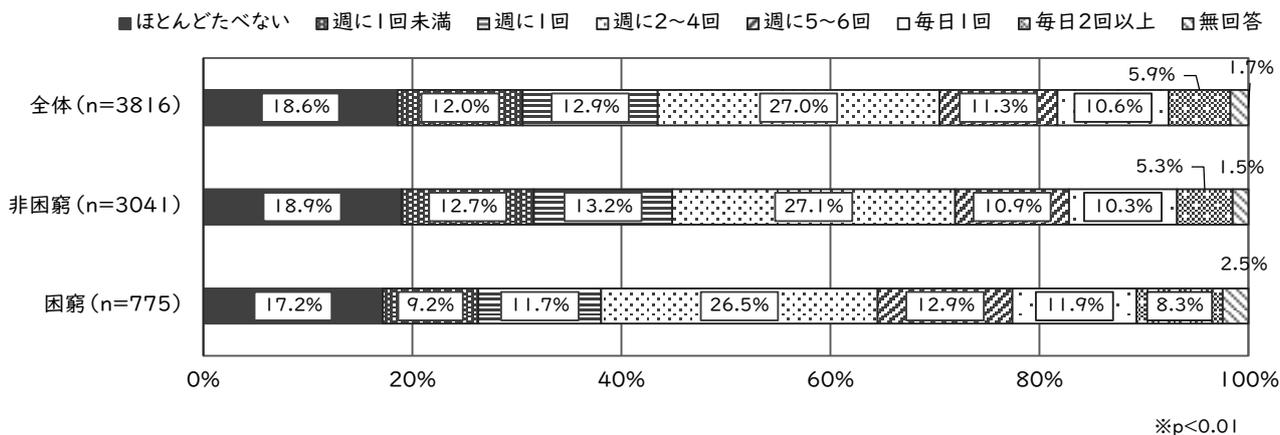


図6-6-9 【生徒】インスタントラーメンやカップめん

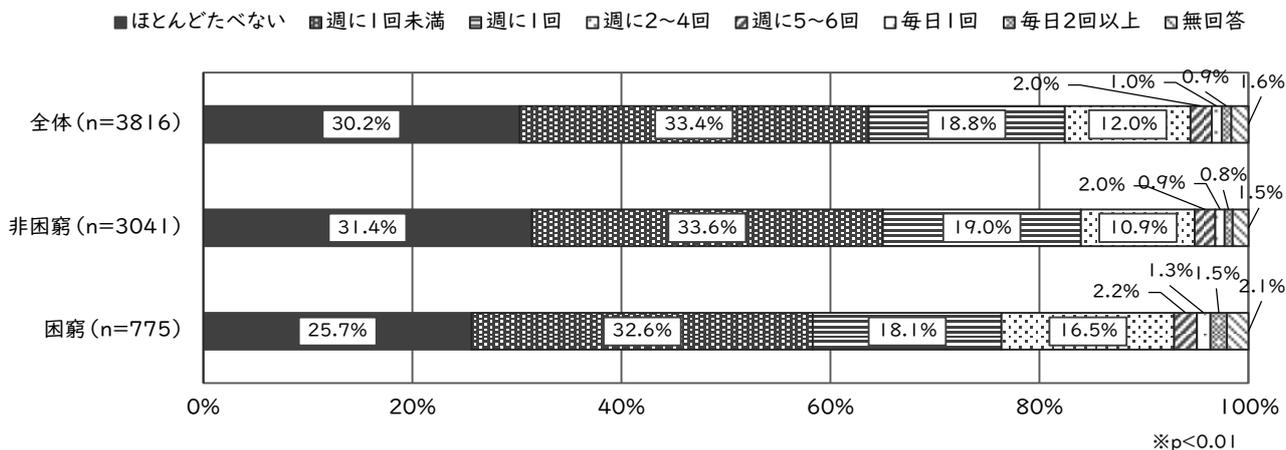
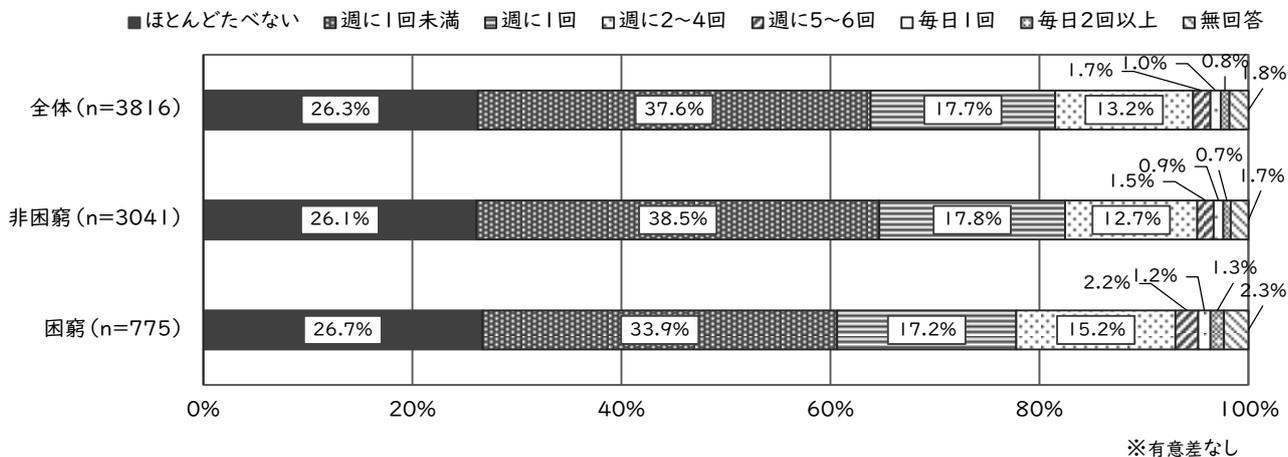
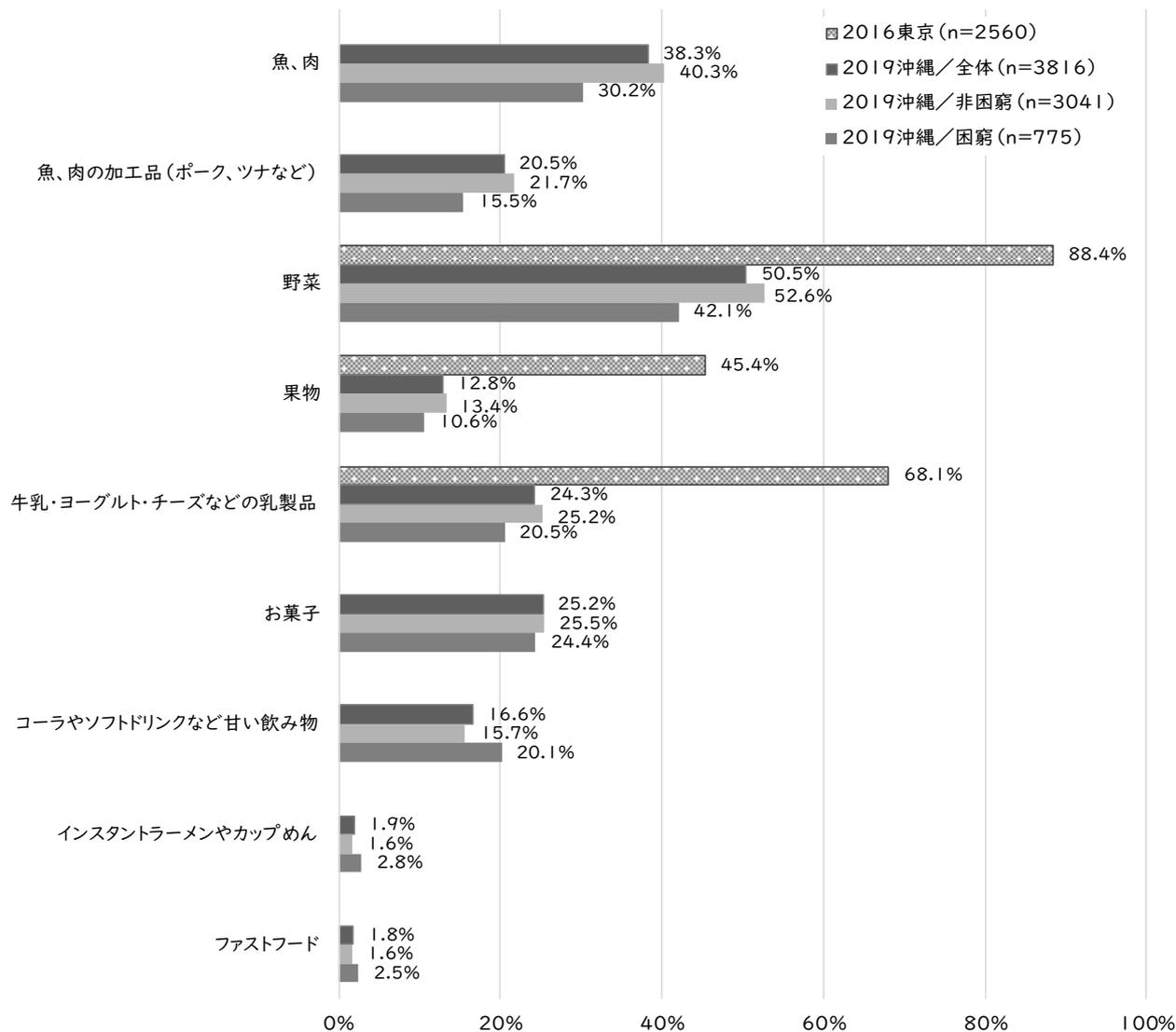


図6-6-10 【生徒】ファストフード



【2016年東京都調査との比較】

図6-6-11【生徒】「1日1回以上食べている」割合



※非困窮層と困窮層を比較したところ、「肉・魚」「魚、肉などの加工品 (ポーク、ツナなど)」「野菜」「牛乳・ヨーグルト・チーズなどの乳製品」「コーラやソフトドリンクなど甘い飲み物」は $p < 0.01$ 、「果物」「インスタントラーメンやカップめん」は $p < 0.05$ 、それ以外は有意差なしとなった
 ※沖縄調査: 「毎日1回」または「毎日2回以上」と回答したものを「1日に1回は食べている」としてまとめた。
 ※東京調査: 「1日に1回は食べているものに○をつけてください」との質問になっており、1.肉、魚、卵などの動物性たんぱく質、2.野菜、3.大豆・小麦などの植物性たんぱく質、4.果物、5.牛乳・ヨーグルト・チーズなどの乳製品について、あてはまるものに○をつけてもらっている。野菜、果物、乳製品のみ比較した。

第7節 BMI

図6-7-1と図6-7-2は、高校生と保護者のBMI(注1)を、身長と体重から算出し、やせ(18.5未満)、標準(18.5~25.0未満)、肥満(25.0以上)の3つに分け、その割合を示しています。

高校生のBMIは、全体で見ると、やせが17.0%、肥満が8.0%の割合でした。経済状況別にみると、やせはほぼ同じ割合でしたが、肥満の割合は、困窮層で10.0%、非困窮層で7.6%と、困窮層でやや高い傾向がうかがえます。

保護者のBMIは、全体で見ると、やせが5.9%、肥満が26.4%の割合でした。経済状況別にみると、統計的に有意な差がみられ、やせの割合は困窮層で7.1%、非困窮層で5.6%、肥満の割合は困窮層で31.1%、非困窮層で25.3%と、やせも肥満も困窮層に高くなりました。

図6-7-3は、保護者の過去(15歳時)と現在の暮らし向きを「共に苦しい」「15歳時苦しい／現在ゆとりあり」「15歳時ゆとりあり／現在苦しい」「共にゆとりあり」の4つに分け(注2)、BMIを比べました。

肥満の割合は、「共に苦しい」が27.2%ともっとも高く、次いで「15歳時苦しい／現在ゆとりあり」が24.7%、「15歳時ゆとりあり／現在苦しい」が20.9%、「共にゆとりあり」が20.7%と続きました。この結果から、保護者の肥満には、現在の暮らし向きよりも過去の暮らし向きのほうが強く影響している可能性が考えられます。

(注1) BMI=体重kg/(身長m)²

(注2) 過去の状況については、「あなたが15歳頃のご家庭の暮らし向きはどうだったと感じましたか」という設問に対して「大変ゆとりがある」「ややゆとりがある」「普通」と答えたケースを「ゆとりあり」、「やや苦しい」「大変苦しい」と答えたケースを「苦しい」としました。現在の状況については、「あなたは、ご家庭の現在の暮らしの状況をどのように感じていますか」という設問に対して、同様の考え方で「ゆとりあり」と「苦しい」に分けました。

図6-7-1 【生徒】BMI

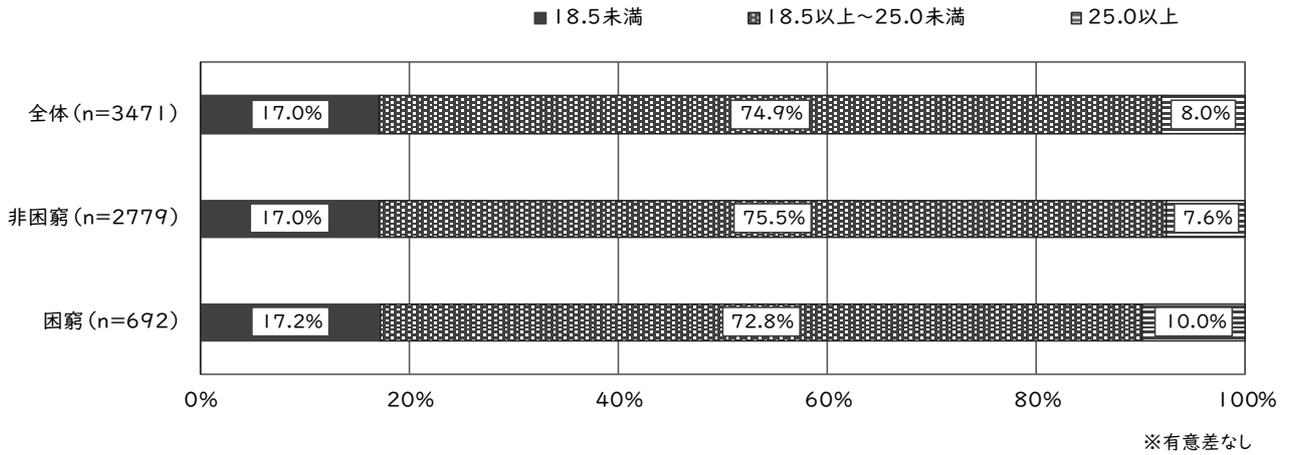


図6-7-2 【保護者】BMI

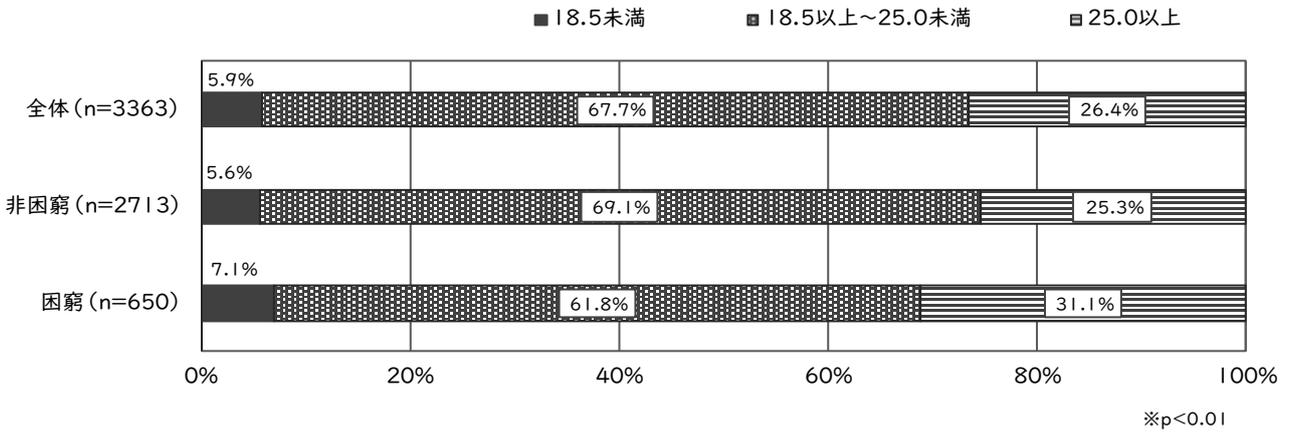
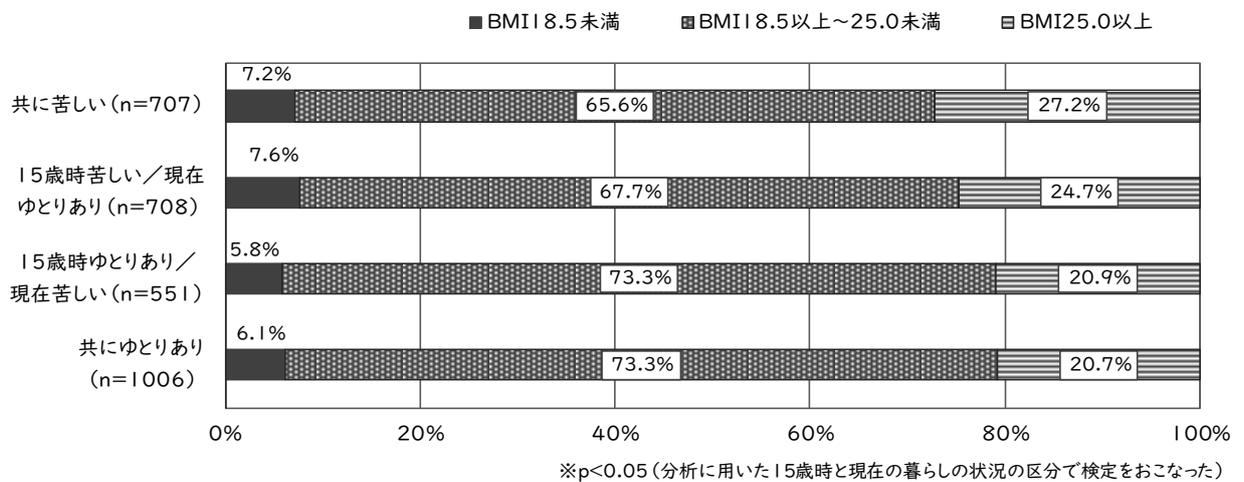


図6-7-3 【保護者／母親】BMI×15歳の頃と現在の暮らしの状況



考察

本章では、高校生とその保護者の健康状態を尋ね、家庭の経済状況がそれらにどのように影響しているかを検討しました。保護者に関しては、これまでに広く利用されている評価尺度によって、主観的健康度、抑うつ・不安感を明らかにしました。また、現在と15歳時の暮らし向きと肥満との関連を分析しています。高校生については、適度な運動の有無、睡眠時間、むし歯の本数と治療の有無、さらに SNS 等の使用時間を尋ねました。同居家族の喫煙の有無や、食品摂取の状況と肥満の有無も確認しています。2016年沖縄県調査・東京都調査と、結果の比較を行いました。

第1節では、保護者の主観的な健康度を、SF-8健康調査尺度を用いて評価しました。困窮層では、調査した8つの領域のすべてで健康関連 QOL が低い結果となりました。身体的側面と精神的側面の2つについて検討したところ、いずれも困窮層のほうが非困窮層に比較して有意に健康度が低く、特に精神的サマリースコアで著明でした。

第2節、第3節は、高校生の健康に関連する状況を本人に質問したものです。困窮層と非困窮層で比較して、困窮層の高校生は、①定期的に適度な運動を行っている割合が非困窮層よりも約10ポイント低い、②むし歯（未処置歯）の本数が多い、③同居家族に喫煙者がいる率が高い、④SNS使用やオンラインゲームの時間が長い傾向にあることが示されました。睡眠時間は、過去の全国調査 Japan Youth Risk Behavior Survey(JYRBS2011)と同様、6時間以上8時間未満がもっとも多い結果でした(全体の77.2%)。睡眠が4時間未満になると危険行動のリスクが高まると報告されていますが(文献1)、2019年沖縄県調査では困窮層の3.5%、非困窮層の2.5%でした。

第4節の受診抑制では、経済的理由で受診できないと回答した高校生が、非困窮層に3.3%、困窮層に8.1%いました。2016年東京都調査の1.7%に比べて、約2倍または5倍です。むし歯があるのに、治療を受けなかったと回答した高校生は、非困窮層で4.6%でしたが、困窮層では14.1%に上りました。経済格差が健康格差につながっている状況がみ取れます。受診させたほうがよいと思いながらそうしなかったという保護者も、今回の調査では回答者の19.1%を占めました。

経済的理由で医療機関が受診できず、未処置のむし歯があるという状況は、経済的格差が直接に健康格差につながっていることを表しています。全国保険医団体連合会が2019年に全国の公立・私立の小中学校・高校・特別支援学校を対象に行った「全国学校健診後治療調査」でも、眼科、耳鼻科、内科、歯科で「要受診」とされた児童生徒の未受診率が半数に上ると報告されています(文献2)。その理由に共働き、経済的困難、ひとり親が挙げられています。今回の調査でも、困窮層の保護者の34.0%が医療費の自己負担金が支払えないことを受診抑制の理由に挙げており、一方、多忙を理由に挙げたのは、非困窮層の39.4%、困窮層の25.6%に上ります。医療費無料化が受診勧告をしやすくしていることから、子どもの貧困対策としての医療費助成の拡充が不可欠であり、同時に、労働環境の見直しも社会に求められているといえます。

習慣的な身体活動は、体力の向上や健康づくりに重要であることはいまでもありません。また、同居家族の喫煙は、受動喫煙による健康被害をもたらす、喫煙習慣獲得のリスクになります。3時間以上の SNS の使用も、思春期の若者のうつ症状や不安障害を増加させると言われています(文献3)。むし歯を生じることも含め、これらは、本人や家族の自覚の問題、自助努力をすべきと片づけられがちですが、むし歯が予防できないのはなぜか、適度な運動を行えない理由、SNSに時間を費やす背景、家族が禁煙できない環境に何があるのか考える必要があります。特に、むし歯については、非困窮層でもむし歯を有する率は約37%、困窮層は約47%と、東京都の14.0%より高く、また、同居家族に喫煙者がいる割合も、非困窮層36.0%、困

窮層45.3%と高くなっています。地域の課題としての取り組みが求められます。

第5節では、抑うつや不安感の有無を、K6といわれる評価尺度を用いて評価しました(文献4)。高校生と保護者の両方に行いましたが、困窮層により深刻な気分・不安障害がみられ、保護者にその傾向が顕著でした。第1節で示した、保護者対象のSF-8において、精神的サマリースコアが特に低かったことも、この結果と一致するといえます。高校生は、困窮層と非困窮層との差は保護者ほどにはみられなかったものの、中等度以上の抑うつ・不安感を示唆する点数を回答者の約28%に認めることから、高校生のメンタル・ヘルスにも注目する必要があると考えます。

保護者で中等度以上の抑うつ・不安感を示す点数となったのは、非困窮層で19.2%であるのに対し、困窮層は36.1%と約2倍でした。社会機能に影響するほどの抑うつ・不安症状も、困窮層では19.5%に認めました(非困窮層では7.7%)。同様に、ふたり親世帯とひとり親世帯との比較では、ひとり親世帯の保護者に抑うつ傾向が強いことがわかりました。社会的孤立や孤独は、健康を害することが知られています(文献5)。独居でなくても、本人が孤立を感じていたら健康に影響することが示されています。経済的困窮を緩和する政策と同時に、地域での居場所づくりや支えあうことのできるコミュニティづくりは、健康感の改善にも役立つと思われます。高校生が、そのようなコミュニティづくりに参加することも意義があるのではと考えます。

健康格差は、一人の人の人生にわたる様々な要因の蓄積の結果として生じます。例えば、子ども期の家庭環境によって受けられる教育に差が生まれ、生活習慣や就職に影響して、成人期や高齢期の健康格差につながることもあれば、直接・間接に生物医学的な影響が身体にもたらされることもあります。子ども期の生活水準の低さや逆境体験(第7章参照)が、成人期のうつ症状の発生や、高齢期の介護度にも影響することが社会疫学データで示されています。一方、地域のネットワークが豊かな社会資源となり、そうしたつながりのある地域では、住民の精神疾患の有病率や死亡率が低くなることも知られています(文献6)。高校時代の健康度が、その後のライフコースにも影響することをふまえて、健康につながる働きかけを行っていく必要があるという意識が求められます。

第6節では、高校生の朝食や食品の摂取状況が経済状況によって差があることがわかりました。

困窮層において食べる頻度が低い食品は、魚、肉、野菜、果物、乳製品など、たんぱく質やビタミン、ミネラル、食物繊維などが多く含まれる食品でした。一方、摂取頻度が高いソフトドリンクやインスタントラーメンは、糖質を多く含み、その他の栄養素が乏しい食品だといえます。また、前者は比較的価格が高く、調理に手間がかかる食品であり、後者は、価格が安く、調理がほとんど不要な食品です。さらに、前者は、肥満や生活習慣病を予防し、後者は、原因となりやすい食品だといえます。

第7節では、保護者の肥満の割合が、非困窮層より困窮層に多いことがわかりました。高校生においては、断定できる結果ではありませんが同様な傾向がうかがえました。これは、第6節で明らかとなった経済状況による朝食や食品摂取の差が、肥満にも影響している可能性が考えられます。つまり、経済格差が食格差を生み、健康格差につながっていることが推察されます。このことは、県外や海外の先行研究(文献7, 8, 9)から明らかになってきています。沖縄県では、平成28年度県民健康・栄養調査にて20歳以上を対象に、世帯収入と食品群摂取量および肥満者の割合との関連を報告しています。沖縄県の高校生を対象とした、経済状況と食および肥満との関連を報告したものは、本調査が初めてだと思われます。

高校生の経済格差による食格差を是正する対策が重要かつ急務です。本調査において、高校生の経済状況と食との関連が明らかとなりました。一方、肥満との関連は、傾向がうかがえるものの明らかな影響はみられませんでした。これは、食格差が肥満格差となるまでに、ある程度時間を要するためだと考えられま

す。この時期に適切な対策を講じるかどうか、肥満を予防できるか否かの分かれ道になると考えます。

高校生の時期の肥満は、小中学生の時期の肥満よりも成人以降の肥満に移行しやすいことがわかっています。また、本調査からも、保護者の肥満には、過去の暮らし向きが強く影響している可能性が示唆されました。高校生の時に貧困経験があると、大人になって経済的なゆとりがうまれたとしても、肥満になりやすい可能性があります。このことから、高校生を対象とした対策が重要であると説明できます。

ここにおいて、健康的な食品は高価であり、肥満や生活習慣病の発症を招きやすい食品は安価であるという経済構造に問題があると考えます。野菜や魚、肉、乳製品など成長期の高校生に欠かせず生涯の健康に資する食品を購入しやすい価格に調整する必要があります。また、勉強や部活、アルバイトなどで忙しい高校生が健康的な食事にアクセスしやすい環境を整える必要があります。子ども食堂のような食事を提供する場所を設け、そのような団体が持続的、発展的に活動できるような支援が必要です。高校の売店や販売にくる弁当屋、近隣の飲食店の食事内容にも目を向ける必要があるでしょう。高校生を対象とした飲食販売者には、健康的な食事を安価で提供するような指導と支援が必要だと考えます。

【参考文献】

1. 片岡千恵他(2014)「我が国の高校生における危険行動と睡眠時間との関連」『日本公衆衛生雑誌』61(9)、p535-544
2. 全国保険医団体連合会(2020)「受診できない子どもたち—全国学校健診後治療調査より」『月刊保団連』No.1311、p40-45
3. Riehm KE et al. 'Associations between time spent using social media and internalizing and externalizing problems among US youth' *JAMA Psychiatry*, Published online September 11, 2019.
4. Furukawa TA., Kawakami N., Saitoh M., Nakane Y., Nakamura Y., et al.(2008) 'The performance of the Japanese version of the K6 and K10 in the world mental health survey Japan' *Int J Methods Psychiatr Res.* 17, p152-158.
5. Holt-Lunstad J et al. (2015) 'Loneliness and social isolation as risk factors for mortality: a metaanalytic review' *Perspect Psychol Sci.* 10(2), dp227-237
6. 日本プライマリケア・連合学会「健康格差に対する見解と観察」<http://www.primary-care.or.jp/sdh/analysis/index.php#process> (最終アクセス:2020年2月29日)
7. 阿部彩、村山伸子、可知悠子、鷹咲子(2018)『子どもの貧困と食格差—お腹いっぱい食べさせたい』大月書店
8. 碓野佐也香、中西明美、野末みほ、他(2017)「世帯の経済状態と子どもの食生活との関連に関する研究」『栄養学雑誌』75、p19-28
9. 新井祐未、石田裕美、中西明美、他(2017)「世帯収入別の児童の栄養素等摂取量に対する学校給食の寄与」『日本栄養・食糧学会誌』70、p139-146

注) SF-8 については、以下に基づいて分析をおこなった。

福原俊一、鈴嶋よしみ. SF-8 日本語版マニュアル:iHope International 株式会社、京都、2004,2019

第 7 章

ふだんの暮らしと過去の経験

第1節 現在の暮らし

保護者に、「現在の暮らしの状況をどのように感じていますか」と主観的な暮らし向きを尋ねたところ、全体では、12.8%が「大変苦しい」、34.0%が「やや苦しい」と答えていました。経済状況別にみると、非困窮層と困窮層では大きく差が見られ、困窮層では、29.2%が「大変苦しい」、45.5%が「やや苦しい」と答えていました（図7-1-1）。

経年比較、2016年東京都調査との比較は、図7-1-2で結果を示しています。経年比較では、全体的な傾向は変わりませんが、「大変苦しい」という割合が若干増え、「ややゆとりがある」が若干減少したことが読み取れました。

東京都との比較では、「大変苦しい」「普通」の割合はあまり変わりませんが、「やや苦しい」が沖縄県では少し多く、「ややゆとりがある」は東京都で少し高いことがわかります。一方で、本節で後述される、家計の状況や、本章で後述される、滞納経験などと比較すると、本分析のような主観的な認識面で暮らし向きを問う質問では、東京都との比較では大きな違いはないようにみえます。

本調査では、高校生本人にも、主観的な暮らし向きを尋ねています（図7-1-3）。すると、全体では、保護者と比較すると、「大変苦しい」「やや苦しい」割合が減り、「普通」と答える割合が高く、高校生は保護者に比べ主観的な困り感は低いことがみえましたが、一方で、経済状況別にみると違いがみえ、困窮層では高校生も、非困窮層に比べ、「大変苦しい」「やや苦しい」とする割合が高いことが推察できました。

経年比較は、図7-1-4で示しています。「大変苦しい」「やや苦しい」と答えるものが減り、「普通」と答える高校生が多くなっています。

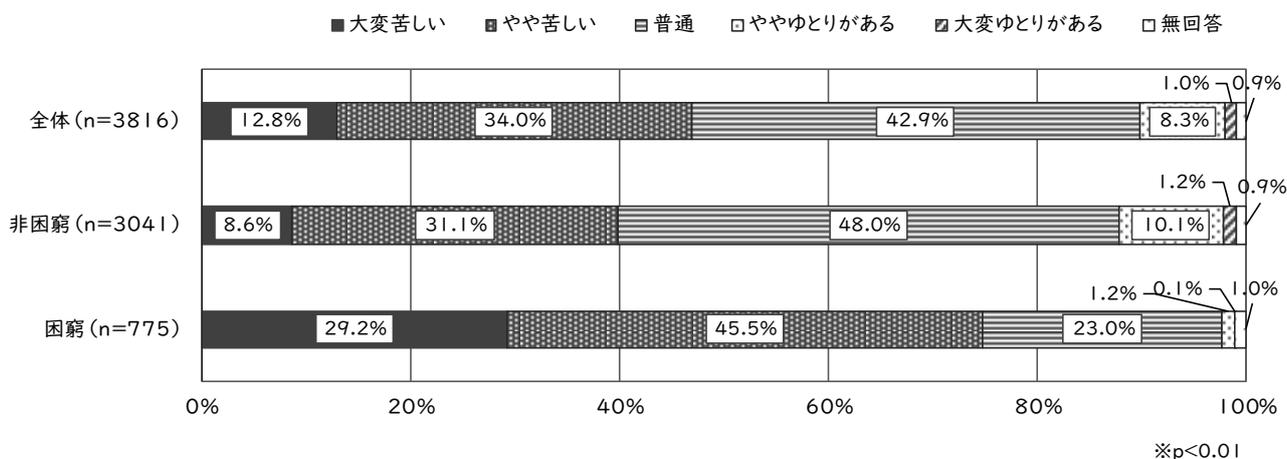
家計の状況については、全体では、「赤字であり、借金をして生活している」または「赤字であり、貯蓄を取り崩している」という赤字である世帯は、約33%におよび、「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである」も約50%でした。経済状況別にみると差は大きく、困窮層では50%以上が赤字である世帯でした（図7-1-5）。

図7-1-6が示す、経年比較では、全体的な傾向には変化はありませんが、「赤字であり、借金をして生活している」世帯が若干減っていることが読み取れました。

図7-1-7は2016年東京都調査のデータです。東京都には、「その他」の選択肢があり、また沖縄県では「黒字であり、余裕がある」という選択肢が、東京都では「黒字であるが、貯蓄はしていない」となっており、選択肢がやや異なるため、沖縄県の棒グラフは並べていません。しかし、「その他」の割合は1.5%であり、また他の選択肢はほぼ一致しており、相違点に留意しながら比較分析は可能と考えられます。図7-1-5の全体と比較すると、「赤字であり、借金をして生活している」や「赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである」の割合が東京都では10ポイント以上低く、「黒字であり、毎月貯蓄をしている」の割合が東京都では20ポイント以上高いことがわかります。

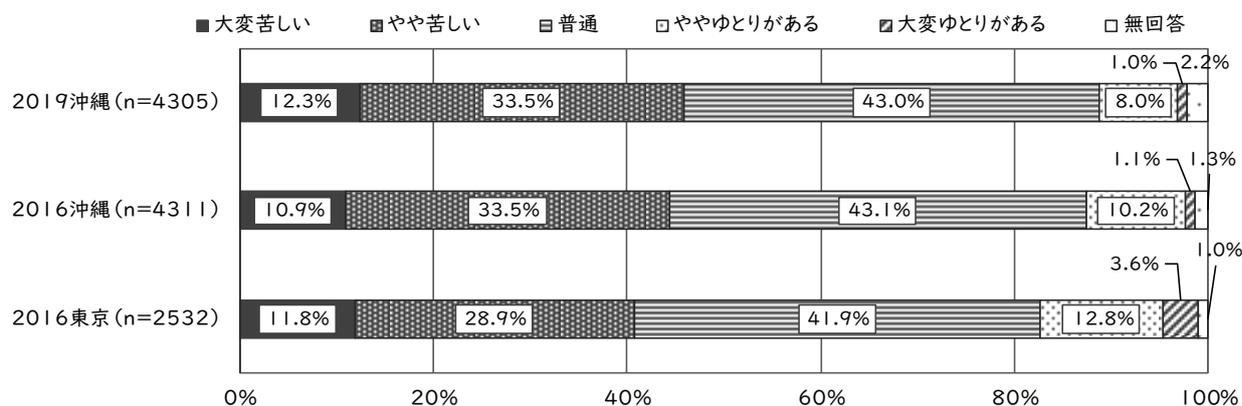
◆【保護者】現在の暮らし

図7-1-1 【保護者】あなたは、ご家庭の現在の暮らしの状況をどのように感じていますか



【2016年沖縄県調査、東京都調査との比較】

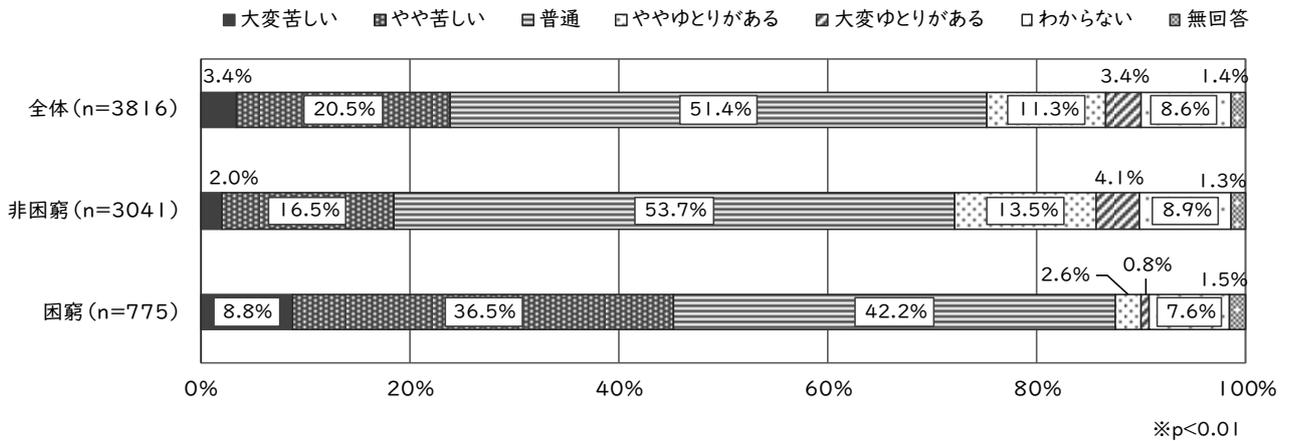
図7-1-2 【保護者】あなたは、ご家庭の現在の暮らしの状況をどのように感じていますか



※東京調査の質問は、「現在の暮らしの状況をどのように感じていますか」

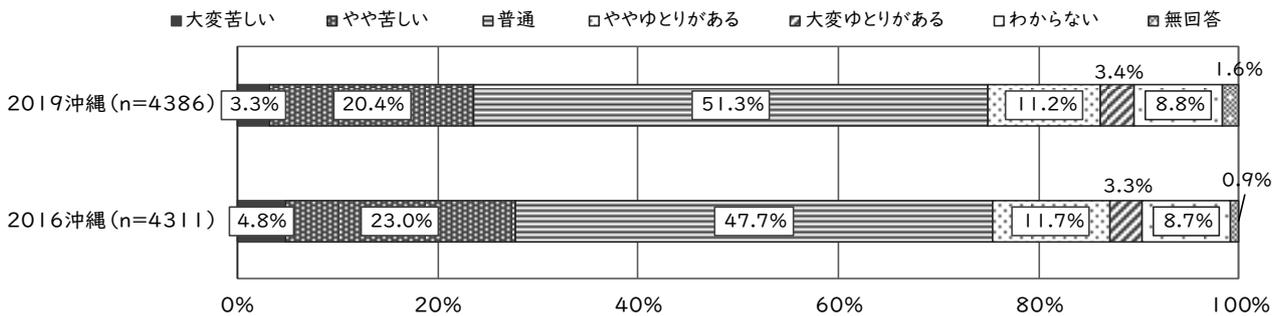
◆【生徒】現在の暮らし

図7-1-3 【生徒】あなたの家の暮らしは、経済的に(お金に関して)は、次のどれにあたると思いますか



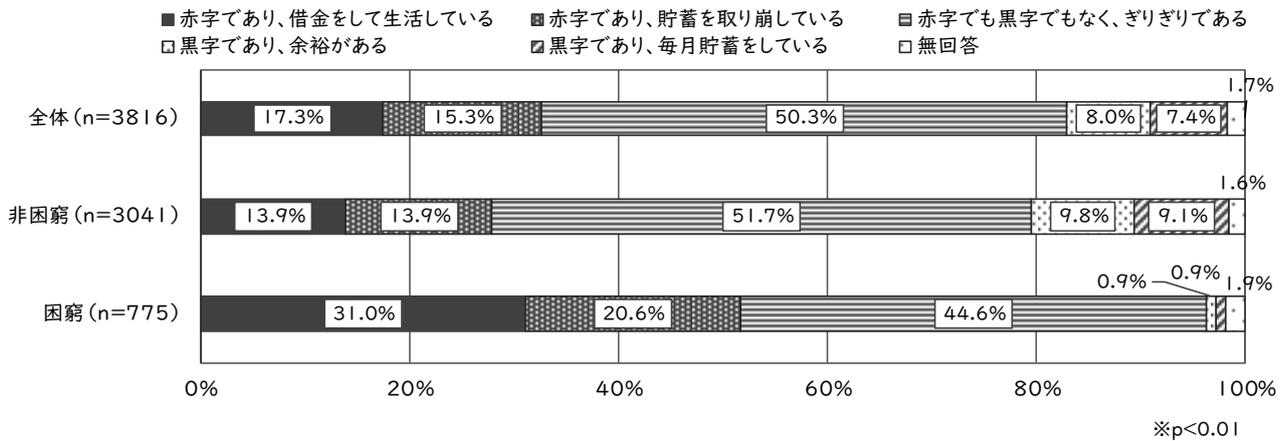
【2016年沖縄県調査との比較】

図7-1-4 【生徒】あなたの家の暮らしは、経済的に(お金に関して)は、次のどれにあたると思いますか



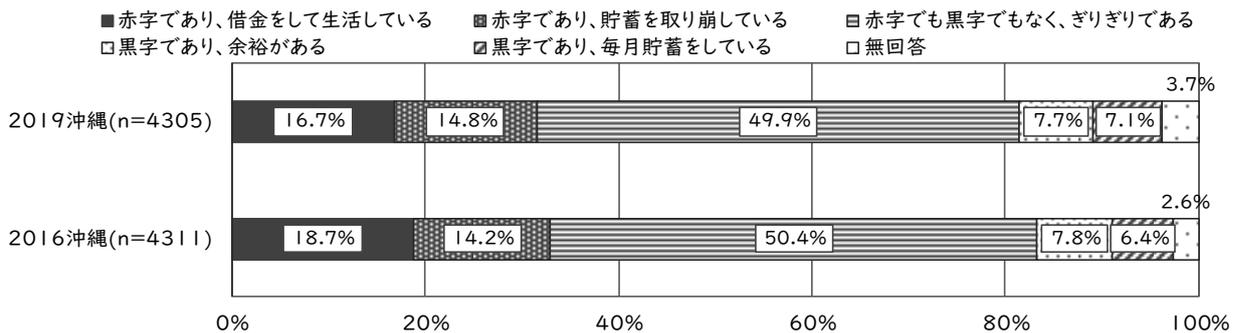
◆家計の状況

図7-1-5【保護者】あなたのご家庭の通常の家計の状況について、もっとも近いものに○をしてください



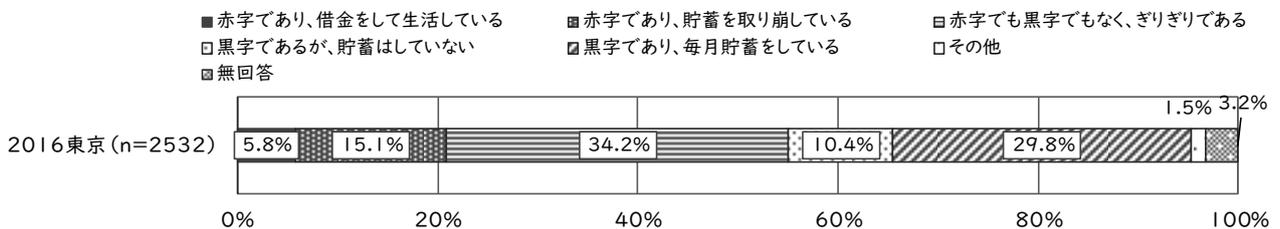
【2016年沖縄県調査との比較】

図7-1-6【保護者】あなたのご家庭の通常の家計の状況について、もっとも近いものに○をしてください



【2016年東京都調査】

図7-1-7【2016東京・保護者】ご家庭の家計について、最も近いものをお答えください



第2節 住宅

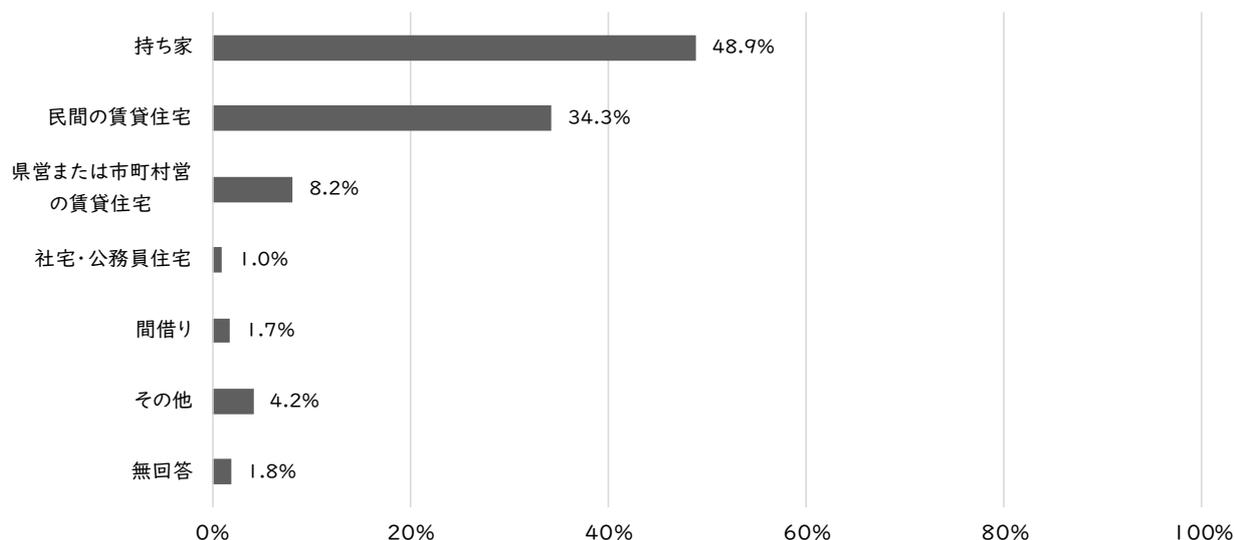
住宅の形態や部屋数、広さ、快適性、費用などについて、保護者に尋ねています。図7-2-1は「持ち家」48.9%、「民間の賃貸住宅」34.3%、「県営または市町村営の賃貸住宅」8.2%となっています。これを図7-2-2の2016年東京都調査で「持ち家」が74.1%となっていることと比べると大きな違いがあります。総務省が行った最新の平成30年住宅・土地統計調査の結果でも沖縄県の持ち家率は44.4%と全国最低で今回の調査結果もうなずけるところです。公営住宅に住む人も東京都（4.0%）の約2倍となっています。これを図7-2-3で経済状況別に分けると困窮層の持ち家率は、全体の約半分（24.5%）になり、公営住宅は約2倍（16.9%）になります。

図7-2-4では困窮層の部屋数が非困窮層より明らかに少なく、図7-2-5にあるように住宅事情の厳しい東京都との比較においても、沖縄県の住宅の部屋数の少なさがわかります。

図7-2-6から図7-2-13までは、住宅にかかる様々な快適性に関して保護者に聞きました。すべての項目で困窮層が非困窮層と比べ、「不満」、「やや不満」とした割合が上回っていました。特に図7-2-7「子どもを遊ばせるスペースの十分さ」、図7-2-8「遮音性」、図7-2-11「災害に対する安全性」、図7-2-12「住宅の防犯性」、図7-2-13「住宅に係る費用」において、困窮層の不安や不満が多いことがうかがえました。

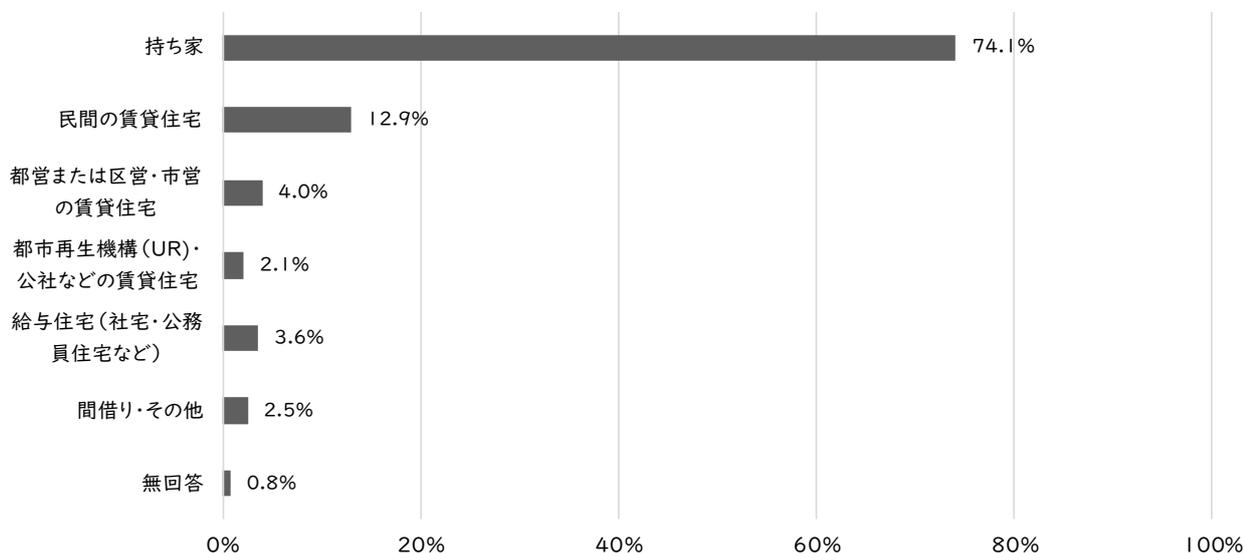
住宅にかかる費用という点では大きなウェイトを占めるのが家賃や住宅ローンの支払いですが、図7-2-14で負担能力の差を比べると、非困窮層では約4世帯に3世帯が5万円以上を負担しているのに対し、困窮層では約半分の世帯が5万円未満であることがわかりました。

図7-2-1 【保護者】現在お住まいの住居の形態は、次のどれがもっともよくあてはまりますか（n=4305）



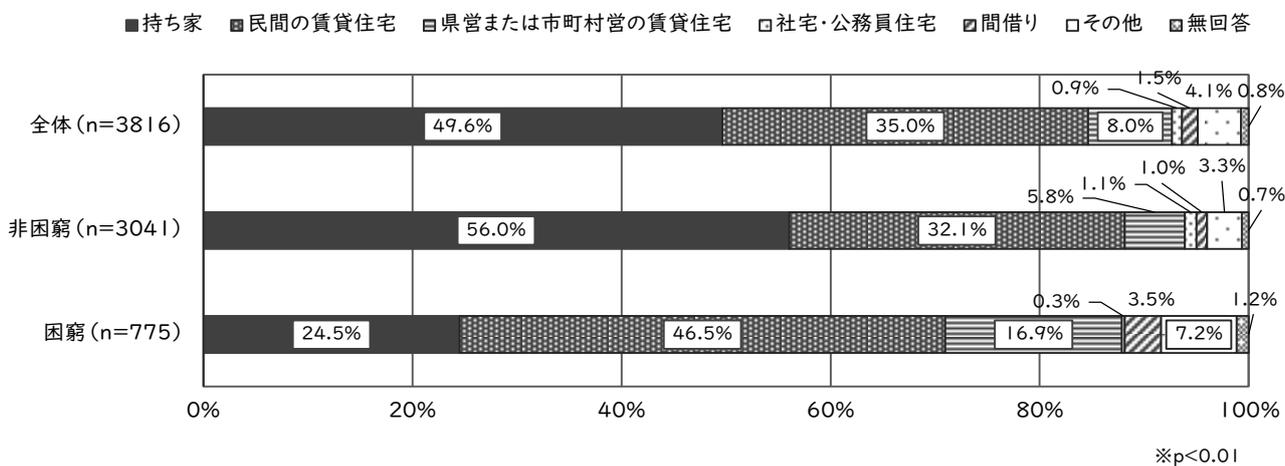
【2016年東京都調査】

図7-2-2 【2016東京・保護者】現在お住まいの住居の形態は、次のどれが最もよくあてはまりますか
(n=2532)



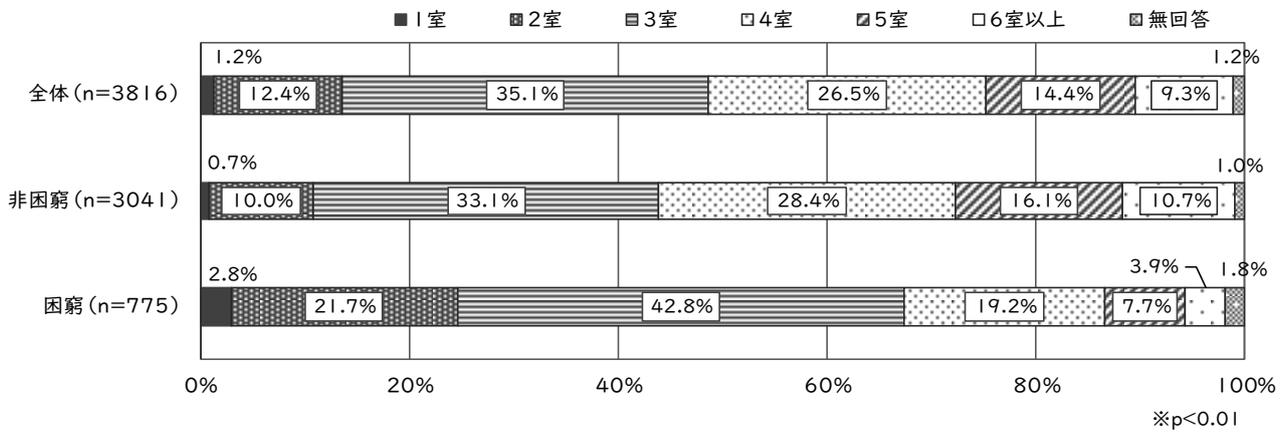
【経済状況別】

図7-2-3 【保護者】現在お住まいの住居の形態は、次のどれがもっともよくあてはまりますか



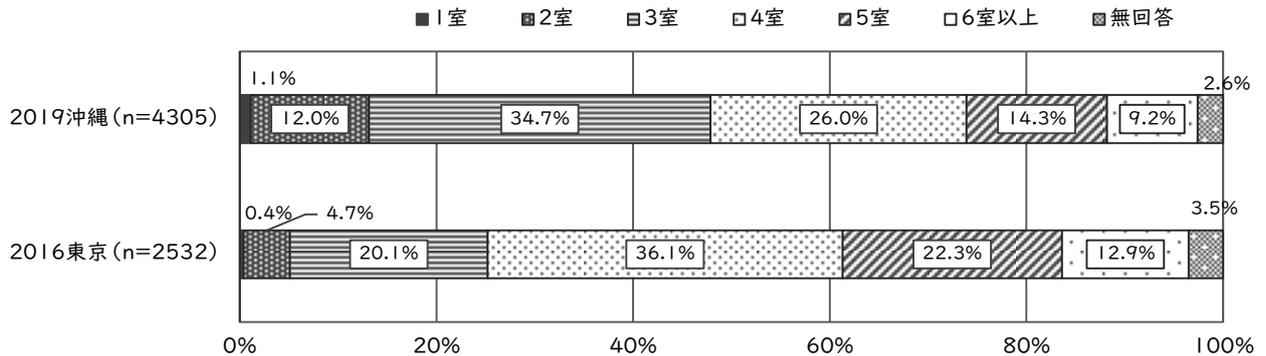
◆部屋数

図7-2-4【保護者】お住まいの住居の室数について、居住用の部屋数(玄関やふろ等は含めない)を教えてください



【2016年東京都調査との比較】

図7-2-5【保護者】お住まいの住居の室数について、居住用の部屋数(玄関やふろ等は含めない)を教えてください



◆住まいについて

図7-2-6【保護者】利便性の良さ(公共交通機関が使いやすい、学校や病院、買い物ができる場所が近くにある)

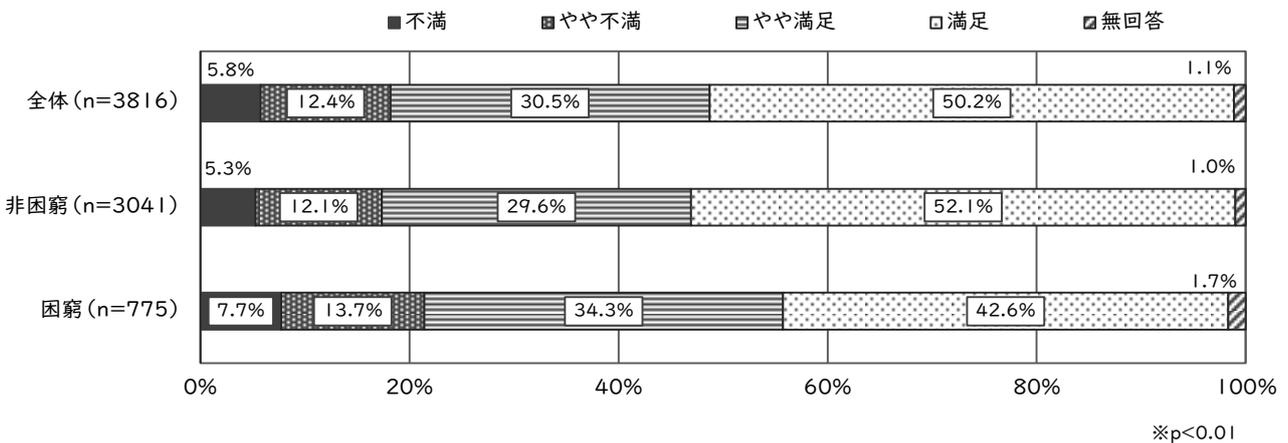


図7-2-7 【保護者】子どもを遊ばせるスペースの十分さ

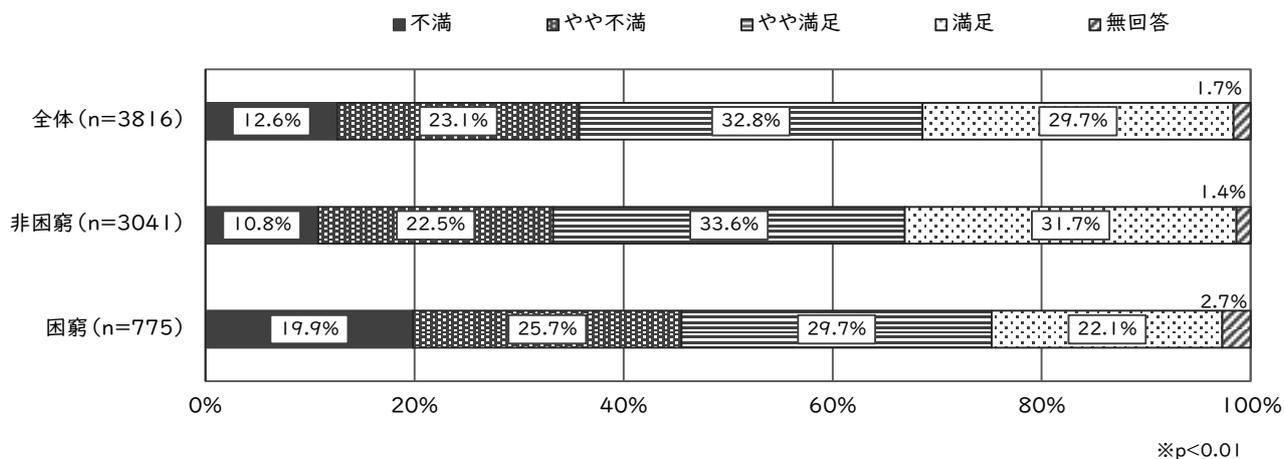


図7-2-8 【保護者】遮音性(子どもの遊ぶ声が隣に聞こえてしまうことなど)

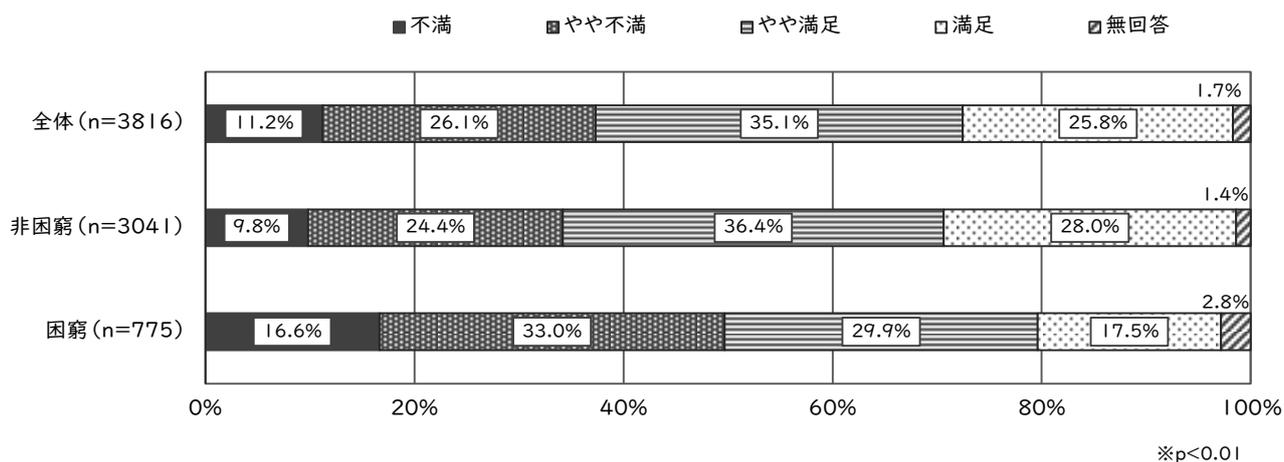


図7-2-9 【保護者】日当りのよさ

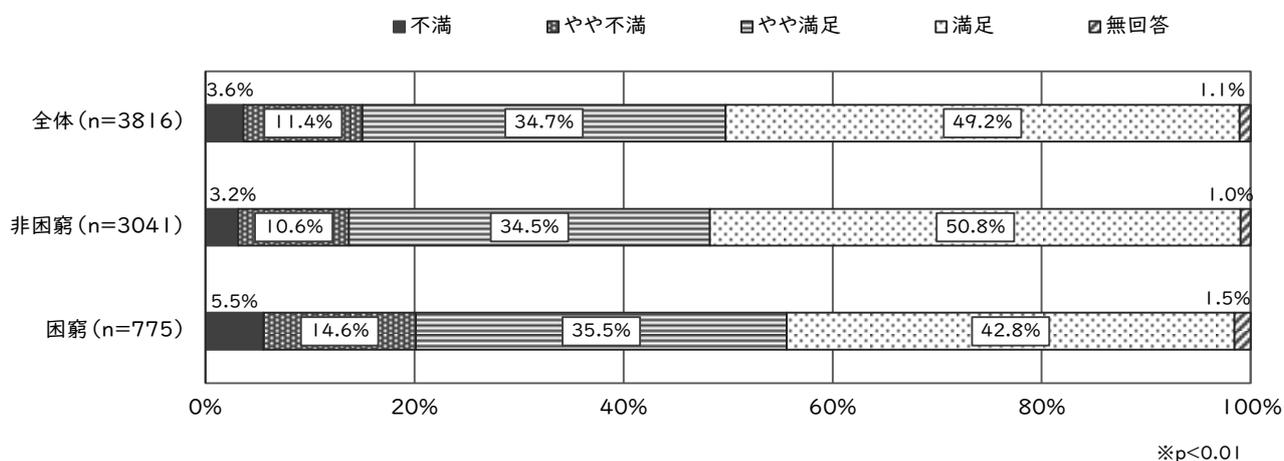


図7-2-10 【保護者】風通しのよさ

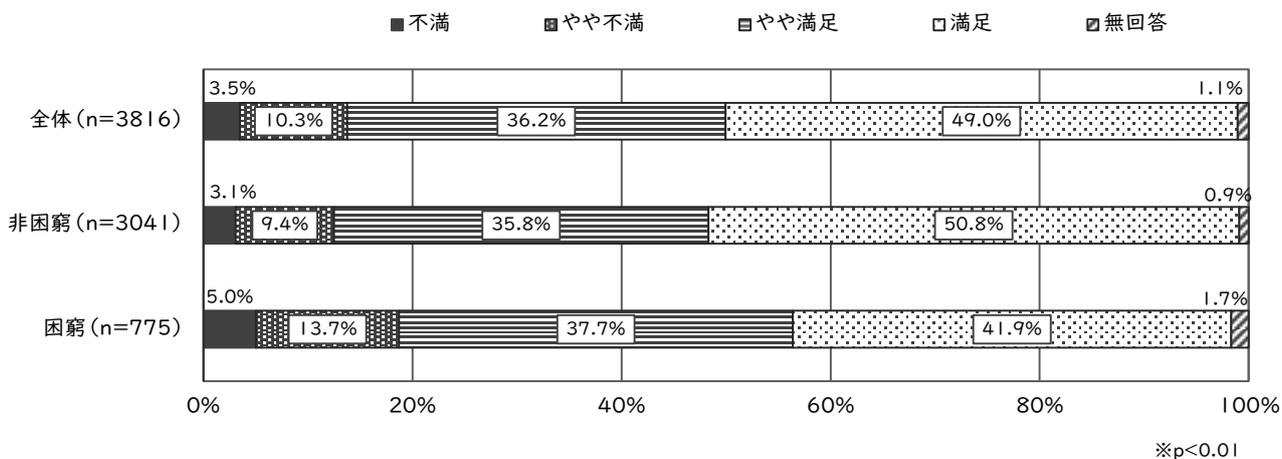


図7-2-11 【保護者】災害(水害や火災など)に対する安全性

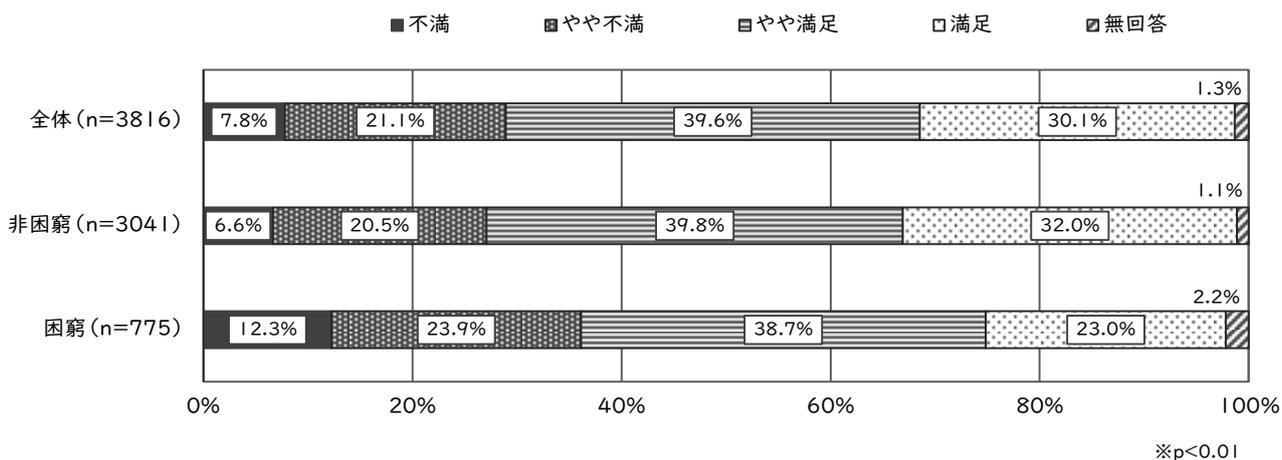


図7-2-12 【保護者】住宅の防犯性

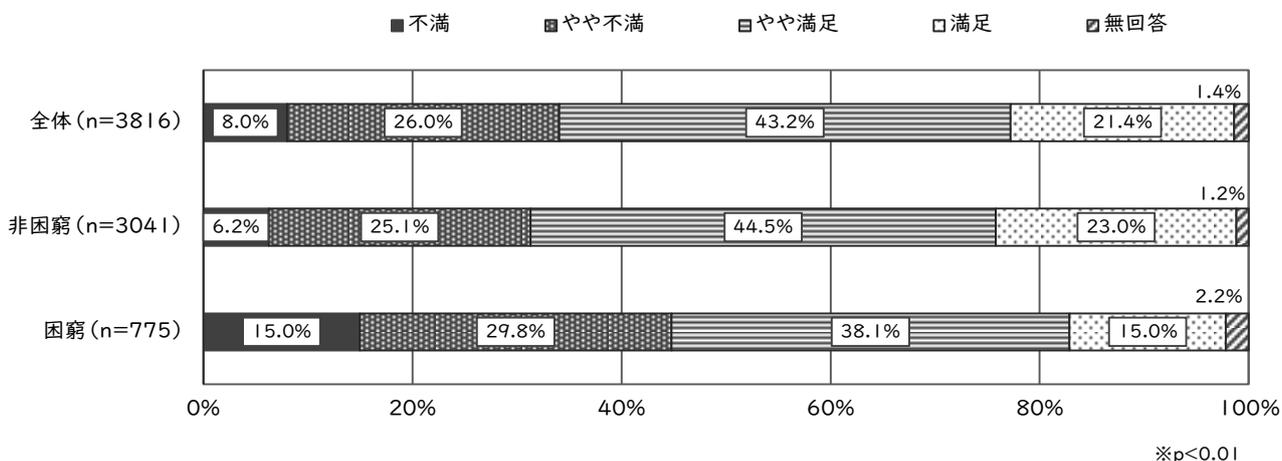
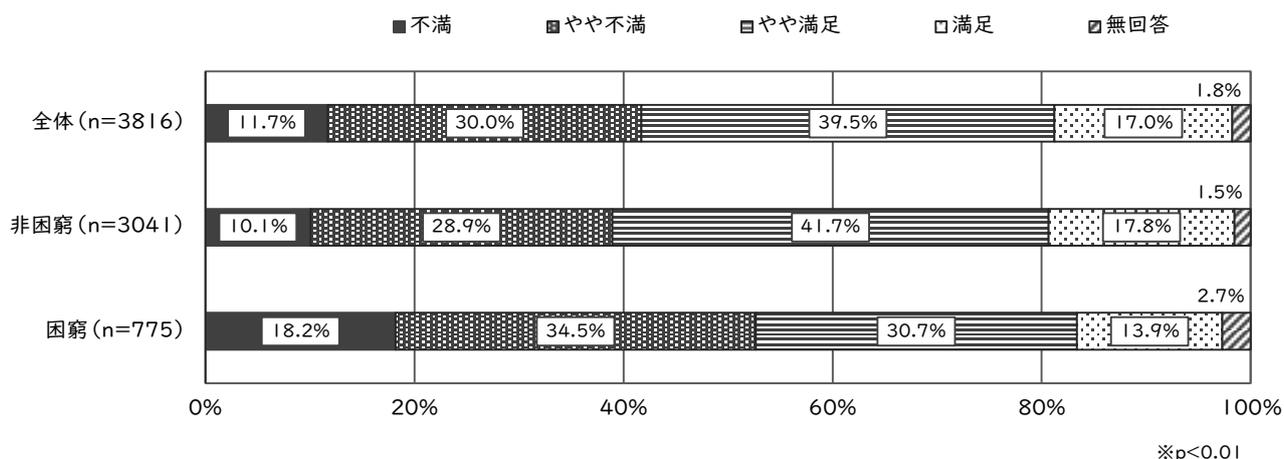


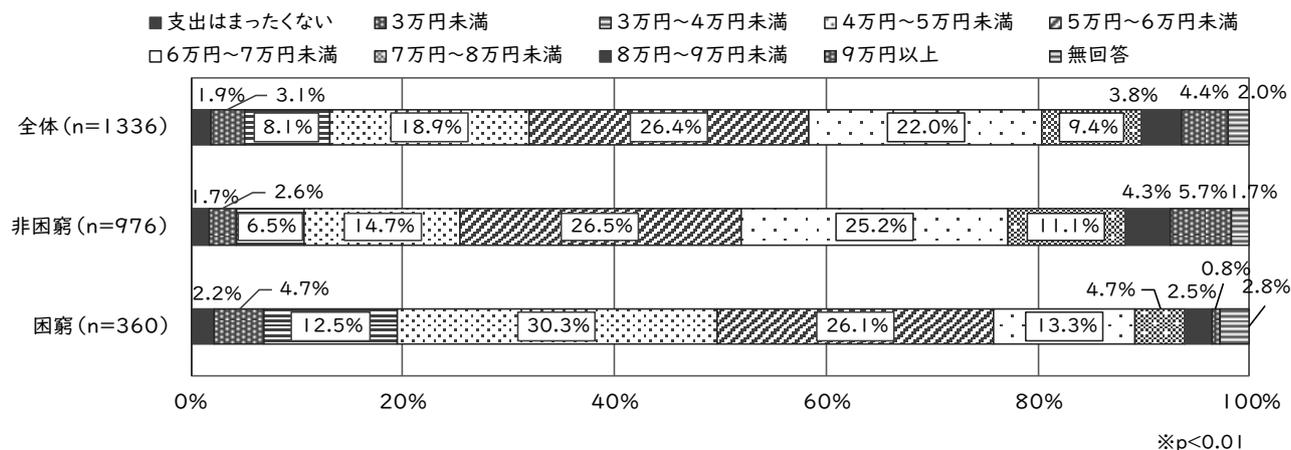
図7-2-13 【保護者】住宅に係る費用



◆住居費用

図7-2-14 【保護者】1か月の平均支出のうち、住居費(家賃・住宅ローン)はどれくらいですか

※住居形態が「民間の賃貸住宅」のみで集計



第3節 幸福感

高校生に、この1年間を振り返っての幸福度を0(とても不幸)から10(とても幸せ)の11段階で聞いたところ、多くの高校生は、幸福感の高いほうである7点以上を選び、4点から6点の中程度を合わせると、90%以上の高校生が中程度以上に該当しました。一方で、約7%が3点以下の低いほうに該当しました。

経済状況別にみると、困窮層では3点以下の幸福度の低い高校生の割合が若干高いことがみえました。また、図7-3-3は、経済状況別に平均値を取ったものですが、平均でも0.3点の差がみえました(統計的には有意)。

図7-3-2は、これを2016年東京都調査の結果と比較したものです。すると、平均値に近い中間程度では、沖縄県のほうが若干高い数値でしたが、一方で0点から3点の数値の低いグループでも、東京都の約5%に対し、沖縄県では約7%と少し高い結果がみえました。

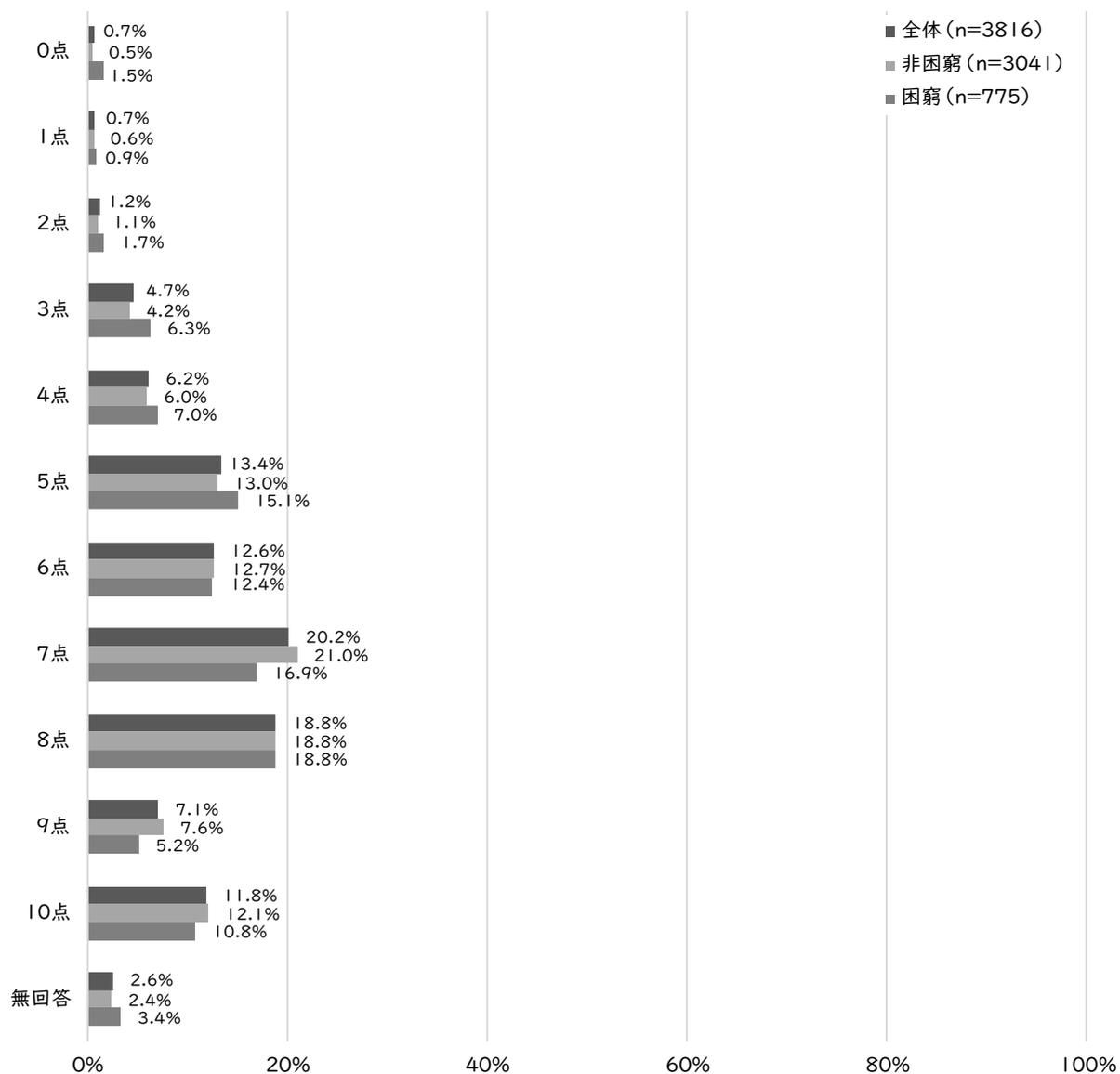
図7-3-3で行った、この質問結果の平均値を用いて、第2章で分析した「学校はあなたにとって楽しいですか」という質問に対する回答が、どのように高校生たちに影響をしているかを、経済状況別に分析したものが、図7-3-4です。

結果として、困窮層・非困窮層ともに学校が「楽しくない/どちらとも言えない」場合は、「楽しい」場合に比べ、幸福感を示す平均値は下がりますが、困窮層のほうが平均値の減少の程度は大きいことがわかりました。この事実に対する違う見方を示せば、困窮層は学校が「楽しい」場合には、幸福感は非困窮層との間で0.1点の違いと、ほぼ差がなくなるほど縮小されるといえます。

図7-3-5は、図7-3-4と同様の手法を用いて、今度は第2章で分析した「あなたは、学校の勉強がわからないことがありますか」という質問(授業の理解)に対する回答が、どのように高校生たちに影響をしているかを、経済状況別に分析したものです。

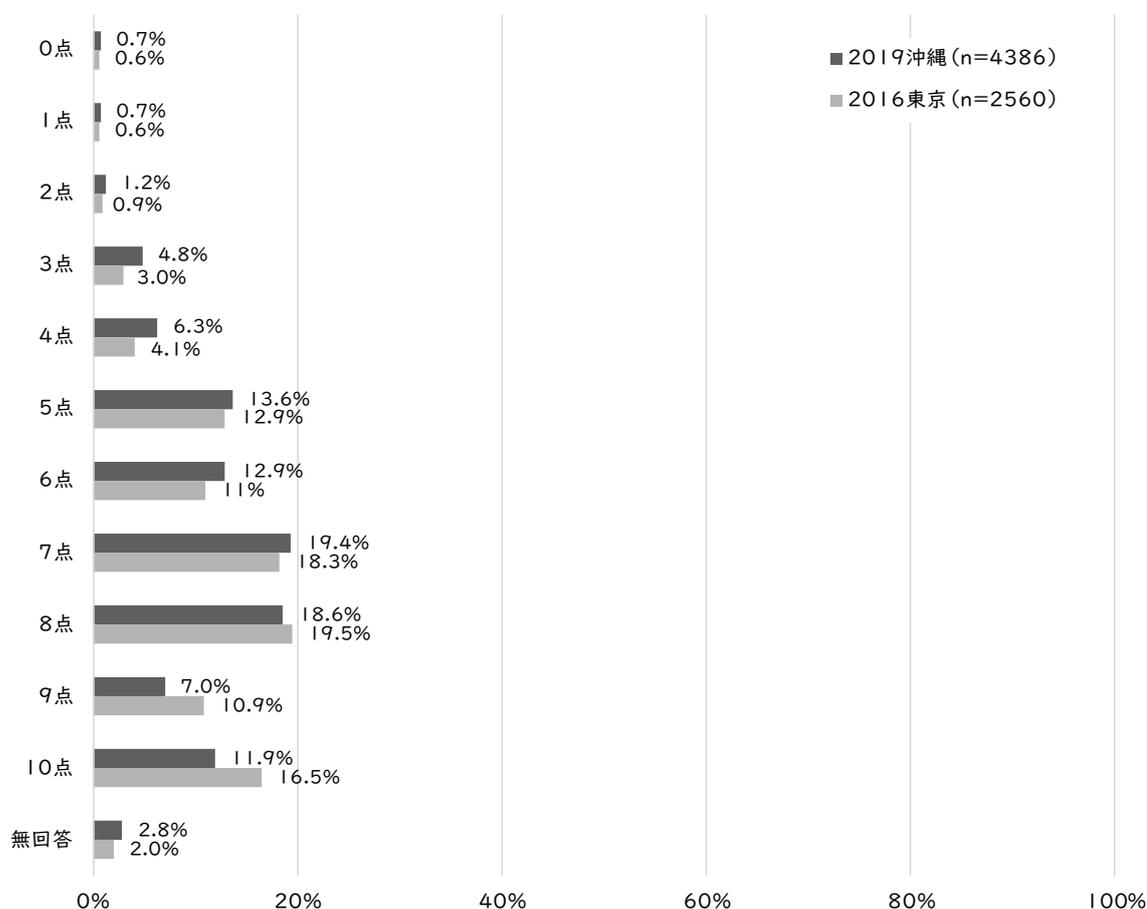
結果として、困窮層でも非困窮層でも授業の理解が「いつもわかる/だいたいわかる」場合と比較して、「あまりわからない/わからないことが多い/ほとんどわからない」場合は、高校生の幸福感の平均値は上がります。しかし、困窮層と非困窮層の差は、二つの場合であまり変わりませんでした。

図7-3-1 【生徒】この1年を振り返って、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか



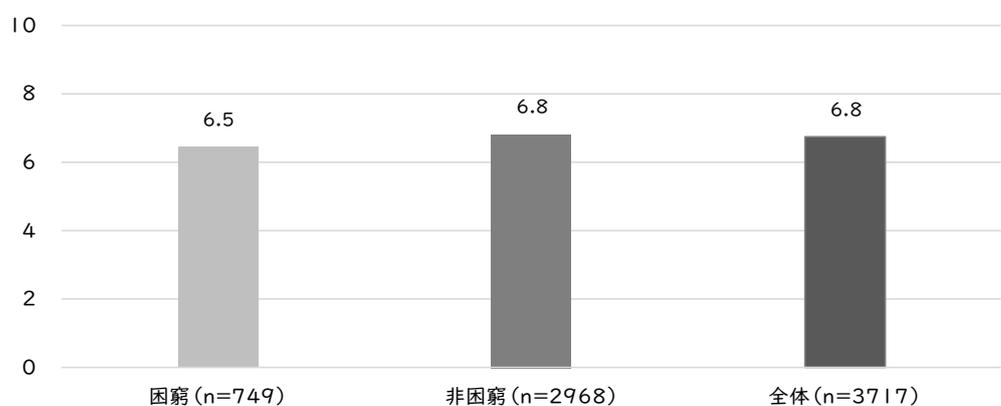
【2016年東京都調査との比較】

図7-3-2 【生徒】「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか



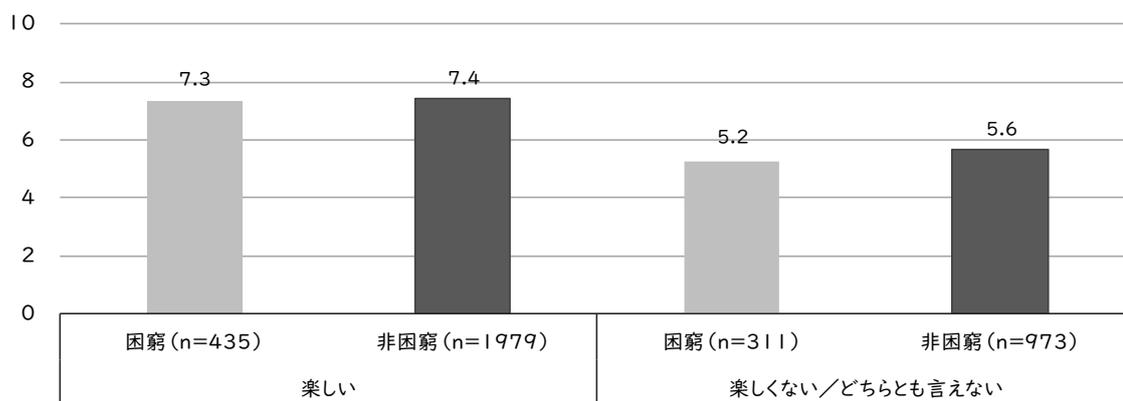
【平均値】

図7-3-3 【生徒／平均値】この1年を振り返って、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか



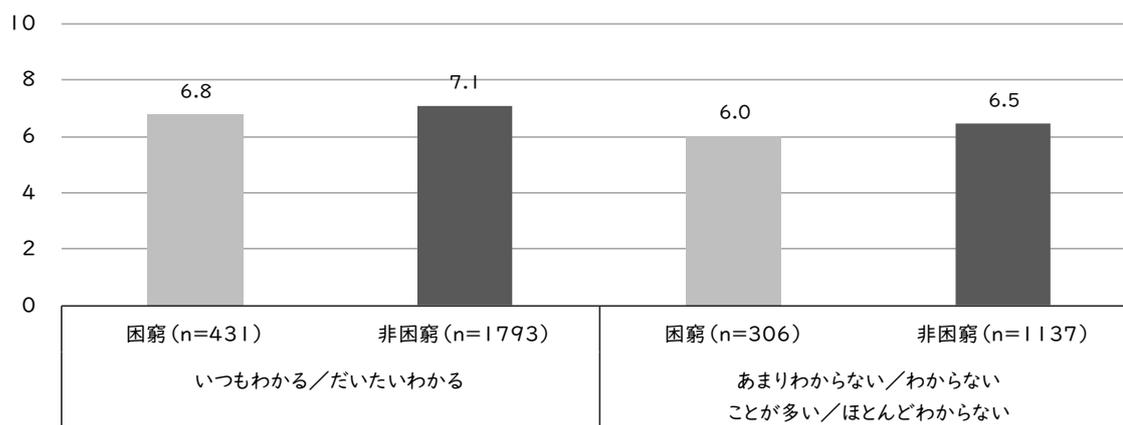
※p<0.01

図7-3-4 【生徒】この1年を振り返って、あなたはどの程度幸せですか（世帯所得×学校が楽しいか）



※「楽しい」は、有意差なし、「楽しくない/どちらとも言えない」は、 $p < 0.01$

図7-3-5 【生徒】この1年を振り返って、あなたはどの程度幸せですか（世帯所得×授業の理解）



※ $p < 0.01$

第4節 滞納経験

過去1年間における、経済的な理由での、「公共料金（電気、水道、ガス、電話）」、「家賃」、「住宅ローン」、「その他の債務」について、滞納することがあったかを聞いています（図7-4-1から図7-4-7）。

全体で見ると、4つの公共料金では、約10%から13%の世帯で滞納経験がありました。また、家賃は約10%、住宅ローンは約3%、その他の債務は約15%で経験があったとしています。一方で、経済状況別にみると、住宅ローンを除いて、すべての項目で大きな差がみられ、困窮層では、滞納は、公共料金では約22%から27%、家賃では約24%、その他の債務では約29%でありました。

図7-4-8から図7-4-14までは、これらを経年比較、および2016年東京都調査と比較を行ったものです。経年比較では、両年で変化はほとんどみられませんでしたが。東京都の比較では、どの項目でも、沖縄県のほうが高い割合でした。住宅ローンを除くと、どの項目も約3-4倍という大きな違いがみられました。

図7-4-15は、「子供の貧困対策大綱」（2019年）において示されている、全国のデータとの比較を行ったものです。すると、全世帯でもひとり親世帯でも、沖縄県のほうが全国平均よりも高い数値で、全世帯で電気代では2.2倍、水道代では1.7倍、ガス代では1.6倍の違いがありました。

滞納経験では、沖縄県の全体の世帯の数値だけでなく、図7-4-1から図7-4-7で示される非困窮層だけの数値（例えば、電気代8.4%）も、今回示されているすべての項目で、困窮層も含んでいる東京都（例えば、電気代3.1%）や子どものいる世帯全体の全国平均（例えば、電気代5.3%）よりも高いことを指摘できます。

図7-4-1 【保護者】電気代

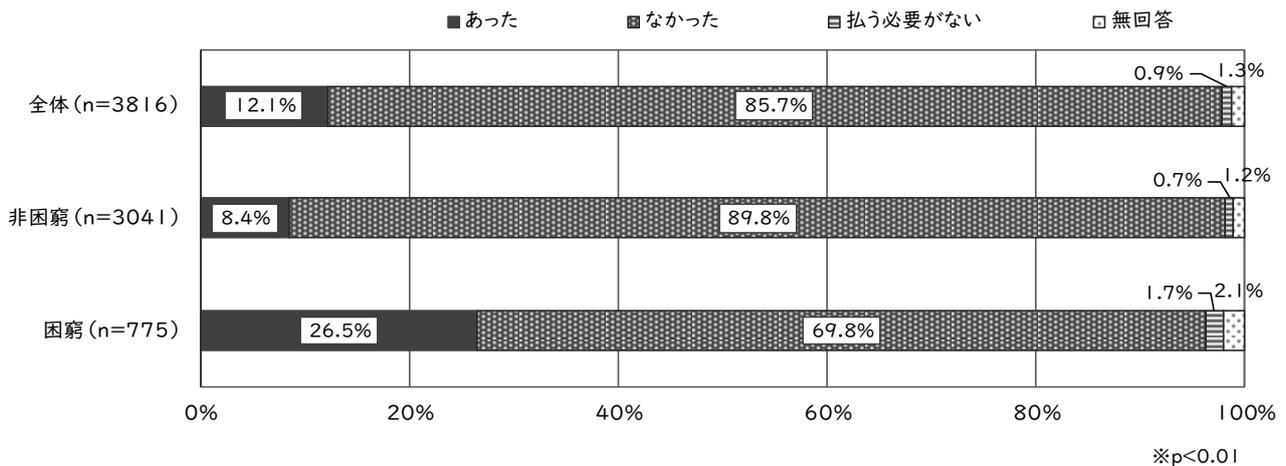


図7-4-2 【保護者】水道料金

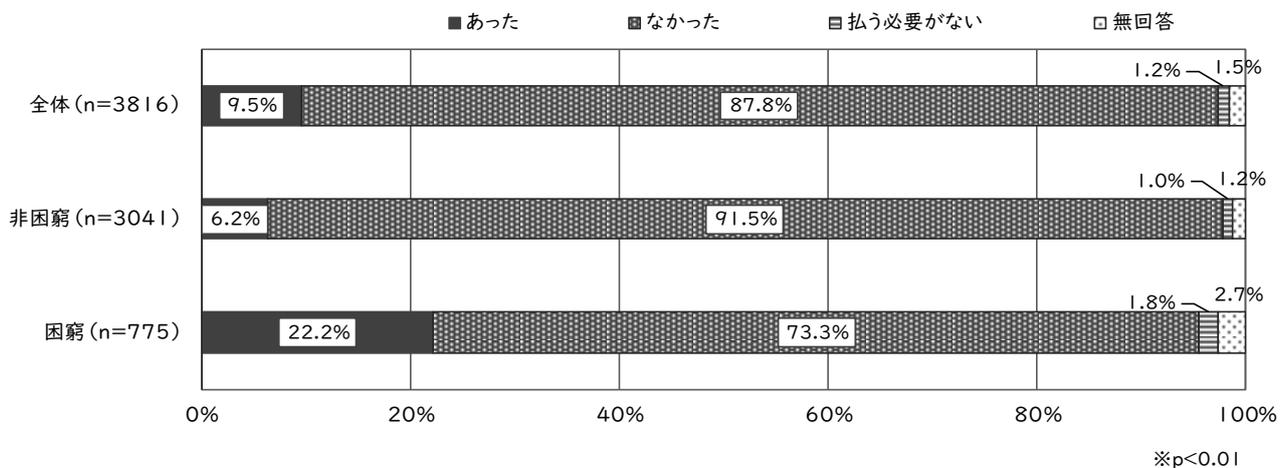


図7-4-3 【保護者】ガス代

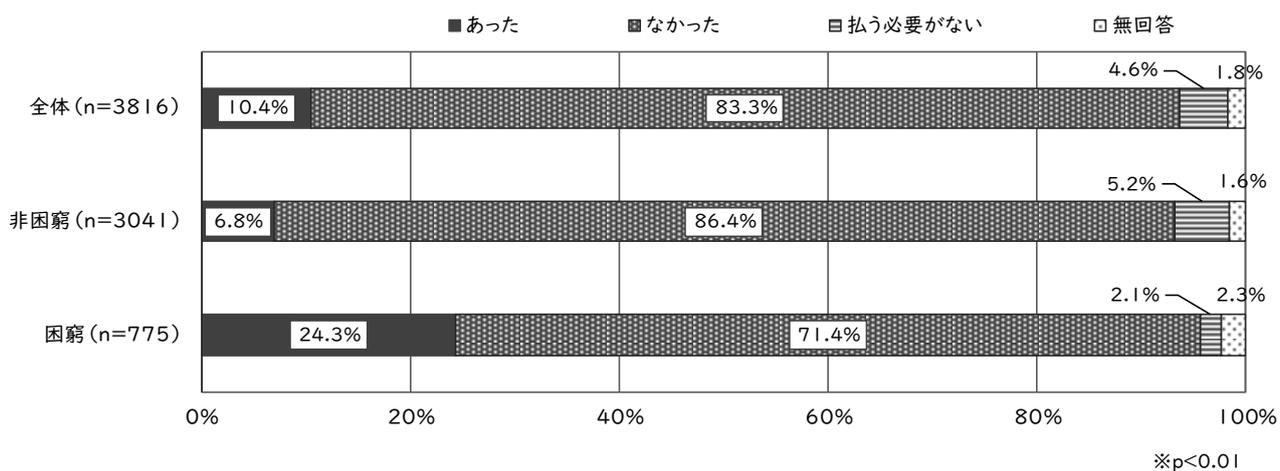


図7-4-4 【保護者】電話料金

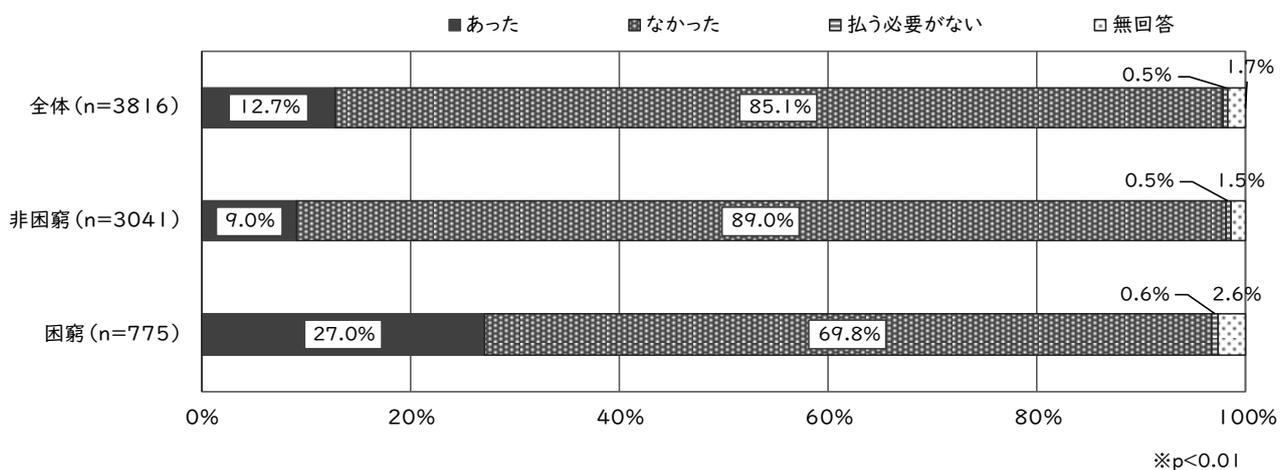


図7-4-5 【保護者】家賃

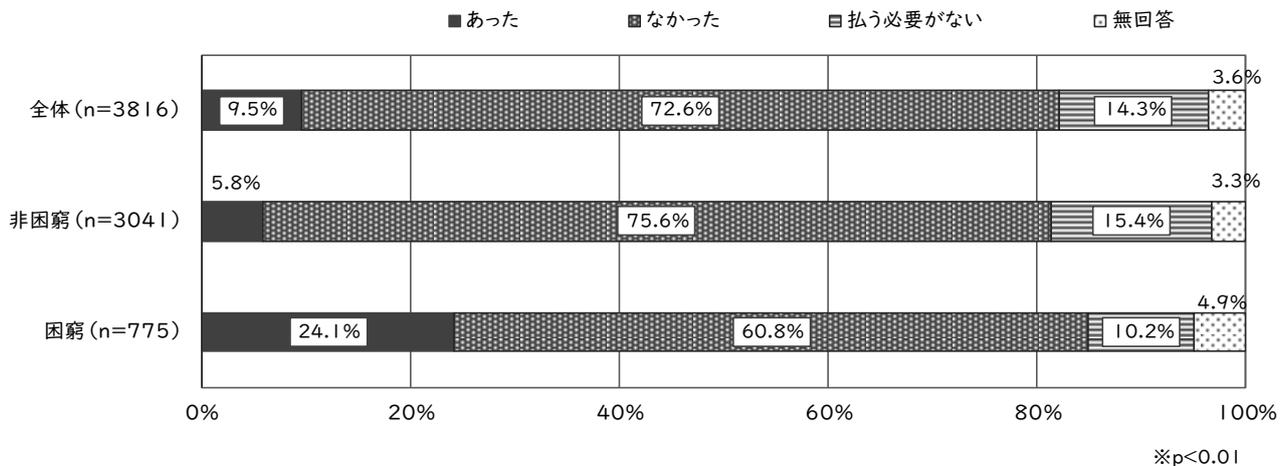


図7-4-6 【保護者】住宅ローン

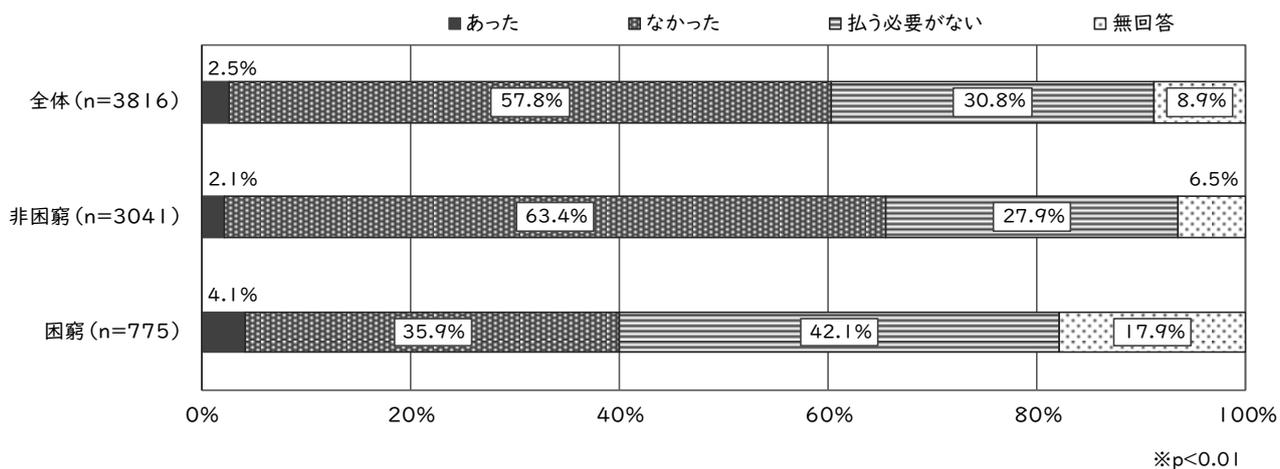
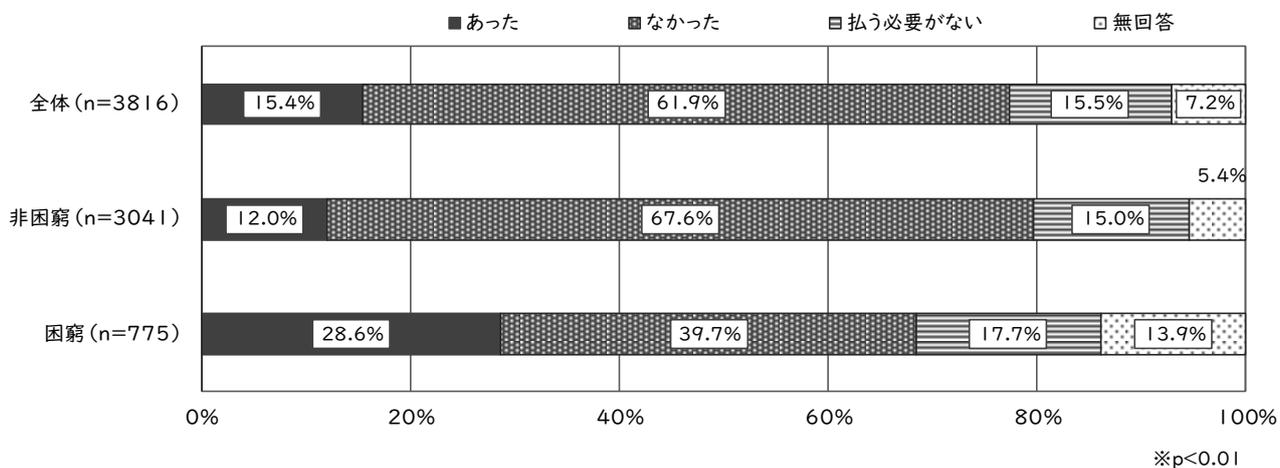
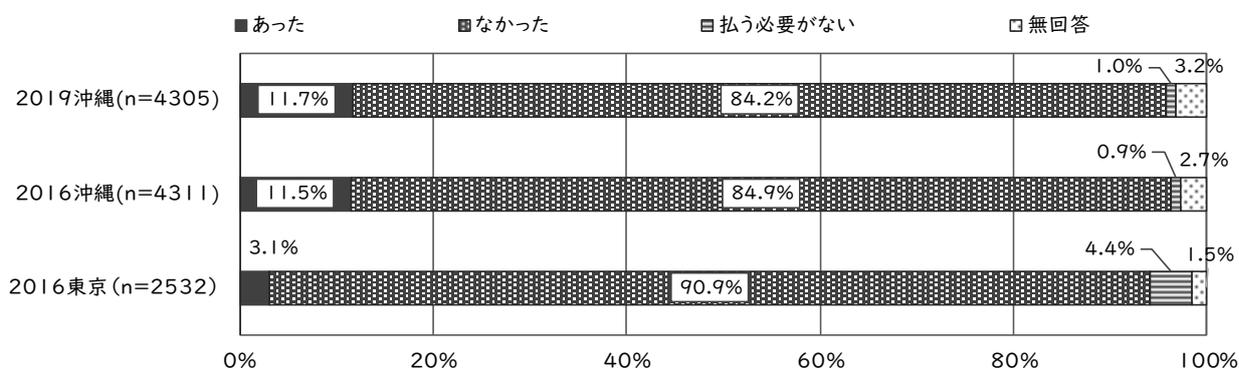


図7-4-7 【保護者】その他の債務



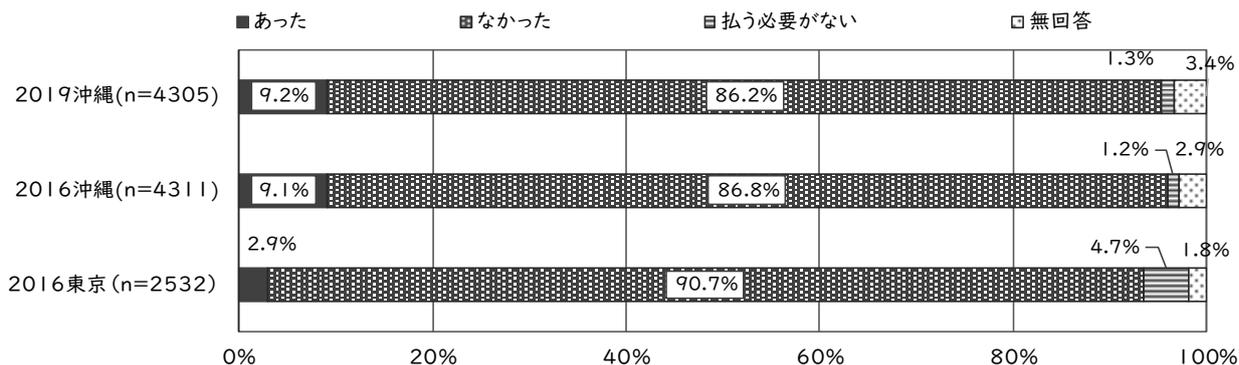
【2016年沖縄県調査、東京都調査との比較】

図7-4-8 【保護者】電気代(※2016東京調査は「電気料金」)



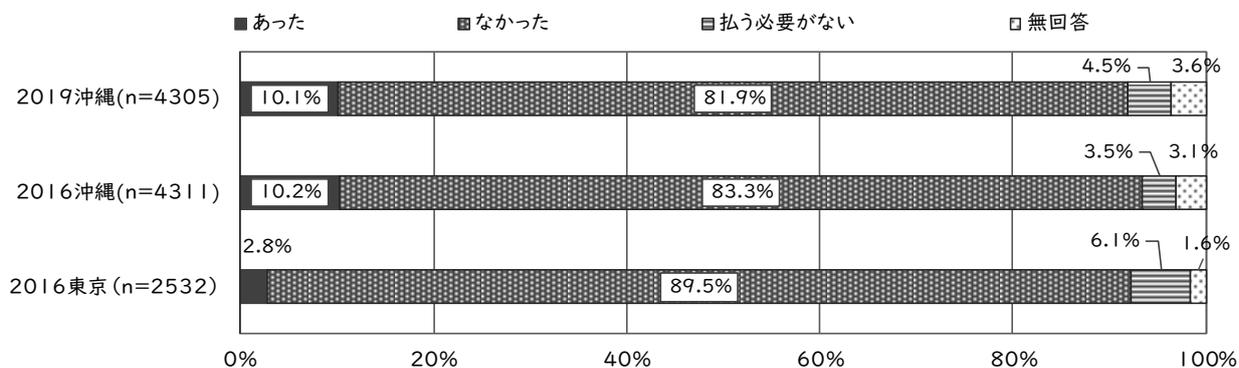
注) 東京調査の質問は、「過去1年の間に、経済的な理由で、以下のA~Gのサービス・料金について、支払えないことがありましたか」

図7-4-9 【保護者】水道料金



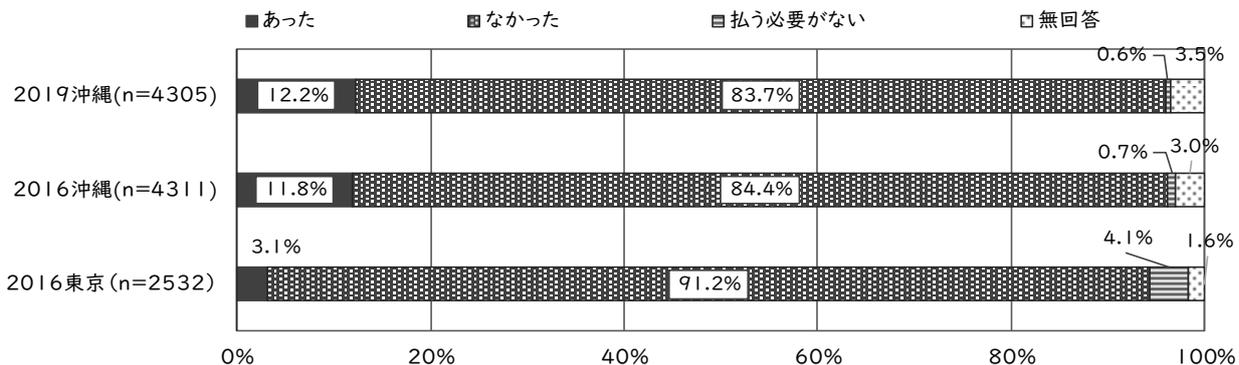
注) 東京調査の質問は、「過去1年の間に、経済的な理由で、以下のA~Gのサービス・料金について、支払えないことがありましたか」

図7-4-10 【保護者】ガス代(※2016東京調査は「ガス料金」)



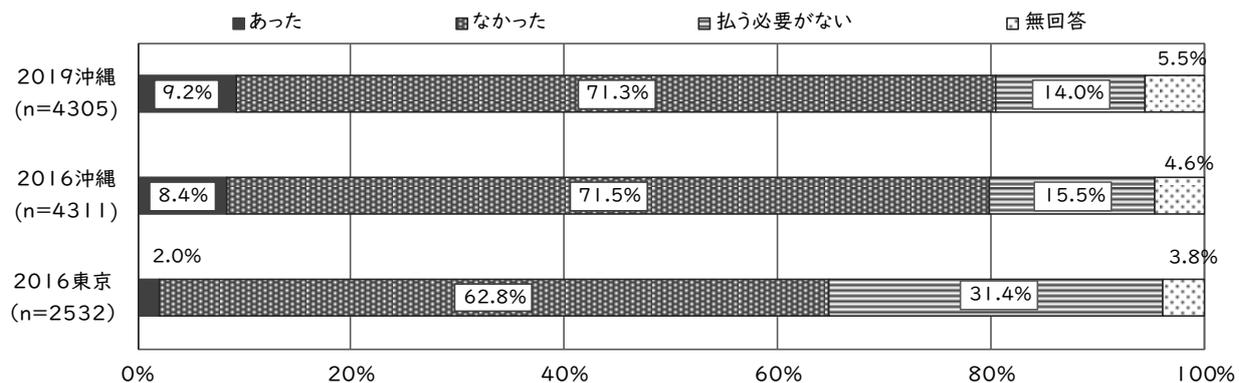
注) 東京調査の質問は、「過去1年の間に、経済的な理由で、以下のA~Gのサービス・料金について、支払えないことがありましたか」

図7-4-11 【保護者】電話料金



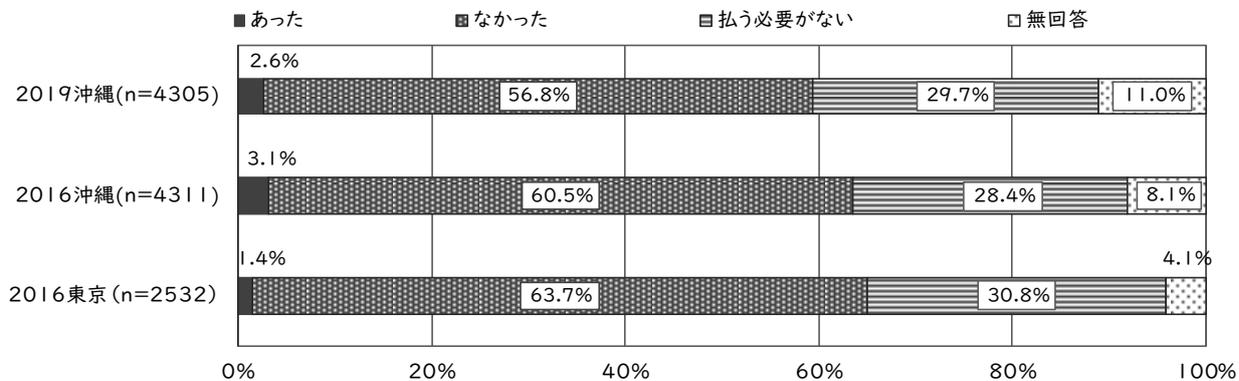
注) 東京調査の質問は、「過去1年の間に、経済的な理由で、以下のA~Gのサービス・料金について、支払えないことがありましたか」

図7-4-12 【保護者】家賃



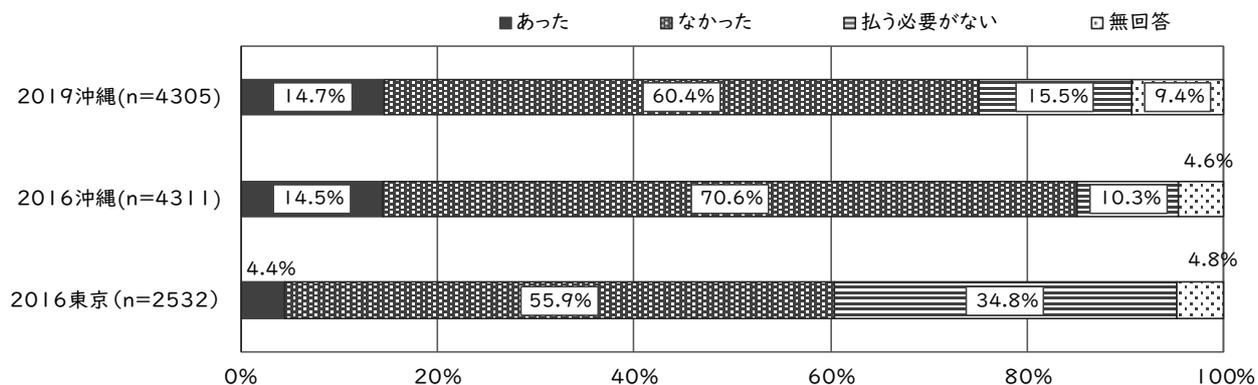
注) 東京調査の質問は、「過去1年の間に、経済的な理由で、以下のA~Gのサービス・料金について、支払えないことがありましたか」

図7-4-13 【保護者】住宅ローン



注) 東京調査の質問は、「過去1年の間に、経済的な理由で、以下のA~Gのサービス・料金について、支払えないことがありましたか」

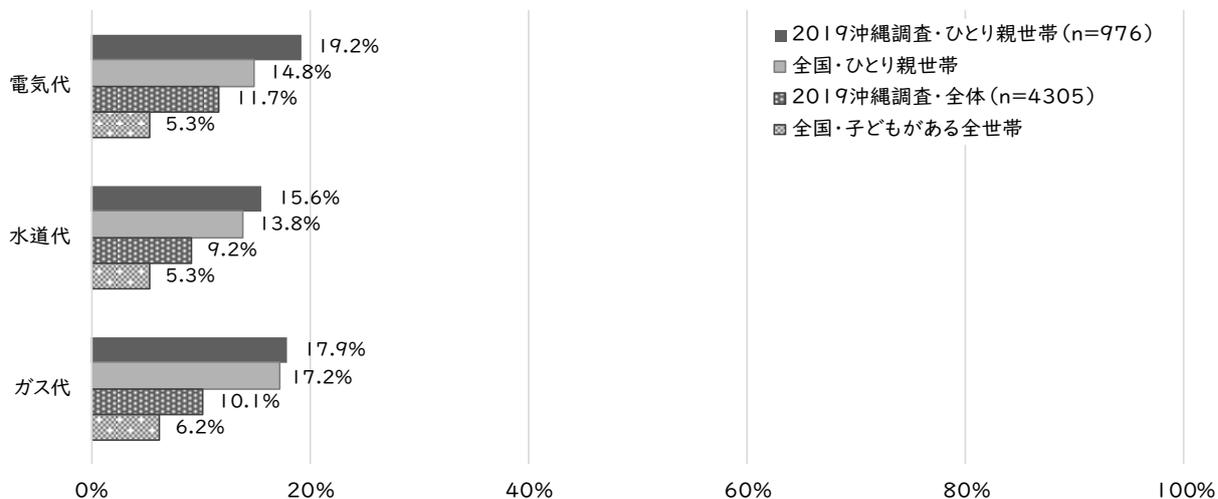
図7-4-14 【保護者】その他の債務（※2016沖縄調査は「カードや借金の支払い」）



注) 東京調査の質問は、「過去1年の間に、経済的な理由で、以下のA~Gのサービス・料金について、支払えないことがありましたか」

【子供の貧困対策大綱の指標との比較】

図7-4-15 【保護者】あなたの世帯では、過去1年間に、経済的な理由で月々の料金の支払い、家賃、住宅ローンなどの滞納、債務の返済ができなかったことがありましたか



第5節 食料・衣料が買えなかった経験

保護者に、「あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由で家族が必要とする食料や衣料（嗜好品は含みません）が買えないことがありましたか」と聞いています。食料に関しては、全体で、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」とするのが、約28%でした。衣料に関しては、同様に約38%でした（図7-5-1と図7-5-2）。また、経済状況別にみると差がみられ、困窮層では、食料に関しては「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせると約53%になりました。衣料に関しては、同様に約64%でした。

図7-5-3と図7-5-4は、経年比較および、2016年東京都調査との比較です。経年比較では、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」とする世帯の割合が、食料では約2ポイント、衣料では約3ポイント減少していました。2016年東京都調査との比較では、沖縄県に比べ、東京都はかなり低い割合であり、沖縄県の2分の1未満であることがわかります。

図7-5-5は、「子供の貧困対策大綱」（2019年）において示されている、全国のデータとの比較を行ったものです。すると、食料・衣料ともに、全世帯でもひとり親世帯でも、沖縄県のほうが全国平均よりも高く、全世帯の食料では1.6倍、衣料では1.8倍の違いがありました。

滞納経験と同様に、食料や衣料を買えなかった経験においても、沖縄県の全体の世帯の数値だけでなく、図7-5-1と図7-5-2で示される非困窮層だけの数値（「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計、食料では21.9%、衣料では31.0%）も、困窮層も含んでいる東京都（食料9.8%、衣料15.0%）や子どものいる世帯全体の全国平均（食料16.9%、衣料20.9%）よりも高いことを指摘できます。

図7-5-1 【保護者】食料が買えなかった経験

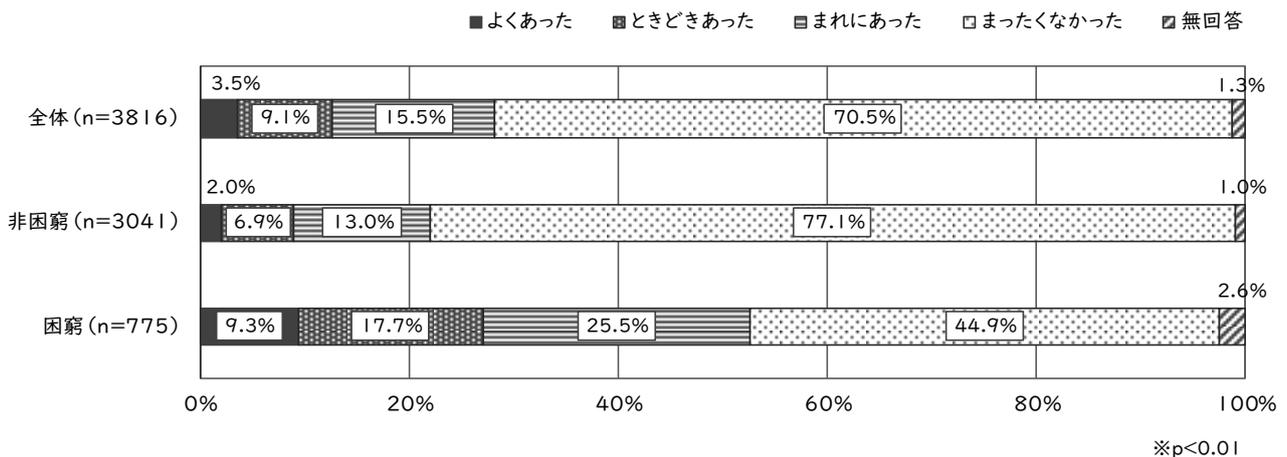
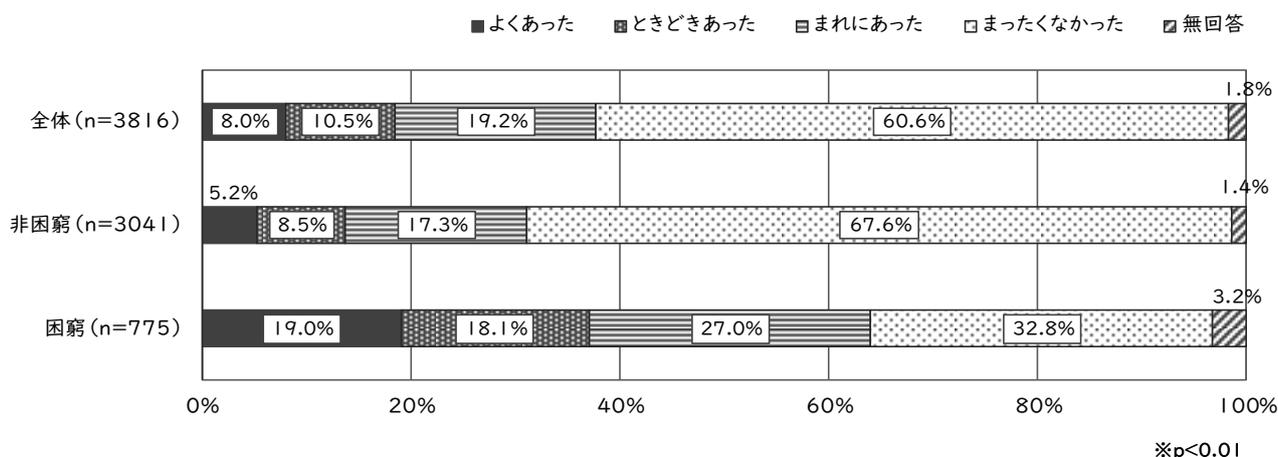
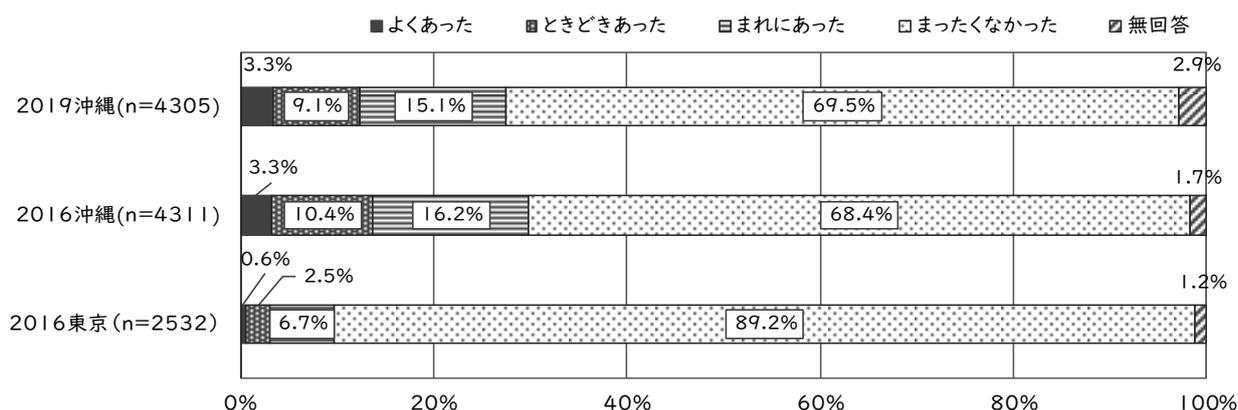


図7-5-2 【保護者】衣料が買えなかった経験



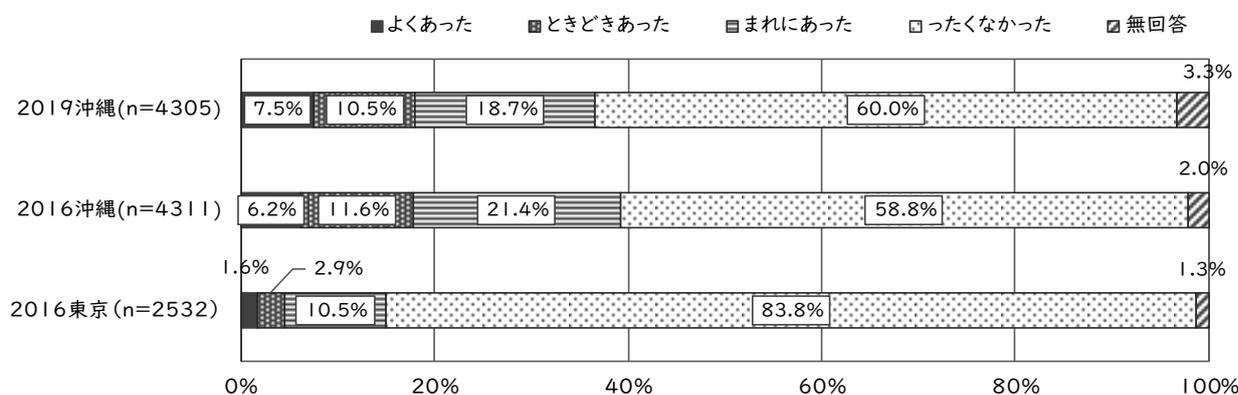
【2016年沖縄県調査、東京都調査との比較】

図7-5-3 【保護者】食料が買えなかった経験



注) 東京調査の質問は、「あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことがありましたか」

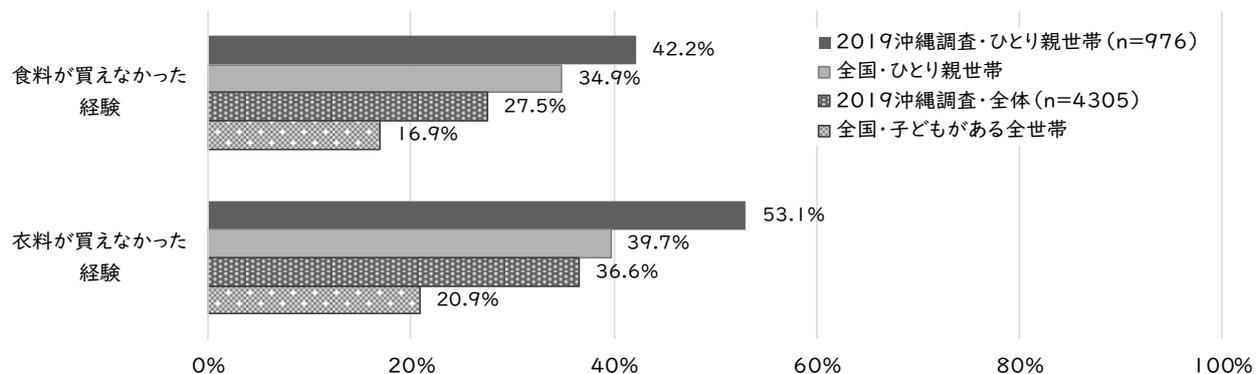
図7-5-4 【保護者】衣料が買えなかった経験



注) 東京調査の質問は、「あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣類が買えないことがありましたか」

【子供の貧困対策大綱の指標との比較】

図7-5-5 【保護者】食料・衣料が買えなかった経験(よくあった・ときどきあった・まれにあった)



第6節 相談相手

子どもの世話や看病など困ったときに頼れる人や相談相手について保護者に聞きました。図7-6-1では頼れる人がいない、あるいは頼らないと答えた人が非困窮層では12.8%であるのに対し、困窮層は20.9%と高くなっています。

図7-6-2にあるとおり、経済状況を問わず、頼る相手が家族・親族と答えた人が多く、その差がありませんでした。しかし、「重要な事柄の相談」となると非困窮層は家族・親族に95.0%が頼るのに対し、困窮層では90.3%で、逆に知人・友人への依存度が高いことがわかります(図7-6-4)。「いざという時のお金の援助」で頼りになる人となると困窮層では46.1%でしたが、非困窮層でも54.9%となっています。また、図7-6-5で、頼れる人がいないとした割合が困窮層で29.3%と非困窮層(14.5%)の約2倍となっています。ここでも困窮層が知人・友人に頼る割合が高くなっています(図7-6-6)。

全国との比較をしてみました。ひとり親世帯で「重要な事柄」を相談できる人がいないと答えたのは沖縄県10.9%、全国8.9%、「いざという時のお金の援助」だと沖縄県25.6%、全国25.9%となり、それぞれ似た傾向があることがわかります(図7-6-7)。

◆子どもの世話や看病

図7-6-1【保護者】子どもの世話や看病で頼れる人はいますか

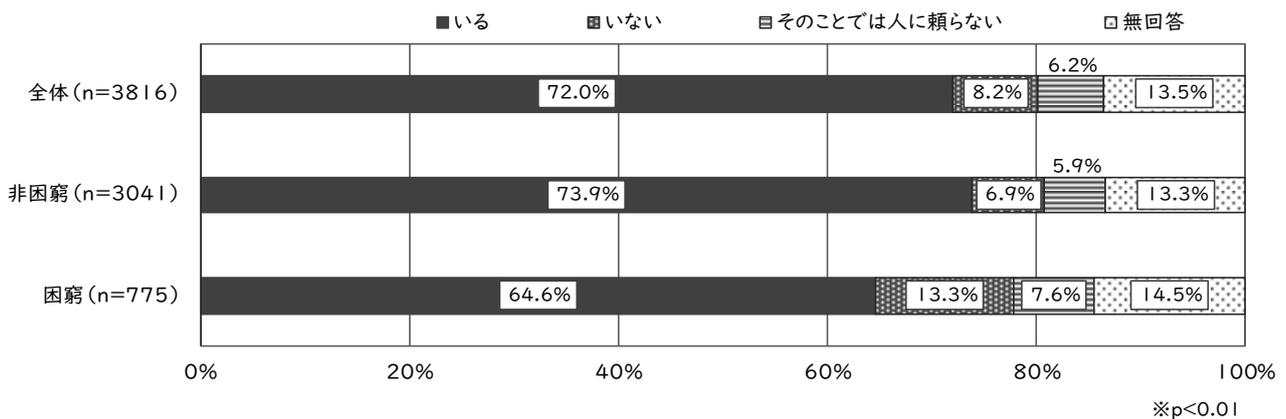
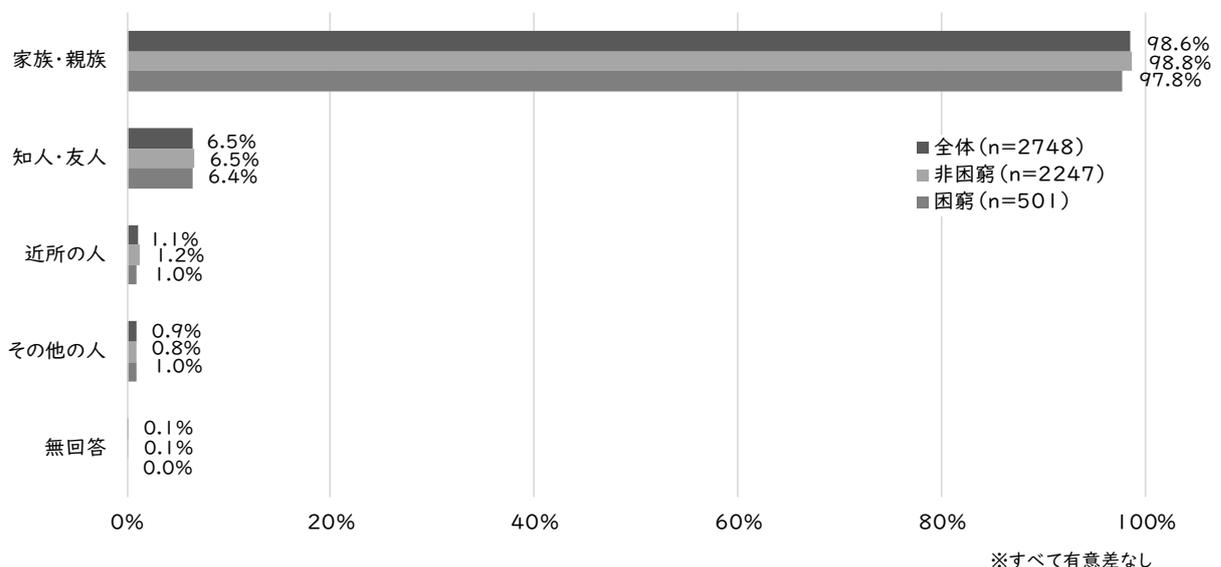


図7-6-2【保護者】(子どもの世話や看病で頼れる人がいる)それは誰ですか(複数回答)



◆重要な事柄の相談

図7-6-3【保護者】重要な事柄の相談で頼れる人はいますか

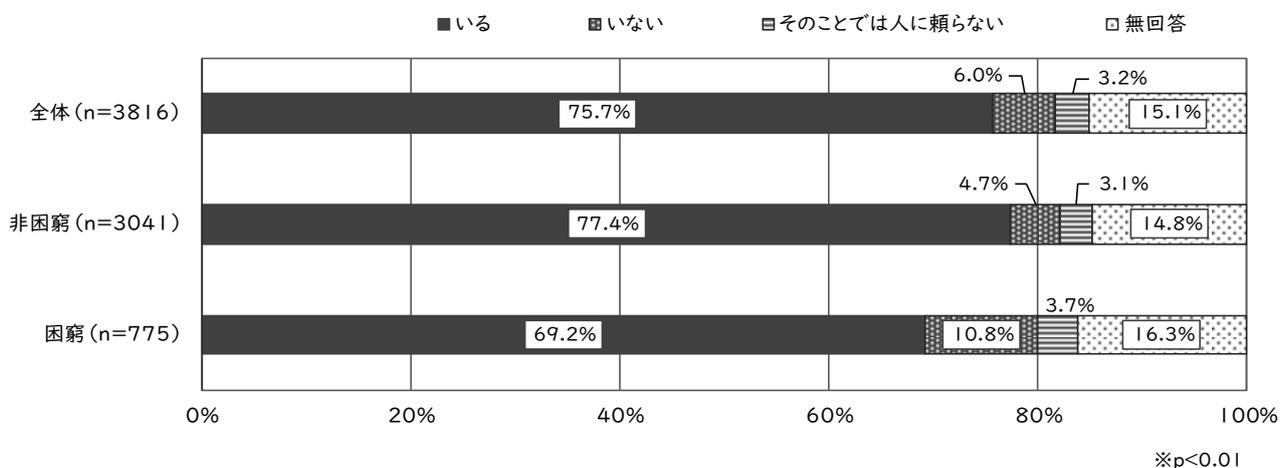
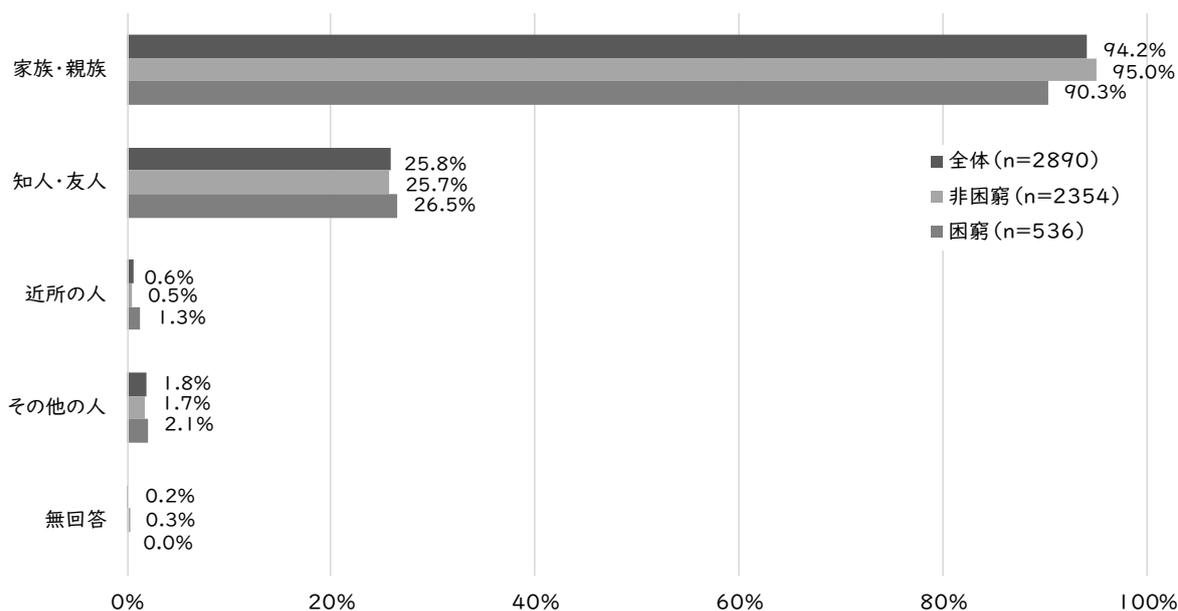


図7-6-4【保護者】(重要な事柄の相談で頼れる人がいる)それは誰ですか(複数回答)



※「家族・親族」はp<0.01、「近所の人」はp<0.05、それ以外は有意差なし

◆いざという時のお金の援助

図7-6-5【保護者】いざという時のお金の援助で頼れる人はいますか

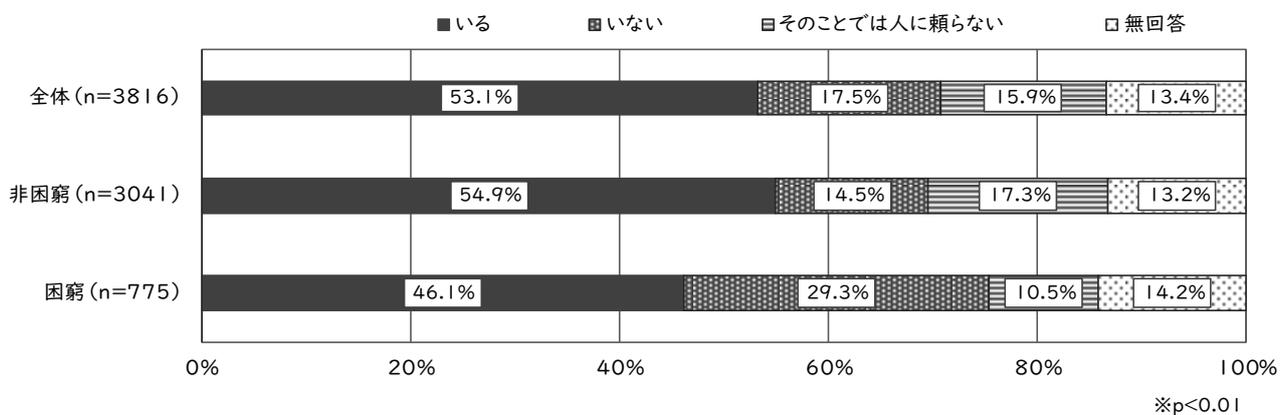
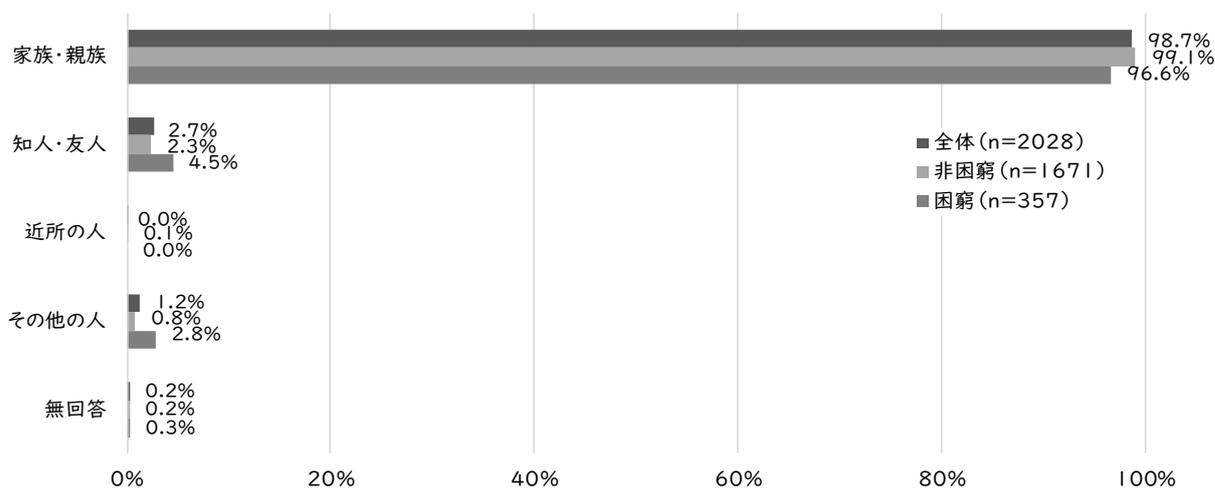


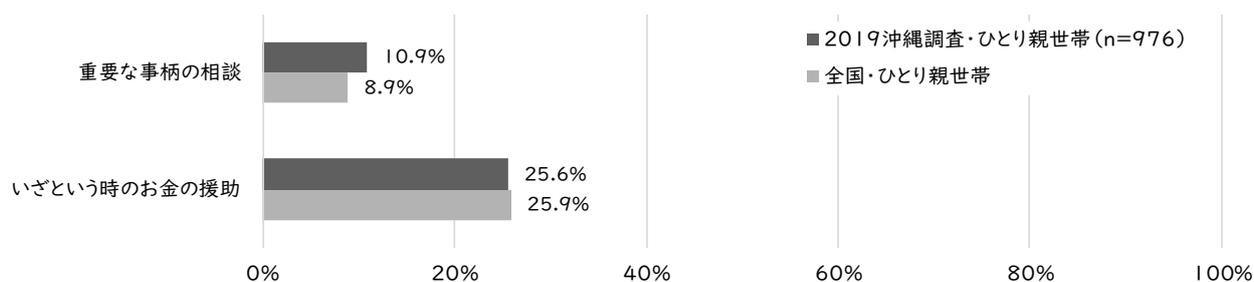
図7-6-6【保護者】(いざという時のお金の援助で頼れる人がいる)それは誰ですか(複数回答)



※「家族・親族」「その他の人」はp<0.01、「知人・友人」はp<0.05、それ以外は有意差なし

【子供の貧困対策大綱の指標との比較】

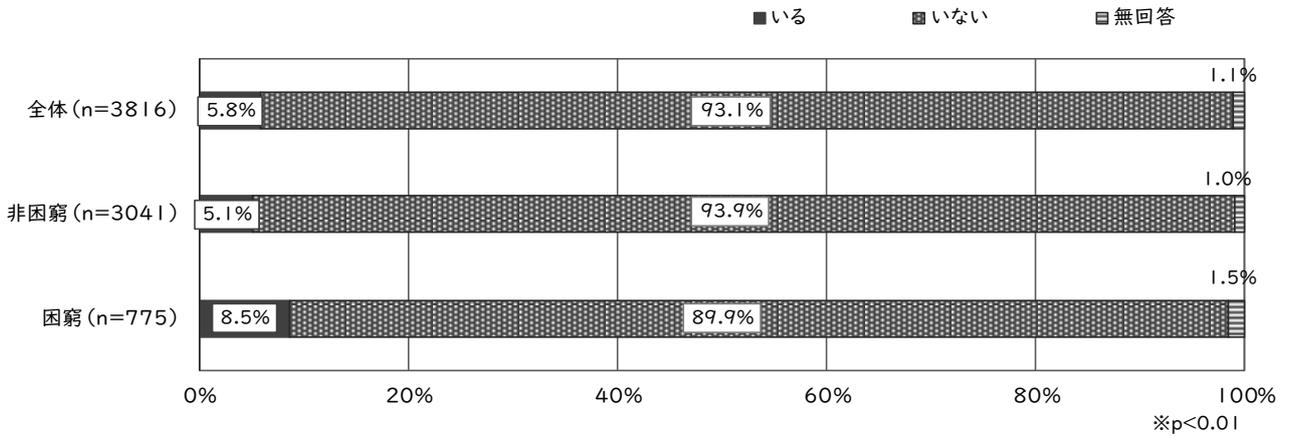
図7-6-7【保護者】頼れる人が「いない」と答えた人の割合



第7節 介護

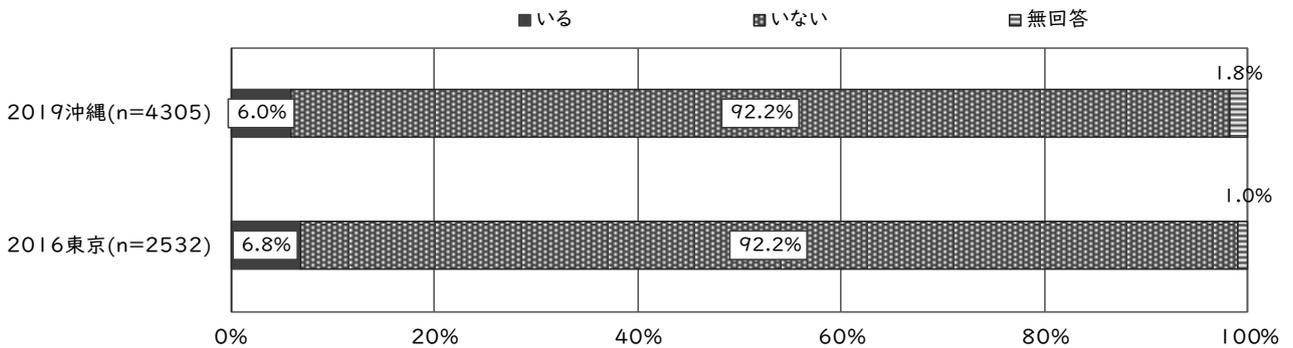
子どもの同居者の中に要介護者がいるかどうかを保護者に尋ねてみました。図7-7-1では非困窮層5.1%、困窮層8.5%と差が見受けられました。3.4ポイントと差は小さいですが、非困窮者の約1.6倍となっています。

図7-7-1 【保護者】お子さんと同居している家族の中に、高齢であったり障害があったりするなど、介護が必要な方はいますか



【2016年沖縄県調査との比較】

図7-7-2 【保護者】お子さんと同居している家族の中に、高齢であったり障害があったりするなど、介護が必要な方はいますか



第8節 学歴

母親・父親の学歴を経済状況別にみると差が大きくみられました。まず、母親の最終学歴(図7-8-1)について、「中学校」に注目してみると、非困窮層は3.8%とわずかな値ですが、困窮層は16.1%となっています。一方で「大学・大学院」は、非困窮層では11.9%ですが、困窮層は3.2%にとどまっています。父親の最終学歴(図7-8-2)についても同様の傾向がみられます。「中学校」は困窮層で高く、「大学・大学院」は非困窮層で高くなっています。ただし、父親に関しては、特に困窮層で「無回答」の割合が多いことに留意が必要です。参考に、図7-8-3として「無回答」を除いた図を載せています。

図7-8-4と図7-8-5は経年比較ですが、傾向としては3年間であまり違いがありません。

2016年東京都調査でも、保護者の学歴を尋ねているのですが、「最後に通った学校」を尋ね、また選択肢も若干異なることから、同じ図での比較は困難であり、精緻な分析は難しいと考えられます。

参考に、図7-8-6と図7-8-7に2016年東京都調査の結果を掲載していますが、大きな傾向として、沖縄県と比べ、東京都では、中学校、高校が少なく、大学が高い割合であることが推察できます。

図7-8-8と図7-8-9は、ひとり親世帯とふたり親世帯で、保護者の学歴が異なっているかを分析したものです。図からは、ひとり親世帯のほうが、「中学校」「高校」のほうが割合が高く、「各種専門学校」「短大・高専」「大学・大学院」でふたり親世帯のほうが高いことがみえます。

図7-8-1 【保護者／母親】お子さんの母親が最後に卒業されたのは次のどれですか

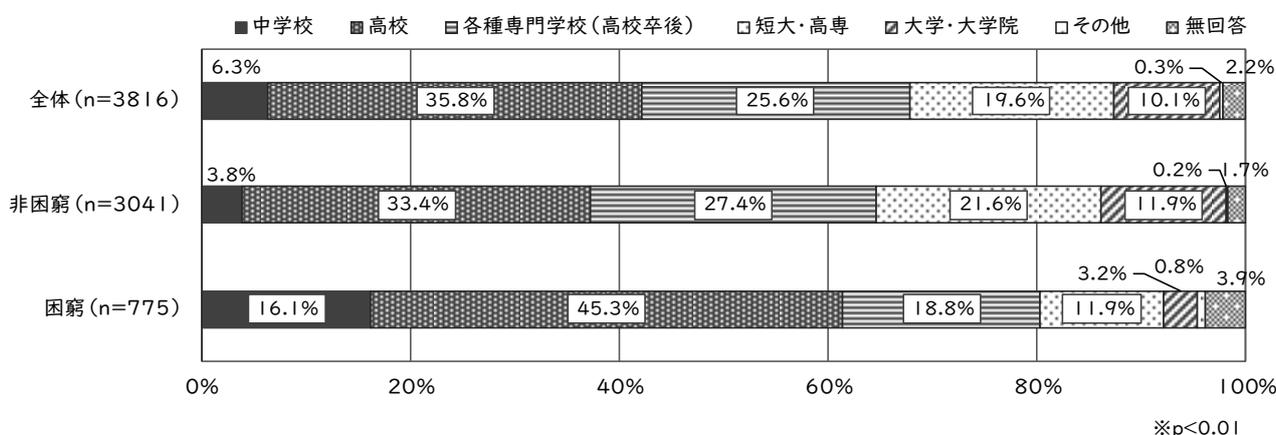


図7-8-2 【保護者／父親】お子さんの父親が最後に卒業されたのは次のどれですか

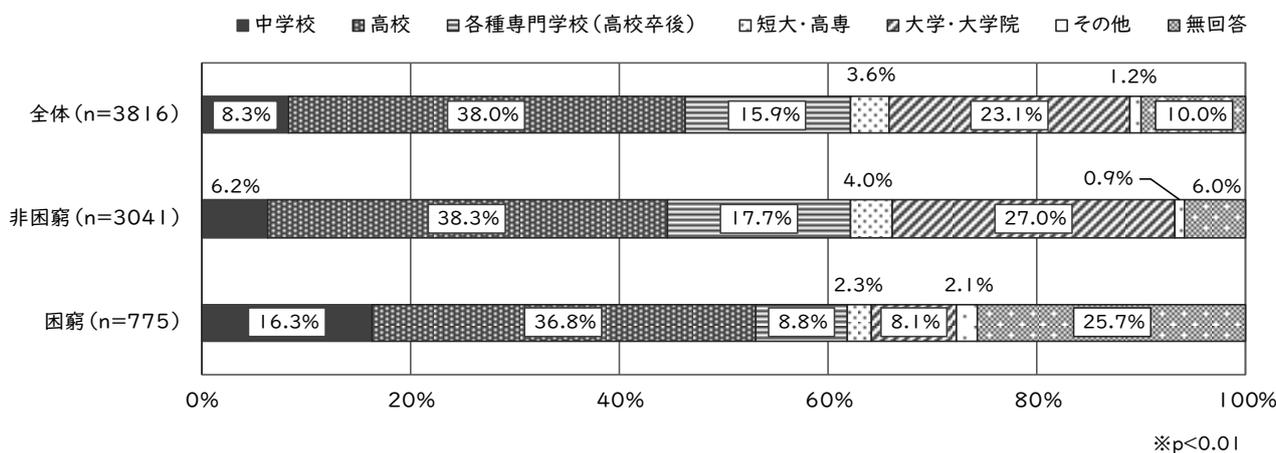
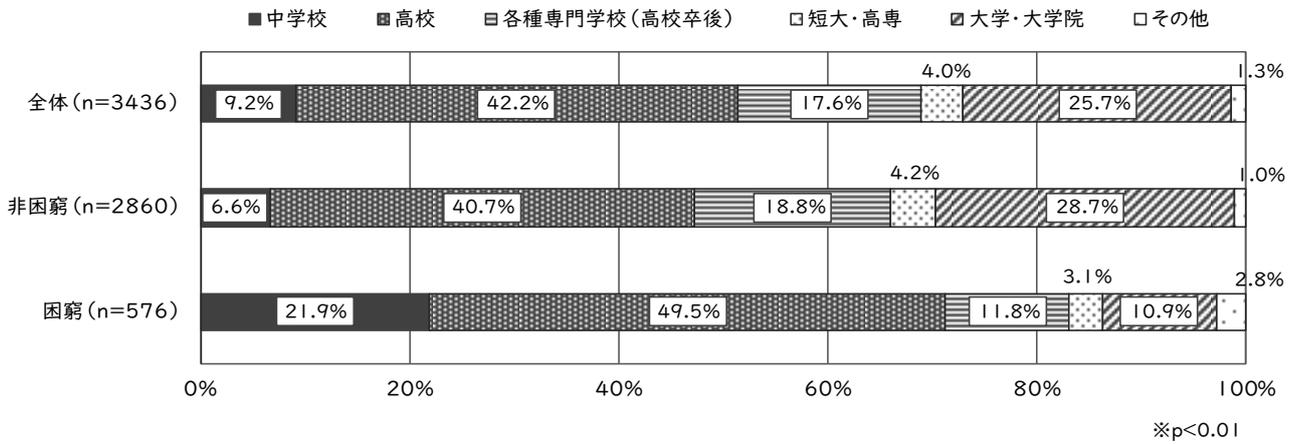
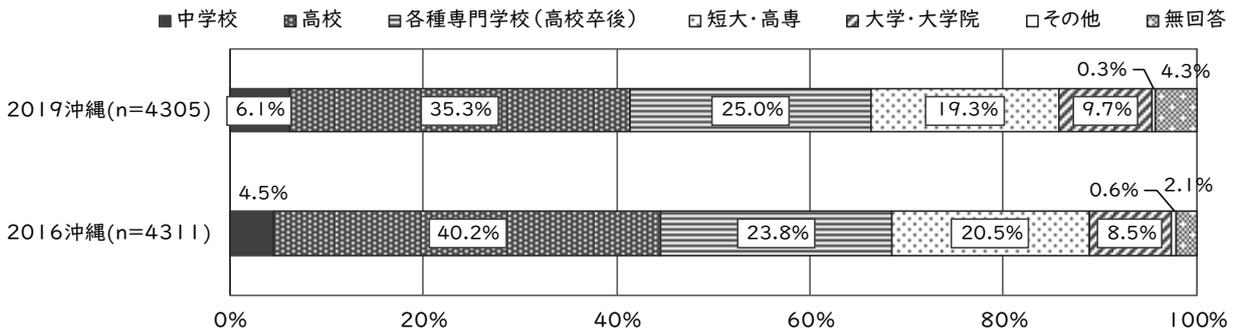


図7-8-3 【保護者／父親（無回答除く）】お子さんの父親が最後に卒業されたのは次のどれですか



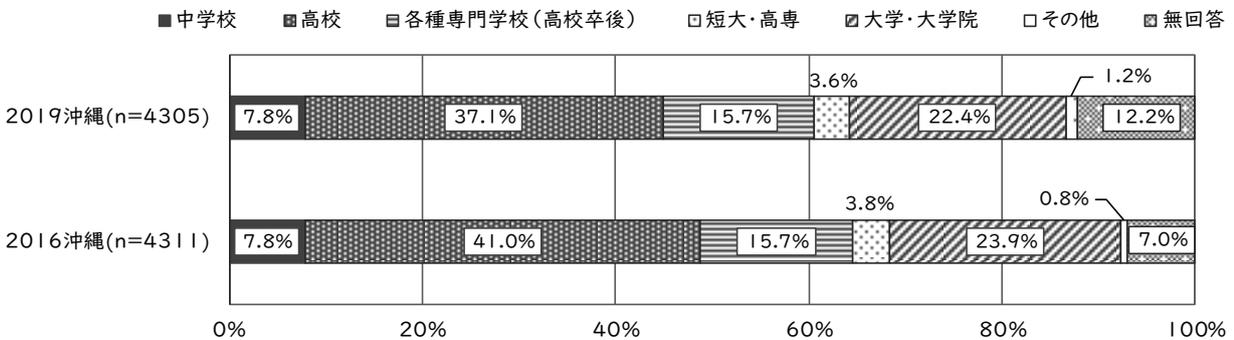
【以下、2016年沖縄県調査との比較】

図7-8-4 【保護者／母親】お子さんの母親が最後に卒業されたのは次のどれですか



注) 2016調査の質問は、「お子さんの母親の最終学歴を教えてください」

図7-8-5 【保護者／父親】お子さんの父親が最後に卒業されたのは次のどれですか



注) 2016調査の質問は、「お子さんの父親の最終学歴を教えてください」

【2016年東京都調査】

図7-8-6 【2016東京・保護者／母親】お子さんのお母さまが、最後に通った学校は次のどちらにあたり
ますか (n=2532)

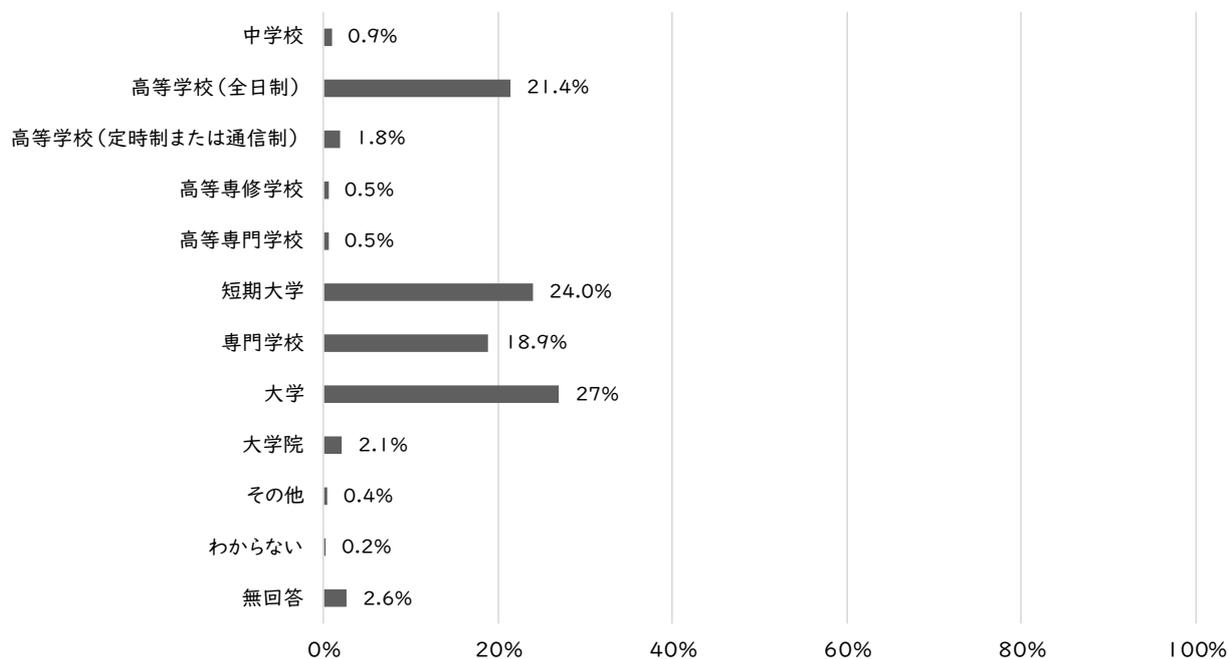
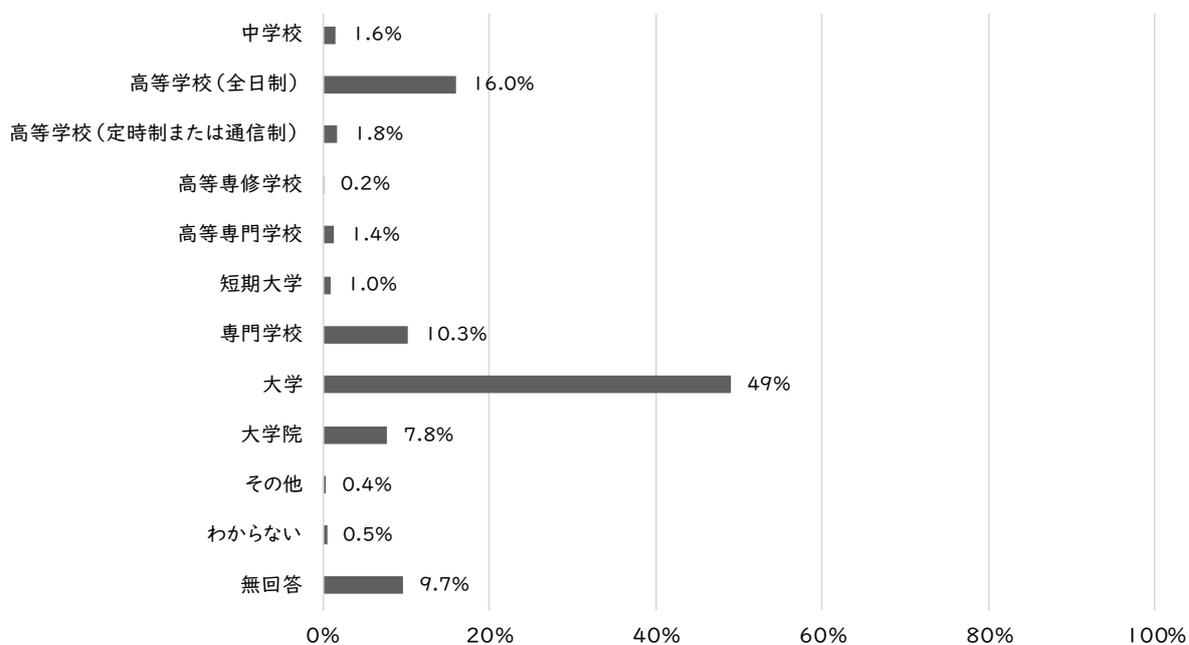


図7-8-7 【2016東京・保護者／父親】お子さんのお父さまが、最後に通った学校は次のどちらにあたり
ますか (n=2532)



【世帯別】

図7-8-8 【保護者／母親】お子さんの母親が最後に卒業されたのは次のどれですか

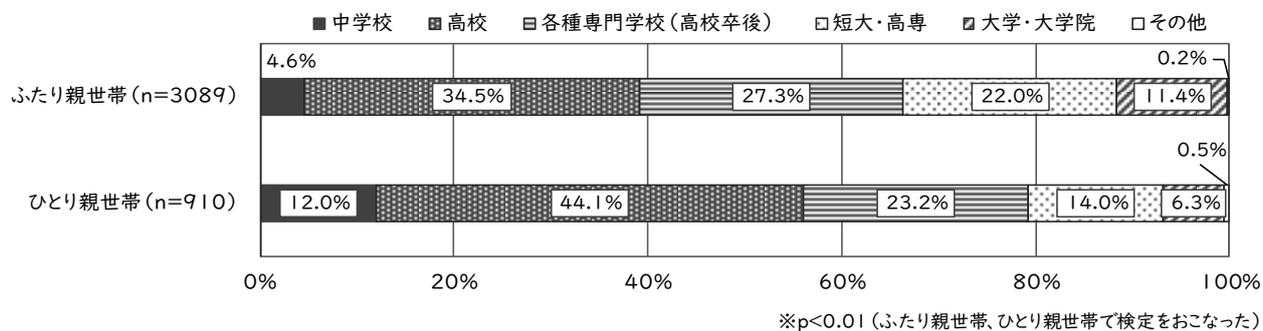
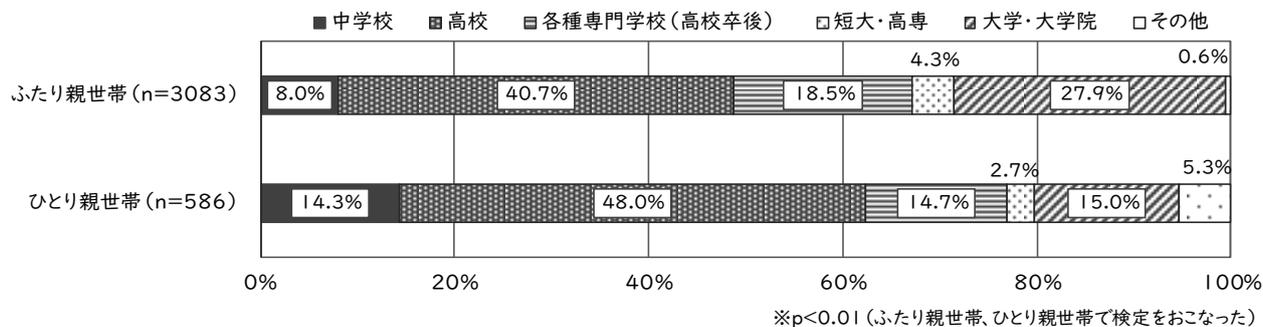


図7-8-9 【保護者／父親】お子さんの父親が最後に卒業されたのは次のどれですか



第9節 過去の経験

親の15歳の頃の暮らし向きが現在の生活状況にどの程度関連があるかを分析しています。母親、父親ともに、15歳の頃での暮らしの状況を「大変苦しい」「やや苦しい」「普通」「ややゆとりがある」「大変ゆとりがある」という5つの選択肢で聞いており、経済状況別に比較しています(図7-9-1、図7-9-2)。

困窮層では15歳の頃に「大変苦しかった」のは、19.4%であり、非困窮層(13.9%)より高くなっています。また、同様に15歳の頃に「普通」であった割合も、困窮層では35.2%ですが、非困窮層では42.2%となっています。

成人前の経験について、「両親が離婚した」「親が生活保護を受けていた」「母親が亡くなった」「父親が亡くなった」「親から暴力を振るわれた」「育児放棄(ネグレクト)された」「いずれも経験したことがない」の7点の有無を尋ねています。結果は、図7-9-3が示す通りです。経済状況別にみると、「両親が離婚した」「親が生活保護を受けていた」「母親が亡くなった」「育児放棄(ネグレクト)された」で困窮層のほうが多く、「いずれも経験したことがない」は非困窮層のほうが多いことがわかりました。困窮層は、非困窮層に比べ、保護者自身が子ども時代にさまざまな困難で苦しい経験(こうした経験のことを「逆境経験」といいます)をしてきた割合が高いことが推察できるデータです。

図7-9-4は、これを非困窮ふたり親世帯・非困窮ひとり親世帯・困窮ふたり親世帯・困窮ひとり親世帯の4つに区分けし、それぞれの逆境経験があったかどうかを分析した結果です。すると、「両親が離婚した」は、4つの世帯の順番通りに高く、「いずれも経験したことがない」は4つの世帯順に低くなっています。また、「親から暴力を振るわれた」「育児放棄(ネグレクト)された」は、ひとり親世帯のほうがふたり親世帯より高い割合となっており、先の「両親が離婚した」「いずれも経験したことがない」についての分析と合わせると、ひとり親世帯のほうがふたり親世帯に比べ、保護者が子ども期に逆境経験に遭遇した割合が高いことを示しているといえるでしょう。

これらの逆境経験の有無について、2016年東京都調査との比較を行っているのが、図7-9-5です。特に、「両親が離婚した」「親が生活保護を受けていた」(沖縄県が高い)「いずれも経験したことがない」(東京都が高い)で差がみられました。沖縄県の保護者のほうが逆境経験の割合が若干高い可能性を示唆するものといえるでしょう。

子どもが生まれた後の、「夫または妻との間で頻繁(ひんばん)な口げんかがあった」(頻繁な口げんか)、「(元)配偶者(またはパートナー)から暴力をふるわれたことがある」(DV経験)、「子どもに行き過ぎた体罰を与えたことがある」(行き過ぎた体罰)、「育児放棄になった時期がある」(ネグレクト)、「出産や育児でうつ病(状態)になった時期がある」(育児によるうつ病)、「わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」(虐待)、「自殺を考えたことがある」(自殺念慮)、「1~7のいずれも経験したことがない」(経験なし)についての分析が図7-9-6以降になります。

図7-9-6からは、いくつかの項目で非困窮層と困窮層で差があることがわかります。「頻繁な口げんか」「DV経験」「ネグレクト」「自殺念慮」では、困窮層のほうが割合が高く、「経験なし」では、非困窮層のほうが割合が高かったです。困窮層のほうが、子どもをもってからの経験として、DVなどの被害を受けやすく、ネグレクトが発生しやすかったことを示すデータです。

また、図7-9-7は、これを非困窮ふたり親世帯・非困窮ひとり親世帯・困窮ふたり親世帯・困窮ひとり親世帯の4つに区分けし、それぞれの経験があったかどうかを分析した結果です。

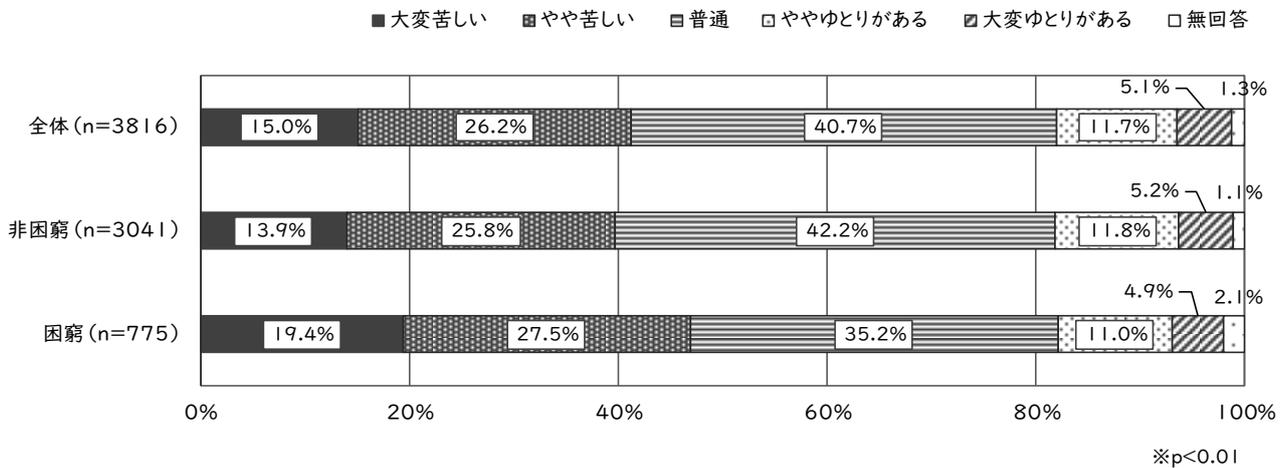
すると、「経験なし」を除くと、すべての項目でひとり親世帯のほうがふたり親世帯に比べ経験した割

合が高いことがわかりました。ひとり親世帯は、子どもが生まれた後、さまざまな困難な経験をしてきたことが読み取れました。

これらの経験の有無について、2016年東京都調査との比較を行っているのが、図7-9-8です。「頻繁な口げんか」は東京都では質問してないため比較はできず、「頻繁な口げんか」の項目の有無を考慮に入れると「経験なし」も比較は難しいと考えますが、他の項目では、差は大きくはないですが、すべてにおいて、沖縄県のほうが東京都より割合が高いことがわかります。沖縄県のほうが子どもが生まれた後、さまざまな困難を経験する割合が若干高い可能性を示唆するものといえるでしょう。

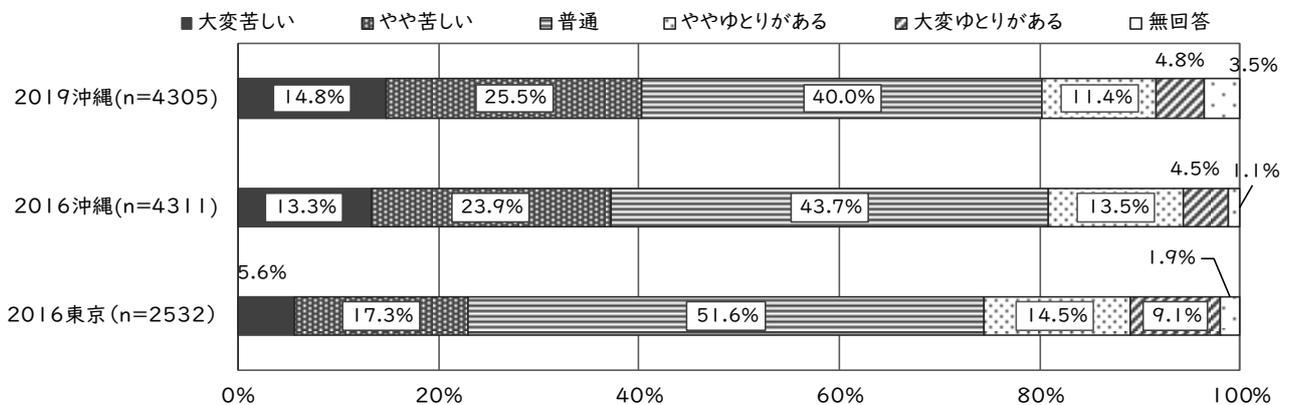
◆ 15歳の頃のご家庭の暮らし向き

図7-9-1 【保護者】あなたが15歳頃のご家庭の暮らし向きはどうだったと感じましたか



【2016年沖縄県調査、東京都調査との比較】

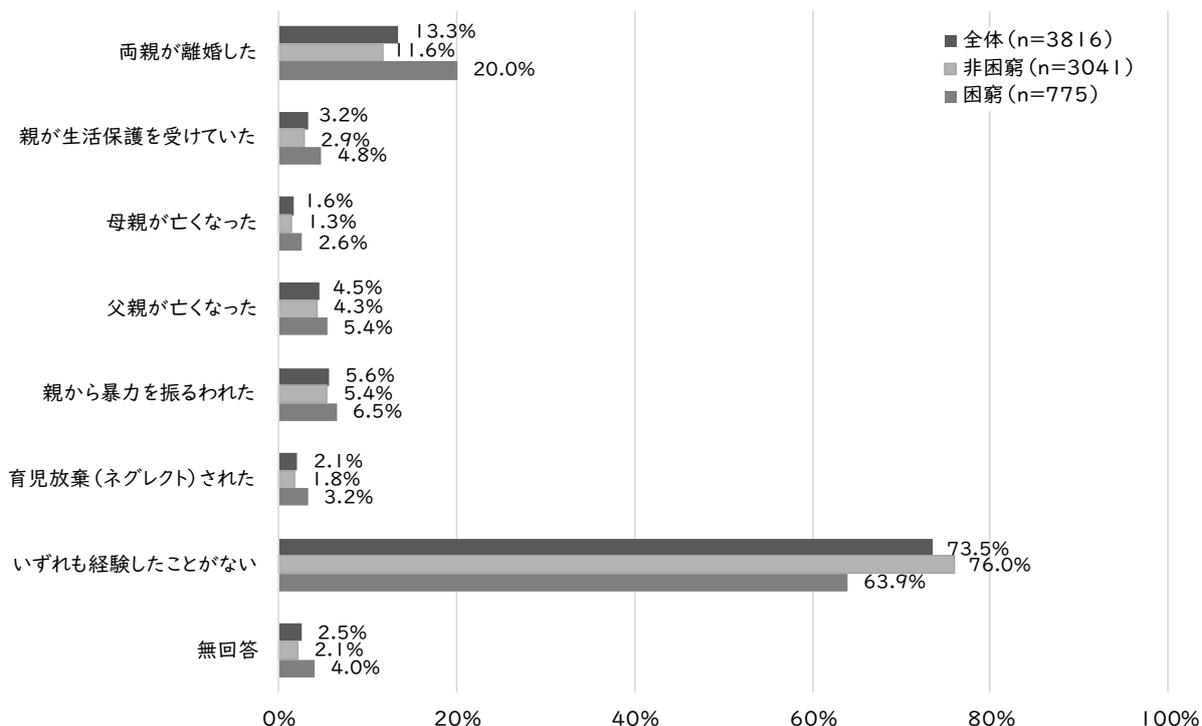
図7-9-2 【保護者】あなたが15歳頃のご家庭の暮らし向きはどうだったと感じましたか



※東京調査の質問は、「あなたが15歳の頃の、あなたのご家庭の暮らし向きについて、最も近いものについて○をつけてください」
 選択肢は、「大変苦しかった」「やや苦しかった」「普通」「ややゆとりがあった」「大変ゆとりがあった」

◆成人前の経験

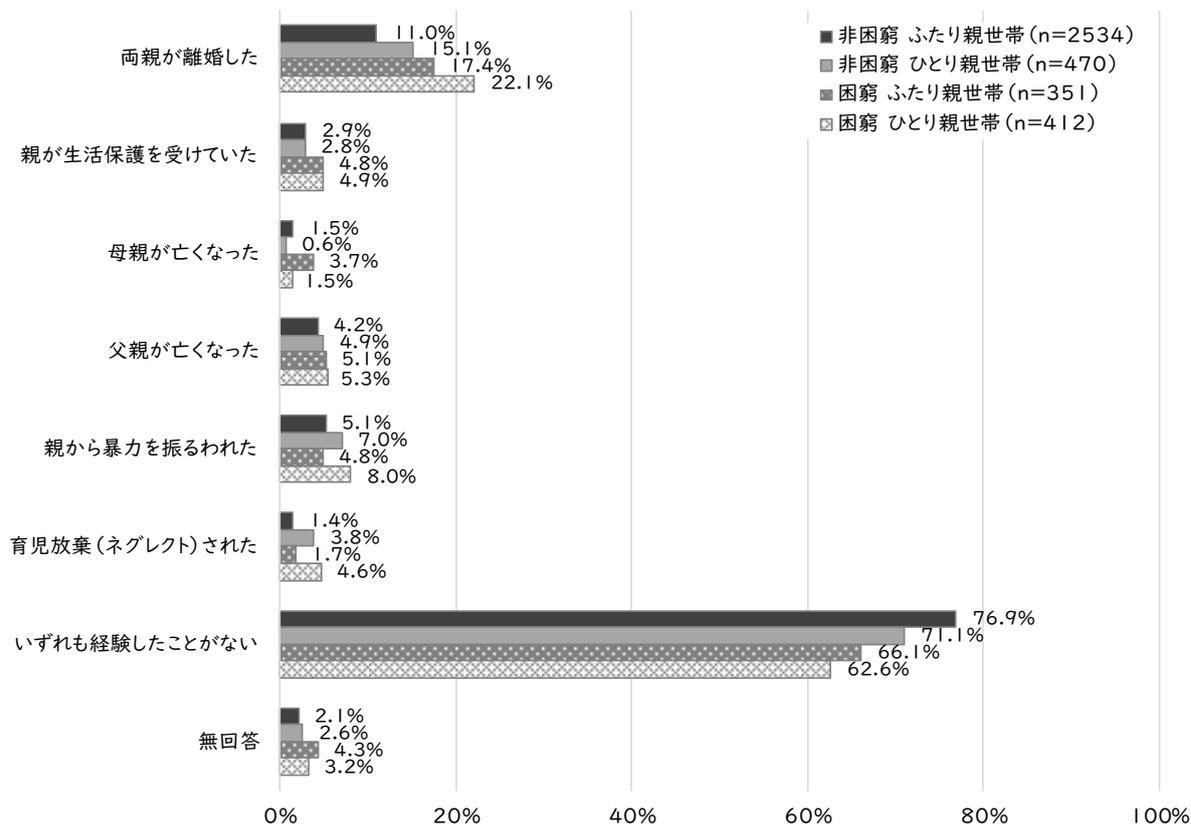
図7-9-3 【保護者】あなたは、成人する前に以下のような経験をしたことがありますか(複数回答)



※「両親が離婚した」「親が生活保護を受けていた」「いずれも経験したことがない」は $p<0.01$ 、「母親が亡くなった」「育児放棄(ネグレクト)された」は $p<0.05$ 、それ以外は有意差なし

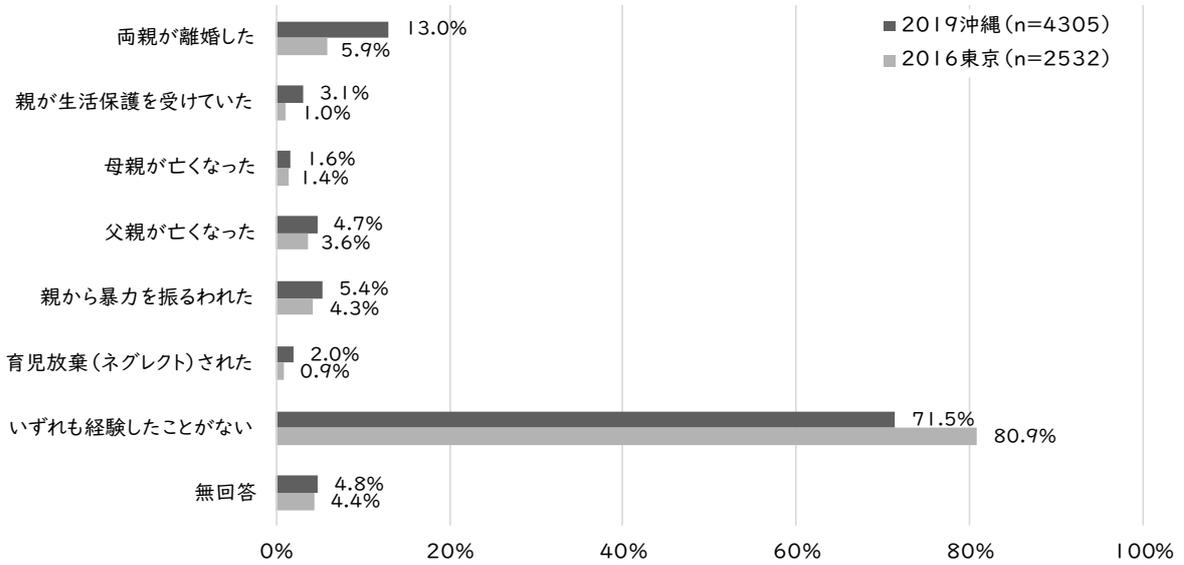
【世帯別】

図7-9-4 【保護者】あなたは、成人する前に以下のような経験をしたことがありますか



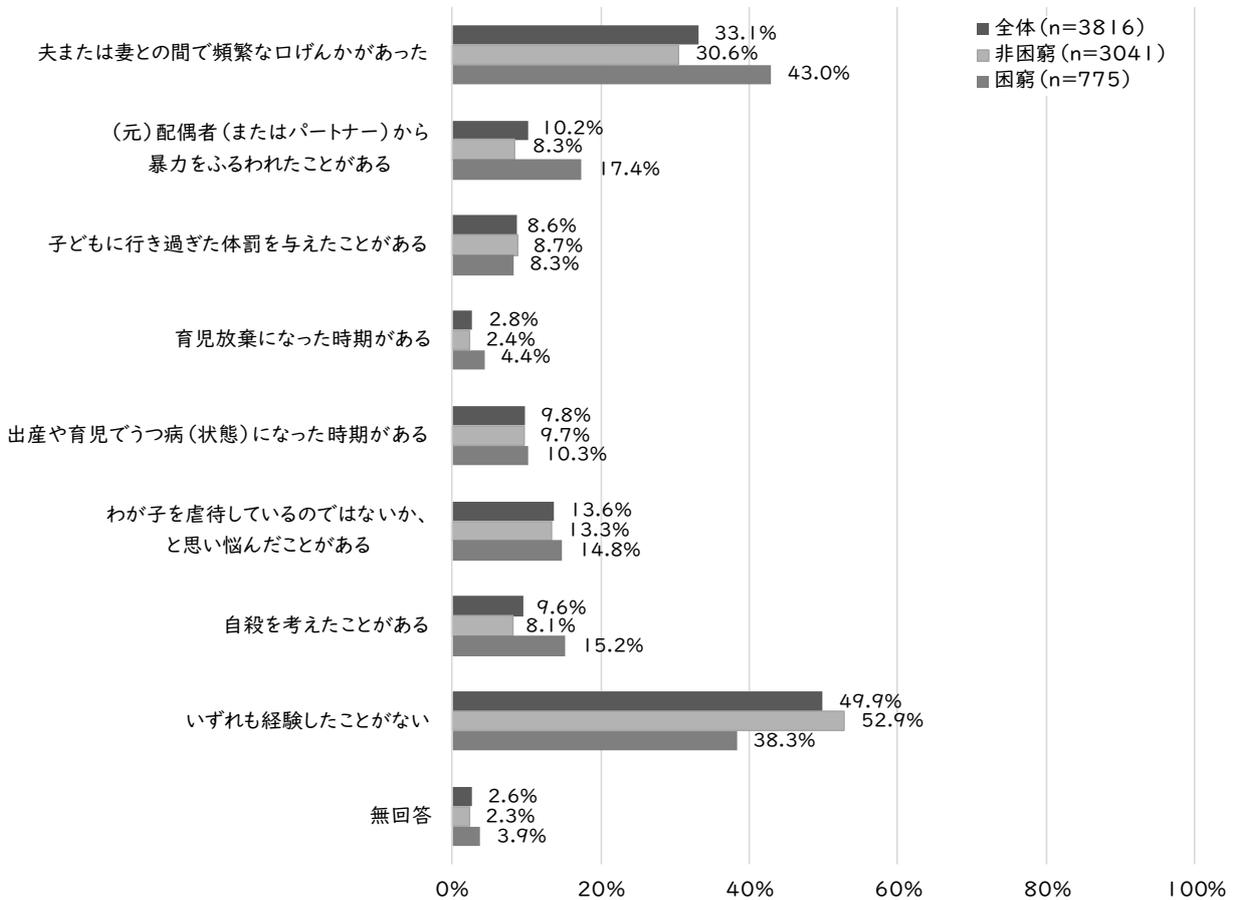
第7章 ふだんの暮らしと過去の経験
【2016年東京都調査との比較】

図7-9-5 【保護者】あなたは、成人する前に以下のような経験をしたことがありますか。(複数回答)



◆子どもをもってからの経験

図7-9-6 【保護者】あなたはお子さんをもってから、以下のような経験をしたことがありますか
(複数回答)

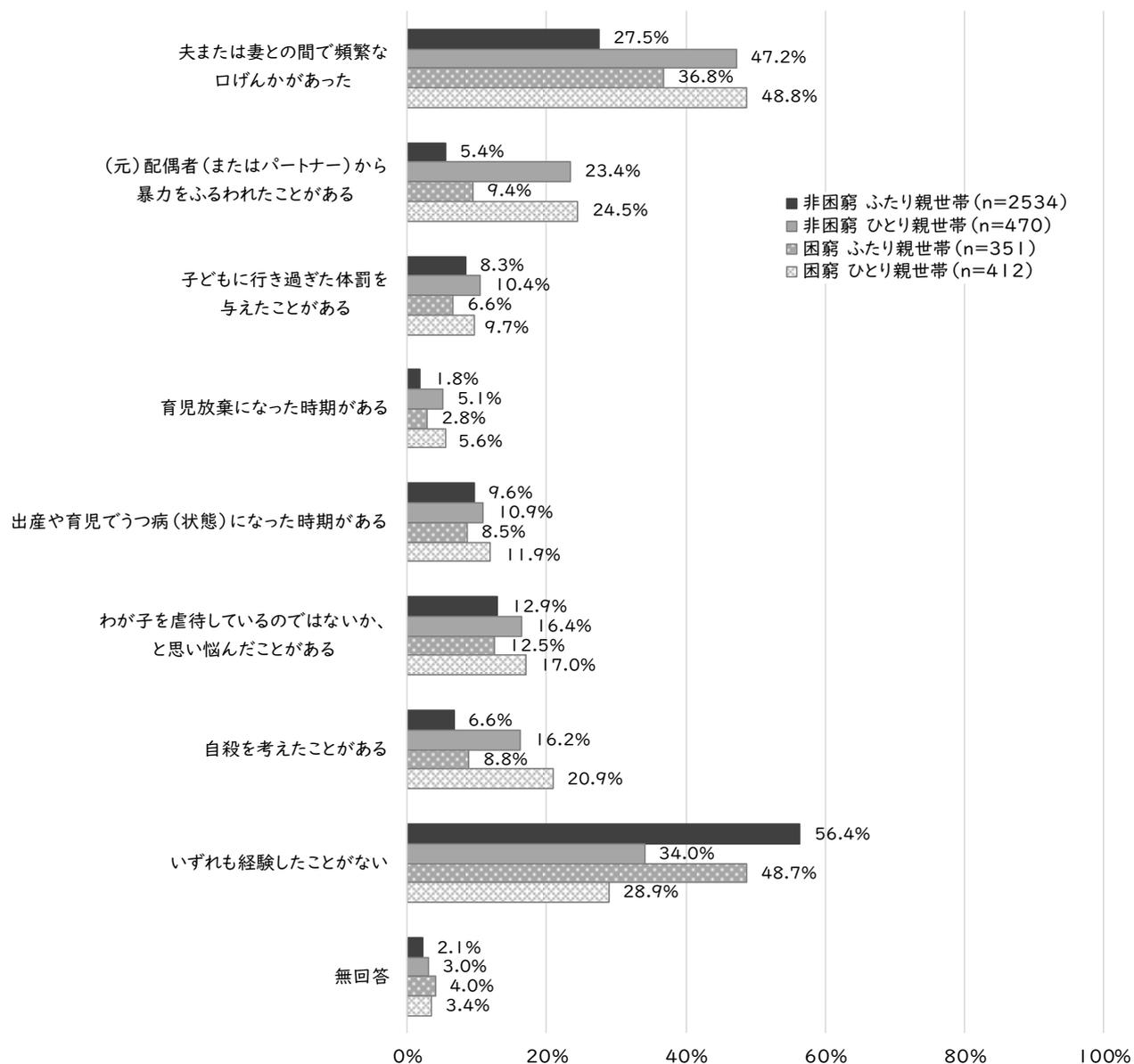


※「夫または妻との間で頻繁な口げんかがあった」「(元)配偶者(またはパートナー)から暴力をふるわれたことがある」「育児放棄になった時期がある」「自殺を考えたことがある」「いずれも経験したことがない」は $p < 0.01$ 、「無回答」は $p < 0.05$ 、それ以外は有意差なし

【世帯別】

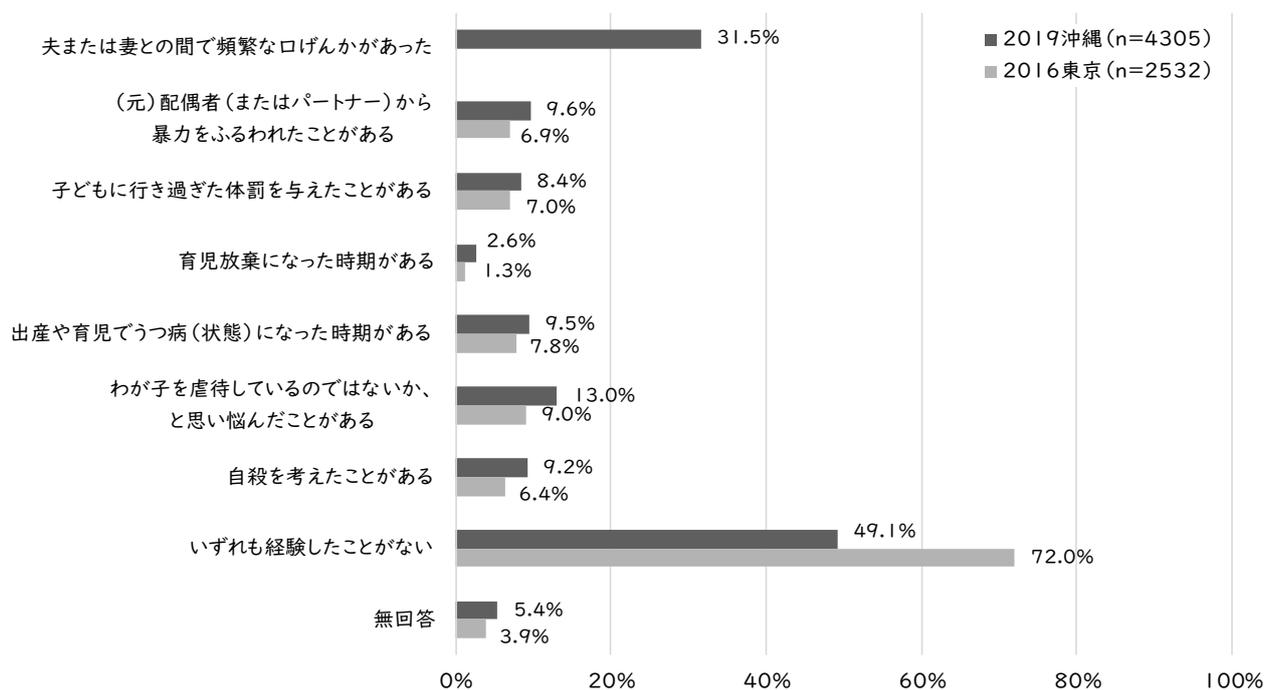
図7-9-7 【保護者】あなたはお子さんをもってから、以下のような経験をしたことがありますか

(複数回答)



第7章 ふだんの暮らしと過去の経験
 【2016年東京都調査との比較】

図7-9-8 【保護者】あなたはお子さんをもってから、以下のような経験をしたことはありますか(複数回答)



注) 東京調査の質問は、「夫または妻との間で頻繁な口げんかがあった」はない

考察

本章では、ふだんの暮らしの状況と過去の経験を探っています。前者は、第1節から第7節であり、保護者を中心に、所得の状況だけからはみえない主観的な暮らし向きや住宅事情などを探っています。また、一部、高校生の幸福感を分析しています。後者は、第8節と第9節ですが、保護者の子ども期も含め過去の経験を分析しています。章全体の分量が多いことから、詳細は各節をご覧ください、ここでは特徴的にみられたことをまとめています。

まず、所得からはみえない経済状況として、第4節のさまざまな滞納経験と第5節の食料・衣料が買えなかった経験を考察してみます。滞納経験では、困窮層での経験の高さは非常に深刻です。公共料金、家賃などほとんどの項目で、2割を超え3割に近い世帯が経験しています。食料が買えなかった経験に関しては困窮層では5割を超え、衣料は6割を超えていました。困窮層では、毎日の食べるものなどを購入することがやっとならなくて（それすら給料日前などはできないことがある）、電気代などの支払いにお金を回せなくなってしまうということでしょう。毎月、火の車状態であることが推察できます。実際、第1節では、家計の状況として赤字である世帯は、困窮層では半分以上でした。

一方で、滞納経験や食料・衣料を買えない経験を東京都や全国の数値と比較して驚いたのは、沖縄県の全体の数値が東京都全体と比較して、どの項目も約3-4倍、全国と比べて約2倍という大きな違いがあっただけでなく、沖縄県における非困窮層だけの数値も、困窮層も含んでいる東京都全体や子どものいる世帯全体の全国平均よりも高い点でした。

こうした厳しい現象の要因を精緻に分析するには、沖縄県と他自治体との比較分析を詳細に行う必要があります。ここでは、一つの仮説を述べたいと思いますが、沖縄県では非困窮層の中には、困窮層と非困窮層を区分けする貧困線周辺の所得の世帯の層が相対的に厚く、非困窮層であっても、経済的にはかなり厳しい世帯が多いという点に関連しているのではないのでしょうか。そうした意味では、所得が貧困線に近い周辺層の世帯も、なんらかの支援対象としていく方向性が検討されてよいのではないのでしょうか。

もう一点は、滞納などを1年の間にまったく経験しないためには、単に収入の多寡だけを問うのでは不十分だという点があります。十分な収入が毎月、定期的に安定的に獲得できるかという面も関連してきます。収入の変動がある場合、どうしても滞納が発生しがちです。ところが、沖縄県の場合、第1章でもみたように男性も非正規労働者の割合が高く、こうした厳しい状況を生じやすくなっている可能性は高いと考えられます。また、収入の変動があったとしても、貯蓄（ストック）などが十分にあればそこから支払いに回すことができるかもしれません。第8章第7節と第8節で、「急な出費のための貯金（5万円以上）」がない割合の分析を行っていますが、東京都と沖縄県全体の比較では約3倍（東京都10.4%、沖縄県28.9%）の差があり、また総務省による家計調査からも沖縄県内の勤労世帯の貯蓄はかなり低いことがわかっており、こうした面も滞納経験などの厳しさの一因となっているでしょう。

次に、住宅事情の考察に移ります。総務省の平成30年住宅・土地統計調査で沖縄県の持ち家率は東京都を抜いて44.4%と全国でもっとも低くなっています。高校生がいる世帯を対象とした本調査でも同様の結果が出ていますが、困窮層の持ち家率が24.5%とさらに約半数であることがわかりました。それは家賃の負担が家計に占める割合が高いことを示します。困窮層の年間所得122万円のうち、家賃が月5万円としても水道光熱費と健康保険料を支出すると可処分所得がほぼなくなりますから、生活が困難になりやすいことが明らかです。

また、困窮層は非困窮層に比べ住宅環境への不安や不満を多く持っています。住宅の狭さが子どもに与える影響の例として学習時間が上げられます。2016年東京都調査を分析した結果によると、部屋数が少

ないと自宅学習をまったくしない子どもの割合が上がる傾向がみられました（首都大学東京子ども・若者貧困研究センター（平成29年3月）「東京都子供の生活実態調査報告書」）。ただし、同調査を詳細に分析した報告書では「16-17歳では、狭小住宅に住む子供の割合が小中学生よりも高いが、狭小住宅であるかどうかで自己肯定感に大きな違いは見られない」という結果がでています（首都大学東京子ども・若者貧困研究センター（平成30年3月）「東京都受託事業「子供の生活実態調査」詳細分析報告書」）。つまり、現在高校生である彼らの現状が過去の住環境に影響されている可能性があります。子どもが成長期にあるときに充実した住環境を提供する施策が有効ではないでしょうか。

第3節では、高校生の幸福感を尋ねていますが、困窮層では平均で低い傾向がみえました。一方で、学校が楽しいと感じている困窮層の高校生の場合、非困窮層との差がかなり減少することもみえました。勉強がわかることも、困窮層の高校生の幸福感を上昇させますが、非困窮層との格差は同程度の変動でした。これは、勉強がわかることも自己肯定感にとって大切な要素ですが、それ以上に、生活環境の厳しい高校生にとっては、まず学校が楽しい場所であることが重要なことを示しています。

相談相手の分析において、特徴的だったのは、子どもの世話や看病など困ったときに頼れる人がいない割合が非困窮層に比べ困窮層が有意に高いという結果です。頼るべき時に親族に頼れないということから、困窮層が仕事を失ったり、無理をして体を壊す可能性が高いことを示しています。また、いざという時のお金に関して頼れる人がいないとした割合が困窮層で29.3%と非困窮層（14.5%）の約2倍であったことも気がかりです。急な対応がとれない場合に、高利の個人向け金融から借金をする可能性が高いといえます。さらに、困窮層は、親族から借入れが難しいため知人・友人に頼る割合が高くなっています。これが引き金となって知人・友人関係を壊すことにもなります。

また、介護については、設問が一つだけなので、そこから考えられることは限られますが、非困窮層に比べ、困窮層の同居家族に要介護者がいる割合が約1.6倍ありました。同居家族の介護負担は主に介護を担う女性の就労機会を奪う（注1）ことにつながりますから、困窮層が所得を得にくい可能性が高くなることを示唆しているといえます。

第8節からの過去の経験の分析では、まず保護者の学歴を分析し、結果として、経済状況による学歴の差が全体として大きく、また、ひとり親世帯ではふたり親世帯に比べ保護者の学歴が低いことも確認できました。学歴については本人の努力の指標とみることも可能ですが、保護者の子ども期の経済状況の代理指標と考えることもできます。本調査や2016年沖縄県調査においても、学力や成績だけでなく、世帯の経済状況も高校生の進学先の選択に対して大きな影響を与えていることがわかっており、保護者においても原家族の経済状況に強く影響され学歴が決定されたものと考えられるでしょう。

そうした意味では、第9節で行った、15歳頃の暮らし向きに関する保護者の自己申告による分析と、学歴の経済状況による格差と合わせ、沖縄県のデータでも、「貧困の世代間伝達（連鎖）」（注2）が確認できるといえるでしょう。

世代間伝達（連鎖）という点では、本調査では学歴や子ども期の暮らし向きだけでなく、困窮層の保護者は、両親の離婚などさまざまな逆境経験に苦しんできたことがわかりました。また、ひとり親世帯のほうがふたり親世帯に比べ、逆境経験の割合が高いこともみえました。保護者支援において、こうした点は重要な情報となるでしょう。

また、困窮層やひとり親世帯では、子どもが生まれた後に、頻繁な口げんかやDV経験、ネグレクトなどを経てきた割合が高いこともわかりました。こうした世帯内での保護者間や保護者と子ども間のネガティブな

経験が、困窮層で生じやすいことは、児童福祉関係者から指摘されてきたことですが、沖縄県のデータにおいても確認できたことになります。

最後に、本章で行った、何点かの経年比較からいえる点を述べてみたいと思います。経年比較では、どれも全体的な傾向には変化はありませんが、若干好転している指標もあります。例えば、食料・衣料を買えない経験は2-3ポイント減少し、家計の状況について赤字である世帯も若干減っていました。さらに、高校生本人に主観的な暮らし向きを問う質問では、家庭の家計の状況を「苦しい」と答えるものが減り、「普通」と答える高校生が多くなっていました。

(注1) 明治安田生命生活福祉研究所(2014)「仕事と介護の両立と介護離職」調査報告書

https://www.myri.co.jp/research/report/pdf/myilw_report_2014_03.pdf

(注2)「連鎖」という言葉は、「鎖(くさり)のようにつながる」という意味であることから、この用語の使用を避けるべきとの提言が一部の研究者(参考文献参照)からなされており、ここではカッコ書きとし、欧米で使われる transmission の訳語である「伝達」を用いました。「連鎖」という言葉の使用は、当事者の視点からも問題があるという指摘もあります。

【参考文献】

松本伊智朗(2019)「なぜ、どのように、子どもの貧困を問題にするか」松本伊智朗・湯澤直美編『シリーズ子どもの貧困①・生まれ、育つ基盤—子どもの貧困と家族・社会』明石書店

第 8 章

高校生・保護者の生活水準
(物品の所有や体験の状況)

第1節 所有物の欠如—子どもの視点

高校生に、現在の日本において多くの高校生が所有している物品等について、所有の有無を尋ねています。そうした物品等を自発的に所有したくないと考えている高校生もいるため、「持っている」「持ちたいが持っていない」だけでなく、「持ちたくない・いらない」を加えた、3つの選択肢で所有状況を聞きました。回答から、「持ちたくない・いらない」と「無回答」を除き、物品を「持っている」（つまり、所有している）割合と、「持ちたいが持っていない」（つまり、所有できない）割合を示したものが、図8-1-1から図8-1-11になります。

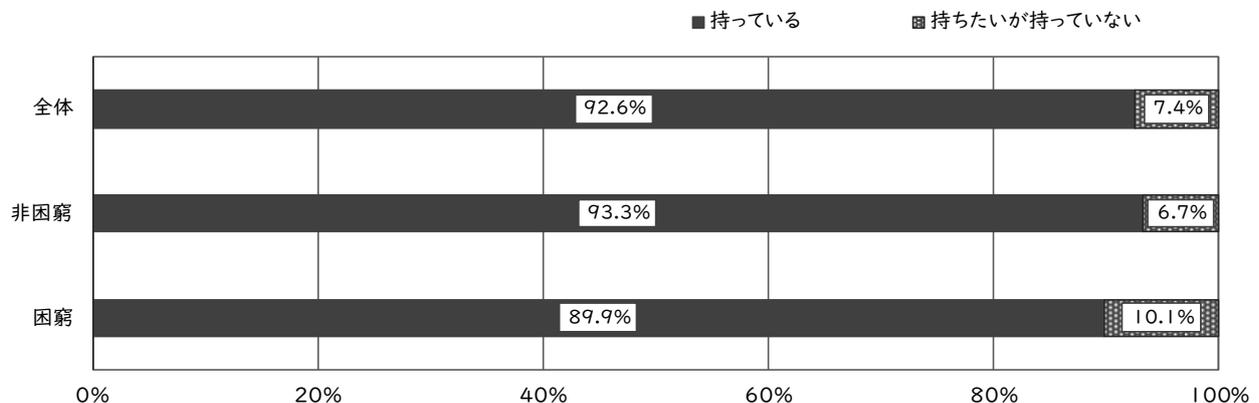
すると、全体では、「持ちたいが持っていない」割合は、「自分に投資するお金（自己啓発本、職業訓練コースなど）」（45.3%）、「インターネットにつながるパソコン」（37.2%）、「自分の部屋」（32.3%）、「月5,000円ほどの、自分で自由に使えるお金」（31.7%）が30%を超えかなり高い数値でした。

また、「自分に投資するお金」「インターネットにつながるパソコン」とともに「電子辞書」（29.9%）は、子どもの学びに関連があるものと考えられますが、高い割合の高校生が該当しました。「家の中で勉強ができる場所」がない高校生も9.7%いました。「月5,000円ほどの、自分で自由に使えるお金」とともに「友人と遊びに出かけるお金」（14.4%）は友人との交流に関連するものと考えられますが、やや高い割合の高校生が所有できていませんでした。「自分の部屋」とともに「自分専用のふとん又はベッド」（7.5%）、「家の中で勉強ができる場所」（9.7%）は、子どものプライバシーに関連するものと考えられますが、10%未満ですが一定数の高校生が所有できていませんでした。

「新しい（誰かのお古でない）洋服」（7.4%）、「最低2足のサイズの合った靴」（6.2%）を持ってない高校生も一定数いました。

経済状況別にみると、「スマートフォン」のみで困窮層と非困窮層で差がみられませんでした。他の項目では統計的に有意な差がみられました。困窮層と非困窮層では、約3ポイントから19ポイントの差があり、特に、子どもの学びやプライバシーに関連したものにおいて差が大きいこともみえました。「電子辞書」では約19ポイント、「自分の部屋」では約17ポイント、「インターネットにつながるパソコン」では約15ポイントの差がありました。困窮層では「自分に投資するお金」（50.8%）、「インターネットにつながるパソコン」（48.9%）、「電子辞書」（45.3%）「自分の部屋」（45.8%）において、約2人にひとりの高校生が所有できないと答えていました。

図8-1-1 【生徒】新しい（誰かのお古でない）洋服



※p<0.01

※「持ちたくない・いらない」、「無回答」を分母から除いた割合

図8-1-2 【生徒】最低2足のサイズの合った靴

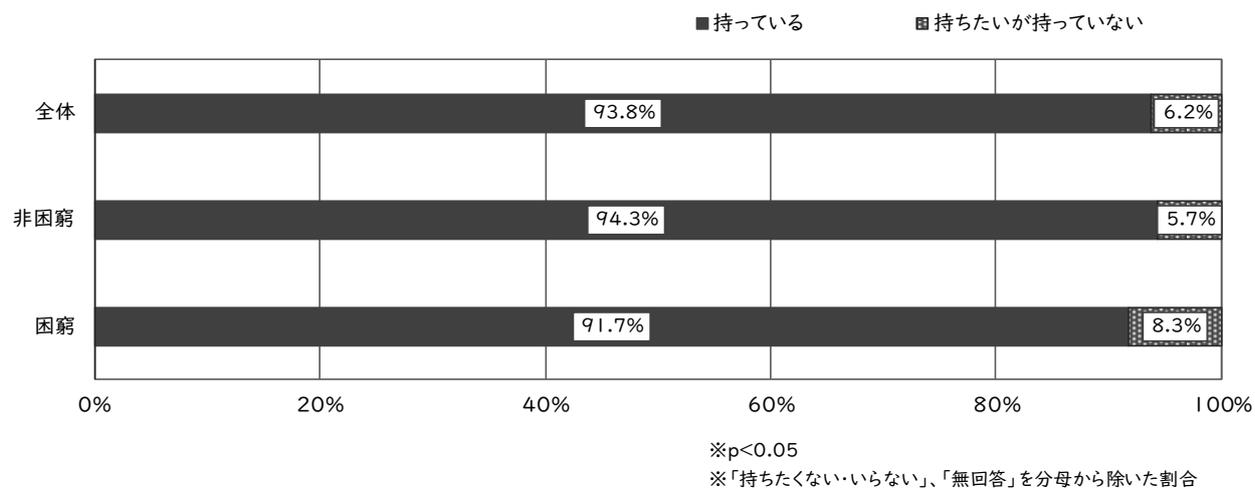


図8-1-3 【生徒】自分専用のふとん又はベッド

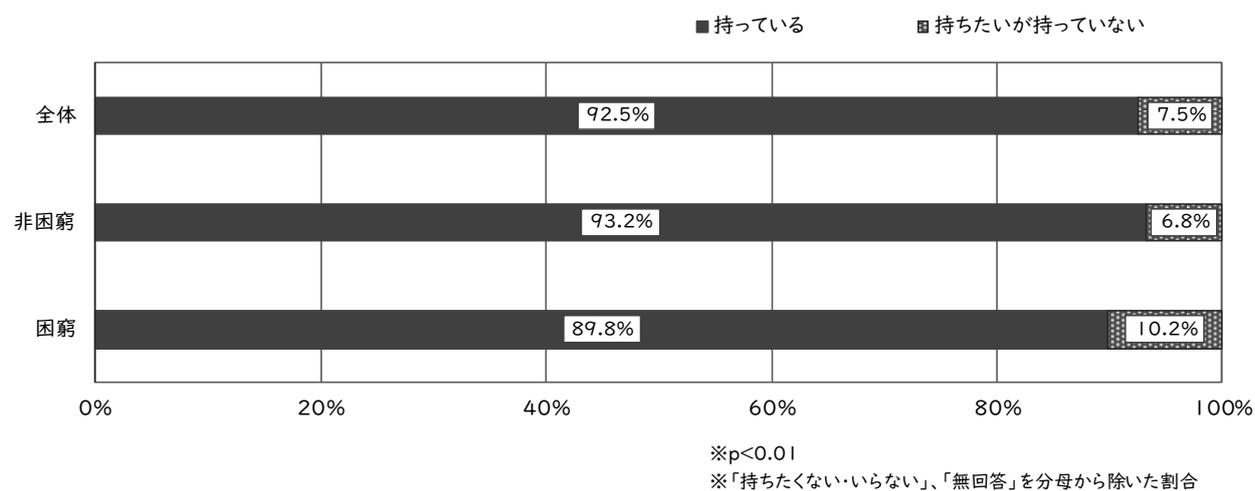


図8-1-4 【生徒】家の中で勉強ができる場所

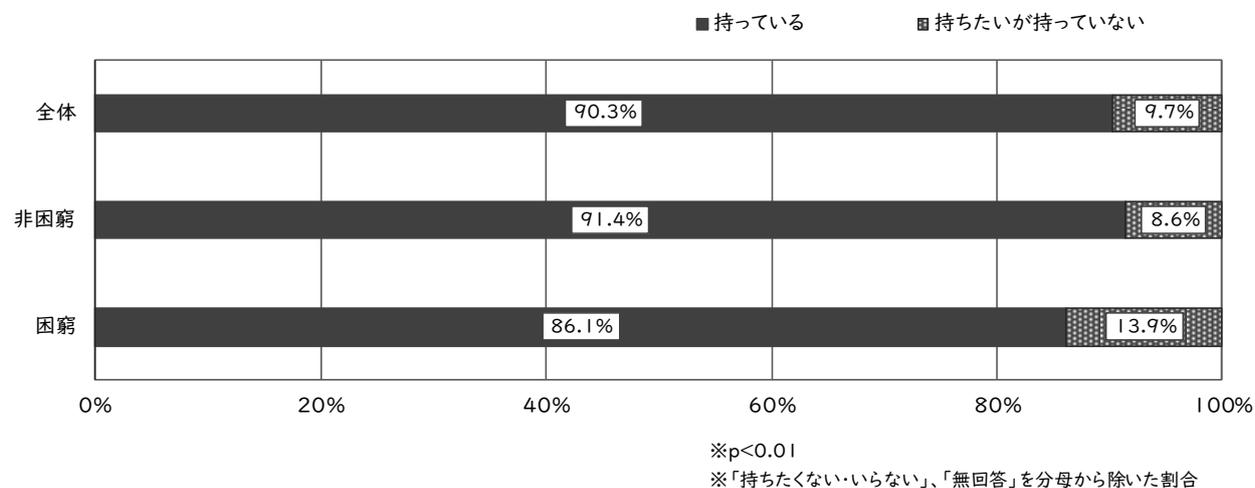


図8-1-5 【生徒】インターネットにつながるパソコン

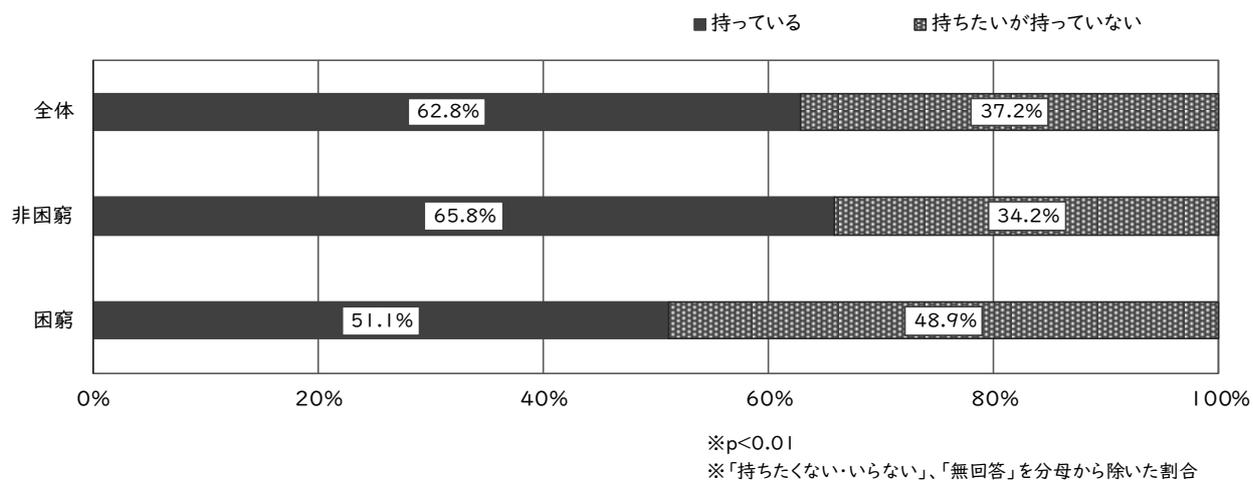


図8-1-6 【生徒】電子辞書

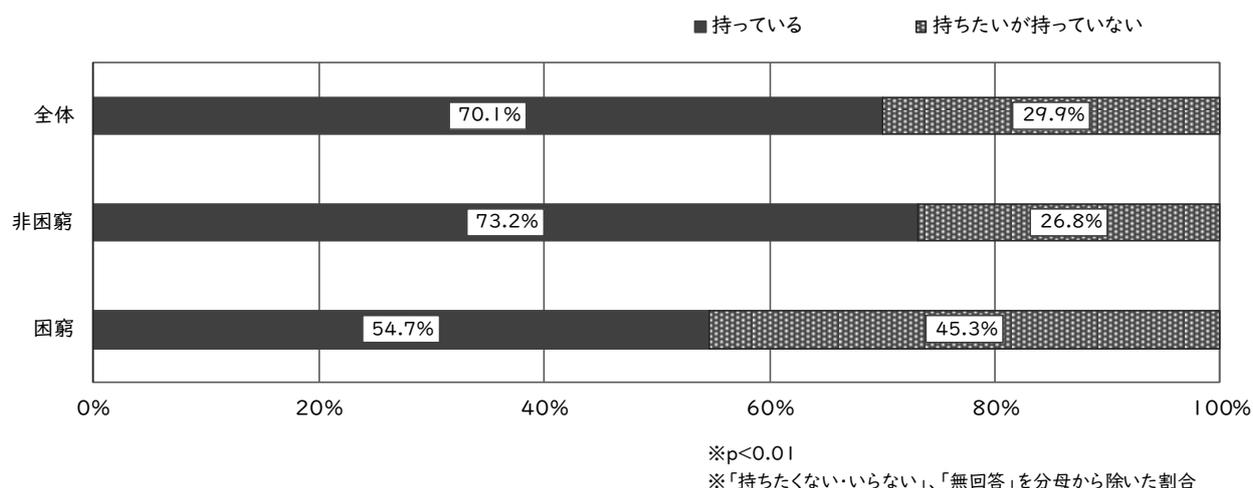


図8-1-7 【生徒】自分の部屋

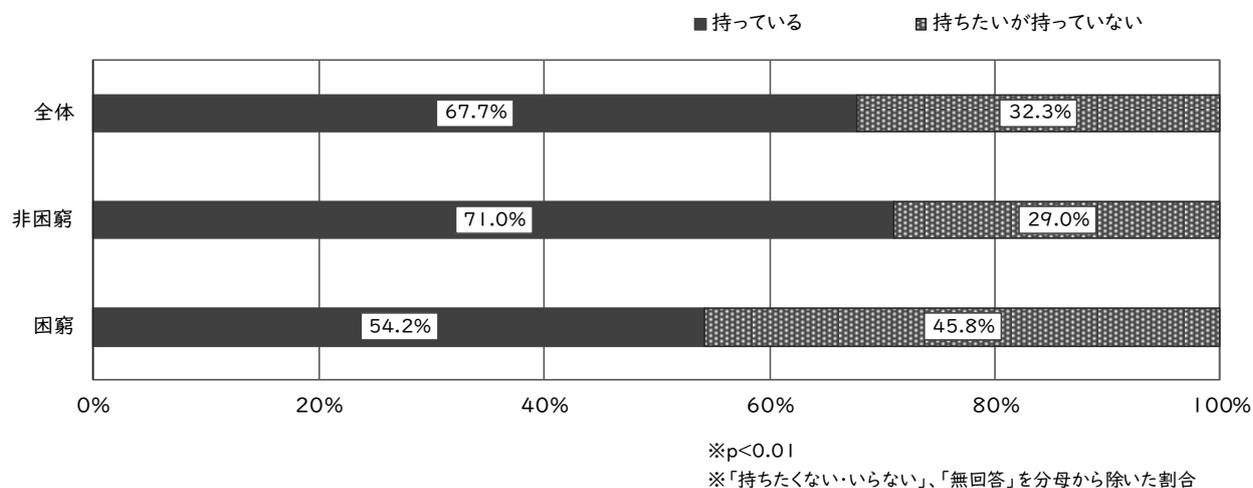


図8-1-8 【生徒】月5,000円ほどの、自分で自由に使えるお金

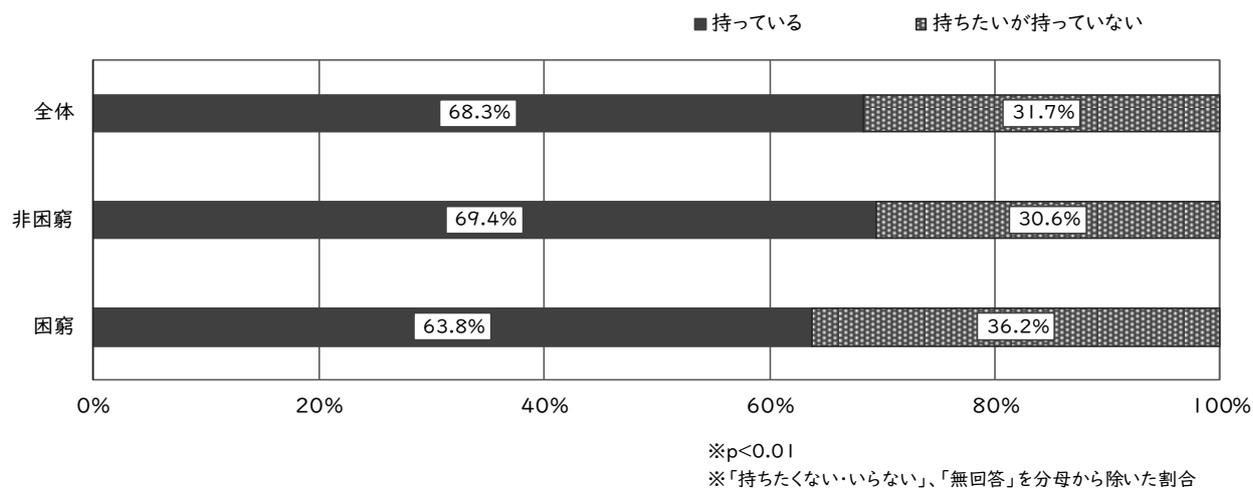


図8-1-9 【生徒】スマートフォン

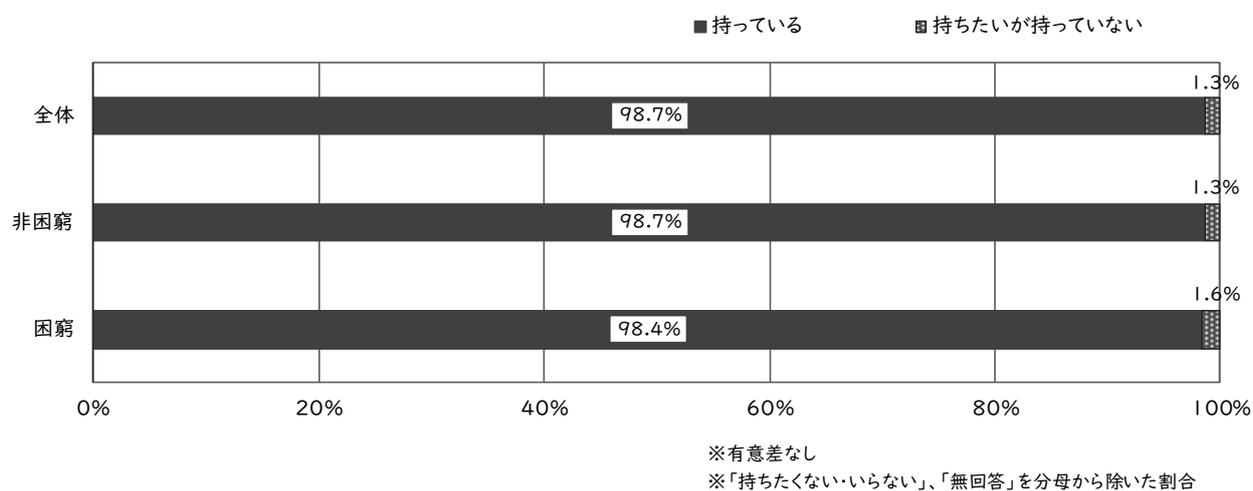


図8-1-10 【生徒】友人と遊びに出かけるお金

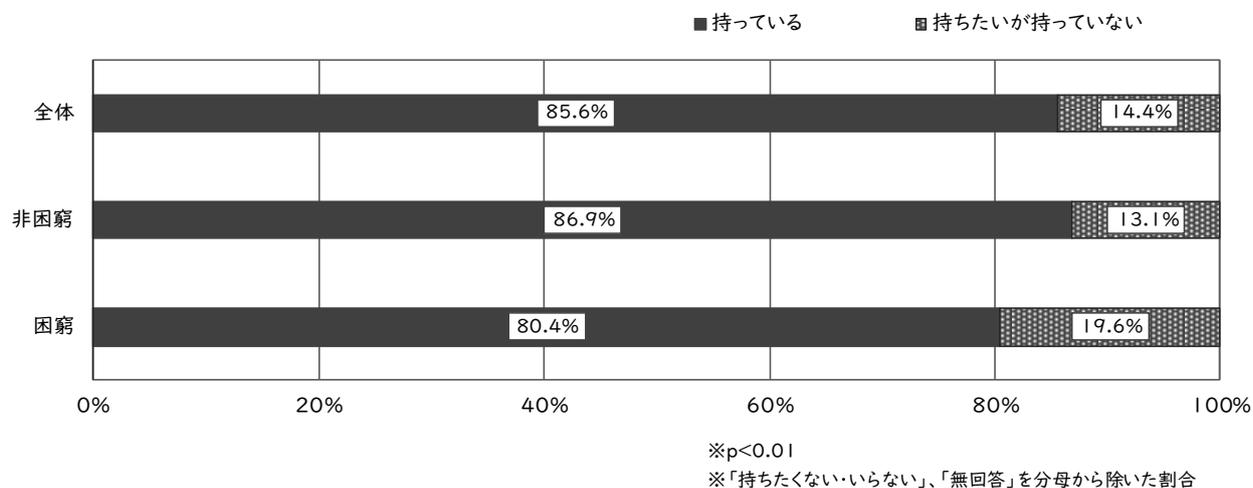
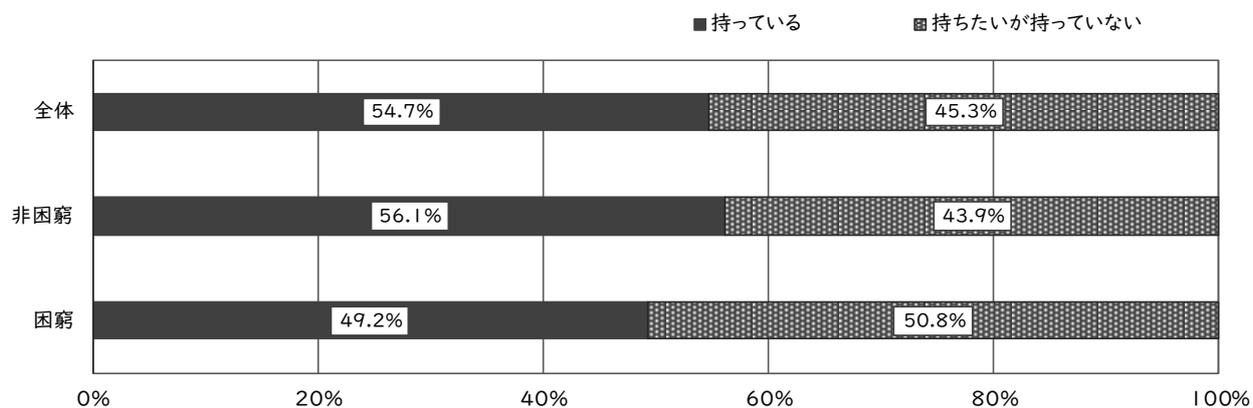


図8-1-11 【生徒】自分に投資するお金(自己啓発本、職業訓練コースなど)



※p<0.01

※「持ちたくない・いない」、「無回答」を分母から除いた割合

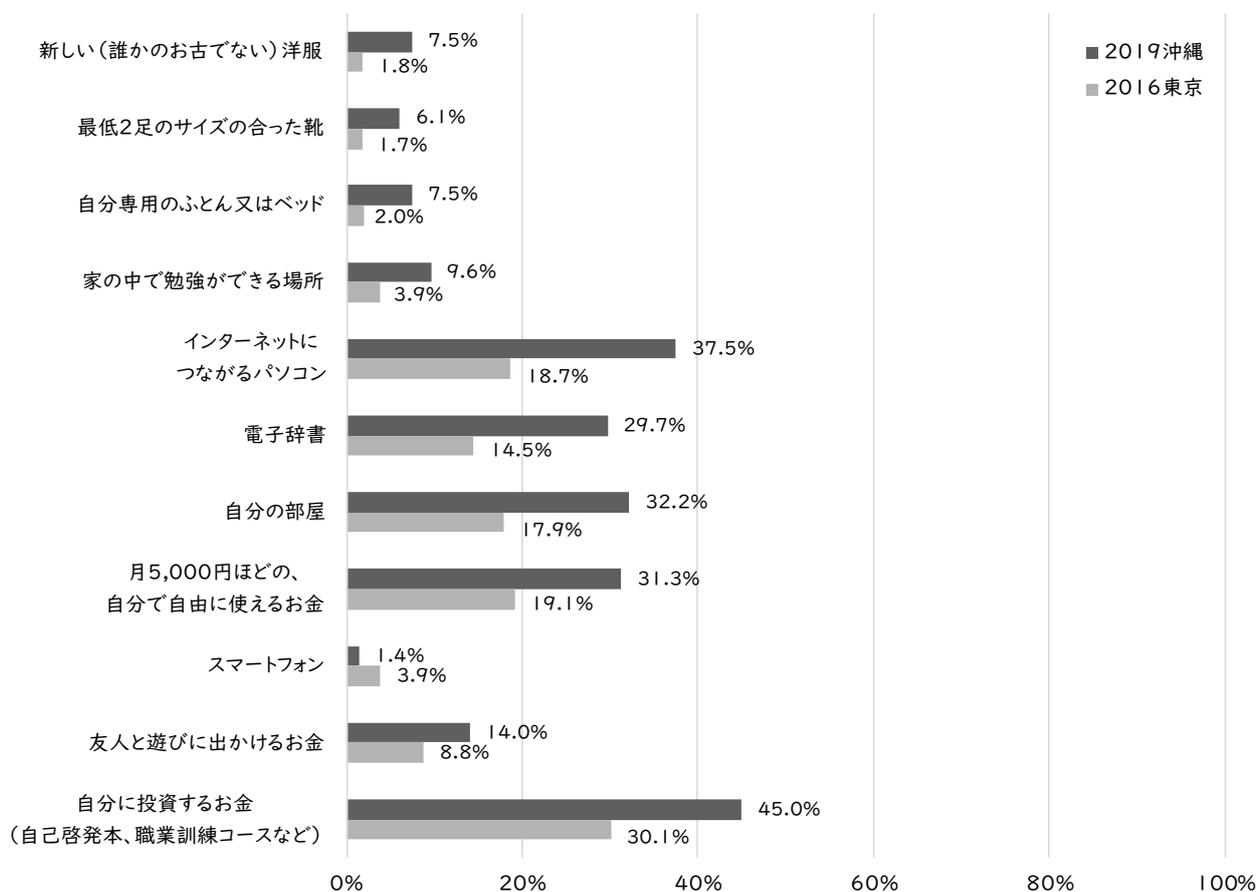
第2節 所有物の欠如—子どもの視点・東京都との比較

第1節で示した、高校生の所有物の状況を2016年東京都調査と比較したものが、図8-2-1です。

「スマートフォン」を除くと、どの物品も、「持ちたいが持っていない」割合は、沖縄県の高校生のほうが東京都よりもかなり高いことがわかりました。沖縄県と東京都では、約4ポイントから最大で約19ポイントの差がありました。特に、第1節で指摘した、経済状況による差が大きかった、子どもの学びやプライバシーに関連した「インターネットにつながるパソコン」（沖縄県37.5%対東京都18.7%）「自分の部屋」（32.2%対17.9%）「電子辞書」（29.7%対14.5%）などで、沖縄県と東京都でも差が大きいことがみえました。また、「新しい（誰かのお古でない）洋服」「最低2足のサイズの合った靴」「自分専用のふとん又はベッド」など沖縄県全体では、所有できない割合の比較的低い物品においても東京都との間で差がみえました。

第7章の滞納経験（第4節）や食料や衣料を買えなかった経験（第5節）と同様に、沖縄県の全体の世帯の数値だけでなく、前節の図8-1-1から図8-1-11で示される、非困窮層だけの数値（例えば、新しい洋服、6.7%）も、困窮層も含んでいる図8-2-1の東京都全体の数値（例えば、新しい洋服、1.8%）よりも高いことを指摘できます（スマートフォンを除く）。

図8-2-1 【生徒】所有物の欠如



第3節 子どものための支出—保護者の視点

第1節では、子どもの視点から、多くの高校生が所有している物品を、持ちたくても持てない状況に焦点をあてましたが、第3節からは、これを保護者の視点から、物品などを与えたくても経済的に購入できない、与えられない状況を見ています。

保護者に対して、「毎月お小遣いを渡す」「毎年新しい洋服・靴を買う」「習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」「お誕生日のお祝いをする」「1年に1回くらい家族旅行に行く」「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」「子どもの学校行事などへ親が参加する」ことをしているかを聞いています。家庭の方針で支出していない場合もあるので、「している」「したくない（方針ではない）」「経済的にできない」の3つから選択してもらいました。図8-3-1から図8-3-8までは、「したくない（方針ではない）」「無回答」を除き、「している」割合と「経済的にできない」割合を示したものです。

全体では、保護者が子どもにしてあげたいのにできない割合が高いのは、「1年に1回くらい家族旅行に行く」（73.5%）がもっとも高く、「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」（69.8%）や「習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」（52.3%）、「毎月お小遣いを渡す」（36.9%）も高い割合でした。

経済状況別では、どの項目も統計的に有意差があり、困窮層のほうが非困窮層に比べ高い割合であり、二つの群で差がかなり大きいこともみえました。特に、困窮層では、「1年に1回くらい家族旅行に行く」「学習塾に通わせる」「習い事に通わせる」「毎月お小遣いを渡す」ことが経済的にできないという割合は、6-9割におよんでいました。さらに、困窮層と非困窮層で、その割合の差に他の項目と比べ極端に大きなものがあり、「毎月お小遣いを渡す」と「習い事に通わせる」では約32ポイントの差が、「学習塾に通わせる」は約25ポイントの差がありました。また、「子どもの学校行事に参加する」は数値の差は約15ポイントですが、倍率では約4倍の差が生じています。

図8-3-1 【保護者】毎月お小遣いを渡す

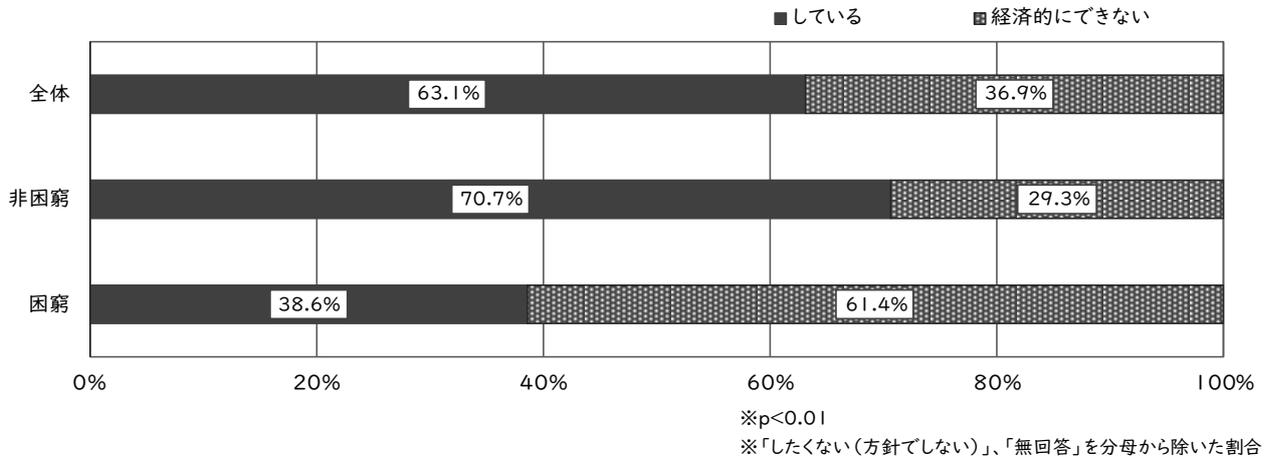


図8-3-2 【保護者】毎年新しい洋服・靴を買う

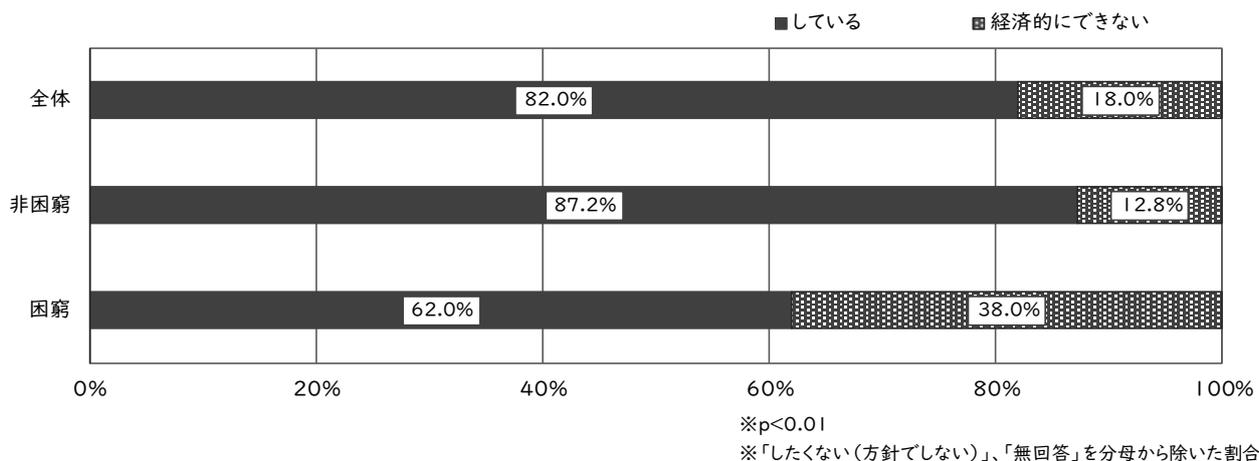


図8-3-3 【保護者】習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる

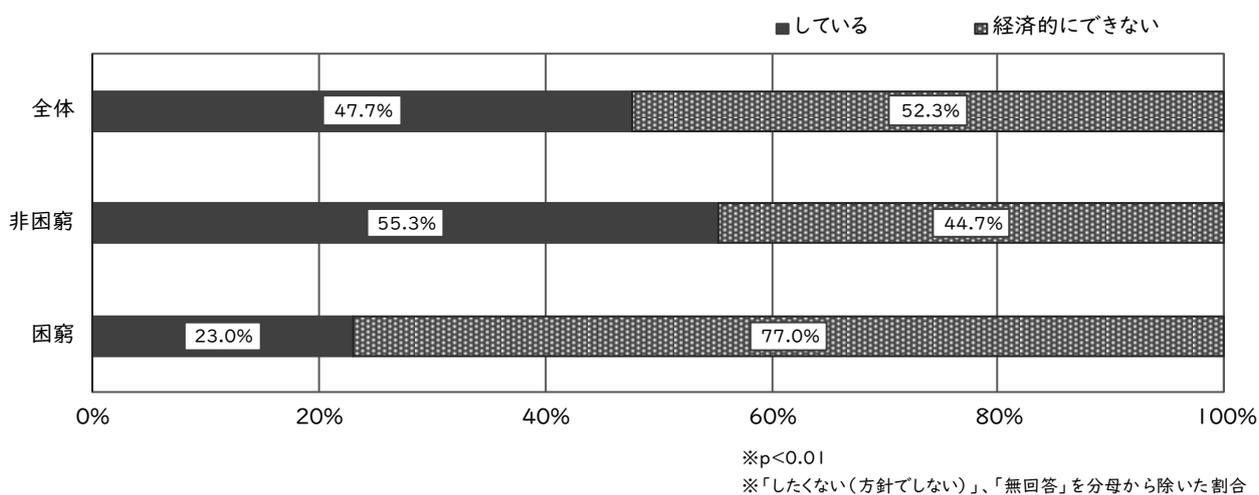


図8-3-4 【保護者】学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)

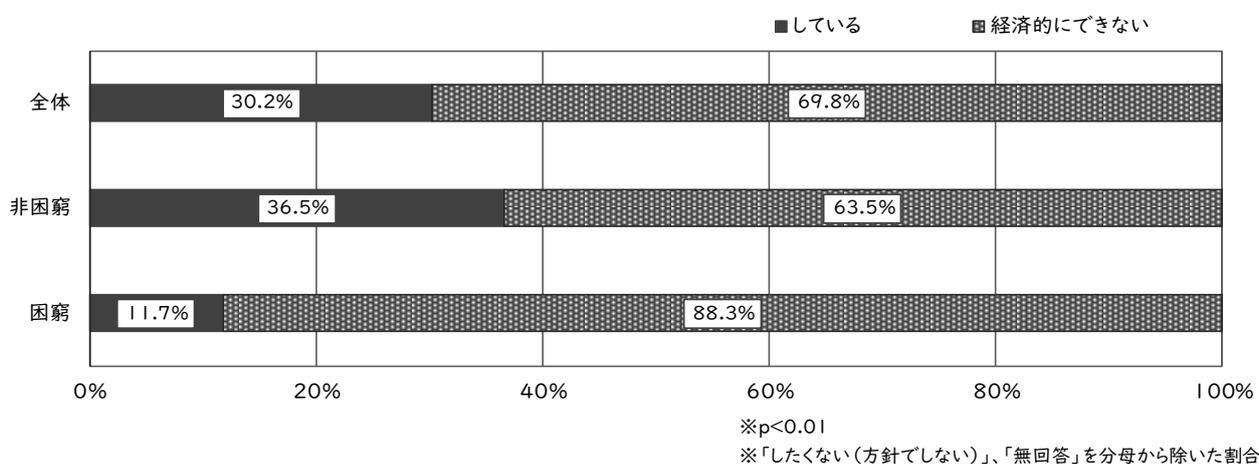


図8-3-5 【保護者】お誕生日のお祝いをする

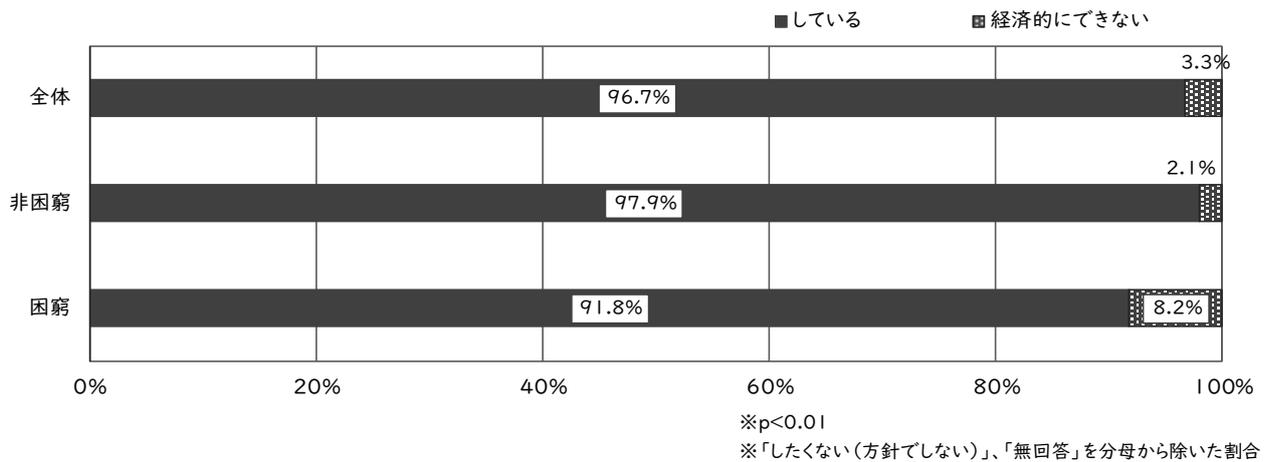


図8-3-6 【保護者】1年に1回くらい家族旅行に行く

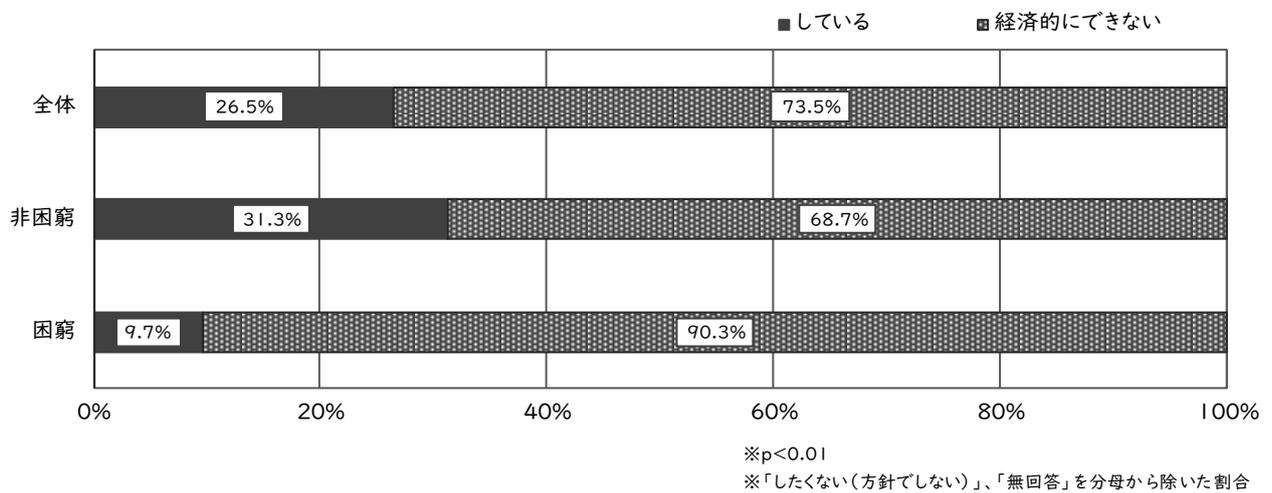


図8-3-7 【保護者】クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる

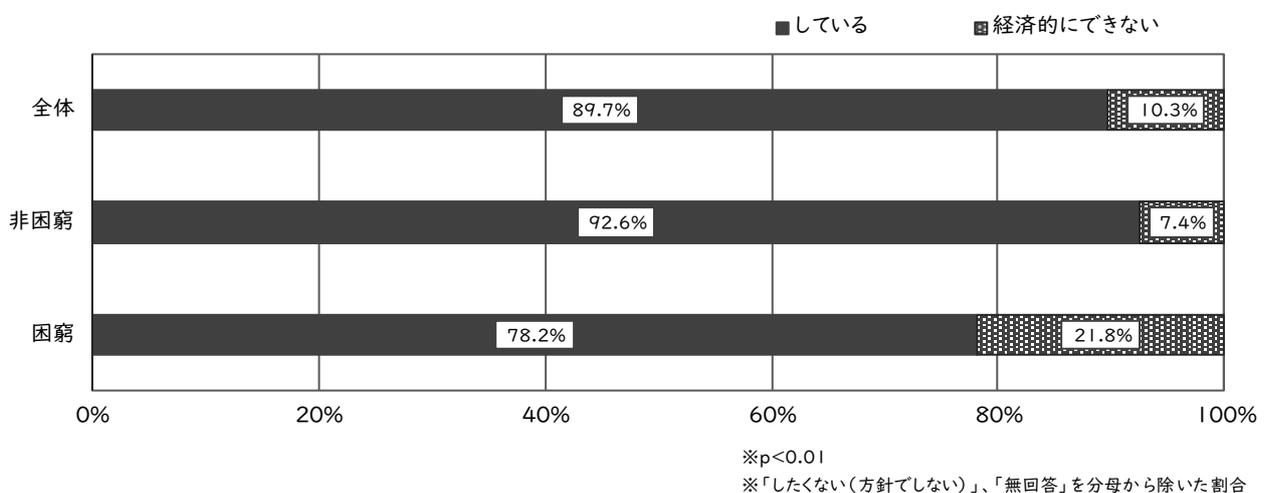
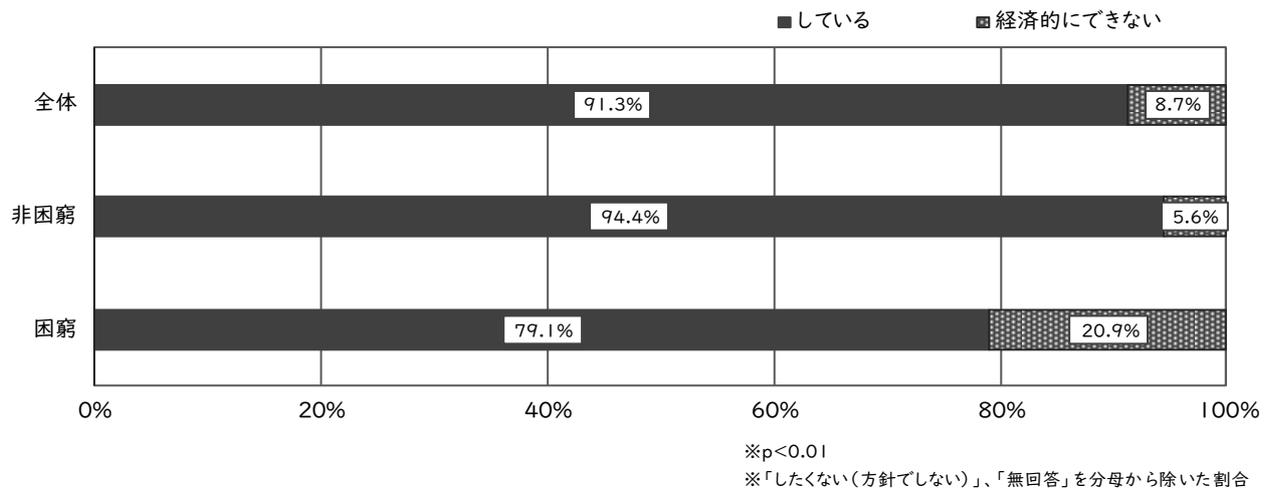


図8-3-8 【保護者】子どもの学校行事などへ親が参加する



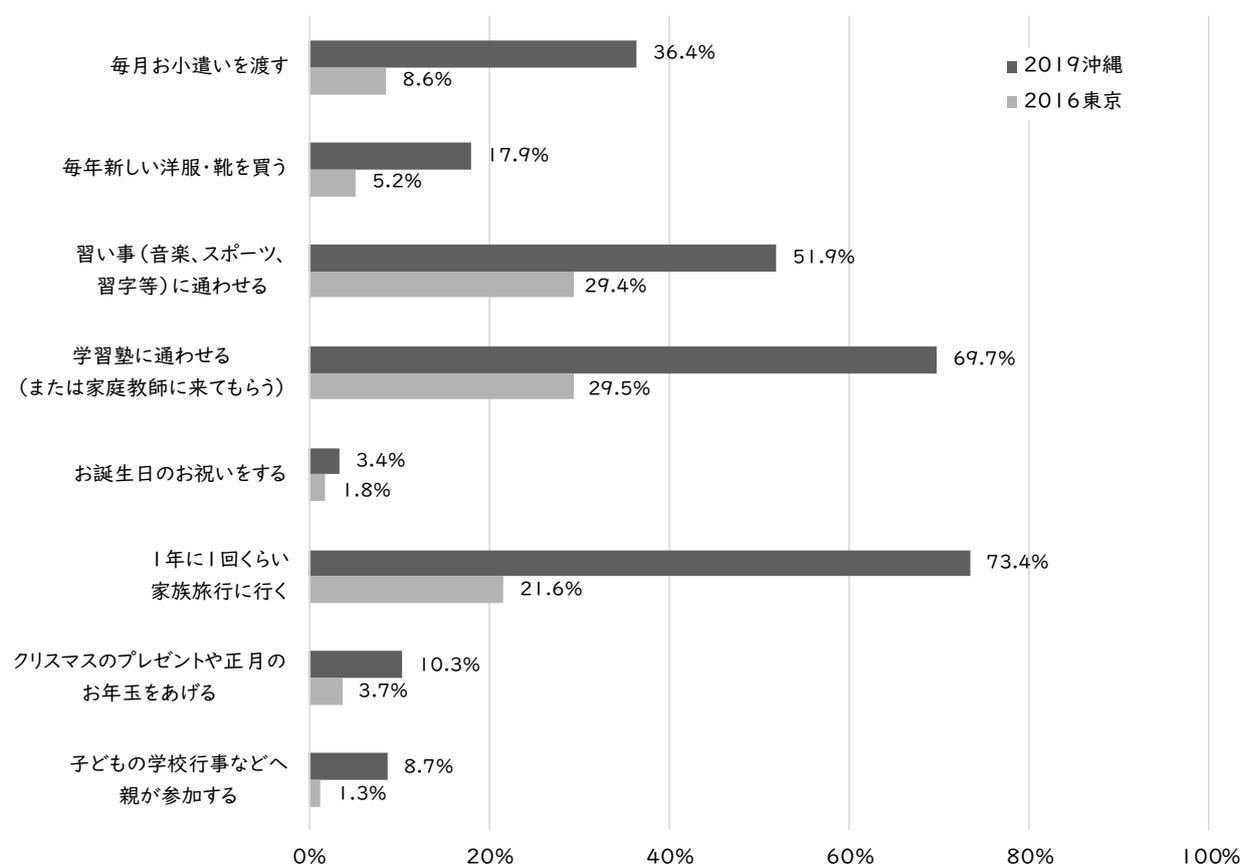
第4節 子どものための支出－保護者の視点・東京都との比較

第3節で示した、保護者が経済的に与えられない支出の状況を2016年東京都調査と比較したものが、図8-4-1です。

どの支出も、「経済的にできない」割合は、沖縄県のほうが東京都よりも高いことがわかりました。また、その差についても、「お誕生日のお祝いをする」を除くと、どの支出に関しても、かなり大きいこともわかりました（約7ポイントから約52ポイント）。特に、「毎月お小遣いを渡す」（約28ポイントの差）、「習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる」（約23ポイントの差）、「学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）」（約40ポイントの差）、「1年に1回くらい家族旅行に行く」（約52ポイントの差）など、沖縄県で保護者が与えたいのにできない割合の高いものにおいて差が大きいことがみえました。また、高校生自身の場合（第2節の子どもの視点による所有物の欠如における、東京都との比較では、約4ポイントから19ポイントの差）と比較すると、これらの数値の高さがより目立ちます。

第2節と同様に、沖縄県の全体の世帯の数値だけでなく、図8-3-1から図8-3-8で示される、非困窮層だけの数値（例えば、毎月のお小遣い、29.3%）も、困窮層だけでなく非困窮層も含んでいる図8-4-1の東京都全体の数値（例えば、毎月のお小遣い、8.6%）よりも高いことを指摘できます。

図8-4-1 【保護者】経済的にできない、子どものための支出



第5節 子どもの体験—保護者の視点

第5節では、子どもの経験について、保護者が子どもにしてあげたいのに経済的な理由等からできない状況をみています。保護者がこれまで「海水浴に行く」「博物館・科学館・美術館などに行く」「キャンプやバーベキューに行く」「スポーツ観戦や劇場に行く」経験を子どもとともにできているかを尋ねました。時間の制約でできない場合などもあることから、「ある」「ない(金銭的な理由で)」「ない(時間の制約で)」「ない(その他の理由で)」という4つの選択肢を示しました。図8-5-1から図8-5-4までがその結果を示しています。

すべての項目で、全体的に多くの保護者はこれらの経験を子どもとともに行ってきたと答えています。一方で、「海水浴に行く」で1.2%、「博物館・科学館・美術館などに行く」で3.7%、「キャンプやバーベキューに行く」で3.7%、「スポーツ観戦や劇場に行く」で6.0%が、経済的な理由でこれまで子どもと一緒に経験できていないと答えています。また、時間の制約でできなかったと回答する割合は、経済的理由より高く、それぞれ、5.1%、7.6%、8.0%、6.7%でした。

経済状況別にみると、どの項目も、経験があるという割合は、困窮層で低くなります。一方で、経済的な理由でできないと回答した割合は、どの項目も困窮層で高くなっていました。さらに、困窮層では、経済的な理由だけではなく、時間の制約やその他の理由(詳細は不明)で、経験できないと回答する割合も、非困窮層と比較して高いこともわかりました。

図8-5-1 【保護者】海水浴に行く

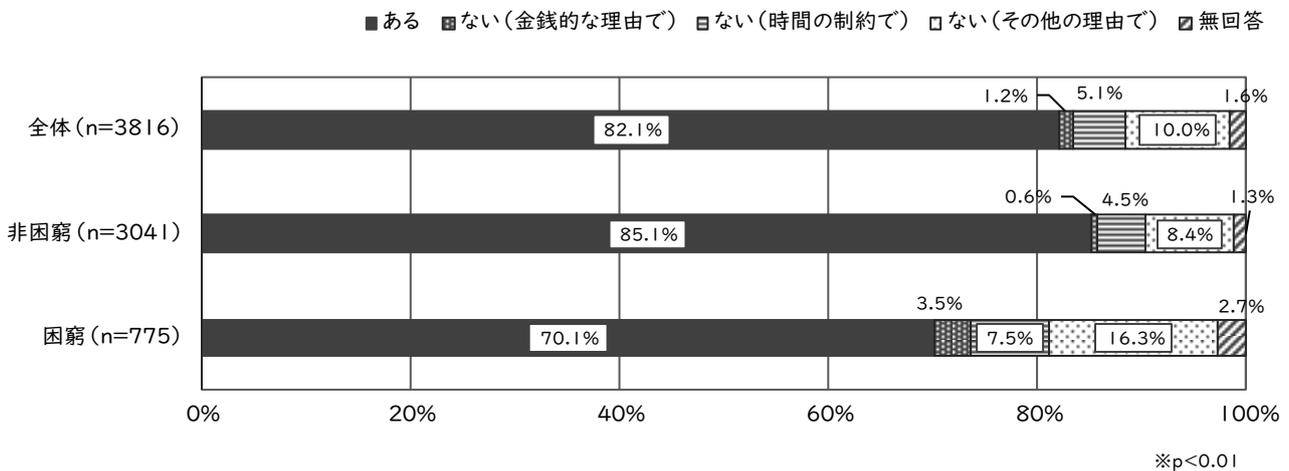


図8-5-2 【保護者】博物館・科学館・美術館などに行く

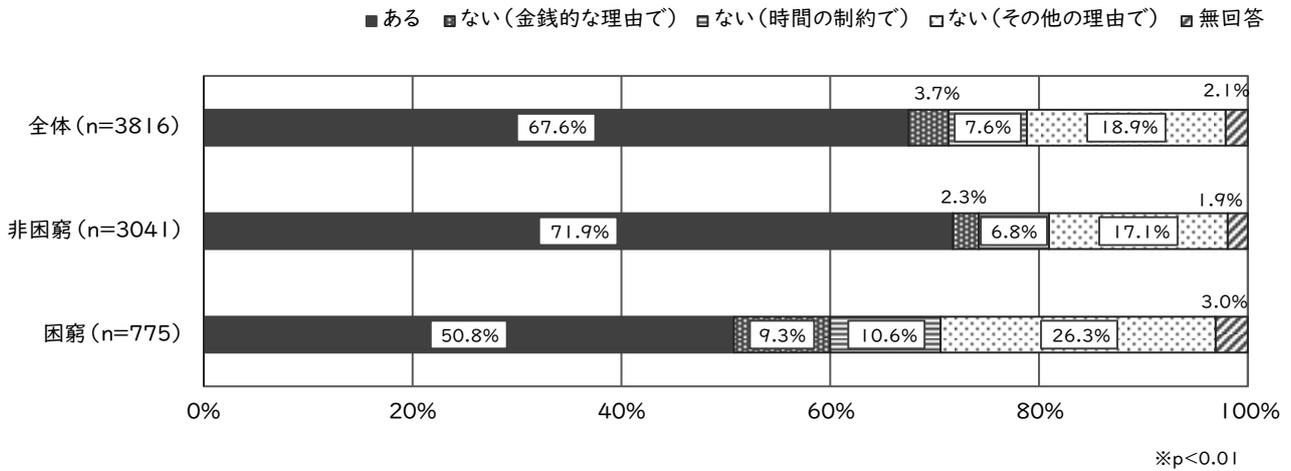


図8-5-3 【保護者】キャンプやバーベキューに行く

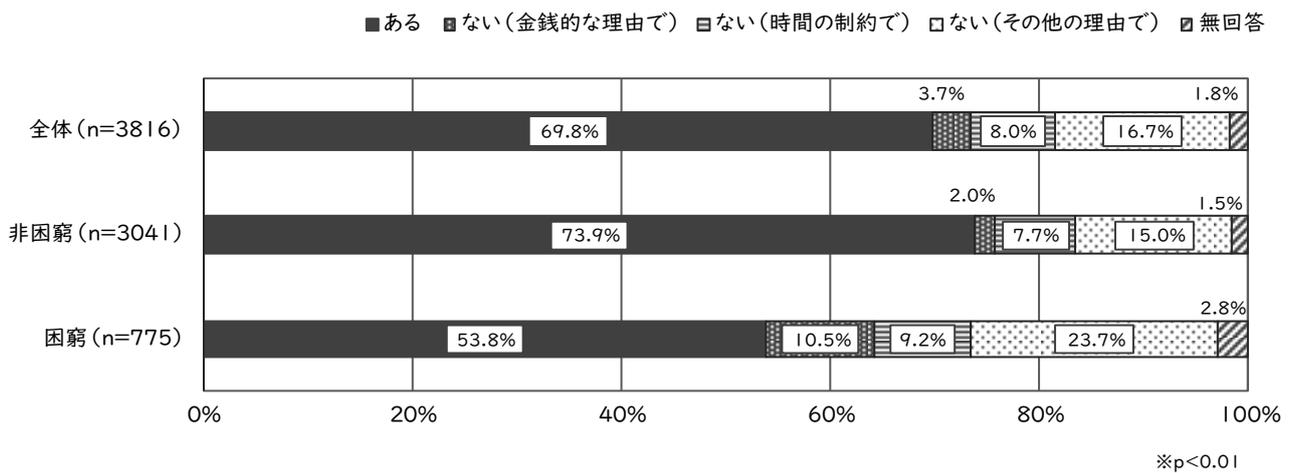
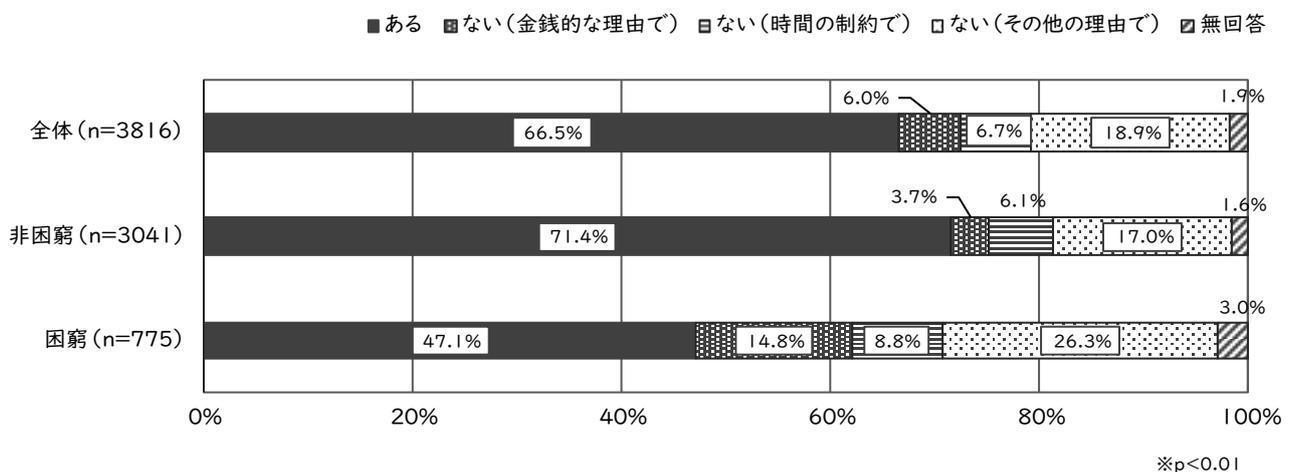


図8-5-4 【保護者】スポーツ観戦や劇場に行く



第6節 子どもの体験—保護者の視点・東京都との比較

第5節でみた、保護者が子どもにしてあげたいのにできない子どもの経験について、東京都と比較をみたものが、図8-6-1から図8-6-4になります。

まず、経験がある割合に注目すると、「海水浴に行く」「キャンプやバーベキューに行く」では、沖縄県と東京都はほぼ同じ数値ですが（やや沖縄県のほうが高い）、「博物館・科学館・美術館などに行く」「スポーツ観戦や劇場に行く」は、沖縄県のほうが低い割合であることがみえます。

一方で、海水浴を除くと、3つの項目では、経済的な理由や時間の制約という理由でできない割合は沖縄県のほうが高いことがわかります。経済的な理由だけでなく、時間の制約も沖縄県のほうが高いことも示されました。

こうした違いには、経済状況以外に地理的な違いもからんでいることが考えられそうです。

図8-6-1 【保護者】海水浴に行く

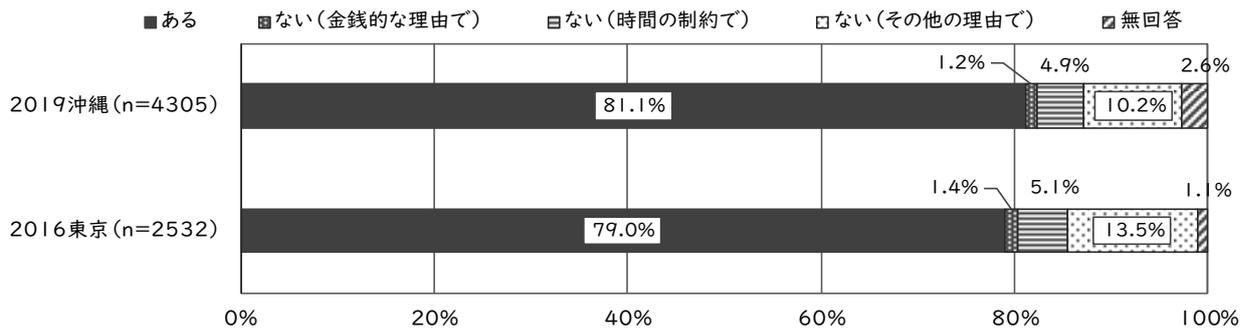


図8-6-2 【保護者】博物館・科学館・美術館などに行く

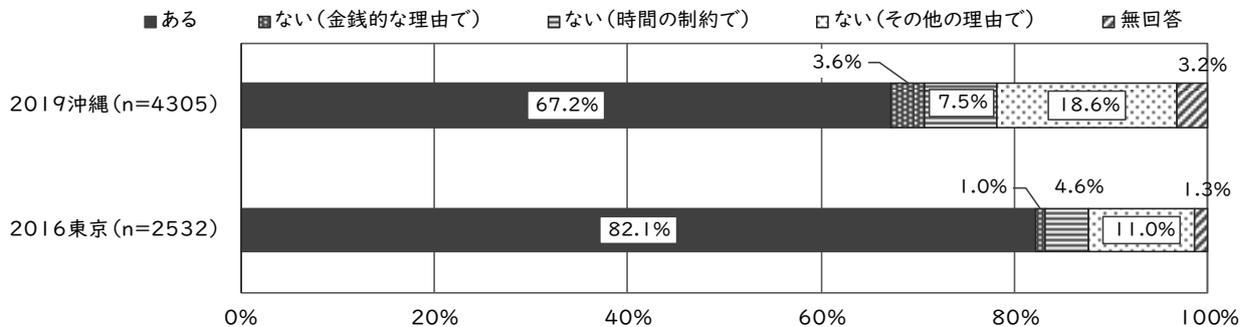


図8-6-3 【保護者】キャンプやバーベキューに行く

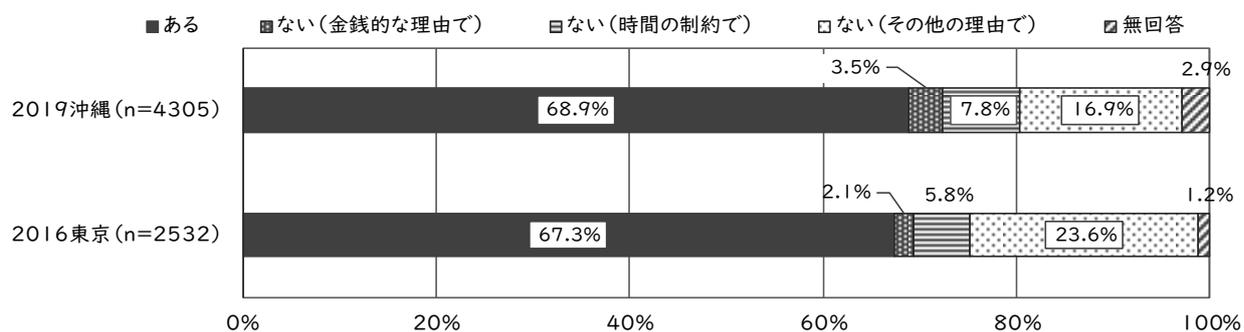
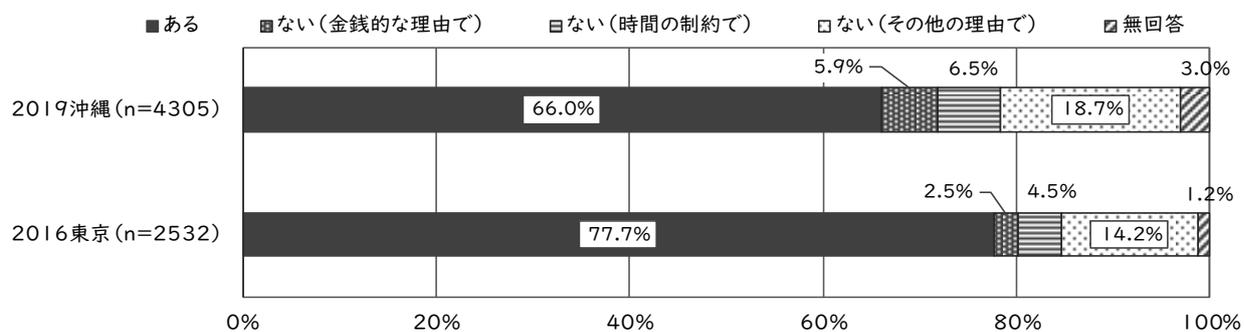


図8-6-4 【保護者】スポーツ観戦や劇場に行く



第7節 所有物の欠如—保護者の視点

図8-7-1は、家庭において広く普及している物品を経済的な理由で所有していない割合を示すものですが、「子どもの年齢に合った本」などの子どものためのものや、「インターネットにつながるパソコン」など家庭内にあれば、子どもも利用できるものも含まれています。さらに、「洗濯機」や「冷房機器」「自家用車」などの耐久財、さらに「急な出費のための貯金(5万円以上)」などについてもこの質問では保護者に対して尋ねており、その結果も示しています。

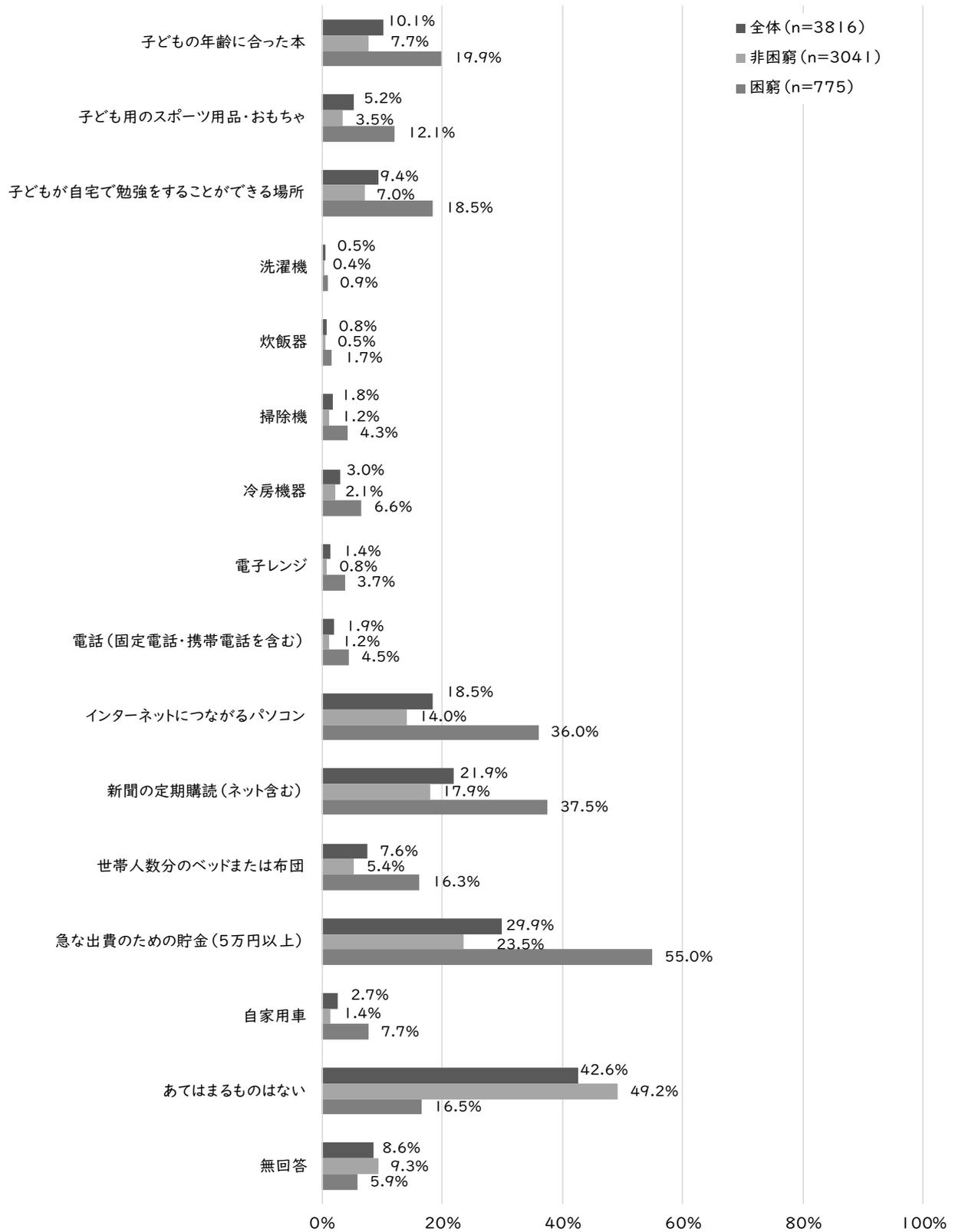
すると、全体では、子どものためのものにあたる「子どもの年齢に合った本」や「子ども用のスポーツ用品・おもちゃ」「子どもが自宅で勉強をすることができる場所」が経済的な理由で世帯にない割合は、約5-10%いることがわかりました(「世帯人数分のベッドまたは布団」も7.6%でした)。

耐久財については、「洗濯機」「炊飯器」を所有していない世帯は1%未満でしたが、「掃除機」「冷房機器」「電子レンジ」「電話(固定電話・携帯電話を含む)」「自家用車」は1%を超えており、特に「冷房機器」(3.0%)は沖縄県という気候状況を考慮に入れると高いといえそうです。

また、「インターネットにつながるパソコン」や「新聞の定期購読(ネット含む)」など、子どもの文化的な経験につながるものがない割合は、ともに約2割ありました。さらに、「急な出費のための貯金(5万円以上)」は約3割がないとしています。

経済状況別にみると、「あてはまるものはない」を除くと、どの項目も困窮層のほうが割合が高く、統計的にも洗濯機を除くと有意な差がみえました。極端に大きな差のものもあり、「急な出費のための貯金(5万円以上)」は、約32ポイントの差、「インターネットにつながるパソコン」では22ポイントの差でした。困窮層では「ない」割合が、「急な出費のための貯金(5万円以上)」は5割、「インターネットにつながるパソコン」や「新聞の定期購読(ネット含む)」は3割を超え、「子どもの年齢に合った本」や「子どもが自宅で勉強することができる場所」は約2割におよんでいました。さらに、耐久財については、「冷房機器」がないと答えた困窮層は約7%、「自家用車」も約8%になりました。

図8-7-1 【保護者】経済的理由のためにあなたの世帯にないものがありますか(複数回答)



※「洗濯機」は有意差なし、それ以外は $p < 0.01$

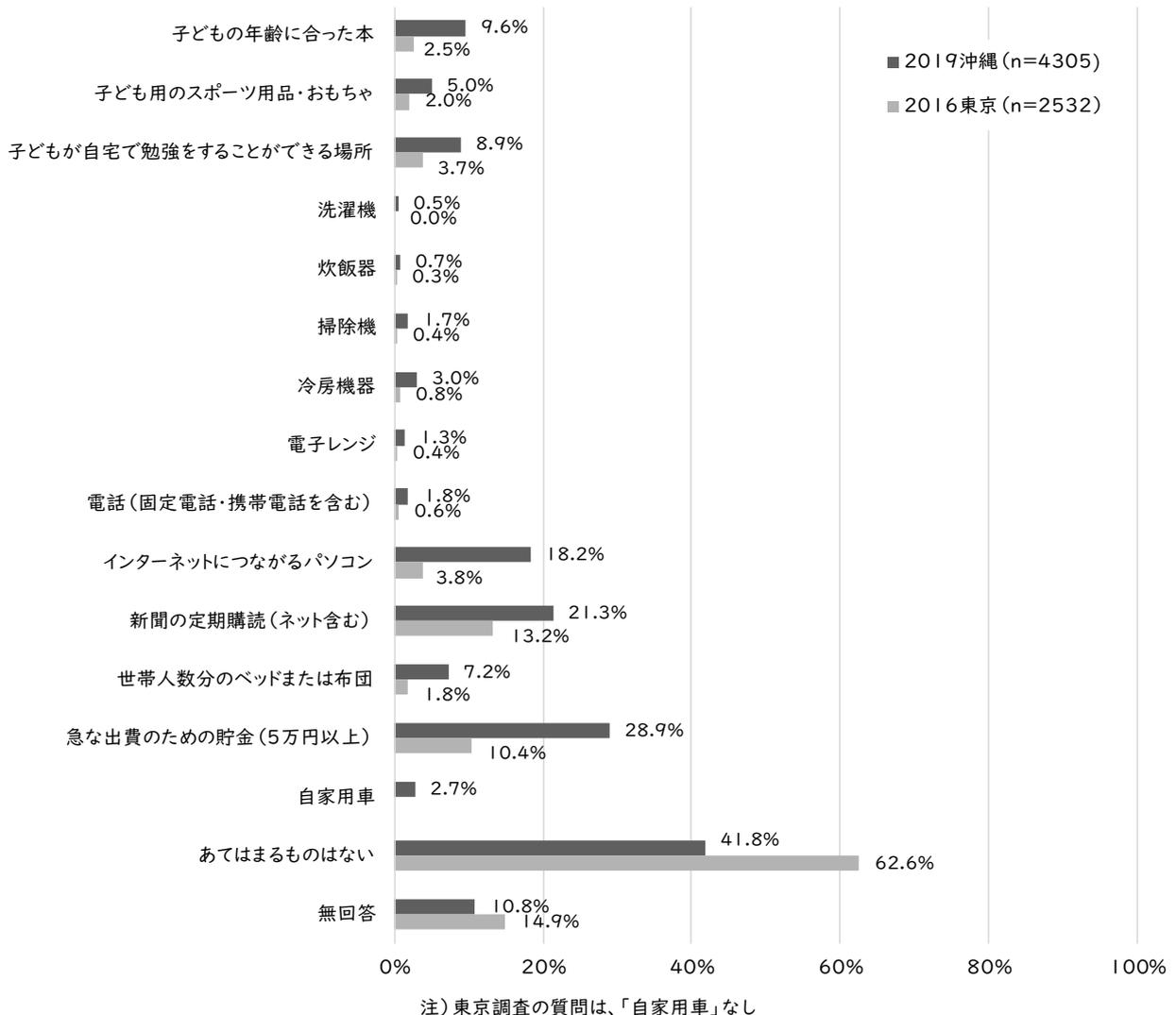
第8節 所有物の欠如—保護者の視点・東京都との比較

第8節では、所有物の欠如を東京都と比較しています（なお、東京都では「自家用車」はありません）。

結果としては、「あてはまるものはない」を除くと、どの項目も沖縄県のほうが高い割合でしたが、耐久財と比較して、子どもに関連性が高い、「子どもの年齢に合った本」や「子どもが自宅で勉強をすることができる場所」「インターネットにつながるパソコン」「世帯人数分のベッドまたは布団」などにおいて差が大きいことがみえます。さらに、「急な出費のための貯金（5万円以上）」については、東京都の10.4%と比較して、沖縄県では28.9%であり、非常に高いことがわかります。

第2節の子どもの視点による所有物の欠如、第4節の保護者の視点による子どものための支出と同様に、沖縄県の全体の世帯の数値だけでなく、図8-7-1で示される、非困窮層だけの数値（例えば、子どもの年齢にあった本、7.7%）も、困窮層も含んでいる図8-8-1の東京都全体の数値（例えば、子どもの年齢にあった本、2.5%）よりも、「あてはまるものはない」「無回答」を除くと、高いことを指摘できます。

図8-8-1 【保護者】経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか



考察

本章は、現在の日本で、大多数の高校生が一般的に享受していると考えられる（または、享受すべきと一般の人が認識していると考えられる）、経験や物品が欠如している高校生の割合に焦点をあてて分析をしています。また、第1節、第2節では、高校生自身の視点から分析し、第3節以降では、保護者の視点から分析しました。さらに、第2節、第4節、第6節、第8節では、ほぼ同様の質問票を用いた2016年東京都調査の結果との比較を試みました。なお、2016年沖縄県調査では、こうした経験や物品の欠如をほとんど尋ねておらず、経年比較はできませんでした。

第1節、第2節では、「インターネットにつながるパソコン」や「自分に投資するお金」など、子どもの学びに関連のあるもので、全体でも30%以上の高校生が所有できていないことがわかりました。さらに困窮層では、電子辞書や自分の部屋も含め、約半数の高校生が所有できておらず、家の中で勉強ができる場所がない(13.9%)と合わせ、高校生の学びという成長や発達の重要な機会が相対的に不足することにつながっているのではないかと危惧される結果が示されました。

これは2016年東京都調査との比較でもさらに浮き彫りにされました。例えば、インターネットにつながるパソコンでは、東京都でも18.7%の高校生が欠如していますが、沖縄県では37.5%の高校生が所有できていませんでした。さらに、この点は第7章の考察においても指摘されていることですが、2016年東京都調査との比較において驚かされたのは、沖縄県における非困窮層だけの数値も、困窮層も含んでいる東京都全体の平均よりも高い点でした。

こうした厳しい現象の要因については、第7章の考察で指摘した2点があると考えられます。ひとつには、沖縄県では非困窮層の中には、貧困線周辺の所得の世帯の層が相対的に厚く、非困窮層であっても、経済的に厳しい世帯が多いという点です。また、沖縄県における、非困窮層、困窮層を含めた、子育て世帯では、収入額の少なさという課題だけでなく、非正規労働の割合が高いことから収入の安定さに欠ける場合が多いこと、さらに貯蓄というストック面でも課題を背負いがちであることが、高校生の所有物の欠如の相対的な高さをもたらしているのではないのでしょうか（貯蓄については、後述するように、第7節で「急な出費のための貯金(5万円以上)」がない割合の分析を行っており、沖縄県の場合、東京都に比べかなり高い割合でした）。

特に、本章でみる高校生の所有物や経験の有無は、第7章の公共料金などの支払いに比較しても、家計のストック面や安定さに依存しがちであることがわかります。まず、低所得世帯においては、世帯全体の生活を考えるとどうしても毎月の公共料金の支払いは優先され、所有物や経験は後回しにされがちです。その場合、貯蓄が十分であり急な出費ができるかが問われることとなります。また、本章の項目の一部は、貯蓄が一定あって、また安定した収入があって、初めて購入したり与えることができるものもあります。例えば、インターネットにつながっているパソコンや、自分の部屋などです。なお、東京都との比較でみられたこうした厳しい状況は、第3節以降でも確認できるものです。

第3節、第4節では、保護者が与えたくても経済的にできない状況に焦点をあてています。全体でも、1年に1回くらい、高校生とともに家族旅行に行きたいのにできない保護者は、約4分の3におよび、学習塾に通わせたいのにできないと回答した割合は、約7割もありました。さらに、困窮層では、前者、後者とも約9割となりました。本来であれば、高校生に対して十分な物品や機会を与えたいのに、逼迫した生活の中でそうしたことを提供できず、もどかしく感じている困窮層の保護者の状況が想像できる結果でした。

このことは、2016年東京都調査との比較でさらに強く裏打ちされました。例えば、「1年に1回くらい家族旅行に行く」は東京都でも21.6%の保護者ができないと答えています。沖縄県では73.4%にもおよんでいます(約52ポイントの差)。また、「学習塾に通わせる」は、東京都では29.5%ですが、沖縄県では69.7%(約40ポイント)、「毎月お小遣いを渡す」は、それぞれ8.6%、36.4%(約28ポイント)でした。他の項目でも沖縄県と東京都の数値には大きな格差がみえました。特に保護者の場合、高校生自身よりもこうした差が大きいこともうかがえました。これは、沖縄県の保護者たちは、東京都と比べても、さらには子どもたちと比較しても、これらの経験や物品は子どもたちの成長のために必要であると当然視しながら(必要性を感じていなければ、このような高い数値は出ないはずです)、その支出に経済的な制限があることを強く感じていることを示しているのではないのでしょうか。現状の生活状況に対する不満や焦燥感の表れとさえ映るものです。こうした保護者の状況も、沖縄県の特徴といえるのではないのでしょうか。

第5節、第6節では、高校生の体験に目を向けています。第1節から第4節と大筋では似た結果でしたが、一方で経済的理由とともに、時間の制約、つまりは仕事等が忙しく、高校生と一緒に経験することが少なかったことが、困窮層ではみえることがわかりました。これは、第1章の結果(困窮層の保護者のほうが長時間労働を行っている)と符合するものと考えられます。2016年東京都調査との比較では、海水浴やキャンプやバーベキューで差はあまりみられず、ここには沖縄県が島嶼であるという地理的な要因も関連があることが推察されましたが、高校生への体験を提供できないのは、経済的な理由だけでなく、時間の制約という点においても、沖縄県のほうが高い割合であったことも示されました。

第7節、第8節では、世帯の中に経済的な理由で購入できていないものを、高校生のためのものだけでなく、冷房機器や自家用車などの耐久財や、急な出費のための貯金などについても尋ねた結果を分析しています。すると、全体では急な出費のための貯金がない世帯は、3割近くになり、冷房がないという世帯も少ないながら3%存在しました。困窮層では、前者は5割以上であり、後者は約7%となりました。2016年東京都調査との比較でも各項目で差がみえましたが、急な出費のための貯金がない世帯は、東京都の約1割に対して、沖縄県では約3割におよんでいます。

本章でみた、所有物や経験の欠如は、単に必要なものや経験を享受できないという現在の時点の不平等だけでなく、そのことが子どもの成長・発達の機会や権利をも奪ってしまうという点にも留意するべきでしょう。現在の機会の欠如は、未来の可能性の制限にも影響をおよぼすのが、子どもという存在の特性でもあります。そうした意味では、さまざまな機会の不足を、何らかの形で子どもたちに対して公的に補うことを積極的に検討するべきであると示したのが本章といえるでしょう。

第 9 章

制度の利用状況

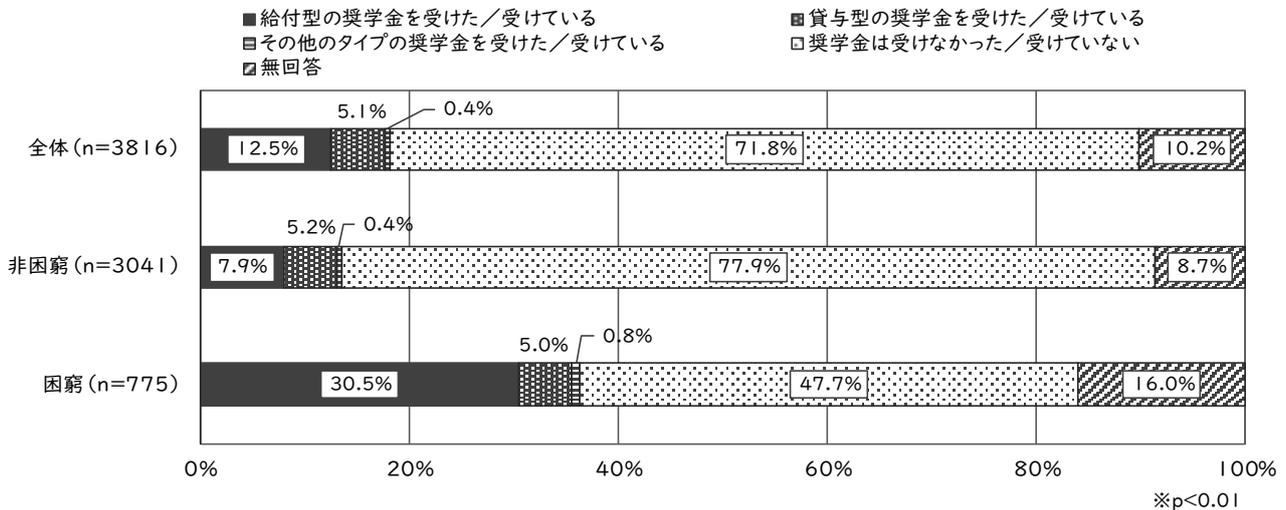
第1節 奨学金の利用状況

奨学金は特に困窮層にとって重要な制度です。その受給状況について、過去も含めて保護者に聞きました。

図9-1-1では、困窮層の36.3%が何らかの形の奨学金を受けた/受けているとしていますが、非困窮層でも13.5%が利用していました。給付型の奨学金だけに絞ると所得条件がより厳しいため、困窮層は30.5%と非困窮層(7.9%)とは大きな開きがありますが、貸与型は双方とも約5%で利用率に差はありませんでした。

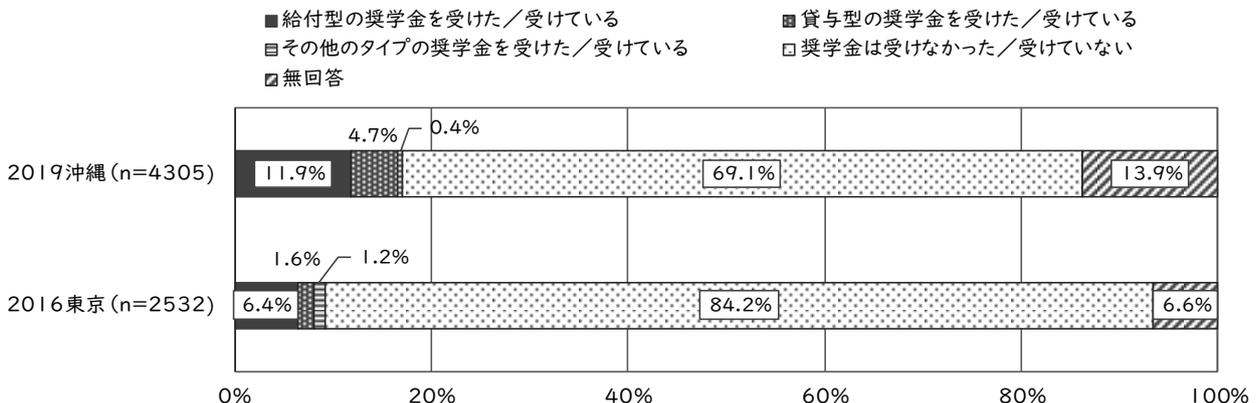
図9-1-2の東京都との比較では、何らかの形で奨学金を受けた/受けている世帯の合計は沖縄県が17.0%と東京都(9.2%)の約2倍の利用率であることがわかります。

図9-1-1 【保護者】お子さんは、奨学金を受けましたか(受けていますか)。複数受けている場合は、直近のものについて教えてください



【2016年東京都調査との比較】

図9-1-2 【保護者】お子さんは、奨学金を受けましたか(受けていますか)。複数受けている場合は、直近のものについて教えてください



第2節 無料塾について

県が進めている子育て総合支援モデル事業、いわゆる無料塾について、高校生に聞きました。

図9-2-1にあるように、この制度を「知っている」と答えた高校生は全体18.2%、非困窮層17.0%、困窮層22.8%と困窮層の認知度が高くなっています。ただ、図9-2-2で制度の利用意向を尋ねると、全体25.3%、非困窮層24.9%、困窮層27.2%と、その差はあまり変わりなくなります。

そこで、図9-2-3で保護者に同様の問いかけを行うと、認知度は全体32.4%、非困窮層32.5%、困窮層31.9%とほとんど変わりませんでした。一方で、利用意向は全体33.3%で3人に1人が利用を希望していましたが、非困窮層は30.0%と認知度をやや下回るのに対し、困窮層では46.1%と認知度を上回る結果となっています。

【生徒】

図9-2-1 【生徒】あなたは、無料塾（子育て総合支援モデル事業「大学等進学促進事業」）について知っていますか

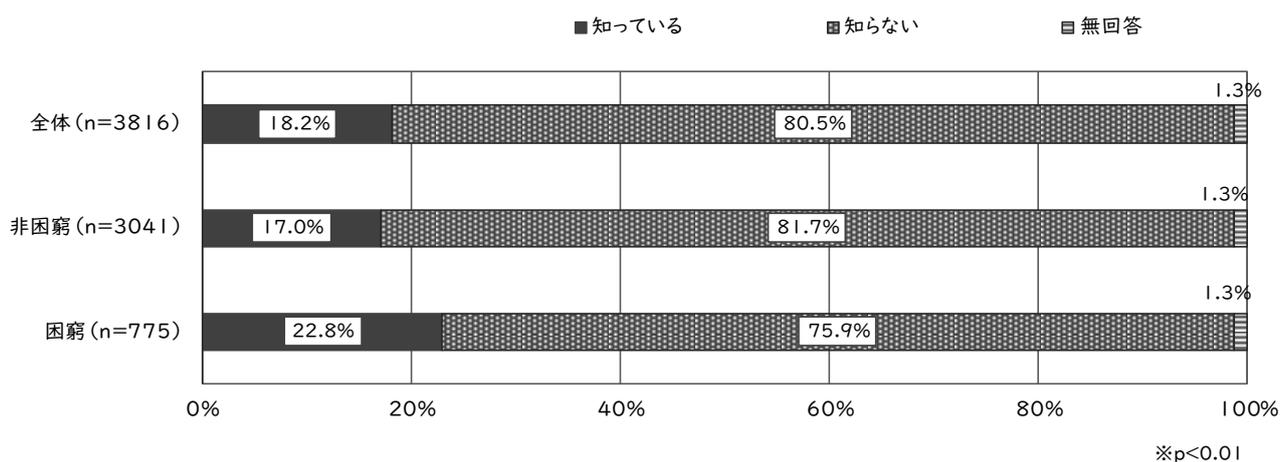
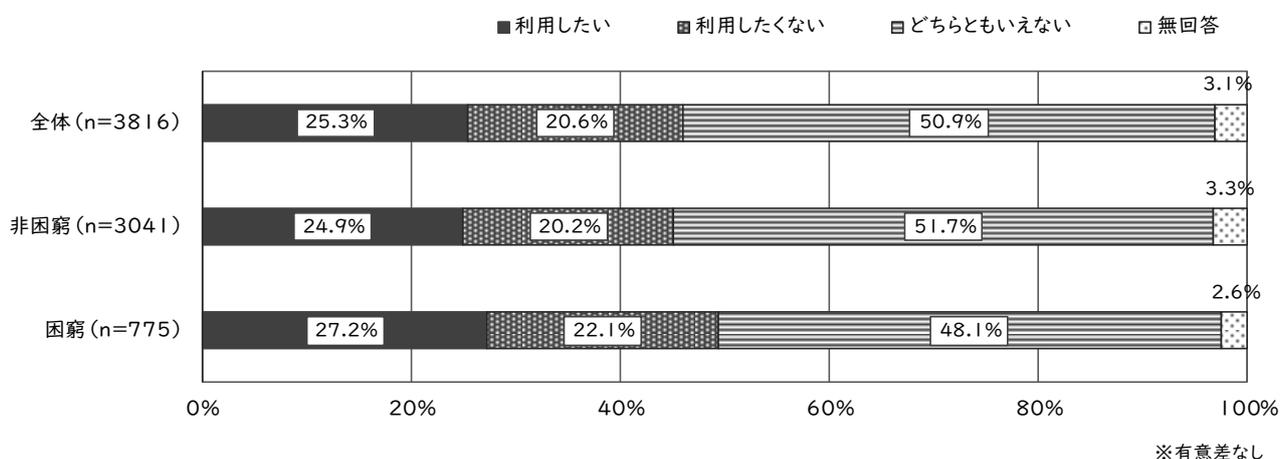


図9-2-2 【生徒】あなたは、今後、無料塾を利用したいと思いますか



【保護者】

図9-2-3 【保護者】あなたは、無料塾(子育て総合支援モデル事業「大学等進学促進事業」)について
知っていますか

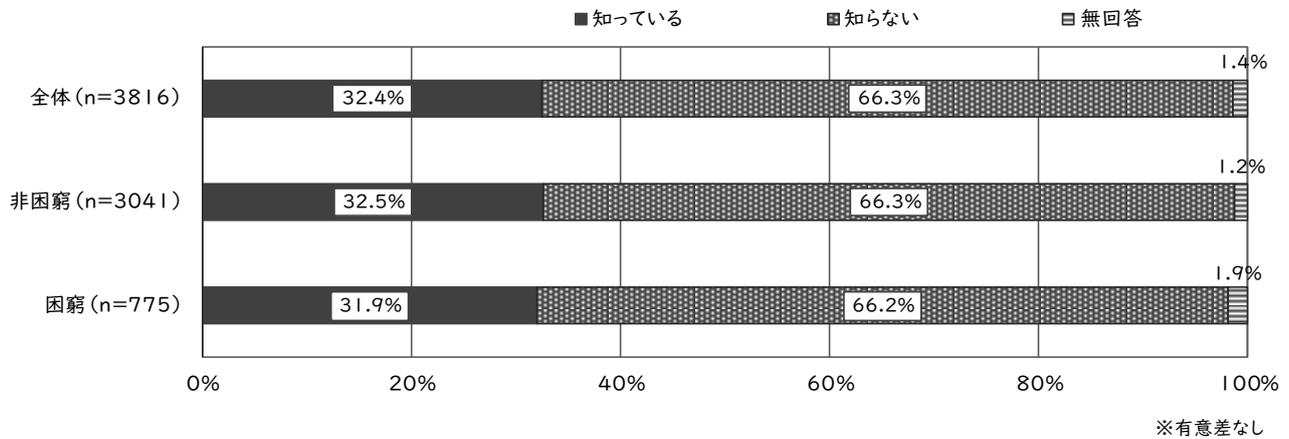
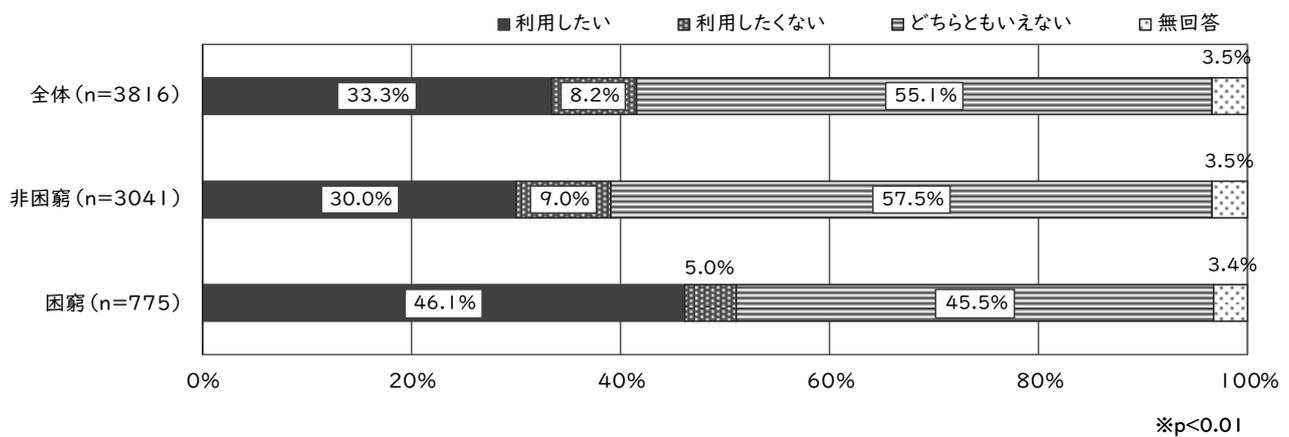


図9-2-4 【保護者】あなたは、今後、無料塾を利用したいと思いますか



第3節 公的制度の利用状況①

図9-3-1では、所得の厳しい家庭を支えるためにあるいくつかの制度の利用について、保護者に聞きました。就学援助は小学校からの通算での利用度ですが、全体で30.0%となっています。質問の方法が異なりますが2016年沖縄県調査(16.9%)と比べて大幅に上がっています。この間に認知度が上がったことも一つの要因でしょう。また、非困窮層でも約2割が利用していることから、世帯の所得状況に変化があることもうかがえます。生活保護の利用率が全体で2.3%となっていますが、これは県全体の保護率2.45%(沖縄県(平成31年3月)「子どもの貧困対策計画【改訂計画】」)とも近いものでした。困窮層の児童扶養手当の利用率(57.5%)の高さは、ひとり親家庭の多さを物語ります。

図9-3-2は就学援助等の制度の認知度の高さ(知らなかったが全体で4.9%)を証明しています。図9-3-3では、困窮層の中で児童扶養手当を利用したいが36.3%あり、ひとり親家庭の不安が感じられました。

図9-3-4の東京都との比較で目につくのは、沖縄県の制度利用度は東京都の約2倍であるという点です。図9-3-5と図9-3-6が示すように、沖縄県は東京都と比べ、制度の認知度がやや高く、制度の利用意向はかなり高いという特徴が出ていました。

図9-3-1【保護者】「利用したことがある」割合

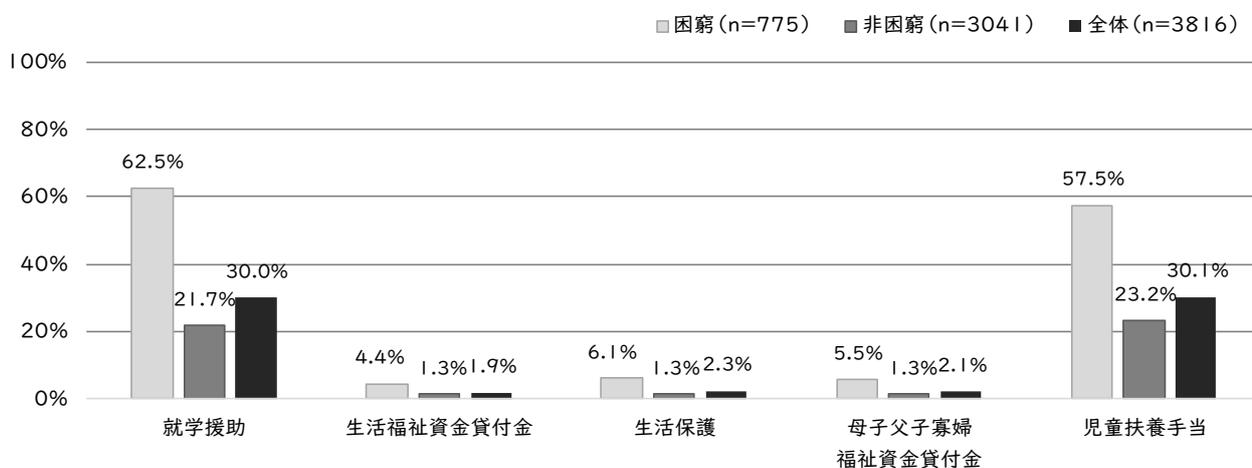


図9-3-2【保護者】「制度等についてまったく知らなかった」割合

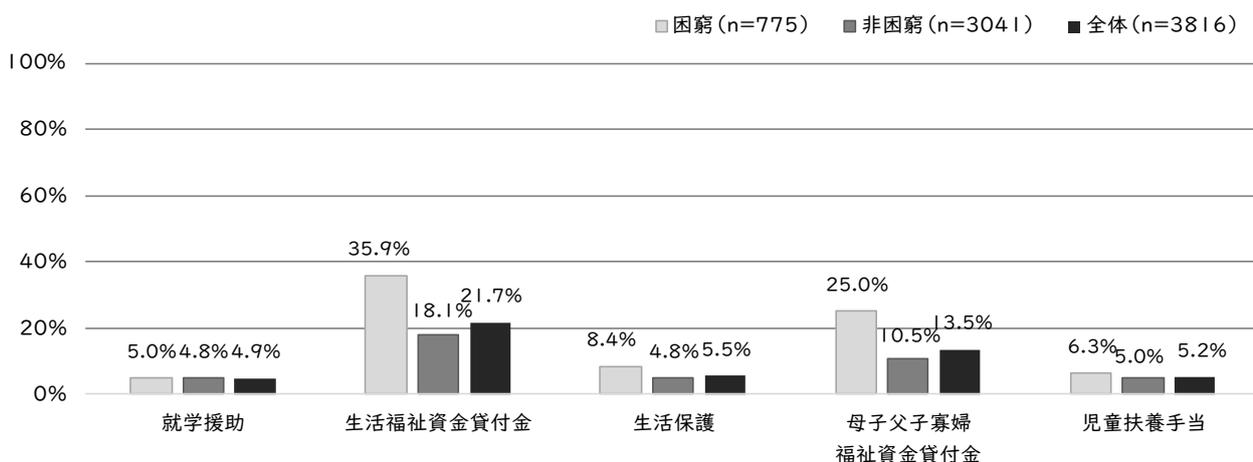
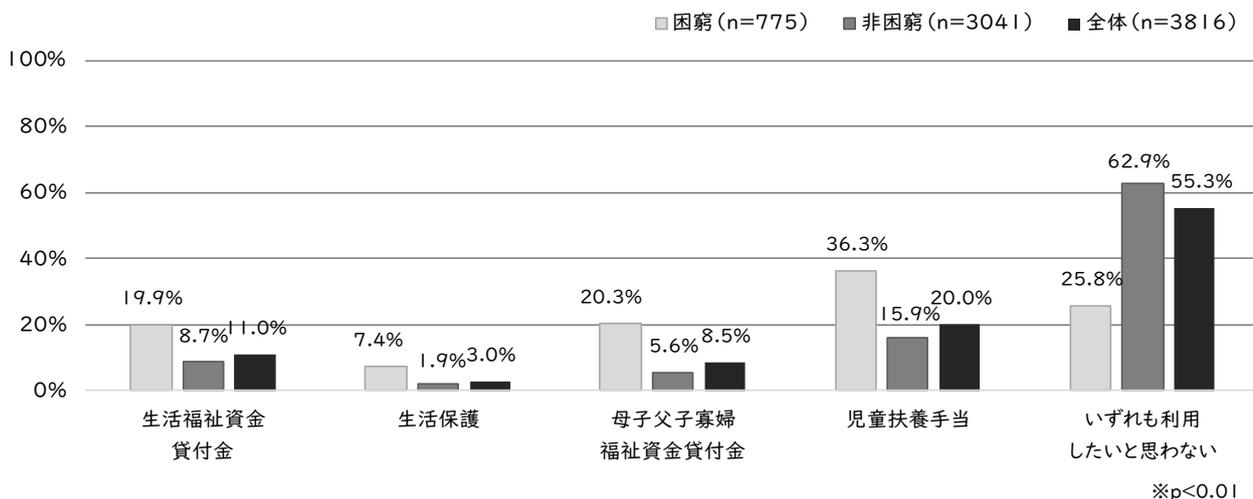


図9-3-3【保護者】現在、これらの支援制度を利用したいと思いますか(複数回答)



【2016年東京都調査との比較】

図9-3-4【保護者】「利用したことがある」割合

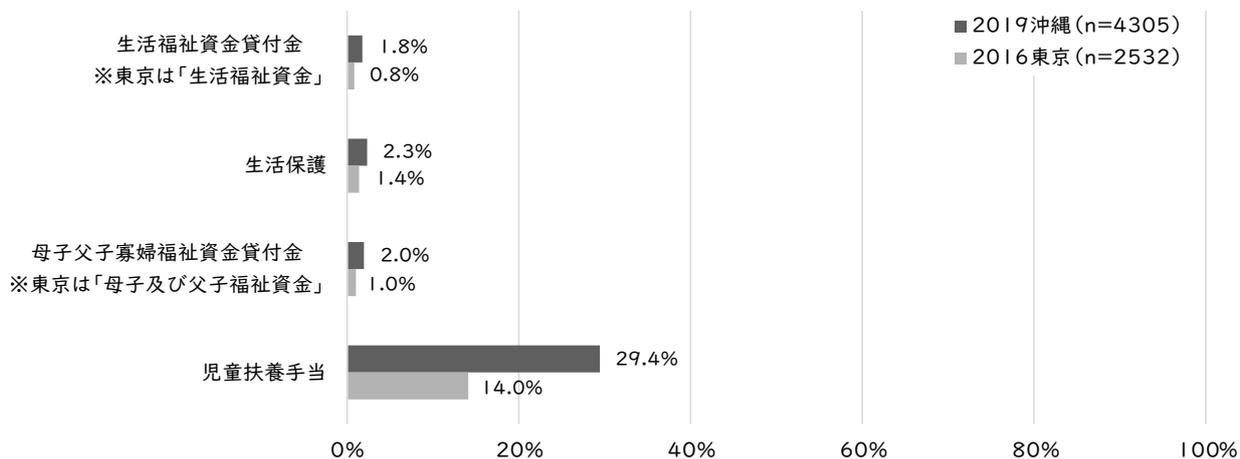


図9-3-5【保護者】「制度等についてまったく知らなかった」割合

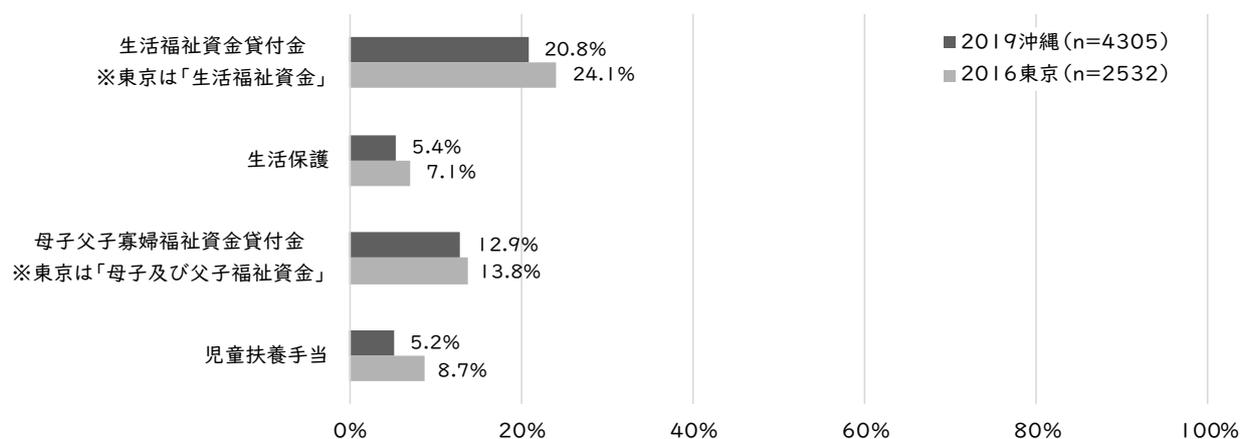
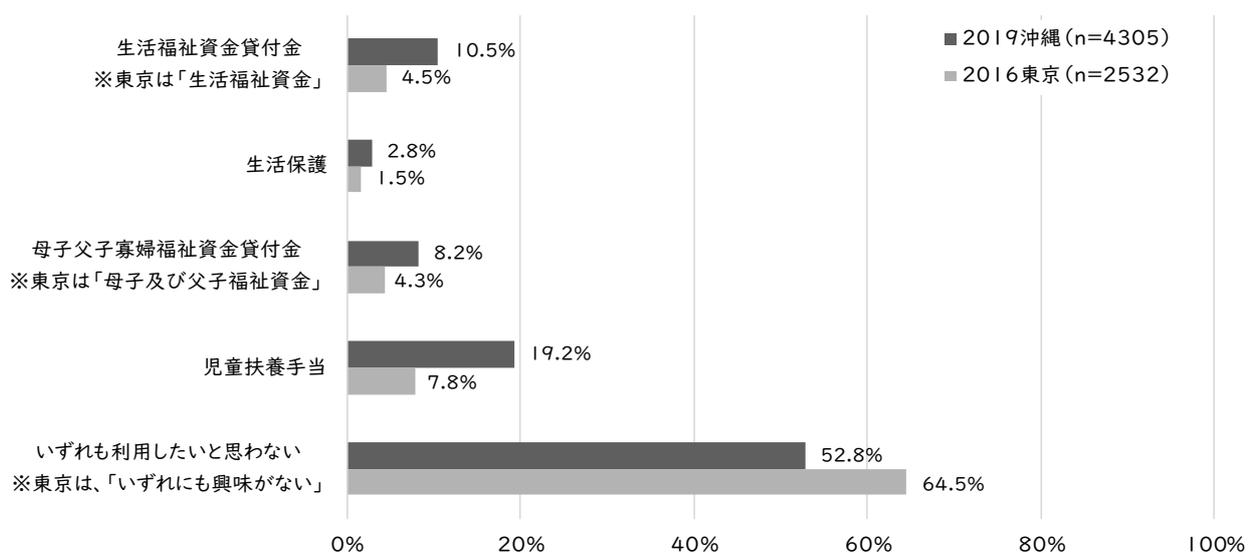


図9-3-6【保護者】現在、これらの支援制度を利用したいと思いますか(複数回答)



注) 東京調査の質問は、「現在、これらの支援制度を利用することに興味がありますか」

第4節 公的制度の利用状況②

困ったときの相談や手続きなどでどのような公的な窓口を利用したかを保護者に聞きました。

図9-4-1は市町村役場や福祉事務所での相談ですが、困窮層の相談機会（27.5%）が多いのは当然のこととして、「相談しなかったが抵抗感があった」8.8%、「相談する窓口や方法がわからなかった」13.8%は、相談に繋がりにくい現状を捉えている数字です。

図9-4-2から図9-4-7が示すように「児童相談所」「学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど」「保健所（保健センター）」「ハローワーク」「上記以外の公的機関」はもちろん、身近な相談相手であるべき「民生委員・児童委員」でも「繋がりにくさ」があることがみ取れます。

図9-4-8以降は、これらの窓口それぞれについて、東京都と比較したものです。失業率の高い沖縄県がハローワークへ相談する機会が多いことを除けば、東京都に比べて沖縄県は、相談経験が少なく、相談に対する抵抗感が高いあるいは窓口や方法がわからないなど相談窓口に繋がりにくい傾向がうかがえます。

図9-4-1 【保護者】市町村役場や福祉事務所の窓口

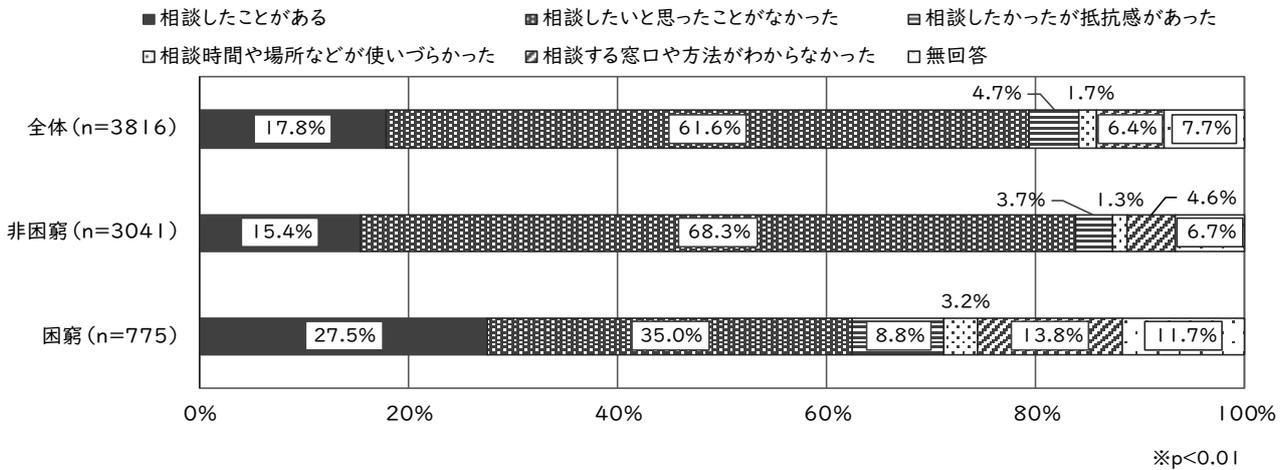


図9-4-2 【保護者】児童相談所

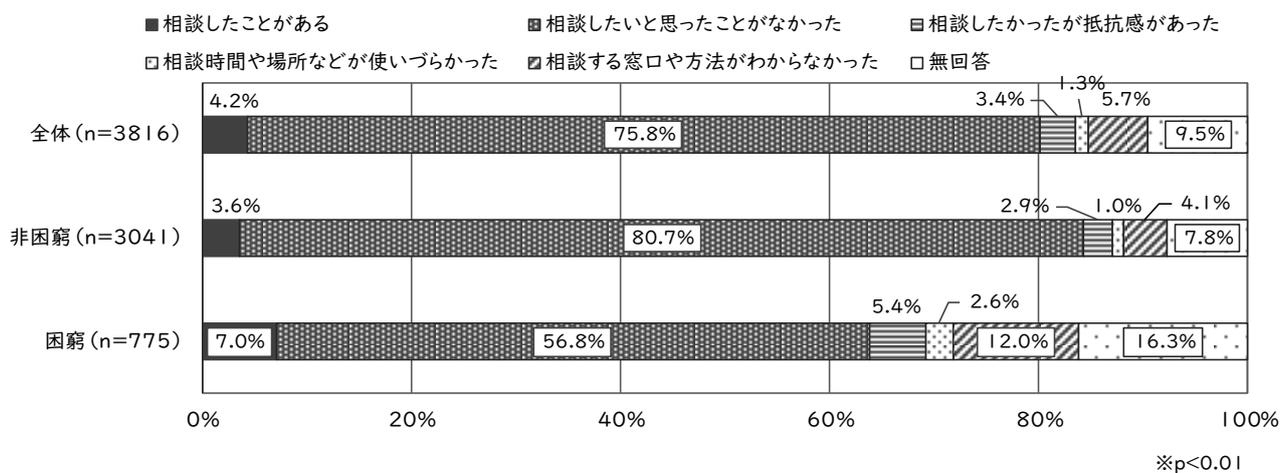


図9-4-3 【保護者】学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど

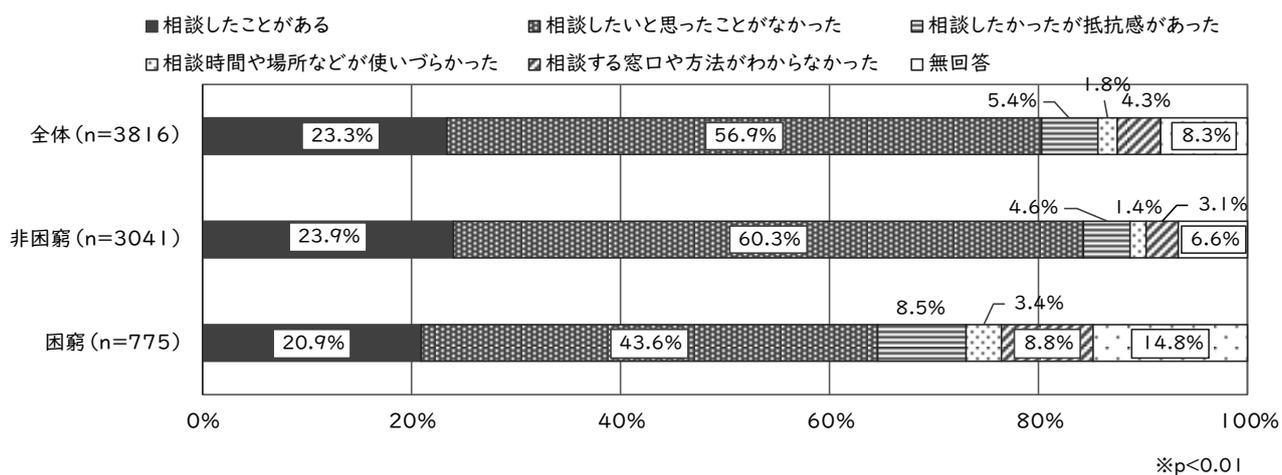


図9-4-4 【保護者】民生委員・児童委員

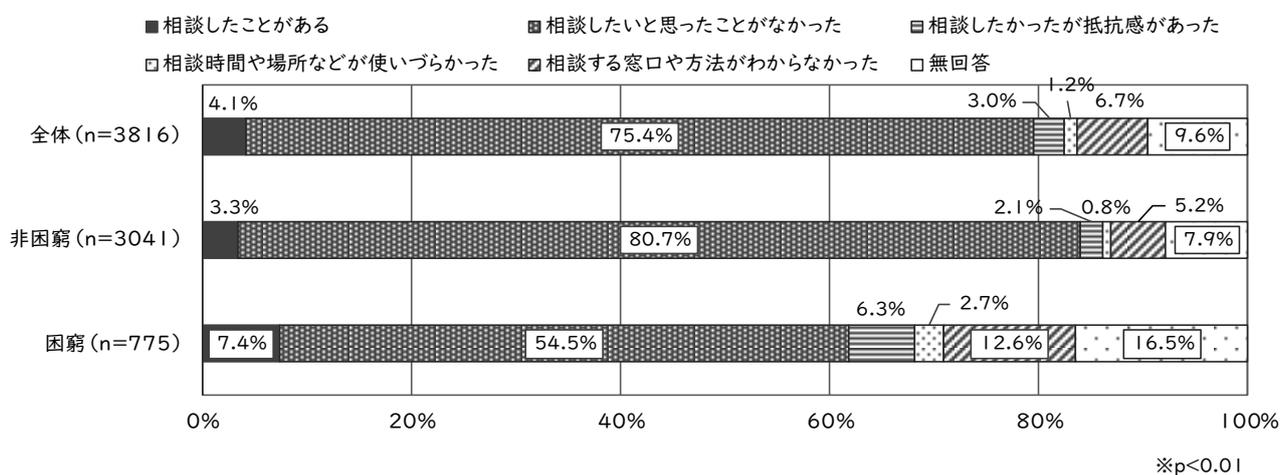


図9-4-5 【保護者】保健所(保健センター)

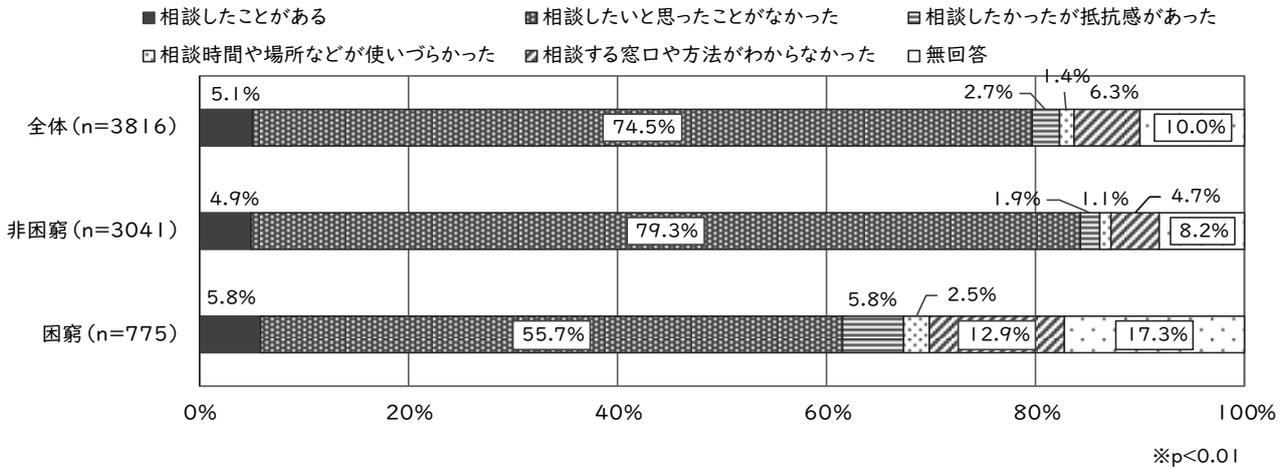


図9-4-6 【保護者】ハローワーク

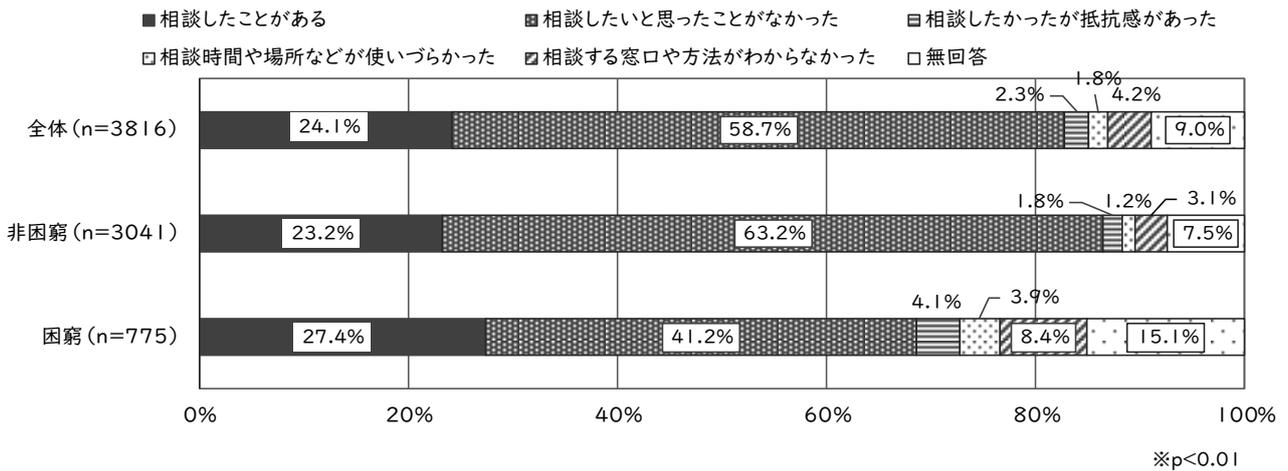
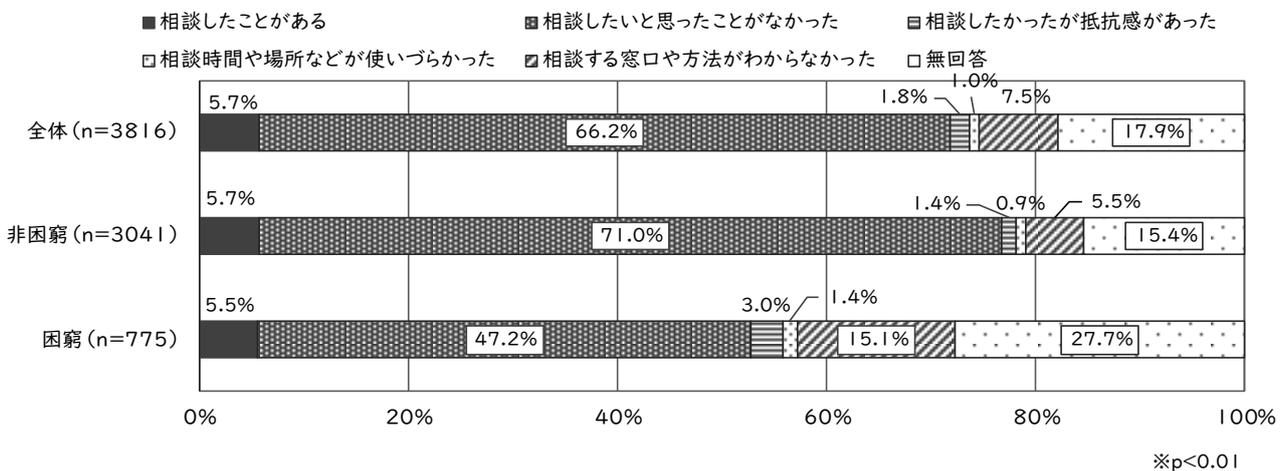


図9-4-7 【保護者】上記以外の公的機関



【2016年東京都調査との比較】

図9-4-8 【保護者】市町村役場や福祉事務所の窓口

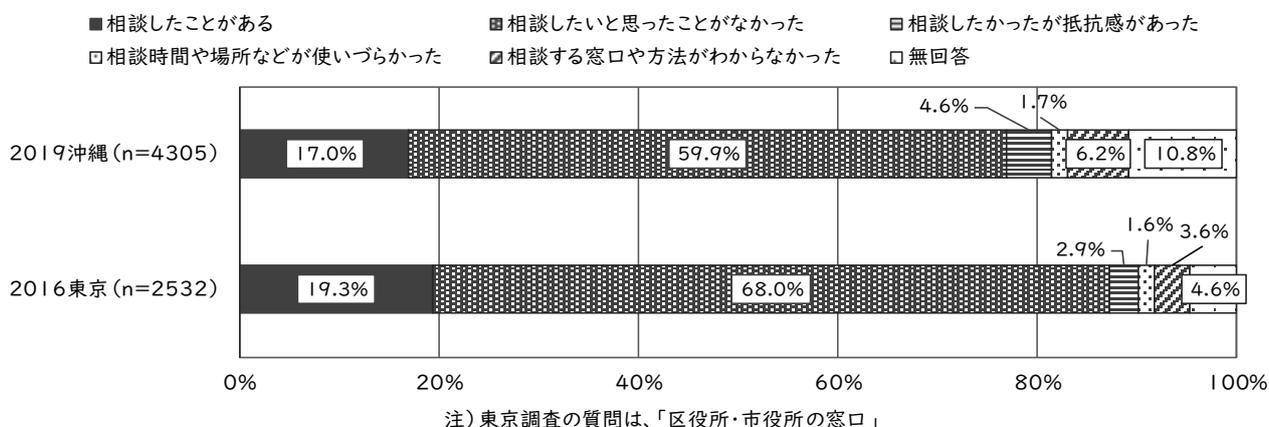


図9-4-9 【保護者】学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど

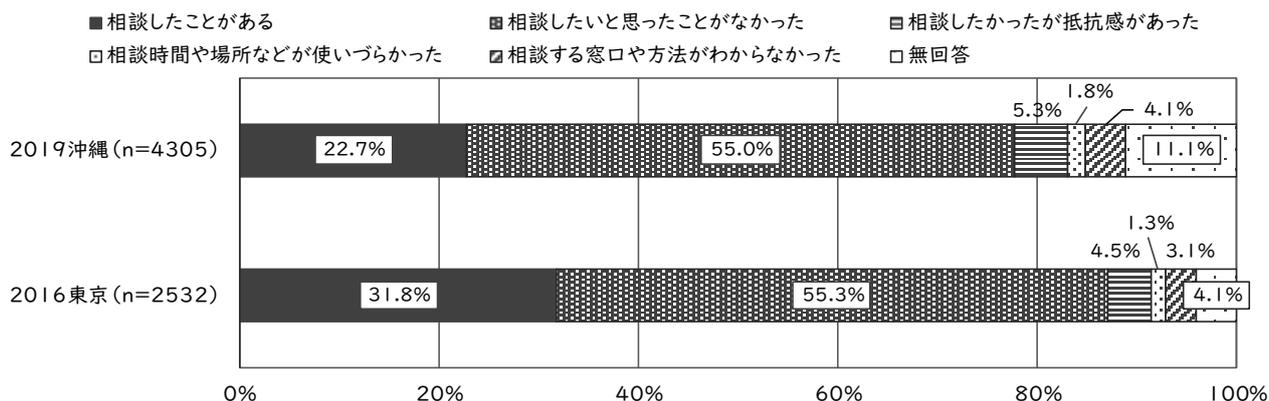


図9-4-10 【保護者】民生委員・児童委員

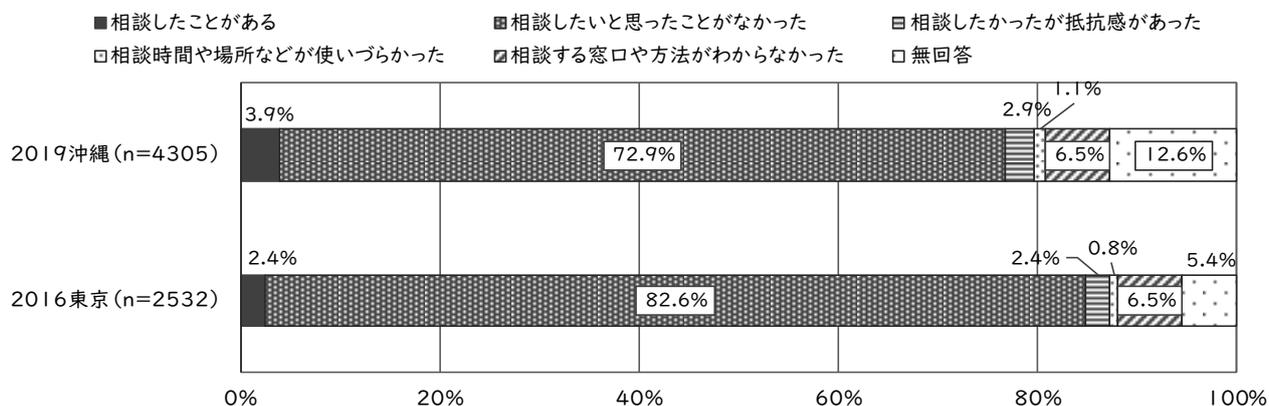


図9-4-11 【保護者】保健所(保健センター)

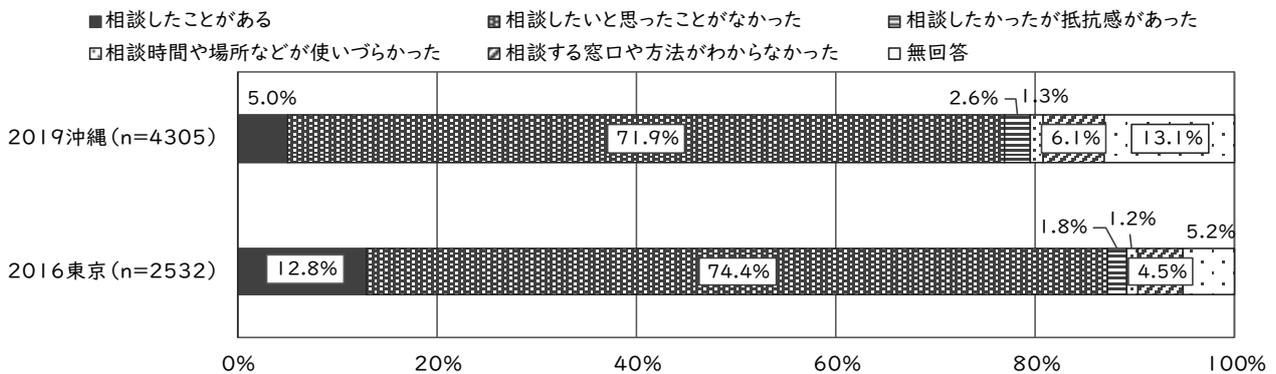


図9-4-12 【保護者】ハローワーク

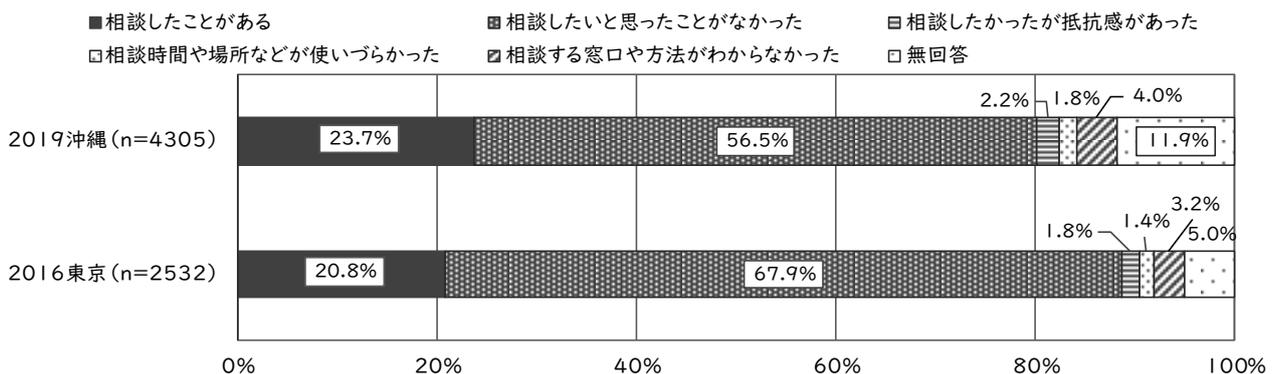
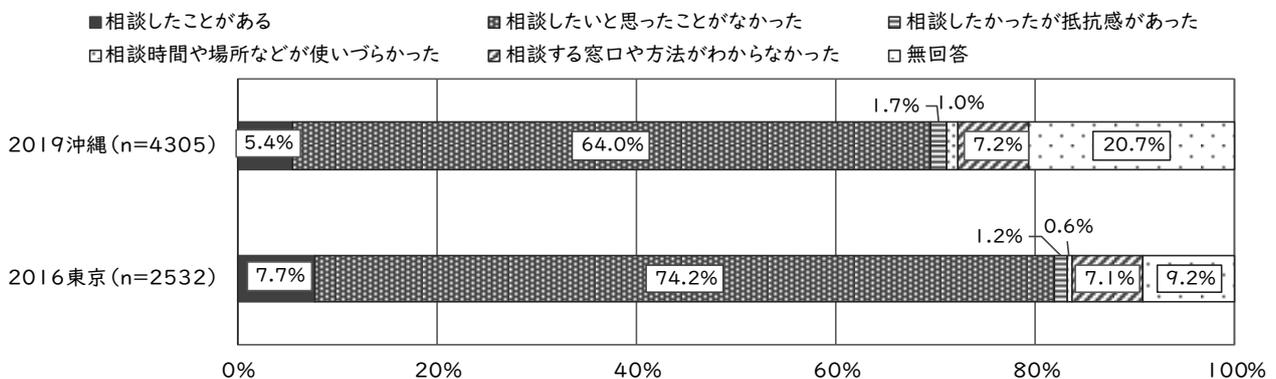


図9-4-13 【保護者】上記以外の公的機関



考 察

制度の利用には3つのポイントがありました。最初のポイントは就学に関するものです。困窮層の35.5%が給付型あるいは貸与型の奨学金を受けた/受けているとしています。文部科学省（以下、文科省）や沖縄県国際交流・人材育成財団など各々の奨学金の受給要件が異なるので、利用しやすさがどの程度受給率に影響しているのかは判断が難しいところです。ただし、沖縄県の給付型と貸与型の奨学金利用率の合計（16.6%）を東京都（8%）と比べると約2倍の差に留まっていることがわかります。この背景には、①高等学校等就学支援金制度に多くの世帯が該当していること、②貸与型奨学金が後々の返済を伴っているため利用に抵抗感があること、が考えられます。また、自由記述をみると授業料以外の校納金や部活にかかる費用負担の重さを訴える声があり、こうした点にも配慮をしなければ困窮層にとって安定した高校生活に繋がらないこともあるでしょう。

2020年4月から始まる文科省の「高等教育の修学支援新制度」（いわゆる「大学無償化」）の動きは、高校生や保護者にどのような影響を及ぼすか注目されるところです。困窮層であっても高校を経て大学等の進学を目指す高校生が増えることを期待したいので、この申請に結びつかない世帯がその後の進学をためらってしまっていないか注視する必要があります。

次のポイントは無料塾（子育て総合支援モデル事業）についてです。高校生の制度の認知度が、非困窮層17.0%、困窮層22.8%と困窮層が高く、制度の利用意向を尋ねると、非困窮層24.9%、困窮層27.2%と、その差はあまり変わりません。無料塾に関する自由記述をみると、高校生の間でも評判となり、困窮、非困窮問わず関心が高まっていることがうかがえます。保護者では、認知度が非困窮層32.5%、困窮層31.9%とほとんど変わらず、利用意向は非困窮層30.0%と認知度と同じですが、困窮層では46.1%と認知度をはるかに上回る結果となり、本調査にて初めて知った家庭も多かったとも推測されます。周知の方法や機会の提供に課題を感じさせる結果でした。

最後のポイントはその他の制度の利用についてです。第3節に記しましたが、沖縄県は東京都と比べ、制度の認知度が高く、制度の利用意向はさらに高いという特徴があります。一方で第4節に記したように市町村役場や福祉事務所での相談において困窮層で、「相談したかったが抵抗感があった」が8.8%、「相談する窓口や方法がわからなかった」が13.8%と相談に繋がりにくい現状が明らかになりました。この傾向が、児童相談所でも学校の先生やスクールカウンセラーにしても、身近な相談相手であるべき民生委員・児童委員でも同様にみられました。つまり、東京都に比べて、上記の相談に繋がりにくい傾向がある背景には、困窮層が公的な場に相談するためには、親族からの反対、過去のトラウマや怖さ、手続きの煩わしさやハードルの高さといった壁の存在が考えられます。こうした壁を乗り越えて制度利用につなげる工夫が課題であることを示しているといえるでしょう。

ま と め

高校生調査を終えて

今回は、平成28年度(2016年度)に続いて2回目の調査でした。3年前との比較で、平成28年度から始まった「沖縄県子どもの貧困対策計画」の効果がどの程度あったのかが問われる調査でもあります。また、沖縄県は子どもの貧困対策に先駆的に取り組んでいることから本調査の結果は全国からも注目をされているといつてよいでしょう。

施策の浸透という点では、就学援助制度を受けた経験があると答えた世帯が困窮層で6割を超えていることが明らかとなりました。「ひとり親家庭高校生等通学サポート実証事業(バス)」を困窮層のひとり親世帯の3割以上が利用し、2016年沖縄県調査との比較でも、バスの定期券利用を大きく伸ばしていました。制度の立ち上げから周知に至るまで関係者の努力が実を結びつつあるといえるでしょう。無料塾については、高校生の認知度が全体で2割を下回り、周知の方法や機会の提供に課題を感じさせる結果でした。

そのような中で私たちがまず注目したのは、学校生活に関して高校生が経済的な不安なく過ごしているのかという点です。沖縄県の高校生は東京都に比べ、「学校をやめたくなるほど悩んだ人」が多く、特に沖縄県の困窮層の高校生が学校を「楽しくない」と答えた割合が高くなっていました。この背景を明らかにすることに意義がありました。

家庭・学校・アルバイトすべてに追われる姿

経済的に厳しい高校生は、楽しいはずの部活動への参加率が低く、その理由として「アルバイトをしている」や「部費や部活動に費用がかかる」としています。また、経済的に厳しい高校生は、授業がわからないと、ややつまづきを感じている割合が高いことも把握され、特に小学校から中学校へ進学する時期が経済的に厳しいときにつまづきが起りやすいことも把握できました。家庭においても家族の世話に時間を取られる姿も明らかになり、家庭・学校・アルバイト先すべての環境を整えないと安心した生活が難しいという現実がみえてきました。

狭隘な住宅や不足する学習環境

困窮層の持ち家率は24.5%と低く、家賃の負担が家計に占める割合が高くなっています。狭隘な住宅の場合は、学習環境が整いにくいです。また、インターネットにつながるパソコンを持っていない高校生の割合は東京都の2倍でした。これは全体の課題ではありますが、公営住宅による充足が難しい場合は、家賃の経済的な負担の軽減で住環境を整えることが有効でしょう。

余裕のない親と就労環境

1年に1回くらい家族旅行ができていない世帯は、東京都で5人に1人、沖縄県では4人に3人、また、学習塾に通わせられない世帯は、それぞれ約3割、約7割、毎月お小遣いを渡せない世帯は、それぞれ8.6%、36.4%と、東京都に比べて家計に余裕のない姿が明らかになっています。困窮層の母親・父親ともに非困窮層の半分の割合しか正規職員・従業員として働けていないことが、長時間労働や不安定雇用につながる状況を生み出しているともいえ、雇用の質の改善等は依然として大きな課題です。

家庭生活での不安

経済的理由で医療機関を受診できないと回答した高校生が、非困窮層で東京都の約2倍、困窮層では約5倍あり、経済状況を越えて医療費を助成するなど施策の重要性が明らかになっています。また、保護者に対するSF-8健康調査尺度（詳細は、第6章第1節を参照）は全国に比べてすべての項目で低く、中等度以上の抑うつ・不安感を示した困窮層の保護者は、非困窮層の約2倍でした。健康面の改善に係る取り組みや社会的孤立や孤独に陥らせないための取り組みの必要性が感じられました。

学校生活での経済的不安

部活にかかる経費や遠征費、授業料以外の校納金などに対する負担感が明らかになりました。自由記述には「保護者の経済状態にかかわらず、高校まではすべての子どもが等しく学べる環境をつくれたらと常日頃感じています。小学校から毎月の校納金や部活動費、部着やユニフォーム代等多くの支出がありますが、本当に必要な経費であるのか、過度なものはないか（学校・クラス単位でのクラスTシャツやオリジナルのがんばりノート等）、そういったものを見直して、すべての子どもが引け目や負い目を感じることなく勉強やスポーツに勤む環境・仕組みづくりをしてほしい」という声がありました。また、高校生からも部活の時間が長いと、勉強やプライベートとの両立に悩んでいるなど、部活のあり方を問う声もあり、経済的な負担の軽減と同時に、より楽しく活動できるよう、部活時間等についても工夫する必要があると感じられました。

また、通学交通費について、困窮層の45.8%が高校の選択の際に重視したと回答しており、自由記述でも「沖縄県は、以前住んでいた地域と比べおどろくほどバスの運賃や定期代が高く、しかも不便です。子どもの頃から自家用車だけに頼りすぎて、大人も子どももそろって不健康な生活をしていると思います」という声がありました。通学や通勤の環境を県民レベルで考えるべきでしょう。

さらに、経済格差が食格差を生み、健康格差につながっていることが今回初めて推察され、高校生にも利用しやすい子ども食堂などの必要性が感じられました。

アルバイトでの不安

アルバイトをする高校生は、放課後や休日に複数日で相対的に長時間の勤務しており、学習時間の確保や放課後の部活動等に大きな支障となっていました。自由記述には「バイト先が本当にブラックすぎてヤバイ、休みがない、10時30分くらいまで働いている、人間関係がヤバイです。お願いです。たすけて、バイトやめたい」という悲痛な声がありました。高校生がアルバイト先で学業を優先するという主張がしにくい立場になっていないか、労使双方への労働法令の周知やアルバイト先の雇用先に高校生の就労についてさらなる配慮を求めていくことが必要ではないでしょうか。

今後に向けて

これまで、家庭・学校・アルバイト先での調査からみえた課題を総括してきましたが、次に支援するにあたってポイントとなる点をまとめておきます。

第1に、滞納経験や食料・衣料を買えない経験における沖縄県の非困窮層だけの数値でも、東京都全体や子どものいる世帯全体の全国平均よりも高かったということです。私たち調査チームは、沖縄県では困窮層でなくても、その周辺の層が相対的に多く存在しており、非困窮層であっても、経済的にはかなり厳しい世帯が多いと捉えています。これを証明するように自由記述には「収入がある程度あっても、きょうだいが多いとゆとりがあるとは思いません。非課税世帯対象の制度が多く、利用が出来ない事は平等だとは思えません。余計に進学の幅が狭くなっている様に感じます。きょうだいの有無なども考慮して頂けると助かります」

まとめ

という保護者の声がありました。これらの世帯にも手が届く仕組みに変えていくことが今後の課題ではないでしょうか。

第2に、困窮層の保護者は、両親の離婚などさまざまな逆境経験に苦しんできたこと、ひとり親世帯にその割合が高いことが改めて明確になったという点があります。いわゆる世代間伝達（連鎖）をしっかりと捉え、親と子どもを一体とした寄り添い型の支援を継続的に実施する必要があります。県内では、子育て世代包括支援センターの整備が始まっていますが、その支援が妊娠期から乳幼児期までしか繋がっていません。学童期以降が親任せの状況にならないよう、乳幼児期からずっと支えになる支援体制をつくることも大きな課題となります。

第3に、困窮層の悩みが相談に繋がりにくいという点が上げられます。これだけ周知を回している高等教育の修学支援新制度（大学無償化）ですら、それを知る高校生、保護者の割合は決して高くなく、無用な不安を抱えていました。また、各種の相談窓口で「相談したかったが抵抗感があつた」「相談する窓口や方法がわからなかった」という回答が非困窮層や東京都と比べ大変目立ちます。親族からの反対、過去のトラウマや怖さ、手続きの煩わしさやハードルの高さといった壁を一緒に越える人の存在が必要なのでしょう。高校生にもスクール・ソーシャルワーカーによるアウトリーチ（窓口で待つのではなく、こちらから出向いて相談に乗ること）により、保護者に直接伝え、窓口につなげていく支援の形が必要ではないでしょうか。

おわりに

昨年6月に子どもの貧困対策法が改正され、その目的に「児童の権利条約」の精神に則る点が加えられました。そして、子供の貧困対策に関する大綱（2019年）の指標には、ひとり親世帯の貧困率、生活保護世帯の大学等進学率、具体的施策として教育の機会均等・保護者の所得の増大・職業生活の安定と向上が明記されています。今後は市町村においても子どもの貧困対策計画が策定されることとなりますが、子どもの権利保障の観点から、高校生の厳しい状況を打開していくリーダーシップを沖縄県が発揮していくことに期待して本調査のまとめに代えます。

2020年3月

調査チームを代表して

沖縄大学 島村 聡

【生徒票】単純集計

生 徒 票

【問1】あなたの性別を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

	n	%
男	1968	44.9
女	2267	51.7
無回答	93	2.1
回答なし	58	1.3
合計	4386	100.0

【問2】あなたの生まれた年と、現在の課程や学科を教えてください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

①生まれた年

	n	%
1998年	2	0.0
1999年	1	0.0
2000年	4	0.1
2001年	30	0.7
2002年	3305	75.4
2003年	1013	23.1
無回答	31	0.7
合計	4386	100.0

②課程

	n	%
全日制	4235	96.6
定時制	88	2.0
無回答	63	1.4
合計	4386	100.0

③学科

	n	%
普通科	2868	65.4
工業科	310	7.1
商業科	264	6.0
水産科	14	0.3
家庭科	32	0.7
情報科	114	2.6
福祉科	18	0.4
総合学科	155	3.5
その他に関する学科	560	12.8
無回答	51	1.2
合計	4386	100.0

【問3】学校は、あなたにとって楽しいですか。（あてはまる番号1つに○）

	n	%
楽しい	2831	64.5
楽しくない	310	7.1
どちらとも言えない	1217	27.7
無回答	28	0.6
合計	4386	100.0

【問4】あなたの得意な教科は、どれですか。（あてはまる番号すべてに○）（n=4386）

	n	%
国語	956	21.8
地理歴史	602	13.7
公民	245	5.6
数学	1075	24.5
理科	434	9.9
保健体育	1030	23.5
芸術（音楽・美術・工芸）	714	16.3
外国語	739	16.8
家庭	339	7.7
情報	261	6.0
総合的な学習の時間	229	5.2
専門分野の科目	271	6.2
どれもあてはまらない	595	13.6
無回答	28	0.6

【問5】あなたの成績は、学年全体でどれくらいですか。「A. 中学3年生の時」および「B. 現在」のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	中学3年生の時		現在	
	n	%	n	%
上のほう	933	21.3	481	11.0
中の上	1061	24.2	967	22.0
中くらい	1263	28.8	1642	37.4
中の下	659	15.0	785	17.9
下のほう	415	9.5	429	9.8
無回答	55	1.3	82	1.9
合計	4386	100.0	4386	100.0

【問6】あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。（あてはまる番号1つに○）

	n	%
いつもわかる	149	3.4
だいたいわかる	2444	55.7
あまりわからない	1044	23.8
わからないことが多い	558	12.7
ほとんどわからない	120	2.7
無回答	71	1.6
合計	4386	100.0

【生徒票】単純集計

【問6-1】問6で学校の授業が「4. わからないことが多い」「5. ほとんどわからない」を選んだ方にお聞きします。いつごろから、授業がわからなくなりましたか。(あてはまる番号1つに○)

	n	%
小学1・2年生の頃	22	3.2
小学3・4年生の頃	43	6.3
小学5・6年生の頃	39	5.8
中学1年生の頃	76	11.2
中学2年生の頃	78	11.5
中学3年生の頃	27	4.0
高校1年生の頃	222	32.7
高校2年生になってから	101	14.9
わからない	68	10.0
無回答	2	0.3
合計	678	100.0

【問7】あなたは、平日（月～金曜日）の学校の授業以外にどれくらいの時間、勉強をしますか。

1日あたりの勉強時間を教えてください。※塾などの時間も含まれます。(あてはまる番号1つに○)

	n	%
まったくしない	2051	46.8
30分より少ない	861	19.6
30分以上、1時間より少ない	709	16.2
1時間以上、2時間より少ない	457	10.4
2時間以上、3時間より少ない	206	4.7
3時間以上	50	1.1
無回答	52	1.2
合計	4386	100.0

【問8】あなたは現在、部活動に参加していますか。(あてはまる番号1つに○)

	n	%
参加している	2652	60.5
参加していない	1690	38.5
無回答	44	1.0
合計	4386	100.0

【問8-1】問8で「2. 参加していない」と答えた方にお聞きします。

その理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○) (n=1690)

	n	%
参加したい部活動がないから	612	36.2
部費や部活動に費用がかかるから	136	8.0
勉強が忙しいから	187	11.1
アルバイトをしているから	578	34.2
塾・習い事が忙しいから	117	6.9
家の事情(家族の世話、家事など)があるから	121	7.2
一緒に参加する友だちがいないから	101	6.0
その他	412	24.4
無回答	12	0.7

【問9】あなたは、高校に入ってから今までにアルバイトや仕事をしたことがありますか。

(あてはまる番号1つに○)

	n	%
現在している	1065	24.3
過去にしたことがある	481	11.0
まったくしたことがない	2754	62.8
無回答	86	2.0
合計	4386	100.0

【問9-1】問9で「1.現在している」「2.過去にしたことがある」を選んだ方にお聞きします。

①アルバイトや仕事をするのはどのような時ですか。(あてはまる番号1つに○)

	n	%
年間を通していつでも	1023	66.2
長期休暇期間など、時間に余裕があるとき	349	22.6
単発の仕事で、タイミングがあったとき	158	10.2
無回答	16	1.0
合計	1546	100.0

②学校がある日(月～金)の平均的な日数と1日あたりの勤務時間について教えてください。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

【日数】

	n	%
1日	103	6.7
2日	309	20.0
3日	429	27.7
4日	225	14.6
5日	75	4.9
学校がある日は働いていない	363	23.5
無回答	42	2.7
合計	1546	100.0

【勤務時間】

	n	%
3時間以下	316	20.4
4時間	651	42.1
5時間	137	8.9
6時間	22	1.4
7時間以上	16	1.0
学校がある日は働いていない	328	21.2
無回答	76	4.9
合計	1546	100.0

【生徒票】単純集計

- ③学校が休みの日（土・日）の平均的な日数と1日あたりの勤務時間について教えてください。
（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

【日数】

	n	%
1日	577	37.3
2日	742	48.0
学校が休みの日は働いていない	118	7.6
無回答	109	7.1
合計	1546	100.0

【勤務時間】

	n	%
3時間以下	76	4.9
4時間	307	19.9
5時間	310	20.1
6時間	277	17.9
7時間以上	396	25.6
学校が休みの日は働いていない	100	6.5
無回答	80	5.2
合計	1546	100.0

- ④1か月でどのくらいの収入がありますか。平均的な額を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

	n	%
2万円未満	211	13.6
2万円～4万円未満	439	28.4
4万円～6万円未満	448	29.0
6万円～8万円未満	283	18.3
8万円～10万円未満	88	5.7
10万円以上	19	1.2
無回答	58	3.8
合計	1546	100.0

- ⑤アルバイトや仕事で稼いだお金は何に使っていますか。（あてはまる番号すべてに○）（n=1546）

	n	%
家計の足し	333	21.5
通学のための交通費	360	23.3
修学旅行などの学校行事費	212	13.7
学校の昼食代	471	30.5
学用品（文具など）	469	30.3
現在の学費（授業料や校納金）	50	3.2
部活動の費用	117	7.6
塾の費用	14	0.9
進学のための費用	380	24.6
友だちと遊ぶ費用	1079	69.8
携帯・スマートフォン代	487	31.5
その他	480	31.0
無回答	156	10.1

⑥アルバイトや仕事をしていて、労働条件などに関して次のようなことはありましたか。

(あてはまる番号すべてに○) (n=1546)

	n	%
採用時に約束した仕事以外の仕事をさせられた	62	4.0
一方的に急なシフト変更を命令された	121	7.8
採用時に約束した賃金額(時給単価など)より実際に支払われた額が低かった	38	2.5
働いた分の賃金が全額支払われなかった	32	2.1
賃金が所定支払日に支払われなかった	25	1.6
何らか(物損、遅刻、欠勤等)のペナルティとして弁償や罰金を求められた	14	0.9
深夜時間帯(22時以降)に働いたことがあった	82	5.3
働く前に自分の賃金や勤務時間などの労働条件について、まったく説明はなかった	37	2.4
暴力や嫌がらせを受けた	14	0.9
退職を申し出ても(勤務先の都合を理由に)やめさせてもらえなかった	36	2.3
あてはまることはなかった	1125	72.8
無回答	125	8.1

【問10】平日のSNS(LINE、インスタグラム、ツイッターなど)とオンラインゲームの1日あたりの使用時間について、それぞれ教えてください。(あてはまる番号1つに○)

	SNS		オンラインゲーム	
	n	%	n	%
まったくしない	278	6.3	1413	32.2
1時間未満	989	22.5	942	21.5
1～2時間未満	1082	24.7	690	15.7
2～3時間未満	916	20.9	411	9.4
3～4時間未満	534	12.2	244	5.6
4～5時間未満	215	4.9	79	1.8
5～6時間未満	124	2.8	59	1.3
6時間以上	184	4.2	95	2.2
無回答	64	1.5	453	10.3
合計	4386	100.0	4386	100.0

【問11】あなたが一番仲の良い友だちは、どのような友だちですか。(あてはまる番号1つに○)

	n	%
今通っている学校の友だち	2258	51.5
小・中学校で一緒だった友だち	1369	31.2
近所に住んでいる友だち	60	1.4
スポーツ・チームや部活動(クラブ)の友だち	409	9.3
塾・予備校の友だち	7	0.2
習い事の友だち	15	0.3
アルバイトなどの職場の友だち	44	1.0
その他の友だち	71	1.6
とくに仲の良い友だちはいない	95	2.2
無回答	58	1.3
合計	4386	100.0

【生徒票】単純集計

【問 12】あなたは、平日の自由時間（学校の放課後）は、だれと過ごしますか。一緒に過ごすことが一番多い人に○をつけてください。（あてはまる番号1つに○）

	n	%
家族（祖父母、親せきなども含みます）	986	22.5
家族以外の大人（近所の大人、塾・予備校や習い事の先生、スポーツクラブのコーチなど）	77	1.8
学校の友だち	2313	52.7
学校以外の友だち（地域のスポーツクラブ、近所の友だち、小・中学校で一緒だった友だちなど）	209	4.8
アルバイトなどの職場の人	197	4.5
一人ている	530	12.1
無回答	74	1.7
合計	4386	100.0

【問 13】あなたは、平日の自由時間（学校の放課後）は、どこで過ごしますか。1週間のうち、そこで過ごすおおよその日数に○をつけてください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）
自由時間がない場合は、すべて「4 そこではまったく過ごさない」に○をつけてください。

		毎日	週に 3～4日	週に 1～2日	そこではまったく 過ごさない	無回答	合計
自分の家	n	1899	461	784	521	721	4386
	%	43.3	10.5	17.9	11.9	16.4	100.0
友だちの家	n	24	46	262	3025	1029	4386
	%	0.5	1.0	6.0	69.0	23.5	100.0
塾・予備校	n	100	159	169	2939	1019	4386
	%	2.3	3.6	3.9	67.0	23.2	100.0
学校	n	1045	415	778	1280	868	4386
	%	23.8	9.5	17.7	29.2	19.8	100.0
スポーツ活動の場 （野球場、サッカー場など）	n	964	346	183	2140	753	4386
	%	22.0	7.9	4.2	48.8	17.2	100.0
文化活動の場 （習い事、音楽など）	n	96	97	299	2861	1033	4386
	%	2.2	2.2	6.8	65.2	23.6	100.0
アルバイトなどの職場	n	42	473	322	2543	1006	4386
	%	1.0	10.8	7.3	58.0	22.9	100.0
公園	n	21	43	253	3017	1052	4386
	%	0.5	1.0	5.8	68.8	24.0	100.0
図書館	n	20	35	220	3062	1049	4386
	%	0.5	0.8	5.0	69.8	23.9	100.0
飲食店、商店街や ショッピングモール	n	31	152	1070	2118	1015	4386
	%	0.7	3.5	24.4	48.3	23.1	100.0
その他	n	26	20	57	2469	1814	4386
	%	0.6	0.5	1.3	56.3	41.4	100.0

【問 14】あなたは、平均して、平日（学校に行く日）は何時間の睡眠をとっていますか。

（あてはまる番号1つに○）

	n	%
8時間以上	245	5.6
7時間	1493	34.0
6時間	1870	42.6
5時間	591	13.5
4時間	101	2.3
3時間	28	0.6
2時間以下	6	0.1
無回答	52	1.2
合計	4386	100.0

【問 15】あなたの家の暮らしは、経済的に（お金に関して）は、次のどれにあたると思いますか。

（あてはまる番号1つに○）

	n	%
大変苦しい	144	3.3
やや苦しい	894	20.4
ふつう	2251	51.3
ややゆとりがある	490	11.2
大変ゆとりがある	149	3.4
わからない	387	8.8
無回答	71	1.6
合計	4386	100.0

【問 16】あなたは、現時点で、高校卒業後の進学や就職などの具体的な希望がありますか。

（あてはまる番号1つに○）

	n	%
進学	3124	71.2
就職	437	10.0
家業を継ぐ	3	0.1
自由業・起業など	7	0.2
まだ決めていない	605	13.8
無回答	210	4.8
合計	4386	100.0

【生徒票】単純集計

【問 16-1】問 16で「1. 進学」と答えた方にお聞きします。

第一希望の進学先を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

	n	%
県内大学	1177	37.7
県外大学	909	29.1
県内短大	88	2.8
県外短大	17	0.5
県内専門学校	593	19.0
県外専門学校	238	7.6
その他	83	2.7
無回答	19	0.6
合計	3124	100.0

【問 16-2】問 16で「2. 就職」と答えた方にお聞きします。あなたが就職を希望する理由として、以下の項目はどれくらいあてはまりますか。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

		とてもあてはまる	あてはまる	あてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	合計
仕事をするのが自分に向いていると思う	n	103	209	69	21	35	437
	%	23.6	47.8	15.8	4.8	8.0	100.0
早くお金を稼ぎたい・経済的に自立したい	n	197	184	25	7	24	437
	%	45.1	42.1	5.7	1.6	5.5	100.0
やりたい仕事がある	n	98	116	134	53	36	437
	%	22.4	26.5	30.7	12.1	8.2	100.0
高卒後すぐに就職した方がいい会社(官公庁)に入れると思う	n	48	88	172	94	35	437
	%	11.0	20.1	39.4	21.5	8.0	100.0
進学しても得るものが少ないと思う	n	66	119	158	62	32	437
	%	15.1	27.2	36.2	14.2	7.3	100.0
高卒後すぐに進学しなくても進学のチャンスはあると思う	n	57	127	142	74	37	437
	%	13.0	29.1	32.5	16.9	8.5	100.0
家族や学校の先生にすすめられている	n	43	99	121	135	39	437
	%	9.8	22.7	27.7	30.9	8.9	100.0
進学のための費用が高い	n	137	133	76	53	38	437
	%	31.4	30.4	17.4	12.1	8.7	100.0
進学したい学校が近くにない	n	87	101	118	92	39	437
	%	19.9	23.1	27.0	21.1	8.9	100.0
自分の成績では行きたい学校に進学できそうにない	n	61	107	125	110	34	437
	%	14.0	24.5	28.6	25.2	7.8	100.0

【問 16-3】問 16 で「5. まだ決めていない」と答えた方にお聞きします。

まだ決めていない理由を教えてください。（あてはまる番号 1 つに○）

	n	%
情報を集めている最中	196	32.4
家庭や家計の状況によって変わる	46	7.6
3年生になったら考える	31	5.1
具体的に思いつかない	296	48.9
その他	31	5.1
無回答	5	0.8
合計	605	100.0

【問 17】あなたは、問 16 で答えた進学や就職などについて、親や学校の先生などの周囲の大人に具体的に相談したことがありますか。（あてはまる番号 1 つに○）

	n	%
ある	3195	72.8
ない	930	21.2
無回答	261	6.0
合計	4386	100.0

【問 18】2020 年 4 月から始まる高等教育の修学支援新制度（いわゆる大学無償化）について知っていますか。（あてはまる番号 1 つに○）

	n	%
知っている	824	18.8
知らない	3467	79.0
無回答	95	2.2
合計	4386	100.0

【問 18-1】問 18 で、「1. 知っている」と答えた方にお聞きします。大学無償化によって、あなたの高校卒業後の進路選択に影響があると思いますか。（あてはまる番号 1 つに○）

	n	%
影響があると思う	371	45.0
影響はないと思う	217	26.3
どちらとも言えない	234	28.4
無回答	2	0.2
合計	824	100.0

【問19】高校卒業後の進学についてお聞きします。

①あなたは、理想的には、将来どの学校まで進学したいと思いますか。（あてはまる番号1つに○）

	n	%
この高校までで良い	356	8.1
専門学校まで	1064	24.3
短期大学まで	126	2.9
大学まで	2363	53.9
大学院まで	227	5.2
その他	115	2.6
無回答	135	3.1
合計	4386	100.0

②あなたは、現実的には、どの学校まで進学することになると思いますか。

（あてはまる番号1つに○）

	n	%
この高校まで	655	14.9
専門学校まで	1146	26.1
短期大学まで	135	3.1
大学まで	2060	47.0
大学院まで	89	2.0
その他	154	3.5
無回答	147	3.4
合計	4386	100.0

③ ①と②で違う番号を選んだ方にお聞きします。違う学校を選んだ理由について、それぞれどれくらいあてはまるか教えてください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

		とてもあてはまる	あてはまる	あてはまらない	まったくあてはまらない	無回答	合計
進学に必要なお金が心配	n	299	263	132	94	61	849
	%	35.2	31.0	15.5	11.1	7.2	100.0
きょうだいの進学にお金がかかる	n	124	180	177	300	68	849
	%	14.6	21.2	20.8	35.3	8.0	100.0
親や家族の面倒を見なければならない	n	29	61	274	408	77	849
	%	3.4	7.2	32.3	48.1	9.1	100.0
大学に進学できる学力がつかないと思う	n	304	285	139	84	37	849
	%	35.8	33.6	16.4	9.9	4.4	100.0
とくに勉強したいことがない	n	140	198	230	215	66	849
	%	16.5	23.3	27.1	25.3	7.8	100.0

【問20】この文章は一般的な考えを表しています。それがどれくらいあてはまるかを教えてください。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		そう思う	まあそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	無回答	合計
自分が立てた計画はうまくできる自信がある	n	303	1288	1536	901	290	68	4386
	%	6.9	29.4	35.0	20.5	6.6	1.6	100.0
しなければならぬことがあっても、なかなかとりかからない	n	761	1655	1003	725	169	73	4386
	%	17.4	37.7	22.9	16.5	3.9	1.7	100.0
初めはうまくいかない仕事でも、できるまでやり続ける	n	1033	1903	1079	232	60	79	4386
	%	23.6	43.4	24.6	5.3	1.4	1.8	100.0
新しい友だちをつくるのが苦手だ	n	687	971	1033	1003	616	76	4386
	%	15.7	22.1	23.6	22.9	14.0	1.7	100.0
重要な目標を決めても、めったに成功しない	n	331	909	1760	1081	229	76	4386
	%	7.5	20.7	40.1	24.6	5.2	1.7	100.0
何かを終える前にあきらめてしまう	n	334	799	1317	1352	503	81	4386
	%	7.6	18.2	30.0	30.8	11.5	1.8	100.0
会いたい人を見かけたら、向こうから来るのを待たないでその人の所へ行く	n	787	1049	1375	774	328	73	4386
	%	17.9	23.9	31.3	17.6	7.5	1.7	100.0
困難に出合うのを避ける	n	704	1343	1497	578	182	82	4386
	%	16.1	30.6	34.1	13.2	4.1	1.9	100.0
非常にややこしく見えることには、手を出そうとは思わない	n	1027	1560	1157	446	119	77	4386
	%	23.4	35.6	26.4	10.2	2.7	1.8	100.0
友だちになりたい人でも、友だちになるのが大変ならばすぐに止めてしまう	n	406	771	1431	1193	510	75	4386
	%	9.3	17.6	32.6	27.2	11.6	1.7	100.0
面白くないことをする時でも、それが終わるまでがんばる	n	787	1733	1230	420	137	79	4386
	%	17.9	39.5	28.0	9.6	3.1	1.8	100.0
何かをしようと思ったら、すぐにとりかかる	n	616	1144	1453	898	188	87	4386
	%	14.0	26.1	33.1	20.5	4.3	2.0	100.0
新しいことを始めようと決めても、出だしてつまずくとすぐにあきらめてしまう	n	378	1015	1498	1098	319	78	4386
	%	8.6	23.1	34.2	25.0	7.3	1.8	100.0
最初は友だちになる気がしない人でも、すぐにあきらめなくて友だちになろうとする	n	414	944	1706	866	378	78	4386
	%	9.4	21.5	38.9	19.7	8.6	1.8	100.0
思いがけない問題が起こった時、それをうまく処理できない	n	386	1026	1575	1065	245	89	4386
	%	8.8	23.4	35.9	24.3	5.6	2.0	100.0
難しそうなことは、新たに学ぼうとは思わない	n	311	730	1412	1367	482	84	4386
	%	7.1	16.6	32.2	31.2	11.0	1.9	100.0
失敗すると一生懸命やろうと思う	n	928	1479	1267	479	146	87	4386
	%	21.2	33.7	28.9	10.9	3.3	2.0	100.0
人の集まりの中では、うまく振る舞えない	n	809	1121	1214	776	383	83	4386
	%	18.4	25.6	27.7	17.7	8.7	1.9	100.0
何かしようとする時、自分にそれができるかどうか不安になる	n	1190	1662	863	413	177	81	4386
	%	27.1	37.9	19.7	9.4	4.0	1.8	100.0
人に頼らない方だ	n	430	873	1576	1007	421	79	4386
	%	9.8	19.9	35.9	23.0	9.6	1.8	100.0
私は自分から友だちを作るのがうまい	n	345	639	1412	1097	809	84	4386
	%	7.9	14.6	32.2	25.0	18.4	1.9	100.0
すぐにあきらめてしまう	n	418	781	1511	1163	432	81	4386
	%	9.5	17.8	34.5	26.5	9.8	1.8	100.0
人生で起きる問題の多くは処理できるとは思えない	n	463	892	1718	932	304	77	4386
	%	10.6	20.3	39.2	21.2	6.9	1.8	100.0

【生徒票】単純集計

【問 21】この1年を振り返って、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。0から10の数字を1つだけ選んでください。
(あてはまる番号1つに○)

	n	%
0点	32	0.7
1点	32	0.7
2点	52	1.2
3点	211	4.8
4点	276	6.3
5点	596	13.6
6点	567	12.9
7点	849	19.4
8点	815	18.6
9点	308	7.0
10点	523	11.9
無回答	125	2.8
合計	4386	100.0

【問 22】あなたは、次のA~Kの物品を持っていますか。それぞれ、あなたの状況にもっとも近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		持っている	持たたいが 持っていない	持たたくない いらぬ	無回答	合計
新しい(誰かのお古ではない) 洋服	n	3884	313	107	82	4386
	%	88.6	7.1	2.4	1.9	100.0
最低2足のサイズの合った靴	n	3929	254	126	77	4386
	%	89.6	5.8	2.9	1.8	100.0
自分専用のふとん又はベッド	n	3887	317	105	77	4386
	%	88.6	7.2	2.4	1.8	100.0
家の中で勉強ができる場所	n	3740	398	170	78	4386
	%	85.3	9.1	3.9	1.8	100.0
インターネットにつながる パソコン	n	2064	1237	1005	80	4386
	%	47.1	28.2	22.9	1.8	100.0
電子辞書	n	1825	771	1707	83	4386
	%	41.6	17.6	38.9	1.9	100.0
自分の部屋	n	2775	1317	215	79	4386
	%	63.3	30.0	4.9	1.8	100.0
月5,000円ほどの、 自分で自由に使えるお金	n	2668	1213	424	81	4386
	%	60.8	27.7	9.7	1.8	100.0
スマートフォン	n	4227	60	26	73	4386
	%	96.4	1.4	0.6	1.7	100.0
友人と遊びに出かけるお金	n	3588	585	133	80	4386
	%	81.8	13.3	3.0	1.8	100.0
自分に投資するお金(自己啓発 本、職業訓練コースなど)	n	1604	1312	1337	133	4386
	%	36.6	29.9	30.5	3.0	100.0

【問 23】あなたは、困っていることや悩んでいること、楽しいことや悲しいことを、他の人にどれくらい話しますか。A～G のそれぞれについて、電話、メール、LINE も含めて、もっとも近いものに○をつけてください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

		よく話す	時々話す	あまり話さない	まったく話さない	該当する人はいない	無回答	合計
家族（親）	n	1511	1460	786	417	110	102	4386
	%	34.5	33.3	17.9	9.5	2.5	2.3	100.0
家族（兄弟姉妹）	n	736	953	1079	998	484	136	4386
	%	16.8	21.7	24.6	22.8	11.0	3.1	100.0
家族（祖父母など）	n	313	707	1249	1598	378	141	4386
	%	7.1	16.1	28.5	36.4	8.6	3.2	100.0
学校の先生	n	238	773	1406	1527	303	139	4386
	%	5.4	17.6	32.1	34.8	6.9	3.2	100.0
友だち	n	2053	1461	510	185	76	101	4386
	%	46.8	33.3	11.6	4.2	1.7	2.3	100.0
家族・学校の先生以外の大人	n	248	495	957	1488	1063	135	4386
	%	5.7	11.3	21.8	33.9	24.2	3.1	100.0
その他	n	201	191	493	640	2222	639	4386
	%	4.6	4.4	11.2	14.6	50.7	14.6	100.0

【問 24】あなたは、これまでに、以下のような理由で、学校をやめたくなるほど、悩んだことがありますか。（あてはまる番号すべてに○）（n=4386）

	n	%
勉強についていけない	564	12.9
遅刻や欠席などが多く進級できそうにない	98	2.2
友人とうまくかかわれない	633	14.4
通学するのが面倒	448	10.2
精神的に不安定	757	17.3
問題のある行動や非行をした	31	0.7
学校とは別に他にやりたいことがある	214	4.9
経済面（授業料・教材費などの支払）	37	0.8
経済面（通学費用の支払）	52	1.2
経済面（修学旅行費等の支払）	24	0.5
経済面（部活動などにかかる費用の支払）	23	0.5
経済面（友人つきあいなどに要する費用の支出）	30	0.7
経済的理由でのアルバイト等の時間確保による通学困難	17	0.4
経済的な余裕がない	44	1.0
早く経済的に自立したい	167	3.8
体調不良	155	3.5
いじめにあった	111	2.5
友人関係のトラブル	411	9.4
経済面以外の家庭内のトラブル	59	1.3
その他	201	4.6
学校をやめたくなるほど悩んだことはない	1929	44.0
無回答	726	16.6

【生徒票】単純集計

【問 25】あなたは、ふだん以下の食品についてどのくらい食べたり飲んだりしますか。もっともよくあるパターンに○をつけてください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

		ほとんど たべない	週に1回 未満	週に1回	週に 2～4回	週に 5～6回	毎日1回	毎日 2回以上	無回答	合計
魚、肉	n	60	99	234	1404	824	902	767	96	4386
	%	1.4	2.3	5.3	32.0	18.8	20.6	17.5	2.2	100.0
魚、肉の加工品 (ポーク、ツナなど)	n	153	298	532	1700	694	587	308	114	4386
	%	3.5	6.8	12.1	38.8	15.8	13.4	7.0	2.6	100.0
野菜	n	58	54	144	1039	800	1021	1164	106	4386
	%	1.3	1.2	3.3	23.7	18.2	23.3	26.5	2.4	100.0
果物	n	565	691	821	1226	412	392	161	118	4386
	%	12.9	15.8	18.7	28.0	9.4	8.9	3.7	2.7	100.0
牛乳・ヨーグルト・ チーズなどの乳製品	n	337	482	657	1229	512	735	321	113	4386
	%	7.7	11.0	15.0	28.0	11.7	16.8	7.3	2.6	100.0
お菓子	n	275	286	434	1463	714	724	372	118	4386
	%	6.3	6.5	9.9	33.4	16.3	16.5	8.5	2.7	100.0
コーラやソフトドリン クなど甘い飲み物	n	797	534	562	1182	488	456	263	104	4386
	%	18.2	12.2	12.8	26.9	11.1	10.4	6.0	2.4	100.0
インスタントラーメン やカップめん	n	1307	1454	813	539	85	45	43	100	4386
	%	29.8	33.2	18.5	12.3	1.9	1.0	1.0	2.3	100.0
ファストフード	n	1147	1615	781	574	78	41	41	109	4386
	%	26.2	36.8	17.8	13.1	1.8	0.9	0.9	2.5	100.0

【問 26】最近はかった、あなたの身長・体重を教えてください。（カッコの中に数字で記入してください）

	n	平均値	標準偏差
身長	4386	161.7 c m	8.6
体重		55.0k g	10.1

【問 27】あなたは、自分が必要と思う時に、医者にかかることができますか。健診も含めてお答えください。（あてはまる番号1つに○）

	n	%
いつでもできる	2966	67.6
できないことがある（経済的理由により）	196	4.5
できないことがある（その他の理由により）	457	10.4
医者にかかる必要を感じたことはない	642	14.6
無回答	125	2.8
合計	4386	100.0

【問 28】最近の学校歯科検診で、治療が必要なむし歯(未処置歯)はだいたい何本ありましたか。

(あてはまる番号1つに○)

	n	%
0本	2565	58.5
1～2本	1112	25.4
3～4本	421	9.6
5～6本	118	2.7
7～9本	25	0.6
10本以上	18	0.4
無回答	127	2.9
合計	4386	100.0

【問 28-1】問 28 で 2 から 6 を選んだ方にお聞きします。

その後、歯科で治療を受けましたか。(あてはまる番号1つに○)

	n	%
治療した	666	39.3
治療しなかった(経済的理由により)	117	6.9
治療しなかった(その他の理由により)	859	50.7
無回答	52	3.1
合計	1694	100.0

【問 29】以下のことについて教えてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	学校の保健体育の授業以外で、定期的に適度な運動を行っている		過去1週間、毎日朝食を食べた	
	n	%	n	%
あてはまる	2645	60.3	3634	82.9
あてはまらない	1619	36.9	618	14.1
無回答	122	2.8	134	3.1
合計	4386	100.0	4386	100.0

【問 30】あなたの心の状態についてお聞きします。ここ1か月の間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか。A～Fについて教えてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	n	%
4点以下	2264	51.6
5～8点	758	17.3
9～12点	579	13.2
13点以上	649	14.8
無回答	136	3.1
合計	4386	100.0

【生徒票】単純集計

【問 31】あなたは、無料塾（子育て総合支援モデル事業「大学等進学促進事業」）について知っていますか。（あてはまる番号1つに○）

	n	%
知っている	789	18.0
知らない	3517	80.2
無回答	80	1.8
合計	4386	100.0

【問 31-1】あなたは、今後、無料塾を利用したいと思いますか。（あてはまる番号1つに○）

	n	%
利用したい	1101	25.1
利用したくない	903	20.6
どちらともいえない	2228	50.8
無回答	154	3.5
合計	4386	100.0

【保護者票】単純集計

保 護 者 票

【問1】この調査票にお答えになっている方は、お子さんからみてどなたにあたりますか。

(あてはまる番号1つに○)

	n	%
母親	3714	86.3
父親	506	11.8
祖母	32	0.7
祖父	2	0.0
おじ・おばなどの親戚	5	0.1
その他	20	0.5
無回答	26	0.6
合計	4305	100.0

【問2】お子さんと同居している家族の人数を教えてください(あなたとお子さんも含む)。

	n	%
2人	232	5.4
3人	759	17.6
4人	1335	31.0
5人	1161	27.0
6人	518	12.0
7人	177	4.1
8人	67	1.6
9人	8	0.2
10人	9	0.2
12人	1	0.0
13人	1	0.0
無回答	37	0.9
合計	4305	100.0

【問3】お子さんと同居している家族の方は、どなたですか。それぞれ人数も教えてください。お子さんから見た続柄でお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

※問2の補足となる問のため、集計は省略

【問4】 お子さんの母親と父親の年齢を教えてください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	母親		父親	
	n	%	n	%
29歳以下	7	0.2	9	0.2
30～34歳	28	0.7	22	0.5
35～39歳	373	8.7	196	4.6
40～44歳	1055	24.5	670	15.6
45～49歳	1455	33.8	1173	27.2
50～54歳	943	21.9	882	20.5
55～59歳	288	6.7	412	9.6
60～64歳	24	0.6	156	3.6
65歳以上	0	0.0	38	0.9
母親・父親はいない	32	0.7	235	5.5
無回答	100	2.3	512	11.9
合計	4305	100.0	4305	100.0

【問5】 お子さんと同居している家族の中に、高齢であったり障害があったりするなど、介護が必要な方はいますか。（あてはまる番号1つに○）

	n	%
いる	257	6.0
いない	3970	92.2
無回答	78	1.8
合計	4305	100.0

【問6・7】 お子さんの母親・父親(または母親・父親にかわる方)の現在のお仕事の状況を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

	母親		父親	
	n	%	n	%
働いていない	591	13.7	81	1.9
正規の職員・従業員	1376	32.0	2362	54.9
派遣社員・契約社員・嘱託	453	10.5	173	4.0
パート・アルバイト	1358	31.5	69	1.6
会社・団体等の役員	53	1.2	198	4.6
自営	251	5.8	530	12.3
内職	12	0.3	1	0.0
その他	71	1.6	61	1.4
無回答	140	3.3	830	19.3
合計	4305	100.0	4305	100.0

【保護者票】単純集計

【問6-1、7-1】問6・7で2～8を選んだ方にお聞きします。

① 1週間の平均的な労働日数を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

	母親		父親	
	n	%	n	%
1日	15	0.4	6	0.2
2日	44	1.2	7	0.2
3日	138	3.9	34	1.0
4日	351	9.8	49	1.4
5日	2221	62.1	1666	49.1
6日	636	17.8	1351	39.8
7日	80	2.2	167	4.9
無回答	89	2.5	114	3.4
合計	3574	100.0	3394	100.0

②働いている日の平均的な労働時間（残業時間を含む）を教えてください。

（あてはまる番号1つに○）

	母親		父親	
	n	%	n	%
2時間未満	25	0.7	19	0.6
2～4時間未満	139	3.9	14	0.4
4～6時間未満	744	20.8	49	1.4
6～8時間未満	1175	32.9	626	18.4
8～10時間未満	1200	33.6	1898	55.9
10～12時間未満	179	5.0	498	14.7
12時間以上	45	1.3	182	5.4
無回答	67	1.9	108	3.2
合計	3574	100.0	3394	100.0

③お仕事には平日の日中以外の勤務もありますか。（あてはまる番号すべてに○）

	母親 (n=3574)		父親 (n=3394)	
	n	%	n	%
早朝勤務(朝5～8時)	394	11.0	660	19.4
夜間勤務(夜8～10時)	388	10.9	728	21.4
深夜勤務(夜10～朝5時)	229	6.4	507	14.9
土曜出勤	1834	51.3	1977	58.2
日曜・祝日出勤	1376	38.5	1654	48.7
あてはまる勤務はない	1108	31.0	688	20.3
わからない	48	1.3	108	3.2
無回答	149	4.2	180	5.3

【問8】お子さんは、高校への通学（登校時、帰宅時）に、普段、モノレールを利用していますか。

（あてはまる番号1つに○）

	n	%
利用している	291	6.8
利用していない	3913	90.9
無回答	101	2.3
合計	4305	100.0

【問9】お子さんは、高校への通学（登校時、帰宅時）に、普段、バスを利用していますか。

（あてはまる番号1つに○）

	n	%
利用している	1282	29.8
利用していない	2859	66.4
無回答	164	3.8
合計	4305	100.0

【問9-1】問9で「1. 利用している」と答えた方にお聞きします。

通学定期券を利用していますか。（あてはまる番号1つに○）

	n	%
利用している	419	32.7
利用していない	842	65.7
無回答	21	1.6
合計	1282	100.0

【問9-2】問9-1で「2. 利用していない」と答えた方にお聞きします。通学定期券を利用していない理由を教えてください。（あてはまる番号すべてに○）（n=842）

	n	%
往復で異なる経路を利用して利用できない	177	21.0
定期券を購入するほどバスを利用しないため	390	46.3
定期券を購入する経済的ゆとりがないため	131	15.6
定期券の購入場所が近くにないため	98	11.6
その他	175	20.8
無回答	9	1.1

【問10】お子さんの高校への通学（登校時、帰宅時）に、普段、家族の自家用車で送迎していますか。

（あてはまる番号1つに○）

	n	%
送迎している	2514	58.4
送迎していない	1651	38.4
無回答	140	3.3
合計	4305	100.0

【保護者票】単純集計

【問10-1】問10で「1. 送迎している」と答えた方にお聞きします。

送迎している一番の理由を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

	n	%
交通費削減	652	25.9
通勤のついで	586	23.3
防犯・安全	247	9.8
公共交通機関がない	229	9.1
学校が遠い	375	14.9
その他	407	16.2
無回答	18	0.7
合計	2514	100.0

【問11】お子さんの1か月あたりの通学交通費（ガソリン代含む）を教えてください。

（あてはまる番号1つに○）

	n	%
交通費は発生しない	1221	28.4
5千円未満	962	22.3
5千円～1万円未満	956	22.2
1万円～1万5千円未満	494	11.5
1万5千円～2万円未満	220	5.1
2万円～2万5千円未満	114	2.6
2万5千円～3万円未満	58	1.3
3万円以上	45	1.0
無回答	235	5.5
合計	4305	100.0

【問12】ひとり親家庭高校生等通学サポート実証事業（バス）による補助を受けていますか。

（あてはまる番号1つに○）

	n	%
受けている	101	10.2
受けていない	851	86.1
無回答	36	3.6
合計	988	100.0

※ひとり親世帯のみで集計

【問13】進学する高校の選択の際、通学交通費の負担をどの程度重視しましたか。

（あてはまる番号1つに○）

	n	%
非常に重視した	429	10.0
やや重視した	1170	27.2
あまり気にしなかった	1691	39.3
まったく気にしなかった	849	19.7
無回答	166	3.9
合計	4305	100.0

【問 14】 お子さんの高校卒業後の進路として、可能性のあるものすべてに○をつけてください。

(n=4305)

	n	%
就職	1004	23.3
家の手伝い・家業を継ぐ	24	0.6
アルバイトのみ	66	1.5
短大・専門学校への進学	2309	53.6
大学への進学	2744	63.7
就職しながら進学	348	8.1
まだ考えていない	362	8.4
その他	86	2.0
無回答	76	1.8

【問 15】 お子さんの高校卒業後の進路として、もっとも望ましいと思うもの1つに○をつけてください。

	n	%
就職	404	9.4
家の手伝い・家業を継ぐ	6	0.1
アルバイトのみ	5	0.1
短大・専門学校への進学	1132	26.3
大学への進学	2250	52.3
就職しながら進学	175	4.1
まだ考えていない	147	3.4
その他	69	1.6
無回答	117	2.7
合計	4305	100.0

【問 16】 お子さんの高校卒業後の進路を決める際、次の項目をどの程度考えますか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても 考える	やや 考える	あまり 考えない	まったく 考えない	無回答	合計
高校の成績・入学試験	n	2419	1406	271	51	158	4305
	%	56.2	32.7	6.3	1.2	3.7	100.0
家庭の経済的な状況	n	2141	1540	369	98	157	4305
	%	49.7	35.8	8.6	2.3	3.6	100.0
そのほかの家庭の事情	n	745	1418	1246	597	299	4305
	%	17.3	32.9	28.9	13.9	6.9	100.0
地域に適切な進学先があるか	n	1280	1710	738	329	248	4305
	%	29.7	39.7	17.1	7.6	5.8	100.0
本人の志望先がはっきりしているか	n	3279	745	105	32	144	4305
	%	76.2	17.3	2.4	0.7	3.3	100.0

【保護者票】単純集計

【問 17】2020 年 4 月から始まる高等教育の修学支援新制度（いわゆる大学無償化）について知っていますか。（あてはまる番号 1 つに○）

	n	%
知っている	1271	29.5
知らない	2937	68.2
無回答	97	2.3
合計	4305	100.0

【問 17-1】問 17 で「1. 知っている」と答えた方にお聞きします。大学無償化によって、お子さんの高校卒業後の進路選択に影響があると思いますか。（あてはまる番号 1 つに○）

	n	%
影響があると思う	670	52.7
影響はないと思う	375	29.5
どちらとも言えない	220	17.3
無回答	6	0.5
合計	1271	100.0

【問 18】現在よりも経済的にゆとりがあるとしたら、お子さんの進路などについて何をさせてあげたいと思いますか。（あてはまる番号すべてに○）（n=4305）

	n	%
特に現在の希望を変更することはない	1921	44.6
就職よりも進学	984	22.9
短大・専門学校よりも 4 年制大学への進学	1342	31.2
自宅よりも自宅外通学	602	14.0
授業料の高い学科への進学	732	17.0
無回答	173	4.0

【問 19】あなたとお子さんとの関係についてお聞きします。あてはまるものに○をつけてください。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる	無回答	合計
この子はだれよりも私が好きだと思う	n	175	727	2193	1043	167	4305
	%	4.1	16.9	50.9	24.2	3.9	100.0
この子はだれよりも私のことを信頼していると思う	n	112	495	2205	1334	159	4305
	%	2.6	11.5	51.2	31.0	3.7	100.0
この子は私と一緒にいて幸せだと思う	n	104	465	2143	1403	190	4305
	%	2.4	10.8	49.8	32.6	4.4	100.0
この子が何を考えているか、どうしたいかはだれよりも私がわかっていると思う	n	170	1046	2246	681	162	4305
	%	3.9	24.3	52.2	15.8	3.8	100.0
この子のことは信頼できる	n	78	138	1197	2755	137	4305
	%	1.8	3.2	27.8	64.0	3.2	100.0
私はこの子と一緒にいて幸せだ	n	81	48	542	3503	131	4305
	%	1.9	1.1	12.6	81.4	3.0	100.0
私はこの子のことが大好きだ	n	79	37	406	3649	134	4305
	%	1.8	0.9	9.4	84.8	3.1	100.0
この子は私の気持ちがよくわかると思う	n	119	684	2160	1185	157	4305
	%	2.8	15.9	50.2	27.5	3.6	100.0

【問 20】あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。A～Hについて、「1. している」「2. していない、したくない(方針でしない)」「3. していない、経済的にできない」のうち、あてはまるものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		している	したくない(方針でしない)	経済的にできない	無回答	合計
毎月お小遣いを渡す	n	1862	1159	1064	220	4305
	%	43.3	26.9	24.7	5.1	100.0
毎年新しい洋服・靴を買う	n	3050	417	667	171	4305
	%	70.8	9.7	15.5	4.0	100.0
習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる	n	1334	1149	1441	381	4305
	%	31.0	26.7	33.5	8.9	100.0
学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)	n	761	1374	1750	420	4305
	%	17.7	31.9	40.7	9.8	100.0
お誕生日のお祝いをする	n	3938	106	138	123	4305
	%	91.5	2.5	3.2	2.9	100.0
1年に1回くらい家族旅行に行く	n	924	524	2556	301	4305
	%	21.5	12.2	59.4	7.0	100.0
クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる	n	3533	243	404	125	4305
	%	82.1	5.6	9.4	2.9	100.0
子どもの学校行事などへ親が参加する	n	3284	457	313	251	4305
	%	76.3	10.6	7.3	5.8	100.0

【保護者票】単純集計

【問21】あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をする、またはこれまでにしたことがありますか。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

		ある	ない (金銭的な理由で)	ない (時間の制約で)	ない (その他の理由で)	無回答	合計
海水浴に行く	n	3491	52	211	437	114	4305
	%	81.1	1.2	4.9	10.2	2.6	100.0
博物館・科学館・美術館などに行く	n	2891	155	321	799	139	4305
	%	67.2	3.6	7.5	18.6	3.2	100.0
キャンプやバーベキューに行く	n	2966	152	337	726	124	4305
	%	68.9	3.5	7.8	16.9	2.9	100.0
スポーツ観戦や劇場に行く	n	2840	253	279	803	130	4305
	%	66.0	5.9	6.5	18.7	3.0	100.0

【問22】あなたは次に挙げるA～Cの事柄で頼れる人はいますか（○は1つ）。また、「1. いる」と答えた方にお聞きします。それはだれですか。（それぞれ、あてはまる番号すべてに○）

A. 子どもの世話や看病

①頼れる人はいますか。

	n	%
いる	3051	70.9
いない	348	8.1
そのことでは人に頼らない	272	6.3
無回答	634	14.7
合計	4305	100.0

②それは誰ですか。（n=3051）

	n	%
家族・親族	3006	98.5
知人・友人	202	6.6
近所の人	32	1.0
その他の人	28	0.9
無回答	2	0.1

B. 重要な事柄の相談

①頼れる人はいますか。

	n	%
いる	3213	74.6
いない	254	5.9
そのことでは人に頼らない	139	3.2
無回答	699	16.2
合計	4305	100.0

②それは誰ですか。(n=3213)

	n	%
家族・親族	3024	94.1
知人・友人	822	25.6
近所の人	18	0.6
その他の人	62	1.9
無回答	7	0.2

C. いざという時のお金の援助

①頼れる人はいますか。

	n	%
いる	2263	52.6
いない	728	16.9
そのことでは人に頼らない	677	15.7
無回答	637	14.8
合計	4305	100.0

②それは誰ですか。(n=2263)

	n	%
家族・親族	2234	98.7
知人・友人	62	2.7
近所の人	1	0.0
その他の人	25	1.1
無回答	5	0.2

【問 23】 現在お住まいの住居の形態は、次のどれがもっともよくあてはまりますか。

(あてはまる番号1つに○)

	n	%
持ち家	2103	48.9
民間の賃貸住宅	1476	34.3
県営または市町村営の賃貸住宅	351	8.2
社宅・公務員住宅	43	1.0
間借り	73	1.7
その他	180	4.2
無回答	79	1.8
合計	4305	100.0

【保護者票】単純集計

【問 23-1】 お住まいの住居の室数について、居住用の部屋数（玄関やふろ等は含めない）を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

	n	%
1室	48	1.1
2室	518	12.0
3室	1495	34.7
4室	1120	26.0
5室	615	14.3
6室以上	397	9.2
無回答	112	2.6
合計	4305	100.0

【問 23-2】 あなたがお住まいの住宅について、どのようにお感じですか。

（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

		不満	やや 不満	やや 満足	満足	無回答	合計
利便性の良さ（公共交通機関が使いやすい、学校や病院、買い物ができる場所が近くにある）	n	251	526	1299	2114	115	4305
	%	5.8	12.2	30.2	49.1	2.7	100.0
子どもを遊ばせるスペースの十分さ	n	542	958	1401	1259	145	4305
	%	12.6	22.3	32.5	29.2	3.4	100.0
遮音性（子どもの遊ぶ声が隣に聞こえてしまうことなど）	n	476	1107	1489	1091	142	4305
	%	11.1	25.7	34.6	25.3	3.3	100.0
日当りのよさ	n	154	486	1464	2085	116	4305
	%	3.6	11.3	34.0	48.4	2.7	100.0
風通しのよさ	n	143	444	1527	2074	117	4305
	%	3.3	10.3	35.5	48.2	2.7	100.0
災害（水害や火災など）に対する安全性	n	331	891	1670	1277	136	4305
	%	7.7	20.7	38.8	29.7	3.2	100.0
住宅の防犯性	n	336	1090	1828	912	139	4305
	%	7.8	25.3	42.5	21.2	3.2	100.0
住宅に係る費用	n	497	1257	1669	729	153	4305
	%	11.5	29.2	38.8	16.9	3.6	100.0

【問 24】 あなたは、ご家庭の現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。

（あてはまる番号1つに○）

	n	%
大変苦しい	530	12.3
やや苦しい	1443	33.5
普通	1849	43.0
ややゆとりがある	346	8.0
大変ゆとりがある	44	1.0
無回答	93	2.2
合計	4305	100.0

【問 25】あなたのご家庭の通常の家計の状況について、もっとも近いものに○をしてください。

(あてはまる番号1つに○)

	n	%
赤字であり、借金をして生活している	720	16.7
赤字であり、貯蓄を取り崩している	639	14.8
赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである	2147	49.9
黒字であり、余裕がある	332	7.7
黒字であり、毎月貯蓄をしている	306	7.1
無回答	161	3.7
合計	4305	100.0

【問 26】あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由で家族が必要とする食料や衣料が買えないことがありましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		よく あった	ときどき あった	まれに あった	まったく なかった	無回答	合計
食料が買えなかった経験	n	143	392	651	2993	126	4305
	%	3.3	9.1	15.1	69.5	2.9	100.0
衣料が買えなかった経験	n	323	451	803	2585	143	4305
	%	7.5	10.5	18.7	60.0	3.3	100.0

【問 27】あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由で月々の料金の支払い、家賃・住宅ローンなどの滞納、債務の返済ができないことがありましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		あった	なかった	払う必要 がない	無回答	合計
電気代	n	503	3624	42	136	4305
	%	11.7	84.2	1.0	3.2	100.0
水道料金	n	394	3712	54	145	4305
	%	9.2	86.2	1.3	3.4	100.0
ガス代	n	435	3524	193	153	4305
	%	10.1	81.9	4.5	3.6	100.0
電話料金	n	527	3603	24	151	4305
	%	12.2	83.7	0.6	3.5	100.0
家賃	n	397	3070	602	236	4305
	%	9.2	71.3	14.0	5.5	100.0
住宅ローン	n	110	2445	1278	472	4305
	%	2.6	56.8	29.7	11.0	100.0
その他の債務	n	632	2601	668	404	4305
	%	14.7	60.4	15.5	9.4	100.0

【保護者票】単純集計

【問 28】 次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

(n=4305)

	n	%
子どもの年齢に合った本	413	9.6
子ども用のスポーツ用品・おもちゃ	214	5.0
子どもが自宅で勉強をすることができる場所	382	8.9
洗濯機	20	0.5
炊飯器	31	0.7
掃除機	75	1.7
冷房機器	128	3.0
電子レンジ	57	1.3
電話（固定電話・携帯電話を含む）	79	1.8
インターネットにつながるパソコン	785	18.2
新聞の定期購読（ネット含む）	917	21.3
世帯人数分のベッドまたは布団	311	7.2
急な出費のための貯金（5万円以上）	1245	28.9
自家用車	117	2.7
あてはまるものはない	1799	41.8
無回答	467	10.8

【問 29】 お子さんは、奨学金を受けましたか（受けていますか）。複数受けている場合は、直近のものについて教えてください。（あてはまる番号1つに○）

	n	%
給付型の奨学金を受けた／受けている	511	11.9
貸与型の奨学金を受けた／受けている	204	4.7
その他のタイプの奨学金を受けた／受けている	19	0.4
奨学金は受けなかった／受けていない	2974	69.1
無回答	597	13.9
合計	4305	100.0

【問 30】 お子さんと生計を共にしている方全員の収入を合わせた「※世帯の収入（年間のボーナス含む手取り額）」を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

	n	%
1万円未満	5	0.1
1万円～50万円未満	20	0.5
50～100万円未満	72	1.7
100～150万円未満	208	4.8
150～200万円未満	263	6.1
200～250万円未満	328	7.6
250～300万円未満	411	9.5
300～400万円未満	648	15.1
400～500万円未満	518	12.0
500～600万円未満	424	9.8
600～700万円未満	344	8.0
700～800万円未満	251	5.8
800～900万円未満	124	2.9
900～1000万円未満	127	3.0
1000万円以上	137	3.2
無回答	425	9.9
合計	4305	100.0

【問 30-1、30-2】 世帯収入（合算値）に含まれている、お子さんの母親・父親（または母親・父親にかわる方）のおおよその年間収入を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

	母親		父親	
	n	%	n	%
0円	470	10.9	45	1.0
1円～50万円未満	196	4.6	40	0.9
50～100万円未満	667	15.5	73	1.7
100～150万円未満	809	18.8	150	3.5
150～200万円未満	484	11.2	291	6.8
200～250万円未満	383	8.9	385	8.9
250～300万円未満	249	5.8	425	9.9
300～400万円未満	246	5.7	587	13.6
400～500万円未満	146	3.4	429	10.0
500～600万円未満	92	2.1	300	7.0
600～700万円未満	46	1.1	187	4.3
700万円以上	19	0.4	203	4.7
世帯収入に含まれていない、または不明	26	0.6	55	1.3
母親・父親はいない	59	1.4	453	10.5
無回答	413	9.6	682	15.8
合計	4305	100.0	4305	100.0

【保護者票】単純集計

【問 31】あなたの世帯（生計を共にしている方）の1か月の平均的な支出（住宅ローン等の借金返済含む）はどれくらいですか。（あてはまる番号1つに○）

	n	%
支出はまったくない	79	1.8
1万円～5万円未満	126	2.9
5万円～10万円未満	303	7.0
10万円～15万円未満	544	12.6
15万円～20万円未満	884	20.5
20万円～30万円未満	1144	26.6
30万円～40万円未満	533	12.4
40万円～50万円未満	183	4.3
50万円以上	80	1.9
無回答	429	10.0
合計	4305	100.0

【問 31-1】問 31 で答えた1か月の平均支出のうち、食費はどれくらいですか。（あてはまる番号1つに○）

【問 31-2】問 31 で答えた1か月の平均支出のうち、住居費（家賃・住宅ローン）はどれくらいですか。（あてはまる番号1つに○）

	食費		住居費 (家賃・住宅ローン)	
	n	%	n	%
支出はまったくない	2	0.0	580	13.5
1万円～5千円未満	7	0.2	24	0.6
5千円～1万円未満	23	0.5	24	0.6
1万円～1万5千円未満	50	1.2	39	0.9
1万5千円～2万円未満	119	2.8	75	1.7
2万円～2万5千円未満	173	4.0	120	2.8
2万5千円～3万円未満	321	7.5	136	3.2
3万円～4万円未満	604	14.0	291	6.8
4万円～5万円未満	757	17.6	428	9.9
5万円～6万円未満	578	13.4	604	14.0
6万円～7万円未満	455	10.6	518	12.0
7万円～8万円未満	304	7.1	360	8.4
8万円～9万円未満	159	3.7	186	4.3
9万円～10万円未満	210	4.9	188	4.4
10万円以上	145	3.4	333	7.7
無回答	398	9.2	399	9.3
合計	4305	100.0	4305	100.0

【問 32】お子さんの状況についてお聞きします。過去1年間に病院や歯医者でお子さんを受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか。（あてはまる番号1つに○）

	n	%
ある	823	19.1
ない	3292	76.5
無回答	190	4.4
合計	4305	100.0

【問 32-1】問 32で「1. ある」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか。以下の1～8のうち、もっとも近いものに○をつけてください。（あてはまる番号1つに○）

	n	%
公的医療保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかったため	8	1.0
公的医療保険に加入していたが、医療機関での自己負担金を支払うことができなかったため	159	19.3
子ども本人が（行くのが）嫌だと言ったため	113	13.7
医療機関までの距離が遠く、通院することが困難であったため	15	1.8
多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため	281	34.1
最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため	139	16.9
自分の健康状態が悪かったため	16	1.9
その他の理由	75	9.1
無回答	17	2.1
合計	823	100.0

【問 33】あなた自身の健康についてお聞きします。あなたが毎日をどのように感じ、日常の活動をどのくらい自由にできるかをお尋ねするものです。それぞれの質問について、一番よくあてはまる番号を1つ選んでください。

①全体的にみて、過去1カ月間のあなたの健康状態はいかがでしたか。

	n	%
最高に良い	144	3.3
とても良い	499	11.6
良い	2257	52.4
あまり良くない	1030	23.9
良くない	161	3.7
ぜんぜん良くない	90	2.1
無回答	124	2.9
合計	4305	100.0

【保護者票】単純集計

②過去1ヵ月間に、体を使う日常活動（歩いたり階段を昇ったりなど）をすることが身体的な理由でどのくらい妨げられましたか。

	n	%
ぜんぜん妨げられなかった	2403	55.8
わずかに妨げられた	733	17.0
少し妨げられた	752	17.5
かなり妨げられた	182	4.2
体を使う日常活動ができなかった	64	1.5
無回答	171	4.0
合計	4305	100.0

③過去1ヵ月間に、いつもの仕事（家事も含みます）をすることが、身体的な理由でどのくらい妨げられましたか。

	n	%
ぜんぜん妨げられなかった	1941	45.1
わずかに妨げられた	1083	25.2
少し妨げられた	856	19.9
かなり妨げられた	218	5.1
いつもの仕事ができなかった	36	0.8
無回答	171	4.0
合計	4305	100.0

④過去1ヵ月間に、体の痛みはどのくらいありましたか。

	n	%
ぜんぜんなかった	923	21.4
かすかな痛み	901	20.9
軽い痛み	1270	29.5
中くらいの痛み	774	18.0
強い痛み	250	5.8
非常に激しい痛み	36	0.8
無回答	151	3.5
合計	4305	100.0

⑤過去1ヵ月間、どのくらい元気でしたか。

	n	%
非常に元気だった	428	9.9
かなり元気だった	1548	36.0
少し元気だった	1804	41.9
わずかに元気だった	294	6.8
ぜんぜん元気でなかった	83	1.9
無回答	148	3.4
合計	4305	100.0

⑥過去1ヵ月間に、家族や友人とのふだんのつきあいが、身体的あるいは心理的な理由で、どのくらい妨げられましたか。

	n	%
ぜんぜん妨げられなかった	1973	45.8
わずかに妨げられた	915	21.3
少し妨げられた	849	19.7
かなり妨げられた	244	5.7
つきあいができなかった	143	3.3
無回答	181	4.2
合計	4305	100.0

⑦過去1ヵ月間に、心理的な問題（不安を感じたり、気分が落ち込んだり、イライラしたり）に、どのくらい悩まされましたか。

	n	%
ぜんぜん悩まされなかった	906	21.0
わずかに悩まされた	1219	28.3
少し悩まされた	1213	28.2
かなり悩まされた	524	12.2
非常に悩まされた	290	6.7
無回答	153	3.6
合計	4305	100.0

⑧過去1ヵ月間に、日常行う活動（仕事、学校、家事などのふだんの行動）が、心理的な理由で、どのくらい妨げられましたか。

	n	%
ぜんぜん妨げられなかった	1442	33.5
わずかに妨げられた	1218	28.3
少し妨げられた	1066	24.8
かなり妨げられた	366	8.5
日常行う活動ができなかった	39	0.9
無回答	174	4.0
合計	4305	100.0

【問 34】最近はかった、あなたの身長・体重を教えてください。（カッコの中に数字で記入してください）

	n	平均値	標準偏差
身長	4305	157.8 c m	6.8
体重		57.7k g	10.9

【保護者票】単純集計

【問 35】 お子さんと同居している家族に、たばこを吸う方はいますか。（あてはまる番号1つに○）

	n	%
はい	1581	36.7
いいえ	2610	60.6
無回答	114	2.6
合計	4305	100.0

【問 36】 あなたは、普段、強い緊張を感じたり、簡単に処理できないことが起きたりした時にとる行動として、次のものはどれくらいあてはまりますか。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

		あてはまる	少しあてはまる	あてはまらない	無回答	合計
その問題を解決するために、慎重にプランをたてる	n	1280	2206	617	202	4305
	%	29.7	51.2	14.3	4.7	100.0
問題を起こした人に怒りをぶつける	n	291	1757	2056	201	4305
	%	6.8	40.8	47.8	4.7	100.0
専門家の援助を得る	n	355	886	2854	210	4305
	%	8.2	20.6	66.3	4.9	100.0
衝動買いをする	n	182	1022	2892	209	4305
	%	4.2	23.7	67.2	4.9	100.0
自分の嫌な気持ちを外に表さないようにする	n	880	2273	950	202	4305
	%	20.4	52.8	22.1	4.7	100.0
気を紛らわすために、おいしいものを食べる	n	997	1764	1350	194	4305
	%	23.2	41.0	31.4	4.5	100.0
何事もなかったかのようにふるまう	n	760	2344	997	204	4305
	%	17.7	54.4	23.2	4.7	100.0
喫煙や飲酒の量が増える	n	470	861	2780	194	4305
	%	10.9	20.0	64.6	4.5	100.0
ギャンブルの頻度が増える	n	34	93	3982	196	4305
	%	0.8	2.2	92.5	4.6	100.0

【問 37】 あなたの心の状態についてお聞きします。ここ1か月の間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか。A～Fについて教えてください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	n	%
4点以下	2328	54.1
5～8点	833	19.3
9～12点	509	11.8
13点以上	403	9.4
無回答	232	5.4
合計	4305	100.0

【問 38、39】お子さんの母親・父親が最後に卒業されたのは次のどれですか(中退は卒業に含まれません)。
(あてはまる番号1つに○)

	母親		父親	
	n	%	n	%
中学校	261	6.1	337	7.8
高校	1520	35.3	1596	37.1
各種専門学校(高校卒業)	1077	25.0	674	15.7
短大・高専	832	19.3	157	3.6
大学・大学院	418	9.7	965	22.4
その他	13	0.3	52	1.2
無回答	184	4.3	524	12.2
合計	4305	100.0	4305	100.0

【問 40】あなたが15歳頃のご家庭の暮らし向きはどうだったと感じましたか。(あてはまる番号1つに○)

	n	%
大変苦しい	638	14.8
やや苦しい	1096	25.5
普通	1722	40.0
ややゆとりがある	490	11.4
大変ゆとりがある	208	4.8
無回答	151	3.5
合計	4305	100.0

【問 41】あなたは、成人する前に以下のような経験をしたことがありますか。

(あてはまる番号すべてに○) (n=4305)

	n	%
両親が離婚した	558	13.0
親が生活保護を受けていた	135	3.1
母親が亡くなった	67	1.6
父親が亡くなった	204	4.7
親から暴力を振るわれた	231	5.4
育児放棄(ネグレクト)された	86	2.0
いずれも経験したことがない	3077	71.5
無回答	208	4.8

【問 42】あなたはお子さんをもってから、以下のような経験をしたことがありますか。

(あてはまる番号すべてに○) (n=4305)

	n	%
夫または妻との間で頻繁な口げんかがあった	1358	31.5
(元)配偶者(またはパートナー)から暴力をふるわれたことがある	413	9.6
子どもに行き過ぎた体罰を与えたことがある	360	8.4
育児放棄になった時期がある	111	2.6
出産や育児でうつ病(状態)になった時期がある	407	9.5
わが子を虐待しているのではないかと、思い悩んだことがある	560	13.0
自殺を考えたことがある	397	9.2
いずれも経験したことがない	2115	49.1
無回答	232	5.4

【保護者票】単純集計

【問 43】あなたは、無料塾（子育て総合支援モデル事業「大学等進学促進事業」）について知っていますか。（あてはまる番号1つに○）

	n	%
知っている	1337	31.1
知らない	2818	65.5
無回答	150	3.5
合計	4305	100.0

【問 43-1】あなたは、今後無料塾を利用したいと思いますか。（あてはまる番号1つに○）

	n	%
利用したい	1391	32.3
利用したくない	342	7.9
どちらともいえない	2324	54.0
無回答	248	5.8
合計	4305	100.0

【問 44】あなたのご家庭では、以下のA～Eの支援制度等を、これまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由にもっとも近いものに○をつけてください。

（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

		利用したことがある	利用したことがない						無回答	合計
			利用する対象外だった	利用したかったが、条件を満たしていなかった	抵抗感があった	利用したかったが、制度等が使えなかった	利用したかったが、わからなかった	利用の仕方がまったく知らなかった		
就学援助	n	1251	1855	380	59	34	166	200	360	4305
	%	29.1	43.1	8.8	1.4	0.8	3.9	4.6	8.4	100.0
生活福祉資金貸付金	n	79	2306	151	58	50	213	894	554	4305
	%	1.8	53.6	3.5	1.3	1.2	4.9	20.8	12.9	100.0
生活保護	n	100	3025	130	74	42	140	231	563	4305
	%	2.3	70.3	3.0	1.7	1.0	3.3	5.4	13.1	100.0
母子父子寡婦福祉資金貸付金	n	86	2725	111	44	54	174	555	556	4305
	%	2.0	63.3	2.6	1.0	1.3	4.0	12.9	12.9	100.0
児童扶養手当	n	1264	2164	117	14	17	75	223	431	4305
	%	29.4	50.3	2.7	0.3	0.4	1.7	5.2	10.0	100.0

【問 44-1】現在、これらの支援制度等を利用したいと思いますか。（あてはまる番号すべてに○）

(n=4305)

	n	%
生活福祉資金貸付金	450	10.5
生活保護	122	2.8
母子父子寡婦福祉資金貸付金	354	8.2
児童扶養手当	826	19.2
いずれも利用したいと思わない	2275	52.8
無回答	723	16.8

【問 45】あなたは、これまでに困ったときに以下の公的機関に相談したことがありますか。相談したことがない場合は、その理由にもっとも近いものに○をつけてください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

		相談したことがある	相談したことがない					無回答	合計
			相談したかったがなかった	感があつた	相談したかったが抵抗	使いつらかつた	相談時間や場所などがわからなかつた		
市町村役場や福祉事務所の窓口	n	730	2579	196	72	265	463	4305	
	%	17.0	59.9	4.6	1.7	6.2	10.8	100.0	
児童相談所	n	179	3157	141	54	237	537	4305	
	%	4.2	73.3	3.3	1.3	5.5	12.5	100.0	
学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど	n	978	2367	228	78	175	479	4305	
	%	22.7	55.0	5.3	1.8	4.1	11.1	100.0	
民生委員・児童委員	n	170	3138	124	49	280	544	4305	
	%	3.9	72.9	2.9	1.1	6.5	12.6	100.0	
保健所（保健センター）	n	214	3097	110	58	262	564	4305	
	%	5.0	71.9	2.6	1.3	6.1	13.1	100.0	
ハローワーク	n	1019	2433	94	77	171	511	4305	
	%	23.7	56.5	2.2	1.8	4.0	11.9	100.0	
上記以外の公的機関	n	232	2757	74	45	308	889	4305	
	%	5.4	64.0	1.7	1.0	7.2	20.7	100.0	

【生徒票】自由記述

※一部抜粋

現在の暮らし

- ◆経済的不便はあると思うが、今の生活はとても満足している。頑張っ家計を支えることも自分の役目だと思うし、とても幸せです。
- ◆自分はやりたいことを親にさせてもらっているから感謝の気持ちをもたないといけないと思った。
- ◆きょうだい私を含め4人と多く、私までは大学に行かせることができるけど、あとの2人は大学に行かせることができるかわからないと母が言っていて、将来が不安。うち1人が、もしかしたら発達障害かもしれないとなっていて、そのことも心配。
- ◆学校は楽しくないし、親にはすぐ怒られたり、うるさく感じる時がある。心配してくれているのはわかっているけど、自分のペースというものがあるから、言わないでほしいときもある。
- ◆父が亡くなってから、母が一人で僕を含め3人の子どもの経済面を支えないといけなくなって、表だけみると、僕たちのために頑張っているのだろうけど、本当はとっても苦しんでいると思う。そのため僕も本当はアルバイトなどをして、母を助けてあげたいのだが、今は勉強が大事でそれができなくてとても困っている。だから僕はもっと母子家庭や父子家庭などの片親の家庭をもっと支援できるような制度が欲しいと思った。今回このような意見を述べられる機会を設けていただきありがとうございます。もっとこのような機会が増えるといいなと感じました。
- ◆私は英会話に通いたいのですが、費用が高くて通えません。せめて勉強が夜までできるスペースを提供してほしいです。家で勉強していても、親に呼ばれたり、きょうだいがうるさかったり、たびたび中断されてしまうことが多く、いつも家族が寝た後に勉強を始めます。でも、そうすると寝るのが夜中の3時や2時になることが毎日で寝不足です。
- ◆家庭内でトラブルがあると、今の私には話を聞いてくれる人などがいないので、居場所が無くなったように感じて、精神的に不安定になってしまいます。
- ◆私は LGBTQ で性別が自分でもわかりません。髪の毛が男の子みたいだけで、女子トイレに入るのがいやになります。まわりの目がとても痛くて辛いです。女の人と女の人が付き合ってもあたりまえの環境になるといいなと思います。
- ◆私は、中学生の頃から自分の性別に違和感があります。ですが誰にも相談できず、それに関する情報もネットからしか手に入らず毎日が苦しいです。沖縄県に相談所があるのは知っていますが、どうしても行く勇気が出ません。高校生や中学生などの学生に特化した相談施設や学校で話せる環境があればと思っています。
- ◆私は物心ついた時から両性愛者です。何故自分の生まれ持った事なのに、こんなに負い目を感じなければいけないのでしょうか。男女のパートナーより気持ち悪がられるのは何故なのでしょう。日本は同性婚が未だに認められません。認めて、一体誰が損をするのでしょうか。私は今のパートナーと結婚まで考えているわけではありませんが、認めてもらうことで世間にも多少の理解は広まるのではないかと思います。

支援等について

- ◆悩みがあったときに電話だけでなくLINEとかSNSがあったら話しやすいと思った。1回SNSで話せたら電話まで話す勇気が出ると思う。
- ◆精神的に不安定なものもあり、心がしんどいです。朝目覚めて自己嫌悪からだるさがあり、学校で誰にも言えず(言うのが怖くて)引きつった笑顔で過ごすも夜帰って言い表せない虚無感におそわれます。SNSで相談しようとアカウントを開くのですが中々できていない毎日です。電話でなくDMなどで相談できる所があればなと思います。

- ◆私は母子家庭で育ち、きょうだいもいます。母は私が幼いころから昼夜問わず働いて必死に育ててくれました。ですが、普通の人以上に身を粉にして働いているはずなのに、家計は苦しいです。母子手当やバスの定期の支援も受けることができ、非常に助かっています。そんな中、母は、病気にかかってしまいました。そのため、夢をあきらめ、高校卒業後、働くことも視野に入れていきます。私のような思いをしている人が、もっと苦しい、悔しい思いをしている人が、たくさんいます。夢のある人たちを、それを支える親たちを、もっと何かしらの形で支援していただけないでしょうか。私は、変わることを願っています。
- ◆私は母子家庭で育っています。母も仕事をしていますが、もっと母子家庭に対する支援などをもっと、やってほしいなと思っています。歯科や眼科などは無償にしてほしい。

学校生活

- ◆高校、大学の教材も無料にしてほしいです。
- ◆1回でもいいから、スクールカウンセラーをうけてみたいけど周りにその事をばれたくないからなかなかうけられない。自分の悪いところを直すために一緒に考えられる人と話したい。別に信じてない訳じゃないけど本当に悩んでいる内容を友だちに話せない。否定されるのが怖いし、裏で何か言われないうる心配になる。
- ◆先生たちは、何かあれば簡単に「単位あげないよ」とか言うけど、それを言えば、生徒が聞くと知っているし、それを言ったらパワハラと思いますので、勝手にきめないで、生徒の話をきいてほしいと思います。
- ◆学校内のみ教育委員会のみでいじめの対策法を考えるのではなく沖縄県という規模で深く捉え考えてもらいたいです。思っている以上に、苦しんでいる人はたくさんいます。いじめは無くならないと言われていますが、無くならないのではなく、無くそうと本気で考えていないだけだと思います。
- ◆小、中、高を通して先生方にあいさつをしなさいと言われてきましたが、私の通っている学校にはあいさつをしても返してくれない先生が多くいます。生徒にはきびしくあいさつの指導をするのに、どうして指導する立場である先生方があいさつを返してくれないのか疑問です。生徒だけでなく、先生方にもあいさつの指導を行ったほうがいいのではないのでしょうか？
- ◆学校の方針から外れた自分の道へ進みたい人たちの居場所をつくって欲しい（保健室では単位はとれない）。大多数の人の影にかくれた人たちにもっと目を向けてほしい。
- ◆私は、学校が嫌いです。私たち高校生にとって、世界とは家か学校だけです。もし、私の世界に学校や家以外の安心できる居場所があったら、どれほど幸せな日々を送れるだろうと考えることがあります。沖縄にそんな場所があれば、うれしいです。

校則

- ◆私は普通の女の子で好きになる人は異性である。でもスカートをはくのは、違和感がある。これはわがままですか？制服がスカートだから校則だからはいっているけど、本当は嫌です。私よりも性別で悩んでいる人はたくさんいる。だから考えてほしい。制服の選択は自由にすべきだと思う。
- ◆ツーブロックが禁止になる理由がわからん。別に学業に影響しない。
- ◆高校の規則を県で統一し、学習に関係のない規則は今すぐなくしてほしい。学校側は学習に必要なものは持ってくるなどというのに、学校の学習に関係のないことにまで口を出されて、勉強の息抜きもできずにいるから、勉強をしなくなるという悪循環。モチベーションも上がらない。特に、「日焼け止めダメ」とかいう意味のわからん校則。おかしいと思う。沖縄の紫外線の怖さを、沖縄県民は知っておくべき。焼け

【生徒票】自由記述

ていいことはない。皮膚がん、白内障の原因にもなるのに、おかしな校則。将来、シミができるかもしれないのに。ありえない。

早朝講座

- ◆自分を含めて、多くの高校生が少し忙しすぎると思う。朝7:30に始まる授業のために遅くとも6時には起床せねばならない。部活に午後7時過ぎまで参加し、さらにそこから多くの生徒は塾へ向かわなければならぬ。高校生の通う塾のほとんどが午後10時までだ。朝7時に登校し、帰宅すると夜10時過ぎ、1日の半分以上、実に15時間もブラック企業並みに活動しているのだ。生徒の心と時間のゆとりのためにも、せめて県立高校は「早朝講座(早朝学習)」の強制参加をやめて欲しい。
- ◆早朝講座があるからかわからないが、みんな授業中眠そうで、ほとんどの人が寝ている時もある。だから早朝講座は、見直した方がいいと思う。学校側に言っても、何にも変わらない。
- ◆学校が遠くて朝起きるのがつらい。それに加え、早朝講座もあるため、5:30に起きて6:00にはでないといけないのが精神的に苦しい。
- ◆睡眠時間が今の高校だと十分にとれず毎朝辞めたいと思う。早朝講座を希望制にしてほしい。1日8時間は寝たい。土曜講座もあるため、1日しか無い休日が全て睡眠でつぶれてしまうこともある。授業も自習も集中できないため、学校の拘束時間を減らしてほしい。
- ◆早朝講座を全県で廃止もしくは希望制にして欲しい。早朝からの授業は正直何も入ってこないものであり、睡眠時間が奪われ、非常に苦しい。本校を進学先にしなければよい、という話にはならず、中部地区の高校では、ほとんどすべての学校が導入しており、選択の余地がないものとなっているため、教育委員会からの通達を出してほしい。

勉強

- ◆私たちの高校では、生徒一人一人がスマホにアプリをダウンロードし定期的に宿題が出される。このような行いをする意味があまりよくわからない。宿題をやらなかったら、放課後居残りをする。生徒は早く帰りたいため、答えをうつして終わらす。これのどこに意味があるのかわかりません。お金と時間とスマホの容量のムダとしか思いません。また、アプリの宿題をしなかったら今後の進路をサポートできないと言われてた。先生が進学校にしたいくても、生徒たちがそれに無関心であれば、自称進学校のままだと思う。
- ◆自習できる図書館などがあんまりなくて、テスト前とか勉強しに行きたいときにできないことがあるからもっとたくさん勉強できる場所がほしい。英検、漢検、GTECなどの検定を無償化や、半額などにしてほしい。そのほうがお金や経済を気にせず受けられると思う。
- ◆学校の近くに勉強できる場が増えるとうれしい。ファーストフード店で勉強することもあるが、長時間利用するのは迷惑をかけてしまうので、困っている。
- ◆留学や検定できても、1次試験や2次試験だけで1万ほど、バイト5時間でもたりません。

その他

- ◆できれば給食のように学食をつかってほしい。
- ◆離島出身の高校生の金銭面の負担もっと減らせるような政策をとってほしい。
- ◆全日制と定時制を比べられるのは嫌だなと思います。定時制の人は、見た目はヤンキーに見えるかもしれないけど、中身は真面目で、勉強、アルバイトを両立している人もいますので、知ってほしいと思う。

通学

- ◆中学生・高校生には無料とは言わないけど、バスやモノレールの全額を半額か今よりも少しだけ下げたい。または、オキカのポイント還元増やして欲しい。
- ◆沖縄はバスで通学する学生が多いため、バス賃をもっと値下げした方が多くの方が喜ぶと思うし、公共交通機関をもっと発展させるのもいい案だと思います。
- ◆家から学校まで40分かかるのでバスを利用することがあるが、バスの本数が少なく時間調整がむずかしい。1回のバス代は1000円近く、行き帰りで2000円かかるのは少し困っている。
- ◆学生の通学費を無料にしてほしい(母子家庭の人たちからでも良いので)。
- ◆大学無償化やバス賃減額など、すべて、非課税世帯など中心。非課税世帯や片親でなくても、生活に苦労している家庭はたくさんあります。現に私がそうです。修学旅行に行きたかったけど、経済状況から行かないという選択をしました。毎日のバス賃だって安くありません。学生全員無料は厳しいのならば、非課税世帯等は無料、そうでなければ半額という手もあると思います。
- ◆私は毎日、早朝講座を受けにバスで通い、帰りもバスで帰ります。オキカを使用しますが、年間約18万4000円を交通費で消費します。来年度からバス代金免除の話がでていましたが、あてはまるのが非課税世帯ということで、あまり納得がいきません。私は母子家庭できょうだいが3人います。非課税世帯というくりではなく、家庭的、金銭的な事情を調べたうえで、希望者という形にしてほしいです。
- ◆バスの減便で不便になったので、バスの運転手の給料を上げるなどして(税金を当てるとか)人の確保を試みてほしいです。便が減って不便になって、使う人がもっと減って、渋滞がひどくなって、と悪循環だと思います。

進路

進学費用について

- ◆大学の費用が高いため、給付型の奨学金の受け取れる人数を増やしてほしいです。
- ◆自分が進学するとして、その負担が親を苦しめないかが不安です。親がどんなに大丈夫といっても、仕事に加え、アルバイトまでしている現状から申し訳なく思っています。とても不安です。
- ◆大学進学したいけど、お金がないから、いやだと言われた。無理にお願いできないし、夢をあきらめるしか方法はないのだろうか。やりたいことができないほど、辛いことはない。何も無いのに、いつのまにか泣いている。友人関係も、大学もいろいろ考えたらやる事が多くて何もできなさすぎて、めちゃくちゃ辛い。人生やめたくなる。
- ◆経済的理由で進学したい大学へ進学できないかもしれないです。進路の事を考えると、頭がいっぱいになり逃げ出したくなる。
- ◆検定やテストで毎日が忙しいとすごく思う。また、県外の大学や専門学校に行きたくても、あまりにも学費が高いと最近をよく思う。きょうだいがいるので、自分だけお金をかけることができないとすごく思う。
- ◆自分が行きたい大学があっても経済的に厳しく、また奨学金の基準に満たしていないことが多くとても貧困というレベルではないですが、とても苦しいです。周りはやりたいこと、買いたい物をすぐに手に入れたり実行できたりするのですが、私はほとんど我慢することが多く、自分の存在価値のなさを毎日感じています。塾には両親が必死で働いたお金を出してくれているので迷惑をかけないように夜ごはんを買うのもやめてお腹が空いたまま夜遅くまで勉強しています。周りと比べるのはいけないことだとわかっていますが

比べてしまう自分がいてそれもいやになります。行きたい(県外)大学に行ける人がとてもうらやましく感じると同時に自分がすごくみじめに思えてきてしまいます。アルバイトをして勉強が疎かになってしまう恐怖もあります。貧乏って言うのは甘えなのかなって疑問に思うときがあります。しかし自分のできる事が制限され続けているのでどうしても考えてしまいます。

入試制度について

- ◆新大学入試制度改革について、情報の不足、内容の変更が受験生を混乱させている!
- ◆入試制度を私たちの代で変えることで何か変化がおこるのか。くわしい内容が決まらなさすぎて不安です。もう少し時間をかけ、細かく内容を決めた上で決定すべきだと思った。
- ◆大学に進学するための共通テストがすごく不安です。センター試験で十分だったのになぜ廃止するまでになったのか理解できません。それから、最近きまった英検の申込みも予約金がいづ返ってくるのかわからず、ぼったくられたような気がして不安で仕方ありません。今の文部科学省には、軽く腹が立ちました。

修学支援新制度(大学無償化)について

- ◆親が助かるから、大学の無償化は実現してほしいと望みます。
- ◆修学支援新制度について、説明会だけでなく冊子やパンフレットでの説明がほしい。
- ◆大学無償化についてもっとくわしく知りたい。ポスターや講演などをしてほしい。
- ◆私立の大学を国公立と同じくらい授業料などをやすくしてほしい。もし無理だったら大学の無償化の基準を下げてほしい。
- ◆一番興味をもったのは、専門学校に行くための奨学金制度が変わるということです。今までの制度もあまりわかりませんが、良い方になると思うと自分の行きたい専門学校に行く意欲が、さらにわいてきました。あと無料塾制度についても少し興味がでてきました。できたら色々な知識を身につけたいです。
- ◆大学無償化については、とても期待しているので自分の行ける大学の範囲が広がるのはとても助かると思う。

その他

- ◆無料塾や大学無償化、高校無償化の動きがあるのはよいことだと思うが、所得により、それらが受けられないのは少し不公平さがあるように思える。行政がお金を捻出するのが大変だということはわかるが、所得税などもそれ相応の金額を払っているので子どもの学習面だけでも全員をサポートできるようにしてほしい。
- ◆大学進学を目指して毎日勉強しているが、家の近くに毎日利用できる、勉強をするための場所が少ない。冷房が入っている場所では勉強が禁止されていて、夏は勉強できないし、県立図書館ではそもそも勉強は禁止されている。学生や市民が勉強にとり組みやすい環境をととのえてくれると非常に助かると思う。
- ◆親の収入とかで、その子の学力が決まらないでほしい。どんな子でも自分が頑張れば何でもできるという希望と環境を整えてほしい。家で勉強しづらい人でも集中して勉強できる自習室みたいなところをもっと増えるといいなと思います。
- ◆県外大学への進学を希望しています。その際、生活を送れるかどうか不安を感じています。アルバイトで生活費をかせぐのは現実的でないと言われました。親からの仕送りも当てにできません。物価が高い、という理由で進学を断念した学校もいくつかあります。このような状況に対応できるような県外大学進学者向けの奨学金を設けていただけないでしょうか。
- ◆大学へ進学するにあたって、県外への進学を誰でもできるようにするため、学費だけでなく、生活面でのサポートや、塾へ行くのが金銭的に厳しいため、学校でのサポートを手厚くしてほしい。

部活・アルバイト

部活

- ◆部活は好きだけど、休みがなかったり、練習時間が長かったりして、部活以外の勉強とかをあまりできなかったり趣味に時間を使えなかったり、部活に縛られている感じがして、嫌です。自分の時間がないことで部活をやめることも考えています。部活のあり方をもっとしっかり先生とかに管理してほしいです。
- ◆高校の部活動で野球をしているのですが練習時間がとにかく長くてキツくてブラック部活です。野球は好きですが、長すぎてイヤで、うつになりそうです。どうか、練習時間を1日5時間とか義務づけにしてほしい。
- ◆毎日が忙しくつらいと感じるときが多々あります。朝はバス通のため5時半に起き、放課後は部活が終わるのが8時で、8時台のバスがなく9時まで待って家に着くのが10時になったりとても毎日が家にいる時間が少なく自分の時間がなくきついです。休日でも部活の時間が長いときで7時間だったり、やめようと悩んだ時期もありましたが、やめられなくつらいと感じています。
- ◆離島なので、何をやるにもお金がかかってしまい、部活動でも他校と練習試合したいとなると飛行機を使わないといけなくなります。なので、どの便でも離島割りを導入するべきだと思います。

アルバイト

- ◆就業時間通りにちゃんと終わることがありません。帰りたいというと、「あなたは、時間通りに帰ることが仕事ではありません」と言われます。でも、高時給なので辞められないです(経済的な面で…)。残業も、ほとんどお金が入ってないので、やりたくない。暗くなったり危ないから、この時間に終わる今のバイト先を選んだのに、これでは意味がないです。
- ◆学校は、部活動を優先していてアルバイト生はあまり評価してくれないので、何でかなと感じることがあります。部活生と対等にみるべきじゃないかと思います。
- ◆バイト先で7時間以上働いているにもかかわらず、休憩がないので、労働基準法の違反だと思います。
- ◆バイト先が本当にブラックすぎてヤバイ、休みがない、10時30分くらいまで働いている、人間関係がヤバイです。お願いします。たすけて、バイトヤメたい。
- ◆父が自営業(農家)なので、天候の影響などで、収入が安定して入らない。バイトをやろうか迷っているが、自分の学校はバイトが絶対にダメなので、どうしようか決めかねている。
- ◆進学費用のため、バイト申請をもらいに行ったら、まだ何も言っていないのにキレ気味にいろんな事を聞かれました。本気で大学進学したくて、経済的な理由で進学をあきらめたくない思いも伝えましたが、態度はそのままでした。バイトをすることは悪いことですか？

無料塾

周知について

- ◆無料塾など、県内で行われている活動を知らなかったのもっと積極的に参加したいし、日時を宣伝してほしいと思った。
- ◆高校生になって、いろいろな人が来ているので、中学のときよりもそれぞれの家庭の経済事情の差を感じることが多いです。特に、塾に行きたいけれどお金がなくて行けないという声をよく聞くように思います。頑張りたいと思ったときに、学力とかやる気以外にお金の面で差がついてしまったら本当にもったいないと思います。なので、無料塾についての情報がどの学校でも十分に伝わるようにしてほしいです。

- ◆無料塾などのこういう便利なサービスは、ホームページなどを自分自身で調べて知っていくことが一番大事だと思うけれど、学校宛てにお知らせなどで伝えてほしい。

利用について

- ◆非課税世帯以外にも無料塾などを行ってほしい。非課税以外にももっと充実した制度をやってほしい。
- ◆無料塾に入りたいが、入る条件を満たしていないため入れない。親は塾に入らせる気はない。どうやったら入れるのか教えてほしい。
- ◆国公立大を目指しており、塾にも行きたいがお金がなくて行かない予定なので、無料塾が気になります。今は特に受験への取り組み等ができていませんが、学力は割と学年でも上のほうなので国公立に挑戦したい。
- ◆きょうだいが県外の私立大に通っているので、僕に使うお金があるならきょうだいに回してほしいと考えています。もし無料塾があるのなら利用したいです。行きたい大学に一発で合格できるように努力していきたいと思います。
- ◆無料塾に入りたいがギリギリ条件を満たしておらず、入れなかった。普通に入るとなると厳しいので、条件を緩和してほしい。

その他

- ◆実現は難しいのかもしれませんが、塾の選択肢が欲しいです。今のままだと、どうしても同じ教室内のレベルの差がでてきてしまい、少しやりにくい上、自分自身を高めていけるようにも感じられません。県の制度で、無料で授業を受けさせてもらっている身で、とてもわがままかもしれませんが、是非検討していただきたいです(または、塾を個人で選択し、何割負担、のように出来ないでしょうか・・・?)。
- ◆無料塾に通いたいが、その時間をアルバイトしてお金を稼いだほうが良いとも感じてしまいます。今でお金を稼ぎもっと貯金をしないと進学ができないんじゃないかと心配です。貯金が家庭の経済面が不安定になると使われてしまっている現実に、最近、絶望を感じています。進学しようとしている事がまちがいのかなとも思っています。
- ◆無料塾をすることによってお金を払って塾に行ってる学生がかわいそうにみえる。逆に塾に行くお金がない学生もかわいそうにみえる。だから、そんなことをするより「学校」という場所が塾に通う必要がないくらいの教育を行えばいいと思う。平等なのか不平等なのかわからない世の中は嫌です。

その他

内容について

- ◆性別の欄に男・女と「無回答」という欄があり、性の多様性に配慮していると感じ良いと思った。
- ◆大学に行くのが普通だと考えているような質問がちょっと嫌でした。
- ◆家の経済的事情をたずねる質問があったが、それだけでその家の事情が計れるとはあまり思えない。
- ◆なかなか細かい所まで質問してくるので「うわっ、すげえなこれ」と思いました。
- ◆学校の事からアルバイトの事まで全部記入する事ができたので、よかったと思います。それ以外にも、いじめにあっていないか、何か嫌な事があったかなどもちゃんと書く所があったのも、とてもいいと思います。
- ◆私たちの年代に合った質問や選択肢が多くて答えやすかった。自分の解答が沖縄県の子どもたちに対する政策に少しでも役に立てたらうれしいです。

- ◆普段は考えたことのないことも改めて考えることができた。大学無償化や無料塾などが知らなかったけど、こういった制度があるとわかったので、他にも調べてみて情報を得たいと思った。これからも、学校を楽しんでいきたい。
- ◆経済的な理由等で塾に通えず、進学するための力が身に付かなかったばかりに進学を諦めるというふうな不平等な状態を減らそうという動きを垣間見ることができ、どこか安心した。これからの高校生の夢を無駄にしないためにも、こういった活動が盛んになっていけばいいなと思う。
- ◆このアンケートは誰にも見られないということで素直に書くことができたので良かったです。このアンケートとてもいいと思うのでときどきやったほうがいいと思います！
- ◆先生たちがあまり把握できていない生徒たちの家庭環境や状況をよく理解できるいい機会だと感じた。

要望等

- ◆学校先生方が見ないと書かれていたので真剣に取り組みました。自分のアンケートが参考になるようお願いします。
- ◆このアンケートから得られた情報を、具体的にどのように活用しているのか、教えてほしいです。「支援策や困りごとの解決策」というのが、どのようなものなのか、誰を対象にしたものなのか、など、内容を知りたいです。そうすれば、私たちが普段の学校生活で気づいていない「周りの人に支えられていること」をリアルに感じることができるし、解決や支援をうける側の当事者である生徒が実際にその策についてどう思うのか意見をとり入れやすくなると思います。
- ◆県がこのようなアンケートをとって、みんなの暮らしや学校生活をよりよいものにしようとしているのがとても良いと思った。自分はどちらかというと経済的に苦しい生活をしていて、このアンケートで大学無償化や無料塾があるのをはじめて知って、もっと詳しく知りたいと思った。私は県外の大学に行きたいけど、オープンキャンパスに行くためのお金やあっちに住むときのお金、大学の入学金など、どんなに頑張っても払いきれないとても大金で、職業を変えて県内の大学に行こうか迷っているところです。だから、県外の大学に行くとしても負担の少なくなるような制度ができてほしいです。

その他

- ◆教育を受けることにおいて、経済格差がなくなればいいと思う。
- ◆沖縄県の最低賃金をせめて 850 円にしてほしい。

【保護者票】自由記述

※一部抜粋

就労・所得

- 病気のためWワークが出来ず子どもに不自由をかけています。食や衣などで。親の無力を感じています。でも生きているだけで幸せだと思いたいです。
- 共働きでも中間層にならない家庭も増加している中で、現段階の制度等は貧困層にとっても有利な内容ばかり。何一つ当てはまらない現状を知ってほしい。両親がそろい共働きだからといって裕福ではない。日々の生活で精いっぱいな家庭が多い。もっと制度や支援策の範囲を考えてほしい。
- 沖縄はとにかく収入が低い。県民がもう少し豊かになれば子どもたちの未来も変わってくると思う。今、子どもたちに何ができるか、少しでも多くの教育を受けさせる事だと思います。それには、とにかくお金、お金がかかるんです。でも、沖縄は給料が安いんです。命を削って昼も夜も働くしかないと思います。そのうち、体を壊します。そうすると働けなくなり、いい教育が受けられなくなります。それをどうにかしてほしい。
- 父母が共働きで生活を楽にしたいと給料を上げたところで、税金が上がり、子どもが多いので国保が上がり、いろいろな(学校関係)免除が受けられず、給料が上がった以上に出費が増すばかり。高校生はアルバイト禁止のため、いろいろ我慢してもらっている。もう出費で削れるものはない。最低限の生活を送っている。国は何を見て所得からの税金を割り出しているのか。沖縄の物価は高いし、給料安いし、子ども多いし不釣り合い。世の中、少子高齢化なのに今ある若物、子どもが生きにくい社会、国に未来はあるのか…とすごく考える。

学校・部活・塾

費用等について

- 高校生になるとお金がかかりすぎる!高校は義務教育ではないという理由で授業料(ほとんどの生徒は免除されるが)、教科書代(それだけで済むならまだしも、子どもから参考書を買いたいとお願いされる…。家計キツイ!)、校納金(すっっっごい高い!子どもが利用しない活動費などもあり納得できないものもある)…。その他にも交通費、制服・体育着代、弁当代…本当にキツイ!赤字!家計は火の車!
- 保護者の経済状態にかかわらず、高校まではすべての子どもが等しく学べる環境をつくれたらと常日頃感じています。小学校から毎月の校納金や部活動費、部着やユニフォーム代等多くの支出がありますが、本当に必要な経費であるのか、過度なものはないか(学校・クラス単位でのクラス T シャツやオリジナルのがんばりノート等)、そういったものを見直して、すべての子どもが引け目や負い目を感じることなく勉強やスポーツに勤しむ環境・仕組みづくりをしてほしい。
- 子どもが多いため教育にかけるお金がとてめにかかる。奨学金の申請もしているが、なかなか受けられない。生まれた時にお金を給付するだけでなく、教育をするうえで必要なお金や施設を充実させてほしい。日本、沖縄を担う子どもたちです。少子化対策は子どもを育てるためにかかるお金の負担を減らす事も重要なのではないかと思います。

部活

- 部活に入りたくても親の送迎(試合、練習試合など)ができなくて参加出来ない子がいるので支援策として考えて欲しい。送迎ができないのでやめてしまう子もいる。学校の部活のあり方を見直して欲しい。
- 家庭への負担が大きすぎて正直なところ困っている。週末・夏休み等の休日練習の際の当たり前の送迎、大会遠征(本土)やシーズンごと(年4回)の本土合宿の旅費等。経済的な余裕がなく、苦しい中どうに

か捻出している状況な上に、週末も送迎等に振り回される。我が子が好きで熱中している・頑張っている事だから親も文句を言わず我慢しているが、どう考えても理解・納得できない。指導者、学校、協会側に常識ある配慮を願う。又、未来ある子どもたちのために、国・県・地域・企業あらゆる機関の支援を願います。

- 離島に住んでいると部活の大会の遠征費の出費が大変です。

塾

- 小、中学校は塾の代金はそれほど月謝が高くはないが、高校生の通う塾の月謝代（特に夏季）はどれも高く、通わせてあげたくても1年間だけしか行けなかった。
- 高校に入ってから一気に支出が増えた。義務教育ではないのはわかるが塾代も高く通う事がむずかしい。勉強したい子にはもう少し支援制度がほしい。借りても返す余裕がない。

その他

- スクールカウンセラーへ相談した事があるが、先生方や保健室との情報共有も出来ておらず残念に思った。専門的な立場から支援できるよう体制をもう少し考えてほしい。
- 沖縄県の所得の低さ、より良い学校へ行かせたくても行かせてあげられない現実。奨学金も「借金」ではない。子育てにお金がかからない日本になってほしい。このアンケートが意味のあるものになることを願います。
- 現社会において高校までは義務教育化されている様に感じられ、高校進学が当然のようになってきている。その中で毎日のお弁当作りの大変さが…食べ盛りのお子のお弁当の量、(栄養面において)おかずの数を考えると高校でも給食制度にしてほしい。

通学

通学費用について

- オキカが出来る前は、学生割引のバス券がありましたが、今はありません。この差は大きく、これを機にバス利用を控えるようになり、自家用車で送迎することが多くなりました。
- バスを利用して、乗り換えがあるため定期を利用しにくい。乗り換えがある者の割引があれば良い。
- 沖縄県は、以前住んでいた地域と比べおどろくほどバスの運賃や定期代が高く、しかも不便です。子どもの頃から自家用車だけに頼りすぎて、大人も子どももそろって不健康な生活をしていると思います。

ひとり親家庭高校生通学サポートについて

- 生活にゆとりがないので、ひとり親世帯のバス半額援助はとても助かっています。
- 現在「ひとり親家庭高校生等通学サポート」でバス定期券を利用していますが、バス会社が限定されるので困る。すべてのバス会社が利用できると、通学、帰宅の時間に余裕ができる。
- ひとり親サポート事業、登録していますが、平日の昼間のみ窓口のため、とても利用できません。通常のオキカでバス利用しています。そのため、めったにバスに乗せず、車やオートバイで送迎しているので、ひとり親サポート事業は一度も利用していません。はじまってから今まで登録のみ。とても不便です。

その他

- 北部から那覇の高校へ通うには、アパートを借りるしかないので、北部の生徒向けの寮があれば利用したい。
- 一時期、通学時間帯のバスが2便ストップし、大変困りました。のちに復活しましたが、こんな迷惑なことはやめていただきたいです。
- 学校の前までバスはあるが早朝講座があるためバスは利用できず（始発が遅い）とても不便を感じている。

進学

- ひとり親世帯。来年進学を考えている子どもに学費が高いからと行くなとは言えない。夢に向かって頑張っている子どもたちが、学費をあまり気にせず、進学できる環境を整えてほしいです。
- 小・中・高・大学、早めは無償化してほしいです。どんなにがんばっても大学まで行かせるお金がない。子どもは進学したがっていますが、きょうだいもいて、上の子だけを進学させることはできたとしても下の子たちの分までは到底無理です。みんなが望むならば進学させてやりたい…でもどうしても無理なのです。お願いします。

奨学金について

- 公的機関の貸付制度はありがたいことではあるが、返済のことを考えると不安になり利用しづらい。子どもは奨学金を受けて学校を卒業しても、その時点で高額な借金をかかえており、希望する進路や就職ではなく返済をするために、とりあえず働く、、、そこから抜け出せず、私と同じような人生を歩むのではないかといつも不安になる。貧困が繰り返されないためにも給付型の支援制度の拡充と、現在、奨学金返済で苦しんでいる方の救済を強くお願いしたい。
- 家計は苦しいですが、子どもたちの進みたい道を歩ませたいと思っているので、奨学金を借りたり教育ローンを借りたりしています。親の借金、子ども自身の借金と将来の事を考えると不安になりますが、何とかなるだろうと考えています（そう思わないと進まない）。子どもたちが成長し、仕事をすれば、みんなで返済していこうと思っています。今は健康で働いていますので、この調子で頑張ろうという気持ちです。しかし、共働きでも苦しいので、何か支援があれば有難いです。収入が中間層の家庭の支援もお願いしたいです。出来れば返済なしの奨学金制度が出来てほしいです。
- 現在、子どもは専門学校への進学を希望しており、今の時点で先生方の組合による奨学金（数万円ほど）を取得できることが決まっている。だが金額的にかなり足りない。本人は、出来るなら給付型の奨学金を受けたいとの事で勉強を頑張っているが給付型は色々とハードルが高い。学力で計る（査定）のはもちろんだが、夢への意欲面もみてほしい。それと、今ある奨学金制度以外に困窮世帯（生活保護）等を対象にした奨学金があっても良いと思います（あるとありがたいです）。昔と違い、貸与型の奨学金は成人してから返済していくのがものすごく厳しい時代、本人の夢をサポートしていきたいが出来れば貸与型だけは受けてほしくないのが親の本音です。
- 卒業後の進路を考えねばならないが、本人は大学進学を希望しており、学力的にも可能だとは思いますが、経済状況を考えた時学費の工面が困難だと思う。奨学金も考えるが、返済が大変になるだろう。貸与型でなく、給付型奨学金の範囲が（金額・所得）も含めて広がれば良い選択肢が増え希望が持てると思う。

修学支援新制度(大学無償化)について

- 今回のアンケートで大学無償化の制度が始まる事を知りました。これから受験をひかえているため、詳しく調べるきっかけとなりました。この様な進学等に関わる情報として、小さな事でも教えて頂けるととても助かります。
- 大学無償化、就学援助の範囲が狭い。私は、父子家庭で、生活は厳しい状況ですが、子どもが大学に進学する費用までは、用意できていない。生活保護くらいじゃないと無償化にならないのは、条件が厳しいと思う。
- 大学無償化の制度で住民税非課税世帯は負担なし、準ずる家庭は年収に応じて1/3負担、2/3負担と3パターンしかありませんが、年収は少なくとも(250万未満)均等割のみの課税で、年間何十万も負担がでてくると聞きました。この制度が始まる事を知って県外難関大を目指し、日々勉強に励んでいます。低収入家庭へのより良い支援となるよう3パターンからもう少し段階を増やすなどご検討いただけると有難いです。
- 子どもの進学への道が開かれるのなら、大学無償化を受けられるなら、専門的な大学も考えることが出来るので私としては望みが叶うと思います。進学費用が高額なので無償化が実現し申し込むことが出来るなら道は1本ではなく無数の道がみえてきます。希望がみえます。
- 母子家庭で、子どもを2人、本当に毎日の生活がかつかつで大変です。子どもの体育着も小さくなり、新しく買ってあげたくても、キビしくて…。でも、子どもは専門学校への進学を考えているので、入学費など工面のために、どうしたらいいのか今から頭がいたいです…。市役所に相談も行きましたが、保証人がいなくて諦めました。もうどうしてやればイイのか。子どものために、どうかしたくても出来ません。なので、大学なども無償化になってくれると本当に助かると思います!!
- 修学支援新制度(大学無償化)、非課税世帯に準ずる世帯だけじゃなく、すべての家庭に出来ると良い。大学や専門学校は高く進学を断念する子たちは多いと思う。高額奨学金を借りて通っている方がほとんどで、すべての家庭で支援が受けられるといいと思う。

その他

- 進学を考えているのだが、経済的に厳しく、オープンキャンパスに行く費用負担が大きく、行かせられずにいる。1回など、費用の補助等があれば前向きになれる。また、検定など受けるにあたり、同じく半分の補助等もあれば、受ける回数、チャレンジする回数が増えると思う。
- 大学生の子は奨学金とバイトをしながら自分で頑張っており、高校生の子は大学進学を希望し、塾にも行かず、自分の力で頑張り、今現在難関と言われる国立の大学をめざしています。本当は塾にも行きたいのでは、などと思い悩んでいます。良いのか悪いのか親の生活状況、家の金の状態を知っているので、自分たちで頑張っています。しかし、現在学校の先生方から良い指導を受けているので、学校生活も大変満足しています。
- 母子家庭ですが、生活のために少しでも給料が良いところだと思い働いていますが、生活実態はギリギリです。でも給料が良いので住民税を払っていますし、課税世帯になり制度が受ける事ができません。がんばる事が正直ばからしくなります。決まっている事なので言っても意味ないと思いますが、不満を書きました。少しでも本当に必要としている人が利用できるの良いなと思います。
- 高校2年生の娘は「大学希望」の夢をもっているのは是非できるのであればかなえてあげたい。しかし経済的に苦しいことを娘に伝え、やる気のつぼみをつんでいたかのように思います。本人は「アルバイトでかせいで大学行くんだ」と夢をあきらめないでいます。でも我が家は苦しいのでアルバイトで貯めたお金も生活費にあてたりして悲しい現実です。娘の「夢」に行政の力をかしていただけたらと思います。どうかよろしく願い致します。

支援制度

医療費について

- 体調が悪い時に子どもに少し我慢させます。医療費をおさえるため…。それ以上に私はほとんど病院、歯科に行かないように気づかないふりをしています…。普通に病院に通える日はなかなか来なくてつらいです。かと言って体は強いほうではないので、長時間働く事はムリです。子どもの医療費だけでも無料になると安心なんです…。
- 18歳未満の子どもには医療費はなるべく無料にしてほしいです。

高校授業料の無償化

- 高校授業料無償化について。所得制限があるため、支払っている生徒と免除になっている生徒が混在する現状で、生徒間で差別化されているようだ（金持ちだから…貧乏だから…とからかわれたり）。生徒間は、悪気はなく冗談で言うのかもしれないが、気にする子もいるようだ。

児童手当

- 子どもが小さい時も、それなりにお金はかかりますが、義務教育でなくなったとしても、ほぼみんなが高校へは進学しています。その高校生になってから児童手当がなくなってしまうのは大変な打撃になります。高校生になってからのほうが、お金がかかりそれからまた進学となると、さらにお金がかかっていきます。高校生までは児童手当として支給が、そのまま続いてほしいと思いました。

生活保護

- 生活保護を受けていますが、高校の修学旅行が対象外になります。課外授業、社会体験なども含むであろう内容なのですが、今後、支援等の対象になる事を望みます。クラスで一人行く事が出来ず、また17歳の一番の思い出に本人がいない、行けないのは大変心苦しく、また私自身成すすべもなく、心苦しく思います。今後対象になる事を心より望みます。

就学援助

- 就学援助はとても良い制度だが、対象外でもギリギリのラインの世帯にとっては非常に不公平に感じる。もっと差をなくしてほしい。すべて満額支払っていて経済的にかえってゆとりがない…。
- 私が母子家庭の時、就学援助という制度があると知らなくて、生活が苦しいのに2人分払っていて、後々知り合いからそういう制度があるというのを知りました。役所等はこちらが助かる制度はお知らせや通知等があまり来ないのに、支払いの請求等はしつこく通知が来るというやり方を変えて欲しいです。みんなが平等に支援を受けられるようにして欲しいです。

制度の利用について

- 大学進学の際、母子父子寡婦福祉資金貸付金制度を利用しましたが手続きにとても苦労しました。保証人も同伴しての面談の内容も苦しいものでした（本人の離婚の原因等の質問はもちろん保証人の家族構成の質問、何故そうなったかの問いかけも、第三者の前で話さなければいけないのか、とても辛かったです）。手続きもとても多くて、制度利用をあきらめようかと思いましたが、この制度を利用しなければ子どもを大学へ行かす事が出来なかったため、泣きながら手続きをした事は忘れません。でも、現在は制度を利用して大学へ進学できたので感謝しています。

- 以前、自治体の広報に母子家庭で新入生のいる家庭に給付金が出るので申請する旨の情報があつたので担当課へ行きました。対応した職員に、「これはみんなの税金だから大切に使いなさいよ」と言われ、屈辱感でいっぱいになった。子どもたちを連れていたので怒りをおさえた。涙がにじんだ。
- 金銭的な理由で進学させる事が厳しい現状があり、生活福祉資金を利用したが、学校の支払いが一括で合格して1ヶ月以内の入金という事で困った。学校側（専門学校）からの取り立てが厳しく、子どもがづらい思いをしている。勉強したい学びたい気持ちはあるが、「どうしてお金厳しいのに進学したのか。就職したほうがよかったんじゃないか」と学校側にいわれ、子どもの気持ちを考えない発言をされた。母子家庭で子どもにづらい思いをさせて申し訳ない。

その他

- 収入がある程度あっても、きょうだいが多いとゆとりがあるとは思いません。非課税世帯対象の制度が多く、利用が出来ない事は平等だとは思えません。余計に進学の幅が狭くなっている様に感じます。きょうだいの有無なども考慮して頂けると助かります。
- 制度や支援策の周知が必要な方へいき届くよう、学校関係者（職員）への周知の場を設けてほしいです。
- 制度や支援の内容など、いろいろな種類がある事を今回このアンケートで知りました。私は、家と仕事の往復の日常なので情報があまり無い。子どもにいろいろなプリントや資料を配布してくれると助かります。子どもも、それを見て「こんなのがある」「やりたい」「受けない」と言ってくれれば、一緒に進学について話し合う事ができるかも…。

無料塾

広報・手続きについて

- 無料塾や修学支援新制度等がまだ広まっていない感じがする。もっともっとPR等やってほしい。
- 無料塾（大学等進学促進事業）が受けられるなら、子どもを受けさせてあげたいと思いますが、どういった手続が必要なのか等、まったくわかりません。
- 無料塾はまったく知りませんでした。高校から資料を配布してもらえたら助かります。でも通う子が少ない場合、「塾代が払えないんだ」といった目で他の子に見られるような事になると、通いたくても通えない塾になってしまう。家の子が他人の目を気にして、その塾に通わせるのは心が痛い。有料の塾がもっと安くなってほしいとも思います。

その他

- 無料塾を利用した事はありますが、高校生の娘と息子の学力や必要な教科がなく、ただ場所を与えた、インターネット環境の部屋を使って下さいというような形で、実際に役に立たなかった。英語と数学のみで、先生はレベルが低く、英語は特に大学のサポートも文法の説明も勉強不足でした。数学に関しては、プリントを渡して勝手にやる。個人の質問に答えてくれる事はなく、最初は頑張って行くようにしていた我が子たちは、1ヶ月後はやる気を失い、3ヶ月後には行くのを止めてしまいました。内容の無い、ただ形だけの事業、子どものニーズをしっかりと考えていない取り組みは子たちのやる気を失わせるだけでなく、その後の塾へも行くのを嫌がる様になりました。せっかく説得して入れてこいう結果になり、残念なだけでなく、後々まで本人たちのやる気を失わせました。しっかりした、内容のある生徒のニーズに手の届く、心ある取り組みと母子家庭でも志を高くしている子どもたちの助けになってほしいと思います。

- 無料塾等利用したいが自宅より遠く、親は仕事で送迎もできなく、利用する事ができない。学校区内に1ヶ所設ける事は難しいですか？

その他

アンケートについて

- 今回のアンケート調査を回答していて、自分たちはごく普通と思っていたこと(子どもの誕生会をする、海水浴に行くなど)も経験できないご家庭もあるかもしれないと感じ心苦しくなりました。すべての子どもたちが生き生きと暮らしていけるように私たちも、もっと身の回りに気配り目配りしなければと思います。
- このアンケートとても良いと思いました。相談したくてもその場所がわからなかったり仕事のタイミングと合わない人は多いと思います。親にも子どもにも、そういう相談場所や方法などもっと広く使うことができたらと思います。相談する事を警戒したり、敷居高く思わないでいられるようなサポートを期待しています。

子育て支援について

- 小学生の放課後学童の月々が高いので、もう少し助成して頂きたいです。高校生になると、本島への派遣などがありますが、自己負担が大きくて行かせられない時があります。検定試験のためのテキスト購入も数が多いと負担が大変です。
- 来年4月に小学校へ入学する子どもがいます。私、夫共にフルタイムで働いているため、小学校下校時の預け先に悩みます。民間は高額過ぎてとても払えません。公立は低価格ですが募集枠が狭くて入れるかわかりません。放課後は、不審者や交通事故、事件にあう確率も高くなると思われ、できれば小学校にてそのまま預ける事ができれば親も安心して仕事に取り組みます。小学校低学年の児童の安全、学力向上のために、空いた教室で過ごすことを検討して頂きたいです。周りの知人もフルタイムからパートへ切り換えしないといけないと話してました。私も公立の学童入所不可の場合、パートへ切り換えすると収入が減り、生活が苦しくなります。民間学童も補助がある様ですが、条件者限定枠です。納税者の方、平等に取り組みして頂きたいです。

その他

- 今は昔と違って子どももスマホを持つようになり、通信料が多くかかる。消費税も上がって、生活にはゆとりがなくなる一方だと思います。だけど、教育はすべての子どもに、平等に与えられる権利だと思います。お金のゆとりのある子どもだけが、良い教育を受けられる、というのは不公平なことだと思うし、希望が親にも子にも持てなくなります。理想だと思うが、いつかは、子どもたちみんなが、好きな習い事ができたりと平等になればいいなーとは思いますが、沖縄県はいろんな問題をかかえているので、教育を最優先に!とは言えません。苦しい中で払っている税金をどう使っているのか、県民が納得できる使い方をしてほしいし、希望をもって生きていきたいなーと改めて感じました。
- 私は非常に貧しい家庭で育ちました。支援が行きとどいていと思った事はありませんでした。現在、自身もひとり親ですが、支援を受けずに経済的には自立しています。しかし、時間にゆとりはなく、職場環境のせいもありますが、睡眠時間や休息時間が足りません。家事労働などの支援があると助かります。地域で相互に助け合うしくみがあるといいなと願います。

- 県が子どもの貧困対策（例 就学支援金、大学などの入学金、授業料の無償化、給付型奨学金）を行う事は大変よいことだと思う。子どもの学習機会を保障することで、将来的に沖縄が抱える問題（例 低所得、学力向上、生産性の向上）の多くが解決できると思う。
- 年々、教育に関する費用の補助の種類が増え、大変助かります。ありがとうございます。” 貧困の差 “を教育で少しでも埋めることができるような国の支援を期待します。

【生徒票】調査票

【生徒票】沖縄子ども調査（高校生調査）

沖縄県子ども生活福祉部
子ども未来政策課

調査協力をお願い

この調査は、あなた自身のこれまでの学校生活や暮らし、将来の夢や希望、困りごとなどについて調べることにより、希望する将来の夢への支援策や困りごとの解決策に役立てるために実施します。

この調査に答えた内容は、保護者や学校の先生方が見ることはありません。

沖縄県は、この調査結果をもとに、あなたたちのために何ができるのかを考えていきますので、ご協力をお願いします。

記入について

- ◎この調査は、あなた自身が自分で書いてください。
- ◎お名前を書く必要はありません。調査の集計は統計的に処理し、個人や学校を特定することはありません。また、目的以外に使うことはありません。
- ◎答えたくない質問には、答える必要はありません。
- ◎答えは、あてはまる番号に○印をつけるか、数字や文章で書いてください。
- ◎自分の思う答えを書いてください。
間違った答えや、正しい答えはありません。思うままに書いてください。

提出について

- ①全部書き終わったら、青字で「生徒用」と書かれた封筒に入れ、のりやテープでしっかり閉じてください。
- ②封筒を閉じたら、赤字で「保護者用」と書かれた封筒と一緒に「提出用」と書かれた茶色い封筒に入れて、提出用封筒もテープでしっかり閉じて、提出期限までに学校に提出してください。

質問などがありましたら、以下にお問い合わせください。

受託事業者 沖縄県子ども調査事業共同体（沖縄大学およびNPO 法人沖縄県学童・保育支援センター）

TEL：098-870-1838

受付時間：9時～17時（月～金）

※この調査は、沖縄県の委託を受けて、沖縄県教育委員会の協力の下に行われるものです。

※沖縄県子ども調査事業共同体は、沖縄大学とNPO 法人沖縄県学童・保育支援センターで構成されています。

【問1】あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 男	2. 女	3. 無回答
------	------	--------

【問2】あなたの生まれた年と、現在の課程や学科を教えてください。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

①生まれた年

1. 1998年	2. 1999年	3. 2000年
4. 2001年	5. 2002年	6. 2003年

②課程

1. 全日制	2. 定時制
--------	--------

③学科

1. 普通科	2. 工業科	3. 商業科	4. 水産科	5. 家庭科
6. 情報科	7. 福祉科	8. 総合学科	9. その他に関する学科	

※※ 西暦1998年3月以前に出生した方はここまでとなります ※※

学校・勉強について

【問3】学校は、あなたにとって楽しいですか。(あてはまる番号1つに○)

1. 楽しい	2. 楽しくない	3. どちらとも言えない
--------	----------	--------------

【問4】あなたの得意な教科は、どれですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 国語	2. 地理歴史	3. 公民	4. 数学	5. 理科
6. 保健体育	7. 芸術(音楽・美術・工芸)	8. 外国語	9. 家庭	10. 情報
11. 総合的な学習の時間	12. 専門分野の科目	13. どれもあてはまらない		

【問5】あなたの成績は、学年全体でどれくらいですか。「A. 中学3年生の時」および「B. 現在」のそれぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	上のほう	中の上	中くらい	中の下	下のほう
A. 中学3年生の時	1	2	3	4	5
B. 現在	1	2	3	4	5

【問6】あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(あてはまる番号1つに○)

1. いつもわかる	} → 問7へ
2. だいたいわかる	
3. あまりわからない	
4. わからないことが多い	} → 問6-1へ
5. ほとんどわからない	

【問6-1】問6で学校の授業が「4. わからないことが多い」「5. ほとんどわからない」を選んだ方にお聞きします。

いつごろから、授業がわからなくなりましたか。(あてはまる番号1つに○)

1. 小学1・2年生の頃	2. 小学3・4年生の頃	3. 小学5・6年生の頃
4. 中学1年生の頃	5. 中学2年生の頃	6. 中学3年生の頃
7. 高校1年生の頃	8. 高校2年生になってから	9. わからない

【問7】あなたは、平日(月～金曜日)の学校の授業以外にどれくらいの時間、勉強をしますか。

1日あたりの勉強時間を教えてください。※塾などの時間も含まれます。(あてはまる番号1つに○)

1. まったくしない	2. 30分より少ない
3. 30分以上、1時間より少ない	4. 1時間以上、2時間より少ない
5. 2時間以上、3時間より少ない	6. 3時間以上

【問8】あなたは現在、部活動に参加していますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 参加している → 問9へ(次ページ)	2. 参加していない → 問8-1へ
-----------------------	--------------------

【問8-1】問8で「2. 参加していない」と答えた方にお聞きします。

その理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 参加したい部活動がないから	2. 部費や部活動に費用がかかるから
3. 勉強が忙しいから	4. アルバイトをしているから
5. 塾・習い事が忙しいから	6. 家の事情(家族の世話、家事など)があるから
7. 一緒に参加する友だちがいないから	8. その他

アルバイトや仕事について

【問9】あなたは、高校に入ってから今までにアルバイトや仕事をしたことがありますか。

(あてはまる番号1つに○)

1. 現在している	} → 問9-1へ
2. 過去にしたことがある	
3. まったくしたことがない	→ 問10へ(次ページ)

【問9-1】問9で「1. 現在している」「2. 過去にしたことがある」を選んだ方にお聞きします。

①アルバイトや仕事をするのはどのような時ですか。(あてはまる番号1つに○)

1. 年間を通していつでも	2. 長期休暇期間など、時間に余裕があるとき
3. 単発の仕事で、タイミングがあったとき	

②学校がある日(月～金)の平均的な日数と1日あたりの勤務時間について教えてください。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

A. 日数	1. 1日	2. 2日	3. 3日
	4. 4日	5. 5日	6. 学校がある日は働いていない
B. 勤務時間	1. 3時間以下	2. 4時間	3. 5時間
	4. 6時間	5. 7時間以上	6. 学校がある日は働いていない

③学校が休みの日(土・日)の平均的な日数と1日あたりの勤務時間について教えてください。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

A. 日数	1. 1日	2. 2日	3. 学校が休みの日は働いていない
B. 勤務時間	1. 3時間以下	2. 4時間	3. 5時間
	4. 6時間	5. 7時間以上	6. 学校が休みの日は働いていない

④1か月でどのくらいの収入がありますか。平均的な額を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 2万円未満	2. 2万円～4万円未満	3. 4万円～6万円未満
4. 6万円～8万円未満	5. 8万円～10万円未満	6. 10万円以上

⑤アルバイトや仕事で稼いだお金は何に使っていますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 家計の足し	2. 通学のための交通費	3. 修学旅行などの学校行事費
4. 学校の昼食代	5. 学用品(文具など)	6. 現在の学費(授業料や校納金)
7. 部活動の費用	8. 塾の費用	9. 進学のための費用
10. 友だちと遊ぶ費用	11. 携帯・スマートフォン代	12. その他

⑥アルバイトや仕事をしていて、労働条件などに関して次のようなことはありましたか。

(あてはまる番号すべてに○)

- | |
|--|
| 1. 採用時に約束した仕事以外の仕事をさせられた
2. 一方的に急なシフト変更を命令された
3. 採用時に約束した賃金額（時給単価など）より実際に支払われた額が低かった
4. 働いた分の賃金が全額支払われなかった
5. 賃金が所定支払日に支払われなかった
6. 何らか（物損、遅刻、欠勤等）のペナルティとして弁償や罰金を求められた
7. 深夜時間帯（22時以降）に働いたことがあった
8. 働く前に自分の賃金や勤務時間などの労働条件について、まったく説明はなかった
9. 暴力や嫌がらせを受けた
10. 退職を申し出ても（勤務先の都合を理由に）やめさせてもらえなかった
11. 1～10にあてはまることはなかった |
|--|

ふだんの暮らしについて

【問10】 平日の SNS（LINE、インスタグラム、ツイッターなど）とオンラインゲームの1日あたりの使用時間について、それぞれ教えてください。（あてはまる番号1つに○）

A. SNS について	1. まったくしない	2. 1時間未満	3. 1～2時間未満
	4. 2～3時間未満	5. 3～4時間未満	6. 4～5時間未満
	7. 5～6時間未満	8. 6時間以上	
B. オンラインゲームについて	1. まったくしない	2. 1時間未満	3. 1～2時間未満
	4. 2～3時間未満	5. 3～4時間未満	6. 4～5時間未満
	7. 5～6時間未満	8. 6時間以上	

【問11】 あなたの一番仲の良い友だちは、どのような友だちですか。（あてはまる番号1つに○）

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| 1. 今通っている学校の友だち | 2. 小・中学校で一緒だった友だち |
| 3. 近所に住んでいる友だち | 4. スポーツ・チームや部活動（クラブ）の友だち |
| 5. 塾・予備校の友だち | 6. 習い事の友だち |
| 7. アルバイトなどの職場の友だち | 8. その他の友だち |
| 9. とくに仲の良い友だちはいない | |

【問 12】あなたは、平日の自由時間（学校の放課後）は、だれと過ごしますか。一緒に過ごすことが一番多い人に○をつけてください。（あてはまる番号1つに○）

1. 家族（祖父母、親せきなども含みます）
2. 家族以外の大人（近所の大人、塾・予備校や習い事の先生、スポーツクラブのコーチなど）
3. 学校の友だち
4. 学校以外の友だち（地域のスポーツクラブ、近所の友だち、小・中学校で一緒だった友だちなど）
5. アルバイトなどの職場の人
6. 一人である

【問 13】あなたは、平日の自由時間（学校の放課後）は、どこで過ごしますか。1週間のうち、そこで過ごすおおよその日数に○をつけてください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）
自由時間がない場合は、すべて「4 そこではまったく過ごさない」に○をつけてください。

	毎日	週に 3～4日	週に 1～2日	そこでは まったく 過ごさない
A. 自分の家	1	2	3	4
B. 友だちの家	1	2	3	4
C. 塾・予備校	1	2	3	4
D. 学校	1	2	3	4
E. スポーツ活動の場（野球場、サッカー場など）	1	2	3	4
F. 文化活動の場（習い事、音楽など）	1	2	3	4
G. アルバイトなどの職場	1	2	3	4
H. 公園	1	2	3	4
I. 図書館	1	2	3	4
J. 飲食店、商店街やショッピングモール	1	2	3	4
K. その他（具体的に)	1	2	3	4

【問 14】あなたは、平均して、平日（学校に行く日）は何時間の睡眠をとっていますか。

（あてはまる番号1つに○）

- | | | | |
|----------|--------|----------|--------|
| 1. 8時間以上 | 2. 7時間 | 3. 6時間 | 4. 5時間 |
| 5. 4時間 | 6. 3時間 | 7. 2時間以下 | |

【問 15】あなたの家の暮らしは、経済的に（お金に関して）は、次のどれにあたるとお考えですか。

（あてはまる番号1つに○）

- | | | |
|-------------|-------------|----------|
| 1. 大変苦しい | 2. やや苦しい | 3. ふつう |
| 4. ややゆとりがある | 5. 大変ゆとりがある | 6. わからない |

将来の希望について

【問 16】あなたは、現時点で、高校卒業後の進学や就職などの具体的な希望がありますか。

(あてはまる番号1つに○)

1. 進学	→問 16-1 へ
2. 就職	→問 16-2 へ
3. 家業を継ぐ	→問 17 へ (次ページ)
4. 自由業・起業など	
5. まだ決めていない	→問 16-3 へ

【問 16-1】問 16 で「1. 進学」と答えた方にお聞きします。

第一希望の進学先を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 県内大学	2. 県外大学	3. 県内短大	4. 県外短大
5. 県内専門学校	6. 県外専門学校	7. その他	

⇒問 17 へ (次ページ)

【問 16-2】問 16 で「2. 就職」と答えた方にお聞きします。あなたが就職を希望する理由として、

以下の項目はどれくらいあてはまりますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	とてもあてはまる	あてはまる	あてはまらない	まったくあてはまらない
A. 仕事をするのが自分に向いていると思う	1	2	3	4
B. 早くお金を稼ぎたい・経済的に自立したい	1	2	3	4
C. やりたい仕事がある	1	2	3	4
D. 高卒後すぐに就職した方がいい会社(官公庁)に入れると思う	1	2	3	4
E. 進学しても得るものが少ないと思う	1	2	3	4
F. 高卒後すぐに進学しなくても進学のチャンスはあると思う	1	2	3	4
G. 家族や学校の先生にすすめられている	1	2	3	4
H. 進学のための費用が高い	1	2	3	4
I. 進学したい学校が近くにない	1	2	3	4
J. 自分の成績では行きたい学校に進学できそうにない	1	2	3	4

⇒問 17 へ (次ページ)

【問 16-3】問 16 で「5. まだ決めていない」と答えた方にお聞きします。

まだ決めていない理由を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 情報を集めている最中	2. 家庭や家計の状況によって変わる
3. 3年生になったら考える	4. 具体的に思いつかない
	5. その他

【問 17】あなたは、問 16 で答えた進学や就職などについて、親や学校の先生などの周囲の大人に具体的に相談したことがありますか。(あてはまる番号1つに○)

1. ある	2. ない
-------	-------

【問 18】2020 年 4 月から始まる高等教育の修学支援新制度（いわゆる大学無償化）（※）について知っていますか。(あてはまる番号1つに○)

※住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学生を対象に、大学・短大・高等専門学校・専門学校の授業料等の免除及び奨学金の給付を行う制度です。

1. 知っている → 問 18-1 へ	2. 知らない → 問 19 へ
---------------------	------------------

【問 18-1】問 18 で、「1. 知っている」と答えた方にお聞きします。大学無償化によって、あなたの高校卒業後の進路選択に影響があると思いますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 影響があると思う	2. 影響はないと思う	3. どちらとも言えない
-------------	-------------	--------------

【問 19】高校卒業後の進学についてお聞きします。

①あなたは、理想的には、将来どの学校まで進学したいと思いますか。(あてはまる番号1つに○)

1. この高校までで良い	2. 専門学校まで	3. 短期大学まで
4. 大学まで	5. 大学院まで	6. その他

②あなたは、現実的には、どの学校まで進学することになると思いますか。

(あてはまる番号1つに○)

1. この高校まで	2. 専門学校まで	3. 短期大学まで
4. 大学まで	5. 大学院まで	6. その他

③①と②で違う番号を選んだ方にお聞きします。違う学校を選んだ理由について、それぞれどれくらいあてはまるか教えてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	とてもあてはまる	あてはまる	あてはまらない	まったくあてはまらない
A. 進学に必要なお金が心配	1	2	3	4
B. きょうだいの進学にお金がかかる	1	2	3	4
C. 親や家族の面倒を見なければならない	1	2	3	4
D. 大学に進学できる学力がつかないと思う	1	2	3	4
E. とくに勉強したいことがない	1	2	3	4

自分について

【問 20】 この文章は一般的な考えを表しています。それがどれくらいあてはまるかを教えて下さい。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	そう思う	まあそう思う	いえない どちらとも	あまり そう思わない	そう思わない
A. 自分が立てた計画はうまくできる自信がある	1	2	3	4	5
B. しなければならないことがあっても、なかなかとりかからない	1	2	3	4	5
C. 初めはうまくいかない仕事でも、できるまでやり続ける	1	2	3	4	5
D. 新しい友だちをつくるのが苦手だ	1	2	3	4	5
E. 重要な目標を決めても、めったに成功しない	1	2	3	4	5
F. 何かを終える前にあきらめてしまう	1	2	3	4	5
G. 会いたい人を見かけたら、向こうから来るのを待たないでその人の所へ行く	1	2	3	4	5
H. 困難に出合うのを避ける	1	2	3	4	5
I. 非常にややこしく見えることには、手を出そうとは思わない	1	2	3	4	5
J. 友だちになりたい人でも、友だちになるのが大変ならばすぐに止めてしまう	1	2	3	4	5
K. 面白くないことをする時でも、それが終わるまでがんばる	1	2	3	4	5
L. 何かをしようと思ったら、すぐにとりかかる	1	2	3	4	5
M. 新しいことを始めようと決めても、出だしてつまずくとすぐにあきらめてしまう	1	2	3	4	5
N. 最初は友だちになる気がしない人でも、すぐにあきらめないで友だちになろうとする	1	2	3	4	5
O. 思いがけない問題が起こった時、それをうまく処理できない	1	2	3	4	5
P. 難しそうなことは、新たに学ぼうとは思わない	1	2	3	4	5
Q. 失敗すると一生懸命やろうと思う	1	2	3	4	5
R. 人の集まりの中では、うまく振る舞えない	1	2	3	4	5
S. 何かしようとする時、自分にそれができるかどうか不安になる	1	2	3	4	5
T. 人に頼らない方だ	1	2	3	4	5
U. 私は自分から友だちを作るのがうまい	1	2	3	4	5
V. すぐにあきらめてしまう	1	2	3	4	5
W. 人生で起きる問題の多くは処理できるとは思えない	1	2	3	4	5

【問 21】この1年を振り返って、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。0から10の数字を1つだけ選んでください。(あてはまる番号1つに○)

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

とても不幸 ←————→ とても幸せ

【問 22】あなたは、次のA~Kの物品を持っていますか。それぞれ、あなたの状況にもっとも近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	持っている	持たたいが持っていない	持たたくない いらぬ
A. 新しい(誰かのお古でない)洋服	1	2	3
B. 最低2足のサイズの合った靴	1	2	3
C. 自分専用のふとん又はベッド	1	2	3
D. 家の中で勉強ができる場所	1	2	3
E. インターネットにつながるパソコン	1	2	3
F. 電子辞書	1	2	3
G. 自分の部屋	1	2	3
H. 月5,000円ほどの、自分で自由に使えるお金	1	2	3
I. スマートフォン	1	2	3
J. 友人と遊びに出かけるお金	1	2	3
K. 自分に投資するお金(自己啓発本、職業訓練コースなど)	1	2	3

【問 23】あなたは、困っていることや悩んでいること、楽しいことや悲しいことを、他の人にどれくらい話しますか。A~Gのそれぞれについて、電話、メール、LINEも含めて、もっとも近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	よく話す	時々話す	あまり話さない	まったく話さない	該当する人はいない
A. 家族(親)	1	2	3	4	5
B. 家族(兄弟姉妹)	1	2	3	4	5
C. 家族(祖父母など)	1	2	3	4	5
D. 学校の先生	1	2	3	4	5
E. 友だち	1	2	3	4	5
F. 家族・学校の先生以外の大人	1	2	3	4	5
G. その他	1	2	3	4	5

【生徒票】調査票

【問 24】あなたは、これまでに、以下のような理由で、学校をやめたくなるほど、悩んだことがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 勉強についていけない	2. 遅刻や欠席などが多く進級できそうにない
3. 友人とうまくかかわれない	4. 通学するのが面倒
5. 精神的に不安定	6. 問題のある行動や非行をした
7. 学校とは別に他にやりたいことがある	8. 経済面（授業料・教材費などの支払）
9. 経済面（通学費用の支払）	10. 経済面（修学旅行費等の支払）
11. 経済面（部活動などにかかる費用の支払）	12. 経済面(友人つきあいなどに要する費用の支出)
13. 経済的理由でのアルバイト等の時間確保による通学困難	14. 経済的な余裕がない
15. 早く経済的に自立したい	16. 体調不良
17. いじめにあった	18. 友人関係のトラブル
19. 経済面以外の家庭内のトラブル	20. その他
21. 学校をやめたくなるほど悩んだことはない	(具体的に)

健康について

【問 25】あなたは、ふだん以下の食品についてどのくらい食べたり飲んだりしますか。もっともよくあるパターンに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	ほとんど たべない	週に 1回未満	週に1回	週に 2~4回	週に 5~6回	毎日 1回	毎日 2回以上
A. 魚、肉	1	2	3	4	5	6	7
B. 魚、肉の加工品（ポーク、ツナなど）	1	2	3	4	5	6	7
C. 野菜	1	2	3	4	5	6	7
D. 果物	1	2	3	4	5	6	7
E. 牛乳・ヨーグルト・チーズなどの乳製品	1	2	3	4	5	6	7
F. お菓子	1	2	3	4	5	6	7
G. コーラやソフトドリンクなど甘い飲み物	1	2	3	4	5	6	7
H. インスタントラーメンやカップめん	1	2	3	4	5	6	7
I. ファストフード	1	2	3	4	5	6	7

【問 26】最近はかった、あなたの身長・体重を教えてください。(カッコの中に数字で記入してください)

A. 身長	() cm	B. 体重	() kg
-------	--------	-------	--------

【問 27】あなたは、自分が必要と思う時に、医者にかかることができますか。健診も含めてお答えください。（あてはまる番号1つに○）

1. いつでもできる	2. できないことがある（経済的理由により）
3. できないことがある（その他の理由により）	4. 医者にかかる必要を感じたことはない

【問 28】最近の学校歯科検診で、治療が必要なむし歯(未処置歯)はだいたい何本ありましたか。
（あてはまる番号1つに○）

1. 0本	→ 問 29 へ			
2. 1～2本	3. 3～4本	4. 5～6本	} 2～6を選択 →問 28-1 へ	
5. 7～9本	6. 10本以上			

【問 28-1】問 28 で 2 から 6 を選んだ方にお聞きします。

その後、歯科で治療を受けましたか。（あてはまる番号1つに○）

1. 治療した	2. 治療しなかった （経済的理由により）	3. 治療しなかった （その他の理由により）
---------	--------------------------	---------------------------

【問 29】以下のことについて教えてください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	あてはまる	あてはまらない
A. 学校の保健体育の授業以外で、定期的に適度な運動を行っている	1	2
B. 過去1週間、毎日朝食を食べた	1	2

【問 30】あなたの心の状態についてお聞きします。ここ1か月の間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか。A～Fについて教えてください。（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったく ない
A. 神経過敏に感じましたか	1	2	3	4	5
B. 絶望的だと感じましたか	1	2	3	4	5
C. そわそわ、落ち着かなく感じましたか	1	2	3	4	5
D. 気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか	1	2	3	4	5
E. 何をするのも骨折りだと感じましたか	1	2	3	4	5
F. 自分は価値のない人間だと感じましたか	1	2	3	4	5

【保護者票】調査票

【保護者票】沖縄子ども調査（高校生調査）

沖縄県子ども生活福祉部
子ども未来政策課

調査協力をお願い

この調査は、沖縄県に住む高校生を取り巻く社会や経済の状況が、進路や希望、日々の生活などにどのように影響しているかを調べ、子どもや子育て家庭への支援策に役立てるために実施するものです。お忙しいなか、お手数をおかけいたしますが調査へのご協力をお願い致します。

記入について

- ◎この調査票の質問の「お子さん」とは、この調査票が配布されたお子さんのことを指します。
「お子さん」と書かれた質問には、調査票を受け取ったお子さんについてのみお答えください。
- ◎お名前やご住所を書く必要はありません。調査の集計は統計的に処理し、個人や学校を特定することはありません。また、目的以外に使うことはありません。
- ◎答えたくない質問には、答える必要はありません。
- ◎答えは、あてはまる番号に○印をつけるか、数字や文章で書いてください。
- ◎ごきょうだいなどで、この調査票が複数届いた場合も、お手数ですが、それぞれのお子さんについてそれぞれの調査票に回答してください。

提出について

- ①全部書き終わったら、赤字で「保護者用」と書かれた封筒に入れ、のりやテープでしっかり閉じます。
- ②封筒を閉じたら、青字で「生徒用」と書かれた封筒と一緒に、「提出用」と書かれた茶色い封筒に入れて、提出用封筒もテープでしっかり閉じて、提出期限までに学校に提出してください。

調査対象のお子さんの年齢が22歳以上（出生月が1998年3月以前）の方は、無記入のままご提出ください。

質問などがありましたら、以下にお問い合わせください。

受託事業者 沖縄県子ども調査事業共同体（沖縄大学およびNPO法人沖縄県学童・保育支援センター）

TEL：098-870-1838

受付時間：9時～17時（月～金）

※この調査は、沖縄県の委託を受けて、沖縄県教育委員会の協力の下に行われるものです。

※沖縄県子ども調査事業共同体は、沖縄大学とNPO法人沖縄県学童・保育支援センターで構成されています。

お子さんのご家族のことについて

【問1】この調査票にお答えになっている方は、お子さんからみてどなたにあたりますか。

(あてはまる番号1つに○)

1. 母親	2. 父親	3. 祖母
4. 祖父	5. おじ・おばなどの親戚	6. その他

【問2】お子さんと同居している家族(※)の人数を教えてください(あなたとお子さんも含む)。

(枠内に数字で記入してください)

※「家族」とは、同居か別居かに関わらず、生計(家計)が同じである人をさします。単身赴任中や一人暮らしのお子さんも、生計(家計)が同じであれば「家族」に含まれます。

※2世帯住宅の場合、生計(家計)が別であれば、家族の人数として数えないでください。

人

【問3】お子さんと同居している家族の方は、どなたですか。それぞれ人数も教えてください。

お子さんから見た続柄でお答えください。

(あてはまる番号すべてに○、人数はカッコの中に数字で記入してください)

1. 母親	2. 父親	3. 祖母()人	4. 祖父()人
5. 兄()人	6. 姉()人	7. 弟()人	8. 妹()人
9. その他の親戚()人	10. その他()人		

【問4】お子さんの母親と父親の年齢を教えてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

A. 母親	1. 29歳以下	2. 30~34歳	3. 35~39歳	4. 40~44歳	5. 45~49歳
	6. 50~54歳	7. 55~59歳	8. 60~64歳	9. 65歳以上	10. 母親はいない
B. 父親	1. 29歳以下	2. 30~34歳	3. 35~39歳	4. 40~44歳	5. 45~49歳
	6. 50~54歳	7. 55~59歳	8. 60~64歳	9. 65歳以上	10. 父親はいない

【問5】お子さんと同居している家族の中に、高齢であったり障害があったりするなど、介護が必要な方はいますか。(あてはまる番号1つに○)

1. いる	2. いない
-------	--------

母親のお仕事について

【問6】お子さんの母親(または母親にかわる方)の現在のお仕事の状況を教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

※現在、産前産後休暇・育児休暇を取得している方は、就労時の状況をお答えください。

※父子世帯など、お子さんの母親がいらっしゃらない場合は問7(次ページ)へお進みください。

1. 働いていない		→問7へ(次ページ)
2. 正規の職員・従業員	3. 派遣社員・契約社員・嘱託	2~8を選択 →問6-1へ
4. パート・アルバイト	5. 会社・団体等の役員	
6. 自営	7. 内職	
	8. その他	

【問6-1】問6で2~8を選んだ方にお聞きします。

※現在、産前産後休暇・育児休暇を取得している方は、就労時の状況をお答えください。

① 1週間の平均的な労働日数を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

※複数のお仕事をしている場合はすべて合わせた日数

1. 1日	2. 2日	3. 3日	4. 4日	5. 5日	6. 6日	7. 7日
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

②働いている日の平均的な労働時間(残業時間を含む)を教えてください。

※複数のお仕事をしている場合はすべて合わせた時間

(あてはまる番号1つに○)

1. 2時間未満	2. 2~4時間未満	3. 4~6時間未満	4. 6~8時間未満
5. 8~10時間未満	6. 10~12時間未満	7. 12時間以上	

③お仕事には平日の日中以外の勤務もありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 早朝勤務(朝5~8時)	2. 夜間勤務(夜8~10時)
3. 深夜勤務(夜10~朝5時)	4. 土曜出勤
5. 日曜・祝日出勤	6. 1から5にあてはまる勤務はない
	7. わからない

父親のお仕事について

【問7】お子さんの父親(または父親にかわる方)の現在のお仕事の状況を教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

※現在、育児休暇を取得している方は、就労時の状況をお答えください。

※母子世帯など、お子さんの父親がいらっしゃらない場合は問8へお進みください。

1. 働いていない	→問8へ
2. 正規の職員・従業員	2～8を選択 →問7-1へ
3. 派遣社員・契約社員・嘱託	
4. パート・アルバイト	
5. 会社・団体等の役員	
6. 自営	7. 内職
	8. その他

【問7-1】問7で2～8を選んだ方にお聞きします。

※現在、育児休暇を取得している方は、就労時の状況をお答えください。

①1週間の平均的な労働日数を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

※複数のお仕事をしている場合はすべて合わせた日数

1. 1日	2. 2日	3. 3日	4. 4日	5. 5日	6. 6日	7. 7日
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

②働いている日の平均的な労働時間(残業時間を含む)を教えてください。

※複数のお仕事をしている場合はすべて合わせた時間

(あてはまる番号1つに○)

1. 2時間未満	2. 2～4時間未満	3. 4～6時間未満	4. 6～8時間未満
5. 8～10時間未満	6. 10～12時間未満	7. 12時間以上	

③お仕事には平日の日中以外の勤務もありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 早朝勤務(朝5～8時)	2. 夜間勤務(夜8～10時)
3. 深夜勤務(夜10～朝5時)	4. 土曜出勤
5. 日曜・祝日出勤	6. 1から5にあてはまる勤務はない
	7. わからない

お子さんの通学のことについて

【問8】お子さんは、高校への通学(登校時、帰宅時)に、普段、モノレールを利用していますか。

(あてはまる番号1つに○)

1. 利用している	2. 利用していない
-----------	------------

【保護者票】調査票

【問 9】 お子さんは、高校への通学（登校時、帰宅時）に、普段、バスを利用していますか。
(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 利用している →問 9-1 へ | 2. 利用していない →問 10 へ |
|--------------------|--------------------|

【問 9-1】 問 9 で「1. 利用している」と答えた方にお聞きします。
通学定期券を利用していますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 利用している →問 10 へ | 2. 利用していない →問 9-2 へ |
|-------------------|---------------------|

【問 9-2】 問 9-1 で「2. 利用していない」と答えた方にお聞きします。
通学定期券を利用していない理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 往復で異なる経路を利用して利用できない | 2. 定期券を購入するほどバスを利用しないため |
| 3. 定期券を購入する経済的ゆとりがないため | 4. 定期券の購入場所が近くにないため |
| 5. その他 | |

【問 10】 お子さんの高校への通学（登校時、帰宅時）に、普段、家族の自家用車で送迎していますか。
(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 送迎している →問 10-1 へ | 2. 送迎していない →問 11 へ |
|---------------------|--------------------|

【問 10-1】 問 10 で「1. 送迎している」と答えた方にお聞きします。
送迎している一番の理由を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|--------------|-----------|----------|
| 1. 交通費削減 | 2. 通勤のついで | 3. 防犯・安全 |
| 4. 公共交通機関がない | 5. 学校が遠い | 6. その他 |

【問 11】 お子さんの1か月あたりの通学交通費（ガソリン代含む）を教えてください。
(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 交通費は発生しない | 2. 5千円未満 | 3. 5千円～1万円未満 |
| 4. 1万円～1万5千円未満 | 5. 1万5千円～2万円未満 | 6. 2万円～2万5千円未満 |
| 7. 2万5千円～3万円未満 | 8. 3万円以上 | |

【問 12】 ひとり親家庭高校生等通学サポート実証事業（バス）（※）による補助を受けていますか。
(あてはまる番号1つに○)

※児童扶養手当または母子及び父子家庭等医療費助成受給世帯の高校生を対象にバス通学費の補助を行う制度です。

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 受けている | 2. 受けていない |
|----------|-----------|

【問 13】 進学する高校の選択の際、通学交通費の負担をどの程度重視しましたか。
(あてはまる番号1つに○)

- | | | | |
|------------|-----------|---------------|----------------|
| 1. 非常に重視した | 2. やや重視した | 3. あまり気にしなかった | 4. まったく気にしなかった |
|------------|-----------|---------------|----------------|

お子さんの高校卒業後の進路について

【問 14】 お子さんの高校卒業後の進路として、可能性のあるものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|----------------|----------------|-------------|
| 1. 就職 | 2. 家の手伝い・家業を継ぐ | 3. アルバイトのみ |
| 4. 短大・専門学校への進学 | 5. 大学への進学 | 6. 就職しながら進学 |
| 7. まだ考えていない | 8. その他 | |

【問 15】 お子さんの高校卒業後の進路として、もっとも望ましいと思うもの1つに○をつけてください。

- | | | |
|----------------|----------------|-------------|
| 1. 就職 | 2. 家の手伝い・家業を継ぐ | 3. アルバイトのみ |
| 4. 短大・専門学校への進学 | 5. 大学への進学 | 6. 就職しながら進学 |
| 7. まだ考えていない | 8. その他 | |

【問 16】 お子さんの高校卒業後の進路を決める際、次の項目をどの程度考えますか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	とても考える	やや考える	あまり 考えない	まったく 考えない
A. 高校の成績・入学試験	1	2	3	4
B. 家庭の経済的な状況	1	2	3	4
C. そのほかの家庭の事情	1	2	3	4
D. 地域に適切な進学先があるか	1	2	3	4
E. 本人の志望先がはっきりしているか	1	2	3	4

【問 17】 2020年4月から始まる高等教育の修学支援新制度（いわゆる大学無償化）（※）について知っていますか。（あてはまる番号1つに○）

※住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学生を対象に、大学・短大・高等専門学校・専門学校の授業料等の免除及び奨学金の給付を行う制度です。

- | | |
|---------------------|------------------|
| 1. 知っている → 問 17-1 へ | 2. 知らない → 問 18 へ |
|---------------------|------------------|

【問 17-1】 問 17 で「1. 知っている」と答えた方にお聞きします。大学無償化によって、お子さんの高校卒業後の進路選択に影響があると思いますか。（あてはまる番号1つに○）

- | | | |
|-------------|-------------|--------------|
| 1. 影響があると思う | 2. 影響はないと思う | 3. どちらとも言えない |
|-------------|-------------|--------------|

【問 18】 現在よりも経済的にゆとりがあるとしたら、お子さんの進路などについて何をさせてあげたいと思いますか。（あてはまる番号すべてに○）

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1. 特に現在の希望を変更することはない | 2. 就職よりも進学 |
| 3. 短大・専門学校よりも4年制大学への進学 | 4. 自宅よりも自宅外通学 |
| 5. 授業料の高い学科への進学 | |

お子さんとの関係などについて

【問 19】あなたとお子さんとの関係についてお聞きします。あてはまるものに○をつけてください。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	あてはま らない	あまりあ てはまら ない	ややあ てはま る	あてはま る
A. この子はだれよりも私が好きだと思う	1	2	3	4
B. この子はだれよりも私のことを信頼していると思う	1	2	3	4
C. この子は私と一緒にいて幸せだと思う	1	2	3	4
D. この子が何を考えているか、どうしたいかはだれよりも私がわかっていると思う	1	2	3	4
E. この子のことは信頼できる	1	2	3	4
F. 私はこの子と一緒にいて幸せだ	1	2	3	4
G. 私はこの子のことが大好きだ	1	2	3	4
H. この子は私の気持ちがよくわかると思う	1	2	3	4

【問 20】あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。A～Hについて、「1. している」「2. していない、したくない(方針ではない)」「3. していない、経済的にできない」のうち、あてはまるものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	している	していない	
		したくない (方針ではない)	経済的に できない
A. 毎月お小遣いを渡す	1	2	3
B. 毎年新しい洋服・靴を買う	1	2	3
C. 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる	1	2	3
D. 学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)	1	2	3
E. お誕生日のお祝いをする	1	2	3
F. 1年に1回くらい家族旅行に行く	1	2	3
G. クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる	1	2	3
H. 子どもの学校行事などへ親が参加する	1	2	3

【問 21】あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をする、またはこれまでにしたことがありますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	ある	ない		
		金銭的な 理由で	時間の 制約で	その他の 理由で
A. 海水浴に行く	1	2	3	4
B. 博物館・科学館・美術館などに行く	1	2	3	4
C. キャンプやバーベキューに行く	1	2	3	4
D. スポーツ観戦や劇場に行く	1	2	3	4

現在の暮らしについて

【問 22】あなたは次に挙げる A～C の事柄で頼れる人はいますか（○は1つ）。また、「1. いる」と答えた方にお聞きします。それはだれですか。（それぞれ、あてはまる番号すべてに○）

	①頼れる人はいますか（○は1つ）			②それは誰ですか			
	1. いる	2. いない	3. そのことでは人に頼らない	家族・親族	知人・友人	近所の人	その他の人
A. 子どもの世話や看病	1. いる	2. いない	3. そのことでは人に頼らない	1	2	3	4
B. 重要な事柄の相談	1. いる	2. いない	3. そのことでは人に頼らない	1	2	3	4
C. いざという時のお金の援助	1. いる	2. いない	3. そのことでは人に頼らない	1	2	3	4

【問 23】現在お住まいの住居の形態は、次のどれがもっともよくあてはまりますか。

（あてはまる番号1つに○）

1. 持ち家	2. 民間の賃貸住宅	3. 県営または市町村営の賃貸住宅
4. 社宅・公務員住宅	5. 間借り	6. その他

【問 23-1】お住まいの住居の室数について、居住用の部屋数（玄関やふろ等は含めない）を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

1. 1室	2. 2室	3. 3室	4. 4室	5. 5室	6. 6室以上
-------	-------	-------	-------	-------	---------

【問 23-2】あなたがお住まいの住宅について、どのようにお感じですか。

（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	不満	やや不満	やや満足	満足
A. 利便性の良さ（公共交通機関が使いやすい、学校や病院、買い物ができる場所が近くにある）	1	2	3	4
B. 子どもを遊ばせるスペースの十分さ	1	2	3	4
C. 遮音性（子どもの遊ぶ声が隣に聞こえてしまうことなど）	1	2	3	4
D. 日当りのよさ	1	2	3	4
E. 風通しのよさ	1	2	3	4
F. 災害（水害や火災など）に対する安全性	1	2	3	4
G. 住宅の防犯性	1	2	3	4
H. 住宅に係る費用	1	2	3	4

【保護者票】調査票

【問 24】あなたは、ご家庭の現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 大変苦しい	2. やや苦しい	3. 普通
4. ややゆとりがある	5. 大変ゆとりがある	

【問 25】あなたのご家庭の通常の家計の状況について、もっとも近いものに○をしてください。
※なお、住宅ローンの支払いなどは貯蓄ではなく、支出としてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 赤字であり、借金をして生活している	2. 赤字であり、貯蓄を取り崩している
3. 赤字でも黒字でもなく、ぎりぎりである	4. 黒字であり、余裕がある
5. 黒字であり、毎月貯蓄をしている	

【問 26】あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由で家族が必要とする食料や衣料が買えないことがありましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

A. 食料が買えなかった経験	1.よくあった	2.ときどきあった	3.まれにあった	4.まったくなかった
B. 衣料が買えなかった経験	1.よくあった	2.ときどきあった	3.まれにあった	4.まったくなかった

【問 27】あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由で月々の料金の支払い、家賃・住宅ローンなどの滞納、債務の返済ができないことがありましたか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

	あった	なかった	払う必要がない
A. 電気代	1	2	3
B. 水道料金	1	2	3
C. ガス代	1	2	3
D. 電話料金	1	2	3
E. 家賃	1	2	3
F. 住宅ローン	1	2	3
G. その他の債務	1	2	3

【問 28】次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 子どもの年齢に合った本	2. 子ども用のスポーツ用品・おもちゃ
3. 子どもが自宅で勉強をすることができる場所	4. 洗濯機
5. 炊飯器	6. 掃除機
7. 冷房機器	8. 電子レンジ
9. 電話(固定電話・携帯電話を含む)	10. インターネットにつながるパソコン
11. 新聞の定期購読(ネット含む)	12. 世帯人数分のベッドまたは布団
13. 急な出費のための貯金(5万円以上)	14. 自家用車
15. あてはまるものはない	

【問 29】 お子さんは、奨学金を受けましたか（受けていますか）。複数受けている場合は、直近のものについて教えてください。（あてはまる番号1つに○）

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------|
| 1. 給付型の奨学金を受けた／受けている | 2. 貸与型の奨学金を受けた／受けている |
| 3. その他のタイプの奨学金を受けた／受けている
（具体的に | 4. 奨学金は受けなかった／受けていない
） |

収入などについて

【問 30】 お子さんと生計を共にしている方全員の収入を合わせた「※世帯の収入（年間のボーナス含む手取り額）」を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

※収入とは、勤労収入（パート・アルバイトを含む）、事業所得（自営業等）、農業所得、不動産所得、利子・配当金、公的年金、その他の社会保障給付金（生活保護、児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当など）、個人年金、出稼ぎなどによる別居親族からの仕送りなど、すべてを含めた金額です。
 ※世帯が生活するための収入として、お父さんの勤労収入、おじいちゃんの年金、お母さんのパート収入など、複数の収入源がある世帯は、すべての方の収入の1年間のおおよその合計額を教えてください。
 ※手取り額とは、所得税・住民税などの税額、健康保険料や年金保険料・介護保険料を支払った後の金額になります。

世帯収入（合算値） ※世帯全体の年間、ボーナス含む手取り額		
1. 1万円未満	2. 1万円～50万円未満	3. 50～100万円未満
4. 100～150万円未満	5. 150～200万円未満	6. 200～250万円未満
7. 250～300万円未満	8. 300～400万円未満	9. 400～500万円未満
10. 500～600万円未満	11. 600～700万円未満	12. 700～800万円未満
13. 800～900万円未満	14. 900～1000万円未満	15. 1000万円以上

【問 30-1】 世帯収入（合算値）に含まれている、お子さんの母親（または母親にかわる方）のおおよその年間収入を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

- | | | |
|------------------------|-----------------|----------------|
| 1. 0円 | 2. 1円～50万円未満 | 3. 50～100万円未満 |
| 4. 100～150万円未満 | 5. 150～200万円未満 | 6. 200～250万円未満 |
| 7. 250～300万円未満 | 8. 300～400万円未満 | 9. 400～500万円未満 |
| 10. 500～600万円未満 | 11. 600～700万円未満 | 12. 700万円以上 |
| 13. 世帯収入に含まれていない、または不明 | 14. 母親はいない | |

【問 30-2】 世帯収入（合算値）に含まれている、お子さんの父親（または父親にかわる方）のおおよその年間収入を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

- | | | |
|------------------------|-----------------|----------------|
| 1. 0円 | 2. 1円～50万円未満 | 3. 50～100万円未満 |
| 4. 100～150万円未満 | 5. 150～200万円未満 | 6. 200～250万円未満 |
| 7. 250～300万円未満 | 8. 300～400万円未満 | 9. 400～500万円未満 |
| 10. 500～600万円未満 | 11. 600～700万円未満 | 12. 700万円以上 |
| 13. 世帯収入に含まれていない、または不明 | 14. 父親はいない | |

【問 31】あなたの世帯（生計を共にしている方）の1か月の平均的な支出（住宅ローン等の借金返済含む）はどれくらいですか。（あてはまる番号1つに○）

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 支出はまったくない | 2. 1円～5万円未満 | 3. 5万円～10万円未満 |
| 4. 10万円～15万円未満 | 5. 15万円～20万円未満 | 6. 20万円～30万円未満 |
| 7. 30万円～40万円未満 | 8. 40万円～50万円未満 | 9. 50万円以上 |

【問 31-1】問 31 で答えた1か月の平均支出のうち、食費はどれくらいですか。（あてはまる番号1つに○）

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 支出はまったくない | 2. 1円～5千円未満 | 3. 5千円～1万円未満 |
| 4. 1万円～1万5千円未満 | 5. 1万5千円～2万円未満 | 6. 2万円～2万5千円未満 |
| 7. 2万5千円～3万円未満 | 8. 3万円～4万円未満 | 9. 4万円～5万円未満 |
| 10. 5万円～6万円未満 | 11. 6万円～7万円未満 | 12. 7万円～8万円未満 |
| 13. 8万円～9万円未満 | 14. 9万円～10万円未満 | 15. 10万円以上 |

【問 31-2】問 31 で答えた1か月の平均支出のうち、住居費（家賃・住宅ローン）はどれくらいですか。（あてはまる番号1つに○）

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 支出はまったくない | 2. 1円～5千円未満 | 3. 5千円～1万円未満 |
| 4. 1万円～1万5千円未満 | 5. 1万5千円～2万円未満 | 6. 2万円～2万5千円未満 |
| 7. 2万5千円～3万円未満 | 8. 3万円～4万円未満 | 9. 4万円～5万円未満 |
| 10. 5万円～6万円未満 | 11. 6万円～7万円未満 | 12. 7万円～8万円未満 |
| 13. 8万円～9万円未満 | 14. 9万円～10万円未満 | 15. 10万円以上 |

健康状況について

【問 32】お子さんの状況についてお聞きします。過去1年間に病院や歯医者でお子さんを受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか。（あてはまる番号1つに○）

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. ある → 問 32-1 へ | 2. ない → 問 33 へ（次ページへ） |
|------------------|-----------------------|

【問 32-1】問 32 で「1. ある」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか。以下の1～8のうち、もっとも近いものに○をつけてください。（あてはまる番号1つに○）

- | |
|---|
| 1. 公的医療保険に加入しておらず、医療費の支払いができなかったため |
| 2. 公的医療保険に加入していたが、医療機関での自己負担金を支払うことができなかったため |
| 3. 子ども本人が（行くのが）嫌だと言ったため |
| 4. 医療機関までの距離が遠く、通院することが困難であったため |
| 5. 多忙で、医療機関に連れて行く時間がなかったため |
| 6. 最初は受診させようと思ったが、子どもの様子を見て、受診させなくてもよいと判断したため |
| 7. 自分の健康状態が悪かったため |
| 8. その他の理由 |

【問 33】あなた自身の健康についてお聞きします。あなたが毎日をどのように感じ、日常の活動をどのくらい自由にできるかをお尋ねするものです。それぞれの質問について、一番よくあてはまる番号を1つ選んでください。

①全体的にみて、過去1カ月間のあなたの健康状態はいかがでしたか。

1. 最高に 良い	2. とても 良い	3. 良い	4. あまり 良くない	5. 良くない	6. ぜんぜん 良くない
--------------	--------------	-------	----------------	---------	-----------------

②過去1カ月間に、体を使う日常活動（歩いたり階段を昇ったりなど）をすることが身体的な理由でどのくらい妨げられましたか。

1. ぜんぜん 妨げられなかった	2. わずかに 妨げられた	3. 少し 妨げられた	4. かなり 妨げられた	5. 体を使う日常 活動ができなかった
---------------------	------------------	----------------	-----------------	------------------------

③過去1カ月間に、いつもの仕事（家事も含みます）をすることが、身体的な理由でどのくらい妨げられましたか。

1. ぜんぜん 妨げられなかった	2. わずかに 妨げられた	3. 少し 妨げられた	4. かなり 妨げられた	5. いつもの仕事 ができなかった
---------------------	------------------	----------------	-----------------	----------------------

④過去1カ月間に、体の痛みはどのくらいありましたか。

1. ぜんぜん なかった	2. かすかな 痛み	3. 軽い痛み	4. 中くらい の痛み	5. 強い痛み	6. 非常に 激しい痛み
-----------------	---------------	---------	----------------	---------	-----------------

⑤過去1カ月間、どのくらい元気でしたか。

1. 非常に 元気だった	2. かなり 元気だった	3. 少し 元気だった	4. わずかに 元気だった	5. ぜんぜん 元気でなかった
-----------------	-----------------	----------------	------------------	--------------------

⑥過去1カ月間に、家族や友人とのふだんのつきあいが、身体的あるいは心理的な理由で、どのくらい妨げられましたか。

1. ぜんぜん 妨げられなかった	2. わずかに 妨げられた	3. 少し 妨げられた	4. かなり 妨げられた	5. つきあいが できなかった
---------------------	------------------	----------------	-----------------	--------------------

⑦過去1カ月間に、心理的な問題（不安を感じたり、気分が落ち込んだり、イライラしたり）に、どのくらい悩まされましたか。

1. ぜんぜん悩ま されなかった	2. わずかに 悩まされた	3. 少し 悩まされた	4. かなり 悩まされた	5. 非常に 悩まされた
---------------------	------------------	----------------	-----------------	-----------------

⑧過去1カ月間に、日常行う活動（仕事、学校、家事などのふだんの行動）が、心理的な理由で、どのくらい妨げられましたか。

1. ぜんぜん 妨げられなかった	2. わずかに 妨げられた	3. 少し 妨げられた	4. かなり 妨げられた	5. 日常行う活動が できなかった
---------------------	------------------	----------------	-----------------	----------------------

人生経験について

【問 38】 お子さんの母親が最後に卒業されたのは次のどれですか（中退は卒業に含まれません）。

（あてはまる番号1つに○）

- | | | |
|----------|-----------|------------------|
| 1. 中学校 | 2. 高校 | 3. 各種専門学校（高校卒業後） |
| 4. 短大・高専 | 5. 大学・大学院 | 6. その他 |

【問 39】 お子さんの父親が最後に卒業されたのは次のどれですか（中退は卒業に含まれません）。

（あてはまる番号1つに○）

- | | | |
|----------|-----------|------------------|
| 1. 中学校 | 2. 高校 | 3. 各種専門学校（高校卒業後） |
| 4. 短大・高専 | 5. 大学・大学院 | 6. その他 |

【問 40】 あなたが 15 歳頃のご家庭の暮らし向きはどうだったと感じましたか。（あてはまる番号1つに○）

- | | | |
|-------------|-------------|-------|
| 1. 大変苦しい | 2. やや苦しい | 3. 普通 |
| 4. ややゆとりがある | 5. 大変ゆとりがある | |

【問 41】 あなたは、成人する前に以下のような経験をしたことがありますか。

（あてはまる番号すべてに○）

- | | | |
|----------------------|-----------------|-------------------|
| 1. 両親が離婚した | 2. 親が生活保護を受けていた | 3. 母親が亡くなった |
| 4. 父親が亡くなった | 5. 親から暴力を振るわれた | 6. 育児放棄（ネグレクト）された |
| 7. 1～6のいずれも経験したことがない | | |

【問 42】 あなたはお子さんをもってから、以下のような経験をしたことがありますか。

（あてはまる番号すべてに○）

- | |
|---|
| 1. 夫または妻との間で頻 ^{ひんぱん} な口げんかがあった |
| 2. (元)配偶者（またはパートナー）から暴力をふるわれたことがある |
| 3. 子どもに行き過ぎた体罰を与えたことがある |
| 4. 育児放棄になった時期がある |
| 5. 出産や育児でうつ病（状態）になった時期がある |
| 6. わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある |
| 7. 自殺を考えたことがある |
| 8. 1～7のいずれも経験したことがない |

制度などの利用について

【問 43】あなたは、無料塾（子育て総合支援モデル事業「大学等進学促進事業」）（※）について知っていますか。（あてはまる番号1つに○）

※住民税非課税世帯や児童扶養手当受給世帯等の高校生を対象に、大学や専門学校等への進学を目指すため、無料で通うことができる塾です。県内に11カ所あります。

1. 知っている 2. 知らない

【問 43-1】あなたは、今後無料塾を利用したいと思いますか。（あてはまる番号1つに○）

1. 利用したい 2. 利用したくない 3. どちらともいえない

【問 44】あなたのご家庭では、以下のA～Eの支援制度等を、これまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由にもっとも近いものに○をつけてください。

（それぞれ、あてはまる番号1つに○）

	利用したことがある	利用したことがない								
		制度の対象外だった	なかった・利用する必要がなかった	条件を満たさなかった	利用したかったが、抵抗感があった	利用したかったが、使いづらかった	制度等がなかった	利用したかったが、わからない	利用の仕方がなかった	知らなかった
A. 就学援助	1	2	3	4	5	6	7			
B. 生活福祉資金貸付金	1	2	3	4	5	6	7			
C. 生活保護	1	2	3	4	5	6	7			
D. 母子父子寡婦福祉資金貸付金	1	2	3	4	5	6	7			
E. 児童扶養手当	1	2	3	4	5	6	7			

<参考>

A. 就学援助	経済的理由により小中学校への就学が困難な児童生徒を対象に、学用品費、学校給食費、医療費など、学校生活にかかる費用の一部を援助する制度。 窓口は学校の事務室または市町村教育委員会。
B. 生活福祉資金貸付金	所得が一定水準以下の世帯等を対象とした、低利または無利子の資金貸付。 窓口は市町村の社会福祉協議会。
C. 生活保護	病気や失業などのため、生活費や医療費に困り、ほかに方法がないときは一定の条件により、生活、教育、住宅、医療、介護、出産、生業、葬祭の8種類について援助が受けられる制度。窓口は市町村役場及び県福祉事務所。
D. 母子父子寡婦福祉資金貸付金	ひとり親世帯を対象にした、低利または無利子の資金貸付。 窓口は市町村役場。
E. 児童扶養手当	所得が一定水準以下のひとり親世帯の支援のための補助金。 窓口は市町村役場。

【問 44-1】現在、これらの支援制度等を利用したいと思いますか。（あてはまる番号すべてに○）

1. 生活福祉資金貸付金 2. 生活保護 3. 母子父子寡婦福祉資金貸付金
4. 児童扶養手当 5. いずれも利用したいと思わない

